別記様式第２号（その１の４）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

基　本　計　画　書　（　共　同　学　科　）

事項	記入欄											
計画の区分	学部の学科の設置											
構成大学の設置者	国立大学法人　熊本大学				国立大学法人　佐賀大学							
構成大学の名称	熊本大学（Kumamoto　University）				佐賀大学（Saga University）							
構成大学の本部の位置	熊本県熊本市中央区黒髪二丁目３９番１号				佐賀県佐賀市本庄町１番地							
共同学科の名称	教育学部共同教員養成課程											
共同学科の目的	グローバル化や情報化、少子高齢化など急激な社会の変化にともなう複雑で多様な教育課題に対応できる、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的・連続的かつ多面的・多角的な視点から理解し支援しうる＜しなやかな教師力＞をもった人材の養成を目的とする。											
共同学科の概要	入学定員	編入学定員	収容定員		入学定員	編入学定員	収容定員		修業年限	入学定員（合計）	編入学定員（合計）	収容定員（合計）
	140	－	560		120	―	480		4	260	－	1040
学位	学士（教育学）											
学位の分野	教育学・保育学関係											
開設時期及び開設年次	令和８年４月　第１年次											
教育課程	講義	演習	実験・実習	計	講義	演習	実験・実習	計	講義（合計）	演習（合計）	実験・実習（合計）	計
（各構成大学が開設する授業科目数）	301科目	124科目	79科目	504科目	452科目	88科目	59科目	599科目	753科目	212科目	138科目	1103科目

	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	基幹教員（合計）					助手（合計）	基幹教員以外の教員（助手を除く）（合計）
	教授	准教授	講師	助教	計			教授	准教授	講師	助教	計			教授	准教授	講師	助教	計		
	16人	32人	1人	0人	49人	0人	218人	14人	17人	3人	0人	34人	0人	292人	30人	49人	4人	0人	83人	0　人	510人
	(20)	(32)	(1)	(0)	(53)	(0)	(218)	(23)	(17)	(3)	(0)	(43)	(0)	(283)	(43)	(49)	(4)	(0)	(96)	(0)	(501)
	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数　６人							大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数　６人							大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数　１１人						

職種	専属	その他	計	専属	その他	計
事務職員	448　人 (448)	455　人 (455)	903　人 (903)	259　人 (259)	362　人 (362)	621　人 (621)
技術職員	99　人 (99)	314　人 (314)	413　人 (413)	63　人 (63)	99　人 (99)	162　人 (162)
図書館職員	7　人 (7)	0　人 (0)	7　人 (7)	10　人 (10)	11　人 (11)	21　人 (21)
その他の職員	1,205　人 (1205)	807　人 (807)	2,012　人 (2,012)	809　人 (809)	240　人 (240)	1,049　人 (1,049)
指導補助者	0　人 (0)	0　人 (0)	0　人 (0)	5　人 (5)	19　人 (19)	24　人 (24)
計	1,759　人 (1,759)	1,576　人 (1,576)	3,335　人 (3,335)	1,146　人 (1,146)	731　人 (731)	1,877　人 (1,877)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用（合計）	共用（合計）	共用する他の学校等の専用（合計）	計
	校舎敷地	514,776㎡	623㎡	0㎡	515,399㎡	409,198 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	409,198 ㎡	923,974㎡	623㎡	0㎡	924,597㎡
	その他	144,293㎡	0㎡	0㎡	144,293㎡	422,826 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	422,826 ㎡	567,119㎡	0㎡	0㎡	567,119㎡
	合計	659,069㎡	623㎡	0㎡	659,692㎡	832,024 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	832,024 ㎡	1,491,093㎡	623㎡	0㎡	1,491,716㎡

大学全体の収容定員（うち共同学科に係る収容定員を除いた数）		9,120人 (8,560)				6,183人 (5,703)							
教室		1,446室				112 室							
教員研究室		808室				352 室							
図書・設備		図書		学術雑誌			図書		学術雑誌				
		〔うち外国書〕 冊	電子冊子 〔うち外国書〕	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械器具	〔うち外国書〕 冊	電子冊子 〔うち外国書〕	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械器具	標本
		1,326,394〔545,241〕 (1,326,394〔545,241〕)	69,426〔68,115〕 (69,426〔68,115〕)	38,551〔22,962〕 (38,551〔22,962〕)	17,031〔15,706〕 (17,031〔15,706〕)	67,684 (67,684)	35 (35)	692,577〔214,425〕 (696,462〔222,164〕)	20,232〔17,363〕 (20,264〔17,298〕)	20,411〔11,072〕 (20,559〔11,199〕)	8,703〔7,173〕 (8,728〔7,146〕)	9,000 (8,000)	50 (50)

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次			
			第４年次	第５年次	第６年次		第４年次	第５年次	第６年次				
		教員１人当り研究費等		— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円			
			— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円				
		共同研究費等		— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円			
			— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円				
		図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
			— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円				
		設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
			— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円				
	学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次			
			第５年次	第６年次			第５年次	第６年次					
			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円					
	学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし				該当なし						
備考													

既設学部等の状況

大学等の名称	熊本大学						
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
	年	人	年次 人	人			
文学部			(3年次)				熊本市中央区黒髪２丁目４０－１
総合人間学科	4	55		220	学士（文学）	平成17年度	
歴史学科	4	35		140	学士（文学）	平成17年度	
文学科	4	50	10	200	学士（文学）	平成17年度	
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科	4	30		120	学士（文学）	平成17年度	
教育学部							熊本市中央区黒髪２丁目４０－１
学校教育教員養成課程	4	220	－	880	学士（教育学）	令和4年度	
小学校教員養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	平成24年度	
中学校教員養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	平成24年度	
特別支援教育教員養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	平成19年度	
養護教諭養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	昭和52年度	
法学部			(3年次)				熊本市中央区黒髪２丁目４０－１
法学科	4	210	10	860	学士（法学）	平成16年度	
理学部							熊本市中央区黒髪２丁目３９－１
理学科	4	200	－	800	学士（理学）	平成16年度	
医学部			(3年次)				
医学科	6	109	－	659	学士（医学）	昭和24年度	熊本市中央区本荘１丁目１－１
保健学科	4	144	16	608	学士（看護学）， 学士（保健学）	平成15年度	熊本市中央区九品寺４丁目２４－１
薬学部							熊本市中央区大江本町５－１
薬学科	6	55	－	330	学士（薬学）	平成18年度	
創薬・生命薬科学科	4	35	－	140	学士（創薬科学）， 学士（生命薬科学）	平成18年度	
工学部			(3年次)				熊本市中央区黒髪２丁目３９－１
土木建築学科	4	124	10	516	学士（工学）	平成30年度	
機械数理工学科	4	108	10	454	学士（工学）	平成30年度	
情報電気工学科	4	132	20	602	学士（工学）	平成30年度	
材料・応用化学科	4	129	5	530	学士（工学）	平成30年度	
半導体・デバイス工学課程	4	20	20	80	学士（工学）	令和6年度	
情報融合学環	4	60	－	120	学士（情報学）	令和6年度	熊本市中央区黒髪２丁目３９－１
大学院教育学研究科 （専門職学位課程）							熊本市中央区黒髪２丁目４０－１
教職実践開発専攻	2	30	－	60	教職修士（専門職）	令和2年度	
大学院社会文化科学教育部 （博士前期課程）							熊本市中央区黒髪２丁目４０－１
法政・紛争解決学専攻	2	14	－	25	修士（法学）， 修士（公共政策学）， 修士（学術）	平成31年度	
現代社会人間学専攻	2	18	－	36	修士（文学）， 修士（法学）， 修士（学術）	平成20年度	
文化学専攻	2	18	－	36	修士（文学）， 修士（学術）	平成20年度	
教授システム学専攻	2	15	－	30	修士（教授システム学）， 修士（学術）	平成20年度	
（博士後期課程）							
人間・社会科学専攻	3	6	－	18	博士（文学）， 博士（法学）， 博士（公共政策学）， 博士（学術）	平成20年度	

	文化学専攻	3	6	－	18	博士（文学），博士（学術）	平成20年度	
	教授システム学専攻	3	3	－	9	博士（学術）	平成20年度	
	大学院自然科学研究科（博士後期課程）							熊本市中央区黒髪２丁目３９－１
	情報電気電子工学専攻	3	－	－	－	博士（工学），博士（学術）	平成18年度	
	大学院自然科学教育部（博士前期課程）							熊本市中央区黒髪２丁目３９－１
	理学専攻	2	110	－	220	修士（理学），修士（学術）	平成30年度	
	土木建築学専攻	2	75	－	150	修士（工学），修士（学術）	平成30年度	
	機械システム工学専攻	2	55	－	55	修士（工学），修士（学術）	令和7年度	
	機械数理工学専攻	2	－	－	－	修士（工学），修士（学術）	平成30年度	
	電気電子工学専攻	2	63	－	63	修士（工学），修士（学術）	令和7年度	
	情報電気工学専攻	2	－	－	－	修士（工学），修士（学術）	平成30年度	
	材料・応用化学専攻	2	90	－	180	修士（工学），修士（学術）	平成30年度	
	半導体・情報数理専攻	2	120	－	120	修士（工学），修士（情報学）	令和7年度	
	（博士後期課程）							
	理学専攻	3	12	－	36	博士（理学），博士（学術）	平成30年度	
	工学専攻	3	24	－	116	博士（工学），博士（学術）	平成30年度	
	半導体・情報数理専攻	3	22	－	22	博士（工学），博士（情報学）	令和7年度	
	大学院医学教育部（修士課程）							熊本市中央区本荘１丁目１－１
	医科学専攻	2	20	－	40	修士（医科学），修士（健康生命科学）	平成15年度	
	（博士課程）							
	医学専攻	4	88	－	352	博士（医学），博士（生命科学），博士（健康生命科学）	平成20年度	
	大学院保健学教育部（博士前期課程）							熊本市中央区九品寺４丁目２４－１
	保健学専攻	2	24	－	48	修士（保健学），修士（看護学）	平成22年度	
	（博士後期課程）							
	保健学専攻	3	6	－	18	博士（保健学），博士（看護学）	平成22年度	
	大学院薬学教育部（博士前期課程）							熊本市中央区大江本町５－１
	創薬・生命薬科学専攻	2	35	－	70	修士（薬科学），修士（健康生命科学）	平成22年度	
	（博士後期課程）							
	創薬・生命薬科学専攻	3	10	－	30	博士（薬科学），博士（生命科学），博士（健康生命科学）	平成24年度	
	（博士課程）							
	医療薬学専攻	4	8	－	32	博士（薬学）	平成24年度	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	464,523㎡	0 ㎡	1,112㎡	465,635㎡	
	（ 464,523㎡）	（0 ㎡）	（ 1,112㎡）	（ 465,635㎡）	

既設学部等の状況

大学等の名称	佐賀大学						
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
	年	人	年次 人	人			
【学部】							
教育学部							
学校教育課程	4	120	—	480	学士(学校教育)	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
芸術地域デザイン学部			3年次		学士(芸術)		
芸術地域デザイン学科	4	110	5	450	学士(地域ﾃﾞｻﾞｲﾝ)	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
経済学部							
経済学科	4	110	—	440	学士(経済学)	平成25年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
経営学科	4	80	—	320	学士(経済学)	平成25年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
経済法学科	4	70	—	280	学士(経済学)	平成25年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
医学部							
医学科	6	98	—	588	学士(医学)	平成16年度	佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
看護学科	4	60	—	240	学士(看護学)	平成16年度	佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
理工学部			3年次		学士(理学)		
理工学科	4	510	15	2,010	学士(工学)	平成31年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
農学部							
生物資源科学科	4	145	—	580	学士(農学)	平成31年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
【大学院】							
学校教育学研究科(専門職学位課程)							
教育実践探究専攻	2	20	—	40	教職修士(専門職)	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
地域デザイン研究科(修士課程)							
地域デザイン専攻	2	20	—	40	修士(地域ﾃﾞｻﾞｲﾝ)	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
医学系研究科(博士課程)							
医科学専攻	4	25	—	100	博士(医学)	平成20年度	佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
先進健康科学研究科(修士課程)					修士(医科学)		
先進健康科学専攻	2	52	—	104	修士(看護学) 修士(理学) 修士(工学) 修士(農学)	平成31年度	佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
理工学研究科(博士前期課程)					修士(理学)		
理工学専攻	2	167	—	334	修士(工学)	平成31年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
理工学研究科(博士後期課程)					博士(理学)		
理工学専攻	3	20	—	60	博士(工学)	令和3年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
農学研究科(修士課程)							
生物資源科学専攻	2	32	—	64	修士(農学)	平成31年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	148,364 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	148,364 ㎡	
	(148,364 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(148,364 ㎡)	

別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事項	記入欄	備考
計画の区分		
フリガナ 設置者	ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ　ｸﾏﾓﾄﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人　熊本大学	
フリガナ 大学の名称	ｸﾏﾓﾄﾀﾞｲｶﾞｸ 熊本大学（Kumamoto　University）	
大学本部の位置	熊本県熊本市中央区黒髪二丁目３９番１号	
大学の目的	１．教育 個性ある創造的人材を育成するために、学部から大学院まで一貫した理念のもとに総合的な教育を行う。学部では、幅広く深い教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備えた人材を育成する。大学院では、学部教育を基盤に、人間と自然への深い洞察に基づく総合的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門職業人を育成する。また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に提供する。 ２．研究 高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の文化遺産の豊かな継承・発展に努める。また、総合大学の特徴を活かして、人間、社会、自然の諸科学を総合的に深化させ、学際的な研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。 ３．地域貢献・国際貢献 地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域における研究中枢的機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることにより、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手の育成を目指す。	
新設学部等の目的		

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
計								

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）

文学部
　人文科学科　（170）（令和7年7月届出予定）
　総合人間学科（廃止）　（△55）※令和8年4月学生募集停止
　歴史学科（廃止）　（△35）※令和8年4月学生募集停止
　文学科（廃止）　（△50）※令和8年4月学生募集停止
　コミュニケーション情報学科（廃止）（△30）※令和8年4月学生募集停止
　（3年次編入学定員）〔定員減〕　（△10）※令和8年4月学生募集停止
教育学部
　養護教諭養成課程　（30）（令和7年7月届出予定）
　学校教育教員養成課程（廃止）（△220）※令和8年4月学生募集停止
工学部
　土木建築学科〔定員増〕　（13）（令和8年4月）
　機械数理工学科〔定員増〕　（11）（令和8年4月）
　情報電気工学科〔定員増〕　（13）（令和8年4月）
　材料・応用化学科〔定員増〕（13）（令和8年4月）
共創学環　（80）（令和7年7月届出）※学部等連携課程実施基本組織

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
教育学部共同教員養成課程	科目	科目	科目	科目	単位

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	教授	准教授	講師	助教	計			
新　教育学部　共同教員養成課程	人 16 (20)	人 32 (32)	人 1 (1)	人 0 (0)	人 49 (53)	人 0 (0)	人 218 (218)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　６人
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)			
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)			

	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)			
	養護教諭養成課程	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)	0 (0)	257 (257)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　５人
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)			
	文学部　人文科学科	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)	0 (0)	253 (253)	（注） 【】の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）と兼ねる教員の数。
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　９人
	小計（ａ～ｂ）	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)			
	学部等連係課程実施基本組織 共創学環 連係協力学部（Ⅰ） 文学部 　人文科学科 連係協力学部（Ⅱ） 法学部 　法学科 連係協力学部（Ⅲ） 理学部 　理学科 連係協力学部（Ⅳ） 工学部 　土木建築学科 　機械数理工学科 　情報電気工学科 　材料・応用化学科 　半導体デバイス工学課程	＜6＞ 【5】 (12)	＜11＞ 【0】 (12)	＜1＞ 【0】 (1)	＜1＞ 【0】 (1)	＜19＞ 【5】 (26)	＜0＞ 【0】 (0)	231 (231)	（注） ＜＞の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）のみに従事する基幹教員。 【】の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）と連係協力学部等を兼ねる教員の数。
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	＜6＞ 【5】 (12)	＜11＞ 【0】 (12)	＜1＞ 【0】 (1)	＜1＞ 【0】 (1)	＜19＞ 【5】 (26)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	＜6＞ 【5】 (12)	＜11＞ 【0】 (12)	＜1＞ 【0】 (1)	＜1＞ 【0】 (1)	＜19＞ 【5】 (26)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)			

設

	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)	＜0＞ 【0】 (0)			
	計（ａ～ｄ）	＜6＞ 【5】 (12)	＜11＞ 【0】 (12)	＜1＞ 【0】 (1)	＜1＞ 【0】 (1)	＜19＞ 【5】 (26)			
分	計	＜6＞ 【5】 38 (55)	＜11＞ 【0】 62 (74)	＜1＞ 【0】 1 (3)	＜1＞ 【0】 0 (38)	＜19＞ 【5】 101 (133)	－ (－)	－ (－)	
既	法学部　法学科	11 [2] (15)	18 [0] (18)	2 [0] (2)	0 [0] (0)	31 [2] (35)	1 (1)	220 (220)	（注） []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 [2] (15)	18 [0] (18)	2 [0] (2)	0 [0] (0)	31 [2] (35)			
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
	小計（ａ～ｂ）	11 [2] (15)	18 [0] (18)	2 [0] (2)	0 [0] (0)	31 [2] (35)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	11 [2] (15)	18 [0] (18)	2 [0] (2)	0 [0] (0)	31 [2] (35)			
	理学部　理学科	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)	0 (0)	204 (204)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　13人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)			
	医学部　医学科	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)	0 (0)	236 (236)	（注） []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)			
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　105人
	小計（ａ～ｂ）	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)			
	保健学科看護学専攻	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)	0 (0)	236 (236)	

a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)			
保健学科放射線技術科学専攻	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	236 (236)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
保健学科検査技術科学専攻	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)	0 (0)	236 (236)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)			
薬学部　薬学科	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	236 (236)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　17人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)			
創薬・生命薬科学科	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)	0 (0)	236 (236)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)			

設

c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)			
工学部　土木建築学科	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)	0 (0)	234 (234)	（注） 【】の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）と兼ねる教員の数。
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
小計（ａ～ｂ）	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)			
機械数理工学科	12 [2] (14)	6 [0] (9)	0 [0] (0)	7 [0] (7)	25 [2] (30)	0 (0)	239 (239)	（注） []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 [2] (14)	6 [0] (9)	0 [0] (0)	7 [0] (7)	25 [2] (30)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
小計（ａ～ｂ）	12 [2] (14)	6 [0] (9)	0 [0] (0)	7 [0] (7)	25 [2] (30)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	12 [2] (14)	6 [0] (9)	0 [0] (0)	7 [0] (7)	25 [2] (30)			
情報電気工学科	13 [3] (20)	13 [3] (16)	0 [0] (0)	5 [3] (8)	31 [9] (44)	0 (0)	224 (224)	（注） []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 [3] (20)	13 [3] (16)	0 [0] (0)	5 [3] (8)	31 [9] (44)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
小計（ａ～ｂ）	13 [3] (20)	13 [3] (16)	0 [0] (0)	5 [3] (8)	31 [9] (44)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	13 [3] (20)	13 [3] (16)	0 [0] (0)	5 [3] (8)	31 [9] (44)			
材料・応用化学科	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)	0 (0)	221 (221)	

	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
	半導体デバイス工学課程	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※	0 (0)	225 (225)	（注） ※は、工学部土木建築学科、機械数理工学科、情報電気工学科、材料・応用化学科と兼ねる基幹教員の数
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			[]の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
	小計（ａ～ｂ）	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　30人
	計（ａ～ｄ）	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
	学部等連係課程実施基本組織 情報融合学環	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)	0 (0)	225 (225)	（注） <>の中の数は学部等連係課程実施基本組織のみに従事する基幹教員。 []の中の数は連係協力学部と兼ねる基幹教員の数。
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			
分	計	<4> **【4】** [8] 172 (222)	<3> **【0】** [4] 146 (162)	<1> **【0】** [0] 57 (61)	<4> **【0】** [3] 202 (211)	<12> **【4】** [15] 577 (656)	－ (－)	－ (－)	
	合　　計	233 (277)	226 (236)	60 (64)	210 (212)	729 (789)	－ (－)	－ (－)	

職　　種	専　　属	その他	計
事　務　職　員	448　人 (448)	455　人 (455)	903　人 (903)
技　術　職　員	99 (99)	314 (314)	413 (413)
図　書　館　職　員	7 (7)	0 (0)	7 (7)
そ　の　他　の　職　員	1205 (1205)	807 (807)	2012 (2012)
指　導　補　助　者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	1759 (1759)	1576 (1576)	3335 (3335)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	514,776㎡	623㎡	0㎡	515,399㎡	放送大学熊本学習センターとの共用 623㎡ 地上権設定者：財団法人熊本テクノポリス財団 地上権設定期間：H29.9.1から3年間 19,945㎡ 貸与者：熊本市 借用期間：H29.4.1からH30.3.31（以降、毎年度更新） 494㎡ 貸与者：益城町 借用期間：H30.10.1から、R2.9.30（以降、毎年度更新） 331㎡
	その他	144,293㎡	0㎡	0㎡	144,293㎡	
	合計	659,069㎡	623㎡	0㎡	659,692㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	464,523㎡	0㎡	1,112㎡	465,635㎡	放送大学熊本学習センターの専用 1,112㎡
	（464,523㎡）	（0㎡）	（1,112㎡）	（465,635㎡）	

教室・教員研究室	教室	1446 室	教員研究室	808 室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	教育学部 共同教員養成課程	1,326,394〔545,241〕 (1,326,394〔545,241〕)	69,426〔68,115〕 (69,426〔68,115〕)	38,551〔22,962〕 (38,551〔22,962〕)	17,031〔15,706〕 (17,031〔15,706〕)	67,684 (67,684)	35 (35)	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	1,326,394〔545,241〕 (1,326,394〔545,241〕)	69,426〔68,115〕 (69,426〔68,115〕)	38,551〔22,962〕 (38,551〔22,962〕)	17,031〔15,706〕 (17,031〔15,706〕)	67,684 (67,684)	35 (35)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	22,045 ㎡	－㎡	18,255 ㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	経費の見積り 教員１人当り研究費等		－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	国費（運営費交付金）による
	経費の見積り 共同研究費等		－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	経費の見積り 図書購入費	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	経費の見積り 設備購入費	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
			－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし						

大学等の名称 熊本大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部			(3年次)			1.08 《1.02》		熊本市中央区黒髪２丁目４０－１	
総合人間学科	4	55		220	学士（文学）	1.09 《1.05》	平成17年度		
歴史学科	4	35		140	学士（文学）	1.09 《1.04》	平成17年度		
文学科	4	50	10	200	学士（文学）	1.04 《0.97》	平成17年度		
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科	4	30		120	学士（文学）	1.30 《1.19》	平成17年度		
教育学部						1.05		熊本市中央区黒髪２丁目４０－１	
学校教育教員養成課程	4	220	－	880	学士（教育学）	1.05	令和4年度		令和4年度入学定員減（△10人）
小学校教員養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	－	平成24年度		令和4年度より学生募集停止
中学校教員養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	－	平成24年度		
特別支援教育教員養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	－	平成19年度		
養護教諭養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	－	昭和52年度		
法学部			(3年次)			1.04 《1.00》		熊本市中央区黒髪２丁目４０－１	令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員10名を活用
法学科	4	210	10	860	学士（法学）	1.04 《1.00》	平成16年度		
理学部						1.09 《1.03》		熊本市中央区黒髪２丁目３９－１	令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員10名を活用
理学科	4	200	－	800	学士（理学）	1.09 《1.03》	平成16年度		

既設大学等の状況	医学部			(3年次)							
	医学科	6	109	－	659	学士（医学）	1.06 《1.02》	昭和24年度	熊本市中央区本荘１丁目１－１	令和7年度臨時定員増（4人）
	保健学科	4	144	16	608	学士（看護学）， 学士（保健学）	1.01 《0.98》	平成15年度	熊本市中央区九品寺４丁目２４－１	
	薬学部								熊本市中央区大江本町５－１	
	薬学科	6	55	－	330	学士（薬学）	1.06 《1.03》	平成18年度		
	創薬・生命薬科学科	4	35	－	140	学士（創薬科学）， 学士（生命薬科学）	1.11 《1.07》	平成18年度		
	工学部			(3年次)			1.10 《1.04》		熊本市中央区黒髪２丁目３９－１	
	土木建築学科	4	124	10	516	学士（工学）	1.08 《1.04》	平成30年度		令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員6名を活用
	機械数理工学科	4	108	10	454	学士（工学）	1.13 《1.05》	平成30年度		令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員7名を活用、令和6年度入学定員減（△1人）、令和6年度3年次編入学定員減（△2人）
	情報電気工学科	4	132	20	602	学士（工学）	1.11 《1.04》	平成30年度		令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員20名を活用、令和6年度入学定員減（△17人）、3年次編入学定員減（△15人）
	材料・応用化学科	4	129	5	530	学士（工学）	1.07 《1.02》	平成30年度		令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員7名を活用、令和6年度入学定員減（△2人）、3年次編入学定員減（△3人）
	半導体・デバイス工学課程	4	20	20	80	学士（工学）	1.13	令和6年度		
	情報融合学環	4	60	－	120	学士（情報学）	1.11	令和6年度	熊本市中央区黒髪２丁目３９－１	
	大学院教育学研究科（専門職学位課程）								熊本市中央区黒髪	
	教職実践開発専攻	2	30	－	60	教職修士（専門職）	1.10	令和2年度	２丁目４０－１	
	大学院社会文化科学教育部（博士前期課程）						1.43		熊本市中央区黒髪２丁目４０－１	
	法政・紛争解決学専攻	2	14	－	25	修士（法学）， 修士（公共政策学）， 修士（学術）	1.76	平成31年度		
	現代社会人間学専攻	2	18	－	36	修士（文学）， 修士（法学）， 修士（学術）	1.14	平成20年度		
	文化学専攻	2	18	－	36	修士（文学）， 修士（学術）	1.17	平成20年度		
	教授システム学専攻	2	15	－	30	修士（教授システム学）， 修士（学術）	1.83	平成20年度		
	（博士後期課程）						1.31			
	人間・社会科学専攻	3	6	－	18	博士（文学）， 博士（法学）， 博士（公共政策学）， 博士（学術）	1.50	平成20年度		
	文化学専攻	3	6	－	18	博士（文学）， 博士（学術）	0.50	平成20年度		
	教授システム学専攻	3	3	－	9	博士（学術）	2.56	平成20年度		
	大学院自然科学研究科（博士後期課程）								熊本市中央区黒髪２丁目３９－１	

	情報電気電子工学専攻	3	－	－	－	博士（工学），博士（学術）	－	平成18年度		平成30年度より学生募集停止
	大学院自然科学教育部（博士前期課程）						1.07		熊本市中央区黒髪２丁目３９－１	
	理学専攻	2	110	－	220	修士（理学），修士（学術）	0.89	平成30年度		
	土木建築学専攻	2	75	－	150	修士（工学），修士（学術）	1.39	平成30年度		
	機械システム工学専攻	2	55	－	55	修士（工学），修士（学術）	1.18	令和7年度		
	機械数理工学専攻	2	－	－	－	修士（工学），修士（学術）	－	平成30年度		平成30年度より学生募集停止
	電気電子工学専攻	2	63	－	63	修士（工学），修士（学術）	0.95	令和7年度		
	情報電気工学専攻	2	－	－	－	修士（工学），修士（学術）	－	平成30年度		平成30年度より学生募集停止
	材料・応用化学専攻	2	90	－	180	修士（工学），修士（学術）	1.12	平成30年度		
	半導体・情報数理専攻	2	120	－	120	修士（工学），修士（情報学）	0.93	令和7年度		
	（博士後期課程）						0.94			
	理学専攻	3	12	－	36	博士（理学），博士（学術）	1.00	平成30年度		
	工学専攻	3	24	－	116	博士（工学），博士（学術）	1.03	平成30年度		
	半導体・情報数理専攻	3	22	－	22	博士（工学），博士（情報学）	0.36	令和7年度		
	大学院医学教育部（修士課程）								熊本市中央区本荘１丁目１－１	
	医科学専攻	2	20	－	40	修士（医科学），修士（健康生命科学）	0.90	平成15年度		
	（博士課程）									
	医学専攻	4	88	－	352	博士（医学），博士（生命科学），博士（健康生命科学）	1.12	平成20年度		
	大学院保健学教育部（博士前期課程）								熊本市中央区九品寺４丁目２４－１	
	保健学専攻	2	24	－	48	修士（保健学），修士（看護学）	0.85	平成22年度		
	（博士後期課程）									
	保健学専攻	3	6	－	18	博士（保健学），博士（看護学）	1.28	平成22年度		
	大学院薬学教育部（博士前期課程）								熊本市中央区大江本町５－１	
	創薬・生命薬科学専攻	2	35	－	70	修士（薬科学），修士（健康生命科学）	0.97	平成22年度		
	（博士後期課程）									
	創薬・生命薬科学専攻	3	10	－	30	博士（薬科学），博士（生命科学），博士（健康生命科学）	1.63	平成24年度		
	（博士課程）									
	医療薬学専攻	4	8	－	32	博士（薬学）	0.91	平成24年度		

名　　称：教育学部附属幼稚園
目　　的：附属学校は、教育基本法及び学校教育法に規定する教育又は保育を行うとともに、教育学部の教育計画に従って、次に掲げる事項を行うことを目的とする。
(1) 教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその実証を行うこと。
(2) 教育学部学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。
(3) 地方の教育に協力すること。
所 在 地：熊本県熊本市中央区城東町5番9号
設置年月：昭和24年5月
規 模 等：土地　4,632㎡　建物　1,199㎡

名　　称：教育学部附属小学校
目　　的：附属幼稚園に同じ
所 在 地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号
設置年月：昭和24年5月
規 模 等：土地　51,547㎡　建物　7,282㎡

名　　称：教育学部附属中学校
目　　的：附属幼稚園に同じ
所 在 地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号

	設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地　51,547㎡　建物　5,885㎡ 名　称：教育学部附属特別支援学校 目　的：附属幼稚園に同じ 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪5丁目17番1号 設置年月：昭和40年4月 規 模 等：土地　26,375㎡　建物　4,164㎡ 名　称：病院 目　的：診療を通して医学の教育及び研究に資することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番1号 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地　82,463㎡　建物　111,388㎡ 名　称：大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター 目　的：薬用植物資源を活用した教育及び研究を行い、薬学の視点に立った環境問題への取組を通して、薬学の発展を図ることを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区大江本町5番1号 設置年月：平成22年4月 規 模 等：土地　51,264㎡　建物　340㎡ 名　称：発生医学研究所 目　的：発生学の視点から様々な生命現象を解明し、医学に貢献することを目指す発生医学の研究活動を、分子、細胞、組織、器官、個体へと連続する観点から、統合的に推進することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号 設置年月：平成21年4月 規 模 等：土地　25,088㎡　建物　6,293㎡ 名　称：産業ナノマテリアル研究所 目　的：未来材料“二次元マテリアル”を核として理論から産業実装化を目指した世界に類のない研究所として、新たな研究領域への展開、および産業振興・地域活性化を推進することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：令和2年4月 規 模 等：土地　115,176㎡　建物　4,356㎡ 名　称：ヒトレトロウイルス学共同研究センター 目　的：世界的課題である難治性ウイルス（HIV-1、HTLV-1、HBV及びその他の関連するウイルスをいう。）感染症について、本学と鹿児島大学の強みを統合することで、両大学が有する資源を有効に活用し、感染病態の基礎研究を基に、感染予防と治癒を目指した世界的・全学的な研究及び教育の総合的推進を図ることを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号 設置年月：平成31年4月 規 模 等：土地　25,088㎡　建物　2,165㎡ 名　称：研究開発戦略本部 目　的：研究から研究成果の社会実装までの一貫した研究サポート・マネジメントを行うことにより、熊本大学の研究力の向上を図るとともに、地域課題の解決に貢献することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：令和7年4月 規 模 等：土地　115,176㎡　建物　5,362㎡ 名　称：グローバル推進機構 目　的：グローバル戦略の企画立案を行い、教育研究における国際交流を推進するとともに、グローバル人材の育成及び地域社会のグローバル化に貢献することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成27年3月 規 模 等：土地　169,619㎡　建物　2,078㎡ 名　称：大学教育統括管理運営機構 目　的：教養教育を含む学士課程教育及び大学院課程教育の理念及び目的が達成されるよう、大学教育を統括するとともに教養教育の円滑な運営・実施及び戦略的な入学者選抜の企画・立案を行うことを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成28年6月 規 模 等：土地　169,619㎡　建物　427㎡ 名　称：先進軽金属材料国際研究機構
附属施設の概要	

目　　的：富山大学と連携し、リソースの有効活用と相互補完によるマグネシウム・アルミニウム研究の強化、チタン研究の育成、マグネシウム・アルミニウム・チタンの融合研究の促進および軽金属モノづくり高度人材育成を図り、日本の科学技術と産業の発展に貢献することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：令和3年4月
規 模 等：土地　115,176㎡　　建物　　2,431㎡

名　　称：半導体・デジタル研究教育機構
目　　的：熊本大学における半導体分野及びデータサイエンスを含むデジタルトランスフォーメーション分野の研究教育機能を集約することにより、各分野の研究の高度化及び高度な知見を有する人材の育成を図り、もって地域産業の強靱化に資することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1
設置年月：令和5年4月
規 模 等：土地　115,176㎡　　建物　　10,639㎡

名　　称：国際先端医学研究機構
目　　的：国際的な先端医学研究、人材発掘及び人材育成を行い、本学の生命科学分野の基礎研究から臨床応用並びに国際レベルの研究力及び教育力の向上を図ることを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月：平成27年4月
規 模 等：土地　25,088㎡　　建物　　982㎡

名　　称：キャンパスミュージアム推進機構
目　　的：熊本大学の各キャンパスにおいて保有する歴史的・文化的な展示資材・施設の全学的な連携により、重要文化財等の効果的な展示及び情報発信の強化を図り、キャンパス全体のミュージアム化を推進することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：令和6年4月
規 模 等：土地　169,619㎡　　建物　　2,225㎡

名　　称：永青文庫研究センター
目　　的：永青文庫資料をはじめとする熊本藩関係資料の総合的な研究を通じて当該資料に立脚した拠点的研究を組織するとともに、文化行政機関等との連携によって地域文化振興に貢献することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成29年4月
規 模 等：土地　169,619㎡　　建物　　117㎡

名　　称：くまもと水循環・減災研究教育センター
目　　的：先進的な地下水循環、沿岸環境及び減災型社会システムに関する研究を推進することで、学生及び社会人の人材育成を行うとともに、その成果を国内外に発信・展開することを通じて地域と国際社会に貢献することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：平成29年4月
規 模 等：土地　115,176㎡　　建物　　2,410㎡

名　　称：先進マグネシウム国際研究センター
目　　的：我が国のマグネシウム研究を牽引し、マグネシウム合金に関する世界的研究拠点として、地域のみならず、我が国さらには世界の科学技術の発展及び産業の活性化に貢献することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：平成23年12月
規 模 等：土地　115,176㎡　　建物　　2,431㎡

名　　称：生命資源研究・支援センター
目　　的：遺伝子改変動物その他の研究資源及びこれらの研究資源情報の利用等をとおして、諸科学分野の教育研究の総合的推進に資することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月：平成15年4月
規 模 等：土地　25,088㎡　　建物　　15,322㎡

名　　称：環境安全センター
目　　的：環境管理及び安全管理に係る教育研究の推進及び啓発を図ることにより、良好な教育研究環境及び教育研究活動等における職員、学生等の安全を確保することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成18年4月
規 模 等：土地　169,619㎡　　建物　　477㎡

名　　称：埋蔵文化財調査センター

	目　　的：本学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成23年10月 規 模 等：土地　115,176㎡　　建物　　514㎡ 名　　称：保健センター 目　　的：学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成16年4月 規 模 等：土地　169,619㎡　　建物　　579㎡	

熊本大学　設置申請に係わる組織の移行表

令和7年度(2025年度)	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度(2026年度)	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
熊本大学				熊本大学				
文学部		3年次		文学部		3年次		
				人文科学科	170	－	680	学科の設置(事前相談) 共創学環の内数【10】
総合人間学科	55	－	220		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
歴史学科	35	－	140		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
文学科	50	－	200		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
コミュニケーション情報学科	30	－	120		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
(学部共通)	－	10	20		－	0	0	令和8年4月学生募集停止
教育学部				教育学部				
				共同教員養成課程	140	－	560	学科の設置(事前相談)
				養護教諭養成課程	30	－	120	学科の設置(事前相談)
学校教育教員養成課程	220	－	880		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
法学部				法学部				
		3年次				3年次		
法学科	210	10	860	法学科	210	10	860	情報融合学環の内数【10】 共創学環の内数【10】
理学部				理学部				
理学科	200	－	800	理学科	200	－	800	情報融合学環の内数【10】 共創学環の内数【10】
医学部				医学部				
医学科(6年制)	109	－	659	医学科(6年制)	105	－	630	医学部臨時定員に伴う収容定員変更(△4)
		3年次				3年次		
保健学科	144	16	608	保健学科	144	16	608	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	55	－	330	薬学科(6年制)	55	－	330	
創薬・生命薬科学科	35	－	140	創薬・生命薬科学科	35	－	140	
工学部				工学部				
		3年次				3年次		
土木建築学科	124	10	516	土木建築学科	137	10	568	定員変更(13) 情報融合学環の内数【6】 共創学環の内数【13】
機械数理工学科	108	10	452	機械数理工学科	119	10	496	定員変更(11) 情報融合学環の内数【7】 共創学環の内数【11】
情報電気工学科	132	20	568	情報電気工学科	145	20	620	定員変更(13) 情報融合学環の内数【20】 共創学環の内数【13】
材料・応用化学科	129	5	526	材料・応用化学科	142	5	578	定員変更(13) 情報融合学環の内数【7】 共創学環の内数【13】
半導体デバイス工学課程	20	20	120	半導体デバイス工学課程	20	20	120	
情報融合学環	【60】		【240】	情報融合学環	【60】		【240】	
				共創学環	【80】		【320】	学部等連係課程実施基本組織の設置 (事前相談)
計	1,656	3年次 101	7,159	計	1,652	3年次 91	7,110	
熊本大学大学院				熊本大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践開発専攻(P)	30	－	60	教職実践開発専攻(P)	30	－	60	
社会文化科学教育部				社会文化科学教育部				
法政・紛争解決学専攻(M)	14	－	25	法政・紛争解決学専攻(M)	14	－	25	
現代社会人間学専攻(M)	18	－	36	現代社会人間学専攻(M)	18	－	36	
文化学専攻(M)	18	－	36	文化学専攻(M)	18	－	36	
教授システム学専攻(M)	15	－	30	教授システム学専攻(M)	15	－	30	
人間・社会科学専攻(D)	6	－	18	人間・社会科学専攻(D)	6	－	18	
文化学専攻(D)	6	－	18	文化学専攻(D)	6	－	18	
教授システム学専攻(D)	3	－	9	教授システム学専攻(D)	3	－	9	
自然科学教育部				自然科学教育部				
理学専攻(M)	110	－	220	理学専攻(M)	110	－	220	
土木建築学専攻(M)	75	－	150	土木建築学専攻(M)	75	－	150	
機械システム工学専攻(M)	55	－	110	機械システム工学専攻(M)	55	－	110	
電気電子工学専攻(M)	63	－	126	電気電子工学専攻(M)	63	－	126	
材料・応用化学専攻(M)	90	－	180	材料・応用化学専攻(M)	90	－	180	
半導体・情報数理専攻(M)	120	－	240	半導体・情報数理専攻(M)	120	－	240	
理学専攻(D)	12	－	36	理学専攻(D)	12	－	36	
工学専攻(D)	24	－	72	工学専攻(D)	24	－	72	
半導体・情報数理専攻(D)	22	－	66	半導体・情報数理専攻(D)	22	－	66	
医学教育部				医学教育部				
医科学専攻(M)	20	－	40	医科学専攻(M)	20	－	40	
医学専攻(4年制D)	88	－	352	医学専攻(4年制D)	88	－	352	
保健学教育部				保健学教育部				
保健学専攻(M)	24	－	48	保健学専攻(M)	24	－	48	
保健学専攻(D)	6	－	18	保健学専攻(D)	6	－	18	
薬学教育部				薬学教育部				
創薬・生命薬科学専攻(M)	35	－	70	創薬・生命薬科学専攻(M)	35	－	70	
創薬・生命薬科学専攻(D)	10	－	30	創薬・生命薬科学専攻(D)	10	－	30	
医療薬学専攻(4年制D)	8	－	32	医療薬学専攻(4年制D)	8	－	32	
計	872	－	2,022	計	872	－	2,022	

別記様式第２号（その２の２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要（共同学科等）

（佐賀大学教育学部共同教員養成課程、熊本大学教育学部共同教員養成課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	開設大学	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
	大学入門科目		大学入門科目Ⅰ	1前		佐賀大学	2			○			1	3	1			1	
			小計（１科目）	－	－		2	0	0	－			1	3	1	0	0	1	
共通基礎科目	外国語科目		英語Ａ	1前		佐賀大学	1				○							4	
			英語Ｂ	1後		佐賀大学	1				○							4	
			英語Ｃ	2前・後		佐賀大学	1				○							5	
			英語Ｄ	2前・後		佐賀大学	1				○							1	
			実践日本語Ｃ	1後		佐賀大学		1			○							1	
			実践日本語Ｄ	1前		佐賀大学		1			○							1	
			実践日本語Ｅ	2後		佐賀大学		1			○							1	
			実践日本語Ｆ	2前		佐賀大学		1			○							1	
	情報リテラシー科目		情報基礎概論	1前		佐賀大学	2			○			1						
			情報基礎演習Ⅰ	1前		佐賀大学	1				○							2	オムニバス・共同（一部）
			小計（10科目）	－	－		7	4	0	－			1	0	0	0	0	16	
	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	Introduction to Science	1･2後		佐賀大学		2		○								10	オムニバス
			物理の世界Ⅰ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			物理の世界Ⅱ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			化学の世界Ａ	1･2後		佐賀大学		2		○								2	オムニバス
			化学の世界Ｂ	1･2前		佐賀大学		2		○								2	オムニバス
			実験化学Ａ	1･2前		佐賀大学		2		○								6	オムニバス
			実験化学Ｂ	1･2後		佐賀大学		2		○								5	オムニバス
			地学の世界	1･2後		佐賀大学		2		○				1					隔年
			数理の世界	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			原子の発見	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
		自然科学・技術の現代的諸相	情報科学の世界Ａ	1･2前		佐賀大学		2		○			1					1	
			情報科学の世界Ｂ	1･2前・後		佐賀大学		2		○								2	
			機械工学の世界Ａ	1･2後		佐賀大学		2		○								2	オムニバス
			機械工学の世界Ｂ	1･2前		佐賀大学		2		○								2	オムニバス
			電気電子工学の世界Ａ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			電気電子工学の世界Ｂ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			都市と生活	1･2前		佐賀大学		2		○								1	隔年
			インタラクティブコンテンツ入門	1･2後		佐賀大学		2		○								1	標準外
			環境をはかる	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			肥前セラミック学	1･2前		佐賀大学		2		○								14	オムニバス・共同（一部）
			ＡＩ・数理・データサイエンスⅠ	1･2前		佐賀大学		2		○								2	共同
			ＡＩ・数理・データサイエンスⅡ	1･2後		佐賀大学		2		○								2	共同
			農学の世界Ａ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			農学の世界Ｂ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			STEAM学習基礎	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
		生物科学・生命科学	生物科学の世界Ａ	1･2前		佐賀大学		2		○								2	オムニバス
			生物科学の世界Ｂ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			栄養科学Ａ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	標準外・メディア
			栄養科学Ｂ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	標準外・メディア
			栄養科学Ｃ	1･2後		佐賀大学		2		○								2	オムニバス
			生命科学の基礎Ａ	1･2後		佐賀大学		2		○			1					3	オムニバス
			生命科学の基礎Ｂ	1･2前		佐賀大学		2		○								2	オムニバス
			生命科学の基礎Ｃ	1･2前		佐賀大学		2		○								14	オムニバス・共同（一部）
			生命科学の基礎Ｆ	1･2後		佐賀大学		2		○								3	オムニバス
		自然科学と技術の分野特別講義	九州・沖縄学Ⅱ	1･2後		佐賀大学		2		○								3	標準外・メディア
			やさしい電子回路	1･2後		佐賀大学		2		○			1						
	文化の分野	言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅰ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			ドイツの言語と文化Ⅱ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			フランスの言語と文化Ⅰ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			フランスの言語と文化Ⅱ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			中国の言語と文化Ⅰ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			中国の言語と文化Ⅱ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			Western Culture	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			Intensive English Ⅰ	1･2前		佐賀大学		2		○								2	
			Intensive English Ⅱ	1･2後		佐賀大学		2		○								2	
			Academic English	1･2前		佐賀大学		2		○								1	隔年
			Business English	1･2後		佐賀大学		2		○								1	隔年
			アカデミック独語	1･2前・後		佐賀大学		1		○								1	
			ドイツ文化論Ａ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	隔年
			ドイツ文化論Ｂ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	隔年
			ドイツ文化論Ｃ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	隔年
			ドイツ文化論Ｄ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	隔年
		文学と芸術	日本古典文学Ａ	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			日本古典文学Ｂ	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
			欧米の文化・文学	1･2前・後		佐賀大学		2		○								1	
			ドイツ文学Ａ	1･2前		佐賀大学		1		○								1	
			ドイツ文学Ｂ	1･2後		佐賀大学		1		○								1	
			芸術論	1･2前		佐賀大学		2		○			1					1	隔年・オムニバス
			音楽史・音楽論	1･2前		佐賀大学		2		○			1						
		言語と表現	日本語学	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			コミュニケーション論	1･2前・後		佐賀大学		2		○								2	共同・標準外・メディア
			Critical Thinking for the Modern Age	1･2前		佐賀大学		2		○								1	
			Cultural Metaphors	1･2後		佐賀大学		2		○								1	
	基本教養科目		哲学・倫理学	1･2後		佐賀大学		2		○			1						隔年
			考古学	1･2前		佐賀大学		2		○								1	隔年
			日本史	1･2前・後		佐賀大学		2		○								1	
			東洋史	1･2前・後		佐賀大学		2		○								1	
			西洋史	1･2前・後		佐賀大学		2		○			1						
			人類学	1･2前		佐賀大学		2		○								3	オムニバス

		歴史と文化	スポーツウェルネスの世界	1･2前･後		佐賀大学		2		○									1	
			近代サッカーの成立と進歩	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			サッカーの歴史と技法	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			柔道の歴史と技法	1･2後		佐賀大学		2		○				1						
			哲学の世界	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			地域史	1･2後		佐賀大学		2		○									1	標準外・メディア
			宗教学	1･2後		佐賀大学		2		○				1						隔年
			水中文化遺産学	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
		文化の分野特別講義	九州・沖縄学Ⅰ	1･2前		佐賀大学		2		○									1	標準外・メディア
	現代社会の分野		経済学	1･2前･後		佐賀大学		2		○									1	
		基礎社会科学	会計学	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			経営学	1･2前		佐賀大学		2		○									2	
			法律学	1･2前		佐賀大学		2		○									6	オムニバス
			政治学	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			日本国憲法	1･2前･後		佐賀大学	2			○									1	
			現代社会の法と政治	1･2前		佐賀大学		2		○				1						
			地理学	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			Introduction to Sociology	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			社会思想	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
		教育と人間	教育と人生	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			心理学A	1･2前･後		佐賀大学		2		○									1	
			心理学B	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			健康科学A	1･2前･後		佐賀大学		2		○									2	
			健康科学B	1･2後		佐賀大学		2		○									2	オムニバス
			スポーツと健康	1･2前		佐賀大学		2		○					1					
			Citizenship Education	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			Life in the Global World	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			情報メディアと倫理	1･2前･後		佐賀大学		2		○									1	
			心の病と癒しのプロセス	1･2後		佐賀大学		2		○				1						隔年
			心身の発達過程	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			情報メディアコミュニケーション	1･2前･後		佐賀大学		2		○									2	共同・メディア
			Aspects of Modern Society	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			プレゼンテーション・デザイン	1･2前･後		佐賀大学		2		○									1	
			現代教育学	1･2後		佐賀大学		2		○				2	3				2	
			教育学A	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			教育学B	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			教育学C	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			体育実技Ⅰ	1･2前･後		佐賀大学	1				○			1	1				1	共同（一部）
			体育実技Ⅱ	1･2前･後		佐賀大学	1				○			1	2				2	共同（一部）
		現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			アジアコミュニティ論	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			知的財産学	1･2後		佐賀大学		2		○									1	標準外・メディア
			環境科学Ⅰ	1･2前		佐賀大学		2		○									2	オムニバス・標準外・メディア
			環境科学Ⅲ	1･2後		佐賀大学		2		○									2	オムニバス・標準外・メディア
			インストラクショナル・デザイン	1･2前･後		佐賀大学		2		○									2	共同・標準外・メディア
			国際社会学	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			現代日本の経済社会問題	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
		現代社会の分野特別講義	グローバル化と証券投資	1･2前		佐賀大学		2		○									1	標準外
			西洋近代社会思想史	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			多文化社会論	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			経営工学からみたマネジメント	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			金融リテラシーと生命保険	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
	総合科目		海外交流実習	1･2前･後		佐賀大学		2			○								2	標準外
			キャリアデザイン	1･2後		佐賀大学		2		○									1	
			グループワークの技法と実践	1･2後		佐賀大学		2			○								1	
			チャレンジ・インターンシップA	1･2前･後		佐賀大学		2			○								1	標準外
			チャレンジ・インターンシップB	2通		佐賀大学		2			○								1	標準外
			ライフデザインとセルフ・リーダーシップ	1･2前		佐賀大学		2		○									1	
			Online Immersion Program	1･2前		佐賀大学		2		○									1	標準外・メディア
			Overseas Practicum	1･2後		佐賀大学		2			○								1	標準外
			データサイエンスBasic Ⅰ	1･2後		佐賀大学		1		○									3	共同・標準外・メディア
			データサイエンスBasic Ⅱ	1･2後		佐賀大学		1		○									3	共同・標準外・メディア
	外国人留学生用科目		日本事情－自然科学と技術の分野	1後		佐賀大学		2		○									1	隔年
			日本事情－文化の分野	1前		佐賀大学		2		○									1	隔年
			日本事情－現代社会	1後		佐賀大学		2		○									1	隔年
	小計（136科目）			－	－		4	261	0	－				9	6	0	0	0	140	
	環境コース		機械工学と環境A－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○									3	オムニバス
			機械工学と環境A－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○									3	オムニバス
			機械工学と環境Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○									6	オムニバス
			機械工学と環境Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○									5	オムニバス
			エレクトロニクスと環境A－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○									1	
			エレクトロニクスと環境A－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○									1	
			エレクトロニクスと環境Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○									1	
			エレクトロニクスと環境Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○									1	
			佐賀の環境A－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○									3	オムニバス
			佐賀の環境A－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○				1					3	共同・標準外
			佐賀の環境Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○									4	オムニバス
			佐賀の環境Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○									5	オムニバス・共同（一部）
	文化と共生コース		異文化交流１－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○									1	
			異文化交流１－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○									1	
			異文化交流Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○				1						
			異文化交流Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○									1	
			Intercultural Communication１－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○									2	
			Intercultural Communication１－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○									1	標準外
			Intercultural Communication Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○									2	
			Intercultural Communication Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○									2	
			肥前陶磁器産業体験A－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○									1	
			肥前陶磁器産業体験A－Ⅱ	2前		佐賀大学		2		○									2	共同・標準外
			肥前陶磁器産業体験Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○									4	共同
			肥前陶磁器産業体験Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○									4	共同
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○									1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○									1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○									1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○									1	
			芸術と社会A－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○									4	オムニバス
			芸術と社会A－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○									3	オムニバス・標準外

教養教育科目	インターフェース科目			芸術と社会Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○								5	オムニバス
				芸術と社会Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○			2					2	オムニバス
				歴史文化１－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				歴史文化１－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
				歴史文化Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○								1	
				歴史文化Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○								1	
				英語コミュニケーションＡ－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				英語コミュニケーションＡ－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
				英語コミュニケーションⅢ	3前		佐賀大学		2		○								1	
				英語コミュニケーションⅣ	3後		佐賀大学		2		○								1	
		生活と科学コース		未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								4	オムニバス
				未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								3	オムニバス
				未来を拓く材料の科学Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○								5	オムニバス
				未来を拓く材料の科学Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○								6	オムニバス・共同（一部）
				情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								2	共同
				情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
				情報技術者キャリアデザインⅡ	3前		佐賀大学		2		○								3	オムニバス
				情報技術者キャリアデザインⅣ	3後		佐賀大学		2		○								1	
				２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
				２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○								1	
				２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○								1	
				食糧生産の科学Ｂ－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				食糧生産の科学Ｂ－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								4	オムニバス
				食糧生産の科学Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○								4	オムニバス
				食糧生産の科学Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○								5	オムニバス
				ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								4	オムニバス
				ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								4	オムニバス・共同（一部）
				ライフサイエンス・フードサイエンスⅢ	3前		佐賀大学		2		○								5	オムニバス
				ライフサイエンス・フードサイエンスⅣ	3後		佐賀大学		2		○								5	オムニバス
		人間と社会コース		チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								3	共同
				チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○				1				3	共同
				チームビルディングとリーダーシップⅢ	3前		佐賀大学		2		○								3	共同
				チームビルディングとリーダーシップⅣ	3後		佐賀大学		2		○								3	共同
				リサーチ・リテラシー１－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				リサーチ・リテラシー１－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
				リサーチ・リテラシーⅢ	3前		佐賀大学		2		○								1	
				リサーチ・リテラシーⅣ	3後		佐賀大学		2		○								3	
				スポーツイベントとボランティアリーダー１－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○				1					
				スポーツイベントとボランティアリーダー１－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○				1				1	共同
				スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ	3前		佐賀大学		2		○				1				1	共同
				スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ	3後		佐賀大学		2		○				1				1	共同
				課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
				教育から学ぶインターフェース論－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○			5	5	1			1	オムニバス
				教育から学ぶインターフェース論－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○			4	6	1			1	オムニバス
				教育レクリエーション支援の探究-Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○				1					
				教育レクリエーション支援の探究-Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○				1					
		医療・福祉と社会コース		現代社会と医療－Ⅰ	1前		佐賀大学		2		○								1	
				現代社会と医療－Ⅱ	1前		佐賀大学		2		○								1	
				食と健康－Ⅰ	1前		佐賀大学		2		○								7	オムニバス
				食と健康－Ⅱ	1前		佐賀大学		2		○								1	
				ライフサイクルからみた医療－Ⅰ	1前		佐賀大学		2		○								4	オムニバス
				ライフサイクルからみた医療－Ⅱ	1前		佐賀大学		2		○								1	
				患者に寄り添う医療－Ⅰ	1後		佐賀大学		2		○								1	
				患者に寄り添う医療－Ⅱ	1後		佐賀大学		2		○								1	
		地域・佐賀学コース		佐賀の歴史文化Ａ－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				佐賀の歴史文化Ａ－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
				佐賀の歴史文化Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○								1	
				佐賀の歴史文化Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○								1	
				地域経済と社会Ａ－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				地域経済と社会Ａ－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
				地域経済と社会Ⅲ	3前		佐賀大学		2		○								1	
				地域経済と社会Ⅳ	3後		佐賀大学		2		○								1	
				佐賀SDGsグローカルアクション１－Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								4	オムニバス
				佐賀SDGsグローカルアクション１－Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								3	共同
				佐賀SDGsグローカルアクションⅢ	3前		佐賀大学		2		○								4	オムニバス
				佐賀SDGsグローカルアクションⅣ	3後		佐賀大学		2		○								4	共同
		共通		インターフェース演習	3前		佐賀大学		2			○							1	標準外
		小計（99科目）			－	－		0	198	0		－		9	12	2	0	0	144	
	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	英語A-1	1前・後		熊本大学	1				○			1				13	
				英語A-2	1前・後		熊本大学	1				○			1				15	
				英語B-1	1前・後		熊本大学	1				○			1				16	
				英語B-2	1前・後		熊本大学	1				○			1				15	
				英語e	1前・後		熊本大学	1				○							8	
				英語C-1	2前		熊本大学	1				○			1				16	
				英語C-2	2後		熊本大学	1				○							10	
			自由選択外国語科	ドイツ語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○							1	
				ドイツ語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○							1	
				ドイツ語Ⅱ-1	2前		熊本大学		1			○							1	
				ドイツ語Ⅱ-2	2後		熊本大学		1			○							1	
				フランス語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○							1	
				フランス語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○							1	
				フランス語Ⅲ-1	2前		熊本大学		1			○							1	
				フランス語Ⅲ-2	2後		熊本大学		1			○							1	
				中国語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○							1	
				中国語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○							1	
				コリア語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○							1	
				コリア語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○							1	
				コリア語Ⅱ-1	2前		熊本大学		1			○							1	
				コリア語Ⅱ-2	2後		熊本大学		1			○							1	
				コリア語Ⅲ-1	2前		熊本大学		1			○							1	
				コリア語Ⅲ-2	2後		熊本大学		1			○							1	
				ロシア語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○							1	
				ロシア語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○							1	
				ラテン語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○							1	
				ラテン語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○							1	

		目	スペイン語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○								1
			スペイン語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○								1
			スペイン語Ⅱ-1	2前		熊本大学		1			○								1
			スペイン語Ⅱ-2	2後		熊本大学		1			○								1
			ヘブライ語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○								1
			ヘブライ語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○								1
			イタリア語Ⅰ-1	1前		熊本大学		1			○								1
			イタリア語Ⅰ-2	1後		熊本大学		1			○								1
			日本語Ⅰ-2	1・2前・後		熊本大学		1			○								2
			日本語Ⅱ-2	1・2前・後		熊本大学		1			○								1
			日本語Ⅲ-1	1・2前		熊本大学		1			○								1
			日本語Ⅲ-2	1・2前・後		熊本大学		1			○								2
			日本語Ⅳ-1	1前		熊本大学		1			○								1
			日本語Ⅳ-2	1・2前・後		熊本大学		1			○								2
			小計（41科目）	－	－		7	34	0		－		0	3	0	0	0	49
		情報科目	ICTリテラシー	1前		熊本大学	2				○								7
			DSリテラシー	1後		熊本大学	2				○								7
			小計（2科目）	－	－		4	0	0		－		0	0	0	0	0	7
		リベラルアーツ科目	文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								2
			数学の世界	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								2
			物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○			1					6
			教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○			1					2
			生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								9
			地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								1
			持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								1
			豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								2
			日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								2
			倫理学入門	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								2
			心と世界	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								1
			思考と論理	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								1
			現代心理行動学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○			1	1				1
			こころの科学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								1
			芸術文化論	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○				1				
			文学の諸相	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○				1				2
			モノが語る歴史	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								4
			地域の世界史	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								4
			日本社会の歴史	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								3
			法学の基礎	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								5
			現代政治の諸相	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								3
			最前線の社会文化研究	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								8
			現代社会の解読	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								3
			自然と人間の地理学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○				1				2
			小計（24科目）	－	－		0	24～48	0		－		1	6	0	0	0	67
			数学と文化	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○				1				1
			物理学の世界	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								1
			暮らしと化学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								2
			化学と環境	1・3前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								3
			最先端の生命科学	1・4前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								4
			地球環境科学の最前線	1・5前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								6
			地域づくりと科学技術	1・6前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								4
			ものづくりの科学と技術	1・7前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								6
			暮らしと情報・通信技術	1・8前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2			○								3

		現代教養科目	健康の科学	1・9前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									2
			病気の医科学	1・10前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									2
			臨床医学の最前線	1・11前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									2
			現代社会と医学	1・12前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			心身の健康と看護	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									3
			医療における理工学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			現代の医学検査	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			現代医療と生命科学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									2
			薬科学入門	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									2
			現代社会と薬学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									2
			現代教育について考える	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○				6	1				
			心理学の探求	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			芸術への招待	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○			2						
			現代と言語	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○				1					1
			現代と文学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○				1					1
			現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									2
			最先端の法学	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			現代社会と経済	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○				1					4
			現代の政治	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									2
			学際科目	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									3
			小計（29科目）	－	－		0	29～58	0	－			2	10	1	0	0	63	
		Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology Ⅰ	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									3
			Introduction to Science and Technology Ⅱ	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									5
			World History	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			Area Studies	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									4
			Comprehensive English Communication	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			Global Career Development	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									1
			小計（7科目）	－	－		0	7～14	0	－			0	0	0	0	0	6	
		キャリア科目	キャリア科目	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○			2						5
			小計（1科目）	－	－		0	1又は2	0	－			2	0	0	0	0	5	
		開放科目	開放科目	1・2前・後・①・②・③・④		熊本大学		1又は2		○									6
			小計（1科目）	－	－		0	1又は2	0	－			0	0	0	0	0	6	
		体育・スポーツ科学科目	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・④		熊本大学	1				○		1	1				2	
			小計（1科目）	－	－		1	0	0	－			1	1	0	0	0	2	
	教職科目	体育・スポーツ科学科目	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・④		熊本大学	1				○		1	2				2	
			小計（1科目）	－	－		1	0	0	－			1	2	0	0	0	2	
		日本国憲法科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		熊本大学	2			○									2
			小計（1科目）	－	－		2	0	0	－			0	0	0	0	0	2	
		教育の基礎的理解に関	教育原理A（理念及び思想）	1前	○	熊本大学	1			○				1					
			教育原理B（歴史・制度）	1前	○	佐賀大学	1			○			1						
			教職入門	1後	○	佐賀大学	2			○			1						
			現代の教育と社会A	1後	○	熊本大学	1			○				1					
			現代の教育と社会B	1後	○	佐賀大学	1			○			1						
			教育心理学A（学習）	1前	○	佐賀大学	1			○									1
			教育心理学B（発達）	1前	○	熊本大学	1			○				1					
			特別支援教育の基礎	3前	○	佐賀大学	1			○									1
			特別支援教育の展開	3前	○	熊本大学	1			○			1						
			教育課程論	2後	○	熊本大学	1			○					1				
			道徳教育の理論	2後	○	熊本大学	1			○				1					
			道徳教育の実践	2後	○	佐賀大学	1			○				1					
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2前	○	熊本大学	2			○				1					
			教育方法学	2前	○	佐賀大学	1			○				1					
			教育とICT活用	2前	○	熊本大学	1			○			1						2
			生徒指導と学校カウンセリング	2後	○	佐賀大学	2			○			1						
			教育相談の理論及び方法	3前	○	熊本大学	1			○				2					
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	3前	○	熊本大学	1			○				2					

		する科目等	事前・事後指導	3通・4通	○	熊本大学		1				○	1						
			初等教育実習Ⅰ	3通・4通	○	熊本大学		2				○	1						
			初等教育実習Ⅱ	3通・4通	○	熊本大学		2				○	1						
			中等教育実習Ⅰ	3通・4通	○	熊本大学		2				○	1						
			中等教育実習Ⅱ	3通・4通	○	熊本大学		2				○	1						
			小学校教育実習Ⅰ	3・4通	○	佐賀大学		3				○	1						
			小学校教育実習Ⅱ	3・4通	○	佐賀大学		2				○	1						
			中学校教育実習Ⅰ	3・4通	○	佐賀大学		3				○	1						
			中学校教育実習Ⅱ	3・4通	○	佐賀大学		2				○	1						
			高等学校教育実習	3・4通	○	佐賀大学		3				○	1						
			幼稚園教育実習Ⅰ	3・4通		各大学		3				○	2						
			幼稚園教育実習Ⅱ	3・4通		各大学		2				○	2						
			教職実践演習（幼・小・中・高）	4通	○	各大学	2				○		2						
			小計（31科目）	－	－		21	27	0	－			6	7	1	0	0	4	
	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）	教科に関する専門的事項	初等国語	2前	○	各大学	1			○			1	3				1	オムニバス
			初等書写	2前	○	各大学	1			○				1				1	
			初等社会	2前	○	各大学	1			○			4	3				1	オムニバス
			初等算数	2前	○	各大学	1			○			1	4					オムニバス（熊本大学のみ）
			初等理科	2後	○	各大学	1			○			2	2				4	オムニバス
			初等生活	2後	○	各大学	1			○			3	2				3	オムニバス
			初等音楽	1前	○	各大学	1			○			2	4	1			1	オムニバス
			小学音楽実技（ピアノ）	1前		佐賀大学		1		○				1					
			小学音楽実技（声楽）	1前		佐賀大学		1		○					1				
			初等図画工作	2後	○	各大学	1			○			3						オムニバス（熊本大学のみ）
			初等家庭	1後	○	各大学	1			○			2	3				2	オムニバス
			初等体育	2前	○	各大学	1			○			1	1				2	オムニバス・共同（一部）（佐賀大学のみ）
			初等外国語	2後	○	各大学	1			○				2					
		教科の指導法	初等国語科指導法Ⅰ	2後	○	各大学	1			○			1	1					
			初等国語科指導法Ⅱ	1後	○	各大学	1			○			1	1					
			初等社会科指導法Ⅰ	2後	○	各大学	1			○				1				1	
			初等社会科指導法Ⅱ	3前	○	各大学	1			○			1					1	
			初等算数科指導法Ⅰ	2後	○	各大学	1			○				2	1				オムニバス（熊本大学のみ）
			初等算数科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	1			○				2	1				オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
			初等理科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	1			○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
			初等理科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	1			○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
			初等生活科指導法Ⅰ	3前	○	各大学	1			○				2				1	オムニバス（佐賀大学のみ）
			初等生活科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	1			○				3					オムニバス（佐賀大学のみ）
			初等音楽科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	1			○			1					1	
			初等音楽科指導法Ⅱ	1後	○	各大学	1			○			1					1	
			初等図画工作科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	1			○			2						
			初等図画工作科指導法Ⅱ	3前	○	各大学	1			○			2						
			初等家庭科指導法Ⅰ	1後	○	各大学	1			○				1				1	
			初等家庭科指導法Ⅱ	2前	○	各大学	1			○				1				1	
			初等体育科指導法Ⅰ	2後	○	各大学	1			○				2					
			初等体育科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	1			○				2					
			初等外国語指導法Ⅰ	3前	○	各大学	1			○				2					
			初等外国語指導法Ⅱ	2前	○	各大学	1			○				2					
			小計（33科目）	－	－		31	2	0	－			19	30	2	0	0	17	
	教科及び教科の指導法に関する科目（国語）	教科に関する専門的事項	国語学概説Ⅰ	2前	○	佐賀大学	2			○								1	
			国語学概説Ⅱ	2後	○	各大学	2			○				1				1	
			国語学概説Ⅲ	3前		熊本大学		2		○				1					
			国語学演習Ⅰ	2後		各大学		2			○			1				1	
			国語学演習Ⅱ	3前		佐賀大学		2			○							1	
			国語学演習Ⅲ	4前		佐賀大学		2			○							1	
			国語学特別演習Ⅰ	3後		熊本大学		2			○			1					
			国語学特別演習Ⅱ	4後		熊本大学		2			○			1					
			国文学概説	2前	○	熊本大学	2			○			1	1					オムニバス
			国文学論	2前		佐賀大学		2		○								1	
			国文学講義Ⅰ（古典）	2前		熊本大学		2		○								1	
			国文学講義Ⅱ（近現代）	3前		熊本大学		2		○				1					
			国文学講読（古典）	2後		熊本大学		2		○			1						
			国文学演習Ⅰ	2前		佐賀大学		2			○							1	
			国文学演習Ⅱ	2後		佐賀大学		2			○							1	
			国文学演習Ⅲ	3前		佐賀大学		2			○							1	
			国文学演習Ⅳ	3後		佐賀大学		2			○							1	
			国文学特別演習Ⅰ（近現代）	3後		熊本大学		2			○			1					
			国文学特別演習Ⅱ（近現代）	3後		熊本大学		2			○			1					
			漢文学概説Ⅰ	2後	○	佐賀大学	2			○				1					
			漢文学概説Ⅱ	3前	○	熊本大学	2			○			1						
			漢文学演習Ⅰ	2前		各大学		2			○		1	1					
			漢文学演習Ⅱ	2後		佐賀大学		2			○			1					
			漢文学演習Ⅲ	3後		佐賀大学		2			○			1					
			漢文学特別演習Ⅰ	3後		熊本大学		2			○		1						
			漢文学特別演習Ⅱ	3後		熊本大学		2			○		1						
			書写	1後	○	各大学	2			○				1				1	
			書道Ⅰ	1前		佐賀大学		2		○				1					
			書道Ⅱ	1前		佐賀大学		2		○				1					
			書道Ⅲ	2後		佐賀大学		2		○				1					
			書道Ⅳ	2後		佐賀大学		2		○				1					
			書道史	1後		佐賀大学		2		○								1	
			書論・鑑賞	1後		佐賀大学		2		○								1	
			中等国語科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	2			○				2					
			中等国語科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	2			○			1	1					
			中等国語科指導法Ⅲ	3前	○	各大学	2			○			1	1					
			中等国語科指導法Ⅳ	3後	○	各大学	2			○				2					
			国語科教育学演習A	2後		熊本大学		2			○			1					
			国語科教育学演習B	3前		熊本大学		2			○			1					
			国語科教育学演習C	3後		熊本大学		2			○			1					
			国語科教育学演習D	3後		熊本大学		2			○			1					
			書道科教育法Ⅰ	2後		佐賀大学		2			○			1					
			書道科教育法Ⅱ	3前		佐賀大学		2			○			1					
			小計（43科目）	－	－		20	66	0	－			2	7	0	0		6	
			日本史概説	1前	○	熊本大学	2			○			1						
			日本史特講Ⅰ(史料論)	3前		熊本大学		2		○			1						
			日本史特講Ⅱ（近現代）	1後		佐賀大学		2		○								1	
			日本史特講Ⅲ（近世史）	2前		佐賀大学		2		○								1	

教科及び教科の指導法に関する科目（社会）	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本史特講Ⅳ（中世史）	2後		佐賀大学		2		○									1		
			日本史特講Ⅴ（古代史）	2後		佐賀大学		2		○									1		
			世界史概説	1後	○	各大学	2			○			1						1		
			世界史特講Ⅰ（中国史）	3前		熊本大学		2		○									1		
			世界史特講Ⅱ（西洋史）	2前		佐賀大学		2		○			1								
			世界史特講Ⅲ（東南アジア史）	3後		佐賀大学		2		○									1		
			日本史演習Ⅰ（地域史調査）	3前		熊本大学		2			○		1								
			日本史演習Ⅱ（中世文書）	3後		熊本大学		2			○		1								
			日本史演習Ⅲ（荘園調査）	4前		熊本大学		2			○		1								
			日本史演習Ⅳ（近世文書）	4後		熊本大学		2			○		1								
			日本史演習Ⅴ	3前		佐賀大学		2			○								1		
			日本史演習Ⅵ	3後		佐賀大学		2			○								1		
			日本史調査実習	3後		熊本大学		2				○	1								
			西洋史演習Ⅰ	3前		佐賀大学		2			○		1								
			西洋史演習Ⅱ	3後		佐賀大学		2			○		1								
			西洋史演習Ⅲ	3前		佐賀大学		2			○		1								
			西洋史演習Ⅳ	3後		佐賀大学		2			○		1								
		地理学	人文地理学概説	1後	○	熊本大学	2			○				1							
			自然地理学概説	2前	○	佐賀大学	2			○				1							
			人文地理学特講	3前		熊本大学		2		○				1							
			自然地理学特講Ⅰ	3後		熊本大学		2		○									1		
			自然地理学特講Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○				1							
			地誌学概説	2前	○	各大学	2			○				2							
			人文地理学演習Ⅰ	3前		熊本大学		2			○			1							
			人文地理学演習Ⅱ	3後		熊本大学		2			○			1							
			人文地理学演習Ⅲ	4前		熊本大学		2			○			1							
			人文地理学演習Ⅳ	4後		熊本大学		2			○			1							
			自然地理学演習Ⅰ	3前		佐賀大学		2			○			1							
			自然地理学演習Ⅱ	3後		佐賀大学		2			○			1							
			自然地理学演習Ⅲ	3前		佐賀大学		2			○			1							
			自然地理学演習Ⅳ	3後		佐賀大学		2			○			1							
			地理学調査実習	3後		熊本大学		2				○		1							
		法律学・政治学	法律学概説	1前	○	佐賀大学	2			○			1								
			法律学特講	1後		佐賀大学		2		○			1								
			政治学概説Ⅰ	2後		熊本大学		2		○									1		
			政治学概説Ⅱ	1後		佐賀大学		2		○									1		
			政治学特講Ⅰ	3前		熊本大学		2		○									1		
			政治学特講Ⅱ	2前		佐賀大学		2		○									1		
			法学演習Ⅰ	3前		佐賀大学		2			○		1								
			法学演習Ⅱ	3後		佐賀大学		2			○		1								
			法学演習Ⅲ	3前		佐賀大学		2			○		1								
			法学演習Ⅳ	3後		佐賀大学		2			○		1								
			政治学演習Ⅰ	3前		熊本大学		2			○								1		
			政治学演習Ⅱ	3後		熊本大学		2			○								1		
			政治学演習Ⅲ	4前		熊本大学		2			○								1		
			政治学演習Ⅳ	4後		熊本大学		2			○								1		
			政治学調査実習	3後		熊本大学		2				○							1		
		社会学・経済学	経済学概説	2前	○	熊本大学	2			○				1							
			社会学概説	1前		佐賀大学		2		○									1		
			社会学特講	1後		佐賀大学		2		○									1		
			地域社会学概説	2前		熊本大学		2		○									1		
			社会人間学特講	2後		熊本大学		2		○									1		
			経済学特講	3後		熊本大学		2		○				1							
			経済学演習Ⅰ	3前		熊本大学		2			○			1							
			経済学演習Ⅱ	3後		熊本大学		2			○			1							
			経済学演習Ⅲ	4前		熊本大学		2			○			1							
			経済学演習Ⅳ	4後		熊本大学		2			○			1							
			地域調査実習	3後		熊本大学		2				○		1							
		哲学・倫理学・宗教学	倫理学概説	1後	○	佐賀大学	2			○			1								
			哲学概説	2前		佐賀大学		2		○									1		
			倫理学特講	2前		佐賀大学		2		○			1								
			応用倫理学概説	2前		熊本大学		2		○									1		
			応用倫理学特論	2後		熊本大学		2		○									1		
			倫理学演習Ⅰ	3前		佐賀大学		2			○		1								
			倫理学演習Ⅱ	3後		佐賀大学		2			○		1								
			倫理学演習Ⅲ	3前		佐賀大学		2			○		1								
			倫理学演習Ⅳ	3後		佐賀大学		2			○		1								
	教科及び教科の指導法に関する科目の内容に係る複数の事項を合わせた	教科の指導法	社会科教育演習Ⅰ	3前		熊本大学		2			○		1								
			社会科教育演習Ⅱ	3後		熊本大学		2			○		1								
			社会科教育演習Ⅲ	4前		熊本大学		2			○		1								
			社会科教育演習Ⅳ	4後		熊本大学		2			○		1								
			社会科教育演習Ⅴ	3前		熊本大学		2			○			1							
			社会科教育演習Ⅵ	3後		熊本大学		2			○			1							
			社会科教育演習Ⅶ	4前		熊本大学		2			○			1							
			社会科教育演習Ⅷ	4後		熊本大学		2			○			1							
			中等社会科教育特講（租税教育論）	3後		熊本大学		2		○			1	1							オムニバス
		教科の指導法	中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰ	2前	○	各大学	2			○			1						1		
			中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰ	2後	○	各大学	2			○				2							
			中等社会科指導法（社会・公民）Ⅱ	3前	○	各大学	2			○			1						1		
			中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅱ	3前	○	各大学	2			○			1	1							
		小計（84科目）			－	－		24	144	0	－			5	4	0	0	0	17		
教科及び教科の指導法に関す	教科に関する専門的事項	代数学	代数学基礎	1前	○	佐賀大学		2		○					1						
			代数学序論	1後	○	佐賀大学		2		○									1		
			代数学概論	2前	○	熊本大学		2		○									1		
			代数学講義	2後	○	各大学		2		○									2		
			代数学特論	3前	○	熊本大学		2		○									1		
		幾何学	幾何学序論	1後	○	佐賀大学	2			○					1						
			幾何学概論	2前	○	熊本大学		2		○			1								
			幾何学講義	2後	○	各大学		2		○			1	1							
			幾何学特論	3前	○	熊本大学		2		○			1								
		解析学	解析学基礎	1前	○	佐賀大学		2		○									1		
			解析学序論	1後	○	各大学		2		○			1						1		
			解析学概論	2前	○	各大学		2		○			1						1		
			解析学講義	2後	○	各大学		2		○			1						1		
			解析学特論	3前	○	熊本大学		2		○			1								
		確率論・統計学	確率統計学基礎	2前		佐賀大学		2		○									1		
			確率統計学	2後	○	熊本大学	2			○					1						

る科目（数学）			ピコンピュータ	コンピュータ	2前	○	各大学	2			○				1	1			1	オムニバス（佐賀大学のみ）
				応用数学特論	3前		熊本大学		2		○				1					
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		数学特論	3後		佐賀大学		2		○				1					
				数学研究Ⅰ	4前		佐賀大学		2		○				1					
				数学研究Ⅱ	4後		佐賀大学		2		○				1					
				数学教育学研究Ⅰ	4前		佐賀大学		2		○					1				
				数学教育学研究Ⅱ	4後		佐賀大学		2		○					1				
			教科の指導法	中等数学科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	2			○				1	1				
				中等数学科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	2			○				1				1	
				中等数学科指導法Ⅲ	3前	○	各大学	2			○				1				1	
				中等数学科指導法Ⅳ	3後	○	各大学	2			○				1	1				
		小計（27科目）			－	－		14	40	0	－			1	4	1	0	0	4				
教科及び教科の指導法に関する科目（理科）		教科に関する専門的事項	物理学	基礎物理学A	1前	○	佐賀大学	1			○			1						
				基礎物理学B	1後	○	熊本大学	1			○				1					
				物理学概論Ⅰ	1前		佐賀大学		2		○			1						
				物理学概論Ⅱ	1後		佐賀大学		2		○			1						
				物理学Ⅰ	2前		熊本大学		2		○				1					
				物理学Ⅱ	2後		熊本大学		2		○				1					
				エネルギー科学	3前		佐賀大学		2		○			1						
				量子物理	3後		佐賀大学		2		○			1						
				基礎物理学演習	1後		熊本大学		1			○			1					
			化学	基礎化学A	1前	○	佐賀大学	1			○								1	
				基礎化学B	1前	○	熊本大学	1			○				1					
				化学概論Ⅰ	1後		佐賀大学		2		○								1	
				化学概論Ⅱ	2前		佐賀大学		2		○								1	
				化学Ⅰ	2前		熊本大学		2		○				1					
				化学Ⅱ	3後		熊本大学		2		○				1					
				物理化学	3前		佐賀大学		2		○								1	
				無機・有機化学	3後		佐賀大学		2		○								1	
			生物学	基礎生物学A	1後	○	佐賀大学	1			○			1						
				基礎生物学B	2後	○	熊本大学	1			○								1	
				生物学概論Ⅰ	1前		佐賀大学		2		○			1						
				生物学概論Ⅱ	1後		佐賀大学		2		○			1						
				生物学Ⅰ	2後		熊本大学		2		○								1	
				生物学Ⅱ	3前		熊本大学		2		○								1	
				生命科学	3前		佐賀大学		2		○			1						
				理科フィールド実習A	1前		佐賀大学		2				○	1	1				1	
			地学	基礎地学A	1後	○	佐賀大学	1			○				1				1	オムニバス・共同（一部）
				基礎地学B	2後	○	熊本大学	1			○								1	
				地学概論Ⅰ	1後		佐賀大学		2		○								1	
				地学概論Ⅱ	2前		佐賀大学		2		○				1					
				地学Ⅰ	2後		熊本大学		2		○								1	
				地学Ⅱ	3前		熊本大学		2		○								1	
				地球科学	3後		佐賀大学		2		○				1				1	オムニバス
				理科フィールド実習B	1前		佐賀大学		2				○	1	1				1	
			物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	基礎物理学実験	2前	○	佐賀大学		1				○	1						
				物理学実験A	3前	○	熊本大学		1				○		1					
				物理学実験B	3前		熊本大学		1				○		1					
				基礎化学実験	2後	○	佐賀大学		1				○						1	
				化学実験A	3前	○	熊本大学		1				○		1					
				化学実験B	3前		熊本大学		1				○		1					
				基礎生物学実験	2前	○	佐賀大学		1				○	1						
				生物学実験A	3前	○	熊本大学		1				○						1	
				生物学実験B	3前		熊本大学		1				○						1	
				基礎地学実験	2後	○	佐賀大学		1				○		1				1	オムニバス
				地学実験A	3前	○	熊本大学		1				○						1	
				地学実験B	3前		熊本大学		1				○						1	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		理科基礎研究	3後		熊本大学		1				○	1	3					
			教科の指導法	中等理科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	2			○			1					1	
				中等理科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	2			○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
				中等理科指導法Ⅲ	3前	○	各大学	2			○				1				1	
				中等理科指導法Ⅳ	3後	○	各大学	2			○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
				理科教育実践入門	1後		熊本大学		2		○			1	1					オムニバス・共同（一部）
		小計（51科目）			－	－		16	64	0	－			3	4	0	0	0	6				
免許教科：中・		教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュ基礎	1前	○	各大学	1					○	1	1					
				ソルフェージュ応用A	1後	○	佐賀大学		1				○	1						
				ソルフェージュ応用B	1後	○	熊本大学		1				○		1					
				ソルフェージュ展開Ⅰ	2前		佐賀大学		1				○	1						
				ソルフェージュ展開Ⅱ	2後		佐賀大学		1				○	1						
			声楽	声楽基礎Ⅰ（伝統的な歌唱を含む）	1前	○	各大学	1				○			1	1			1	オムニバス（佐賀大学のみ）
				声楽基礎Ⅱ	1後	○	佐賀大学		1			○			1					
				声楽基礎Ⅲ	1後	○	熊本大学		1			○			1					
				声楽展開Ⅰ	2前		佐賀大学		1				○			1				
				声楽基礎Ⅳ	2前		熊本大学		1				○		1					
				声楽展開Ⅱ	2後		佐賀大学		1				○			1				
				声楽基礎Ⅴ	2後		熊本大学		1				○		1					
				声楽展開Ⅲ	3前		佐賀大学		1				○			1				
				声楽実技Ⅰ	3前		熊本大学		1				○		1					
				声楽展開Ⅳ	3後		佐賀大学		1				○			1				
				声楽実技Ⅱ	3後		熊本大学		1				○		1					
				声楽展開Ⅴ	4前		佐賀大学		1				○			1				
				声楽課題研究	4後		佐賀大学		1				○			1				
				合唱	2後	○	各大学	1					○		1	1				
			器楽	ピアノ基礎Ⅰ	1前	○	各大学	1				○			2					
				ピアノ基礎Ⅱ	1後	○	佐賀大学		1			○			1					
				ピアノ基礎Ⅲ	1後	○	熊本大学		1			○			1					
				ピアノ展開Ⅰ	2前		佐賀大学		1				○		1					
				ピアノ実技Ⅰ	2前		熊本大学		1				○		1					
				ピアノ展開Ⅱ	2後		佐賀大学		1				○		1					
				ピアノ実技Ⅱ	2後		熊本大学		1				○		1					
				ピアノ展開Ⅲ	3前		佐賀大学		1				○		1					
				ピアノ実技Ⅲ	3前		熊本大学		1				○		1					
				ピアノ展開Ⅳ	3後		佐賀大学		1				○		1					
				ピアノ実技Ⅳ	3後		熊本大学		1				○		1					

専門教育科目	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	高（音楽）	教科に関する専門的事項		ピアノ展開Ⅴ	4前		佐賀大学		1			○		1						
						ピアノ課題研究	4後		佐賀大学		1			○		1						
						器楽基礎（和楽器を含む）	1後	○	各大学	1				○	1	1					1	オムニバス（佐賀大学のみ）
						器楽展開	2後		佐賀大学		1			○	1							
						日本伝統音楽実習	3後		佐賀大学		1			○							1	
						器楽特別演習	4前		佐賀大学		1			○	1							
						音楽実践課題研究	4後		佐賀大学		1			○	1							
						合奏	2後	○	各大学	1				○	1	1						
						伴奏法演習Ⅰ	3前	○	各大学	2				○		2						
						伴奏法演習Ⅱ	3後		佐賀大学		1			○		1						
					指揮法	指揮法Ⅰ	3前	○	佐賀大学	2			○		1							
						指揮法Ⅱ	3後		佐賀大学		1		○		1							
					音楽理論・作曲法・音楽史	音楽理論A	2前	○	熊本大学		2		○			1						
						音楽基礎理論	1前	○	佐賀大学		2		○			1						
						音楽理論BⅠ	1後	○	熊本大学	2			○			1						
						音楽理論BⅡ	2後		熊本大学		2		○			1						
						音楽史Ⅰ	1後	○	熊本大学	2			○			1						
						音楽史Ⅱ	2後		熊本大学		1		○			1						
						作曲法	2前	○	熊本大学	2			○			1						
						作曲演習Ⅰ	3前		熊本大学		2			○		1						
						作曲演習Ⅱ	3後		熊本大学		2			○		1						
						音楽学演習Ⅰ	3前		熊本大学		1			○		1						
						音楽学演習Ⅱ	3後		熊本大学		1			○		1						
						日本・民族音楽概説	2前	○	佐賀大学	2			○								1	
					教科の指導法	中等音楽科指導法Ⅰ	1後	○	各大学	2			○		1						1	
						中等音楽科指導法Ⅱ	2前	○	各大学	2			○		1						1	
						中等音楽科指導法Ⅲ	3前	○	各大学	2			○		1						1	
						中等音楽科指導法Ⅳ	3後	○	各大学	2			○		1						1	
				小計（58科目）			－	－		26	47	0	－		2	4	1	0	0	3			
			免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	絵画基礎Ⅰ	1後	○	熊本大学	2				○	1							
						絵画基礎Ⅱ	2前		熊本大学		2			○	1							
						絵画演習Ⅰ	2後		熊本大学		2			○	1							
						絵画演習Ⅱ	2前・3前		熊本大学		2			○	1							
						絵画演習Ⅲ	2後・3後		熊本大学		2			○	1							
					彫刻	彫刻基礎	1前	○	各大学	2				○							2	
						彫刻演習	2前		佐賀大学		2			○							1	
					デザイン	デザイン基礎Ⅰ	1前	○	佐賀大学	2				○							1	
						デザイン基礎Ⅱ	2前		佐賀大学		2			○							1	
						デザイン演習Ⅰ	2後		佐賀大学		2			○							1	
						デザイン演習Ⅱ	2前・3前		佐賀大学		2			○							1	
						デザイン演習Ⅲ	2後・3後		佐賀大学		2			○							1	
					工芸	工芸基礎	1前	○	熊本大学	2				○	1							
						工芸演習	2後		各大学		2			○	1						1	
					美術理論・美術史	美術史概論	2前	○	各大学	2			○		2						1	
				教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		造形実践演習	3前		各大学		2			○	2							
					教科の指導法	中等美術科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	2			○		2							
						中等美術科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	2			○		2							
						中等美術科指導法Ⅲ	2前	○	各大学	2				○	2							
						中等美術科指導法Ⅳ	2後	○	各大学	2				○	2							
				小計（20科目）			－	－		18	22	0	－		3	0	0	0	0	5			
			免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	体つくり運動	2後	○	各大学	1				○		1					1	
						器械運動	1通	○	各大学	1				○		1					1	
						水泳	1前	○	各大学	1				○	3							
						陸上競技	1通	○	各大学	1				○	1						1	
						ゴール型球技	1後	○	各大学	1				○	1	1					2	オムニバス・共同（一部）（佐賀大学のみ）
						ネット型球技	1前	○	各大学	1				○		1					1	
						ベースボール型球技	1前		佐賀大学		1			○							1	
						ダンス	1通	○	各大学	1				○		1					1	
						柔道	1後	○	各大学	1				○		2						
						剣道	1後		佐賀大学		1			○							1	
						ヘルスプロモーション実習	1前		佐賀大学		1			○							1	
						野外活動	3通		熊本大学		1			○	1	1						
					体育原理・体育経営管理学・体育心理学・体育社会学・体育方法学（運動学を含む。）・体育史	運動学（バイオメカニクスを含む）	3前	○	佐賀大学	2			○								2	オムニバス
						体育心理学	2後	○	佐賀大学	2			○		1							
						体育原理	3前	○	各大学		2		○			1					1	
						体育経営管理学	1前	○	各大学		2		○		1						1	
						体育社会学	3前	○	各大学		2		○		1						1	
						トレーニング科学	1後		佐賀大学		2		○			1						
						ヘルスプロモーション演習	1後		佐賀大学		2		○								1	
						保健体育科課題研究Ⅰ	3前		熊本大学		2		○		2	2						
						保健体育科課題研究Ⅱ	3④		熊本大学		2		○		2	2						
					生理学	生理学（運動生理学を含む）	1前	○	各大学	2			○		1	2						
						解剖学	1前		佐賀大学		1		○			1					1	オムニバス
						生理学実験・演習	2後		熊本大学		2			○	1	1						
					衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	1前	○	熊本大学	2			○			1					1	
					学校保健（小児保健・精神保健・学校安全及び救急処置を含む）	学校保健	2前	○	熊本大学	2			○		1	1					1	オムニバス・共同（一部）
						学校安全・救急処置	3後		佐賀大学		2		○								1	
					教科の指導法	中等保健体育科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	2			○			2					1	
						中等保健体育科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	2			○			2					1	
						中等保健体育科指導法Ⅲ	3前	○	各大学	2			○			3						
						中等保健体育科指導法Ⅳ	3後	○	各大学	2			○			3						
				小計（31科目）			－	－		26	23	0	－		3	4	0	0	0	14			
					材料加工（実習を含む。）	木材加工Ⅰ（実習を含む）	3①	○	熊本大学	1			○								2	オムニバス
						木材加工Ⅱ	3②	○	熊本大学	1			○								2	オムニバス
						木材加工実習	3前		熊本大学		2			○							2	
						製図Ⅰ（実習を含む）	2③	○	佐賀大学	1				○							1	

免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	製図Ⅱ	2④	○	佐賀大学	1				○							1	
			金属加工Ⅰ（実習を含む）	2①	○	佐賀大学	1				○							1	
			金属加工Ⅱ	2②	○	佐賀大学	1				○							1	
			機械Ⅰ（実習を含む）	2①	○	各大学	1				○							2	
			機械Ⅱ	2②	○	各大学	1				○							2	
			機械実習	3前		各大学		2			○							2	
			電気Ⅰ（実習を含む）	2①	○	佐賀大学	1			○		1							
			電気Ⅱ	2②	○	佐賀大学	1			○		1							
			電気実習	3前		各大学		2			○	1						1	
		生物育成	生物育成ⅠA（実習を含む）	2①	○	佐賀大学		1		○								1	
			生物育成ⅡA	2②	○	佐賀大学		1		○								1	
			生物育成ⅠB（実習を含む）	2③	○	熊本大学		1			○							1	
			生物育成ⅡB	2④	○	熊本大学		1			○							1	
			生物育成実習	2前		熊本大学		2			○							1	
		情報とコンピュータ	情報とコンピュータⅠ（実習を含む）	2①	○	熊本大学	1			○								2	
			情報とコンピュータⅡ	2②	○	熊本大学	1			○								2	
			情報とコンピュータ実習	2前		熊本大学		2			○							2	
			プログラミング	3前		佐賀大学		2		○		1							
		職業指導	職業指導	3後		熊本大学		2		○								2	オムニバス
		教科の指導法	中等技術科指導法Ⅰ	2前	○	熊本大学	2			○								2	オムニバス
			中等技術科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	2			○								3	オムニバス（熊本大学のみ）
			中等技術科指導法Ⅲ	3前	○	各大学	2			○								3	オムニバス（熊本大学のみ）
			中等技術科指導法Ⅳ	3後	○	各大学	2			○								3	オムニバス（熊本大学のみ）
			工業科指導法Ⅰ	3前		熊本大学		2		○								2	オムニバス
			工業科指導法Ⅱ	3前		熊本大学		2		○								2	オムニバス
			小計（29科目）	－	－		20	22	0	－		1	0	0	0	0	5			
免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家庭経営学Ⅰ	3①	○	各大学	1			○		1						1	
			家庭経営学Ⅱ	3②		熊本大学		1		○		1							
			家庭経営学演習	3後		熊本大学		2			○	1							
			家政学原論	2前		熊本大学		2			○	1							
			家族関係学	2前	○	熊本大学	2				○	1							
		被服学（被服実習を含む。）	被服学Ⅰ	1後	○	佐賀大学	2			○			1						
			被服学Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○			1						
			被服学演習Ⅰ	3前		佐賀大学		2			○		1						
			被服学演習Ⅱ	3後		佐賀大学		2			○		1						
			被服実習	2前	○	各大学	2				○		1					1	
		食物学、食品学及び調理学（栄養学実習を含む。）	食物学Ⅰ	1後	○	佐賀大学	2			○			1						
			食物学Ⅱ	2前		各大学		2		○			1					1	
			食物学実験・実習Ⅰ	2後	○	各大学	1				○		1					1	
			食物学実験・実習Ⅱ	2後	○	各大学	1				○		1					1	
			食物学実験・実習Ⅲ	3前		佐賀大学		2			○		1						
			食物学演習	3後		佐賀大学		2		○			1						
		住居学	住居学Ⅰ	2前	○	各大学	2			○		1	1						
			住居学Ⅱ	3前		各大学		2		○		1	1						
			住居学Ⅲ	3後		熊本大学		2		○			1						
			住居計画学	3前		各大学		2		○		1	1						
			住居学演習	3後		佐賀大学		2			○	1							
		保育学	保育学	2前	○	熊本大学	2			○			1						
			保育学演習Ⅰ	3後		佐賀大学		2			○							1	
			保育学演習Ⅱ	3後		熊本大学		2			○		1						
		教科の指導法	中等家庭科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	2			○			1					1	
			中等家庭科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	2			○			1					1	
			中等家庭科指導法Ⅲ	2後	○	各大学	2			○		1						1	
			中等家庭科指導法Ⅳ	3前	○	各大学	2			○			2					1	オムニバス（熊本大学のみ）
		小計（28科目）		－	－		23	29	0	－		2	4	0	0	0	3			
教科及び教科の指導法に関する科目（英語）	教科に関する専門的事項	英語学	英語音声学	2前	○	熊本大学	2			○			1						
			英語学	2前	○	各大学	2			○			1					1	
			英語学演習	2後	○	各大学		2			○		1					1	
			英語音声学演習	1後	○	佐賀大学		1			○							1	
			第二言語習得論	2後	○	佐賀大学		1			○		1						
			英文法演習	3後	○	佐賀大学		1			○		1						
			英語学課題研究	3後		熊本大学		2			○							1	
		英語文学	英語文学概論	3前	○	佐賀大学	2			○			1						
			英語文学演習Ⅰ	3前	○	各大学		2			○		2						
			英語文学演習Ⅱ	3後	○	各大学		2			○		2						
			英語文学講読Ⅰ	1前	○	佐賀大学		2		○			1						
			英語文学講読Ⅱ	1後	○	佐賀大学		2		○			1						
			英語文学特論	3後	○	佐賀大学		2		○			1						
			英米文学課題研究	3後		熊本大学		2		○			1						
		英語コミュニケーション	英語コミュニケーション論	1後	○	佐賀大学	2			○			1						
			英語アカデミックライティング	2後	○	各大学		2		○			2						
			英会話	1後	○	熊本大学		2		○		1	1						
			英語オーラルコミュニケーションⅠ	1前	○	佐賀大学		1		○			1						
			英語オーラルコミュニケーションⅡ	1後	○	佐賀大学		1		○			1						
			英語アカデミックスピーキングⅠ	2前	○	佐賀大学		1		○			1						
			英語アカデミックスピーキングⅡ	3前	○	佐賀大学		1		○			1						
		異文化理解	異文化理解	3後	○	熊本大学	2			○			1						
			英米文化事情Ⅰ	2前		佐賀大学		2		○								1	
			異文化理解演習Ⅰ	1後		佐賀大学		2			○							1	
			異文化理解論Ⅰ	3後		佐賀大学		2		○								1	
			英米文化事情Ⅱ	2後		佐賀大学		2		○								1	
			異文化理解演習Ⅱ	2後		佐賀大学		2			○							1	
			異文化理解論Ⅱ	3後		佐賀大学		2		○								1	
		教科の指導法	中等英語科指導法Ⅰ	2前	○	各大学	2			○		1	1						
			中等英語科指導法Ⅱ	2後	○	各大学	2			○			2						
			中等英語科指導法Ⅲ	3前	○	各大学	2			○			2						
			中等英語科指導法Ⅳ	3後	○	各大学	2			○		1	1						
			英語科教育課題研究	3後		熊本大学		2		○			1						
		小計（33科目）		－	－		18	41	0	－		1	5	0	0	0	3			
		教育制度	日本とアメリカの教育改革	2前		佐賀大学		2		○		1							
			教育制度	2後		熊本大学		2		○			1						
			教育制度特殊講義	3前		熊本大学		2		○			1						
			教育制度演習	4前		熊本大学		2			○		1						
		教育社会学	学校社会学	2前		熊本大学		2		○			1						
			教育社会学特殊講義	3前		熊本大学		2		○			1						
			教育社会学演習	4前		熊本大学		2			○		1						
			生涯学習概論	1前		熊本大学		2		○		1							

発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	社会教育演習	2前		熊本大学		2			○		1						
			生涯学習支援論Ⅰ	3後		熊本大学		2		○			1						
			生涯学習支援論Ⅱ	3前		熊本大学		2		○			1						
			社会教育経営論Ⅰ	4前		熊本大学		2		○			1						
			社会教育経営論Ⅱ	3前		熊本大学		2		○			1						
			社会教育実習	4後		熊本大学		1				○	1						
		教育哲学	教育哲学	3前		熊本大学		2		○				1					
			教育哲学特殊講義	3後		熊本大学		2		○				1					
			教育哲学演習	4前		熊本大学		2			○			1					
		道徳教育	道徳教育と学級経営	3後		佐賀大学		2		○				1					
			道徳教育方法論	3前		熊本大学		2		○				1					
			道徳教育特殊講義	2前		熊本大学		2		○				1					
			道徳教育演習	4前		熊本大学		2			○			1					
		心理学基礎	心理学概論	1前		各大学		2		○			1						1
			心理学の研究法	3後		佐賀大学		2		○			1						
			心理学統計法	2前		熊本大学		2		○									1
			心理学実験	2後		熊本大学		2				○		2						オムニバス
			心理的アセスメント	3後		熊本大学		2				○		2						オムニバス
		教育・発達心理学	教育・学校心理学	2後		熊本大学		2		○				1					
			教育・学校心理学演習	3前		熊本大学		2			○			1					
			発達心理学	2前	○	熊本大学	2			○			1						
			発達心理学演習	3後		熊本大学		2			○		1						
		臨床心理学	臨床心理学概論	2前		熊本大学		2		○				2						オムニバス
			心理学的支援法	4前		熊本大学		2		○				1					1	オムニバス
			感情・人格心理学	3前		熊本大学		2		○				1					1	オムニバス
			臨床心理学演習	3後		熊本大学		2			○			1						
			家族支援の心理学	3後		佐賀大学		2		○			1							
		応用心理学	社会・集団・家族心理学	3前		熊本大学		2		○									1	
			産業・組織心理学	3後		熊本大学		2		○			1							
		小計（37科目）		－	－		2	71	0	－			5	8	0	0	0	4		
	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育	保育観察実習	2前		佐賀大学		2				○	2	2						集中
			子どもの支援Ⅰ	1通		佐賀大学		2		○			1	2						
			特別支援教育基礎論	1前	○	各大学	2			○			1						1	
		領域に関する専門的事項	幼児と健康	2前		各大学		1		○			1	1					2	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
			幼児と人間関係	1後		各大学		1		○			1	1						
			幼児と環境	1後		各大学		1		○			1	1					1	
			幼児と言葉	1後		各大学		1		○			1	1						
			幼児と表現Ⅰ	1後		各大学		1		○			1						1	
			幼児と表現Ⅱ	2前		各大学		1		○			2							
		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（健康）	2前		各大学		1		○				1					1	
			保育内容（環境）	1後		各大学		1		○									2	
			保育内容（人間関係）	1後		各大学		1		○			1	1						
			保育内容（言葉）	1後		各大学		1		○			1	1						
			保育内容（表現Ⅰ）	1後		各大学		1		○			1						1	
			保育内容（表現Ⅱ）	2前		各大学		1		○			2							
			保育表現演習Ⅰ（言語表現）	2前		佐賀大学		1			○			1						
			保育表現演習Ⅱ（運動表現）	2前		佐賀大学		1			○			1						
			保育表現演習Ⅲ（造形表現）	2前		佐賀大学		1			○		1							
			保育表現演習Ⅳ（リズム表現）	2前		佐賀大学		1			○		1							
		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	幼児教育と保育の原理	1前	○	佐賀大学	2			○				1					
		幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	2前		各大学		2		○			1	1						
		小計（21科目）		－	－		4	22	0	－			9	7	0	0	0	8		
	特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目（第一欄）	特別支援教育基礎論	1前	○	各大学	2			○			1						1	
			特別支援教育研究法	3前		熊本大学		2		○			1	2						オムニバス
		特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害児の心理・生理・病理	2前	○	各大学	2			○			2						
				肢体不自由児の心理・生理・病理	1後	○	熊本大学	1			○			1						
				病弱児の心理・生理・病理	2前	○	佐賀大学	1			○			1						
			心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害児指導法	3前	○	各大学	2				○		1					1	
				知的障害児アセスメント論	3前	○	各大学	2			○		1		1					
				肢体不自由児教育総論	1後	○	熊本大学	1			○			1						
				肢体不自由児指導法	2前	○	熊本大学	2			○			1						
				病弱児教育総論	2前	○	各大学	1			○			1					1	
				病弱児指導法	2後	○	各大学	2			○			1					1	
			・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害児教育総論	1後	○	各大学	2			○		1	1	1					
		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	発達障害児脳科学論	3後	○	佐賀大学	1			○			1						
				視覚障害児の心理・生理・病理	1前		佐賀大学		2		○									2	オムニバス
				聴覚障害児の心理・生理・病理	3後		佐賀大学		2		○									1	
			心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	障害児行動分析学	3後		熊本大学		2		○			1						
			・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	発達障害児教育総論	2後	○	佐賀大学	2			○				1					
				重複障害児教育総論	2後	○	各大学	2			○			1					1	
				ギフテッド・2E教育論	4前		佐賀大学		2		○			1						
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習（第四欄）		障害児教育実習	3後	○	各大学	3				○	2							
		小計（20科目）			－	－		26	10	0	－			3	3	1	0	0	4		
				教育実践フィールド演習Ⅰ	1前		佐賀大学		2			○		1						
				教育実践フィールド演習Ⅱ	3前		佐賀大学		2			○		1						
				教育実践研究指導法演習	2・3・4後		熊本大学		2			○				1				
				教育臨床体験演習	3前		熊本大学		2			○			1					1	
				教職実践基礎セミナー	1通	○	熊本大学		2				○	1						
				初等教育課題探究	3④	○	熊本大学		1				○	3	8					

大学が独自に設定する科目		小学校教科指導探究（国語）	3②	○	熊本大学		1				○	1	4					
		小学校教科指導探究（社会）	3②	○	熊本大学		1				○	2	3				1	
		小学校教科指導探究（算数）	3①	○	熊本大学		1				○	1	3					
		小学校教科指導探究（理科）	3②	○	熊本大学		1				○	1	3					
		小学校教科指導探究（英語）	3②	○	熊本大学		1				○	1	3					
		小学校教科指導探究（音楽）	3①	○	熊本大学		1				○		3					
		小学校教科指導探究（図工）	3②	○	熊本大学		1				○	2						
		小学校教科指導探究（保健体育）	3①	○	熊本大学		1				○	2	2					
		小学校教科指導探究（家庭）	3②	○	熊本大学		1				○	1	2					
		実技系教科指導探究	3①	○	熊本大学		1				○	1					1	オムニバス
		熊本・学びの最前線	1後	○	熊本大学		2				○	1					2	オムニバス
		日本語教育指導探究	3前	○	熊本大学		2				○	1						
		地域教育課題探究	2後	○	熊本大学		2				○	1						
		グローバル教育課題探究	3後	○	熊本大学		2				○		1					
		幼小連携・小中連携教育論	3後		佐賀大学		2		○			4	1	1			1	オムニバス・共同（一部）
		ＬＤ等学習指導法	3後		佐賀大学		2		○				1					
		大学生の道徳・倫理	3前		佐賀大学		2		○				1					
		教育統計	3後		佐賀大学		2		○								1	
		人権教育論	3④		熊本大学		2		○				1					
		教職保健	3後		熊本大学		2		○								3	オムニバス
		教育評価	3後		熊本大学		2		○				1					
		学校経営学	3後		熊本大学		2		○				1					
		児童・生徒の性的問題に係る教育支援	3後		熊本大学		2		○				1					
		小計（29科目）	－	－		0	47	0	－			20	35	2	0	0	9	
卒業研究		卒業研究	4通	○	各大学	4又は6				○		16	32	1			2	
公認心理師受験資格取得のための必須科目	演習・実習	心理演習	4通		熊本大学			2		○			2				2	
		心理実習	4通		熊本大学			2		○			3				5	
	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	公認心理師の職責	1後		熊本大学			2	○				1					
		知覚・認知心理学	3後		熊本大学			2	○								1	
		学習・言語心理学	2後		熊本大学			2	○				1					
		神経・生理心理学	3前		熊本大学			2	○								1	
		障害者・障害児心理学	3後		熊本大学			2	○			1	1					
		健康・医療心理学	2後･3後		熊本大学			2	○								1	
		福祉心理学	2後		熊本大学			2	○								1	集中
		司法・犯罪心理学	1後		熊本大学			2	○				1					
		人体の構造と機能及び疾病	2前・2後		熊本大学			2	○				1					
		精神疾患とその治療	3前		熊本大学			2	○								1	
		関係行政論	2前		熊本大学			2	○								1	集中
	小計（13科目）		－	－		0	0	26	－			1	3	0	0	0	8	
学芸員科目 社会教育主科目		博物館概論	1前		熊本大学			2	○								1	
		博物館経営論	1後		熊本大学			2	○								1	
		博物館資料論	2前		熊本大学			2	○								1	
		博物館資料保存論	2後		熊本大学			2	○								1	
		博物館展示論	2前		熊本大学			2	○								1	
		博物館教育論	3前		熊本大学			2	○								1	
		博物館情報・メディア論	3前		熊本大学			2	○								1	
		博物館実習Ⅰ	1前		熊本大学			1			○						1	集中
		博物館実習Ⅱ	2後		熊本大学			1			○						1	
		博物館実習Ⅲ	3前		熊本大学			1			○						1	集中
		小計（10科目）	－	－		0	0	17	－			0	0	0	0	0	1	
合計（953科目）			－	－		319～321	1009～1071	43	－			30	49	4	0	0	510	

学位	学士（教育学）	学位の分野		教育学・保育学関係	
卒業・修了要件及び履修方法		開　設　大　学	開設単位数（必修）	授業期間等	
		佐賀大学	1062（247）	１学年の学期区分	2期
		熊本大学	783～845（256）	１学期の授業期間	15週
				1時限の授業の標準時間	90分

4年以上在学し、教養教育科目及び専門教育科目において、以下のとおり単位を修得した者を卒業とする。

１．教養教育科目

佐賀大学：教養教育科目　27単位以上
（１）大学入門科目　２単位
（２）共通基礎科目　７単位以上
（３）基本教養科目　10単位以上
（４）インターフェース科目　８単位以上

熊本大学：教養教育科目　27単位以上
（１）基礎科目　11単位
（２）教養科目　13単位以上
（３）教職科目　３単位

２．専門教育科目
専門教育科目の卒業要件は、専攻毎に以下のとおりとする。

佐賀大学100単位
【小学校教育主免専攻】
（１）先端的教育科目　６単位
（２）初等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　31単位
②大学が独自に設定する科目　４単位
③教育の基礎的理解に関する科目
④道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　｝③～⑤の合計28単位
⑤教育実践に関する科目
（３）中等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　12～22単位
②教育の基礎的理解に関する科目
③道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　｝②～④の合計３単位
④教育実践に関する科目
（４）自由選択科目　２～12単位（所属教科により異なる）
（５）卒業研究　４単位

【中学校教育主免専攻】
（１）先端的教育科目　６単位
（２）初等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　16単位
②大学が独自に設定する科目　４単位
③教育の基礎的理解に関する科目
④道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　③～⑤の合計26単位
⑤教育実践に関する科目
（３）中等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　28～31単位
②教育の基礎的理解に関する科目
③道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　②～④の合計５単位
④教育実践に関する科目
（４）自由選択科目　８～11単位（所属教科により異なる）
（５）卒業研究　４単位

【発達支援専攻】
（１）先端的教育科目　６単位
（２）初等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　31単位
②大学が独自に設定する科目　４単位
③教育の基礎的理解に関する科目
④道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　③～⑤の合計28単位
⑤教育実践に関する科目
（３）発達支援に関する科目　24単位
（４）自由選択科目　３単位
（５）卒業研究　４単位

【特別支援教育専攻】
（１）先端的教育科目　６単位
（２）初等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　31単位
②大学が独自に設定する科目　４単位
③教育の基礎的理解に関する科目
④道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　③～⑤の合計28単位
⑤教育実践に関する科目
（３）特別支援教育に関する科目　26単位
（４）自由選択科目　1単位
（５）卒業研究　４単位

熊本大学：97単位以上（小学校教育主免専攻における実技系入学者は101単位）
【小学校教育主免専攻】
（１）教育の基礎的理解に関する科目等　30単位
（２）教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）　31単位
（３）教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）　12単位（実技系入学者は28単位）
（４）大学が独自に設定する科目　６単位（地域枠及び国際枠入学者は10単位）
（５）自由選択科目　12単位（実技系入学者は0単位、地域枠及び国際枠入学者は8単位）
（６）卒業研究　６単位

【中学校教育主免専攻】
（１）教育の基礎的理解に関する科目等　30単位
（２）教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）　16単位
（３）教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）　28単位
（４）大学が独自に設定する科目　４単位（保健体育科のみ５単位）
（５）自由選択科目　13単位（保健体育科のみ12単位）
（６）卒業研究　６単位

【発達支援専攻】
（１）教育の基礎的理解に関する科目等　28単位
（２）発達支援教育に関する科目　８単位
（３）教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）　31単位
（４）大学が独自に設定する科目　４単位
（５）自由選択科目　20単位
（６）卒業研究　６単位

【特別支援教育専攻】
（１）教育の基礎的理解に関する科目等　28単位
（２）特別支援教育に関する科目　26単位
（３）教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）　16単位
（４）大学が独自に設定する科目　４単位
（５）自由選択科目　17単位
（６）卒業研究　６単位

３．パートナー大学の開講科目の単位取得
大学設置基準第45条第1項において定められている共同学科に係る卒業の要件において、それぞれの大学で必要とされる最低取得単位数の31単位以上を踏まえ、パートナー大学の開講科目の単位取得は以下のとおりとする。なお、以下の共同科目31単位は主要授業科目として位置付けることにより、学生は卒業要件単位を満たすことで31単位以上を取得することになる。
佐賀大学：専門教育科目（卒業研究を除く。）のうち、熊本大学が開講する共同科目31単位以上
熊本大学：専門教育科目（卒業研究を除く。）のうち、佐賀大学が開講する共同科目31単位以上

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（熊本大学教育学部共同教員養成課程）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）		英語A-1	1前・後		1				○			1				13	
				英語A-2	1前・後		1				○			1				15	
				英語B-1	1前・後		1				○			1				16	
				英語B-2	1前・後		1				○			1				15	
				英語e	1前・後		1				○							8	
				英語C-1	2前		1				○			1				16	
				英語C-2	2後		1				○							10	
		自由選択外国語科目		ドイツ語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				ドイツ語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				ドイツ語Ⅱ-1	2前			1			○							1	
				ドイツ語Ⅱ-2	2後			1			○							1	
				フランス語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				フランス語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				フランス語Ⅲ-1	2前			1			○							1	
				フランス語Ⅲ-2	2後			1			○							1	
				中国語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				中国語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				コリア語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				コリア語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				コリア語Ⅱ-1	2前			1			○							1	
				コリア語Ⅱ-2	2後			1			○							1	
				コリア語Ⅲ-1	2前			1			○							1	
				コリア語Ⅲ-2	2後			1			○							1	
				ロシア語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				ロシア語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				ラテン語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				ラテン語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				スペイン語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				スペイン語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				スペイン語Ⅱ-1	2前			1			○							1	
				スペイン語Ⅱ-2	2後			1			○							1	
				ヘブライ語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				ヘブライ語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				イタリア語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
				イタリア語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
				日本語Ⅰ-2	1・2前・後			1			○							2	
				日本語Ⅱ-2	1・2前・後			1			○							1	
				日本語Ⅲ-1	1・2前			1			○							1	
				日本語Ⅲ-2	1・2前・後			1			○							2	
				日本語Ⅳ-1	1前			1			○							1	
				日本語Ⅳ-2	1・2前・後			1			○							2	
				小計（41科目）	－	－	7	34	0	－			0	3	0	0	0	49	
	情報科目			ICTリテラシー	1前		2				○							7	
				DSリテラシー	1後		2				○							7	
				小計（2科目）	－	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	7	
				文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2	
				数学の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2	
				物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○				1				6	
				教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○				1				2	
				生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								9	
				地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								1	
				持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								1	
				豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2	
				日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2	

教養教育科目		リベラルアーツ科目	倫理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									2
			心と世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									1
			思考と論理	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									1
			現代心理行動学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○			1	1					1
			こころの科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									1
			芸術文化論	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○				1					
			文学の諸相	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○				1					2
			モノが語る歴史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									4
			地域の世界史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									4
			日本社会の歴史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									3
			法学の基礎	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									5
			現代政治の諸相	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									3
			最前線の社会文化研究	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									8
			現代社会の解読	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									3
			自然と人間の地理学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○				1					2
			小計（24科目）	－	－	0	24～48	0	－			1	6	0	0	0	67
			数学と文化	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○				1					1
			物理学の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									1
			暮らしと化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									2
			化学と環境	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									3
			最先端の生命科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									4
			地球環境科学の最前線	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									6
			地域づくりと科学技術	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									4
			ものづくりの科学と技術	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									6
			暮らしと情報・通信技術	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									3
			健康の科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									2
			病気の医科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									2
			臨床医学の最前線	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○									2
	教養科目																		

現代教養科目	現代社会と医学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	心身の健康と看護	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										3
	医療における理工学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	現代の医学検査	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	現代医療と生命科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										2
	薬科学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										2
	現代社会と薬学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										2
	現代教育について考える	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○					6	1				
	心理学の探求	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	芸術への招待	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○				2						
	現代と言語	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○					1					1
	現代と文学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○					1					1
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										2
	最先端の法学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	現代社会と経済	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○					1					4
	現代の政治	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										2
	学際科目	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										3
	小計（29科目）	－	－	0	29～58	0	－				2	10	1	0	0		63
Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology Ⅰ	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										3
	Introduction to Science and Technology Ⅱ	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										5
	World History	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	Area Studies	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										4
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	Global Career Development	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										1
	小計（7科目）	－	－	0	7～14	0	－				0	0	0	0	0		6
キャリア科目	キャリア科目	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○				2						5
	小計（1科目）	－	－	0	1又は2	0	－				2	0	0	0	0		5
開放科目	開放科目	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○										6
	小計（1科目）	－	－	0	1又は2	0	－				0	0	0	0	0		6

		体育・スポーツ科学科目		体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・④		1				○		1	1				2	
				小計（1科目）	－	－	1	0	0	－			1	1	0	0	0	2	
	教職科目	体育・スポーツ科学科目		体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・④		1				○		1	2				2	
				小計（1科目）	－	－	1	0	0	－			1	2	0	0	0	2	
		日本国憲法科目		暮らしの中の憲法	1・2前・後		2			○								2	
				小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	2	
		教育の基礎的理解に関する科目等		教育原理A（理念及び思想）	1前	○	1			○				1					
				現代の教育と社会A	1後	○	1			○				1					
				教育心理学B（発達）	1前	○	1			○				1					
				特別支援教育の展開	3前	○	1			○			1						
				教育課程論	2後	○	1			○					1				
				道徳教育の理論	2後	○	1			○				1					
				特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2前	○	2			○				1					
				教育とICT活用	2前	○	1			○			1					2	
				教育相談の理論及び方法	3前	○	1			○				2					
				進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	3前	○	1			○				2					
				事前・事後指導	3通・4通	○		1				○	1						
				初等教育実習Ⅰ	3通・4通	○		2				○	1						
				初等教育実習Ⅱ	3通・4通	○		2				○	1						
				中等教育実習Ⅰ	3通・4通	○		2				○	1						
				中等教育実習Ⅱ	3通・4通	○		2				○	1						
				幼稚園教育実習Ⅰ	3通・4通			3				○	1						
				幼稚園教育実習Ⅱ	3通・4通			2				○	1						
				教職実践演習（幼・小・中・高）	4通	○	2				○		1						
				小計（18科目）	－	－	11	14	0	－			3	6	1	0	0	2	
		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）	教科に関する専門的事項	初等国語	2前	○	1			○			1	2					オムニバス
				初等書写	2前	○	1			○								1	
				初等社会	2前	○	1			○			1	2				1	オムニバス
				初等算数	2前	○	1			○			1	3					オムニバス
				初等理科	2後	○	1			○				2				2	オムニバス
				初等生活	2後	○	1			○			2	1				1	オムニバス
				初等音楽	1前	○	1			○				3				1	オムニバス
				初等図画工作	2後	○	1			○			2						オムニバス
				初等家庭	1後	○	1			○			1	1				1	オムニバス
				初等体育	2前	○	1			○				1					
				初等外国語	2後	○	1			○				1					
			教科の指導法	初等国語科指導法Ⅰ	2後	○	1			○				1					
				初等国語科指導法Ⅱ	1後	○	1			○				1					
				初等社会科指導法Ⅰ	2後	○	1			○				1					
				初等社会科指導法Ⅱ	3前	○	1			○			1						
				初等算数科指導法Ⅰ	2後	○	1			○				2					オムニバス
				初等算数科指導法Ⅱ	2後	○	1			○				2					オムニバス・共同（一部）
				初等理科指導法Ⅰ	2前	○	1			○			1	1					オムニバス・共同（一部）
				初等理科指導法Ⅱ	2後	○	1			○			1	1					オムニバス・共同（一部）
				初等生活科指導法Ⅰ	3前	○	1			○				1					
				初等生活科指導法Ⅱ	2後	○	1			○				1					
				初等音楽科指導法Ⅰ	2前	○	1			○								1	
				初等音楽科指導法Ⅱ	1後	○	1			○								1	
				初等図画工作科指導法Ⅰ	2前	○	1			○			1						
				初等図画工作科指導法Ⅱ	3前	○	1			○			1						
				初等家庭科指導法Ⅰ	1後	○	1			○				1					
				初等家庭科指導法Ⅱ	2前	○	1			○				1					
				初等体育科指導法Ⅰ	2後	○	1			○				1					
				初等体育科指導法Ⅱ	2後	○	1			○				1					
				初等外国語指導法Ⅰ	3前	○	1			○				1					
				初等外国語指導法Ⅱ	2前	○	1			○				1					
				小計（31科目）	－	－	31	0	0	－			8	20	0	0	0	7	
		教科及び教科の指導法に関する科目（国語）	教科に関する専門的事項	国語学概説Ⅱ	2後	○	2			○				1					
				国語学概説Ⅲ	3前			2		○				1					
				国語学演習Ⅰ	2後			2			○			1					
				国語学特別演習Ⅰ	3後			2			○			1					
				国語学特別演習Ⅱ	4後			2			○			1					
				国文学概説	2前	○	2			○			1	1					オムニバス
				国文学講義Ⅰ（古典）	2前			2		○								1	
				国文学講義Ⅱ（近現代）	3前			2		○				1					
				国文学講読（古典）	2後			2		○			1						
				国文学特別演習Ⅰ（近現代）	3後			2			○			1					
				国文学特別演習Ⅱ（近現代）	3後			2			○			1					
				漢文学概説Ⅱ	3前	○	2			○			1						
				漢文学演習Ⅰ	2前			2			○		1						
				漢文学特別演習Ⅰ	3後			2			○		1						
				漢文学特別演習Ⅱ	3後			2			○		1						
				書写	1後	○	2			○								1	
			教科の指導法	中等国語科指導法Ⅰ	2前	○	2			○				1					
				中等国語科指導法Ⅱ	2後	○	2			○				1					
				中等国語科指導法Ⅲ	3前	○	2			○				1					
				中等国語科指導法Ⅳ	3後	○	2			○				1					
				国語科教育学演習A	2後			2			○			1					
				国語科教育学演習B	3前			2			○			1					
				国語科教育学演習C	3後			2			○			1					
				国語科教育学演習D	3後			2			○			1					
				小計（24科目）	－	－	16	32	0	－			1	4	0	0	0	2	
				日本史概説	1前	○	2			○			1						
				日本史特講Ⅰ（史料論）	3前			2		○			1						

教科及び教科の指導法に関する科目（社会）	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	世界史概説	1後	○	2			○									1	
			世界史特講Ⅰ（中国史）	3前			2		○									1	
			日本史演習Ⅰ（地域史調査）	3前			2			○		1							
			日本史演習Ⅱ（中世文書）	3後			2			○		1							
			日本史演習Ⅲ（荘園調査）	4前			2			○		1							
			日本史演習Ⅳ（近世文書）	4後			2			○		1							
			日本史調査実習	3後			2				○	1							
		地理学	人文地理学概説	1後	○	2			○				1						
			人文地理学特講	3前			2		○				1						
			自然地理学特講Ⅰ	3後			2		○									1	
			地誌学概説	2前	○	2			○				1						
			人文地理学演習Ⅰ	3前			2			○			1						
			人文地理学演習Ⅱ	3後			2			○			1						
			人文地理学演習Ⅲ	4前			2			○			1						
			人文地理学演習Ⅳ	4後			2			○			1						
			地理学調査実習	3後			2				○		1						
		法律学・政治学	政治学概説Ⅰ	2後			2		○									1	
			政治学特講Ⅰ	3前			2		○									1	
			政治学演習Ⅰ	3前			2			○								1	
			政治学演習Ⅱ	3後			2			○								1	
			政治学演習Ⅲ	4前			2			○								1	
			政治学演習Ⅳ	4後			2			○								1	
			政治学調査実習	3後			2				○							1	
		社会学・経済学	経済学概説	2前	○	2			○				1						
			地域社会学概説	2前			2		○									1	
			社会人間学特講	2後			2		○									1	
			経済学特講	3後			2		○				1						
			経済学演習Ⅰ	3前			2			○			1						
			経済学演習Ⅱ	3後			2			○			1						
			経済学演習Ⅲ	4前			2			○			1						
			経済学演習Ⅳ	4後			2			○			1						
			地域調査実習	3後			2				○		1						
		哲学・倫理学・宗教学	応用倫理学概説	2前			2		○									1	
			応用倫理学特論	2後			2		○									1	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数に関する事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅰ	3前			2			○		1							
			社会科教育演習Ⅱ	3後			2			○		1							
			社会科教育演習Ⅲ	4前			2			○		1							
			社会科教育演習Ⅳ	4後			2			○		1							
			社会科教育演習Ⅴ	3前			2			○			1						
			社会科教育演習Ⅵ	3後			2			○			1						
			社会科教育演習Ⅶ	4前			2			○			1						
			社会科教育演習Ⅷ	4後			2			○			1						
			中等社会科教育特講（租税教育論）	3後			2		○			1	1						オムニバス
		教科の指導法	中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰ	2前	○	2			○			1							
			中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰ	2後	○	2			○				1						
			中等社会科指導法（社会・公民）Ⅱ	3前	○	2			○			1							
			中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅱ	3前	○	2			○				1						
		小計（49科目）		－	－	18	80	0	－			2	3	0	0	0	6		
教科及び教科の指導法に関する科目（数学）	教科に関する専門的事項	代数学	代数学概論	2前	○		2		○									1	
			代数学講義	2後	○		2		○									1	
			代数学特論	3前	○		2		○									1	
		幾何学	幾何学概論	2前	○		2		○			1							
			幾何学講義	2後	○		2		○			1							
			幾何学特論	3前	○		2		○			1							
		解析学	解析学序論	1後	○		2		○			1							
			解析学概論	2前	○		2		○			1							
			解析学講義	2後	○		2		○			1							
			解析学特論	3前	○		2		○			1							
		確率論・統計学	確率統計学	2後	○	2			○				1						
		コンピュータ	コンピュータ	2前	○	2			○				1						
			応用数学特論	3前			2		○				1						
		教科の指導法	中等数学科指導法Ⅰ	2前	○	2			○				1						
			中等数学科指導法Ⅱ	2後	○	2			○				1						
			中等数学科指導法Ⅲ	3前	○	2			○				1						
			中等数学科指導法Ⅳ	3後	○	2			○				1						
		小計（17科目）		－	－	12	22	0	－			1	3	0	0	0	1		
教科及び教科の指導法に関する	教科に関する専門的事項	物理学	基礎物理学Ｂ	1後	○	1			○				1						
			物理学Ⅰ	2前			2		○				1						
			物理学Ⅱ	2後			2		○				1						
			基礎物理学演習	1後			1			○			1						
		化学	基礎化学Ｂ	1前	○	1			○				1						
			化学Ⅰ	2前			2		○				1						
			化学Ⅱ	3後			2		○				1						
		生物学	基礎生物学Ｂ	2後	○	1			○									1	
			生物学Ⅰ	2後			2		○									1	
			生物学Ⅱ	3前			2		○									1	
		地学	基礎地学Ｂ	2後	○	1			○									1	
			地学Ⅰ	2後			2		○									1	
			地学Ⅱ	3前			2		○									1	
		物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理学実験A	3前	○		1				○		1						
			物理学実験B	3前			1				○		1						
			化学実験A	3前	○		1				○		1						
			化学実験B	3前			1				○		1						
			生物学実験A	3前	○		1				○							1	
			生物学実験B	3前			1				○							1	

			る科目（理科）			地学実験A	3前	○		1				○							1	
						地学実験B	3前			1				○							1	
				教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		理科基礎研究	3後			1				○	1	3						
				教科の指導法		中等理科指導法Ⅰ	2前	○	2			○			1							
						中等理科指導法Ⅱ	2後	○	2			○			1	1						オムニバス・共同（一部）
						中等理科指導法Ⅲ	3前	○	2			○				1						
						中等理科指導法Ⅳ	3後	○	2			○			1	1						オムニバス・共同（一部）
						理科教育実践入門	1後			2		○			1	1						オムニバス・共同（一部）
				小計（27科目）				－	－	12	28	0		－		1	3	0	0	0	2	
			免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュ基礎	1前	○	1					○		1						
						ソルフェージュ応用B	1後	○		1				○		1						
					声楽	声楽基礎Ⅰ（伝統的な歌唱を含む）	1前	○	1				○			1						
						声楽基礎Ⅲ	1後	○		1			○			1						
						声楽基礎Ⅳ	2前			1				○		1						
						声楽基礎Ⅴ	2後			1				○		1						
						声楽実技Ⅰ	3前			1				○		1						
						声楽実技Ⅱ	3後			1				○		1						
						合唱	2後	○	1					○		1						
					器楽	ピアノ基礎Ⅰ	1前	○	1				○			1						
						ピアノ基礎Ⅲ	1後	○		1			○			1						
						ピアノ実技Ⅰ	2前			1				○		1						
						ピアノ実技Ⅱ	2後			1				○		1						
						ピアノ実技Ⅲ	3前			1				○		1						
						ピアノ実技Ⅳ	3後			1				○		1						
						器楽基礎（和楽器を含む）	1後	○	1				○			1						
						合奏	2後	○	1					○		1						
						伴奏法演習Ⅰ	3前	○	2				○			1						
					音楽理論・作曲法・音楽史	音楽理論A	2前	○		2		○				1						
						音楽理論BⅠ	1後	○	2			○				1						
						音楽理論BⅡ	2後			2		○				1						
						音楽史Ⅰ	1後	○	2			○				1						
						音楽史Ⅱ	2後			1		○				1						
						作曲法	2前	○	2			○				1						
						作曲演習Ⅰ	3前			2				○		1						
						作曲演習Ⅱ	3後			2				○		1						
						音楽学演習Ⅰ	3前			1				○		1						
						音楽学演習Ⅱ	3後			1				○		1						
				教科の指導法		中等音楽科指導法Ⅰ	1後	○	2			○									1	
						中等音楽科指導法Ⅱ	2前	○	2			○									1	
						中等音楽科指導法Ⅲ	3前	○	2			○									1	
						中等音楽科指導法Ⅳ	3後	○	2			○									1	
				小計（32科目）				－	－	22	22	0		－		0	3	0	0	0	1	
			免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	絵画基礎Ⅰ	1後	○	2				○		1							
						絵画基礎Ⅱ	2前			2			○		1							
						絵画演習Ⅰ	2後			2			○		1							
						絵画演習Ⅱ	2前・3前			2			○		1							
						絵画演習Ⅲ	2後・3後			2			○		1							
					彫刻	彫刻基礎	1前	○	2				○								1	
					工芸	工芸基礎	1前	○	2				○		1							
						工芸演習	2後			2			○		1							
					美術理論・美術史	美術史概論	2前	○	2			○			2							
				教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		造形実践演習	3前			2			○		1							
				教科の指導法		中等美術科指導法Ⅰ	2前	○	2			○			1							
						中等美術科指導法Ⅱ	2後	○	2			○			1							
						中等美術科指導法Ⅲ	2前	○	2				○		1							
						中等美術科指導法Ⅳ	2後	○	2				○		1							
				小計（13科目）				－	－	16	12	0		－		2	0	0	0	0	1	
			免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	体つくり運動	2後	○	1					○		1						
						器械運動	1通	○	1					○		1						
						水泳	1前	○	1					○	2							
						陸上競技	1通	○	1					○	1							
						ゴール型球技	1後	○	1					○	1	1						
						ネット型球技	1前	○	1					○		1						
						ダンス	1通	○	1					○		1						
						柔道	1後	○	1					○		1						
						野外活動	3通			1				○	1	1						
					心理学・体育経営管理学・社会学・体育史・運動学（運動方法学を含）	体育原理	3前	○		2		○				1						
						体育経営管理学	1前	○		2		○			1							
						体育社会学	3前	○		2		○			1							
						保健体育科課題研究Ⅰ	3前			2		○			2	2						
						保健体育科課題研究Ⅱ	3④			2		○			2	2						
					生理学	生理学（運動生理学を含む）	1前	○	2			○			1	1						
						生理学実験・演習	2後			2				○	1	1						
					衛生学・公衆衛生	衛生・公衆衛生学	1前	○	2			○				1					1	

			学校保健（児童生徒の保健、学校安全及び学校保健に関する事項を含む。）	学校保健	2前	○	2			○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）
		教科の指導法		中等保健体育科指導法Ⅰ	2前	○	2			○				2					
				中等保健体育科指導法Ⅱ	2後	○	2			○				2					
				中等保健体育科指導法Ⅲ	3前	○	2			○				2					
				中等保健体育科指導法Ⅳ	3後	○	2			○				2					
		小計（22科目）			－	－	22	13	0	－			2	2	0	0	0	1	
	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	木材加工Ⅰ（実習を含む）	3①	○	1			○								2	
				木材加工Ⅱ	3②	○	1			○								2	オムニバス
				木材加工実習	3前			2				○						2	
			機械・電気（実習を含む。）	機械Ⅰ（実習を含む）	2①	○	1					○						1	
				機械Ⅱ	2②	○	1					○						1	
				機械実習	3前			2				○						1	
				電気実習	3前			2				○						1	
			生物育成	生物育成ⅠB（実習を含む）	2③	○		1				○						1	
				生物育成ⅡB	2④	○		1				○						1	
				生物育成実習	2前			2				○						1	
		教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ	情報とコンピュータⅠ（実習を含む）	2①	○	1			○								2	
				情報とコンピュータⅡ	2②	○	1			○								2	
				情報とコンピュータ実習	2前			2				○						2	
			職業指導	職業指導	3後			2		○								2	オムニバス
		教科の指導法		中等技術科指導法Ⅰ	2前	○	2			○								2	オムニバス
				中等技術科指導法Ⅱ	2後	○	2			○								2	オムニバス
				中等技術科指導法Ⅲ	3前	○	2			○								2	オムニバス
				中等技術科指導法Ⅳ	3後	○	2			○								2	オムニバス
				工業科指導法Ⅰ	3前			2		○								2	オムニバス
				工業科指導法Ⅱ	3前			2		○								2	オムニバス
		小計（20科目）			－	－	14	18	0	－			0	0	0	0	0	2	
	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家庭経営学Ⅰ	3①	○	1			○			1						
				家庭経営学Ⅱ	3②			1		○			1						
				家庭経営学演習	3後			2			○		1						
				家政学原論	2前			2				○	1						
				家族関係学	2前	○	2					○	1						
			被服学（被服実習を含む。）	被服実習	2前	○	2					○						1	
			食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学Ⅱ	2前			2		○								1	
				食物学実験・実習Ⅰ	2後	○	1					○						1	
				食物学実験・実習Ⅱ	2後	○	1					○						1	
			住居学	住居学Ⅰ	2前	○	2			○				1					
				住居学Ⅱ	3前			2		○				1					
				住居学Ⅲ	3後			2		○				1					
				住居計画学	3前			2		○				1					
			保育学	保育学	2前	○	2			○				1					
				保育学演習Ⅱ	3後			2			○			1					
		教科の指導法		中等家庭科指導法Ⅰ	2前	○	2			○				1					
				中等家庭科指導法Ⅱ	2後	○	2			○				1					
				中等家庭科指導法Ⅲ	2後	○	2			○			1						
				中等家庭科指導法Ⅳ	3前	○	2			○				2					オムニバス
		小計（19科目）			－	－	19	15	0	－			1	2	0	0	0	1	
	教科及び教科の指導法に関する科目（英語）	教科に関する専門的事項	英語学	英語音声学	2前	○	2			○				1					
				英語学	2前	○	2			○								1	
				英語学演習	2後	○		2			○							1	
				英語学課題研究	3後			2			○							1	
			英語文学	英語文学演習Ⅰ	3前	○		2			○			1					
				英語文学演習Ⅱ	3後	○		2			○			1					
				英米文学課題研究	3後			2		○				1					
			英語コミュニケーション	英語アカデミックライティング	2後	○		2		○				1					
				英会話	1後	○		2		○			1	1					
			異文化理解	異文化理解	3後	○	2			○				1					
		教科の指導法		中等英語科指導法Ⅰ	2前	○	2			○			1						
				中等英語科指導法Ⅱ	2後	○	2			○				1					
				中等英語科指導法Ⅲ	3前	○	2			○				1					
				中等英語科指導法Ⅳ	3後	○	2			○			1						
				英語科教育課題研究	3後			2		○				1					
		小計（15科目）			－	－	14	16	0	－			1	2	0	0	0	1	
		教育制度		教育制度	2後			2		○				1					
				教育制度特殊講義	3前			2		○				1					
				教育制度演習	4前			2			○			1					
		教育社会学		学校社会学	2前			2		○				1					
				教育社会学特殊講義	3前			2		○				1					
				教育社会学演習	4前			2			○			1					
		社会教育		生涯学習概論	1前			2		○			1						
				社会教育演習	2前			2			○		1						
				生涯学習支援論Ⅰ	3後			2		○			1						
				生涯学習支援論Ⅱ	3前			2		○			1						
				社会教育経営論Ⅰ	4前			2		○			1						
				社会教育経営論Ⅱ	3前			2		○			1						

発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目			社会教育実習	4後			1				○	1							
		教育哲学	教育哲学	教育哲学	3前			2		○				1						
				教育哲学特殊講義	3後			2		○				1						
				教育哲学演習	4前			2			○			1						
		道徳教育	道徳教	道徳教育方法論	3前			2		○				1						
				道徳教育特殊講義	2前			2		○				1						
				道徳教育演習	4前			2			○			1						
		心理学基礎	心理学基	心理学概論	1前			2		○									1	
				心理学統計法	2前			2		○									1	
				心理学実験	2後			2				○		2						オムニバス
				心理的アセスメント	3後			2				○		2						オムニバス
		教育・発達心理学	教育・発達心理学	教育・学校心理学	2後			2		○				1						
				教育・学校心理学演習	3前			2			○			1						
				発達心理学	2前	○	2			○			1							
				発達心理学演習	3後			2			○		1							
		臨床心理学	臨床心理	臨床心理学概論	2前			2		○				2						オムニバス
				心理学的支援法	4前			2		○				1					1	オムニバス
				感情・人格心理学	3前			2		○				1					1	オムニバス
				臨床心理学演習	3後			2			○			1						
		心理応用学	心応用	社会・集団・家族心理学	3前			2		○									1	
				産業・組織心理学	3後			2		○			1							
		小計（33科目）			－	－	2	63	0	－			3	7	0	0	0	4		
	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育		特別支援教育基礎論	1前	○	2			○			1							
		領域に関する専門的事項		幼児と健康	2前			1		○				1					2	オムニバス・共同（一部）
				幼児と人間関係	1後			1		○			1							
				幼児と環境	1後			1		○			1	1						
				幼児と言葉	1後			1		○			1							
				幼児と表現Ⅰ	1後			1		○									1	
				幼児と表現Ⅱ	2前			1		○			1							
		保育内容（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（健康）	2前			1		○				1						
				保育内容（環境）	1後			1		○									1	
				保育内容（人間関係）	1後			1		○			1							
				保育内容（言葉）	1後			1		○			1							
				保育内容（表現Ⅰ）	1後			1		○									1	
				保育内容（表現Ⅱ）	2前			1		○			1							
		幼児理解の理論及び方法		幼児理解の理論と方法	2前			2		○			1							
		小計（14科目）			－	－	2	14	0	－			3	2	0	0	0	4		
	特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目（第一欄）		特別支援教育基礎論	1前	○	2			○			1							
				特別支援教育研究法	3前			2		○			1	2						
		特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害児の心理・生理・病理	2前	○	2			○				1						
				肢体不自由児の心理・生理・病理	1後	○	1			○				1						
			心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害児指導法	3前	○	2				○		1	1						
				知的障害児アセスメント論	3前	○	2			○			1							
				肢体不自由児教育総論	1後	○	1			○				1						
				肢体不自由児指導法	2前	○	2			○				1						
				病弱児教育総論	2前	○	1			○				1						
				病弱児指導法	2後	○	2			○				1						
			・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害児教育総論	1後	○	2			○			1	1						
		免許状に定められる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	障害児行動分析学	3後			2		○				1						
			・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	重複障害児教育総論	2後	○	2			○				1						
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習（第四欄）		障害児教育実習	3後	○	3					○	1							
		小計（14科目）			－	－	22	4	0	－			2	2	0	0	0	0		
大学が独自に設定する科				教育実践研究指導法演習	2・3・4後			2			○				1					
				教育臨床体験演習	3前			2			○			1					1	
				教職実践基礎セミナー	1通	○		2				○	1							
				初等教育課題探究	3④	○		1				○	3	8						
				小学校教科指導探究（国語）	3②	○		1				○	1	4						
				小学校教科指導探究（社会）	3②	○		1				○	2	3					1	
				小学校教科指導探究（算数）	3①	○		1				○	1	3						
				小学校教科指導探究（理科）	3②	○		1				○	1	3						
				小学校教科指導探究（英語）	3②	○		1				○	1	3						
				小学校教科指導探究（音楽）	3①	○		1				○		3						
				小学校教科指導探究（図工）	3②	○		1				○	2							
				小学校教科指導探究（保健体育）	3①	○		1				○	2	2						
				小学校教科指導探究（家庭）	3②	○		1				○	1	2						
				実技系教科指導探究	3①	○		1				○	1						1	オムニバス
				熊本・学びの最前線	1後	○		2				○	1						2	オムニバス
				日本語教育指導探究	3前	○		2				○	1							

目		地域教育課題探究	2後	○		2				○	1						
		グローバル教育課題探究	3後	○		2				○		1					
		人権教育論	3④			2		○				1					
		教職保健	3後			2		○								3	オムニバス
		教育評価	3後			2		○				1					
		学校経営学	3後			2		○				1					
		児童・生徒の性的問題に係る教育支援	3後			2		○				1					
		小計（23科目）	－	－	0	35	0	－			16	32	1	0	0	7	
卒業研究		卒業研究	4通	○	6				○		15	32	1			2	
公認心理師受験資格取得のための必須科目	演習・実習	心理演習	4通				2		○			2				2	
		心理実習	4通				2		○			3				5	
	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	公認心理師の職責	1後				2	○				1					
		知覚・認知心理学	3後				2	○								1	
		学習・言語心理学	2後				2	○				1					
		神経・生理心理学	3前				2	○								1	
		障害者・障害児心理学	3後				2	○			1	1					
		健康・医療心理学	2後・3後				2	○								1	
		福祉心理学	2後				2	○								1	集中
		司法・犯罪心理学	1後				2	○				1					
		人体の構造と機能及び疾病	2前・2後				2	○				1					
		精神疾患とその治療	3前				2	○								1	
		関係行政論	2前				2	○								1	集中
	小計（13科目）		－	－	0	0	26	－			1	3	0	0	0	8	
学芸員科目 社会教育士科目		博物館概論	1前				2	○								1	
		博物館経営論	1後				2	○								1	
		博物館資料論	2前				2	○								1	
		博物館資料保存論	2後				2	○								1	
		博物館展示論	2前				2	○								1	
		博物館教育論	3前				2	○								1	
		博物館情報・メディア論	3前				2	○								1	
		博物館実習Ⅰ	1前				1			○						1	集中
		博物館実習Ⅱ	2後				1			○						1	
		博物館実習Ⅲ	3前				1			○						1	集中
		小計（10科目）	－	－	0	0	17	－			0	0	0	0	0	1	
合計（504科目）			－	－	254	484～546	43	－			16	32	1	0	0	218	

学位	学士（教育学）	学位の分野	教育学・保育学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
4年以上在学し、教養教育科目及び専門教育科目において、以下のとおり単位を修得した者を卒業とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

1．教養教育科目

熊本大学：教養教育科目　27単位以上
（1）基礎科目　11単位
（2）教養科目　13単位以上
（3）教職科目　3単位

2．専門教育科目
専門教育科目の卒業要件は、専攻毎に以下のとおりとする。

熊本大学：97単位以上（小学校教育主免専攻における実技系入学者は101単位）
【小学校教育主免専攻】
（1）教育の基礎的理解に関する科目等　30単位
（2）教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）　31単位
（3）教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）　12単位（実技系入学者は28単位）
（4）大学が独自に設定する科目　6単位（地域枠及び国際枠入学者は10単位）
（5）自由選択科目　12単位（実技系入学者は0単位、地域枠及び国際枠入学者は8単位）
（6）卒業研究　6単位

【中学校教育主免専攻】
（1）教育の基礎的理解に関する科目等　30単位
（2）教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）　16単位
（3）教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）　28単位
（4）大学が独自に設定する科目　4単位（保健体育科のみ5単位）
（5）自由選択科目　13単位（保健体育科のみ12単位）
（6）卒業研究　6単位

【発達支援専攻】
（1）教育の基礎的理解に関する科目等　28単位
（2）発達支援教育に関する科目　8単位
（3）教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）　31単位
（4）大学が独自に設定する科目　4単位
（5）自由選択科目　20単位
（6）卒業研究　6単位

【特別支援教育専攻】
（1）教育の基礎的理解に関する科目等　28単位
（2）特別支援教育に関する科目　26単位
（3）教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）　16単位
（4）大学が独自に設定する科目　4単位
（5）自由選択科目　17単位
（6）卒業研究　6単位

3．パートナー大学の開講科目の単位取得
大学設置基準第45条第1項において定められている共同学科に係る卒業の要件において、それぞれの大学で必要とされる最低取得単位数の31単位以上を踏まえ、パートナー大学の開講科目の単位取得は以下のとおりとする。なお、以下の共同科目31単位は主要授業科目として位置付けることにより、学生は卒業要件単位を満たすことで31単位以上を取得することになる。
佐賀大学：専門教育科目（卒業研究を除く。）のうち、熊本大学が開講する共同科目31単位以上
熊本大学：専門教育科目（卒業研究を除く。）のうち、佐賀大学が開講する共同科目31単位以上

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（佐賀大学教育学部共同教員養成課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	大学入門科目		大学入門科目Ⅰ	1前		2			○			1	3	1			1	
			小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			1	3	1	0	0	1	
	基本教養科目	共通基礎科目	英語A	1前		1				○							4	
			英語B	1後		1				○							4	
			英語C	2前・後		1				○							5	
			英語D	2前・後		1				○							1	
			実践日本語C	1後			1			○							1	
			実践日本語D	1前			1			○							1	
			実践日本語E	2後			1			○							1	
			実践日本語F	2前			1			○							1	
			小計（8科目）	－	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	14	
		情報リテラシー科目	情報基礎概論	1前		2			○			1						
			情報基礎演習Ⅰ	1前		1				○							2	オムニバス
			小計（2科目）	－	－	3	0	0	－			1	0	0	0	0	2	
		自然科学と技術の分野	Introduction to Science	1･2後			2		○								10	オムニバス
			物理の世界Ⅰ	1･2前			2		○								1	
			物理の世界Ⅱ	1･2後			2		○								1	
			化学の世界A	1･2後			2		○								2	オムニバス
			化学の世界B	1･2前			2		○								2	オムニバス
			実験化学A	1･2前			2		○								6	オムニバス
			実験化学B	1･2後			2		○								5	オムニバス
			地学の世界	1･2後			2		○				1					隔年
			数理の世界	1･2後			2		○								1	
			原子の発見	1･2後			2		○								1	
			情報科学の世界A	1･2前			2		○			1					1	
			情報科学の世界B	1･2前･後			2		○								2	
			機械工学の世界A	1･2後			2		○								2	オムニバス
			機械工学の世界B	1･2前			2		○								2	オムニバス
			電気電子工学の世界A	1･2前			2		○								1	
			電気電子工学の世界B	1･2後			2		○								1	
			都市と生活	1･2前			2		○								1	隔年
			インタラクティブコンテンツ入門	1･2後			2		○								1	標準外
			環境をはかる	1･2後			2		○								1	
			肥前セラミック学	1･2前			2		○								14	オムニバス・共同（一部）
			AI・数理・データサイエンスⅠ	1･2前			2		○								2	共同
			AI・数理・データサイエンスⅡ	1･2後			2		○								2	共同
			農学の世界A	1･2前			2		○								1	
			農学の世界B	1･2後			2		○								1	
			STEAM学習基礎	1･2後			2		○								1	
			生物科学の世界A	1･2前			2		○								2	オムニバス
			生物科学の世界B	1･2前			2		○								1	
			栄養科学A	1･2前			2		○								1	標準外・メディア
			栄養科学B	1･2後			2		○								1	標準外・メディア
			栄養科学C	1･2後			2		○								2	オムニバス・標準外・メディア
			生命科学の基礎A	1･2後			2		○			1					3	オムニバス
			生命科学の基礎B	1･2前			2		○								2	オムニバス
			生命科学の基礎C	1･2前			2		○								14	オムニバス・共同（一部）
			生命科学の基礎F	1･2後			2		○								3	オムニバス
			九州・沖縄学Ⅱ	1･2後			2		○								3	標準外・メディア
			やさしい電子回路	1･2後			2		○			1						
			小計（36科目）	－	－	0	72	0	－			2	1	0	0	0	78	
		文化の分野	ドイツの言語と文化Ⅰ	1･2前			2		○								1	
			ドイツの言語と文化Ⅱ	1･2後			2		○								1	
			フランスの言語と文化Ⅰ	1･2前			2		○								1	
			フランスの言語と文化Ⅱ	1･2後			2		○								1	
			中国の言語と文化Ⅰ	1･2前			2		○								1	
			中国の言語と文化Ⅱ	1･2後			2		○								1	
			韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ	1･2前			2		○								1	
			韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ	1･2後			2		○								1	
			Western Culture	1･2前			2		○								1	
			Intensive English Ⅰ	1･2前			2		○								2	
			Intensive English Ⅱ	1･2後			2		○								2	
			Academic English	1･2前			2		○								1	隔年
			Business English	1･2後			2		○								1	隔年
			アカデミック独語	1･2前･後			1		○								1	
			ドイツ文化論A	1･2前			2		○								1	隔年
			ドイツ文化論B	1･2後			2		○								1	隔年
			ドイツ文化論C	1･2前			2		○								1	隔年
			ドイツ文化論D	1･2後			2		○								1	隔年

教養教育科目	基本教養科目			日本古典文学A	1･2前			2		○			1						1	
				日本古典文学B	1･2後			2		○									1	
				欧米の文化・文学	1･2前･後			2		○									1	
			文学と芸術	ドイツ文学A	1･2前			1		○									1	
				ドイツ文学B	1･2後			1		○									1	
				芸術論	1･2前			2		○			1						1	隔年・オムニバス
				音楽史・音楽論	1･2前			2		○			1							
				日本語学	1･2前			2		○									1	
			言語と表現	コミュニケーション論	1･2前･後			2		○									2	共同・標準外・メディア
				Critical Thinking for the Modern Age	1･2前			2		○									1	
				Cultural Metaphors	1･2後			2		○									1	
				哲学・倫理学	1･2後			2		○			1							隔年
				考古学	1･2前			2		○									1	隔年
				日本史	1･2前･後			2		○									1	
				東洋史	1･2前･後			2		○									1	
				西洋史	1･2前･後			2		○			1							
				人類学	1･2前			2		○									3	オムニバス
			歴史と文化	スポーツウェルネスの世界	1･2前･後			2		○									1	
				近代サッカーの成立と進歩	1･2後			2		○									1	
				サッカーの歴史と技法	1･2前			2		○									1	
				柔道の歴史と技法	1･2後			2		○				1						
				哲学の世界	1･2後			2		○									1	
				地域史	1･2後			2		○									1	標準外・メディア
				宗教学	1･2後			2		○			1							隔年
				水中文化遺産学	1･2後			2		○									1	
			文化の分野特別講義	九州・沖縄学Ⅰ	1･2前			2		○									1	標準外・メディア
				小計（44科目）	－	－	0	85	0	－			4	1	0	0	0	25	
		現代社会の分野		経済学	1･2前･後			2		○									1	
				会計学	1･2後			2		○									1	
				経営学	1･2前			2		○									2	
				法律学	1･2前			2		○									6	オムニバス
				政治学	1･2後			2		○									1	
			基礎社会科学	日本国憲法	1･2前･後		2			○									1	
				現代社会の法と政治	1･2前			2		○			1							
				地理学	1･2前			2		○									1	
				Introduction to Sociology	1･2前			2		○									1	
				社会思想	1･2後			2		○									1	
				教育と人生	1･2後			2		○									1	
				心理学A	1･2前･後			2		○									1	
				心理学B	1･2後			2		○									1	
				健康科学A	1･2前･後			2		○									2	
				健康科学B	1･2後			2		○									2	オムニバス
				スポーツと健康	1･2前			2		○				1						
				Citizenship Education	1･2後			2		○									1	
				Life in the Global World	1･2前			2		○									1	
				情報メディアと倫理	1･2前･後			2		○									1	
			教育と人間	心の病と癒しのプロセス	1･2後			2		○			1							隔年
				心身の発達過程	1･2前			2		○									1	
				情報メディアコミュニケーション	1･2前･後			2		○									2	共同・メディア
				Aspects of Modern Society	1･2後			2		○									1	
				プレゼンテーション・デザイン	1･2前･後			2		○									1	
				現代教育学	1･2後			2		○			2	3					2	オムニバス・共同（一部）
				教育学A	1･2後			2		○									1	
				教育学B	1･2前			2		○									1	
				教育学C	1･2後			2		○									1	
				体育実技Ⅰ	1･2前･後		1				○		1	1					1	共同（一部）
				体育実技Ⅱ	1･2前･後		1				○			2					2	共同（一部）
				ジャーナリズムの現在	1･2後			2		○									1	
				アジアコミュニティ論	1･2後			2		○									1	
				知的財産学	1･2後			2		○									1	標準外・メディア
			現代社会の諸相	環境科学Ⅰ	1･2前			2		○									2	オムニバス・標準外・メディア
				環境科学Ⅲ	1･2後			2		○									2	オムニバス・標準外・メディア
				インストラクショナル・デザイン	1･2前･後			2		○									2	共同・標準外・メディア
				国際社会学	1･2後			2		○									1	
				現代日本の経済社会問題	1･2前			2		○									1	
				グローバル化と証券投資	1･2前			2		○									1	標準外
			現代社会の分野特別講義	西洋近代社会思想史	1･2前			2		○									1	
				多文化社会論	1･2前			2		○									1	
				経営工学からみたマネジメント	1･2後			2		○									1	
				金融リテラシーと生命保険	1･2後			2		○									1	
				小計（43科目）	－	－	4	80	0	－			5	5	0	0	0	41	
	基本教養科目	総合科目		海外交流実習	1･2前･後			2				○							2	標準外
				キャリアデザイン	1･2後			2		○									1	
				グループワークの技法と実践	1･2後			2			○								1	
				チャレンジ・インターンシップA	1･2前･後			2			○								1	標準外
				チャレンジ・インターンシップB	2通			2			○								1	標準外
				ライフデザインとセルフ・リーダーシップ	1･2前			2		○									1	
				Online Immersion Program	1･2前			2		○									1	標準外・メディア

教養教育科目	教養科目		Overseas Practicum	1･2後			2			○							1	標準外
			データサイエンスBasic Ⅰ	1･2後			1		○								3	共同・標準外・メディア
			データサイエンスBasic Ⅱ	1･2後			1		○								3	共同・標準外・メディア
			小計（10科目）	－	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	8	
		外国人留学生用科目	日本事情－自然科学と技術の分野	1後			2		○								1	隔年
			日本事情－文化の分野	1前			2		○								1	隔年
			日本事情－現代社会	1後			2		○								1	隔年
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	3	
	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境Ａ－Ⅰ	2前			2		○								3	オムニバス
			機械工学と環境Ａ－Ⅱ	2後			2		○								3	オムニバス
			機械工学と環境Ⅲ	3前			2		○								6	オムニバス
			機械工学と環境Ⅳ	3後			2		○								5	オムニバス・共同（一部）
			エレクトロニクスと環境Ａ－Ⅰ	2前			2		○								1	
			エレクトロニクスと環境Ａ－Ⅱ	2後			2		○								1	
			エレクトロニクスと環境Ⅲ	3前			2		○								1	
			エレクトロニクスと環境Ⅳ	3後			2		○								1	
			佐賀の環境Ａ－Ⅰ	2前			2		○								3	オムニバス
			佐賀の環境Ａ－Ⅱ	2後			2		○			1					3	共同・標準外
			佐賀の環境Ⅲ	3前			2		○								4	オムニバス
			佐賀の環境Ⅳ	3後			2		○								5	オムニバス・共同（一部）
			小計（12科目）	－	－	0	24	0	－			1	0	0	0	0	28	
		文化と共生コース	異文化交流１－Ⅰ	2前			2		○								1	
			異文化交流１－Ⅱ	2後			2		○								1	
			異文化交流Ⅲ	3前			2		○			1						
			異文化交流Ⅳ	3後			2		○								1	
			Intercultural Communication１－Ⅰ	2前			2		○								2	
			Intercultural Communication１－Ⅱ	2後			2		○								1	標準外
			Intercultural Communication Ⅲ	3前			2		○								2	
			Intercultural Communication Ⅳ	3後			2		○								2	
			肥前陶磁器産業体験Ａ－Ⅰ	2前			2		○								1	
			肥前陶磁器産業体験Ａ－Ⅱ	2前			2		○								2	共同・標準外
			肥前陶磁器産業体験Ⅲ	3前			2		○								4	共同
			肥前陶磁器産業体験Ⅳ	3後			2		○								4	共同
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅰ	2前			2		○								1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅱ	2後			2		○								1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅲ	3前			2		○								1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅳ	3後			2		○								1	
			芸術と社会Ａ－Ⅰ	2前			2		○								4	オムニバス
			芸術と社会Ａ－Ⅱ	2後			2		○								3	オムニバス・標準外
			芸術と社会Ⅲ	3前			2		○								5	オムニバス
			芸術と社会Ⅳ	3後			2		○			2					2	オムニバス
			歴史文化１－Ⅰ	2前			2		○								1	
			歴史文化１－Ⅱ	2後			2		○								1	
			歴史文化Ⅲ	3前			2		○								1	
			歴史文化Ⅳ	3後			2		○								1	
			英語コミュニケーションＡ－Ⅰ	2前			2		○								1	
			英語コミュニケーションＡ－Ⅱ	2後			2		○								1	
			英語コミュニケーションⅢ	3前			2		○								1	
			英語コミュニケーションⅣ	3後			2		○								1	
			小計（28科目）	－	－	0	56	0	－			3	0	0	0	0	30	
		生活と科学コース	未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅰ	2前			2		○								4	オムニバス
			未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅱ	2後			2		○								3	オムニバス
			未来を拓く材料の科学Ⅲ	3前			2		○								5	オムニバス
			未来を拓く材料の科学Ⅳ	3後			2		○								6	オムニバス・共同（一部）
			情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅰ	2前			2		○								2	共同
			情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅱ	2後			2		○								1	
			情報技術者キャリアデザインⅡ	3前			2		○								3	オムニバス
			情報技術者キャリアデザインⅣ	3後			2		○								1	
			２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅰ	2前			2		○								1	
			２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅱ	2後			2		○								1	
			２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅲ	3前			2		○								1	
			２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅳ	3後			2		○								1	
			食糧生産の科学Ｂ－Ⅰ	2前			2		○								1	
			食糧生産の科学Ｂ－Ⅱ	2後			2		○								4	オムニバス
			食糧生産の科学Ⅲ	3前			2		○								4	オムニバス
			食糧生産の科学Ⅳ	3後			2		○								5	オムニバス
			ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅰ	2前			2		○								4	オムニバス
			ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅱ	2後			2		○								4	オムニバス・共同（一部）

教養教育科目	インターフェース科目		ライフサイエンス・フードサイエンスⅢ	3前			2		○								5	オムニバス
			ライフサイエンス・フードサイエンスⅣ	3後			2		○								5	オムニバス
			小計（20科目）	－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	55	
		人間と社会コース	チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅰ	2前			2		○								3	共同
			チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅱ	2後			2		○				1				3	共同
			チームビルディングとリーダーシップⅢ	3前			2		○								3	共同
			チームビルディングとリーダーシップⅣ	3後			2		○								3	共同
			リサーチ・リテラシー１－Ⅰ	2前			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー１－Ⅱ	2後			2		○								1	
			リサーチ・リテラシーⅢ	3前			2		○								1	
			リサーチ・リテラシーⅣ	3後			2		○								3	
			スポーツイベントとボランティアリーダー１－Ⅰ	2前			2		○				1					
			スポーツイベントとボランティアリーダー１－Ⅱ	2後			2		○				1				1	共同
			スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ	3前			2		○				1				1	共同
			スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ	3後			2		○				1				1	共同
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅰ	2前			2		○								1	
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅱ	2後			2		○								1	
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅰ	2前			2		○			5	5	1			1	オムニバス
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅱ	2後			2		○			4	6	1			1	オムニバス
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅰ	2前			2		○				1					
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅱ	2後			2		○				1					
			小計（18科目）	－	－	0	36	0	－			8	12	2	0	0	9	
		医療・福祉と社会コース	現代社会と医療－Ⅰ	1前			2		○								1	
			現代社会と医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			食と健康－Ⅰ	1前			2		○								7	オムニバス
			食と健康－Ⅱ	1前			2		○								1	
			ライフサイクルからみた医療－Ⅰ	1前			2		○								4	オムニバス
			ライフサイクルからみた医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			患者に寄り添う医療－Ⅰ	1後			2		○								1	
			患者に寄り添う医療－Ⅱ	1後			2		○								1	
			小計（８科目）	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	15	
		地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ａ－Ⅰ	2前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化Ａ－Ⅱ	2後			2		○								1	
			佐賀の歴史文化Ⅲ	3前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化Ⅳ	3後			2		○								1	
			地域経済と社会Ａ－Ⅰ	2前			2		○								1	
			地域経済と社会Ａ－Ⅱ	2後			2		○								1	
			地域経済と社会Ⅲ	3前			2		○								1	
			地域経済と社会Ⅳ	3後			2		○								1	
			佐賀SDGsグローカルアクション１－Ⅰ	2前			2		○								4	オムニバス
			佐賀SDGsグローカルアクション１－Ⅱ	2後			2		○								3	共同
			佐賀SDGsグローカルアクションⅢ	3前			2		○								4	オムニバス
			佐賀SDGsグローカルアクションⅣ	3後			2		○								4	共同
			小計（12科目）	－	－	0	24	0	－			0	0	0	0	0	15	
		共通	インターフェース演習	3前			2			○							1	標準外
			小計（１科目）	－	－	0	2	0	－								1	
		先端的教育科目	幼小連携・小中連携教育論	2後	○	2			○			4	1	1			1	オムニバス・共同（一部）
			ＬＤ等学習指導法	2後	○	2			○				1					
			大学生の道徳・倫理	2後			2		○				1					
			教育統計	3後			2		○								1	
			小計（４科目）	－	－	4	4	0	－			4	3	1	0	0	2	
			初等国語	2前	○	1			○				1				1	オムニバス
			初等書写	2前	○	1			○				1					
			初等社会	2前	○	1			○			3	1					オムニバス
			初等算数	2前	○	1			○				1					
			初等理科	2後	○	1			○			2					2	オムニバス
			初等生活	2後	○	1			○			1	1				2	オムニバス
			初等音楽	1前	○	1			○			2	1	1				オムニバス
			小学音楽実技（ピアノ）	1前			1		○				1					
			小学音楽実技（声楽）	1前			1		○					1				
			初等図画工作	2後	○	1			○			1						
			初等家庭	1後	○	1			○			1	2				1	オムニバス
			初等体育	2前	○	1			○			1					2	オムニバス・共同（一部）
			初等外国語	2後	○	1			○				1					
			初等国語科指導法Ⅰ	2後	○	1			○			1						
			初等国語科指導法Ⅱ	1後	○	1			○			1						

専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等社会科指導法Ⅰ	2後	○	1			○			1					1	
			初等社会科指導法Ⅱ	3前	○	1			○								1	
			初等算数科指導法Ⅰ	2後	○	1			○					1				
			初等算数科指導法Ⅱ	2後	○	1			○					1				
			初等理科指導法Ⅰ	2前	○	1			○								1	
			初等理科指導法Ⅱ	2後	○	1			○								1	
			初等生活科指導法Ⅰ	3前	○	1			○				1				1	オムニバス
			初等生活科指導法Ⅱ	2後	○	1			○				2					オムニバス
			初等音楽科指導法Ⅰ	2前	○	1			○			1						
			初等音楽科指導法Ⅱ	1後	○	1			○			1						
			初等図画工作科指導法Ⅰ	2前	○	1			○			1						
			初等図画工作科指導法Ⅱ	3前	○	1			○			1						
			初等家庭科指導法Ⅰ	1後	○	1			○								1	
			初等家庭科指導法Ⅱ	2前	○	1			○								1	
			初等体育科指導法Ⅰ	2後	○	1			○				1					
			初等体育科指導法Ⅱ	2後	○	1			○				1					
			初等外国語指導法Ⅰ	3前	○	1			○				1					
			初等外国語指導法Ⅱ	2前	○	1			○				1					
			小計（33科目）	－	－	31	2	0	－			11	10	2	0	0	10	
		大学が独自に設定する科目	教育実践フィールド演習Ⅰ	1前	○		2			○		1						
			教育実践フィールド演習Ⅱ	3前	○		2			○		1						
			小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	0	
		教育の基礎的理解に関する科目	教育原理Ｂ（歴史・制度）	1前	○	1			○			1						
			教職入門	1後	○	2			○			1						
			現代の教育と社会Ｂ	1後	○	1			○			1						
			教育心理学Ａ（学習）	1前	○	1			○								1	
			特別支援教育の基礎	3前	○	1			○								1	
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の実践	2後	○	1			○				1					
			教育方法学	2前	○	1			○				1					
			生徒指導と学校カウンセリング	2後	○	2			○			1						
		教育実践に関する科目	小学校教育実習Ⅰ	3・4通	○		3				○	1						
			小学校教育実習Ⅱ	3・4通	○		2				○	1						
			幼稚園教育実習Ⅰ	3・4通			3				○	1						
			幼稚園教育実習Ⅱ	3・4通			2				○	1						
			教職実践演習（幼・小・中・高）	4通	○	2				○		1						
			小計（13科目）	－	－	12	10	0	－			3	1	0	0	0	2	
	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国語学概説Ⅰ	2前	○	2			○								1	
			国語学概説Ⅱ	2後	○	2			○								1	
			国語学演習Ⅰ	2後			2			○							1	
			国語学演習Ⅱ	3前			2			○							1	
			国語学演習Ⅲ	4前			2			○							1	
			国文学論	2前			2		○								1	
			国文学演習Ⅰ	2前			2			○							1	
			国文学演習Ⅱ	2後			2			○							1	
			国文学演習Ⅲ	3前			2			○							1	
			国文学演習Ⅳ	3後			2			○							1	
			漢文学概説Ⅰ	2後	○	2			○				1					
			漢文学演習Ⅰ	2前			2			○			1					
			漢文学演習Ⅱ	2後			2			○			1					
			漢文学演習Ⅲ	3後			2			○			1					
			書写	1後	○	2			○				1					
			書道Ⅰ	1前			2		○				1					
			書道Ⅱ	1前			2		○				1					
			書道Ⅲ	2後			2		○				1					
			書道Ⅳ	2後			2		○				1					
			書道史	1後			2		○								1	
			書論・鑑賞	2前			2		○								1	
			中等国語科指導法Ⅰ	2前	○	2			○				1					
			中等国語科指導法Ⅱ	2後	○		2		○			1						
			中等国語科指導法Ⅲ	3前	○		2		○			1						
			中等国語科指導法Ⅳ	3後	○		2		○				1					
			書道科教育法Ⅰ	2後			2			○			1					
			書道科教育法Ⅱ	3前			2			○			1					
			小計（27科目）	－	－	10	44	0	－			1	3	0	0	0	4	
		教科及び教科の指導法に関する科目（地歴科）	日本史特講Ⅱ（近現代）	1後			2		○								1	
			日本史特講Ⅲ（近世史）	2前			2		○								1	
			日本史特講Ⅳ（中世史）	2後			2		○								1	
			日本史特講Ⅴ（古代史）	2後			2		○								1	
			世界史概説	1後	○	2			○			1						
			世界史特講Ⅱ（西洋史）	2前			2		○			1						
			世界史特講Ⅲ（東南アジア史）	3後			2		○								1	
			日本史演習Ⅴ	3前			2			○							1	
			日本史演習Ⅵ	3後			2			○							1	
			西洋史演習Ⅰ	3前			2			○		1						
			西洋史演習Ⅱ	3後			2			○		1						
			西洋史演習Ⅲ	3前			2			○		1						
			西洋史演習Ⅳ	3後			2			○		1						
			自然地理学概説	2前	○	2			○				1					
			自然地理学特講Ⅱ	2後			2		○				1					
			地誌学概説	2前	○	2			○				1					
			自然地理学演習Ⅰ	3前			2			○			1					
			自然地理学演習Ⅱ	3後			2			○			1					
			自然地理学演習Ⅲ	3前			2			○			1					

			自然地理学演習Ⅳ	3後			2			○			1						
		法律学・政治学	法律学概説	1前	○	2			○			1							
			法律学特講	1後			2		○			1							
			政治学概説Ⅱ	1後			2		○									1	
			政治学特講Ⅱ	2前			2		○									1	
			法学演習Ⅰ	3前			2			○		1							
			法学演習Ⅱ	3後			2			○		1							
			法学演習Ⅲ	3前			2			○		1							
			法学演習Ⅳ	3後			2			○		1							
		社会学・経済学	社会学概説	1前			2		○									1	
			社会学特講	1後			2		○									1	
		哲学、倫理学、宗教学	倫理学概説	1後	○	2			○			1							
			哲学概説	2前			2		○									1	
			倫理学特講	2前			2		○			1							
			倫理学演習Ⅰ	3前			2			○		1							
			倫理学演習Ⅱ	3後			2			○		1							
			倫理学演習Ⅲ	3前			2			○		1							
			倫理学演習Ⅳ	3後			2			○		1							
		教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰ	2前	○	2			○									1	
			中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰ	2後	○	2			○				1						
			中等社会科指導法（社会・公民）Ⅱ	3前	○	2			○									1	
			中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅱ	3前	○	2			○			1							
			小計（41科目）	－	－	18	64	0	－			3	1	0	0	0	11		
		代数学	代数学基礎	1前	○		2		○				1						
			代数学序論	1後	○		2		○									1	
			代数学講義	2後	○		2		○									1	
		幾何学	幾何学序論	1後	○	2			○				1						
			幾何学講義	2後	○		2		○				1						
		解析学	解析学基礎	1前	○		2		○									1	
			解析学序論	1後	○		2		○									1	
			解析学概論	2前	○		2		○									1	
			解析学講義	2後	○		2		○									1	
		確率論、統計学	確率統計学基礎	2前			2		○									1	
		コンピュータ	コンピュータ	2前	○	2			○					1			1	オムニバス	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	数学特論	3後			2		○				1						
			数学研究Ⅰ	4前			2		○				1						
			数学研究Ⅱ	4後			2		○				1						
			数学教育学研究Ⅰ	4前			2		○					1					
			数学教育学研究Ⅱ	4後			2		○					1					
		教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等数学科指導法Ⅰ	2前	○	2			○					1					
			中等数学科指導法Ⅱ	2後	○	2			○									1	
			中等数学科指導法Ⅲ	3前	○	2			○									1	
			中等数学科指導法Ⅳ	3後	○	2			○					1					
			小計（20科目）	－	－	12	28	0	－			0	1	1	0	0	3		
		物理学	基礎物理学Ａ	1前	○	1			○			1							
			物理学概論Ⅰ	1前			2		○			1							
			物理学概論Ⅱ	1後			2		○			1							
			エネルギー科学	3前			2		○			1							
			量子物理	3後			2		○			1							
		化学	基礎化学Ａ	1前	○	1			○									1	
			化学概論Ⅰ	1後			2		○									1	
			化学概論Ⅱ	2前			2		○									1	
			物理化学	3前			2		○									1	
			無機・有機化学	3後			2		○									1	
		生物学	基礎生物学Ａ	1後	○	1			○			1							
			生物学概論Ⅰ	1前			2		○			1							
			生物学概論Ⅱ	1後			2		○			1							
			生命科学	3前			2		○			1							
			理科フィールド実習Ａ	1前			2				○	1	1					1	
		地学	基礎地学Ａ	1後	○	1			○				1					1	オムニバス・共同（一部）
			地学概論Ⅰ	1後			2		○									1	
			地学概論Ⅱ	2前			2		○				1						
			地球科学	3後			2		○				1					1	オムニバス
			理科フィールド実習Ｂ	1前			2				○	1	1					1	
		物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	基礎物理学実験	2前	○		1				○	1							
			基礎化学実験	2後	○		1				○							1	
			基礎生物学実験	2前	○		1				○	1							
			基礎地学実験	2後	○		1				○		1					1	オムニバス
		指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等理科指導法Ⅰ	2前	○	2			○									1	
			中等理科指導法Ⅱ	2後	○	2			○									1	
			中等理科指導法Ⅲ	3前	○	2			○									1	
			中等理科指導法Ⅳ	3後	○	2			○									1	
			小計（28科目）	－	－	12	36	0	－			2	1	0	0	0	4		
		ソルフェージュ	ソルフェージュ基礎	1前	○	1					○	1							
			ソルフェージュ応用Ａ	1後	○		1				○	1							
			ソルフェージュ展開Ⅰ	2前			1				○	1							
			ソルフェージュ展開Ⅱ	2後			1				○	1							
		声楽（合唱及び日本の	声楽基礎Ⅰ（伝統的な歌唱を含む）	1前	○	1				○				1			1	オムニバス	
			声楽基礎Ⅱ	1後	○		1			○				1					
			声楽展開Ⅰ	2前			1				○			1					
			声楽展開Ⅱ	2後			1				○			1					

	目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	伝統的な歌唱を含む。）	声楽展開Ⅲ	3前			1				○			1				
				声楽展開Ⅳ	3後			1				○			1				
				声楽展開Ⅴ	4前			1				○			1				
				声楽課題研究	4後			1				○			1				
				合唱	2後	○	1					○			1				
			器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ基礎Ⅰ	1前	○	1				○			1					
				ピアノ基礎Ⅱ	1後	○		1			○			1					
				ピアノ展開Ⅰ	2前			1				○		1					
				ピアノ展開Ⅱ	2後			1				○		1					
				ピアノ展開Ⅲ	3前			1				○		1					
				ピアノ展開Ⅳ	3後			1				○		1					
				ピアノ展開Ⅴ	4前			1				○		1					
				ピアノ課題研究	4後			1				○		1					
				器楽基礎（和楽器を含む）	1後	○	1				○		1					1	オムニバス
				器楽展開	2後			1				○	1						
				日本伝統音楽実習	4前			1				○						1	
				器楽特別演習	3後			1			○		1						
				音楽実践課題研究	4後			1			○		1						
				合奏	2後	○	1					○	1						
				伴奏法演習Ⅰ	3前	○	2				○			1					
				伴奏法演習Ⅱ	3後			1			○			1					
			指揮法	指揮法Ⅰ	3前	○	2			○			1						
				指揮法Ⅱ	3後			1		○			1						
			音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	音楽基礎理論	1前	○		2		○				1					
				日本・民族音楽概説	2前	○	2			○								1	
			指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等音楽科指導法Ⅰ	1後	○	2			○			1						
				中等音楽科指導法Ⅱ	2前	○	2			○			1						
				中等音楽科指導法Ⅲ	3前	○	2			○			1						
				中等音楽科指導法Ⅳ	3後	○	2			○			1						
				小計（37科目）	－	－	20	25	0	－			2	1	1	0	0	2	
		教科及び教科の指導法に関する科目（美術科）	彫刻	彫刻基礎	1前	○	2				○							1	
				彫刻演習	1前			2			○							1	
			デザイン（映像メディア表現を含む。）	デザイン基礎Ⅰ	2前	○	2				○							1	
				デザイン基礎Ⅱ	2後			2			○							1	
				デザイン演習Ⅰ	2前・3前			2			○							1	
				デザイン演習Ⅱ	2後・3後			2			○							1	
				デザイン演習Ⅲ	1前			2			○							1	
			工芸	工芸演習	2前			2			○		1						
			美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術史概論	2前	○	1			○								1	
			教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	造形実践演習	3前			2			○		1						
			指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等美術科指導法Ⅰ	2前	○	2			○			1						
				中等美術科指導法Ⅱ	2後	○	2			○			1						
				中等美術科指導法Ⅲ	2前	○	2				○		1						
				中等美術科指導法Ⅳ	2後	○	2				○		1						
				小計（14科目）	－	－	13	14	0	－			1	0	0	0	0	4	
		教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	体つくり運動	2後	○	1					○						1	
				器械運動	1通	○	1					○						1	
				水泳	1前	○	1					○	1						
				陸上競技	1通	○	1					○						1	
				ゴール型球技	1後	○	1					○						2	オムニバス・共同（一部）
				ネット型球技	1前	○	1					○						1	
				ベースボール型球技	1前			1				○						1	
				ダンス	1通	○	1					○						1	
				柔道	1後	○	1					○		1					
				剣道	1後			1				○						1	
				ヘルスプロモーション実習	1前			1				○						1	
			「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	運動学（バイオメカニクスを含む）	3前	○	2			○								2	オムニバス
				体育心理学	2後	○	2			○			1						
				体育原理	3前	○		2		○								1	
				体育経営管理学	1前	○		2		○								1	
				体育社会学	3前	○		2		○								1	
				トレーニング科学	1後			2		○				1					
				ヘルスプロモーション演習	1後			2		○								1	
			生理学（運動生理学を含む。）	生理学（運動生理学を含む）	1前	○	2			○				1					
				解剖学	1前			1		○				1				1	オムニバス
			学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	学校安全・救急処置	3後			2		○								1	
			指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等保健体育科指導法Ⅰ	2前	○	2			○								1	
				中等保健体育科指導法Ⅱ	2後	○	2			○								1	
				中等保健体育科指導法Ⅲ	3前	○	2			○				1					
				中等保健体育科指導法Ⅳ	3後	○	2			○				1					
				小計（25科目）	－	－	22	16	0	－			1	2	0	0	0	13	
	中等教科及び教職に関する科目																		
専門教育科目																			

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	材料加工（実習を含む。）	製図Ⅰ（実習を含む）	2③	○	1					○						1
				製図Ⅱ	2④	○	1					○						1
				金属加工Ⅰ（実習を含む）	2①	○	1					○						1
				金属加工Ⅱ	2②	○	1					○						1
			機械・電気（実習を含む。）	機械Ⅰ（実習を含む）	2①	○	1					○						1
				機械Ⅱ	2②	○	1					○						1
				機械実習	3前			2				○						1
				電気Ⅰ（実習を含む）	2①	○	1			○			1						
				電気Ⅱ	2②	○	1			○			1						
				電気実習	3前			2				○	1						
			生物育成	生物育成ⅠA（実習を含む）	2①	○	1			○									1
				生物育成ⅡA	2②			1		○									1
			情報とコンピュータ	プログラミング	3前			2		○			1						
			指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等技術科指導法Ⅱ	2後			2		○									1
				中等技術科指導法Ⅲ	3前			2		○									1
				中等技術科指導法Ⅳ	3後			2		○									1
				小計（16科目）	－	－	9	13	0	－			1	0	0	0	0	3	
		教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家庭経営学Ⅰ	3①	○	1			○									1
			被服学（被服実習を含む。）	被服学Ⅰ	1後	○	2			○				1					
				被服学Ⅱ	2後			2		○				1					
				被服学演習Ⅰ	3前			2			○			1					
				被服学演習Ⅱ	3後			2			○			1					
				被服実習	2前	○	2					○		1					
			食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学Ⅰ	1後	○	2			○				1					
				食物学Ⅱ	2前			2		○				1					
				食物学実験・実習Ⅰ	2後	○	1					○		1					
				食物学実験・実習Ⅱ	2後	○	1					○		1					
				食物学実験・実習Ⅲ	3前			2				○		1					
				食物学演習	3後			2			○			1					
			住居学	住居学Ⅰ	2前	○	2			○			1						
				住居学Ⅱ	3前			2		○			1						
				住居計画学	3前			2		○			1						
				住居学演習	3後			2			○		1						
			保育学	保育学演習Ⅰ	3後			2			○								1
			指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等家庭科指導法Ⅰ	2前	○	2			○									1
				中等家庭科指導法Ⅱ	2後	○	2			○									1
				中等家庭科指導法Ⅲ	2後	○	2			○									1
				中等家庭科指導法Ⅳ	3前	○	2			○									1
				小計（21科目）	－	－	19	20	0	－			1	2	0	0	0	2	
		教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語学	英語学	2前	○	2			○				1					
				英語学演習	2後	○		2			○			1					
				英語音声学演習	1後	○		1			○								1
				第二言語習得論	2後	○		1			○			1					
				英文法演習	3後	○		1			○			1					
			英語文学	英語文学概論	3前	○	2			○				1					
				英語文学演習Ⅰ	3前	○		2			○			1					
				英語文学演習Ⅱ	3後	○		2			○			1					
				英語文学講読Ⅰ	1前	○		2		○				1					
				英語文学講読Ⅱ	1後	○		2		○				1					
				英語文学特論	3後	○		2		○				1					
			英語コミュニケーション	英語コミュニケーション論	1後	○	2			○				1					
				英語アカデミックライティング	2後	○		2		○				1					
				英語オーラルコミュニケーションⅠ	1前	○		1		○				1					
				英語オーラルコミュニケーションⅡ	1後	○		1		○				1					
				英語アカデミックスピーキングⅠ	2前	○		1		○				1					
				英語アカデミックスピーキングⅡ	3前	○		1		○				1					
			異文化理解	英米文化事情Ⅰ	2前			2		○									1
				異文化理解演習Ⅰ	1後			2			○									1
				異文化理解論Ⅰ	3後			2		○									1
				英米文化事情Ⅱ	2後			2		○									1
				異文化理解演習Ⅱ	2後			2			○								1
				異文化理解論Ⅱ	3後			2		○									1
			指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等英語科指導法Ⅰ	2前	○	2			○				1					
				中等英語科指導法Ⅱ	2後	○	2			○				1					
				中等英語科指導法Ⅲ	3前	○	2			○				1					
				中等英語科指導法Ⅳ	3後	○	2			○				1					
				小計（27科目）	－	－	14	33	0	－			0	3	0	0	0	2	
		教育実践に関する科目		中学校教育実習Ⅰ	3通・4通	○		3				○	1						
				中学校教育実習Ⅱ	3通・4通	○		2				○	1						
				高等学校教育実習	4後			3				○	1						
				小計（3科目）	－	－	0	8	0	－			1	0	0	0	0	0	
	発達に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	日本とアメリカの教育改革	2前			2		○			1						
			道徳教育	道徳教育と学級経営	3後			2		○				1					
			心理学基礎	心理学概論	1前			2		○			1						
				心理学の研究法	3後			2		○			1						
			臨床心理学	家族支援の心理学	3後			2		○			1						
			幼小発達教育	保育観察実習	2前			2				○	2	2					
				子どもの支援Ⅰ	1通			2		○			1	2					
				特別支援教育基礎論	1前	○	2			○									1
				幼児と健康	2前			1		○			1						
				幼児と人間関係	1後			1		○				1					

専門教育科目	特別支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と環境	1後			1		○									1	
				幼児と言葉	1後			1		○				1						
				幼児と表現Ⅰ	1後			1		○			1							
				幼児と表現Ⅱ	2前			1		○			1							
			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（健康）	2前			1		○									1	
				保育内容（環境）	1後			1		○									1	
				保育内容（人間関係）	1後			1		○				1						
				保育内容（言葉）	1後			1		○				1						
				保育内容（表現Ⅰ）	1後			1		○			1							
				保育内容（表現Ⅱ）	2前			1		○			1							
				保育表現演習Ⅰ（言語表現）	2前			1			○			1						
				保育表現演習ⅠⅠ（運動表現）	2前			1			○			1						
				保育表現演習Ⅲ（造形表現）	2前			1			○		1							
				保育表現演習Ⅳ（リズム表現）	2前			1			○		1							
			教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	幼児教育と保育の原理	1前	○	2			○				1						
			幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	2前			2		○				1						
				小計（26科目）	－	－	4	32	0	－			6	5	0	0	0	4	
	特別支援教育に関する科目		特別支援教育の基礎理論に関する科目（A）	特別支援教育基礎論	1前	○	2			○									1	
			知的障害者に関する教育の領域（B）	知的障害児の心理・生理・病理	2前	○	2			○				1						
				知的障害児指導法	3前	○	2				○								1	
				知的障害児アセスメント論	3前	○	2			○					1					
				知的障害児教育総論	1後	○	2			○					1					
			病弱者に関する教育の領域（D）	病弱児の心理・生理・病理	2前	○	1			○				1						
				病弱児教育総論	2前	○	1			○									1	
				病弱児指導法	2後	○	2			○									1	
			免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の免許に関する科目（E）	発達障害児教育総論	2後	○	2			○					1					
				発達障害児脳科学論	3後	○	1			○				1						
				視覚障害児の心理・生理・病理	1前			2		○									2	オムニバス
				聴覚障害児の心理・生理・病理	3後			2		○									1	
				重複障害児教育総論	2後	○	2			○									1	
				ギフテッド・2E教育論	4前			2		○					1					
			心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習（F）	障害児教育実習	3後	○	3					○	1							
				小計（20科目）	－	－	24	11	0	－			1	1	1	0	0	4	
	卒業研究				―	○	4				○		1							
合計（599科目）					－	－	239	822	0	－			14	17	3	0	0	292	

学位又は称号	学士（教育学）	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
4年以上在学し、教養教育科目及び専門教育科目において、以下のとおり単位を修得した者を卒業とする。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

1．教養教育科目

佐賀大学：教養教育科目　27単位以上
（1）大学入門科目　2単位
（2）共通基礎科目　7単位以上
（3）基本教養科目　10単位以上
（4）インターフェース科目　8単位以上

2．専門教育科目
専門教育科目の卒業要件は、専攻毎に以下のとおりとする。

佐賀大学100単位
【小学校教育主免専攻】
（1）先端的教育科目　6単位
（2）初等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　31単位
②大学が独自に設定する科目　4単位
③教育の基礎的理解に関する科目
④道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　③～⑤の合計28単位
⑤教育実践に関する科目
（3）中等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　12～22単位
②教育の基礎的理解に関する科目
③道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　②～④の合計3単位
④教育実践に関する科目
（4）自由選択科目　2～12単位（所属教科により異なる）
（5）卒業研究　4単位

【中学校教育主免専攻】
（１）先端的教育科目　６単位
（２）初等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　16単位
②大学が独自に設定する科目　４単位
③教育の基礎的理解に関する科目
④道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　③～⑤の合計26単位
⑤教育実践に関する科目
（３）中等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　28～31単位
②教育の基礎的理解に関する科目
③道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　②～④の合計５単位
④教育実践に関する科目
（４）自由選択科目　８～11単位（所属教科により異なる）
（５）卒業研究　４単位

【発達支援専攻】
（１）先端的教育科目　６単位
（２）初等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　31単位
②大学が独自に設定する科目　４単位
③教育の基礎的理解に関する科目
④道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　③～⑤の合計28単位
⑤教育実践に関する科目
（３）発達支援に関する科目　24単位
（４）自由選択科目　3単位
（５）卒業研究　４単位

【特別支援教育専攻】
（１）先端的教育科目　６単位
（２）初等教科及び教職に関する科目
①教科及び教科の指導法に関する科目　31単位
②大学が独自に設定する科目　４単位
③教育の基礎的理解に関する科目
④道徳、総合的な学習の時間等に関する科目　③～⑤の合計28単位
⑤教育実践に関する科目
（３）特別支援教育に関する科目　26単位
（４）自由選択科目　1単位
（５）卒業研究　４単位

３．パートナー大学の開講科目の単位取得
大学設置基準第45条第1項において定められている共同学科に係る卒業の要件において、それぞれの大学で必要とされる最低取得単位数の31単位以上を踏まえ、パートナー大学の開講科目の単位取得は以下のとおりとする。なお、以下の共同科目31単位は主要授業科目として位置付けることにより、学生は卒業要件単位を満たすことで31単位以上を取得することになる。
佐賀大学：専門教育科目（卒業研究を除く。）のうち、熊本大学が開講する共同科目31単位以上
熊本大学：専門教育科目（卒業研究を除く。）のうち、佐賀大学が開講する共同科目31単位以上

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（【既設】熊本大学教育学部学校教育教員養成課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
	文系のための数学入門(A)	1･2後			2		○								1	
	文系のための数学入門(B)	1･2後			2		○								1	
	文系のための数学入門(C)	2後			2		○								1	
	文系のための数学入門(a)	1･2②			1		○								1	
	数学の世界(A)	1･2前			2		○								1	
	数学の世界(B)	1･2前			2		○								1	
	数学の世界(a)	1･2②			1		○								1	
	数学の世界(b)	1･2③			1		○								1	
	数学の世界(c)	1･2①			1		○								1	
	物理学入門(A)	1･2後			2		○								1	
	物理学入門(B)	1･2②			2		○								1	
	物理学入門(a)	1･2③			1		○								1	
	物理学入門(b)	1･2④			1		○								1	
	物理学入門(c)	1･2③			1		○								1	
	物理学入門(d)	1･2④			1		○								1	
	物理学入門(e)	1･2④			1		○				1					
	物理学入門(f)	1･2①･③			1		○								1	
	物理学入門(g)	1･2③			1		○								1	
	物理学入門(h)	1･2③			1		○								1	
	物理学入門(i)	1･2④			1		○								1	
	物理学入門(j)	1･2④			1		○								1	
	教養の化学(A)	1･2前			2		○								1	
	教養の化学(B)	1･2①			2		○								1	
	教養の化学(a)	1･2①			1		○								1	
	教養の化学(b)	1･2②			1		○								1	
	教養の化学(c)	1･2③			1		○				1					
	教養の化学(d)	1･2④			1		○				1					
	教養の化学(e)	1･2①			1		○								1	
	教養の化学(f)	1･2②			1		○								1	
	教養の化学(g)	1･2②			1		○								1	
	教養の化学(h)	1･2③			1		○								1	
	生物の世界(A)	1･2後			2		○								1	
	生物の世界(B)	1･2③			2		○								1	
	生物の世界(C)	1･2後			2		○								1	
	生物の世界(D)	1･2③			2		○								1	
	生物の世界(a)	1･2④			1		○								1	
	生物の世界(b)	1･2③			1		○								1	
	生物の世界(c)	1･2①			1		○								1	
	生物の世界(d)	1･2③			1		○								1	
	生物の世界(e)	1･2①			1		○								1	
	生物の世界(f)	1･2③			1		○								1	
	生物の世界(g)	1･2②			1		○								1	
	生物の世界(h)	1･2③			1		○								1	
	生物の世界(i)	1･2①			1		○								1	
	生物の世界(j)	1･2④			1		○								1	
	生物の世界(k)	1･2②			1		○								1	
	地球環境の現状と人類(A)	1･2前			2		○								1	
	地球環境の現状と人類(a)	1･2①			1		○								1	
	地球環境の現状と人類(b)	1･2②			1		○								1	
	持続可能な都市と地域づくり(A)	1･2前			2		○								1	
	持続可能な都市と地域づくり(B)	1･2後			2		○								1	
	豊かさを持続させるものづくり(A)	1･2①			2		○								1	
	豊かさを持続させるものづくり(B)	1･2後			2		○								1	
	豊かさを持続させるものづくり(C)	1･2③			2		○								1	
	日々の生活に垣間見る情報と通信(A)	1･2②			2		○								1	
	日々の生活に垣間見る情報と通信(B)	1･2①			2		○								1	
	倫理学入門(A)	1･2後			2		○								1	
	倫理学入門(B)	1･2後			2		○								1	
	倫理学入門(C)	1･2後			2		○								1	
	倫理学入門(D)	1･2後			2		○								1	
	倫理学入門(E)	1･2後			2		○								1	
	倫理学入門(F)	1･2後			2		○								1	
	倫理学入門(a)	1･2②			1		○								1	
	倫理学入門(b)	1･2④			1		○								1	
	倫理学入門(c)	1･2①			1		○								1	
	倫理学入門(d)	1･2②			1		○								1	
	倫理学入門(e)	1･2①			1		○								1	
	倫理学入門(f)	1･2②			1		○								1	
	倫理学入門(g)	1･2①			1		○								1	
	倫理学入門(h)	1･2②			1		○								1	
	倫理学入門(i)	1･2①			1		○			1						

		倫理学入門(j)	1･2②			1	○			1						1			
		倫理学入門(k)	1･2①			1	○									1			
		倫理学入門(l)	1･2②			1	○									1			
		心と世界(A)	1･2後			2	○									1			
		心と世界(B)	1･2前			2	○									1			
		思考と論理(A)	1･2後			2	○									1			
		思考と論理(B)	1･2前			2	○									1			
		現代心理行動学(a)	1･2②			1	○			1									
		現代心理行動学(b)	1･2①			1	○				1								
		現代心理行動学(c)	1･2②			1	○									1			
		現代心理行動学(d)	1･2③			1	○									1			
		現代心理行動学(e)	1･2④			1	○									1			
		現代心理行動学(f)	1･2②			1	○									1			
		現代心理行動学(g)	1･2④			1	○									1			
		こころの科学(A)	1･2後			2	○			1									
		芸術文化論(A)	1･2前			2	○				1								
		芸術文化論(B)	1･2後			2	○									1			
		言語の諸相(a)	1･2②			1	○									1			
		言語の諸相(b)	1･2③			1	○									1			
		言語の諸相(c)	1･2③			1	○									1			
		言語の諸相(d)	1･2④			1	○									1			
		文学の諸相(a)	1･2②			1	○				1								
		文学の諸相(b)	1･2②			1	○									1			
		文学の諸相(c)	1･2③			1	○									1			
		文学の諸相(d)	1･2④			1	○									1			
		文学の諸相(e)	1･2①			1	○									1			
		モノが語る歴史(a)	1･2①			1	○									1			
		モノが語る歴史(b)	1･2②			1	○									1			
		モノが語る歴史(c)	1･2①			1	○									1			
		モノが語る歴史(d)	1･2②			1	○									1			
		モノが語る歴史(e)	1･2③			1	○									1			
		モノが語る歴史(f)	1･2④			1	○									1			
		地域の世界史(A)	1･2前			2	○									1			
		地域の世界史(a)	1･2①			1	○									1			
		地域の世界史(b)	1･2②			1	○									1			
		地域の世界史(c)	1･2①			1	○									1			
		地域の世界史(d)	1･2②			1	○									1			
		地域の世界史(e)	1･2①			1	○									1			
		地域の世界史(f)	1･2②			1	○									1			
		地域の世界史(g)	1･2①			1	○									1			
		地域の世界史(h)	1･2②			1	○									1			
		地域の世界史(i)	1･2③			1	○									1			
		地域の世界史(j)	1･2④			1	○									1			
		地域の世界史(k)	1･2①			1	○									1			
		地域の世界史(l)	1･2②			1	○									1			
		日本社会の歴史(A)	1･2④			1	○			1									
		日本社会の歴史(b)	1･2④			1	○									1			
		日本社会の歴史(c)	1･2④			1	○									1			
		日本社会の歴史(d)	1･2③			1	○									1			
		日本社会の歴史(e)	1･2④			1	○									1			
		日本社会の歴史(f)	1･2②			1	○									1			
		日本社会の歴史(g)	1･2③			1	○									1			
		日本社会の歴史(h)	1･2④			1	○									1			
		法学の基礎(A)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(B)	1･2④			2	○									1			
		法学の基礎(C)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(D)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(E)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(F)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(G)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(H)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(I)	1･2後			2	○									1			
		法学の基礎(J)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(K)	1･2前			2	○									1			
		法学の基礎(a)	1･2①			1	○									1			
		現代経済問題の諸相(a)	1･2①			1	○									1			
		現代政治の諸相(A)	1･2後			2	○									1			
		現代政治の諸相(B)	1･2前			2	○									1			
		現代政治の諸相(C)	1･2後			2	○									1			
		現代政治の諸相(a)	1･2②			1	○									1			
		現代政治の諸相(b)	1･2②			1	○									1			
		現代政治の諸相(c)	1･2①			1	○									1			
		現代政治の諸相(d)	1･2③			1	○									1			
		現代政治の諸相(e)	1･2④			1	○									1			
		現代政治の諸相(g)	1･2③			1	○									1			
		最前線の社会文化研究(A)	1･2前			2	○									1			
		最前線の社会文化研究(B)	1･2前			2	○									1			
		最前線の社会文化研究(C)	1･2前			2	○									1			
		最前線の社会文化研究(D)	1･2前			2	○									1			
		最前線の社会文化研究(E)	1･2前			2	○									1			
		最前線の社会文化研究(a)	1･2①			1	○									1			
		最前線の社会文化研究(b)	1･2②			1	○									1			

リベラルアーツ科目

	最前線の社会文化研究(c)	1･2①			1		○									1
	最前線の社会文化研究(d)	1･2②			1		○									1
	最前線の社会文化研究(e)	1･2①			1		○									1
	最前線の社会文化研究(f)	1･2④			1		○									1
	最前線の社会文化研究(g)	1･2①			1		○									1
	最前線の社会文化研究(h)	1･2②			1		○									1
	最前線の社会文化研究(i)	1･2①			1		○									1
	最前線の社会文化研究(j)	1･2②			1		○									1
	最前線の社会文化研究(k)	1･2③			1		○									1
	最前線の社会文化研究(l)	1･2③			1		○									1
	最前線の社会文化研究(m)	1･2④			1		○									1
	最前線の社会文化研究(n)	1･2④			1		○									1
	最前線の社会文化研究(o)	1･2①			1		○									1
	現代社会の解読(a)	1･2③			1		○									1
	現代社会の解読(b)	1･2④			1		○									1
	現代社会の解読(c)	1･2①			1		○									1
	現代社会の解読(d)	1･2③			1		○									1
	現代社会の解読(e)	1･2③			1		○									1
	現代社会の解読(f)	1･2④			1		○									1
	現代社会の解読(g)	1･2③			1		○									1
	現代社会の解読(h)	1･2④			1		○									1
	現代社会の解読(i)	1･2④			1		○									1
	自然と人間の地理学(A)	1･2①			2		○									1
	自然と人間の地理学(B)	1･2①			2		○									1
	自然と人間の地理学(C)	1･2①			2		○									1
	自然と人間の地理学(a)	1･2①			1		○									1
	自然と人間の地理学(b)	1･2③			1		○									1
	自然と人間の地理学(c)	1･2①			1		○									1
	自然と人間の地理学(d)	1･2④			1		○									1
	自然と人間の地理学(e)	1･2③			1		○									1
	自然と人間の地理学(f)	1･2③			1		○				1					
	小計（184科目）	－	－	0	241	0	－			4	6	0	0	0	78	
	数学と文化(a)	1･2①			1		○									1
	数学と文化(b)	1･2②			1		○									1
	数学と文化(c)	1･2①			1		○				1					
	数学と文化(d)	1･2②			1		○									1
	物理学の世界(A)	1･2④			2		○									1
	物理学の世界(a)	1･2②			1		○									1
	暮らしと化学(A)	1･2後			2		○									1
	暮らしと化学(B)	1･2④			2		○									1
	暮らしと化学(C)	1･2④			2		○			1						
	暮らしと化学(D)	1･2前			2		○									1
	暮らしと化学(E)	1･2後			2		○									1
	暮らしと化学(F)	1･2後			2		○									1
	暮らしと化学(G)	1･2後			2		○									1
	暮らしと化学(H)	1･2前			2		○									1
	暮らしと化学(a)	1･2①			1		○									1
	暮らしと化学(b)	1･2②			1		○									1
	暮らしと化学(c)	1･2①			1		○									1
	暮らしと化学(d)	1･2②			1		○									1
	化学と環境(A)	1･2後			2		○									1
	化学と環境(B)	1･2②			2		○									1
	化学と環境(C)	1･2③			2		○									1
	化学と環境(a)	1･2①			1		○									1
	化学と環境(b)	1･2②･④			1		○									1
	最先端の生命科学(A)	1･2後			2		○									1
	最先端の生命科学(a)	1･2③			1		○									1
	最先端の生命科学(b)	1･2④			1		○									1
	最先端の生命科学(c)	1･2③			1		○									1
	最先端の生命科学(d)	1･2③			1		○									1
	最先端の生命科学(e)	1･2②			1		○									1
	最先端の生命科学(f)	1･2②			1		○									1
	最先端の生命科学(g)	1･2③			1		○			1						
	地球環境科学の最前線(A)	1･2②			2		○									1
	地球環境科学の最前線(a)	1･2①･③			1		○									1
	地球環境科学の最前線(b)	1･2②･④			1		○									1
	地球環境科学の最前線(c)	1･2③			1		○									1
	地球環境科学の最前線(d)	1･2④			1		○									1
	地球環境科学の最前線(e)	1･2③			1		○									1
	地球環境科学の最前線(f)	1･2④			1		○									1
	地球環境科学の最前線(g)	1･2①			1		○									1
	地球環境科学の最前線(h)	1･2②			1		○									1
	地域づくりと科学技術(A)	1･2後			2		○									1
	地域づくりと科学技術(B)	1･2①			2		○									1
	地域づくりと科学技術(C)	1･2後			2		○									1
	地域づくりと科学技術(D)	1･2③			2		○									1
	地域づくりと科学技術(E)	1･2②			2		○									1
	地域づくりと科学技術(F)	1･2前			2		○									1
	地域づくりと科学技術(G)	1･2後			2		○									1
	ものづくりの科学と技術(A)	1･2①			2		○									1
	ものづくりの科学と技術(B)	1･2①			2		○									1
	ものづくりの科学と技術(C)	1･2②			2		○									1
	ものづくりの科学と技術(D)	1･2後			2		○									1

| | | |

	現代世界の形成と課題(b)	1･2③			1		○									1
	現代世界の形成と課題(c)	1･2④			1		○									1
	現代世界の形成と課題(d)	1･2①			1		○									1
	現代世界の形成と課題(e)	1･2②			1		○									1
	現代世界の形成と課題(f)	1･2③			1		○									1
	現代世界の形成と課題(g)	1･2②			1		○									1
	暮らしの中の憲法	2前･後		2			○									1
	最先端の法学(A)	1･2②			2		○									1
	最先端の法学(B)	1･2後			2		○									1
	最先端の法学(C)	1･2前			2		○									1
	最先端の法学(D)	1･2後			2		○									1
	現代社会と経済(A)	1･2後			2		○									1
	現代社会と経済(B)	1･2前			2		○									1
	現代社会と経済(a)	1･2③			1		○									1
	現代社会と経済(b)	1･2④			1		○									1
	現代社会と経済(c)	1･2②			1		○									1
	現代社会と経済(d)	1･2③			1		○									1
	現代社会と経済(e)	1･2④			1		○									1
	現代社会と経済(f)	1･2①			1		○									1
	現代社会と経済(g)	1･2④			1		○				1					
	現代社会と経済(h)	1･2②			1		○									1
	現代社会と経済(i)	1･2①			1		○									1
	現代社会と経済(j)	1･2④			1		○									1
	現代社会と経済(k)	1･2①			1		○									1
	現代の政治(A)	1･2前			2		○									1
	現代の政治(a)	1･2③			1		○									1
	現代の政治(b)	1･2①			1		○									1
	現代の政治(c)	1･2③			1		○									1
	現代の政治(d)	1･2②④			1		○									1
	現代の政治(e)	1･2②			1		○									1
	学際科目1	1･2前･後			1		○									2
	学際科目2	1･2②			1		○									1
	学際科目3	1･2③			1		○									1
	学際科目4	1･2③			1		○									1
	学際科目5	1･2③			1		○									1
	学際科目31	1･2前			2		○									1
	学際科目32	1･2前			2		○									1
	学際科目33	1･2後			2		○									1
	学際科目34	1･2後			2		○									1
	日本事情(C)	1･2前			2		○									1
	日本事情(D)	1･2後			2		○									1
	小計（174科目）	－	－	2	252	0	－			7	13	0	0	0	96	
Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology Ⅰ(a)	1･2①			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅰ(b)	1･2③			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅰ(c)	1･2④			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅰ(d)	1･2①･②･③			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅰ(e)	1･2①･②･③			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅰ(f)	1･2④			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅰ(g)	1･2③			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅱ(a)	1･2③			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅱ(b)	1･2①･②･④			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅱ(c)	1･2①･②･④			1		○									1
	Introduction to Science and Technology Ⅱ(d)	1･2③			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(A)	1･2前･後			2		○									1
	Socio-Cultural Studies(D)	1･2前･後			2		○									1
	Socio-Cultural Studies(b)	1･2②･④			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(c)	1･2①･③			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(d)	1･2④			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(e)	1･2②･④			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(f)	1･2①･③			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(g)	1･2②･④			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(h)	1･2前･後			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(i)	1･2①			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(j)	1･2①			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(k)	1･2②			1		○									1
	Socio-Cultural Studies(l)	1･2④			1		○									1
	Statistics(a)	1･2前･後			1		○									1
	Basic Economics(a)	1･2前･後			1		○									1
	Basic Economics(b)	1･2後			1		○									1
	Visual Media(A)	1･2前･後			2		○									1
	Music and Humanity(a)	1･2①②④			1		○									1
	World History(a)	1･2①･②･③･④			1		○									1
	World History(b)	1･2①･②･③･④			1		○									1
	World History(c)	1･2①･②･④			1		○									1
	Academic Foundations(a)	1･2前･後			1		○									1
	Area Studies(a)	1･2①･②･③･④			1		○									1
	Area Studies(b)	1･2①･②･③･④			1		○									1
	Area Studies(c)	1･2①･③･④			1		○									1
	Area Studies(d)	1･2①･④			1		○									1
	Area Studies(E)	1･2②			2		○									1
	Area Studies(e)	1･2②			1		○									1
	Area Studies(f)	1･2①･②･③･④			1		○									1
	Area Studies(g)	1･2③･④			1		○									1

		Area Studies(h)	1･2①･②･③･④			1		○										1
		Area Studies(i)	1･2①･③･④			1		○										1
		Area Studies(j)	1･2②			1		○										1
		Area Studies(k)	1･2②			1		○										1
		Area Studies(l)	1･2①･③			1		○										1
		Comprehensive English Communication (a)	1･2①･②･③･④			1		○										1
		Technical English Communication(a)	1･2①･②･④			1		○										1
		Technical English Communication(b)	1･2①			1		○										1
		Technical English Communication(c)	1･2①･④			1		○										1
		Technical English Communication(d)	1･2②･③			1		○										1
		Technical English Communication(e)	1･2①			1		○										1
		Technical English Communication(E)	1･2前			2		○										1
		Technical English Communication(f)	1･2②･③			1		○										1
		Technical English Communication(g)	1･2①･③			1		○										1
		Technical English Communication(h)	1･2①･②･③･④			1		○										1
		Global Career Development(a)	1･2①･②･③			1		○										1
		Global Career Development(b)	1･2④			1		○										1
		小計（58科目）	－	－	0	63	0	－			0	0	0	0	0	9		
		英語A-1	1前･後		1				○		1	1						
		英語A-2	1前･後		1				○		2							
		英語B-1	1前･後		1				○							1		
		英語B-2	1前･後		1				○		2							
		英語C-1	2前		1				○		1	1						
		英語C-2	2後		1				○		1							
		英語D-1	2前			1			○							1		
		英語D-2	2後			1			○							1		
		ドイツ語A-1	1前			1			○							1		
		ドイツ語A-2	1後			1			○							1		
		ドイツ語B-1	1前			1			○							1		
		ドイツ語B-2	1後			1			○							1		
		ドイツ語C-1	2前			1			○							1		
		ドイツ語C-2	2後			1			○							1		
		ドイツ語D-1	2前			1			○							1		
		ドイツ語D-2	2後			1			○							1		
		ドイツ語a-1	1前			1			○							1		
		ドイツ語a-2	1後			1			○							1		
		フランス語A-1	1前			1			○							1		
		フランス語A-2	1後			1			○							1		
		フランス語B-1	1前			1			○							1		
		フランス語B-2	1後			1			○							1		
		フランス語C-1	2前			1			○							1		
		フランス語C-2	2後			1			○							1		
		フランス語D-1	2前			1			○							1		
		フランス語D-2	2後			1			○							1		
		フランス語a-1	1前			1			○							1		
		フランス語a-2	1後			1			○							1		
		中国語A-1	1前			1			○		2							
		中国語A-2	1後			1			○		2							
		中国語B-1	1前			1			○		2							
		中国語B-2	1後			1			○		2							
		中国語C-1	2前			1			○		2							
		中国語C-2	2後			1			○		2							
		中国語D-1	2前			1			○							1		
		中国語D-2	2後			1			○							1		
		中国語a-1	1前			1			○							1		
		中国語a-2	1後			1			○							1		
		コリア語A-1	1前			1			○							1		
		コリア語A-2	1後			1			○							1		
		コリア語B-1	1前			1			○							1		
		コリア語B-2	1後			1			○							1		
		コリア語C-1	2前			1			○							1		
		コリア語C-2	2後			1			○							1		
		コリア語D-1	2前			1			○							1		
		コリア語D-2	2後			1			○							1		
		コリア語a-1	1前			1			○							1		
		コリア語a-2	1後			1			○							1		
	外国語科目	日本語A-1	1･2前			1			○							1		
		日本語A-2	1･2前･後			1			○							1		
		日本語B-1	1･2前			1			○							1		
		日本語B-2	1･2後			1			○							1		
		日本語C-1	1･2前			1			○							1		
		日本語C-2	1･2後			1			○							1		
		日本語D-1	1･2前			1			○							1		
		日本語D-2	1･2後			1			○							1		
		英語Ⅰ-1	1前			1			○							1		
		英語Ⅰ-2	1後			1			○							1		
		英語Ⅱ-1	2前			1			○							1		
		ドイツ語Ⅰ-1	1前			1			○							1		
		ドイツ語Ⅰ-2	1後			1			○							1		
		ドイツ語Ⅱ-1	2前			1			○							1		
		ドイツ語Ⅱ-2	2後			1			○							1		
		ドイツ語Ⅲ-1	2前			1			○							1		
		ドイツ語Ⅲ-2	2後			1			○							1		

	基礎科目	フランス語Ⅰ-1	1前			1			○								1
		フランス語Ⅰ-2	1後			1			○								1
		フランス語Ⅱ-1	1・2前			1			○								1
		フランス語Ⅱ-2	1・2後			1			○								1
		フランス語Ⅲ-1	2前			1			○								1
		フランス語Ⅲ-2	2後			1			○								1
		中国語Ⅰ-1	1前			1			○		1						
		中国語Ⅰ-2	1後			1			○		1						
		中国語Ⅱ-1	2前			1			○		1						
		中国語Ⅱ-2	2後			1			○		1						
		中国語Ⅲ-1	2前			1			○								1
		中国語Ⅲ-2	2後			1			○								1
		コリア語Ⅰ-1	1前			1			○								1
		コリア語Ⅰ-2	1後			1			○								1
		コリア語Ⅱ-1	2前			1			○								1
		コリア語Ⅱ-2	2後			1			○								1
		ロシア語Ⅰ-1	1前			1			○								1
		ロシア語Ⅰ-2	1後			1			○								1
		スペイン語Ⅰ-1	1前			1			○								1
		スペイン語Ⅰ-2	1後			1			○								1
		スペイン語Ⅱ-1	2前			1			○								1
		スペイン語Ⅱ-2	2後			1			○								1
		イタリア語Ⅰ-1	1前			1			○								1
		イタリア語Ⅰ-2	1後			1			○								1
		ラテン語Ⅰ-1	1前			1			○								1
		ラテン語Ⅰ-2	1後			1			○								1
		ヘブライ語Ⅰ-1	1前			1			○								1
		ヘブライ語Ⅰ-2	1後			1			○								1
		日本語Ⅰ-1	2前			1			○								1
		日本語Ⅰ-2	1・2前・後			1			○								1
		日本語Ⅱ-1	1・2前			1			○								1
		日本語Ⅱ-2	1・2前・後			1			○								1
		日本語Ⅲ-1	1・2前			1			○								1
		日本語Ⅲ-2	1・2前・後			1			○								1
		日本語Ⅳ-1	1前			1			○								1
		日本語Ⅳ-2	1・2前・後			1			○								1
		小計（101科目）	－	－	6	95	0		－		4	1	0	0	0	26
	情報科目	情報基礎A	1前		1				○								1
		情報基礎B	1後		1				○								1
		情報処理概論	2③			1			○								1
		DSリテラシー	1・2後			2			○								1
		小計（4科目）	－	－	2	3	0		－		0	0	0	0	0	1
	肥後熊本学		1①・②・③・④		1			○			0	0	0	0	0	1
	理系基礎科目	微分積分I	1前			2		○								1
		微分積分II	1後			2		○								1
		線形代数I	1前			2		○								1
		線形代数II	1後			2		○								1
		数学概論	1前			2		○								1
		統計学I	2前			2		○								1
		統計学II	2後			2		○								1
		統計学概論	1・2後			2		○								1
		物理学I	1前			2		○								1
		物理学II	1後			2		○								1
		物理学	1前			2		○								1
		物理学基盤実験	1・2①・②・③・④			1				○						1
		化学I	1前			2		○								1
		化学II	1後			2		○								1
		化学基盤実験	1・2①・②・③・④			1				○						1
		生物学I	1前			2		○								1
		生物学II	1後			2		○								1
		生物学基盤実験	1・2①・②・③・④			1				○						1
		地学I	1前			2		○								1
		地学II	1後			2		○								1
		地学基盤実験	1・2①・②・③・④			1				○						1
		小計（21科目）	－	－	0	38	0		－		0	0	0	0	0	17
	体育・スポーツ科学		1前・後			2		○								1
	体育・スポーツ科学(a)		1・2①・②・③・④		1			○			2	1				
	体育・スポーツ科学(b)		1・2①・②・③・④		1			○			2	1				
	小計（129科目）		－	－	11	136	0		－		17	21	0	0	0	45
キ		キャリア科目１	1・2前			2		○								1
		キャリア科目２	1・2後			2		○								1
		キャリア科目３	1・2後			2		○			1					
		キャリア科目４	1・2後			2		○								1
		キャリア科目５	1・2後			2		○								1
		キャリア科目６	1・2前			2		○								1
		キャリア科目７	1・2後			2		○								1
		キャリア科目８	1・2前			2		○								1
		キャリア科目９	1・2前			2		○								1
		キャリア科目１０	1・2前・後			2		○								1
		キャリア科目１１	1・2前			2		○								1
		キャリア科目１２	1・2後			2		○								1
		キャリア科目１３	1・2前			2		○								1
		キャリア科目１４	1・2後			2		○								1

		キャリア科目	キャリア科目１５	1･2前			2		○									1	
			キャリア科目１６	1･2後			2		○									1	
			キャリア科目１７	1･2後			2		○			1							
			キャリア科目５１	1･2前･後			1		○									1	
			キャリア科目５２	1･2①			1		○									1	
			キャリア科目５３	1･2前･後			1		○									1	
			キャリア科目５４	1･2②			1		○									1	
			キャリア科目５５	1･2③			1		○									1	
			キャリア科目５６	1･2②			1		○									1	
			キャリア科目５７	1･2③			1		○									1	
			キャリア科目５８	1･2前			1		○									1	
			キャリア科目５９	1･2②			1		○									1	
			キャリア科目６０	1･2③			1		○									1	
			キャリア科目６１	1･2③			1		○									1	
			キャリア科目６２	1･2③			1		○				1						
			キャリア科目６３	1･2②･③			1		○									1	
			小計（30科目）	－	－	0	47	0	－			2	1	0	0	0	18	
		開放科目	開放科目１	1･2前			2		○			1							
			開放科目２	1･2前			2		○									1	
			開放科目３	1･2後			2		○									1	
			開放科目４	1･2後			2		○									1	
			開放科目５	1･2前			2		○									1	
			開放科目６	1･2後			2		○									1	
			開放科目７	1･2前			1		○									1	
			開放科目８	1･2前			2		○									1	
			開放科目９	1･2後			1		○									1	
			開放科目１０	1･2前			1		○									1	
			開放科目１１	1･2後			2		○									1	
			開放科目１２	1･2①			2		○									1	
			開放科目１３	1･2前			1		○									1	
			開放科目１４	1･2前･後			1		○									1	
			開放科目１５	1･2後			2		○									1	
			開放科目１６	1･2後			2		○									1	
			開放科目１７	1･2後			2		○									1	
			開放科目１８	1･2前			3		○									1	
			開放科目１９	1･2②			1		○									1	
			小計（19科目）	－	－	0	33	0	－			1	0	0	0	0	13	
			小計（596科目）	－	－	13	776	0	－			17	21	0	0	0	221	
	専門基礎科目	英語専攻	英語コミュニケーションⅠ	1後	○	2				○			1					
			英語コミュニケーションⅡ	1前	○	2				○			1					
			小計（2科目）	－	－	4	0	0	－			0	2	0	0	0	0	
		養護教育コース	化学	1前	○	1			○				1					
		小計（3科目）		－	－	5	0	0	－			0	3	0	0	0	0	
		教育の基礎的理解に関する科目等	教職入門	1後	○	2			○				2					
			教育学概論	1前	○	2			○			1	1					
			教育心理学	1前	○	2			○			2						
			教育思想	3前	○		2		○				1					
			教育史	3前	○		2		○								1	
			人権教育論	3④	○		2		○				1					
			教職保健	4後	○		2		○			2	1					オムニバス
			教育社会学	3④	○		2		○				1					
			学校経営学	3④	○		2		○				1					
			学校教育と生涯学習	3前	○		2		○			1						
			特別支援教育原理	3前	○	2			○			2	2					オムニバス
			教育課程基礎論（特別活動及び総合的な学習の時間の指導を含む）	2前	○	2			○				2				1	オムニバス
			道徳教育の理論と実践	2後	○	2			○				2					
			教育方法・技術	2前	○	2			○			1	1					
			教育とICT活用	2①・②・③・④	○	1			○			1					1	
			教育評価	3後			2		○				1					
			生徒指導の理論と方法	2後	○	2			○			2						
			教育相談とキャリア教育	2後	○	2			○				2					
			事前・事後指導	3後･4前	○	1					○	3	11	1				
			初等教育実習Ⅰ	3後	○	2					○	3	11	1				
			初等教育実習Ⅱ	3後	○	2					○	3	11	1				
			中等教育実習Ⅰ	3後	○	2					○	3	11	1				
			中等教育実習Ⅱ	3後･4前	○	2					○	3	11	1				
			教職実践演習(幼・小)	4通	○	2				○		7	8					
			教職実践演習(中・高)	4通	○	2				○		6	7					
			教職実践演習(養護教諭)	4通	○	2				○							1	
			障害児教育実習	3後	○	3					○	3	11	1				
			養護実習	3後･4前	○	5					○	3	11	1				
			小計（28科目）	－	－	42	16	0	－			18	23	1	0	0	4	
		教科及び教科の指導法 教科に関する専門的事項	初等国語	2③・④	○	1			○			1	1				1	オムニバス
			初等社会	2①・②	○	1			○			1	2					オムニバス
			算数	3①・②	○	1			○			1	3					
			初等理科	2①・②	○	1			○			2	2					オムニバス
			初等英語	3①・②	○	1			○				1					
			初等音楽	1①・②	○	1			○			1	3					
			図画工作	①・②・④	○	1			○			2	1					
			体育	1③・④	○	1			○			3	1					オムニバス
			初等家庭	1②・③	○	1			○			1	1					オムニバス
			生活	1①・②	○	1			○			4	1					オムニバス

に関する科目（小学校専攻）			小計（10科目）	－	－	10	0	0	－			14	16	0	0	0	1	
		教科の指導法	初等国語科教育	2前・後	○	2			○				1					
			初等社会科教育	1前・後	○	2			○			1	1					オムニバス
			算数科教育	2前・後	○	2			○				2					
			初等理科教育法	1前・後	○	2			○			1	1					共同・オムニバス
			初等英語科教育	2前・後	○	2			○			1	1					共同
			初等音楽科教育	2前・後	○	2			○			1						
			図画工作科教育	2前・後	○	2			○				1					
			体育科教育	2前・後	○	2			○			1	1					オムニバス
			初等家庭科教育	2前・後	○	2			○				1					
			生活科教育	2後	○	2			○			4	2					オムニバス
			小計（10科目）	－	－	20	0	0	－			7	10	0	0	0	0	
	小計（20科目）			－	－	30	0	0	－			19	23	0	0	0	1	
教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）		国語学	国語学概説Ⅰ	2①	○	1			○				1					
			国語学概説Ⅱ	2②			1		○				1					
			国語学概説Ⅲ	3①			1		○				1					
			国語学概説Ⅳ	3②			1		○				1					
			国語学概説Ⅴ	3④	○	1			○				1					
			国語学演習Ⅰ	2③			1			○			1					
			国語学演習Ⅱ	2④			1			○			1					
			国語学演習Ⅲ	3④			1			○			1					
			国語学演習Ⅳ	4①			1			○			1					
			小計（9科目）	－	－	2	7	0	－			0	1	0	0	0	0	
		国文学	国文学概説Ⅰ	3①	○	1			○								1	
			国文学概説Ⅱ	2①	○	1			○				1					
			国文学概説Ⅲ	3②			1		○								1	
			国文学講義Ⅰ	3④			1		○								1	
			国文学講義Ⅱ	4①			1		○								1	
			国文学講義Ⅲ	3①			1		○				1					
			国文学講義Ⅳ	3②			1		○				1					
			国文学演習Ⅰ	3①			1			○							1	
			国文学演習Ⅱ	3②			1			○							1	
			国文学演習Ⅲ	4③			1			○		1						
			国文学演習Ⅳ	2②			1			○			1					
			国文学演習Ⅴ	3後			2			○			1					
			国文学演習Ⅵ	4後			2			○			1					
			小計（13科目）	－	－	2	13	0	－			1	1	0	0	0	2	
		漢文学	漢文学概説Ⅰ	3①	○	1			○			1						
			漢文学概説Ⅱ	3②	○	1			○			1						
			漢文学講読Ⅰ	3④			1		○			1						
			漢文学講読Ⅱ	4①			1		○			1						
			漢文学演習Ⅰ	2①			1			○		1						
			漢文学演習Ⅱ	2②			1			○		1						
			小計（6科目）	－	－	2	4	0	－			1	0	0	0	0	0	
		書道	書写	2前	○	2			○								1	
		教科の指導法	中等国語科教育Ⅰ	2前	○	2			○				1					
			中等国語科教育Ⅱ	2後	○	2			○				1					
			中等国語科教育Ⅲ	3前	○	2			○				1					
			中等国語科教育Ⅳ	3前	○	2			○				1					
			国語教育特殊講義Ⅰ	2後			2		○				1					
			国語教育特殊講義Ⅱ	3後			2		○				1					
			国語教育演習Ⅰ	3①			1			○			1					
			国語教育演習Ⅱ	3②			1			○			1					
			国語教育演習Ⅲ	3④			1			○			1					
			国語教育演習Ⅳ	4③			1			○			1					
			小計（10科目）	－	－	8	8	0	－			0	2	0	0	0	0	
	小計（39科目）			－	－	16	32	0	－			1	4	0	0	0	3	
		歴史学	日本史概説Ⅰ	2③	○	1			○			1						
			日本史概説Ⅱ	2④	○	1			○			1						
			日本史特講Ⅰ	3①			1		○			1						
			日本史特講Ⅱ	3②			1		○			1						
			日本史演習Ⅰ	3前			2			○		1						隔年
			日本史演習Ⅱ	3後			2			○		1						隔年
			日本史演習Ⅲ	3前			2			○		1						隔年
			日本史演習Ⅳ	3後			2			○		1						隔年
			日本史調査実習	2通・3通			2				○	1						集中
			世界史概説Ⅰ	2①	○	1			○			1						
			世界史概説Ⅱ	2②	○	1			○			1						
			世界史特講Ⅰ	3①			1		○			1						
			世界史特講Ⅱ	3②			1		○			1						
			世界史演習Ⅰ	3前			2			○		1						隔年
			世界史演習Ⅱ	3後			2			○		1						隔年
			世界史演習Ⅲ	3前			2			○		1						隔年
			世界史演習Ⅳ	3後			2			○		1						隔年
			小計（17科目）	－	－	4	22	0	－			2	0	0	0	0	0	
		地理	人文地理学概説Ⅰ	3①	○	1			○				1					
			人文地理学概説Ⅱ	3②	○	1			○				1					
			自然地理学概説	3前	○	2			○								1	
			人文地理学特講Ⅰ	2①			1		○				1					
			人文地理学特講Ⅱ	2②			1		○				1					
			自然地理学特講	4後			2		○								1	
			人文地理学演習Ⅰ	3前			2			○			1					隔年

			学	人文地理学演習Ⅱ	3後			2			○			1					隔年
				人文地理学演習Ⅲ	3前			2			○			1					隔年
				人文地理学演習Ⅳ	3後			2			○			1					隔年
				地理学調査実習	3通			2				○		1					集中
				地誌Ⅰ	2③	○	1			○				1					
				地誌Ⅱ	2④	○	1			○				1					
				小計（13科目）	－	－	6	14	0	－			0	1	0	0	0	1	
			法律学・政治学	法律学概説Ⅰ	2①	○		1		○								1	
				法律学概説Ⅱ	2②	○		1		○								1	
				政治学概説	2前・3前	○		2		○								1	
				法律学特講Ⅰ	3③			1		○								1	
				法律学特講Ⅱ	3④			1		○								1	
				政治学特講	4後			2		○								1	
				法律学演習Ⅰ	3前			2			○		1	1					オムニバス
				法律学演習Ⅱ	3後			2			○			1					
				法律学演習Ⅲ	3前			2			○		4	3					隔年
				法律学演習Ⅳ	3後			2			○		4	3					
				小計（10科目）	－	－	0	16	0	－			4	3	0	0	0	2	
			社会学・経済学	社会学概説	4後	○		2		○								1	
				経済学概説Ⅰ	2①	○		1		○				1					
				経済学概説Ⅱ	2②	○		1		○				1					
				社会学特講	3前			2		○								1	
				経済学特講Ⅰ	3③			1		○				1					
				経済学特講Ⅱ	3④			1		○				1					
				経済学演習Ⅰ	3前			2			○			1					隔年
				経済学演習Ⅱ	3後			2			○			1					隔年
				経済学演習Ⅲ	3前			2			○			1					隔年
				経済学演習Ⅳ	3後			2			○			1					隔年
				地域調査実習	3通			2				○		1					集中
				小計（11科目）	－	－	0	18	0	－			0	1	0	0	0	1	
			哲学・倫理学	哲学概説Ⅰ	2③・3③	○		1		○			1						隔年
				哲学概説Ⅱ	2④・3④	○		1		○			1						隔年
				倫理学概説Ⅰ	2③	○		1		○			1						
				倫理学概説Ⅱ	2④	○		1		○			1						
				哲学特講Ⅰ	2③・3③			1		○			1						隔年
				哲学特講Ⅱ	2④・3④			1		○			1						隔年
				倫理学特講Ⅰ	3①			1		○			1						
				倫理学特講Ⅱ	3②			1		○			1						
				倫理学演習Ⅰ	3前			2			○		1						隔年
				倫理学演習Ⅱ	3後			2			○		1						隔年
				倫理学演習Ⅲ	3前			2			○		1						隔年
				倫理学演習Ⅳ	3後			2			○		1						隔年
				小計（12科目）	－	－	0	16	0	－			1	0	0	0	0	0	
		教科の指導法		中等社会科教育（社会・公民）Ⅰ	2前	○	2			○			1						
				中等社会科教育（社会・地理歴史）Ⅰ	2後	○	2			○				1					
				中等社会科教育（社会・公民）Ⅱ	3前	○	2			○			1						
				中等社会科教育（社会・地理歴史）Ⅱ	3④	○	2			○				1					
				小計（4科目）	－	－	8	0	0	－			1	1	0	0	0	0	
	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）		関連科目	社会科教育演習Ⅰ	3前			2			○		1						隔年
				社会科教育演習Ⅱ	3後			2			○		1						隔年
				社会科教育演習Ⅲ	3前			2			○		1						隔年
				社会科教育演習Ⅳ	3後			2			○		1						隔年
				社会科教育演習Ⅴ	3前			2			○			1					隔年
				社会科教育演習Ⅵ	3後			2			○			1					隔年
				社会科教育演習Ⅶ	3前			2			○			1					隔年
				社会科教育演習Ⅷ	3後			2			○			1					隔年
				小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			1	1	0	0	0	0	
		小計（75科目）			－	－	18	102	0	－			4	3	0	0	0	4	
			代数学	代数学序論A	2①	○		1		○			1						
				代数学序論B	2②	○		1		○			1						
				代数学概論A	2③	○		1		○			1						
				代数学概論B	2④	○		1		○			1						
				代数学講義A	3①	○		1		○			1						
				代数学講義B	3②	○		1		○			1						
				代数学特論	3後			2		○			1						
				代数学演習	4前			2			○		1						
				小計（8科目）	－	－	0	10	0	－			1	0	0	0	0	0	
			幾何学	幾何学序論A	2①	○		1		○			1						
				幾何学序論B	2②	○		1		○			1						
				幾何学概論A	2③	○		1		○			1						
				幾何学概論B	2④	○		1		○			1						
				幾何学講義A	3①	○		1		○			1						
				幾何学講義B	3②	○		1		○			1						
				幾何学特論	3後			2		○			1						
				幾何学演習	4前			2			○		1						
				小計（8科目）	－	－	0	10	0	－			1	0	0	0	0	0	
			解析学	解析学序論A	2①	○		1		○				1					
				解析学序論B	2②	○		1		○				1					
				解析学概論A	2③	○		1		○				1					
				解析学概論B	2④	○		1		○				1					
				解析学講義A	3①	○		1		○				1					
				解析学講義B	3②	○		1		○				1					
				解析学特論	3後			2		○				1					

目（数学専攻）			解析学演習	4前			2			○			1						
			小計（8科目）	－	－	0	10	0	－			0	1	0	0	0	0		
		確率論・統計学	確率統計学A	2③	○		1		○				1						
			確率統計学B	2④	○		1		○				1						
			小計（2科目）	－	－	0	2	0	－			0	1	0	0	0	0		
		コンピューター	計算機概論A	3①	○		1		○				1						
			計算機概論B	3②	○		1		○				1						
			情報数学A	3①			1		○				1						
			情報数学B	3②			1		○				1						
			応用数学特論	3後			2		○				1						
			応用数学演習	4前			2			○			1						
			小計（6科目）	－	－	0	8	0	－			0	1	0	0	0	0		
		教科の指導法	数学科教育Ⅰ	2前	○	2			○				1						
			数学科教育Ⅱ	2後	○	2			○				1						
			数学科教育Ⅲ	3前	○	2			○				1						
			数学科教育Ⅳ	3後	○	2			○				1						
			数学科教育特論A	3後			2		○				1						
			数学科教育特論B	3後			2		○				1						
			小計（6科目）	－	－	8	4	0	－			0	2	0	0	0	0		
	小計（38科目）			－	－	8	44	0	－			2	4	0	0	0	0		
教科及び教科の指導法に関する科目（理科専攻）	教科に関する専門的事項	物理学	基礎物理学A	2①	○	1			○				1						
			基礎物理学B	2②			1		○				1						
			基礎物理学演習	2①			1			○			1						
			物理学Ⅰ	2後			2		○				1						
			物理学Ⅱ	2後			2		○				1						
			物理学基礎研究	3④			2			○			1						
			物理学実験A	3①	○	1					○		1						
			物理学実験B	3②			1				○		1						
			小計（8科目）	－	－	2	9	0	－			0	1	0	0	0	0		
		化学	基礎化学A	2③	○	1			○			1							
			基礎化学B	2④			1		○				1						
			基礎化学演習	2後			1			○		1	1						オムニバス
			化学Ⅰ	2前			2		○			1							
			化学Ⅱ	2前			2		○				1						
			化学基礎研究	3④			2			○		1	1						
			化学実験A	3①	○	1					○	1	1						
			化学実験B	3②			1				○	1	1						
			小計（8科目）	－	－	2	9	0	－			1	1	0	0	0	0		
		生物学	基礎生物学A	2①	○	1			○			1							
			基礎生物学B	2②			1		○			1							
			基礎生物学演習	2後			1			○		1							
			生物学Ⅰ	2後			2		○			1							
			生物学Ⅱ	3前			2		○			1							
			生物学基礎研究	3④			2			○		1							
			生物学実験A	3①	○	1					○	1					2		オムニバス
			生物学実験B	3②			1				○	1							オムニバス
			小計（8科目）	－	－	2	9	0	－			1	0	0	0	0	2		
		地学	基礎地学A	2①	○	1			○								1		
			基礎地学B	2②			1		○								1		
			基礎地学演習	2前			1			○		2	2						共同
			地学Ⅰ	4後			2		○								1		
			地学Ⅱ	4後			2		○								1		
			地学基礎研究	3④			2				○	1	1						
			地学実験A	3①	○	1					○						1		
			地学実験B	3②			1				○						1		隔年
			小計（8科目）	－	－	2	9	0	－			3	3	0	0	0	5		
		教科の指導法	中等理科教育法Ⅰ	2前	○	2			○			1							
			中等理科教育法Ⅱ	2後	○	2			○			1	1						オムニバス
			中等理科教育法Ⅲ	3前	○	2			○				1						
			中等理科教育法Ⅳ	3④	○	2			○			1	1						共同・オムニバス
			理科教育基礎研究	3④			2			○		1	1						一部共同
			理科教育実践入門	1後			2		○			1	1						共同・オムニバス
			小計（6科目）	－	－	8	4	0	－			1	1	0	0	0	0		
	小計（38科目）			－	－	16	40	0	－			2	3	0	0	0	7		
教科及び教科の指導法に関する科目（英語専攻）	教科に関する専門的事項	英語学	英語学Ⅰ	2前	○	2			○			1							
			英語学Ⅱ	2後	○	2			○								1		
			英語音声学	2前	○	2			○				1						
			英語学講読	3前			2		○								1		
			英語学演習	2後			2			○		1							
			英語学課題研究	3後			2			○		1					1		
			小計（6科目）	－	－	6	6	0	－			1	1	0	0	0	1		
		英語文学	英語文学	3前	○	2			○								1		
			英語文学演習Ⅰ	3後	○	2				○							1		
			英語文学演習Ⅱ	3前	○	2				○			1						
			英語文学課題研究	3後			2			○			1						
			小計（4科目）	－	－	6	2	0	－			0	1	0	0	0	1		
	教科に関する専門的事項	英語コミュニケーション	英会話	2前	○	2				○			1						
			英作文Ⅰ	2前	○	2				○			1						
			英作文Ⅱ	2後	○	2				○			1						
			小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	2	0	0	0	0		
		異文化理解	異文化理解	3後	○	2			○				1						
			英語科教育Ⅰ	2前	○	2			○			1							

専門教育科目	専門科目	攻）	教科の指導法		英語科教育Ⅱ	2後	○	2			○				1					
					英語科教育Ⅲ	3前	○	2			○				1					
					英語科教育Ⅳ	3後	○	2			○			1						
					英語科教育課題研究	3後			2		○			1	2					
					小計（5科目）	－	－	8	2	0	－			1	2	0	0	0	0	
			小計（19科目）			－	－	28	10	0	－			1	3	0	0	0	2	
		教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	2前	○	1					○		1					
						ソルフェージュⅡ	2後			1				○		1					
						小計（2科目）	－	－	1	1	0	－			0	1	0	0	0	0	
					声楽	声楽演習Ⅰ	1前・2前	○	2				○			1				1	オムニバス
						声楽演習Ⅱ	1後・2後	○	2				○			1					
						声楽演習Ⅲ	2前			2			○			1					
						声楽演習Ⅳ	2後			2			○			1					
						声楽実技Ⅰ	3前			1					○	1					
						声楽実技Ⅱ	3後			1					○	1					
						合唱Ⅰ	2前	○	1						○	1				1	オムニバス
						合唱Ⅱ	2後			1					○	2					オムニバス
						合唱Ⅲ	3前	○	1						○	1				1	オムニバス
						合唱Ⅳ	3後			1					○	2					オムニバス
						小計（10科目）	－	－	6	8	0	－			0	2	0	0	0	2	
					器楽	器楽演習ＡⅠ	1前・2前	○	2				○			1				2	オムニバス
						器楽演習ＡⅡ	1後・2後	○	2				○			1				1	
						器楽演習ＡⅢ	2前			2			○			1					
						器楽演習ＡⅣ	2後			2			○			1					
						器楽実技ＡⅠ	3前			1					○	1					
						器楽実技ＡⅡ	3後			1					○	1					
						器楽演習ＢⅠ	1前・2前	○	2				○			1					
						器楽演習ＢⅡ	2後			2			○		1	1					
						器楽演習ＢⅢ	2前			2			○		1	1					
						器楽演習ＢⅣ	2後			2			○		1	1					
						器楽実技ＢⅠ	3前			1					○	1	1				
						器楽実技ＢⅡ	3後			1					○	1	1				
						合奏Ⅰ	2後	○	1						○	1					オムニバス
						合奏Ⅱ	2前			1					○	1					
						合奏Ⅲ	3後			1					○	1					オムニバス
						伴奏法演習	3後			2			○			1					
						小計（16科目）	－	－	7	18	0	－			1	2	0	0	0	2	
					指揮法	指揮法	2前・3前	○	2			○								1	
					音楽理論・作曲法・音楽史	音楽理論A	2前	○	2			○				1					
						音楽理論ＢⅠ	1後	○	2			○				1					
						音楽理論ＢⅡ	2後			2		○				1					
						音楽史Ⅰ	1後	○	2			○				1				1	オムニバス
						音楽史Ⅱ	2後			2		○				1					
						作曲法	2前	○	2			○				1					
						音楽学演習Ⅰ	3前			2		○				1					
						音楽学演習Ⅱ	3後			2		○				1					
						作曲演習Ⅰ	3前			2		○				1					
						作曲演習Ⅱ	3後			2		○				1					
						小計（10科目）	－	－	8	12	0	－			0	2	0	0	0	1	
				教科の指導法		音楽科教育法Ⅰ	1後	○	2			○			1						
						音楽科教育法Ⅱ	2前	○	2			○			1						
						音楽科教育法Ⅲ	3前	○	2			○			1						
						音楽科教育法Ⅳ	3④	○	2			○			1						
						小計（4科目）	－	－	8	0	0	－			1	0	0	0	0	0	
			免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	絵画基礎Ⅰ	1後	○	2				○		1						
						絵画基礎Ⅱ	2前	○	2				○		1						
						絵画演習Ⅰ	2後			2			○		1						
						絵画演習Ⅱ	2前・3前			2			○		1						隔年・集中
						絵画演習Ⅲ	3後			2			○		1						
						小計（5科目）	－	－	4	6	0	－			1	0	0	0	0	0	
					彫刻	彫刻基礎Ⅰ	1前	○	2				○		1						隔年・集中
						彫刻基礎Ⅱ	2前			2			○		1						隔年・集中
						彫刻演習Ⅰ	2後			2			○		1						隔年・集中
						彫刻演習Ⅱ	2前・3前			2			○		1						隔年・集中
						彫刻演習Ⅲ	3後			2			○		1						隔年・集中
						小計（5科目）	－	－	2	8	0	－			1	0	0	0	0	0	
					デザイン	デザイン基礎Ⅰ	1前	○	2				○		1						隔年・集中
						デザイン基礎Ⅱ	2前			2			○		1						隔年・集中
						デザイン演習Ⅰ	2後			2			○		1						隔年・集中
						デザイン演習Ⅱ	2前・3前			2			○		1						隔年・集中
						デザイン演習Ⅲ	3後			2			○		1						隔年・集中
						小計（5科目）	－	－	2	8	0	－			1	0	0	0	0	0	
					工芸	工芸基礎	1前	○	2				○		1						
						工芸演習Ⅰ	2後			2			○		1						
						工芸演習Ⅱ	2前・3前			2			○		1						隔年・集中
						小計（3科目）	－	－	2	4	0	－			1	0	0	0	0	0	
					美術理論・美術史	美術概論	2①	○	1			○			1						
						美術史	2①	○	1			○			1						
						小計（2科目）	－	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	0	
			免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	教科の指導法	美術科教育法Ⅰ	2前	○	2			○				1					
						美術科教育法Ⅱ	3前	○	2			○				1					
						美術科教育演習Ⅰ	2前	○	2				○		1						
						美術科教育演習Ⅱ	3前	○	2				○		1						

高	法		小計（4科目）	－	－	8	0	0	－			1	1	0	0	0	0	
免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	体育実技Ⅰ	2前・3前	○	1					○	1	1					
			体育実技Ⅱ	3前	○	1					○						1	
			体育実技Ⅲ	2前・3前	○	1					○	1						
			体育実技Ⅳ	3前	○	1					○	3	2					集中
			体育実技Ⅴ	2④・3④	○		1				○		2					
			体育実技Ⅵ	2④・3④	○		1				○	1						
			体育実技Ⅶ	2前・3前	○	1					○						1	
			体育実技Ⅷ	3前	○	1					○	1	1					
			体育実技Ⅸ	4後	○	1					○	3	2					オムニバス
			野外活動	3通			1				○	1	1					集中
			小計（10科目）	－	－	7	3	0	－			3	2	0	0	0	2	
		体育理論・運動学	体育原理	3前	○		2		○			3	2					
			体育心理学	2後	○		2		○				1					
			体育経営管理学	2前	○		2		○								1	
			体育社会学	3前	○		2		○								1	
			運動学	3④	○	2			○			1						
			保健体育科課題研究Ⅰ	3前	○		2		○			1	1					
			保健体育科課題研究Ⅱ	3④	○		2		○			1	1					
			小計（7科目）	－	－	2	12	0	－			3	2	0	0	0	2	
		生理学及び衛生学	生理学（運動生理学を含む。）	2前	○	2			○			1	1					オムニバス
			生理学実験・演習	2後			2		○			1	1					共同
			衛生学（公衆衛生学を含む。）	2③	○	1			○				1					
			保健体育科課題研究Ⅲ	3前	○		2			○		1	1					共同
			保健体育科課題研究Ⅳ	3④	○		2			○		1	1					共同
			小計（5科目）	－	－	3	6	0	－			1	1	0	0	0	0	
		学校保健	学校保健Ⅰ	2前	○	2			○			1						
			学校保健Ⅱ	3前			2		○			1						
			保健体育科課題研究Ⅴ	3前	○		2			○		1						
			保健体育科課題研究Ⅵ	3④	○		2			○		1						
			小計（4科目）	－	－	2	6	0	－			2	0	0	0	0	0	
	教科の指導法		保健体育科教育Ⅰ	2前	○	2			○			1	2					
			保健体育科教育Ⅱ	2後	○	2			○			1	2					
			保健体育科教育Ⅲ	3前	○	2			○			1	2					オムニバス
			保健体育科教育Ⅳ	3④	○	2			○			1	2					オムニバス
			小計（4科目）	－	－	8	0	0	－			1	2	0	0	0	0	
教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工	木材加工Ⅰ	3①	○	1			○			1						
				木材加工Ⅱ	3②	○	1			○			1						
				木材加工Ⅲ	2③			1		○			1						
				木材加工Ⅳ	2④			1		○			1						
				木材加工実習Ⅰ	3①	○	1					○	1						
				木材加工実習Ⅱ	3②	○	1					○	1						
				金属加工Ⅰ	2③	○	1			○			1						
				金属加工Ⅱ	2④	○	1			○			1						
				小計（8科目）	－	－	6	2	0	－			3	0	0	0	0	0	
			機械	機械Ⅰ	2①	○	1			○			1						
				機械Ⅱ	2②	○	1			○			1						
				機械実験実習Ⅰ	3①	○	1					○	1						
				機械実験実習Ⅱ	3②	○	1					○	1						
				小計（4科目）	－	－	4	0	0	－			1	0	0	0	0	0	
			電気	電気Ⅰ	2①	○	1			○								1	
				電気Ⅱ	2②	○	1			○								1	
				電気実習Ⅰ	3④			1				○						1	
				電気実習Ⅱ	3④			1				○						1	
				小計（4科目）	－	－	2	2	0	－			0	0	0	0	0	1	
			栽培	栽培Ⅰ	2③	○	1			○			1						
				栽培Ⅱ	2④	○	1			○			1						
				栽培実習Ⅰ	2①	○	1					○	1						
				栽培実習Ⅱ	2②	○	1					○	1						
				小計（4科目）	－	－	4	0	0	－			1	0	0	0	0	0	
			情報とコンピュータ	情報とコンピュータⅠ	2①	○	1			○			1						
				情報とコンピュータⅡ	2②	○	1			○			1						
				情報とコンピュータ実習Ⅰ	2①	○	1					○	1						
				情報とコンピュータ実習Ⅱ	2②	○	1					○	1						
				小計（4科目）	－	－	4	0	0	－			1	0	0	0	0	0	
			職業指導	職業指導	3④			2		○			1						
		教科の指導法		技術科教育Ⅰ	2前	○	2			○			1						
				技術科教育Ⅱ	3前	○	2			○			4						オムニバス
				技術科教育Ⅲ	3④	○	2			○			1						
				技術科教育Ⅳ	3前	○	2			○			1						
				工業科教育法Ⅰ	2前・3前			2		○								1	
				工業科教育法Ⅱ	3④・4④			2		○								1	
				小計（6科目）	－	－	8	4	0	－			4	0	0	0	0	1	
	関連科目			技術基礎実習	1前			1				○	4						オムニバス
	免許教科：中・高（	教科に関する専門的	家庭経営学	家庭経営学Ⅰ	3①	○	1			○			1						
				家庭経営学Ⅱ	3②	○	1			○			1						
				家庭経営学演習	4③			1			○		1						
				家政学原論Ⅰ	2①	○	1			○			1						
				家政学原論Ⅱ	2②			1		○			1						
				家庭経済学	3③			1		○			1						
				家庭経済学演習	3④			1			○		1						
				家族関係学	2前	○	2			○			1						
				小計（8科目）	－	－	5	4	0	－			1	0	0	0	0	0	

	家庭）	的事項	被服学	被服科学実験	3③			1				○		1					
				被服学概論Ⅰ	2①	○	1			○				1					
				被服学概論Ⅱ	2②	○	1			○				1					
				被服構成実習	2後	○	1					○		1					
				小計（4科目）	－	－	3	1	0	－			0	1	0	0	0	0	
教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	食物学	食物学概論Ⅰ	2①	○	1			○				1					
				食物学概論Ⅱ	2②	○	1			○				1					
				食品学・栄養学	3後			2		○								1	
				食物学実験	3前	○	1					○						1	
				調理学Ⅰ	3③			1		○								1	
				調理学Ⅱ	3④			1		○								1	
				調理実習Ⅰ	2後	○	1					○		1					
				調理実習Ⅱ	3前			1				○		1					
				小計（8科目）	－	－	4	5	0	－			0	1	0	0	0	3	
			住居学	住居学Ⅰa	2①	○	1			○				1					
				住居学Ⅰb	2②	○	1			○				1					
				住居学Ⅱa	1①			1		○				1					
				住居学Ⅱb	1②			1		○				1					
				住居学Ⅲa	3③			1		○				1					
				住居学Ⅲb	3④			1		○				1					
				住居計画学	3前	○	2			○				1					
				小計（7科目）	－	－	4	4	0	－			0	1	0	0	0	0	
			保育学	保育学	3前	○	2			○				1					
				保育学Ⅱa	3④			1		○				1					隔年
				保育学Ⅱb	3④			1		○				1					隔年
				保育学演習Ⅰ	3④	○	1				○			1					
				保育学演習Ⅱ	3④	○	1				○			1					
				小計（5科目）	－	－	4	2	0	－			0	1	0	0	0	0	
		家庭電気・機械		家庭電気・機械及び情報処理	2前・3前			2			○							1	隔年集中
		教科の指導法		家庭科教育概論	2前	○	2			○				1					オムニバス
				中等家庭科教育Ⅰ	2後	○	2			○				1					
				中等家庭科教育Ⅱ	2後	○	2			○			1						
				中等家庭科教育Ⅲ	3前	○	2			○				2					
				小計（4科目）	－	－	8	0	0	－			1	2	0	0	0	1	
	小計（166科目）				－	－	130	121	0	－			12	8	0	0	0	12	
教育学専修に関する科目		教育方法学		教育課程	2後			2		○								1	
				教育方法学特殊講義	3前			2		○								1	
				教育方法学演習	3後			2			○							1	
				小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	1	
		教育史		教育史概説	2前			2		○								1	
				教育史特殊講義	3前			2		○				1					
				教育史演習	3前			2			○							1	
				小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	1	0	0	0	2	
		教育制度		教育制度	2後			2		○				1					
				教育制度特殊講義	3前			2		○				1					
				教育制度演習	3前			2			○			1					
				小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	1	0	0	0	0	
		教育社会学		学校社会学	2前			2		○				1					
				教育社会学特殊講義	3前			2		○				1					
				教育社会学演習	3後			2			○			1					
				小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	1	0	0	0	0	
		社会教育		社会教育演習	3前			2			○		1						
				生涯学習支援論Ⅰ	2後			2		○			1						
				生涯学習支援論Ⅱ	3後			2		○			1						
				社会教育経営論Ⅰ	3前			2		○			1						
				社会教育経営論Ⅱ	4前			2		○			1						
				社会教育実習	4後			1				○	1						
				小計（6科目）	－	－	0	11	0	－			1	0	0	0	0	0	
		教育哲学		教育哲学	3前			2		○				1					
				教育哲学特殊講義	3後			2		○				1					
				教育哲学演習	2後			2			○			1					
				小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	1	0	0	0	0	
		道徳教育		道徳教育方法論	3前			2		○				1					
				道徳教育特殊講義	2前			2		○				1					
				道徳教育演習	4前			2			○			1					
				小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	1	0	0	0	0	
		小計（24科目）			－	－	0	47	0	－			1	4	0	0	0	2	
心理学専修に関する科目		心理学基礎		心理学概論	1前			2		○								1	
				心理学研究法	2前・3前			2		○				1					隔年
				心理学統計法	2前			2		○								1	
				調査統計法	3前・4前			2		○				1					隔年
				心理学実験Ⅰ	2後	○	1					○		2					オムニバス
				心理学実験Ⅱ	3前	○	1					○	1						
				心理的アセスメント	3④	○	1					○		2					オムニバス
				小計（7科目）	－	－	3	8	0	－			1	2	0	0	0	2	
		教育・発達心理学		教育・学校心理学	2後	○	2			○				1					
				教育・学校心理学演習	3前			2			○			1					
				発達心理学	2後	○	2			○			1						
				発達心理学演習	3④			2			○		1						
				小計（4科目）	－	－	4	4	0	－			1	1	0	0	0	0	
		臨床心理		臨床心理学概論	2前	○	2			○				2					オムニバス
				心理学的支援法	4前			2		○			1	1					オムニバス
				感情・人格心理学	3前			2		○			1	1					オムニバス

		理学	臨床心理学演習	3前			2			○			1						
			小計（4科目）	－	－	2	6	0	－			1	2	0	0	0	0	
		応用心理学	社会・集団・家族心理学	3前			2		○								1	
			産業・組織心理学	2後・3後			2		○			1						隔年
			小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			1	0	0	0	0	1	
		小計（17科目）		－	－	9	22	0	－			3	3	0	0	0	3	
	特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育概論	1前	○	2			○			1	1					オムニバス
			特別支援教育史	1後			2		○			1						
			特別支援教育研究法	3前			2		○			2	2					オムニバス
			小計（3科目）	－	－	2	4	0	－			3	2	0	0	0	0	
		特別支援教育領域に関する科目	知的障害児教育総論	1前	○	2			○			1	1					オムニバス
			知的障害児心理学	1後	○	2			○			1						
			知的障害児教育課程論	3前	○	2			○				1					
			知的障害児指導法Ⅰ	1通	○		2			○		2	2					共同・集中
			知的障害児指導法Ⅱ	2通	○		2			○		2	2					共同・集中
			知的障害児指導法Ⅲ	3前	○		2			○		1	2					共同・集中
			肢体不自由児教育総論	1③	○	1			○			1						
			肢体不自由児指導法	2前	○	2			○			1						
			肢体不自由児心理学	1④	○	1			○			1						
			病弱児教育総論	2①	○	1			○				1					
			病弱児指導法	3後	○	2			○				2					オムニバス
			病弱児の心理・生理・病理	2②	○	1			○				1					
			知的障害児発達評価法	3後			2		○			1						
			小計（13科目）	－	－	14	8	0	－			2	3	0	0	0	0	
		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	聴覚障害児教育総論	2前			2		○			1						
			重複障害児教育総論	2後	○	2			○				1					
			学習障害児支援論	2後			2		○			1						
			発達障害児支援論	2前	○	2			○			1						
			特別支援教育教材開発論	3前			2		○				1					
			障害児臨床応用演習Ⅰ	3通	○		2			○		1						
			障害児臨床応用演習Ⅱ	3通	○		2			○			1					
			障害児臨床応用演習Ⅲ	3通	○		2			○		1						
			障害児臨床応用演習Ⅳ	3通	○		2			○			1					
			障害児臨床応用演習Ⅴ	3通	○		2			○		1						
			小計（10科目）	－	－	4	16	0	－			3	2	0	0	0	0	
		小計（26科目）		－	－	20	28	0	－			2	3	0	0	0	0	
	養護に関する科目及び教科の指導法	養護に関する科目	基礎医科学	解剖学	1前	○	2			○			1						
				生理学	1後	○	2			○			1					1	オムニバス
				生理学実習	2前			2				○	2		1				共同
				微生物学・免疫学	2前	○	2			○			1						
				薬理学	2後	○	2			○								1	
				病理学	2前			2		○			1						
				生化学	1後			2		○			1						
				栄養学(食品学を含む。)	2前	○	2			○				1					
				小計（8科目）	－	－	10	6	0	－			2	1	1	0	0	2	
			臨床医科学・看護学	看護学概説Ⅰ	2後	○	2			○				1					
				看護学概説Ⅱ	3①	○	1			○					1				
				看護学概説Ⅲ	3②			1		○					1				
				看護学実習Ⅰ	3①	○	1					○			1				共同
				看護学実習Ⅱ	3②	○	1					○			1				共同
				内科学	2後			2		○			1					1	オムニバス
				皮膚科学	2後			1		○								6	オムニバス
				小児科学	3前			2		○			1						
				外科学	2前	○	1			○								8	オムニバス
				整形外科学	2後			1		○								6	オムニバス
				眼科学	2後			1		○								4	オムニバス
				歯科学	2前			1		○								1	
				耳鼻咽喉科学	2後			1		○								1	
				産婦人科学	2前			1		○				1				2	
				精神保健学	3前	○	2			○								9	オムニバス
				臨床実習Ⅰ	3後	○	3					○	1	1	1				共同
				臨床実習Ⅱ	3後			1				○	1	1	1				共同
				小計（17科目）	－	－	11	12	0	－			2	1	1	0	0	38	
			教育保健	学校保健Ⅰ(小児保健を含む。)	2前	○	2			○			1						
				学校保健Ⅱ(小児保健を含む。)	2後			1		○			1						
				学校保健Ⅲ	4前			1			○							1	
				養護概論Ⅰ	1前	○	2			○								2	
				養護概論Ⅱ	2前	○	2			○								2	
				養護概論Ⅲ	3後			1			○							1	
				衛生学	1前	○	2			○				1					
				公衆衛生学Ⅰ	1後	○	2			○				1					
				公衆衛生学Ⅱ	2後			1		○				1					
				公衆衛生学実習	3前			2				○		1				2	
				予防医学	3後	○	1			○			1						
				学校救急処置Ⅰ	3①	○	1			○					1				
				学校救急処置Ⅱ	3②	○	1			○					1				
				学校安全	3後	○	1			○			1		1			1	共同・オムニバス
				健康相談	3前	○	2			○								1	
				健康相談活動演習	3前			2			○							1	
				小計（16科目）	－	－	16	8	0	－			1	1	1	0	0	6	
			教科の	保健科教育法Ⅰ	2後	○	2				○							1	
				保健科教育法Ⅱ	3前	○	2				○							1	
				保健科教育法Ⅲ	3後			2			○			1				1	

	指導法	保健科教育法Ⅳ	3後			2			○			1					1	
		性に関する指導	3後・4後			1			○			1						
		小計（5科目）	－	－	4	5	0		－		0	1	0	0	0	1		
	小計（46科目）		－	－	41	31	0		－		2	2	1	0	0	46		
	大学が独自に設定する科目	教職実践基礎セミナー	1通	○		2			○		8	10	1					
		初等教育課題探究	3④	○		1			○			1						
		小学校教科指導探究（国語）	3②	○		1			○			2						
		小学校教科指導探究（社会）	3②	○		1			○		4	3						
		小学校教科指導探究（算数）	3①	○		1			○			1						
		小学校教科指導探究（理科）	3②	○		1			○		2	2						
		小学校教科指導探究（英語）	3②	○		1			○		1	2						
		小学校教科指導探究（音楽）	3①	○		1			○		1							
		小学校教科指導探究（図工）	3②	○		1			○		1							
		小学校教科指導探究（保健体育）	3①	○		1			○		1	1						
		小学校教科指導探究（家庭）	3②	○		1			○			1						
		熊本・学びの最前線Ⅰ	1後	○		2		○			1					1		
		熊本・学びの最前線Ⅱ	2後	○		2		○			1					1	共同	
		教育実践研究指導法演習	2後・3後・4後			2			○		1							
		教育臨床体験演習	3前			2			○		1	1					共同	
		実技系教科指導探究Ⅰ	3①	○		1			○		2							
		実技系教科指導探究Ⅱ	3②	○		1			○		1	2						
		小計（17科目）	－	－	0	22	0		－		20	21	1	0	0	2		
	卒業論文	卒業論文	4通	○	6				○		30	36	1	0	0	0		
	幼稚園教諭免許状取得のための授業科目	幼稚園教育課程論	2後				2	○								1		
		保育内容(概論）の理論と方法	3前				2	○								1		
		保育内容(人間関係）の理論と方法	3前				2	○								1		
		保育内容(健康）の理論と方法	3前				2	○			1	1						
		保育内容(環境）の理論と方法	3前				2	○			1							
		保育内容(言葉）の理論と方法	4前				2	○				1						
		保育内容(表現）の理論と方法	3前				2	○			3						オムニバス	
		幼児理解の理論と方法	2④				1	○			1							
		幼児教育指導法	2前				2	○			1	1					オムニバス	
		幼児と健康	2前				2	○				2						
		幼児と人間関係	2前				2	○								1		
		幼児と環境	2後				2	○			2	1						
		幼児と言葉	2後				2	○			1							
		幼児と表現	2後				2	○			3						オムニバス	
		小計（14科目）	－	－	0	0	27		－		7	6	0	0	0	4		
	公認心理師受験資格取得のための必須科目	演習・実習	心理演習	4通				2		○		1	2				1	
			心理実習	4通				2		○		1	4				4	
			小計（2科目）	－	－	0	0	4		－		1	4	0	0	0	4		
		その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	公認心理師の職責	1後				2	○				1					
			知覚・認知心理学	3後				2	○								1	
			学習・言語心理学	2後				2	○				1					
			神経・生理心理学	3前				2	○								1	
			障害者・障害児心理学	3後				2	○			1	1					
			健康・医療心理学	2後・3後				2	○								1	
			福祉心理学	2後				2	○								1	
			司法・犯罪心理学	1後				2	○				1					
			人体の構造と機能及び疾病	2前・2後				2	○				1					
			精神疾患とその治療	3前				2	○								1	
			関係行政論	2前				2	○								1	
			小計（11科目）	－	－	0	0	22		－		1	2	0	0	0	6		
		小計（13科目）		－	－	0	0	26		－		2	4	0	0	0	7		
	学芸員科目社会教育士科目	博物館概論	1前				2	○								1		
		博物館経営論	1後				2	○								1		
		博物館資料論	2前				2	○								1		
		博物館資料保存論	2後				2	○								1		
		博物館展示論	2前				2	○								1		
		博物館教育論	3前				2	○								1		
		博物館情報・メディア論	3前				2	○								1		
		博物館実習Ⅰ	1前				1			○						1	集中	
		博物館実習Ⅱ	2後				1			○						1		
		博物館実習Ⅲ	3前				1			○						1	集中	
		小計（10科目）	－	－	0	0	17		－		0	0	0	0	0	1		
	小計（591科目）		－	－	364	515	70		－		30	36	1	0	0	101		
小計（594科目）			－	－	369	515	70		－		30	36	1	0	0	101		
合計（1,190科目）			－	－	382	1291	70		－		30	36	1	0	0	322		

学位又は称号	学士（教育学）	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年以上在学し、以下により125単位以上を修得すること。 【教養教育】 必修外国語科目８単位、情報基礎科目２単位、肥後熊本学１単位、体育・スポーツ科学科目２単位並びに自由選択外国語科目、リベラルアーツ科目、現代教養科目、Multidisciplinary Studies、キャリア科目及び開放科目から16単位、合計29単位以上修得すること。（現代教養科目「暮らしの中の憲法（２単位）」は修得しなければならない。）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

【専門教育】
○小学校専攻
教育の基礎的理解に関する科目等30単位
教科に関する専門的事項10単位
教科の指導法20単位
大学が独自に設定する科目４単位（地域枠入学者は８単位）
卒業論文６単位
選択12単位（地域枠入学者にあっては8単位）
自由選択14単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から２単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から２単位を修得しなければならない。
※初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ、教職実践演習（幼・小）を修得しなければならない。
※心理学専修の学生は、心理学専修に関する選択科目のうち、教育・学校心理学演習、発達心理学演習、臨床心理学演習から４単位以上を修得しなければならない。
※大学が独自に設定する科目のうち、教職実践基礎セミナー、初等教育課題探究及び小学校教科指導探究を修得しなければならない。また、熊本・学びの最前線Ⅰ及び熊本・学びの最前線Ⅱについては、地域枠入学者は修得しなければならない。

○国語専攻・社会専攻・数学専攻・理科専攻
教育の基礎的理解に関する科目等30単位
教科に関する専門的事項20単位
教科の指導法８単位
卒業論文６単位
選択18単位
自由選択14単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から２単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から２単位を修得しなければならない。
※中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ、教職実践演習（中・高）を修得しなければならない。
※社会専攻の学生は、教科に関する専門的事項の選択科目のうち、法律学概説Ⅰ、法律学概説Ⅱ、政治学概説から２単位以上及び社会学概説、経済学概説Ⅰ、経済学概説Ⅱから２単位以上並びに哲学概説Ⅰ、哲学概説Ⅱ、倫理学概説Ⅰ、倫理学概説Ⅱから２単位以上を修得しなければならない。
※数学専攻の学生は、教科に関する専門的事項の選択科目のうち、代数学序論A、代数学序論B、代数学概論A、代数学概論B、代数学講義A、代数学講義Bから４単位以上、幾何学序論A、幾何学序論B、幾何学概論A、幾何学概論B、幾何学講義A、幾何学講義Bから４単位以上、解析学序論A、解析学序論B、解析学概論A、解析学概論B、解析学講義A、解析学講義Bから４単位以上、確率統計学A、確率統計学Bから１単位以上、計算機概論A、計算機概論Bから1単位以上を修得しなければならない。

○英語専攻
専門基礎科目４単位
教育の基礎的理解に関する科目等30単位
教科に関する専門的事項20単位
教科の指導法８単位
卒業論文６単位
選択18単位
自由選択10単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から２単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から２単位を修得しなければならない。

○実技系専攻
教育の基礎的理解に関する科目等32単位
教科に関する専門的事項21～24単位
教科の指導法８単位
大学が独自に設定する科目２単位
卒業論文６単位
選択10～14単位
自由選択単位14単位

・教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から２単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から２単位を修得しなければならない。
※中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ、教職実践演習（中・高）を修得しなければならない。
・保健体育については、教科に関する専門的事項の選択科目のうち、保健体育科課題研究Ⅰ、保健体育科課題研究Ⅱ、保健体育科課題研究Ⅲ、保健体育科課題研究Ⅳ、保健体育科課題研究Ⅴ、保健体育科課題研究Ⅵから２単位以上を修得しなければならない。
※大学が独自に設定する科目のうち、実技系教科指導探究Ⅰ及び実技系教科指導探究Ⅱを修得しなければならない。

○特別支援教育コース【小学校普通免許状を基礎免許とする場合】
教育の基礎的理解に関する科目等33単位
特別支援教育に関する科目24単位
教科に関する専門的事項5単位
教科の指導法12単位
卒業論文６単位
自由選択16単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から２単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から２単位を修得しなければならない。
※障害児臨床応用演習Ⅰ～Ⅴから、２単位を修得しなければならない。
※教育の基礎的理解に関する科目等の必修科目について、障害児教育実習は修得しなければならない。小学校普通免許状を基礎免許とする場合は初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ、教職実践演習(幼・小)を修得しなければならない。

○特別支援教育コース【中学校普通免許状を基礎免許とする場合】
教育の基礎的理解に関する科目等33単位
特別支援教育に関する科目24単位
教科に関する専門的事項10～16単位
教科の指導法４単位
卒業論文６単位
自由選択13～19単位

※教育の基礎的理解等に科目等の選択科目のうち、教育思想、教育史、人権教育論、教職保健から２単位並びに教育社会学、学校経営学、学校教育と生涯学習から２単位を修得しなければならない。
※障害児臨床応用演習Ⅰ～Ⅴから、２単位を修得しなければならない。
※教育の基礎的理解に関する科目等の必修科目について、障害児教育実習は修得しなければならない。中学校普通免許状を基礎免許とする場合は中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ、教職実践演習(中・高)を修得しなければならない。

○養護教育コース
専門基礎科目１単位
教育の基礎的理解に関する科目等32単位
養護に関する科目37単位
教科の指導法４単位
卒業論文６単位
選択１単位
自由選択15単位

※教職実践演習(中・高)、教職実践演習(養護教諭)、養護実習は、修得しなければならない。

別記様式第２号（その３の２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授 業 科 目 の 概 要 （ 共 同 学 科 等 ）

（佐賀大学教育学部共同教員養成課程、熊本大学教育学部共同教員養成課程）

科目区分			開設大学	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	大学入門科目		佐賀大学	大学入門科目Ⅰ		（概要） 佐賀大学に入学した学生に、大学生としての生活の指針を与え、大学における学習への転換を促すことにより高校から大学への接続を円滑にすることを主たる目的とする。また、各学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力を養うことを目的とする。 佐賀大学や学部の歴史や特徴、計画的な履修方法、附属図書館の利用方法、情報リテラシー、ラーニングポートフォリオの活用、正課外活動、学生生活、環境問題への取り組み、国際交流、留学、キャリアガイダンスなどについて理解を深め、大学生としての生活と学習態度を養う。 特定の課題についての調査、分析、デザイン、報告、討論など、各学部で必要とされる基礎的なスキルや問題解決能力を身に付けるとともに、他者とともに共同して目標を達成することを学ぶ。同じ学科や課程の学生によってクラスを編成し、各専門分野の特性に応じて授業を行う。講義だけでなく、様々な手法を通じて、能動的な学習への転換を促す。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	佐賀大学	英語Ａ		中学・高校の６年間で培った基礎学力を基盤として、４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	佐賀大学	英語Ｂ		中学・高校の６年間で培った基礎学力を基盤として、４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	佐賀大学	英語Ｃ		中学・高校の６年間で培った基礎学力を基盤として、４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。 少人数クラスの利点を活かして、コミュニケーション志向型の授業を行う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	佐賀大学	英語Ｄ		中学・高校の６年間で培った基礎学力を基盤として、４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。 e-learningを活用した自学自習型の授業を行う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	佐賀大学	実践日本語Ｃ		（概要） 本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの中級後半の科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造一格表示・後置詞対応と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応を説明し、学生に機会一１）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する一を提供する。読む文章は教科書のEll、雑談力、日本の自殺者数、カラオケボックスの他の利用法の4本である。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	佐賀大学	実践日本語Ｄ		（概要） 本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの中級Ⅱの科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応、③関連のある言葉を探す方法を説明し、学生に機会一１）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する一を提供する。読む文章は教科書の外国語の勉強方法、巨大ロボット、主食、アジアとヨーロッパで好まれる色の違いの4本である。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	佐賀大学	実践日本語Ｅ		（概要） 本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの上級の科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応、③筆者の意見を見抜く、筆者の立場を見分ける、大切なことを伝えるサインをつかむ、目印を使って内容を整理する方法を説明し、学生に機会一１）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する一を提供する。読む文章は教科書の日本の町のごみ、レジ袋の有料化、ワークシェアリング、優先席の4本である。	外国人留学生のための科目

教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目		佐賀大学	実践日本語Ｆ		（概要） この講義では、中・上級レベルの学習者を対象にした授業を行います。読解ストラテジーに焦点を当てながら、日本語の文章が正しく理解できるように様々な読解課題を実施します。また、テキストの情報をテーマにしてグループ・ディスカッションを行い作文にまとめるなど、四技能の伸長にも配慮して進めます。 様々な読解ストラテジーについて知りそれを実践することを通して、より複雑な日本語の文章を効率的に理解できるようになる。また、日本を題材としたテーマについて自分の考えを他者と共有し、深める中で日本語コミュニケーション能力を高める。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	情報リテラシー科目		佐賀大学	情報基礎概論		情報技術は、我々の生活を便利にしてくれるものであると同時に、普及にともなって様々な負の側面も現れている。本講義では、現代の社会で生活していく上で不可欠な情報技術の基礎について学ぶとともに、情報化された社会とその仕組みについて、利点と課題について学ぶ。 そのため、情報技術に関する基礎知識の習得と、社会で日常的に使われている様々なインターネット媒体の活用に関する利点と課題の把握を目標とする。特に、利用者としてのセキュリティ対策の基本習得を行う。	
教養教育科目	共通基礎科目	情報リテラシー科目		佐賀大学	情報基礎演習Ⅰ		大学での学習や研究においても情報技術の活用が不可欠である。本講義では、大学での専門教育及び卒業後に必要とされる情報処理に関する基礎技術を習得することを目的とする。そのため、情報技術に関する基礎技能の習得として、大学での学習を行う上で必要となる情報システムやソフトウェアの利用方法などの基礎的情報処理技術を、学科・課程の特性に応じて習得することを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （1 小野文慈・3 岡島俊哉／1回）（共同） ライブキャンパスの登録方法等 （1 小野文慈／10回） 文書の作成・表の作成、図形，数式ツール(Word)や関数、相対参照・絶対参照、グラフと図形の作成など（Excel）についての講義と演習 （3 岡島俊哉／4回） LP、教職カルテのPC入力、相対参照、絶対参照（Excel)についての講義と演習	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	Introduction to Science		アカデミックな英語力育成の一環として、理工学の７つの分野（数理科学、物理科学、知能情報システム学、化学、機械システム工学、電気電子工学、都市工学）の概要や研究内容、最近の話題などを英語を用いて紹介する。 （オムニバス方式／全15回） （352 藤澤知績／2回） 化学分野についての講義 （485 三島悠一郎／2回） 都市工学分野についての講義 （301 VONGTHANASUNTHORN NARUMOL／1回） 都市工学分野についての講義 （223 高橋智／1回） 物理科学分野についての講義 （567 YEOH WEN LIANG／2回） 知能情報システム学分野についての講義 （165 長谷川裕之／1回） 機械システム工学についての講義 （120 郭其新／2回） 電気電子工学分野についての講義 （368 加藤孝盛／2回） 数理科学分野についての講義 （180 冨永昌人／1回） 化学分野についての講義 （495 石田賢治／1回） 機械システム工学についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	物理の世界Ⅰ		古典物理学（力学、波動、電磁気学）の基本法則を知り、典型的な物理現象を理解する力を身に付けることを目指します。 物理の世界Ⅰの概要、力と運動の表し方、運動の法則、等速円運動、放物運動、雨滴の落下、振動、仕事とエネルギー、運動量、慣性力、回転運動、波動、熱、電場と地場についての講義を行います。 力学を学んだ後、波動、熱力学、電磁気学など、物理的な世界観を構成するために必要な基本的な考え方と意味について簡単に説明しますので、毎回予習復習を行い、物理的な見方を学んで下さい。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	物理の世界Ⅱ		現代物理学の基本法則を知り、典型的な物理現象を理解する力を身に付けることを目指します。 物理の世界Ⅱの概要、相対性理論、時計の遅れと棒の収縮、質量とエネルギー、原子の構造、光の粒子性、電子の波動性、不確定性原理、水素原子、原子核の構造、核エネルギー、放射能、素粒子、宇宙のビッグバンについての講義を行います。 相対性理論、原子の構造、不確定性原理、原子核、素粒子、宇宙論に関する、現代物理学を理解するために必要な知識について、初歩的な説明をしますので、毎回予習復習を行い、現代物理的な見方を学んで下さい。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	化学の世界Ａ		化学の世界Ⅰでは現代の生活に関わる，大気汚染，オゾン層破壊，地球温暖化，エネルギー問題，飲料水，酸性雨の６つのテーマを扱う。社会および個人として見た各課題の諸側面を提示した後でそれぞれの課題と化学との関わりを示し、次いで、その化学の中身を説明し、最後に、社会および個人の関わりを改めて議論する。 （オムニバス方式／全15回） （313 坂口幸一／7回） 大気、オゾン、気候変動に関する化学について講義する （180 冨永昌人／8回） エネルギー、水、酸性雨に関する化学について講義する	オムニバス

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	化学の世界Ｂ		現代の生活に関わる，原子力，電池，高分子化合物，薬，栄養，遺伝子工学の６つのテーマを扱い，実際の生活に関係する様々な場面において，化学がどのように関わっているのか，具体例を紹介しながら講義する。 （オムニバス方式／全15回） （128 鯉川雅之／7回） 核化学、電池、高分子に関する化学について講義する （352 藤澤知績／8回） 薬、栄養、遺伝に関する化学について講義する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	実験化学Ａ		（概要） 様々な化学現象を理解するための化学実験を行ない、化学現象の基礎を理解することを目標とし、安全に化学実験するためのポイントを学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （136 山田泰教／5回） 諸注意と安全教育、無機化合物の実験と講義 （146 成田貴行／2回） ナイロンの合成の実験と講義 （188 矢田光徳／2回） 人工イクラの実験と講義 （358 梅木辰也／2回） ヨウ素デンプン反応の実験と講義 （568 磯野健一／2回） 石鹸からろうそくを作る実験と講義 （481 江良正直／2回） 電気を流すプラスチックの実験と講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	実験化学Ｂ		（概要） 化学のおもしろさは、モルの計算でもなければ、反応式でもない。実験をすることである。この講義では、高校や中学で紹介された実験や生活の中で役立つ簡単な化学実験を中心に、「なぜだろう」から「簡単な原理」までを紹介する。 （オムニバス方式／全15回） （313 坂口幸一／5回） ガイダンスと安全教育、アミノ酸の匂い・化学平衡 （166 長田聡史／2回） ナイロンの合成 （128 鯉川雅之／2回） 化学発光と炎症反応 （117 海野雅司／3回） 色と光の吸収 （352 藤澤知績／3回） 高吸水性樹脂	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	地学の世界		（概要） 地球の構造や運動と、地球環境の変遷と生物進化および環境問題について講義を行う。 地球の構造や歴史を知り、その上で現在起こっている地球環境問題について考えていき、我々が住んでいるいる「地球」について理解を深める。 地球の構造、プレートテクニクス、地球の誕生、生命の誕生、先カンブリア紀の環境と生物進化、古生代の環境と生物進化、中生代の環境と生物進化、新生代の環境と生物進化、気候変動、地球環境問題に項目をわけて講義を行う。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	数理の世界		この講義では、主に初等整数論を解説する。 この分野は「数学Ａ」の内容にもあるが、その単元の知識を前提とはしない。 「初等整数論は早期の数学教育にとってもっともよい教材の一つであろう。〈BR〉それは予備知識をほとんど必要としない。その主題は確実で親しみやすく、用いられる推論の過程は単純で、一般的で、また新しい。そして人間の自然な好奇心に訴える点では、数学的な学問のなかでは独自のものがある。整数論を一ヶ月うまく教えると、微積分学を一ヶ月教えたよりは2倍も教育的で2倍も役に立ち、10倍も面白い。(Hardy, 1877-1947)」	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	佐賀大学	原子の発見		（概要） この世界にあるすべての物質は、原子という小さな粒子が多数集まってできています。これは、現代では常識です。しかし、我々は普段の生活の中で原子の存在を意識することはありません。原子はとても小さいので、その一つ一つを直接目で見ることができないからです。理科の時間に使った光学顕微鏡を使っても見えません。原子を見るには電子顕微鏡が必要です。 原子は今から100年ほど昔の20世紀初頭に、その存在が確立されました。その時代には、電子顕微鏡はありませんでした。電子顕微鏡は、原子の存在が確かめられ、原子がさらに小さな原子核と電子からできていることがわかった後に開発されたからです。虫眼鏡や光学顕微鏡しかない時代に、どのようにして原子の存在を確かめたのでしょうか？この授業では、人類がどのようにして原子の存在を確かめたのかを、じっくりと講義します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	情報科学の世界Ａ		コンピュータの理論的な動作原理を簡易型プログラミング言語（Scratch）での演習を含め、解説する。 具体的には有限状態オートマトン、プッシュダウンオートマトン、チューリングマシンについて講義する。 それらをプログラミング言語で実際にプログラミングする演習を行い、動作確認を行う。 授業と教員の研究内容との関連 本講義の内容は、担当教員の研究テーマのひとつであるプログラミング言語の基礎知識に相当する。	

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	情報科学の世界Ｂ		情報システムは、現代社会を支える基本的な仕組みとなっている。いまや社会基盤となった情報システムを理解することは、現代社会に生きる者として必須となっている。情報システムを理解するために、情報科学の基礎、情報システムの仕組み、情報システムを支えるインターネットの仕組み、情報システムを活用した様々なサービスの仕組み、そして安心して情報システムが使えるようにするためのセキュリティについて講義する。 【授業と教員の研究内容との関連】 担当教員は、永く総合情報基盤センター教員を務め、情報システムの設計・導入・運用に携わってきた。実務に関連した論文も執筆している。実務経験に基づく話題を取り入れながら講義を行う。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	機械工学の世界Ａ		機械工学の世界において，安全で，かつ経済的なものづくりを行うには，材料の力学，製図，加工などの知識が欠かせない．この科目は二人の教員で担当する。 （オムニバス方式／全15回） （179 萩原世也／8回） 力学の基礎となる力のつり合い、モーメントのつり合いなど初歩的な内容から説明した後、材料力学の基礎となる応力とひずみなどについて解説する。 （182 服部信祐／7回） 機械材料、製図、および加工などの基礎的な内容について解説を行う。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	機械工学の世界Ｂ		機械工学のもっとも基礎的な力学の一つである流体力学（流れの力学）の初歩を理解する。 （186 木上洋一／7回） 流体力学（流れの力学）の初歩を講義する。具体的には、粘性と圧縮性、圧力と水深の関連性、浮力の働き、渦運動や加速度運動、流体のエネルギーなどについて、具体例を交えて解説する。 （145 松尾繁／8回） 引き続き流体力学（流れの力学）の初歩を講義する。具体的には、ジェット推進、流線曲率の定理、コアンダ効果、はく離、境界層、揚力、マグナス効果などについて、具体例を交えて解説する。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	電気電子工学の世界Ａ		普段の生活の中で使われている様々なセンサ（光を使ったセンサ、電波を使ったセンサ、磁気を使ったセンサ、(超)音波を用いたセンサなど）やセンシング技術，さらには，医療及び産業界で開発されている先端センシング技術を紹介し，それらの原理や開発に至るまでの過程について説明する。普段の生活で利用しているセンサ及びセンシング技術の基本を理解する．また，センサ及びセンシング技術の開発に至る過程での基礎知識と発想や想像力の大切さを理解する．	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	電気電子工学の世界Ｂ		電気電子工学を学ぶにあたり必要となる知識を，中学と高校で学んだ理科・物理の内容を含め，簡単な歴史に触れながら説明する． 続いて，システム制御について概説し，その例として，様々な用途に利用されている機器について紹介する． 電気電子工学の基本となる，発電，モータ，電気回路等について，その基礎を理解する．システム制御と，その実社会での応用例（農作業ロボット、介護ロボットなど）についての知識を得る．	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	都市と生活		（概要） 暑さ寒さを和らげて快適な室内空間を作り出すために、住宅やビルなどの建築には様々な工夫がなされています。特に最近は住宅においても断熱と気密の性能が向上しており、省エネルギー性だけでなく、安全性も高くなりつつあります。この講義では、住宅やオフィスビルなどにおける室内熱・空気環境調節技術について、建築的ならびに設備的な観点から説明します。 また、建築を取り巻く昨今のエネルギー問題や地球環境問題についても紹介します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	インタラクティブコンテンツ入門		（概要） 主な授業内容は以下の4点 （１）Springin’Classroomを用いて2Dインタラクティブコンテンツ制作の基礎について理解する （２）3次元空間についての基礎知識を理解する （３）Unityを用いて3Dインタラクティブコンテンツ制作の基礎について理解する （４）VRやMR、メタバースなどの先端的社会状況について論考する。 ―――――――― 授業は、講義が半分、演習が半分です。 講義では、話を聞くだけではなく、グループ等でのディスカッションも取り入れます。 教え合い・学び合いを基本方針とします。 演習では、上記ソフトウェア（アプリ）を使った初歩的なコンテンツの作り方を学んだ後、上記のソフトウェア（アプリ）のどちらかオリジナルのコンテンツを作成してもらいます。 オリジナルのコンテンツはシンプルなもので構いません。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	環境をはかる		（概要） 本講義では，毎回，身近な環境問題から地球規模的な問題をいくつかを取り上げ，広範な「環境」問題を読み解かせる．社会生活の高度化とともに多種多様な物質が意図的あるいは非意図的に環境中へ放出され，人間を含めた生態系に大きな影響をもたらしている．また，近年ではこのような環境問題は，多方面にわたり，その被害や影響は地球規模に及んでいる．ここでは，環境問題が意味することを読み解くための基礎的知識の習得を行うことを目指す．	

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	肥前セラミック学		（概要） 佐賀県の代表的産業であるやきもの・セラミックスに関連する講義を行うとともに、実験や実習やフィールドワーク等の実践的な教育も行う。 （オムニバス方式／全15回） （188 矢田光徳／1回） ガイダンス、やきもの・セラミックスとは （110 一ノ瀬弘道／1回） サイエンスの視点から見たやきもの作り （122 近藤文義／1回） やきものに使う土・泉山陶石 （117 海野雅司／1回） やきもの鑑定 （482 根上武仁／1回） やきもの・セラミック廃材の有効利用 （148 川喜田英孝／1回） 実験１：セラミックス粒子を導入したゾル （568 磯野健一、314 三沢達也／1回）（共同） 実験１：セラミックスを用いた電池の作成 （137 山本長次／2回） 有田の磁器生産や販売 （175 湯之原淳、310 甲斐広文／2回）（共同） カップの排泥鋳込み （189 有馬隆文／2回） 有田の街並み・建築 （170 田中右紀／1回） 肥前窯業の歴史や仕組み （315 三木悦子／1回） 鋳込み体験したカップの仕上げ	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	ＡＩ・数理・データサイエンスⅠ		（概要） プログラミングができれば、大量のデータを処理する、あるいは作業を自動化することができます。効率があがるだけでなく、間違いも少なくなります。しかし、プログラミングは難しいのでは？Pythonは、比較的簡単に習得でき、かつ短いプログラムで様々なことができるプログラミング言語です。本講義は、プログラミングを全く知らない人をが、Pythonの初歩を習得させることを目指します。併せてMATLABの最初の一歩も提供します。	共同
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	ＡＩ・数理・データサイエンスⅡ		現代のAI・データサイエンスには機械学習が必要不可欠です. この講義では「機械学習とは何か？」をテーマとして，機械学習の数理的な背景とそのプログラミングについて講義します. また，AIやデータサイエンスではどのように機械学習を使っているかを事例を通して説明します. データさえ入力すれば自動的に結果が出てくるというような，計算機が出力した結果を鵜呑みにするのではなく，その機械学習モデルの背景の知識とそれを実際に計算する能力を身につけてください.	共同
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	農学の世界Ａ		本授業では、農業従事者が生活する農村における生活環境及び自然環境と人々の活動との関連について学びます。 本授業では、佐賀県の地形、佐賀県の気象、佐賀県の農業、農村の水環境、農村の土環境、農村の大気環境、農村における開発行為、農村における環境保全についての講義を行います。 講義では、人々の生活や農業に欠かすことのできない水（質・量）や大気に関する佐賀県内での事例を中心に紹介します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	農学の世界Ｂ		農業生産の基盤である農地は、高い土地生産性と労働生産性、および環境に関する保全性を併せ持つ必要がある。本授業は、地域による特殊性を考慮した農地の造成、整備、環境保全に関わる基本的な事項について講義します。国内外の農業と農地環境に関わる基本的知識を習得します。具体的には、農地の造成と整備に係わる農業土木的な計画・設計・維持管理に加えて、農地の果たす環境保全的な役割について理解することを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	佐賀大学	STEAM学習基礎		講義前半では、STEAM教育の基本概念や歴史、デザイン思考、社会事例から見るSTEAMの意義、ロジカルシンキング、チームビルディングのスキル等について理解する。また、CADソフト（Fusion）を用いた３次元モデリングの練習を行い、プロダクト設計の基礎的なスキルを身につける。授業後半では，チームごとに身近な課題を解決するためのプロダクトを考案するとともに，Fusionを用いて設計し，更に３Dプリンターを用いて製作する。また，学びの総括として製作した小物を用いたプレゼンテーションコンテストを行う。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	生物科学の世界Ａ		（概要） 本講義では「生命の科学」分野の中でも，特に細胞と遺伝子について．それらはどういうものなのか？私達の生活とどのような関わりがあるのかなどを学ぶ. なお，本講義は基本的に前半を鈴木章弘教授，後半を後藤文之教授が担当する. （オムニバス方式／全15回） （190 鈴木章弘／8回） 主に高等植物の細胞と遺伝子の働きについて具体例を交えて解説する。 （127 後藤文之／7回） 生命の機能単位としての細胞等について解説する。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	生物科学の世界Ｂ		（概要） 多くの生物のゲノム配列が解読された現在、生物に対する分子レベルでの理解が急速に深まりつつある。この新しい生命科学研究の潮流を踏まえつつ、生命科学、特に遺伝学・分子生物学の基礎について学習する。ネット上の教科書であるDNA from the beginning（http://www.dnaftb.org/）に沿って、生命科学の基礎について学習する。 生命科学、特に遺伝学・分子生物学の基礎の基本的な知識を得ることができることを目指す。	

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	栄養科学A		（概要） 栄養と人体のいくつかの器官系の構造や機能、疾病を関連させて講義する。なお、筋骨格系（運動）については、「こころに関する恒常性（ホメオスタシス）」と関連づけて後期の「栄養科学B」で扱う。また、五大栄養素のうち、ビタミンとミネラルについても「栄養科学 B」で扱う。 「健康」を考える上で、人体を「モノ（身体）に関する恒常性（ホメオスタシス）」が成立しているシステムと捉え、健全に維持するための知識と日常生活上の技能を紹介する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	栄養科学B		（概要） 生体の恒常性（ホメオスタシス）とその維持について、心身（身心）の構造と働きを視点として講義する。 三大栄養素、人体の機能を保つために必要な有機化合物とミネラル（無機質）、人体の構造と機能、「ヘルス」「ウェルネス」「ウェルビーイング」あるいは「ハピネス」という概念、生体（概日）リズムと睡眠、「メンタルヘルス」、心理療法などについて解説する。 心身（身心）の構造と働きについて意識し、生体の恒常性（ホメオスタシス）と関連事項を理解し、日常生活に役立てられるようになることを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	栄養科学C		（概要） 食品、調理、食品衛生、公衆衛生の概論（全体像）について講義する。 食及び食の周辺事項に関する知識を獲得し、知識を基に思考や行動を主体的にでき、知り得た知識を基に食に関する生活場面での必要に応じて、技術を調べて自ら試すことができるようになる等、学生自ら食生活の質の向上を図れるようになることを意図する。 （オムニバス方式／全15回） （3 岡島俊哉／11回） 食品、調理、食品衛生について講義する （138 市場正良／4回） 公衆衛生について講義する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	生命科学の基礎A		男女の「性差」についての知見は，遺伝子やDNAの発見によって大きく進展し，性ホルモンや脳の機能にまで研究が及ぶようになったが、日本社会の全般的な認識としては旧来の常識がまだ根強く残っており，影響を及ぼしている．そこで，多分野にわたる講師によるオムニバス形式で，概説や専門的で多様な視点からの分析を通して「性」とは何か，また「性差」について統合的に幅広く学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （191 鈴木智恵子／4回） 脳機能と性差、総括 （160 池田智哉／4回） 男女間の社会的・法的問題 （582 大坪美由紀／4回） 性とは　発達と性差 （7 吉岡剛彦／3回） 生殖とジェンダー	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	生命科学の基礎B		人類が幸福な生活を送るために医学・医療は不可欠なものである。医学・医療の発達には動物実験が不可欠であることは多くのヒトが認めることではあるが、不適切な動物実験に対する反対運動があることも事実である。適切な動物実験を理解し、社会に認知された動物実験を行うことが求められている。本講義では、動物実験に使用される実験動物の種類、適切な維持・管理の方法と動物福祉に基づいた適切な動物実験について講義する。 （オムニバス方式／全15回） （360 北嶋修司／10回） 実験動物概論、規則・法律、実験動物の種類、実験動物の遺伝学的統御、環境統御、飼育管理と取扱い、動物福祉 （576 松久葉一／5回） 実験動物の微生物学的統御、人獣共通感染症、発生工学	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	生命科学の基礎C		（概要） 医学・看護学研究の最新の話題を，主に基礎医学系，看護系の研究室から紹介する。後半は臨床医学の導入や臨床研究に関して紹介する。模擬研究も行う予定。臨床的な視点に興味は向きがちだが，医学・看護学の基礎研究も重要であることを知ってほしい。 （オムニバス方式／全15回） （571 岩本幡平／1回） 病因病態と研究1 （114 加藤省一／1回） 病因病態と研究2 （570 岡田貴裕／1回） 分子生物学と研究1 （578 石塚茂宜／1回） 分子生物学と研究2 （135 山田小織／1回） 看護学と研究1 （579 折橋隆三／1回） 看護学と研究2 （150 倉岡晃夫／1回） 生体構造機能と研究1 （569 塩谷孝夫／1回） 生体構造機能と研究2 （124 原めぐみ／1回） 社会医学と研究 （316 山下駿／1回） 医学教育開発と研究 （353 徳島圭宜／1回） 臨床医学と研究1 （573 香月尚子／1回） 臨床医学と研究2 （143 青木茂久、140 小田康友／2回）（共同） 模擬研究の解説・演習と発表	オムニバス・共同（一部）

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	佐賀大学	生命科学の基礎Ｆ		生命現象の分子的基盤について、いろいろな生体分子の構造・機能・生合成という点から解説する。 酵素学およびタンパク質や糖鎖などの生体高分子の構造と機能が内容の多くを占めるので、このような分野に全く興味がない場合にはかなりの苦痛をともなう可能性がある。医学に関連した生物化学の知識を深めたい人で、かつ興味を維持出来る人の受講を希望する。また、この講義をきっかけにして、各自興味のある生体分子やそれが関与する生命現象についての理解を深め、各自の専門教育に活かしてもらいたい。 （オムニバス方式／全15回） （159 池田義孝／6回） 酵素反応のしくみ、活性酸素と酸化ストレスについての講義、総括 （305 井原秀之／5回） 糖鎖の機能と生合成、血液型と糖鎖、糖鎖と疾患、糖鎖工学、翻訳後修飾についての講義 （570 岡田貴裕／5回） 免疫系の概要、自然免疫、獲得免疫、ワクチンとアジュバントについての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学と技術の分野特別講義	佐賀大学	九州・沖縄学Ⅱ		（概要） 本授業は、九州地区の国立大学が連携して実施する「九州学―九州の自然編」の授業である。各大学が提供する下記のトピック科目の中から７つのトピックを受講生が選択し、九州各県・各地域の特色を活かし、それらの魅力について多角的に学修する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学と技術の分野特別講義	佐賀大学	やさしい電子回路		現代の高度情報化社会を支える基盤技術は、スマートフォンを含めたコンピュータなしでは語れない。現在、そこに蓄積される膨大な情報には、想像以上の価値が見出されているものの、それを可能としているのは、トランジスタなどで構成される電子回路である。普段、我々の目には触れないため、概して関心は低いかもしれないが、現状では、このような技術なしで世の中は動いていかないのも事実である。そこで、本講義では、このようなトランジスタを用いた電子回路の働きについて理解する。 まず電気回路の復習から始め、能動素子（ダイオードやトランジスタ）、増幅回路、オペアンプを用いた電子回路という順番で、少しずつ段階的に説明していく。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	ドイツの言語と文化Ⅰ		（概要） 本講義はドイツ語の初級文法を学ぶことを目的とする授業です。文法事項は本学オンライン試験システム（＝eラーニング）を使って学んだ項目の課題を毎週提出する形で学習を勧めます。教室での対面授業では発音と聞き取りに重点をおいて学んでいきます。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を連動させた形で進めます。 ドイツ語の習得を通してドイツ語圏の言語と文化への関心を高めるために、毎回教科書に沿って文法項目をひとつずつ学びつつ、eラーニングを使った練習問題でドイツ語の理解の定着を目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	ドイツの言語と文化Ⅱ		（概要） 本講義はドイツ語の初級文法を学ぶことを目的とする授業です。文法事項は本学オンライン試験システム（＝eラーニング）を使って学んだ項目の課題を毎週提出する形で学習を勧めます。教室での対面授業では発音と聞き取りに重点をおいて学んでいきます。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を連動させた形で進めます。 ドイツ語の習得を通してドイツ語圏の言語と文化への関心を高めるために、毎回教科書に沿って文法項目をひとつずつ学びつつ、表現演習でドイツ語の理解の定着を目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	フランスの言語と文化Ⅰ		（概要） テキスト『 なびふらんせ１ーパリをめぐるー 』は豊富なパリ情報や文化紹介の写真を見ながら、パリにいるイメージで学習が進みます。自然なフランス語を通してフランスでの生活や文化に触れ、「 聞く・話す 」「 読む・書く 」ために必要な基礎を固めます。まずフランス語の音に触れ、状況を目で見て想像力を働かせて理解するよう努めます。その流れの中でフランス語の使い方を発見しましょう。文法を理解し語彙を増やしたら、フランス語をコミュニケーション・ツールとして使ってみます。状況に応じてフランス語を使えるよう、知り得た情報から考えながらフランス語で表現できるように実践しましょう。 フランス語を学ぶことにより、フランス語を使う人々の文化や習慣を知り、価値観の多様性を認識し、国際社会に対する複眼的視野を育成します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	フランスの言語と文化Ⅱ		（概要） テキスト『 なびふらんせ１ーパリをめぐるー 』は豊富なパリ情報や文化紹介の写真を見ながら、パリにいるイメージで学習が進みます。自然なフランス語を通してフランスでの生活や文化に触れ、「 聞く・話す 」「 読む・書く 」ために必要な基礎を固めます。まずフランス語の音に触れ、状況を目で見て想像力を働かせて理解するよう努めます。その流れの中でフランス語の使い方を発見しましょう。文法を理解し語彙を増やしたら、フランス語をコミュニケーション・ツールとして使ってみます。状況に応じてフランス語を使えるよう、知り得た情報から考えながらフランス語で表現できるように実践しましょう。 フランス語を学ぶことにより、フランス語を使う人々の文化や習慣を知り、価値観の多様性を認識し、国際社会に対する複眼的視野を育成します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	中国の言語と文化Ⅰ		中国語の学習を通して中国の文化についてふれる。発音練習から始めて、中国語の基礎的な事項について講義する。文法・語法についても詳しく解説する。教科書に沿って授業を進めていく。毎回小テストを課すので、予習・復習をした上で、授業に臨むこと。 発音や文法・語法の基礎を習得したり、日常会話によく用いられる語彙のうち、比較的簡単なものを覚えることを目指します。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	中国の言語と文化Ⅱ		（概要） 中国語の基礎的な事項について学ぶ。教科書に沿って授業を進めていく。毎回小テストを課すので、予習・復習をした上で、授業に臨むこと。後期は前期の続きですので、受講登録は、中国の言語と文化Ⅰを受講したことがある者に限ります。 発音や文法・語法の基礎を習得したり、日常会話によく用いられる語彙のうち、比較的簡単なものを覚える、そして簡単な自己紹介ができるようになることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ		（概要） 日本語と系統を同じくする韓国・朝鮮語は日本語を母語とする学習者にとって学びやすい言語ですが、発音及び音の構造が日本語とは異なります。言語構造及び音素文字でハングルを学びながら音の構造を学びます。 韓国語の発音の構造を理解し、表音文字であるハングルを正しく読めるようになる、韓国語の構造を理解し、基本的な文法を習得することを目指します。また、韓国語を学ぶことで韓国についての理解を深めます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ		（概要） 韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰを受講した学生もしくはハングルが読める学生が対象です。韓国語の用言の活用を学び、作文及び翻訳ができるようになることを目指します。また、会話練習を行います。 韓国語で作文・翻訳ができるようになり、会話を楽しむことができます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	Western Culture		This course explores key aspects of Western culture, focusing on cultural values, traditions, social structures, language, and the arts. It encourages comparative analysis between Western and Japanese cultures, helping students develop a deeper understanding of cultural similarities and differences. Through discussions, research, and the study of English idioms and sayings, students will enhance their cultural awareness and language skills. English Proficiency Requirement: This course is designed for students with a TOEIC score of 500 or higher or at least an intermediate (B1) level of English proficiency. Students should be able to comprehend lectures, participate in discussions, and express their ideas in both written and spoken English. This class will be conducted entirely in English. このコースでは、文化的価値観、伝統、社会構造、言語、芸術に焦点を当て、西洋文化の主要な側面を探求します。西洋文化と日本文化の比較分析を促し、文化の類似点と相違点についての理解を深めます。ディスカッション、リサーチ、英語の慣用句やことわざの学習を通して、文化認識と言語能力を高めます。 英語力の要件 このコースはTOEIC500点以上、または中級（B1）以上の英語力を持つ学生を対象としています。講義を理解し、ディスカッションに参加し、書き言葉と話し言葉の両方で自分の考えを表現できることが望ましい。このクラスはすべて英語で行われます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	Intensive English Ⅰ		This course will guide students to sharpen their skills in reading, listening, speaking, and writing so that they may attend the academic and social events offered in English at the University more confidently. They will be instructed on how to initiate and continue self-learning outside of class hours to expedite the learning process. Since the classes will mainly be conducted as seminars where collaborative learning is encouraged and task-based learning (TBL) is a major approach, students will be given individual, pair, and group work. Those who happen to miss out on any class may be given one or more additional assignments as homework このコースでは、学生がリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングのスキルを磨き、大学で提供される英語の学術的および社会的イベントに自信を持って参加できるようにすることを目的としています。授業外の時間に自己学習を開始し、継続する方法についても指導され、学習プロセスを迅速化します。 授業は主にセミナー形式で行われ、協働学習が奨励され、タスク・ベースド・ラーニング（TBL）が主要なアプローチとなります。学生は個人、ペア、グループでの課題が与えられます。 授業を欠席した場合、追加の宿題が一つ以上与えられることがあります。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	Intensive English Ⅱ		This course will guide students to enhance their knowledge of and skills in all areas of English so that they may continue self-learning taking classes offered in English more confidently. How to develop skills in critical thinking and converting such thinking to argumentative writing also will be a focus in this class. Since the classes will mainly be conducted as seminars where collaborative learning is encouraged and task-based learning (TBL) is a major approach, students will be given individual, pair, and group work. このコースでは、英語のあらゆる分野の知識とスキルを高め、英語で行われる授業をより自信をもって受けられるよう、自己学習を継続できるよう指導します。また、クリティカル・シンキング（批判的思考）をいかに身につけ、それを論述につなげるかという点にも重点を置く。 授業は主にゼミ形式で行われ、共同学習が奨励され、タスク・ベースド・ラーニング（TBL）が主要なアプローチとなるため、学生には個人ワーク、ペアワーク、グループワークが与えられる。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	Academic English		In academic settings, it is extremely important to convey information in a logical, orderly, and easy-to-understand manner, and to deepen understanding of through questions and answers. In this course, students will develop presentation skills along with the English expressions needed to do so, and then have the opportunity to put what they have learned into practice. The course will include presentations and practice of English expressions that can be used for introductions, sign-posting, chunking and intonation, emphasizing important content, summarizing a presentation, and responding to questions and answers, and will finally put these into practice in a presentation on education-related content. アカデミックな場では、情報を論理的・整然とわかりやすく伝え、質疑応答を通して理解を深めることが非常に重要です。本講座では、プレゼンテーション能力とそれに必要な英語表現を身につけ、実践の場で活用できるようにします。イントロダクション、サインポスト、チャンクとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンテーションの要約、質疑応答などに使える英語表現の発表と練習を行い、最終的には教育関連の内容のプレゼンテーションで実践します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	Business English		（英文） his course will focus on improving English listening and reading skills through study efforts for TOEIC® and other English language exams. Due to the compressed format of the class, some units will not be covered in full. This course aims to provide students with strategies to improve their vocabulary, listening, and reading skills in each of the areas covered by the TOEIC. TOEIC®をはじめとする英語検定試験の学習を通して、英語のリスニング力とリーディング力の向上を目指します。圧縮された授業形式のため、一部の単元は完全にカバーされません。 このコースでは、TOEICでカバーされる各分野の語彙力、リスニング力、リーディング力を向上させるためのストラテジーの習得を目指します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	アカデミック独語		（概要） 本講義は中級レベルのドイツ語力の定着を目的とする授業です。ドイツ語検定3級、2級の過去問や同レベルの類似の問題を用い、文法の総復習を行うことでこれまで学んできた文法事項を確認し、自由に使える能力を養います。 独検受験を取り掛かりとして中級以上（独検2級合格に要求される以下のレベル）のドイツ語力を定着させることを目指します。 ①ドイツ語の文法と語彙についての知識を前提に日常生活に必要な会話や社会生活で出会う文章を理解できる。②長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	ドイツ文化論Ａ		（概要） ドイツ人は何を食べ、どう暮らし、何を考えてきたのか タキトゥスの記述に見られる古代ゲルマンから、宮廷叙事詩を生んだ騎士文化の花開いた中世、三十年戦争の影を色濃く残すバロック、近代の科学技術の扉を開いた啓蒙期、豊かな芸術と思想を生み出したロマン主義の19世紀前半までのドイツ語圏の様々な文化事象を解説する。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの歴史と文化事象を概観するには、ヨーロッパそのものを視野に入れなければならないし、近世以降は、世界を視野に入れて、ドイツとは何かを問う必要がある。ヨーロッパ文化史、世界文化史の文脈でドイツ文化を見ると新たになにが見えてくるかを提示する。従って第一に、ヨーロッパの歴史の流れを理解する。そして第二に、その流れの中にドイツ語圏の文化を位置づける。この二つの作業を通じて、受講者はドイツとは何かという問を考察してゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	ドイツ文化論Ｂ		（概要） ドイツ人は何を食べ、どう暮らし、何を考えてきたのか 文化爛熟の19世紀末、ナショナリズムと20世紀の二度の世界大戦、そして東西への分断と統一を経験した今日までのドイツとドイツ語圏の歴史を概観し、そこに生まれた芸術作品を中心に紹介する。芸術作品の鑑賞を通じてドイツ語圏の豊かな文化を照らし出す。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの歴史と文化事象を概観するには、ヨーロッパそのものを視野に入れなければならないし、近世以降は、世界を視野に入れて、ドイツとは何かを問う必要がある。ヨーロッパ文化史、世界文化史の文脈でドイツ文化を見ると新たになにが見えてくるかを提示する。従って第一に、ヨーロッパの歴史の流れを理解する。そして第二に、その流れの中にドイツ語圏の文化を位置づける。この二つの作業を通じて、受講者はドイツとは何かという問を考察してゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	ドイツ文化論Ｃ		ヨーロッパのなかのドイツ語圏−生活文化の比較と考察− 　ヨーロッパ古代から現代までの衣食住についてドイツ語圏とその他の地域の特徴を比較しながら，ドイツ語圏特有のありさまを把握する。服装の意味や，食卓の変化，建築様式の変遷などを，文学や絵画や音楽などの文化事象を手がかりに考察する。 　地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの文化史という観点から，ヨーロッパそのものを視野に入れ，ドイツ語圏とは何かを問う。ヨーロッパ文化史，世界文化史の文脈のなかにドイツ語圏の文化を位置付けることによって見えてくる影響関係と特異性とを取り上げる。主に生活文化という視点から考察を進めてゆく。	隔年

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	佐賀大学	ドイツ文化論D		ヨーロッパのなかのドイツ語圏−言語文化の比較と考察− ヨーロッパ古代から現代までの言語文化についてドイツ語圏とその他の地域の特徴を比較しながら，ドイツ語圏特有のありさまを把握する。文字の歴史や，音声の変化，文学の誕生と存在意義などを考察する。絵画や音楽などの芸術や生活文化にかかわるメタテクストとしての批評をも手がかりとして考察する。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの文化史という観点から，ヨーロッパそのものを視野に入れ，ドイツ語圏とは何かを問う。ヨーロッパ文化史，世界文化史の文脈のなかにドイツ語圏の文化を位置付けることによって見えてくる影響関係と特異性とを取り上げる。主に言語文化という視点から考察を進めてゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	佐賀大学	日本古典文学A		日本の平安時代の古典文学、具体的には『竹取物語』『伊勢物語』を読む。日本の平安時代の古典文学を読み、物語文学の読み方や考え方、また古典文学の常識を学ぶことにより、平安文学という異文化を理解することを目的とする。また、基礎的な語彙力を養成することも目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	佐賀大学	日本古典文学B		日本の平安時代の古典文学、具体的には『源氏物語』若菜上・若菜下を読む。古典文学の最高傑作『源氏物語』の中でも、特にドラマチックとされる若菜上・若菜下を読み、そこから物語文学の読み方や考え方、また古典文学の常識を学ぶ。平安文学という異文化を理解することを目的とする。また、日本の文学史の知識を習得する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	佐賀大学	欧米の文化・文学		イギリスの中世文学作品の解読を通して、それらがイギリス国民意識の成長にいかに寄与したかを探っていきます。 第1回で、授業の構成等について説明した後、第2回から第6回までは、「アーサー王物語」の歴史的背景と物語の継承について概説します。続いて、第7回から第11回までは、「ロビン=フッド物語」の歴史的背景と物語の継承について解説します。第12回から第15回までは、中世に生まれたこれらの伝承文学が、どのようにしてイギリスの国民文学に発展し、国民のアイデンティティ形成に影響を及ぼしたかを考察していきます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	佐賀大学	ドイツ文学A		（概要） 本講義は、読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から２作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいます。作品の引用箇所は履修者の皆さんで順番に音読してもらいます。 今回取り上げるのは次の２作品です。 ●ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ『若きウェルテルの悩み』 ●ベルンハルト・シュリンク『朗読者』 異文化への興味を高め、読書を身近なものとして感じる体験をしてもらいたいです。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	佐賀大学	ドイツ文学B		（概要） 本講義は、読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から２作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいます。作品の引用箇所は履修者の皆さんで順番に音読してもらいます。 今回取り上げるのは次の２作品です。 ●ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』 ●ミヒャエル・エンデ『モモ』 異文化への興味を高め、読書を身近なものとして感じる体験をしてもらいたいです。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	佐賀大学	芸術論		（概要） 講義は二人の講師によって前半と後半に分けて行ないます。 （オムニバス方式／全15回） （8 栗山　裕至／8回） 精神医学や臨床心理学の基礎理論に基づきながら、人間の精神構造や無意識の心理、創造性や病理の関係などを概説する。それらの内容を受けて、具体的に造形芸術家の例をあげ、病跡学的解説を行います。 （99 吉住　磨子／7回） 社会の中で周縁におかれた人々の図像を通して、ヨーロッパ社会の権力や中心を相対化することを試みます。	隔年・オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	佐賀大学	音楽史・音楽論		生きている時代の文化や社会構造，政治的背景に翻弄される人間の感性の痕跡を，その時々の音楽から読み解いていく。それぞれの時代に聴かれた音楽を多面的に理解することで，近現代史における多様な社会の側面を理解する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	佐賀大学	日本語学		（概要） 上古から近現代まで日本語がどのように変化してきたかについて、音韻・文字・表記・語彙・文法などの側面から見ていきます。当時の言語資料を知るために、簡単な文学史の復習と作品講読を取り入れ、当時の文章に触れながら言葉の変化を理解することを目指します。 奈良時代、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代前期・後期、明治以降ごとに、れぞれの時代背景と言葉の変化が大きく関わっていることを認識し、いくつかの古典作品の講読を通して、各時代の日本語の様相を理解します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	佐賀大学	コミュニケーション論		（概要） 本科目は、総合的なコミュニケーション能力の向上につながる基本的な知識や技能を修得するための講義を行います。基礎理論、言語、非言語コミュニケーション、対人的コミュニケーションから異文化コミュニケーションまでを包括的に取り扱います。講義は複数名の教員で担当するオムニバス形式の授業です。 現代社会において最も重要なスキルであるコミュニケーションについて学問的な知識を身につけるために、さまざまな観点からコミュニケーションの概念について理解します。	共同

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	佐賀大学	Critical Thinking for the Modern Age		（英文） This course introduces students to key aspects of critical thinking essential for navigating today's world, including logical reasoning, media literacy, ethical decision-making, and problem-solving. Students will analyze real-world case studies from both Japanese society and the wider world. Through interactive discussions, presentations, and written assignments, they will refine their ability to think critically and apply these skills to contemporary issues. The primary aim of this course is to cultivate a mindset of critical inquiry and rational thinking. By engaging with real-world examples and practical exercises, students will enhance their ability to question information, evaluate evidence, and articulate well-founded arguments. Ultimately, the course seeks to equip students with the skills necessary to make informed decisions, contribute meaningfully to discussions, and adapt to an ever-evolving global landscape. このコースでは、論理的推論、メディア・リテラシー、倫理的意思決定、問題解決など、現代社会を生き抜くために不可欠なクリティカル・シンキングの重要な側面を紹介します。受講生は、日本社会および世界における実際のケーススタディを分析します。双方向のディスカッション、プレゼンテーション、レポート課題を通して、批判的に考える力を磨き、これらのスキルを現代の問題に応用していきます。 このコースの第一の目的は、批判的探究心と合理的思考を養うことである。実際の事例や実践的な演習に取り組むことで、情報を疑い、証拠を評価し、根拠のある議論を明確にする能力を高めます。最終的には、十分な情報に基づいた意思決定を行い、議論に有意義に貢献し、進化し続けるグローバルな状況に適応するために必要なスキルを身につけることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	佐賀大学	Cultural Metaphors		（英文） This course will consist of lectures, discussions, note-taking activities, critical thinking activities and writing activities about the values of various cultures around the world. During the course, students will be expected to take notes and actively participate in discussions. Regular attendance and participation are very important. This class will let the students develop a framework for understanding and interpreting the cultural of other societies and help them grow as members of a global society. このコースは、世界中のさまざまな文化の価値観についての講義、ディスカッション、ノートテイキング活動、批判的思考活動、ライティング活動で構成されます。コース期間中、受講生はノートを取り、ディスカッションに積極的に参加することが求められます。定期的な出席と参加は非常に重要です。 この授業を通して、他国の文化を理解・解釈するための枠組みを身につけ、グローバル社会の一員として成長することを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	哲学・倫理学		哲学は、前提条件をつけずに、あらゆる事柄をとことん最後まで考え抜くところに、その特徴があります。哲学が、様々な学問が前提にしている知識や概念（自然、生命、歴史、経済、法、道徳）を自明視せずに、それらの根拠を更に問おうとするのは、哲学的思惟の本質に属しているといえます。ところで、予備知識がなくても素手でものを考えることができる点に哲学の一つの醍醐味がありますが、とはいえ、哲学を理解するうえで、論理的にものを考えるトレーニングを積むことや、哲学の古典を読解する能力を身につけることや、哲学史の流れを把握することも重要です。 本講義では、いくつかのテーマに沿って、現代日本の哲学者の主張を紹介しながら、そのテーマに関する哲学思想のエッセンスについて概説します。授業の後半では倫理思想に関する話題も取り上げます。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	考古学		（概要） 考古学の方法等の概要について講義形式で学習する。 考古学的な成果が歴史学に占める比重は、次第に高まっている。その歴史的な意義を的確に判断するためには、考古学の方法等についての知識が不可欠である。本講義では考古学の方法、理論等の現状について、日本各地はもとより他国の例もみながら概観することにしたい。 具体的には、考古学の対象範囲と抗議の概要、考古学の成り立ちと展開、考古学の資料、考古学の方法、考古学と古環境、考古学からの食生活の復元、などの講義を行う。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	日本史		（概要） 本講義では、日本史上の政治的変遷を中心にその基礎的内容の解説を行うが、特に各時代の政治・経済・文化等の様々な社会システムの中核施設だった「城」と「城下町」の発達史を通じて、最新の調査・分析成果を交えながら日本社会の変化の実像を学習してもらう。 日本史を考え、より深く理解するためには様々な媒体（古文書、古記録、絵画史料、遺跡、遺物…等々）からのアプローチが欠かせない。一つのテーマを追究するために、多面的な事象や情報を駆使しながら考える習慣を身に付けていく。そして、社会人として必要な文化的素養の習得と充実に繋げる。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	東洋史		（概要） 中国の歴史を、古代から現代まで概説する。各時代において重要な役割を担った人物にも光を当て、また、その歴史に様々な形で影響を与えてきた儒教・仏教・道教についても解説する。中国と日本との関係についても適宜紹介していきたい。日本をはじめ東アジアに多大な影響を与えてきた中国の歴史を学ぶことで、隣国中国について学び、佐賀大学学士力に示された「3-(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力」を身につける。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	西洋史		（概要） 近現代ヨーロッパ（フランス）の歴史をさまざまなトピックに分けて学んでいく。現代社会には教育、家族、宗教、移民、言語、政治などの分野において、さまざまな社会問題が存在する。しかし、これらの問題は現代に突然発生したものではなく、その起源と本質を知るためには19世紀にまで遡らなければならない。これらの社会問題の起源・本質を知るために19世紀のヨーロッパの歴史を考察する。また、同時代の日本の歴史を比較検討することで、近現代の歴史についてグローバルに学んでいく。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	人類学		人類学は大きく分けて２つある。一つは、ヒトの文化的特徴や社会的営みを研究対象にする文化人類学、もう一つは、霊長類全般（ヒト包括したサルの仲間）を含め、身体的特徴や遺伝的情報など生物学的特徴を研究対象にする自然人類学である。この講義では、自然人類学を学んでいく。特に、どのような動物・霊長類からヒトが進化して現在に至るのか、さらには日本列島のヒト・地域集団は、どのような集団から分かれて現在のものとなったのか、形態学的特徴と遺伝的情報の２つの側面から探っていく。毎回の講義は、スライドと配布資料を用いて行う。 （オムニバス方式／全15回） （477 菊池泰弘／7回） 人類学の歴史、現生霊長類、現生類人猿についての講義 （566 川久保善智／7回） 原人、旧人、新人、縄文人、弥生人、復顔についての講義 （583 大野憲五/1回） 発掘の方法や研究についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	スポーツウェルネスの世界		（概要） ゴルフ，ボウリングというポピュラーなスポーツを題材とし，主にスライドを用いてこれらの競技が成立するに至った時代背景，ルール変遷の歴史的経緯，著しい技術革新がもたらした道具の進化など，主に歴史的・文化的側面からスポットを当てつつ解説する。 WHOによって提示された“ウェルネス（wellness）”とは，いわゆる「健康」の枠組みを超えた多元的な健康観であり，各人が自身の価値観や人生観に基づき，目的としてではなく，より良く生きるための手段として健康をとらえることを指す。当該講義は，学生が歴史的・文化的視点から競技としてのゴルフとボウリングの成熟過程を学ぶことで，社会を形成する市民として必要なスポーツ文化に対する理解を深めることを目的とし，さらにウェルネスの概念との接続によって，生涯スポーツの実践につながる布石と成すことを期待したい。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	近代サッカーの成立と進歩		（概要） この授業科目は、単にサッカーをする授業ではない。近代サッカーの理論を講義から理解すると共に、その理論を基とした技術・戦術の理解と体得を目指す科目である。 近年、大きく発展したサッカーの理論を元にした技術・戦術を体得してもらうために、毎回の授業では近代サッカーの理論について理解すると共に、演習として学んだ技術・戦術をゲーム等の中で表現してもらう。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	サッカーの歴史と技法		（概要） サッカーを取り巻くあらゆる諸相を取り上げ、様々な観点からサッカー競技の課題研究・分析する科目である。主にグループワークが中心となるが、それぞれが関心のあるテーマでプレゼンテーションを行いながら、サッカー競技全般を取り巻く諸相について見識を深め理解する。 スポーツとしてのサッカーの技術的な問題に加え、その背景にある成り立ち、歴史、文化、規則等と関連させながら深く学ぶことで、サッカーに関する知識を文化的側面まで理解、発展させる素養を築いてもらうことを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	柔道の歴史と技法		本講義は、柔道未経験者を対象にして柔道の歴史背景や文化、理論、哲学等と関連させながら初歩的な技術を学ぶ科目です。技術の理解・習得には多くの時間を要しますので、多くの時間を稽古の時間に充てます。基本的には試合は原則しませんので、争うことが苦手な人でも問題ない内容になっています。授業の最終回後には授業内容を「振り返りシート」に整理してもらいます。「実技試験」の結果と「振り返りシート」の記載内容が評価対象になります。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	哲学の世界		（概要） 本授業では、哲学的な「心身問題」を取り上げます。前半は、近代哲学の父と言われるR.デカルトが考えた心身二元論（デカルトの神話）の理解です。後半は、古代ギリシャや西洋中世の魂論を取り上げます。 哲学は常識批判ともいわれます。あたり前のことがあたり前ではないことに気づくとき、私たちの日常が再度活性化されます。それを体験していただくことが第一目的です。哲学者たちが私たちを取り巻く世界をどう説明しようとしたのかを一緒に見ていきましょう。映像資料もまじえ、分かり易い授業を心がけます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	地域史		この授業のサブタイトルは「チャレンジ佐賀学」である。 「佐賀学」とは、地域学の一つとして、佐賀の文化や歴史、文化的伝統や風土、自然や環境などを総合的に捉えることにより、新しい研究分野と教育の創造を目指そうとするものである。佐賀は古来より、大陸文化流入の通路、いわば知のシルクロードであり、とりわけ江戸時代末期から明治維新にかけて、政治、教育、科学等の各分野の我が国社会改革の原動力の一つとなった。 本講義では佐賀学の入門・基礎編として、①それらの革新性と保守性（限界）などについて、②維新に貢献した人物に焦点をあて、③ネット授業の利点をいかして、視覚的に時間と空間を超えて探求する。 佐賀学にチャレンジし、チャレンジ精神にあふれて新たらしい世代と社会を切り開いた佐賀人たちと気持を一つにして、自分たちのチャレンジ精神を育ててもらいたい。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	宗教学		「生きる助けともなれば、苦悩の元凶ともなる宗教。人類の誕生以来存在し続けてきた宗教。人間はなぜ宗教という営みをするのか？　何が宗教を形作ってきたのか？　現代社会の宗教はどのような状況にあるのか？」（教科書の帯文句より） 最新の研究成果に基づく教科書を用いて、生と死や悪といった宗教哲学的な問題からスピリチュアリティや聖地巡礼ツーリズムなどの現代社会の宗教現象まで、現代において宗教を理解するために必要な知識を概説します。世界や日本の伝統宗教の基礎知識を確認する機会も設けます。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	佐賀大学	水中文化遺産学		わが国の海・河川・湖沼には、古代以来の物流や人的交流の歴史を証明する多様な水没文化財（水中歴史遺産・水中遺跡）が数多く存在するが、その内容については陸上の歴史文化遺産に比べて一般的な認知度が低い。 本講義では、その性格と概要を解説し、これまでの調査・保存・研究の状況を紹介しつつ、陸上を舞台とする歴史文化の世界に対して、水域から見た「海洋国・日本」の歴史の特徴を教示する。 東シナ海と玄海灘に接する九州・沖縄地方は、古来、日本と東アジア諸国との交流史上の窓口であり続けた。そのため国際的注目を浴びる水中遺跡の分布地帯となっており、我が国の海中考古学調査の先進地域でもある。そのような恵まれた歴史文化的環境下に集う本学の学生に、水中の文化遺産学・海事史学の基本と概要を学んでもらいたい。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文化の分野特別講義	佐賀大学	九州・沖縄学Ⅰ		（概要） 九州・沖縄地区の国立大学が連携して実施する「九州・沖縄学」の歴史文化編である。受講生は各大学が提供する下記のトピックの中から７つを選択し、九州・沖縄地区の歴史と文化の背景を知るとともに、各県、各地域の魅力と特色について学ぶ。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	経済学		高等学校では地歴教科を選択していた方が多いと思われますが、公民教科の政治・経済を選択した方はどれだけいるでしょうか。また、「経済学」という学問の存在さえ知らなかった方もいるかもしれません。新聞等で「経済」という言葉をよく耳にすると思いますが、その意味を問われて答えることができますか？特に学問である「経済学」で用いられる専門用語はその漢字から意味を読み取ることができないことが少なくありません。そこで、「経済学」に必要な基礎的概念について、日常的に報道される経済統計データから探っていきたいと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	会計学		（概要） 本講義は、税理士法人諸井会計の提供講義です。企業の経営状況を示す鏡であろう会計学の基礎と会計の社会における役割について学習します。 会計とは何か、会計によって何が分かるのか、会計の仕組みはどうなっているのか、会計は社会においてどのような役割をしているのかを学びます。また、会計情報が企業経営を知る上でどのように役立つかを理解します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	経営学		本講義では企業(組織)運営に焦点を当て、経営戦略およびマーケティング戦略に関する基本原理について事例を交えながら体系的に習得することを目指します。 昨今、我々を取り巻く環境は大きく変化していると言われています。よく耳にするIoT、FinTech、コーポレートガバナンスという言葉も、この変化を捉えた1つの例であるといえます。 この変化に対応する手段の1つとして「経営学」の手法や知見に注目が集まり、様々な書籍や雑誌を目にすることが多くなっています。 しかしこのような「経営学」に関する情報は増えている一方で、その情報量に圧倒されて学習を諦めた方や、何を読めばよいかと途方に暮れている方もいるのではないでしょうか。 本講義では「経営学」の分析対象や基本知識を中心に取り上げ、「経営学」に対する理解や関心を少しでも深められるようにアシストしたいと考えています。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	法律学		地球温暖化、環境汚染、高齢化に伴う老後問題、少子化による労働力不足、雇用形態の変化、貧富の格差、民族・男女等による差別、新しい財産権の登場など現代社会には様々な問題が十分に解決されないまま存在する。いま社会で何が起こっているのか。原因は何か。どうすれば解決できるかについて、法の観点から広く概観する。 （オムニバス方式／全15回） （344 中山泰道／3回） 授業ガイダンス、民法についての講義 （354 内山真由美／2回） 刑法についての講義 （183 平部康子／2回） 社会保障法についての講義 （151 早川智津子／2回） 労働法についての講義 （475 樫澤秀木/2回） 環境法についての講義 （332 孫友容／2回） 知的財産法についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	政治学		私たちは、現在気候危機や少子化、格差や貧困の拡大など深刻な課題に直面しています。戦後に築いてきた社会や経済が揺らぎ、政治のあり方が問われています。本授業では、戦後の日本政治を振り返り、そして、現在と未来の社会や政治を考えてみたいと思います。それと同時に、政治と金をめぐる政治の混乱など最新の政治に関する知識や情報を身に着けてほしいと思います。そのことで、主権者であるみなさんが政治に関心をもち、日本政治について考え、行動するヒントを得ることができればと思います。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	日本国憲法		（概要） 日本国憲法は私たち個人にとって、普段、あまり意識されない法律です。ところが、憲法の背後にあるさまざまな原理（国民主権や基本的人権の尊重、平和主義など）は、私たちが生きている現代社会に実にさまざまな問題を投げかけています。この講義では、できるかぎり具体的な憲法上の事件・争いを検討しながら、憲法の基本的知識としくみについて解説します。実際に憲法が国家の中で用いられている現状を見ながら、政治権力や死刑制度、あるいは福祉のあり方など社会の様々な問題に触れながら、私たちの価値観をできるだけ柔らかくするような多様な立場を日本国憲法から学びます。受講者には自分たちが現在生きている社会状況を常に意識しながら、国家や法が引き起こす様々な問題を自分たち自身の問題として捉えるよう求めます。色々な立場を考えながら自らの立場について論理的・客観的に考えるという「問題の悩み方」を学習してほしいと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	現代社会の法と政治		アメリカで1999年から約７年間放送され、人気を博したテレビドラマ・シリーズ『ザ・ホワイトハウス』（原題：The West Wing）を素材としながら、現代アメリカ政治のいくつかのトピック（論点・争点）について担当教員が講ずる。民主党／共和党の二大政党制、黒人（アフリカ系）などに対する人種差別や、妊娠中絶・同性愛・銃規制などをめぐる価値観の対立、死刑制度の動向、連邦最高裁判事指名の仕組み、核兵器・原子力政策などを取り上げて、日本の現状や制度と比較をまじえながら解説する予定である。題材とする上記ドラマについては、適宜に内容の説明や一部の上映を行なう。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	地理学		（概要） 地理学における主要なテーマである景観と環境について考える。特に、人間が作った文化景観（Cultural Landscape）や二次的な生態系である里山や里地の環境について、グローバルに考え、ローカルな実践への糸口を見出すことを目的とする。地理的環境論、環境と文化的景観の諸相、環境と文化的景観の保全・活用について講義を行います。景観や環境と人間との関係について理解し、それらを保全する意味について理解できるようになることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	Introduction to Sociology		（英文） In-depth class and group discussions about difficult issues in today's society.To enhance student's English speaking and vocabulary though thoughtful discussions about issues in society and how best to address them. -This class will be held in person, but it is possible that some class will be conducted online via Zoom or Teams. -Students must join the Microsoft Teams group for this class. -A link to the Microsoft Team group will be shared with all enrolled students via Live Campus. -In general all communications will be sent via Microsoft Teams, NOT Live Campus. -A special assignment may be given to students unable to attend class when necessary. 今日の社会における難しい問題について、クラスやグループで徹底的にディスカッションします。社会における問題や、それらに対処する最善の方法について思慮深く議論することで、生徒の英語力と語彙力を高めます。 -本授業は対面式で行われますが、一部ZoomやTeamsを利用したオンライン授業が行われる可能性があります。 -この授業では、Microsoft Teams グループに参加する必要があります。 -Microsoft Teamsグループへのリンクは、Live Campusを通じて受講生全員に共有されます。 -一般的に、すべての連絡は Live Campus ではなく Microsoft Teams 経由で行われます。 -授業に出席できない学生には、必要に応じて特別な課題を与えることがあります。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	佐賀大学	社会思想		（概要） 本講義では、社会的正義に関する現代政治哲学の一連の議論及び自由や平等をめぐる論争を概観する。まず実際の社会問題や公共政策と政治理論の関係を議論し、これまでに行われてきた議論の意義や問題点を参加者と共に考える。今日の公共政策においても有力な考え方である功利主義や、ジョン・ロールズの社会的正義論を紹介し、これらに関連する論争を紹介し、参加者と共にその意義や課題を検討する。 現代社会における課題や政策には、その根底に自由、平等、福祉、共同体、民主主義といった理念をめぐる論争が存在する。このような理念をめぐる現代政治哲学の論争を概観し、私たちの社会における問題や政策のあり方について思考を深めることが、本講義の開講意図である。このような教養の習得はシティズンシップ教育の一部としても有意義である	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	教育と人生		（概要） 「心（の）理」「物（の）理」「生（の）理」を基盤に、人の発達と人生について考える。自分自身が人生を肯定し、かつ、他者を時には教育あるいは指導し、（親、職業としては医師、看護師あるいは教師として）まずは思いやりを持って寄り添うことができる人になって欲しい。 本科目では、医療、福祉・介護、学校における教育活動などに応用されている心理的・社会的（精神的）活動の基礎理論（特に、「個の心」あるいは「社会との接点」に影響するさまざまな要素）を紹介し、考えてもらうことを目的としています。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	心理学Ａ		（概要） 医療において活用されている心理学を中心とした講義を行う。 具体的には、心理学の歴史。代表的な心理学者。心理学に関連する代表的な理論、モデル、枠組み。社会における心理学。発達段階と心理学。認知と心理学。パーソナリティと心理学。災害における心理学。臨床心理学。心理検査。心理尺度。医療における心理学的アプローチやカウンセリングなどについて講義する。 医療者に求められる対象理解の一助として心理学に関する基本的な考え方の習得を目指す。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	心理学Ｂ		心理学Ｂは、副題を「人間と社会の心理学」とする。 本講義では、認知と認識の心理学、対人関係の社会心理学、メンタルヘルスの心理学を講ずる。 錯視と錯覚、認知と認識、ゲシュタルト、好意の成り立ち、同調と服従、協調と責任の拡散、印象形成、メンタルヘルス、ストレス、うつ、過労死と突然死等について展望する。 講義及び視聴覚資料の視聴を中心に進める。 なお、遠隔授業においては著作権の関係上、視聴覚資料の提示は大幅に割愛する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	健康科学Ａ		（概要） 生涯にわたって、健康に関する自己管理能力は必要不可欠である。健康管理を適切に行うには様々な知識が必要となる。この講義では、心身の健康に関する様々な科学的な知識や体得すべき生活習慣について学び、健康の保持増進、健康的なライフスタイルの確立についての理解を深める。 この講義は医師としての実務経験を有している教員が、健康についての実践的な教育を行う科目である。 心身の健康や運動に関する知識の向上を目標とする。 加えて、学生が自分自身の健康についても興味、関心を持ち、身近な健康に関しての事項（飲酒、喫煙、感染症、生活習慣病等）についての理解をさらに深めることをめざす。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	健康科学Ｂ		（概要） 一般的な病気について学習する。　病気になったときのために、日本の医療事情を知ってもらう。健康に関わる情報を取得するスキルを身につけることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （503 福留健司／14回） イントロダクション、命を守る身のこなし方、生活習慣病にならないために、誰のためのメタボ検診？、さまよえる血圧、発がんリスク、なぜアレルギーは増えたのか、脳梗塞、心筋梗塞、エコノミー症候群、沈黙の臓器、サイレントキラー、認知症との付き合い方、なぜ、うつ病が増えているのか、心のストレス、体のストレス、細胞のストレス、日本の医療は、素晴らしい？ （133 山下佳雄／1回） 知らないと損をする口腔ケア	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	スポーツと健康		本授業は、これまで学生が体育の授業等で経験してきたスポーツ題材にルールの機能と役割、さらにルールを使い熟すための思考方法や動作等の習得方法について実際の実技経験を通して理解してもらう科目です。そのため、多くの時間を運動の時間に充てます。毎回の授業の前半では準備体操などの具体的な運動や動作の指示もしますが、後半はチーム毎に分かれ教員が提示するテーマの範囲内で学生同士が考えた練習と試合を行う予定です。授業の最終回後には授業内容を「振り返りシート」に整理してもらいます。「実技試験」の結果と「振り返りシート」の記載内容が評価対象になります。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	Citizenship Education		This course is focused on studying some of the most important issues facing the world today. Through studying a variety of issues that face the world, and Japan. By studying such topical content in English, students will evaluate their own role as individuals and as members of society. The course will support and enable learners to critically evaluate and understand the impact of their choices and how they can live and work in responsible ways to ensure that our home, planet earth, can thrive and remain habitable for future generations. このコースは、今日の世界が直面している最も重要な問題を学ぶことに重点を置いている。世界、そして日本が直面する様々な問題を学ぶことを通して、日本、そして世界が直面する様々な問題を理解する。このような時事的な内容を英語で学ぶことにより、学習者は個人として、また社会の一員としての自分自身の役割を評価することになります。このコースは、学習者が自分の選択が及ぼす影響を批判的に評価し、理解し、私たちの故郷である地球が繁栄し、未来の世代のために住み続けられるようにするために、どのように責任ある方法で生活し、働くことができるかをサポートし、理解できるようにします。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	Life in the Global World		The course examines what has constituted globalization in the past, what it is for us today, and what globalization means for our lives economically, politically, culturally, and ecologically. The intention is to develop knowledge and understanding of the issues that a globalized economy means for our lives in the 21st century. By the end of the course, students will: - gain a clearer understanding of globalization and its economic, political, cultural and ecological effects; - expand knowledge and understandings of what it means to live as a global citizen このコースでは、過去においてグローバリゼーションとは何であったのか、現在の私たちにとってグローバリゼーションとは何であるのか、そしてグローバリゼーションが経済的、政治的、文化的、環境的に私たちの生活にとって何を意味するのかを考察します。 その目的は、グローバル化した経済が21世紀の私たちの生活にとって何を意味するかについての知識と理解を深めることです。 コース終了時には、受講生は以下のことを修得することを目指します。 - グローバリゼーションとその経済的、政治的、文化的、生態学的影響についてより明確に理解する。 - 地球市民として生きるとはどういうことかについての知識と理解を深める。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	情報メディアと倫理		近年のインターネットの普及によって、現代社会は様々な場面でデジタル化された情報を活用するユビキタス情報社会へと向かおうとしている。このようなユビキタス情報社会の基盤を形成していくためには、情報技術に関する知識だけでなく、情報倫理、道徳規律、法律の知識といったものが必要となる。この授業では、情報社会に適合できる人間育成を目的とし、情報化社会における倫理観、その中での行動規範、知的所有権、プライバシーの尊重といった考えを身に付けて貰うことを目的とする。 【授業と教員の研究内容との関連】 本講義の内容は総合情報基盤センターにおける「情報ネットワーク運営・管理」「情報サービス」に関する業務や研究成果、関連分野の基礎的事項が含まれている。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	心の病と癒しのプロセス		うつ病や統合失調症、アディクション、不登校、発達障害、人間関係の問題などの心の病や心の問題について、共感的な理解を促すため、できる限り具体的に解説していく。各回、資料を用いる。個人が特定されないようデフォルメされた典型的な事例などを具体例として採り上げながら、心の病や問題に関する基本的な知識や、痛みを抱えた心が回復していくプロセスについて解説する。 心の病や問題に対し、学生各自の理解や心的距離感は異なることと思います。授業を通して、様々な心の病や問題に関心をもち、その痛みについて現実感をもってイメージができるようになり、加えて回復のプロセスについても基礎的な知識を獲得できるよう、開講します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	心身の発達過程		（概要） メンタルヘルスに関連する心身の発達のプロセスについて、発達心理学および臨床心理学の視点から学ぶ。学士力番号１－（１）に相当。 生涯発達という昨今の視点から、心身の成長や変化のプロセスを各年齢区分で整理する。発達に関する正しい知識に基づいた理解の視座が獲得できる。乳幼児期から老年期の様々な発達理論や、心身の適応に関連するモデルを各年代ごとに理解することで、広く発達の概要が理解できる。職業人や家庭人としての今後を見据えた場合、これらは教育のみならず福祉や医療など支援を鑑みた際に有効である。基礎知識をもとに、社会人として必要な、子育て・障害・老い・喪失体験といった、各種の困難を受け止めるための臨床心理学・発達心理学における技を習得する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	情報メディアコミュニケーション		この授業は、（１）メディア（伝達媒体）とは何かについて理解し、メディアを媒介にした情報伝達をコミュニケーションとして理解する。それを踏まえ（２）インターネットを中心としたメディア、（３）VRやMRなどのサイバースペース（電脳空間）の社会、（４）AIやIoTを含むデジタルトランスフォーメーションについて個人やグループで論考する。 履修者が講義を聴くだけでなく、調べて・考えて・議論し・評価し・自己省察（振り返り）をするという学習活動を重視した（皆さんが積極的に学習活動を行う必要がある）授業です。 履修者には、人に話をすること、人の話を聞いて・理解して・受け入れてたうえで、ディスカッションすることを求めます。	共同
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	Aspects of Modern Society		An examination of the changes that have happened over the past hundred years and how they have shaped our modern world and how we see ourselves and others. No text will be used in this lesson so class notes will be important. To show how the modern world has developed and to understand different ways of thinking among generations and cultures. Lessons includes: Introduction to modern society and historical background, Human rights, Gender roles and equality, LGBTQ+ rights and acceptance,Environmental awareness and nature conservation, Technological innovation, Mental health awareness, and more. 過去 100 年間に起こった変化と、それらが現代世界をどのように形作ったか、そして私たちが自分自身や他者をどのように見ているかを考察します。このレッスンではテキストは使用しないので、授業ノートが重要になります。 現代世界がどのように発展してきたかを示し、世代や文化による考え方の違いを理解します。 授業内容は以下の通り：現代社会の紹介と歴史的背景、人権、ジェンダーの役割と平等、LGBTQ+の権利と受容、環境意識と自然保護、技術革新、メンタルヘルスへの意識、ほか	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	プレゼンテーション・デザイン		（概要） プレゼンテーションとは、相手（聴衆）に情報を伝達し、相手の理解や行動を得るためのものである。我々は、実に様々な場面でプレゼンテーションを行っているが、本科目では主に教育や研究発表、そしてビジネスの場面を想定したプレゼンテーションについて学ぶ。これまでは相手と同じ空間で対面して行われることが多かったプレゼンテーションも、新型コロナウイスの感染拡大の影響により、オンラインで行う機会が増えるなど、その環境も大きく変化し、それに対応した方法を理解しておく必要がある。本科目では、現代社会に求められる対面やオンラインでのプレゼンテーションにについて学ぶ。 　本科目は対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）を組み合わせて実施する。また、PCを使った演習もあるため、PCとインターネット接続環境が必須である。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	現代教育学		本科目は全学部の学生対象とし，現代教育の現状と課題，並びに「教育」への自己の適性を見極める機会となる科目である。その中で国内における教職や教員養成のしくみについての基礎的な知識を身に付け，「カリキュラム・マネジメント」の観点から現代教育を分析する。講義に加え，実際に，本学で実施されている「教師へのとびら」に参画し，現職教員や大学生（学部・大学院）と懇談し，さまざまな視点に立って，教育機関と地域社会の連携を生かした現代教育の在り方について検討・提案を行う。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	教育学Ａ		（概要） 現代社会の制度として教育に焦点を当て、教育学における教育の研究課題を俯瞰すると共に、社会における教育の営みを多角的な視点から考え、教育をめぐる諸問題への関心を高める。人間形成と発達、現代社会と子ども、学校と教師、学校経営・管理、国家と人権、宗教と道徳、学校法制、社会変動と教育を主たるテーマとして、教育学者が教育をめぐる人の営みに対して、どのような視座から、何を課題として、いかなる研究を行ってきたのかを解説する。その上で、教育の機能について受講生と共に客観的に解題することをめざす。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	教育学Ｂ		（概要） 現代社会の制度として教育に焦点を当て、教育をめぐる人の営みがどのような教育の仕組みを作り上げ、いかなる問題を生み出してきたのかを、社会学的な視点から考える。学力、入試・就職のような選抜、いじめなど社会病理を主たるテーマとして、教育の仕組みを作り上げる人の営みに関する社会学的な研究の系譜を整理しながら解説する。その上で、教育の機能について受講生と共に客観的に解題することをめざす。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	教育学Ｃ		（概要） 授業では，現在の教育学において多用される”グループワーク”について，その技法と実践を通じて学びます。特に，グループワークなど能動的な学びを支援するために不可欠な”ファシリテーション”の技法と考え方を実践的に習得します。大学生活や就職活動，さらには社会人になってからも活用することができる「ファシリテーション」の考え方と知識・技能を習得後，学びの確認として，教育/人材育成を目的としたワークショップをデザインします。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	体育実技Ⅰ		体育実技Ⅰでは、大人数で行うスポーツ（ソフトボール、バレーボール、サッカー、バスケットボールなど）の中の2種目を学期中の前半と後半で実施します。今年度は前半にソフトボール、後半にバレーボールを行う予定です。スポーツ基本法の第2条第2項では「スポーツは、とりわけ心身の成長の過程にある青少年のスポーツが、体力を向上させ、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成に大きな影響を及ぼすもの」とされています。本授業ではスポーツ基本法の理念を尊重し、特に「公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成」への理解と可能なら実践につなげていきたいと考えています。本授業では試合時間を多く確保しますし、授業外の学習時間を確保いただく必要があります。また、本授業は教職の必修科目としての側面も有することから、学んだことを実社会で活かしていただきたいと思います。	共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	佐賀大学	体育実技Ⅱ		本授業は、少人数で行うスポーツ（前半バドミントン、後半卓球）を題材に、楽しさを作り出すために必要な個人とチームの動き方の習得方法や楽しさを作り出すための環境整備のための視点について実際の実技経験を通して理解してもらう科目です。そのため、多くの時間を運動の時間に充てます。毎回の授業の前半では準備体操などの具体的な運動や動作の指示もしますが、後半はチーム毎に分かれ教員が提示するテーマの範囲内で学生同士が考えた練習と試合を行う予定です。授業の最終回後には授業内容を「振り返りシート」に整理してもらいます。「実技試験」の結果と「振り返りシート」の記載内容が評価対象になります。	共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	佐賀大学	ジャーナリズムの現在		主に新聞を媒体としたジャーナリズムの実際について理解を深めるとともに，その将来についても展望する。 講師は，佐賀新聞社員，報道の最前線にいる記者，紙面のレイアウトを担当する整理部記者をはじめとする編集部門だけでなく，広告，事業，販売のほか，ウェブ・携帯速報，テレビ夕刊など新聞社のクロスメディア担当らキャップクラスと若手を中心に選び，それぞれ現場の雰囲気をスライド・紙面・実習等を用いて伝える予定である。 なお、講義は授業計画にも示すように、複数名の佐賀新聞社社員で担当するオムニバス形式の授業である。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	佐賀大学	アジアコミュニティ論		本講義では、ワンアジア財団の寄付により、学内外・海外から14人の素晴らしい講師陣をお招きし、アジアを中心に社会経済、安全、文化等の多様な面で、アジアの「共生・協働」を模索します。現代の世界は、グローバル化が進む中、「地域の平和と繁栄」を理念とした地域共同体の形成を求めています。そのモデルとなっているのがEUです。本講義では、EUの動向を含めて、アジア各国の現状等を検討しながら、地域コミュニティとしての東アジア共同体構想について、その可能性と課題を議論します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	佐賀大学	知的財産学		10年前ぐらいまでは、情報を受信することは簡単にできていたのですが　不特定多数への発信はまだ特定の人々に限られておりました。 しかし　現在　私たちは　インターネットを通じて　 さまざまな情報を一瞬にして世界中の 不特定の人々に対し、個人の知的活動の成果を発信することが できるようになりました。 一方、個人の不注意が大変な事態をひきおこしかつ　 後始末が個人の能力を超え てしまう時代になってきました。そこでこの講義では、知的財産のエキスパートであられる振透弁護士をお招きし，知的財産に関する法律をその発生原理から理解し、 実務の現場で役立てることを目的としてつくりました。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	佐賀大学	環境科学Ⅰ		（概要） 我が国の環境保全の取組の概要を、″自然″・″社会″・″暮らし″の３つの視点から講義する。 （オムニバス方式／全15回） （3 岡島俊哉／12回） ガイダンス、検定試験の説明。持続可能な社会に向けて、地球を知る　①地球の基礎知識　②いま地球で起きていること、（地球温暖化と脱炭素社会、エネルギー、生物多様性･自然共生社会、地球環境問題、持続可能な社会に向けたアプローチ）、各主体の役割･行動（各主体の役割･活動とパブリックセクター、企業の環境への取組み、個人の行動、NPO、各主体の連携） （138 市場正良／3回） 環境問題を知る（循環型社会、地域環境問題、化学物質、災害･放射性物質）	オムニバス

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	佐賀大学	環境科学Ⅲ		（概要） 持続可能な社会の形成に向けた一つのテーマである「3R」および「気候変動」に関する理論、手法および取組事例など、将来の社会人として知っておくべき知識等の範囲を紹介する。 （オムニバス方式／全15回） （3 岡島俊哉／10回） ガイダンス、融合分野（持続可能な社会、公害と環境問題、生物多様性と自然共生）3R分野（ゴミ処理の歴史と概念、3Rとは、3Rの取組み、ごみ処理の現状、有害廃棄物など）、特別講義を担当する （138 市場正良／5回） 気候変動分野（気候変動対策の国際議論、地球温暖化のメカニズムと影響、温室効果ガス排出の実態など）を担当する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	佐賀大学	インストラクショナル・デザイン		（概要） 教育機関などで行われている授業設計を目的としたインストラクショナル・デザインを講義する。インストラクショナル・デザインを学ぶ上での基礎を学んだ後、ニーズ分析、タスク分析、学習目標分析、ICTの活用、メディア分析などについて学ぶ。講義は全ての回をオンデマンド型のオンライン授業で行う。 インストラクショナル・デザインの基本概念を理解する、学生が自分で自分の学生生活の設計や生涯設計ができるようになることを目指す。	共同
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	佐賀大学	国際社会学		私たちがその中を生きているグローバリゼーションとはどのような現象なのだろうか？本講義では、「グローバリゼーション」という言葉の意味を検討し、その現状、成果、課題について議論する。「情報とグローバル化」では、情報伝達の加速・情報量の増大とリアリティの把握の可能性に関して、「貿易とグローバル化」では、市場の開拓の必要とその歴史的展開を、「格差とグローバル化」では、富の移動と平等・不平等につき検討する。さらに、「環境とグローバル化」では、地球の歴史及び今日の環境問題につき概観し「人とグローバル化」では、人の移動、人的資本に関する現状を紹介する。グローバリゼーションへの理解を深め、受講者が今後の人生に、その知見を活かしていけるようになることが本講義の目的である。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	佐賀大学	現代日本の経済社会問題		本講義は現代日本の経済社会問題を解説し、経済学的背景も加味しながら、社会科学や社会問題に関する基本的リテラシーを養成しようとするものである。今年度はその中で、特に現代日本の経済政策について論じる。 　経済政策学は経済諸学の中でも歴史のある分野であるが、最近の社会情勢の急激な変化を織り込んだ対応、発展及び変革が求められる状況にある。 　特に2010年代以降の経済政策の展開は、従来の経済理論では解釈が困難な政策展開が行われることが多く、以後経済論壇も世論の経済政策議論も混乱したままである。 　しかしながら、実際には多くの問題は既存の経済学の基礎部分と照らし合わせて十分に解釈可能であることが多い。今年度の本講義では、最近の日本の経済政策を紹介し、経済学の視点からどう解釈できるかを議論する。さらにそのことを通じて受講者の社会理解を促進、併せて経済学の初歩的な理解も促そうとするものである。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	佐賀大学	グローバル化と証券投資		（概要） 本特殊講義は各現場で活躍する野村證券グループ・野村資本市場研究所の講師陣により実施される資本市場と証券業務の実際についての講義です。 株式市場、債券市場、外国為替市場についての基礎知識、金融商品と生活設計のおけるその活用、これからの産業展望と企業評価の方法など、就職だけでなく、生きていくうえで必要な金融知識を学びます。 実際に業務に携わる方の講義を聴き、国際化が進展し変貌しつつある資本市場と証券業務の実際について、実社会の「生きた経済」を学びます。 金融の仕組みについて学び、経済社会についての理解を深めながら、生活設計にも役立てる知識をえることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	佐賀大学	西洋近代社会思想史		（概要） 近代初頭のマキャベリから今日のリベラリズムに至る西洋の社会思想史につき、それぞれの思想が出現した時代と思想の文脈、思想家が直面していた問題を概観する。まず、講師がそれぞれの思想家の理論を紹介し、その今日における意義や問題点などにつき参加者で討論する。 私たちは今日、法の支配と市場経済を柱とする近代社会の枠組みの中に生きている。このような近代社会は15～16世紀以降のヨーロッパでそのシステムの原型が形作られ、今日に至る。近代社会の揺籃期から現在に至るまでのヨーロッパおよび北米の思想家による、法、道徳、経済を中心とした世界観を概観することで、今日私たちが生きる社会のあり方を認識し、今後のそのありかたを検討するための基盤を得ることを開講意図とする。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	佐賀大学	多文化社会論		今日の多元的・多文化的な社会において、他者や異文化との共生の必要性につき議論が行われている。グローバリゼーションが進行する中、国境を越えた人の移動も多くなり、複数の文化によって構成される国においては、先住権や文化維持権をめぐる論争などもしばしば見受けられる。今日の多元社会や多文化社会においてはなにが問題視されており、他者や異文化と共生をするために、どのような課題が解決されなければならないのか。この講義では、主に現代政治理論の分野における多文化社会の理論や論争を紹介し、ヨーロッパの多文化社会をめぐる問題と共生に向けての制度やその他の取り組みを紹介する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	佐賀大学	経営工学からみたマネジメント		経営工学の対象範囲は大変広く、関連する技術は私達の身の回りの様々な場面で用いられています。しかし、他の工学(例えば機械工学など)と異なり、経営工学では直接「モノ(ハード)」を取り扱いません。その代わり、経営をInput/Outputシステムとして捉えた時、システムの構成要素それぞれがスムーズに、全体最適で作用するような 「モノゴトの間にある仕組み(ソフト)」を方法論（メソドロジー）として取り扱います。仕組みはシステムの内部に隠れてしまいますので、私達の目には映りづらく縁の下の力持ち的な学問分野であり、ある意味でインタンジブルな工学とも言えます。 　この授業では経営工学のエッセンスを身近な例を取り上げながらわかりやすく解説していきます。講義が主ですが、理解を助けるために簡単な演習も交えながら進めていきます。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	佐賀大学	金融リテラシーと生命保険		本講義は一般社団法人生命保険協会、佐賀財務事務所、日本銀行佐賀事務所により提供されるもので、金融庁が公表している「最低限身に付けるべき金融リテラシー（知識・判断）」４分野１５項目をカバーする講義である。はじめに「金融経済の基礎知識」を学び現状を理解した上で、人生設計における「家計管理と資金計画（資産形成）等」と「リスク管理（生命保険）」について、複数の実務家（全て現役の実務家を予定）により具体的かつ多面的に講じられる予定である。 とりわけ、公的保障（社会保障制度）の内容について学習し、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している諸課題の理解を深めた上で、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めて行く。また、講座の後半では、成年年齢引き下げの中、様々な金融トラブルが起こっているが、その現状と防止策についても学習する。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		佐賀大学	海外交流実習		①本学が交流協定を締結している大学等を訪問し、学生との交流、授業見学、自主課題調査、現地視察、海外で活躍する日本人との交流等を行います。 （実習プログラム） 韓国　大邱大学校 オーストラリア　ラトローブ大学 インドネシア・スラバヤ工科大学 台湾・東華大学 米国・パシフィック大学 スペイン・アルメリア大学 ②佐賀大学副専攻プログラム欧米の言語文化専攻ー独語コースの選択必修科目であるこの授業では「ドイツの言語と文化IとII」（基本教養科目）、「ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化I-IV」（インターフェース科目）を通してドイツ語の語学力を伸ばすと同時にドイツ語圏の教会や協会関連施設で歴史・文化について学ぶ機会を提供している。 この授業の授業にはつぎの2つの重点がある。 １）ドイツ語での会話。２）キリスト教に関する学び。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		佐賀大学	キャリアデザイン		（概要） 授業を通して、キャリアデザインについての基本的な知識を習得し、学生一人ひとりのキャリアオーナーシップの獲得を目指す。 授業では、多様なキャリアのゲスト（佐賀大学卒業生をはじめ多様な方々）を招聘し、異なる職種におけるキャリア形成と、実践的な能力を身に付けるための学修の計画や行動のモデルを示す。この授業を通じて、自分自身で納得のいくキャリアをデザインしていくことができる人材となることを期待する。 キャリアや就職活動に関する様々な情報があふれる現代社会において、情報に惑わされることなく、自分自身の価値観やビジョンを確立し、生涯にわたりキャリアをデザインしていける力を身につける。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		佐賀大学	グループワークの技法と実践		授業では，ワークショップを通して，グループでの話し合いや会議等を進行する際に必要なファシリテーションの技法と考え方を実践的に習得します。また，同時に人材育成を目的としたワークショップを自らデザインします。（ワークショップとは，参加者が持つ既有知を共有しながら新たな知を想像する場やその手法のことです。そのため，参加者の主体性が非常に重要な要素となります。） 大学生活や就職活動，さらには社会人になってからも活用することができる「ファシリテーション」の考え方と知識・技能を習得後，学びの確認として，人材育成を目的としたワークショップをデザインします。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		佐賀大学	チャレンジ・インターンシップＡ		（概要） 本学学生に、基礎的なデータサイエンス等に関する企業実務等を経験させることにより，将来の職業選択に向けての準備や新たな学習意欲の喚起を図ることを目的とする。 企業と協力し，社会への興味関心を喚起し、ビジネス課題の整理と解決力と基礎力を身に付ける。 受け入れ企業・日程が決まり次第、情報を更新する。 受け入れ企業例：一般社団法人地域デザイン総合研究所 各種ビッグデータ、佐賀市中心市街地に設置するIoTセンサーで取得した環境データ、人流データ、オープンデータ等を使い、佐賀市中心市街地を活性化するためのデータ分析を行う。 データ分析結果は、定期的にレポートにまとめ、街なかの事業者等にフィードバックをする。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		佐賀大学	チャレンジ・インターンシップＢ		（概要） 佐賀大学内に本社をおくIT企業において，社会人基礎力とIT業界の業務内容を理解することを目的とした研修を行う。実際には，企画立案，営業，開発等の一連の業務を座学にて説明を受けたのち，チームごとに分かれて，IoT，AI，ICT等を用いたサービス開発及びプログラミング，調査事業，ビジネスモデル構築といった業務を経験する。 IT企業の実務を経験することによって，社会人基礎力，アントレプレーシップ，知財知識の重要性を理解できる。また，異業種間の協業の重要性と効果を理解でき，一領域にとらわれずに，様々な価値観を繋げるためのコミュニケーション力を習得できるようになることを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		佐賀大学	ライフデザインとセルフ・リーダーシップ		（概要） ライフプラン、生きる目的や夢の実現、仕事、恋愛、家族、友情、趣味といった、人間にとって大きなテーマといえるものの重要性を講義形式（視聴覚教材等含む）で学んだ上で、ディスカッションを行い、ワークで自己の考え方を明確にし、ライフプランを構築する。ライフマネジメントを行なうためのセルフ・リーダーシップ（セルフ・コーチング）の手法を修得する。 学生が、自らの人生観、生きる目的や夢の実現、家庭と仕事の両立、恋愛と友情等の重要性を知ることにより、自分の生き様を確立し、その生き様を全うするために学生時代の学びや生活が如何に大切かを理解することを目指す。	

教養教育科目	基本教養科目	総合科目	佐賀大学	Online Immersion Program		This online immersion program consists of three components: 1. Pre-program workshiops: these will be held both on the Honjo campus and on Zoom. The workshops will help students tackle for the unique challenges of participating actively and overcoming barriers to communciation related to both language and the online environment. 2. Online immersion program: this will be conducted by Slippery Rock University. Program details are available in advance by request. 3. Post-program workshop: students provide a final assessment of what they learned. このオンライン イマージョン プログラムは 3 つのコンポーネントで構成されています。 1. 事前ワークショップ：本庄キャンパスとZoomの両方で開催します。このワークショップは、学生が積極的に参加し、言語とオンライン環境の両方に関連するコミュニケーションの障壁を克服するという独特の課題に取り組むのに役立ちます。 2. オンライン イマージョン プログラム：これはスリッパリー ロック大学によって実施されます。プログラムの詳細については、リクエストに応じて事前にご確認いただけます。 3. プログラム後のワークショップ：学生は学んだことの最終評価を行います。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	佐賀大学	Overseas Practicum		Study abroad preparation program To prepare students for a 10 day trip to Slippery Rock University. Limited to 15 students who have met the requirements of interview and placement. This program allows participants to directly experience university classes. It includes a short-term language training of about 10 days, along with a rich academic content unique to partner schools. At the end of the program, a certificate of completion will be awarded. 留学支援プログラム スリッパリーロック大学への 10 日間の留学に備える。 面接と選抜の条件を満たした15名限定です。 実際に大学の授業を直に体験するプログラムです。約10日間という短期間での語学研修を始め、豊富な学術的内容を含むプログラムは、提携校ならではのものです。プログラムの最後に修了証書が授与されます。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	佐賀大学	データサイエンス Basic Ⅰ		（概要） 本講義では、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事などの場で利活用できる基礎的素養を身に付け，これらを問題解決や他者との円滑なコミュニケーション等に正しく活用できる人材を育成することを目的として，授業計画に記した内容について学ぶ。 ビッグデータという言葉に象徴されるように，ビジネス，医療，教育，農業，工業など様々な分野で大量かつ多様なデータが得られるようになってきた。そのため，このデータを新しい資源ととらえ，データに基づいて様々な問題を解決していく能力，「データサイエンス力」を備えた人材があらゆる分野で求められている。ぜひ本講義を通して，文系理系を問わず、データサイエンスに興味をもってもらいたい。なお，本講義は，高大連携活動の一環として高校生も受講できるように開講する。	共同
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	佐賀大学	データサイエンス Basic Ⅱ		（概要） データを読み解くために必要な基本的な統計知識と，データを活用するために必要な基本的な統計手法について解説し，演習課題を通してスキルの定着を図る。 現在，ビッグデータという言葉に象徴されるように，ビジネス，医療，教育，農業，工業など様々な分野で大量かつ多様なデータが得られるようになってきた。そのため，このデータを新しい資源ととらえ，データに基づいて様々な問題を解決していく能力，「データサイエンス力」を備えた人材があらゆる分野で求められている。そこで本講義では，データ活用には欠かせない，基本的な統計手法について学ぶ。なお，本講義は，高大連携活動の一環として高校生も受講できるように開講する。なお，数学Aの『場合の数と確率』及び数学B『統計的な推測』を学習していることが望ましい。	共同
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	佐賀大学	日本事情－自然科学と技術の分野		（概要） 本講義は、外国人留学生を対象に、日本語をもって行います。講義では、主に新聞や雑誌などの記事を用いて、日本に関係する自然科学と技術について考えます。講義における解説とともに、受講生に発言や討議を求めます。 本講義は、外国人留学生に日本に関連する自然科学や技術についての知識を身につけさせ、自然科学と技術に関する幅広い知識を習得するとともに、科学的素養を基に合理的および論理的に判断する力を養います。日本語による文書と会話を通じて、自然科学と技術に関連するトピックについて意思疎通を行う能力を養成します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	佐賀大学	日本事情－文化の分野		（概要） この講義は、外国人留学生が日本の歴史と文化を学ぶための授業です。 約2,000年前からの日本の政治や文化の流れを中心とした講義を行います。特に、武士による政治が行われた時代を重点的に取りあげます。 授業は日本語で進めます。日本史の講義なので漢字を多く使います。したがって、一定の日本語の読解力が必要になります。 履修する人は、語学の勉強にも励んでおいてください。 留学先での異文化を学ぶことで、自分の母国の歴史と文化の特徴を、再認識するきっかけにしてもらう。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	佐賀大学	日本事情－現代社会		（概要） 日本の教育と社会の関係性に焦点を当て、人間形成と発達、現代社会と子ども、学校と教師、学校経営・管理、国家と人権、宗教と道徳、学校法制、社会変動と教育などを主たるテーマとして、日本の社会事情を解説する。その上で、外国人留学生が個々にもつ理解を日本の文脈において相対化できるよう、受講生間で教育と社会の関係性についてディスカッションする。 現代社会において大部分が経験する制度の１つである教育に焦点を当て、教育の営みを社会との関係性に照らして多角的な視点から考え、日本社会への理解を深める。	隔年

教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	機械工学と環境Ａ－Ⅰ		近年の国際的な緊急課題の一つであるエネルギーと環境問題を取り上げ、最新の現状と展望とともに、その本質および考え方について教授する。また、佐賀大学で行われているエネルギーと環境に関する最先端の研究内容について詳細に概説する。特に、エネルギーの歴史と課題、自然エネルギーの開発の現状、資源リサイクルと社会問題などについて解説する。 （224 オムニバス方式／全15回） （今井康孝／5回） 温暖化ガス排出規制（パリ協定、欧州の取り組み、国内の取り組み）、温暖化予測とモデル検証、再生可能エネルギー転換とその問題についての講義 （158 池上康之／5回） エネルギー問題の概説、海洋温度差発電開発（歴史、複合利用）、再生可能エネルギー開発と地域振興、エネルギー問題の将来 （346 鶴若菜／5回） 自然エネルギー概説、海洋発電概説、波力・風力・潮流発電、その他海洋開発、海洋エネルギーの有効利用と課題	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	機械工学と環境Ａ－Ⅱ		機械設計および機械加工は，自動車を代表とするいわゆる“機械”を生みだす基盤技術となる．本科目では，機械設計・機械加工の基本理論と緒現象について詳述するとともに，近年の環境問題への取組み，技術動向について説明する．本講義はオムニバス形式となり，各教員の専門分野およびその周辺分野にに関するを内容を取り扱う．授業を通じて，機械設計・加工かかわる技術や機器についての理解を深め，設計生産技術と環境の関わりについての知識を習得するとともに，各教員が与えた課題について調査・検討を行い，小論文・レポートとしてまとめ提出する． （オムニバス方式／全15回） （165 長谷川裕之／5回） 授業概要説明、機構学の基礎、環境と機構学 （343 大島史洋／5回） 歯車設計・歯切り加工の基礎、環境と歯車設計 （357 馬渡俊文／5回） トライボロジー、環境とトライボロジー	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	機械工学と環境Ⅲ		（概要） 本講義においては，医工学に関連した流体の基礎と流体機器への応用，流体機械や自然エネルギーを利用した機器，数値シミュレーションの工学分野での応用，蒸気タービン，翼周り，冷凍サイクルのエジェクターなどで生ずる圧縮性を伴う流動場や関連した流体現象について説明する． （オムニバス形式／全15回） （307 橋本時忠／5回）医工学における流体機器の基礎と応用 （335 住隆博／5会）数値シミュレーションの基礎と応用 （321 塩見憲正／5回）流れのふしぎに基づく流体工学の基礎と応用 ―― （概要） 本講義では，金属を中心とした機械材料の基礎について概説するとともに，その関連技術および環境問題との関連について学習する． （オムニバス形式／全15回） （157 只野裕一／5回）機械材料と環境の関わり、環境問題を考慮した材料評価 （252 森田繁樹／5回）機械材料の構造と力学特性 （181 武富紳也／5回）機械材料の環境影響評価	オムニバス方式・クラスを選択して履修
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	機械工学と環境Ⅳ		熱工学の基礎，伝熱とエネルギー変換，エネルギー利用と様々なエネルギー機器，エネルギー環境問題とその対策技術について講義する． 佐賀県および九州におけるエネルギー事情および新エネルギーへの取り組みについても扱う． （オムニバス形式／全15回） （495 石田賢治／7回）熱工学の基礎、エネルギー・環境問題とその対策技術 （366 有馬博史／4回）エネルギーの利用と様々なエネルギー機器 （322 仮屋圭史／4回）伝熱とエネルギー変換 ―― （概要） Arduinoに代表されるマイクロコントローラを用いて，我々をとりまく環境情報の一部を自動的に取得し，PCと通信し，判断し，動作をする簡単なシステムを構築する． （オムニバス形式／全15回） （487 寺本顕武／12回）マイクロコントローラ、電子回路初歩、Arduinoプログラミング概要など （211 MD.T.ISLAM KHAN／3回）Arduinoスケッチ	オムニバス・クラスを選択して履修
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	エレクトロニクスと環境Ａ－Ⅰ		電波と電波を用いたアプリケーションを理解する上で必要な基礎知識（波動、電波伝搬、電気回路・電子回路など）、について講義し、電波の応用を考える上での基礎を養う。8週目までは基礎知識（波動、電波伝搬、電気回路・電子回路）、レーダの原理、各種レーダについて説明する。10週目は佐賀県出身の技術者を紹介する。9週目,11週目以降は、現代社会における電波の応用について調査し、調査内容についてプレゼンテーションを行うことにより電波の社会に対する役割を理解し、よりよい社会の実現を考えることができるようにする。	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	エレクトロニクスと環境Ａ－Ⅱ		電磁工学の基礎について概説するとともに，その関連技術および環境問題との関連について，講義および調査を通じて学習し，電磁工学と環境とのかかわりについて理解させる．環境・資源・エネルギー問題の解決に資する電磁工学の歴史と最近の技術動向について理解を深める． 6回までは電磁工学の基礎、電磁工学と環境の関わりについての講義や、佐賀県における電磁工学の課題及び関連企業の取り組みについて紹介する．後半は、電磁工学に関する昔評問題や対策技術について調査し、発表を行う．	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	エレクトロニクスと環境Ⅲ		プラズマエレクトロニクスの基礎及びその関連技術および環境問題との関連について解説する。班分けを行い、班毎にプラズマエレクトロニクスに関する環境問題やその対策技術に関するグループ調査を行い，プレゼンテーションを実施させ、プラズマエレクトロニクスと環境との関わりについて理解させる.環境・資源・エネルギー問題の解決に資するプラズマエレクトロニクスの歴史やその知識、最近の技術動向について理解を深める.	

教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	エレクトロニクスと環境Ⅳ		半導体産業は裾野が広く，電気電子工学のみならず，理工学部のすべての分野，さらには経済学等を含めた学部の学問分野にも関係する。本講義では，半導体とは何か，半導体の基礎，応用，半導体産業の動向について概説する。また，オプトエレクトロニクスに関して，太陽電池、発光ダイオードなど各種光デバイスの開発の歴史，材料，動作原理などについても概説する。これらと環境・エネルギー問題との関連についても紹介する。インターフェース科目として，自ら学ぶ専門分野や知識が社会とどのような接点を持つのか把握することも重要であるので，半導体やオプトエレクトロニクスに関連した調査学習を行い，プレゼンにまとめる。これらを通して，電気電子工学（エレクトロニクス）と環境および生活について理解を深める。地域との関わりも学ぶ。	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	佐賀の環境Ａ－Ⅰ		環境に関連した様々な問題を身の回りの話題から考え、科学技術、地域、経済、政治など社会全体の変化と対応させる。メディアを通して得られる環境に関する知識は断片的であり、時には誤っている場合もあるので、これらを科学的考察に基づいて精査し、相互に関連づける。環境問題についての“正しい”知識を得るための方法を学ぶ。これまでのライフスタイルを「自然と共生する」ことに主眼をおいて考え直す契機とする。 10回（外部講師5名、内部講師のべ5名を予定）のオムニバス講義と体験学習（ゴミ体験隊、自然観察会）、現地見学会、グループ討論で構成される。講義内容、講師は変更する可能性あり。 （オムニバス方式／16回） （367 兒玉宏樹／14回）フォーラム概略説明、環境問題総論、グループ討論会、環境学習会 （326 郡山益実／1回）沿岸域の環境保全 （327 原口智和／1回）再生可能エネルギーは「エコ」？	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	佐賀の環境Ａ－Ⅱ		(A)市民と共に身近な環境問題について調査研究し、佐賀市の環境施策や佐賀大学の環境研究と関連づける。 (B)一線で活躍する環境活動グループの活動に参加し、その実情を体験し、その意義を知る。 身近な環境問題について自ら解決のために活動し，その中から問題解決のための様々な手法を学ぶ。学生同士や社会人など意見や都合の異なる人間同士の意見を調整、集約し議論や交渉、協働作業を通じ、知識や経験を共有し、活動を行なう社会人としての能力を培う。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	佐賀の環境Ⅲ		佐賀の環境Ⅲ（有明海学Ⅰ） 佐賀大学がある佐賀市は、広大な干潟があり、独特の生き物が生息する有明海に面しています。この海の自然とそこに生きる人の暮らし、そして今起きている環境問題について概観します。 原則として対面で講義しますが、第1回はワークショップを含む形式で実施し、第9-10回は実際に干潟を訪れてフィールドワークを行います。フィールドワークは土曜日あるいは日曜日に1日かけて実施します。 （オムニバス方式／全15回） （331 速水祐一／7回）グリーンマップ作り、海水の物性、干潟とエスチュアリー、波と潮汐、内湾の流れほか （326 郡山益実／5回）有明海底泥の役割、干潟の環境、ガタ土の環境、干潟現地見学 （302 阿南光政／1回）集水域がもたらす有明海への影響 （362 木村圭／2回）生物の代謝、有明海の生物生産構造、有明海の水産業	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀大学	佐賀の環境Ⅳ		佐賀の環境Ⅳ（有明海学Ⅱ） 有明海を対象に、沿岸海域の物理学，生物学等の基礎について講義した後，沿岸海域の環境問題や人と海のかかわりについて講義します．実際の有明海の調査データ等を扱ったアクティブラーニングを含みます。 （オムニバス方式／全15回） （331 速水祐一／6回）有明海の地形と地史、海の構造と貧酸素、有明海の海洋調査の実際、人による有明海の利用、有明海の干拓と諫早干拓問題、沿岸域の持続的利用に向けた取り組み （326 郡山益実／3回）干潟の物質環境、野鳥や陸生植物、干潟調査と研究例紹介 （302 阿南光政／1回） 泥と濁り （362 木村圭／2回） 植物プランクトンと赤潮、海藻とノリ養殖 （580 折田亮／1回） 有明海の動物プランクトン等 （274 木村圭・388 折田亮／2回）（共同） 有明海の生物とその問題	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	異文化交流１－Ⅰ		現代において、異文化の人間が交わることは、他の地域と比べて閉鎖的とも言われる日本国内ですら、もはや常態化していると言っていい。必然的な異文化交流の行き着く先は多文化共生であり、日本国内においても多文化共生の重要性はますます高まりつつある。本講義では、平和学及び紛争解決学の理論に則って、平和的な異文化交流及び多文化共生の形を追求すると同時に、講師の現場体験も踏まえつつ多文化共生の事例をわかりやすく紐解く。さらには、その発展系としての世界平和の実現の可能性と困難性について、模擬国際会議で理解を深める。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	異文化交流１－Ⅱ		協働、会話・交流を通じて異文化交流を体験する。外国人の留学生に長めの自己紹介（3，4分間、英語で）をしたり、異文化交流に関するトピックで外国人と協働して口頭発表（英語で）をしたり、海外での学位取得を体験した教師の講演を聞いたり、日本の文化・事情（有田焼）を外国人に英語で紹介・説明したり、外国人と一緒に学外研修に行ったりする。異文化・事情に育った海外の人との交流を通じて、彼らに、自分自身（および一般の日本人）の経験してきた日本の文化や事情を説明し、彼らから彼ら自身（およびさまざまな国の外国人）の経験してきた海外の文化・事情を聞き、理解する。グループ口頭発表はこれを基にして協働して行う。	

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	異文化交流Ⅲ		この授業では、日常生活で遭遇する倫理的問題（死生観、様々なライフスタイル、学校教育、ソーシャルメディアの使い方、動物と人間の関係など）について異文化交流の観点から考察します。この授業では、文化的背景が違う参加者との対話を通して、現代社会が抱える様々な倫理的問題について考察する機会を提供します。この授業の第一の目的は、留学生と日本の学生が対話や協同作業を通して交流することにあります。文化や倫理に関する多様なテーマを取り上げる予定ですが、日本社会や日本文化の専門的知識を系統立て講義する授業ではありません。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	異文化交流Ⅳ		「異文化交流Ⅳ」はインターフェイスの最後の科目です。本授業では、インターフェイスの総仕上げとして、多文化環境下において文化や言語の異なる他者と協働するために必要な知識、態度、スキルを養います。国内学生と交換留学生による多文化チームをつくり、世界共通の課題について多様な背景を持つ仲間と議論します。本授業では、グループメンバーとともにテーマに関連する議論やプロジェクトワークを行います。データを分析し、ローカルとグローバルの両面から検証し、解決方法を提示します。プロジェクトの成果物はプレゼンテーションとレポートでアウトプットします。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	Intercultural Communication１－Ⅰ		As one of the Interface subjects with the theme of Culture and Coexistence in General Education, this is designed for the English Course, fully conducted in English. The class provides hands-on practices in authentic contexts for students to find values in understanding of other cultures as well as their own and to develop intercultural communicative competence to prepare students to become a global citizen. The class activities require student's high engagement such as discussions, group works, presentations, and written communication. The topics include intercultural communication, communication strategies in English, and connecting the local community to the world and this study to their individual future goals. The end project will reflect on what students have learned throughout the course. Students will have study-abroad like experiences throughout the class as it will be taught by Instructor from a U.S. partner university in a typical method used in U.S. higher education. このクラスは、英語コース向けに設定されており、完全英語で行われます。このクラスでは、学生が自国の文化だけでなく他文化を理解する価値観を見つけ、学生が地球市民になる準備をするための異文化コミュニケーション能力を開発するための、本物の文脈での実践的な練習を提供します。クラス活動では、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、書面によるコミュニケーションなど、学生の高い関与が求められます。トピックには、異文化コミュニケーション、英語でのコミュニケーション戦略、地元コミュニティと世界、そしてこの研究を各自の将来の目標に結び付けることが含まれます。最終プロジェクトでは、学生がコース全体で学んだことを振り返ります。 米国提携大学の講師が米国の高等教育で使用される典型的な方法で授業を行うため、学生は授業全体を通して留学のような体験をすることができます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	Intercultural Communication１－Ⅱ		本授業は佐賀県にまつわる土地、物、文化のどれかを国内外に発信する成果物を英語で作ります。その過程でアカデミック英語と異文化コミュニケーションについて学ぶことを目的とします。 佐賀に関する紹介プレゼンテーションを英語で作成することで、次の事項に係る英語力を身に付けます。１）調査、２）交渉、３）発信。調査は、主に国外のデータを調べます。交渉は、国内外の企業や機関へのメール送信を行います。発信は、英語での動画制作が主たる活動です。これらに加えて、授業が終わった後も自律的に学習を続けられるように、SNSを使った英語学習方法についても指導していきます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	Intercultural Communication Ⅲ		This class will focus on practical experiences with intercultural communication and understanding via virtual exchange activities. Students will discuss their perception of other cultures, discuss topics with people from other cultures, research other cultures and present information about other cultures. This class will be conducted entirely in English. This class will help students develop intercultural communication skills in order to prepare them for participation in global society. Sufficient English language ability - Class is intended for students with an intermediate understanding of English このクラスでは、バーチャルな交流活動を通して、異文化コミュニケーションと異文化理解の実践的な体験に焦点を当てます。異文化に対する認識、異文化の人々とのディスカッション、異文化リサーチ、異文化情報のプレゼンテーションなどを行います。この授業はすべて英語で行われます。 グローバル社会に参加するための異文化コミュニケーション能力を身につけることを意図とします。 十分な英語力 - 中級程度の英語力を有する学生を対象とします。	

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	Intercultural Communication Ⅳ		This course introduces students to the principles of intercultural communication. It covers themes such as self-introductions, hospitality, social norms, relationships, and communication styles. Students will enhance their English skills through discussions and activities while developing cultural awareness and sensitivity in everyday interactions. The course aims to prepare students to navigate intercultural communication effectively by examining cultural differences in daily life. Students will gain insights into cross-cultural interactions, promoting adaptability, respect, and open-mindedness in a globalized world. このコースは、学生に異文化コミュニケーションの原則を紹介します。自己紹介、ホスピタリティ、社会的規範、関係性、コミュニケーションスタイルなどのテーマを扱います。学生はディスカッションや活動を通じて英語スキルを向上させながら、日常のやり取りにおける文化的な意識と感受性を育成します。 このコースは、日常生活における文化の違いを検討することで、学生が異文化コミュニケーションを効果的に行えるように準備することを目的としています。学生は異文化間の交流についての洞察を得ることで、グローバル化した世界において適応力、尊重、そして柔軟な思考を促進します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	肥前陶磁器産業体験Ａ－Ⅰ		本授業では、有田を中心に肥前地区の古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、外部からの視点ではなく、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から学ぶ。講義や演習をつうじて陶器や磁器についての知識理解と産業全体の成り立ちについて学ぶ。後期は、実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなうのでその基礎的知識を身につける。 １．日本陶磁器の産地と流れ ２．肥前陶磁器の流れ ３．窯と焼成 ４．LP,プタンガス窯の構造 ５．ガス窯の焼成 ６．有田の産業構造 ７．有田の産業構造2 ８．肥前陶磁器の高台削り ９．「焼き物の表情」他3篇 10．「急須の後引き」 11．後引きのない急須の作図 12．陶磁器製造における欠点及び、対処法 13．思いを託した土の形－鈴木治 14．制作の主題について 15．制作に主題について2 以上は、学生の状況で並び、内容によって変化する。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	肥前陶磁器産業体験Ａ－Ⅱ		本授業では、有田の窯元での陶磁器産業体験をつうじて、古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、外部からの視点ではなく、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から、職人の仕事を支えるための作業や雑用を行う中で、自ら感じ取る方法を体験的に学ぶ。（場所：有田キャンパス）。実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなう（一窯元に一人が原則）。窯元の通常業務に支障をきたさない範囲でインターンシップを行い労働経験を積むことによって、佐賀の主要産業の一つである陶磁産業のことを深く理解する。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	肥前陶磁器産業体験Ⅲ		本授業は前期「肥前陶磁器産業体験Ⅲ」後期「肥前陶磁器産業体験Ⅳ」通して行う。 肥前地区の窯業事業者との協働を通して、自己の陶磁器制作を行い、やきものの専門性と表現領域を深める。また肥前地区の窯業の実態を学び、技術や表現の面において思考し、自己の制作に繋げることを目的とする。 プロジェクトの成果物として最終的に展示発表を行う。 また、肥前陶磁器産業への理解や窯業事業者との協働を通して、対外的な対応や関係構築や、自主的な制作を行うことで、制作や展示において全体的なスケジュールが把握・管理できるようになることを目指す。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	肥前陶磁器産業体験Ⅳ		本授業は前期「肥前陶磁器産業体験Ⅲ」後期「肥前陶磁器産業体験Ⅳ」通して行う。 肥前地区の窯業事業者との協働を通して、自己の陶磁器制作を行い、やきものの専門性と表現領域を深める。また肥前地区の窯業の実態を学び、技術や表現の面において思考し、自己の制作に繋げることを目的とする。 プロジェクトの成果物として最終的に展示発表を行う。 また、肥前陶磁器産業への理解や窯業事業者との協働を通して、対外的な対応や関係構築や、自主的な制作を行うことで、制作や展示において全体的なスケジュールが把握・管理できるようになることを目指す。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅰ		基本教養科目「ドイツの言語と文化」でやり残していた初級文法を学びつつ、ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいきます。 ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。 さらに、実際にドイツ語を身に付けるために対面授業では発音練習と聞き取り練習に力を入れます。 また、キリスト教の基礎知識についても学びます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅱ		基本教養科目「ドイツの言語と文化」でやり残していた初級文法を学びつつ、ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいきます。 ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。 さらに、実際にドイツ語を身に付けるために対面授業では発音練習と聞き取り練習に力を入れます。 また、キリスト教の基礎知識についても学びます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅲ		◎ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいきます。 ◎佐賀県内の市町村と姉妹都市の関係にある都市を取り上げ、佐賀とドイツの国際交流の一端を学びます。（ピアノがつないだ国際交流 鳥栖市とツァイツ） ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の最新情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。 さらに、実際にドイツ語を身につけるために対面授業では発音・聞き取り練習に力を入れます。	

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅳ		◎ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいきます。 ◎佐賀県内の市町村と姉妹都市の関係にある都市を取り上げ、佐賀とドイツの国際交流の一端を学びます。（磁器がつないだ国際交流 有田町とマイセン） ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の最新情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。 さらに、実際にドイツ語を身につけるために対面授業では発音・聞き取り練習に力を入れます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	芸術と社会Ａ－Ⅰ		絵画や彫刻の歴史から現代美術やデザインの歴史までを幅広く講義し、芸術への理解を深めます。 あわせて芸術理論の基礎を学ぶことで、芸術作品をより深く鑑賞できるような知識を身につけます。 （オムニバス方式／全15回） （303 阿部浩之／4回）現代のデジタル表現、現代のアートとデザイン （528 徳安和博／4回）身近にある彫刻（銅像）の制作過程、拡張を続ける彫刻の定義、西洋の彫刻、東洋の彫刻 （173 土屋貴哉／3回）構造の操作 （341 世利幸代／4回）デザイン・建築・人間社会の形成史（古代、中世～近世、近代、モダニズム）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	芸術と社会Ａ－Ⅱ		芸術の鑑賞・体験について3人の教員がそれぞれのテーマに基づき講義・見学等を担当。 （必要に応じて現地体験、美術館見学、ゲスト講義等を行う） 佐賀の伝統的な工芸や芸能について施設見学や体験等を通して理解を深める。現代アーティストと社会の関わりについて関係者の話を聞きながら理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （116 花田伸一／6回）近代美術館見学2回 （144 石井美恵／4回）佐賀の無形文化財（※令和7年度は花田が代理開講） （108 HOUGHTON STEPHANIE ANN／5回）異文化コミュニケーション、芸術と社会について講義を実践	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	芸術と社会Ⅲ		（概要） 芸術と社会の繋がりをめぐる講義および有田地域の現地見学を行う。 各自の専門分野と芸術の繋がりを考える。 （オムニバス方式／全15回） （116 花田伸一／10回）美・美術・美術館、美の諸相についての講義、各自の専門分野と美についての学生発表 （175 湯之原淳／5回）有田見学 ―― （概要） 芸術地域デザイン学部の教員によって行われるアクティブラーニング。日本画、西洋画、木工の３分野における作品制作を各５回の授業で経験する。 （オムニバス方式／全15回） （325 近藤恵介／5回）絵画を学ぶ、日本画を学ぶ （109 井川　健／5回）西洋画を学ぶ （359 富田俊明／5回）染色を学ぶ	オムニバス方式、クラスを選択して履修
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	芸術と社会Ⅳ		音楽、人権、歴史、建築・都市などのさまざまな領域と芸術の関係性を学ぶことで，これまでに獲得した視野をさらに広げることを目指します。音楽、人権、歴史、建築・都市などの具体的テーマから「芸術と社会」について考えます。 （オムニバス方式／全15回） （189 有馬隆文／5回）建築と都市：近代の都市デザイン、戦後の都市デザイン、戦後からバブル期までの都市デザイン、現代の都市デザイン （349 藤井康隆／3回）歴史：中国南京の文化遺産と都市、中国六朝芸術と東アジア、中国江南の風景とミュージアム （7 吉岡剛彦／3回）人権：性表現とその限界（芸術家猥褻か、ポルノ規制論、限界事例から） （11 今井治人／4回）音楽：レナード・バーンスタインはどこから来たのか、グレン・グールドでバッハを聞く、社会が求めた音楽カルチャーの変容、社会と音楽	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	歴史文化１－Ⅰ		－「鎖国」時代の異文化接触－ 「江戸時代は鎖国であった」という先入観から脱却し、異文化接触の観点から、日本の近世史をとらえなおします。 ①日本の近世における異文化接触について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容についてコメント・質問を提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	歴史文化１－Ⅱ		－映画で学ぶ幕末維新－ 幕末から明治維新までの歴史を、映画やテレビドラマの映像を参考にしながら、分かりやすく解説する。 年代を覚えるだけの歴史教育ではなくて、時代を輝くように生きた偉人たちの“無私”の人間像や、さまざまな時代状況に適合していく各藩の生き方を伝える。 本授業では、佐賀藩が参加したパリ万博、悲劇の藩・会津藩のたどった道、薩摩藩はなぜ雄藩になりえたか？、長州藩の関ヶ原以来の恨みなどのテーマで講義を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	歴史文化Ⅲ		－佐賀「賢」人の足跡－ 佐賀は多くの賢人を輩出しました。佐賀「賢」人の足跡をたどり、その生きざまについて学びます。 ①地域（佐賀）の賢人について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容について質問やコメントを提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	歴史文化Ⅳ		－地域の文化遺産－ 各自、文献調査とフィールドワークをとおして、地域の文化遺産の歴史背景と意義について発表し、議論を行います。 ①地域（佐賀県）の文化遺産について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容についてコメント・質問を提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	英語コミュニケーションＡ－Ⅰ		This course is focused on studying some of the most important issues facing the world today. Through studying a variety of issues that face the world, and Japan. By studying such topical content in English, students will evaluate their own role as individuals and as members of society. The course will support and enable learners to critically evaluate and understand the impact of their choices and how they can live and work in responsible ways to ensure that our home, planet earth, can thrive and remain habitable for future generations. このコースは、今日世界が直面している最も重要な問題のいくつかを学ぶことに焦点を当てています。世界と日本が直面するさまざまな問題を学びます。このような時事的な内容を英語で学ぶことで、学生は個人として、また社会の一員としての自分の役割を評価します。このコースは、学習者が自分の選択の影響と、私たちの家である地球が確実に繁栄し、将来の世代にとって住み続けられるようにするために責任ある方法で生活し働く方法を批判的に評価して理解できるようにサポートし、可能にします。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	英語コミュニケーションＡ－Ⅱ		This course is designed to help students develop confidence and fluency in English conversation through engaging, practical, and interactive speaking activities. Using “New Conversations in Class 2” as the core textbook, students will explore real-life topics such as travel, entertainment, family, and future dreams. Each week, students will practice speaking, listening, and critical thinking skills through pair work, group discussions, and role-plays. このコースは、学生が実践的でインタラクティブなスピーキング活動を通じて、英会話に自信と流暢さを身につけることを目的としています。コアテキストとして「New Conversations in Class 2」を使用し、旅行、エンターテイメント、家族、将来の夢などの現実的なトピックを探求します。毎週、学生はペアワーク、グループディスカッション、ロールプレイを通じてスピーキング、リスニング、クリティカルシンキングのスキルを練習します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	英語コミュニケーションⅢ		This class is focused on improving general communicative competence, by using a textbook, reading & listening practices, writing assignments, class presentations and group discussions. In each class, the contents of the textbook will be explained and students will be required to answer the questions, participate actively in group discussions and check each other's writing assignments. Face-to-face classes will be conducted weekly. It is essential to prepare the contents of the textbook before each class and submit homework weekly. このクラスは、教科書の使用、リーディングとリスニングの練習、ライティング課題、クラスでのプレゼンテーション、グループディスカッションを通じて、一般的なコミュニケーション能力を向上させることに重点を置いています。各授業では、教科書の内容を説明し、質問に答えたり、グループディスカッションに積極的に参加したり、お互いの作文課題を確認したりすることが求められます。 対面授業は毎週行われます。各授業の前に教科書の内容を準備し、毎週宿題を提出することが不可欠です。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	佐賀大学	英語コミュニケーションⅣ		This class will consist of reading, listening, grammar, viewing videos and having discussions about the content of the reading and viewing exercises. The intention of this class is to provide the tools for students to improve their academic skills. The aim of this class is for students to use the skills they acquire in this course to improve not only their English skills, but also to help them improve their communication skills and academic skills in all aspects of their academic career and beyond. The classes will be a mixture of lecture time, question and aswer time, discussion time and viewing time, so it is important to attend all classes. このクラスは、読解、リスニング、文法、ビデオ視聴、および読解と視聴の練習内容についてのディスカッションで構成されます。 このクラスの目的は、学生が学力を向上させるためのツールを提供することです。 このクラスの目的は、学生がこのコースで習得したスキルを使用して、英語スキルだけでなく、学術的キャリアおよびその先のあらゆる面でコミュニケーションスキルと学術スキルを向上させることです。 授業は講義時間、質疑応答時間、ディスカッション時間、視聴時間の混合で行われるため、すべての授業に出席することが重要です。	

教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅰ		人類の生活を支える材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を講義し、新しい材料が新たに生み出す世界を考察させる。 その中でも、有機機能性材料の科学について講義をおこなう。 未来の有機材料について、グループワークならびに発表会を実施している。 ※この授業科目は、民間企業で有機機能材料について研究していた経験を持つ教員による、有機機能材料に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 （オムニバス方式／全15回） （161 竹下道範／7回）オリエンテーションと有機機能材料の基礎、液晶と液晶材料、フォトクロミック材料、分子認識と超分子化学、双方向授業双方向授業 （481 江良正直／4回）機能性有機材料とエレクトロニクス、有機EL素子、有機太陽電池、有機トランジスタ、メゾスコピック有機材料とフォトニクス （575 小山田重蔵／2回）高分子化学概論、機能性高分子材料 （584 米田宏／2回）錯体化学の基礎と応用	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅱ		身近な無機材料や陶磁器の開発の歴史とその機構ならびに利用を、板書や配布資料やPowerPointファイルを用いて講義し、新しい無機材料が新たに生み出す世界を考察することができる人材の育成を目標とする。特に、陶磁器の歴史・研究開発の講義については、肥前セラミック研究センターの教員による講義を実施する. ※この授業は、県の研究開発センター（佐賀県窯業技術センター）で企業と共同した陶磁器の研究開発の実務経験を有している教員が、陶磁器の歴史や研究開発に関する実践的な教育を行う科目である。 （オムニバス方式／全15回） （188 矢田光徳／5回）光触媒材料、医療材料に関する講義 （136 山田泰教／5回）錯体系無機材料に関する講義 （110 一ノ瀬弘道／5回）陶磁器の歴史について、陶器・磁器の製造法、構造、特性について、機能性陶磁器の機能発現理由について	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	未来を拓く材料の科学Ⅲ		人類の生活を支える生体機能材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を講義し、新しい生体機能材料が新たに生み出す世界を考察する。また、学生との議論をおこなうことがある。 この授業科目は、民間企業で水質と金属材料の腐食との関係について研究していた経験を持つ教員による、水質と金属材料に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 （オムニバス方式／全15回） （148 川喜田英孝／3回）工学的な酵素利用、多糖の構造と糖類、生体分子の分離材料 （131 高椋利幸／3回）水の性質、溶けるということ、宇宙、地球及び生物と水 （156 大渡啓介／3回）生体模倣の材料、分子間力と超分子、人工生体模倣分子の機能と構造 （117 海野雅司／3回）生体分子（糖類、タンパク質）、生体分子（DNA）、薬について、薬と生体材料 （178 徳留嘉寛／2回）佐賀県コスメティック構想と佐賀大学の関わり、化粧品に使用されている科学（技術）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	未来を拓く材料の科学Ⅳ		人類の生活を支える様々な機能性材料に関する講義と実験を行う．また佐賀地域の特色を考えた化学関連商品についての試案させる。 ※この授業科目は、民間企業でビジネスプランニング（企画書）に関する経験を持つ教員による、ビジネスプランニング（企画書）に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 グループに別れ，実験テーマ(LED)を実施する． 材料を用いたビジネスプランを個人または小グループで考え，教員および他の学生に向けて発表を行う． （オムニバス方式／全15回） （146 成田貴行／9回） イオン液体実験 （146 成田貴行・575 小山田重蔵・358 梅木辰也・584 米田宏／3回）（共同） イオン液体実験 （352 藤澤知績・568 磯野健一／3回）（共同） LED実験	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅰ		情報技術者として身につけておくべき基礎的知識を講義するとともに、ITパスポート試験（ストラテジ分野およびマネジメント分野）に合格するレベルにスキルアップするための演習を行う。 情報技術者＝SE・プログラマとの誤解があるが，情報系の職業はそれよりもはるかに多様である．また，情報技術は社会的ニーズや企業活動との関連も強い．最近はDX（Digital Transformation）の推進が強く求められており，そのための人材育成も重要である．本科目を学ぶことにより，学生は情報系の様々な職業や，IT（情報技術）と企業活動や社会とのつながりを正しく理解するための基礎を身に付けることができる．	共同
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅱ		職業人が共通に備えておくべき情報技術を講義するとともに、ITパスポート試験に合格するレベルにスキルアップするための演習をおこなう。 なお、この授業は情報系企業の勤務経験を有している教員がその経験をもとにITパスポート試験の有用性を解説します。 本授業の内容は情報処理技術者試験シラバスに従っており、具体的なトピックとしては、情報の基礎理論、ハードウェア、ソフトウェア、マルチメディア、システム構成、ネットワーク、セキュリティ、データベース、アルゴリズムとプログラミングが挙げられる。	

教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	情報技術者キャリアデザインⅡ		情報技術者として身につけておくべき論理的思考能力、プレゼンテーション能力を講義や演習を通じて養う。 論理的思考による問題解決や、知識や情報を分かりやすく伝えるための技術は、情報技術者としての基本的な要件の一つである。 本授業では、論理的思考能力（ロジカルシンキング）・問題解決・コミュニケーション技術の学習を行うことにより、パーソナルスキルを向上することができる。 （オムニバス方式／全15回） （113 岡崎泰久／6回）ロジカルシンキング（概要および基本となる思考），Whatツリー，Whyツリー，Howツリーおよびピラミッドストラクチャーの概要と活用方法 （118 皆本晃弥／3回）コミュニケーション（自己紹介，説明・報告）およびプレゼンの組み立て方 （363 木村拓馬／6回）マトリクスおよびプロセスの概要と活用方法，問題解決（問題発見，原因分析，解決手段検討）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	情報技術者キャリアデザインⅣ		「敵を知り己を知らば百戦危うべからず」・・・の格言にもあるように、今後、情報技術研究あるいは情報技術関連業界へ巣立っていく者として身につけておかなければならない様々な周辺知識を修得させる。 なお、この授業では、佐賀県内に本社、支社、事業拠点のある情報・通信関連企業を対象とし、業界研究を実施する。 ● 情報技術者倫理 ● 情報技術者の多様な進路 ● 情報関連業界の現状と情報技術者の責務	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅰ		本講義は，1年間を通して，起業を目指したビジネスプランを作るための講義である。Ⅰでは，アントレプレナーシップ（起業家精神），起業の技術～論理的思考，マーケティング理論，アイディアの発散と収束等についてトライする。 また，この講義は，佐賀を中心とした社会人向けビジネススクールを手掛けるNPO鳳雛塾の全面協力のもと，起業に必須のロジカルシンキング，ケースメソッドを活用した企業分析，自ら考える地力をつけるためのキャリア教育を中心にして展開する。横尾敏史（ビジネスモデル構築担当、NPO鳳雛塾、佐賀銀行）、大島 清美（NPO鳳雛塾、農学部特任講師）、田中宗浩（農学部）が講義を担当する。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅱ		本講義は，1年間を通して，起業を目指したビジネスプランを作るための講義である。 この講義は，佐賀を中心とした社会人向けビジネススクールを手掛けるNPO鳳雛塾の全面協力のもと，起業に必須のロジカルシンキング，ケースメソッドを活用した企業分析，自ら考える地力をつけるためのキャリア教育を中心にして展開する。横尾敏史（ビジネスモデル構築担当、NPO鳳雛塾、佐賀銀行）、大島 清美（NPO鳳雛塾、農学部特任講師）、田中宗浩（農学部）が講義を担当する。 Ⅱでは，5名程度のグループを構成してビジネスプランの構築に取り組む。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅲ		IoTの進展には、主体的に行動し、自ら課題を解決する「アントレプレナーシップ」が重要である。同時に、社会のあらゆる局面を見渡しながら､IoTの実装とその効果を自らの力で判断し、モノを作り出すことが重要となる。 この能力を「業を起こす（がばいベンチャーを作る）」をテーマに2年間の一連した積み上げ式の講義、演習で身に付けることを目的とする。 講義は2年目の開講科目である。この講義では、実際にブレインストーミングでアイデア創造を行う。商品企画のケースを活用した事例研究により意思決定、行動力、問題解決能力を育む。 今学期は，清川隼矢，千住和久，オプティムエンジニアチーム（プログラミング担当、（株）オプティム）、横尾敏史（ビジネスモデル構築担当 NPO鳳雛塾、佐賀銀行）、 NPO鳳雛塾スタッフ，田中宗浩（農学部）が講義を担当する。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅳ		この講義では、Ⅰ～Ⅲの講義の中で身に付けた知識やITスキル及び自らの専門知識を用いて、自らの専門知識とITを融合させたビジネスプランを考え、実際に形とする力とアントレプレナーシップを身に着けることを目的とする。実際にビジネスプランを検討し、サービスの構築、プレゼンテーションを行う。また，佐賀県内の産業と連携をした地域振興につながるビジネスモデルの仕上げと発表を行う。今期の講義は、プログラミング関係は、清川隼矢，千住和久，オプティムエンジニアチーム（株式会社オプティム），ビジネスプラン構築については、横尾敏史（NPO鳳雛塾，佐賀銀行），NPO鳳雛塾スタッフ，及び田中宗浩（農学部）が担当する。また，外部からのゲストスピーカーを招いた講演も実施する。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	食糧生産の科学Ｂ－Ⅰ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、園芸科学、植物の病害虫と生態系、作物と家畜の生産、作物育種と栽培環境の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイディアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	食糧生産の科学Ｂ－Ⅱ		食糧や農作物の生産に関係する動植物や微生物の生態について教授するとともに、それらを生産する際に問題となる病害虫やそれらの防除方法について教授する。 （オムニバス方式／全15回） （121 吉賀豊司／3回）農薬の安全性、農薬の作用機序、遺伝子組み換え作物による防除 （177 徳田誠／4回）害虫防除の歴史、害虫防除の実際、生態系と食糧生産、生物多様性と食糧生産 （345 辻田有紀／4回）花弁園芸作物の分類、花弁園芸作物の生産（用途別にみた生産体系、植物の生態的特徴からみた生産体系）、花弁園芸作物の利用 （152 草場基章／4回）食糧生産に関係する微生物、食糧生産への微生物の利用、食糧生産で問題となる微生物、食糧生産と微生物	オムニバス

教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	食糧生産の科学Ⅲ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、作物と家畜の生産、作物育種と栽培環境の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイディアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （169 鄭紹輝／4回）日本における食用作物の生産事情、佐賀県の農業環境と作物生産、豆類作物の栽培と利用、イモ類雑穀類作物の栽培と利用 （339 上埜喜八／4回）日本におけるイネの生産、米の特性と利用法、日本における麦類の生産、麦類の生育環境と品種特性 （308 江原史雄／3回）動物の管理、動物への配慮、アニマルウェルフェア畜産の現在と未来 （318 山中賢一／4回）動物生産とSDGs、繁殖技術①人工授精、繁殖技術②体外受精、繁殖技術③生殖細胞の凍結保存	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	食糧生産の科学Ⅳ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、作物学、育種学、植物生理学、園芸科学の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイディアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （190 鈴木章弘／3回）作物生態生理学（作物とは、作物栽培の実際、微生物共生の作物栽培への応用） （348 渡邊啓史／3回）日本における食糧生産の実情、世界における遺伝子組み換え作物の利用、作物育種の方法と現状 （350 藤田大輔／3回）イネについて、イネ生産の課題（非生物的ストレス、生物的ストレス） （328 西田翔／3回）土壌の役割と性質、植物の栄養吸収と利用、食糧生産における環境問題 （127 後藤文之／3回）施設園芸学（施設園芸の定義、歴史、施設園芸における植物生理学、オランダの園芸と植物工場）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅰ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （168 辻田忠志／3回）食品の機能性を判断する細胞実験、実験体験 （330 川添嘉徳／3回）海産物・植物・キノコなどの菌類が生産する機能性物質 （185 堀谷正樹／3回）食品中のタンパク質、食品を消化する酵素、タンパク質と疾患 （476 関清彦／3回）タンパク質・脂質の一般分析、炭水化物（糖質）の分析 （400 基幹教員以外の教員（担当者未定）／3回）光と色の測定法、植物・海藻の色を決める色素の測定法、植物の非破壊測定技術	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅱ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面、機能的側面も持つ。食品が消費者の手元に届くまでにはこれら食品の特性を保持しつつ食中毒等のリスクを低減させる処理がなされる。また、加工食品の開発には市場調査も欠かせない。さらに近年では、食糧枯渇問題を背景に新たな食資源の開発も行われている。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （365 野間誠司／4回） 食品の加熱殺菌と微生物数評価、食品の新しい殺菌技術と品質評価、食品保存技術と品質評価 （194 濱洋一郎／3回） 食中毒の概要、食品製造現場での食品衛生、食中毒についてグループワーク （370 龍田勝輔／3回）食資源としての昆虫利用、昆虫食の利点と欠点、昆虫を利用した機能性成分 （585 本島浩之／3回）食品アンケートの概要、食品アンケート調査と解析 （277 野間誠司・394 龍田勝輔／1回）（共同） 野間、龍田担当分の演習 （194 濱洋一郎・393 本島浩之／1回）（共同） 濱、本島担当分の演習	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	ライフサイエンス・フードサイエンスⅢ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （149 川口真一／3回）食品・サプリメント・化粧品に含まれる有機低分子 （129 光武進／3回）食品の安全を担保するための規制、HACCPによる食品製造管理、HACCPを自炊に生かそう （112 永野幸生／3回）分子系統解析に関する演習 （362 木村圭／3回）藻類食品、海苔の食味官能評価、藻類養殖と栄養成分の講義 （306 井上奈穂／3回）食品機能に関する講義、食品の機能性研究に関する演習、機能性食品に関する発表	オムニバス

教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	佐賀大学	ライフサイエンス・フードサイエンスⅣ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （111 永尾晃治／3回）健康に関する食品表示制度の講義、特別用途食品の機能性に関する演習 （580 折田亮／3回）魚介類の利活用に関する講義と演習 （139 宗伸明／3回）食品の分析と調理の科学に関する講義と演習 （125 後藤正利／3回）発酵食品の製造と分析に関する講義と演習 （142 小林元太／3回）発酵食品の製造と分析に関する講義と演習	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅰ		本授業は、「①チームビルディングのスキル」，「②リーダーシップ理論の知識」，「③課題発見能力」をテーマとして扱う。毎回の授業では，「①チームビルディングを目的とした30分程度のアクティビティ」と「②リーダーシップ理論の知識」あるいは「③課題発見能力」に関する講義およびグループワークを実施する。特に③の事柄は、本授業の中核となる活動である。具体的には、教員からテーマ（問い）の提示→資料収集やディスカッション等のグループ活動→結論や主張を示す資料作成→振り返りという流れで実施する。1つのテーマにつき3コマ程度の時間をかけて、グループの主張や結論を導き出す。全15回の授業中に4つ程度のテーマ（問い）に取り組むことで、後述の開講意図および到達目標に掲げる能力の修得を目指す。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅱ		本授業では、前期授業で学習した「チームビルディング」「リーダーシップ」「課題発見・設定」に関する知識や技術を活用し，提示された「テーマ」に対する「課題」を特定した上で，その解決のための企画立案およびプレゼンテーションする。 本プログラムは、「組織および社会において自己の役割と責任を認識し、主体的にリーダーシップを発揮し行動できる人材の輩出」を目指している。本授業では、そのために必要な能力の育成を目的とする。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	チームビルディングとリーダーシップⅢ		特定の佐賀県内企業から提示されたテーマを題材として、テーマに基づいた課題解決のための企画提案を行う。学習者は複数人でチームを形成し、提示されたテーマについて現状分析や課題把握を行った上で、その解決策について企画を行う。一連の学習プロセスには、チューターとして企業から社会人が参画し学びをサポートする。チームで構築した企画については、プレゼンテーションを行う。 なお、本授業については、主に佐賀県内企業に対しての公開授業として、自由な参観があることを申し添える。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	チームビルディングとリーダーシップⅣ		本授業ではプログラムの集大成として、リーダーシップとチームビルディングに関するプロジェクトを実施する。プロジェクトの内容等については、佐賀県あるいは佐賀市が抱える問題・課題を解決するものを前提とするが、詳細は受講学生間で議論し決めることとする。授業の進め方は、基本的にはPBL（Project-Baced Learning）を基本とし、プロジェクト実施とそれまでのプロセスを学生が主体となって進める。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	リサーチ・リテラシー１－Ⅰ		人が決断を迫られる時、何らかの事実に基づいて望ましい決断をしたいと考えることがしばしばある。噂話に耳を傾けることもあれば、信頼している誰かに経験談を語ってもらおうとするかもしれない。統計も事実を知るための一つの方法である。だが、統計が作成され、利用される過程で政治的な仮定が入り込むことや、意図的もしくは無意図的に誤用されることさえある。 本プログラムは、統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指「リサーチ・リテラシー」のフェーズⅠとして、統計データの読み込みと統計データの作成を行う。担当教員は、統計の活用に関するさまざまな議論を提示し、統計データの適切な読み込みができるよう支援する。履修者は担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、各自の問題意識を明らかにし、グループワークを通して興味・関心に即した統計データを実際に作成する。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	リサーチ・リテラシー１－Ⅱ		人が決断を迫られる時、何らかの事実に基づいて望ましい決断をしたいと考えることがしばしばある。噂話に耳を傾けることもあれば、信頼している誰かに経験談を語ってもらおうとするかもしれない。統計も事実を知るための一つの方法である。だが、統計が作成され、利用される過程で政治的な仮定が入り込むことや、意図的もしくは無意図的に誤用されることさえある。 本プログラムは、統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指「リサーチ・リテラシー」のフェーズⅡとして、統計データの読み込みに加え、統計データの処理に必要となる検定と解析を学ぶ。担当教員は、統計的な有意性検定や解析技法の基礎につて、演習を交えて講義し、統計的な知識と技法の修得を支援する。履修者はグループワークを通して統計データの処理を実際に試みる。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	リサーチ・リテラシーⅢ		統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について、共同作業やプレゼンテーションを交えて検討する。21世紀に入り既に10年を経過した現代の日本社会が直面している課題は、少子化や個人・企業・政府による経済活動、財政から、地震や河川の氾濫などの災害、DNA解析まで、膨大な領域に及んでいる。「リサーチ・リテラシーⅢ（調査データの分析）」では、人の心理や教育、社会政策に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な作成と読み込みができるよう支援する。	

教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	リサーチ・リテラシーⅣ		統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について、共同作業やプレゼンテーションを交えて検討する。21世紀に入り既に10年を経過した現代の日本社会が直面している課題は、少子化やそれに伴う教育の諸問題、個人・企業・政府による経済活動、財政から、地震や河川の氾濫などの災害、DNA解析まで、膨大な領域に及んでいる。「リサーチ・リテラシーⅣ（人文・社会・自然科学の統計）」では、人文・社会科学、自然学が扱う社会的な諸課題に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な読み込みができるよう支援する。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	スポーツイベントとボランティアリーダー１－Ⅰ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー１」においては、企画立案に必要な基礎知識や企画書作成のためのプロセスについて講義した後、大学における１つの問題解決をテーマに企画書の作成をしてもらいます。企画書の内容を評価対象とします。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	スポーツイベントとボランティアリーダー１－Ⅱ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、イベントづくりのための基礎的な知識を講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー２」においては、２つの企業から依頼される案件を題材に提案をプレゼンにまとめる方法について講義で学び、実際にスライドの作成やプレゼン動画の作成を行います。 加えて、春休み期間中にはスポーツイベントのボランティア体験をしてもらいます。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー３」においては、さが桜マラソンの反省とチームワークやリーダーシップの知識等をベースに「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を作成してもらう。その後、２班に別れ地元企業等からスポーツイベントの作り方などについて学び、その知識を元に企画立案をしてもらう。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー４」では「スポーツイベントとボランティアリーダー３」で立案した企画を「また関わりたいと思えるスポーツイベント」になるように実施する事を通して、スポーツボランティアリーダーとして求められる能力の獲得に向けて行動してもらいます。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	課題解決のためのプロジェクトデザインⅠ		本授業におけるプロジェクトデザインとは、「ある特定の問題を分析し、その原因や取り組むべき課題を明らかにするとともに、課題を解決するための計画をたてること」を指す。本授業では、５名前後の学生チームを作り、教員が提示するテーマ（問い）に取り組むことで、プロジェクトデザインの知識やスキル、チームで協働するためのスキル・マインドを学ぶ。 毎回の授業では，「①チームビルディングを目的としたグループワーク」と「②プロジェクトデザインに関する講義およびグループワーク」を実施する。具体的には、教員からテーマ（問い）の提示→資料収集やディスカッション等のグループ活動→結論や主張を示す資料作成→振り返りという流れで実施する。学生間でのディスカッションやチーム活動が授業の中心となるため、履修にあたっては、これらの活動に積極的に参加する前提であることが望ましい。	

教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	課題解決のためのプロジェクトデザインーⅡ		本授業におけるプロジェクトデザインとは、「ある特定の問題を分析し、その原因や取り組むべき課題を明らかにするとともに、課題を解決するための計画をたてること」を指す。本授業では、前期授業（Ⅰ）で学習した「プロジェクトデザイン」及び「チームビルディング」に関する知識・スキルを活用し、提示されたテーマに対する「課題」を特定したうえで、その解決のための企画立案及びプレゼンテーションを行う。本授業におけるテーマは、佐賀県内企業の協力のもと提示する。履修学生は、実際に佐賀県内企業が抱える問題を解決するための企画立案に取り組む。 Ⅰの授業に引き続き、学生間でのディスカッションやチーム活動が授業の中心となるため、履修にあたっては、これらの活動に積極的に参加する前提であることが望ましい。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	教育から学ぶインターフェース論－Ⅰ		副題を「インターフェースの基礎技法」と題し、教育学部に所属する12名の教員の研究成果をもとに、「インターフェース」の言葉が含有する広範囲な意味について様々な角度から明らかにしていく。 （オムニバス方式／全15回） （11 今井治人／3回）ガイダンス、総論、音楽の界隈で出会うもの （16 達富洋二／1回）ここからはじまるコミュニケーション （43 Moxon Jonathan／1回）英語を学ぶ理由 （15 川中子正／1回）現実問題への数学の応用について （10 荒巻治美／1回）音楽と人間 （47 吉村圭／1回）イギリス児童文学に映し出される社会問題 （8 栗山裕至／1回）美術から得られるものとは （94 大林将呉／1回）「問い」や「思い」を生み出す数学的事象との出合い （51 石川美也子／1回）音楽の系譜 （60 日高茂暢／1回）映画で学ぶ障害心理学と特別支援教育 （52 足立佳菜／1回）ダイバーシティ時代の道徳 （18 中村聡／2回）里山の生物多様性～宮崎駿の創作活動①②	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	教育から学ぶインターフェース論－Ⅱ		副題を「身体と空間」と題し、教育学部に所属する12名の先生方の研究成果をもとに、インターフェースの概念について多彩かつ広範な領域から探求する。 （オムニバス方式／全15回） （11 今井治人／3回）ガイダンス、総論、表現する身体 （47 吉村圭／1回）イギリス文学と映像化作品からみる社会通念の変化 （48 橋永貴弘／1回）折り紙とハサミで数学をしよう （6 嬉正勝／1回）ヒトの視覚と空間認知 （22 澤島智明／1回）住まいと生活 （1 小野文慈／1回）もの・人を安全に運ぶ科学を考える （46 萱島知子／1回）食と健康 （50 小松美和子／1回）衣服のかたち （49 黒田圭介／2回）自然災害と地理学、地域おこしと没場所化 （93 小村朋代／1回）発声のためのボディ・マッピング （7 吉岡剛彦／1回）身体・ジェンダー・自己決定 （56 名倉一美／1回）日本の「子育て支援」の現状	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	教育レクリエーション支援の探究-Ⅰ		本プログラムでは、レクリエーション支援の理論を、学校や地域、企業・団体等における教育実践場面に活用し、個人や組織のチカラを主体的に元気にしていくことができるレクリエーション人材（高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を備えたアクティブな人材）の輩出を目指しており、「教育レクリエーション支援の探究Ⅰ・Ⅱ」という２つの授業を通して、レクリエーションの理念と価値、レクリエーション支援の理論の理解やレクリエーション支援の方法について学びます。 本授業は、講義と演習、実技によるアクティブラーニング型形式の授業となります。さらに、レクリエーション活動やグループワークの体験が学習の主となる展開方法となりますので、積極的に他者と関わることが求められます。 　加えて、本授業では実習（フィールドワーク）として学外授業４回分の「レクリエーション事業参加体験」を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	佐賀大学	教育レクリエーション支援の探究-Ⅱ		本プログラムでは、レクリエーション支援の理論を、学校や地域、企業・団体等における教育実践場面に活用し、個人や組織のチカラを主体的に元気にしていくことができるレクリエーション人材（高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を備えたアクティブな人材）の輩出を目指している。本授業では、「信頼関係づくりの理論とその方法（ホスピタリティ）」「良好な集団づくりの理論とその方法（アイスブレーキング）」を中心に取り組みます。加えて、実際に行われているレクリエーション事業に「学外授業」として参加することでレクリエーション支援についての理解や本授業で学んだ内容の理解を深めてもらいます。毎回の授業後には「授業リフレクション」としてその授業を振り返っての感想や自己評価などの振り返りをオンラインツールを用いて収集します。授業の最終回後にはすべての授業内容を振り返る「総括リフレクション」を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	佐賀大学	現代社会と医療－Ⅰ		わが国は、江戸時代に西洋医学と日本漢方医学とが出会い、明治期以降近代医学が形成されてきた。授業内容は、江戸時代に日本漢方医学や西洋医学がどのように影響しあって、現代にどのように影響しているかを明らかにする。とくに医師及び人々の人体内部を見る目がどのように発達し、解剖学から生理学、病理学、自然科学へと学問の発達を見たこと、我が国近代医学の形成に佐賀藩がどのように関わったか、西洋医学の発達との関連などを、現代の医療の問題とリンクさせて理解することを目的に講義をする。理解を深めるために資料プリントを配布する。心構えは授業のノートをとることがよい。	

教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	佐賀大学	現代社会と医療－Ⅱ		医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいたったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	佐賀大学	食と健康－Ⅰ		健康を維持・増進するための身体活動や運動、食事（飲酒を含む）に関する科学的エビデンスを学び、生涯にわたり健康的なライフスタイルを日常的に実践できるようになることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （577 西田裕一郎／6回）オリエンテーション、健康寿命、肥満と運動、生活習慣病の予防と身体活動、運動による楽しい健康づくり（スロージョギング、ピックルボール）、講義・スポーツ実技まとめ （508 射場裕美子／2回）生活習慣病の予防のための食事、ライフステージ別の栄養 （111 永尾晃治／2回）栄養の概念と五大栄養素、エネルギーの摂取と消費のバランス （306 井上奈穂／2回）食品の機能性、健康に資する食品の活用（保健機能食品とは？） （570 岡田貴裕／1回）糖尿病と食事 （337 松本明子／1回）飲酒、ALDH2遺伝子と健康 （12 坂元康成／1回）運動による楽しい健康づくり（ボールゲーム）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	佐賀大学	食と健康－Ⅱ		医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいたったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	佐賀大学	ライフサイクルからみた医療－Ⅰ		人生100年時代といわれる現代社会を健康に活躍していくことが重要な課題となっている。 これに関して提示した資料を題材としてグループ討論と発表を行うことにより， 課題を解決するために多角的視点で考察する能力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （351 藤本裕二／5回）科目ガイダンス，Teams操作の把握、メンタルヘルスの課題提示・グループ討論・発表を行う、総括 （399 基幹教員以外の教員（担当者未定）／4回）予防医学の課題提示・グループ討論・発表を行う （582 大坪美由紀／3回）子育て支援の課題提示・グループ討論・発表を行う （574 山田春奈／3回）ワーク・ライフ・バランスの課題提示・グループ討論・発表を行う	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	佐賀大学	ライフサイクルからみた医療－Ⅱ		医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいたったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	佐賀大学	患者に寄り添う医療－Ⅰ		さまざまな医療現場で働く医療職の教員等が、実際の経験を元に、あらゆる年齢層の患者・家族の行動や、それぞれの心理・社会的、文化的な背景について紹介し、患者に真に寄り添うとはどういうことなのか考えさせる講義（オムニバス形式）である。 （オムニバス方式／全15回） （江村正／15回） 行動科学の立場から患者と家族に寄り添う医療について講義する。また、各回の授業のゲストスピーカーに関する総括を行う。ゲストスピーカーの授業内容は以下のとおり。 総合診療医、小児科医、産婦人科医・助産師、救急医、リハビリテーション、外科医、地域の病院の医師・看護師、メディカルソーシャルワーカー、歯科医、佐賀県、緩和ケア医・がん看護専門看護師、、脳神経内科医、臨床倫理コンサルテーションチームのそれぞれの立場から、またユマニチュードについて講義する。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	佐賀大学	患者に寄り添う医療－Ⅱ		くすりの話 高齢化が進む現代社会での医療においては、病気と共存していくための適正な薬物療法が重要となる。この講義では、佐賀大学病院は高度先進医療を担う医療機関であることから、病気や医薬品についての最先端の研究成果や臨床での最新の話題もおり混ぜて、病気と医薬品の基礎と臨床応用について学ぶ。医学部附属病院などで実際に診療にあたっているトップランナーの医師や薬剤師などがそれぞれの専門の立場から、病気や健康に興味のある学生や医療職を目指す学生にわかりやすく講義する。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	佐賀の歴史文化Ａ－Ⅰ		幕末から明治初期の佐賀地域の歴史について、国内の大きな歴史の流れとともに学びます。特に当時の国内でも最先端を走っていた佐賀藩の科学技術についても触れます。講義ではパワーポイントとプリントを使って説明し、適宜レポート提出を求めます。学外での施設見学も予定しています（時期については講義の中でお知らせします）。 現代にも多くの痕跡を残す幕末維新期の佐賀地域について学ぶことで、歴史を身近に感じるきっかけとし、佐賀の歴史文化プログラムの導入とします。	

教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	佐賀の歴史文化Ａ－Ⅱ		佐賀地域の古代～近世初頭にかけての歴史を語る多様な史料（古文書、古絵図、出土遺物、石造物など）の中身と意味を解読し、佐賀の歴史の具体的変遷を学ぶ。 特に、佐賀が舞台となった豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）を通じて政治史・外交史を深く知るため、国指定特別史跡「名護屋城跡」でのフィールドスタディを予定している。 古文書の読み方や基礎知識、様々な史料の使い方や特性を学ぶとともに、佐賀の代表的な歴史的事象について理解を深める。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	佐賀の歴史文化Ⅲ		佐賀に関する考古学的遺跡などの歴史的記念物について学び、その現代的な意義を考える。授業はグループ討議、発表を中心に展開する予定である。2025年度は吉野ヶ里遺跡を対象とする。 第６～９回の授業として５月17日土曜日（予備、５月18日日曜日）に吉野ヶ里歴史公園の現地見学を予定している。 授業では講義、現地見学、グループ討議を基礎に、「吉野ケ里歴史公園にどのような価値があるか？それを現代（未来）にどのように活かしていくか？」を大きなテーマとし、それぞれのグループ独自の視点（発表のサブタイトルなどつけると良い）から発表してもらいます（第12～14回、各班20分程度）。 　また、その発表の発展（あるいはグループ発表に盛り込めなかった自分の意見のまとめ）を文章化したものをレポートとして提出してもらいます	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	佐賀の歴史文化Ⅳ		古文書をもちいて江戸時代の佐賀のようすを学び、現代の佐賀に与えている影響を考えます。講義ではパワーポイントとプリントを使って説明し、適宜レポート提出を求めます。 江戸時代の日本にかんする通説的な知識を身につけ、それを元に江戸時代から明治初期にかけての佐賀地域について基本的な知識の取得を目指します。古文書の重要性や、鍋島直正の政治、龍造寺氏と鍋島氏、佐賀の多様性、佐賀藩の人口、疫病と佐賀などについての講義を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	地域経済と社会Ａ－Ⅰ		少子化が進行し、地方から大都会へと若者が流出、農村では耕作放棄地が増加し、地域社会の人口が減少したため、需要も減少して地域経済が衰退していく。こうした問題は、21世紀日本の地域経済と社会に限った話ではない。実は、18世紀の江戸日本も、同様の問題に悩まされていた。だが19世紀前半になると、少子化は止まり、人口も経済も成長に転じる。その背景には、幕府や藩による各種の政策があった。 本講義では、地域経済と社会が抱える問題を、18世紀から21世紀の現代までについて、人材育成や経済政策、国際経済との連関などの視点から、解説していく。 また、数名のグループに分かれ、本講義内容を参考にしつつ、地域活性化の方法について、考えてもらう。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	地域経済と社会Ａ－Ⅱ		一つの国に産業構造があるように、特定の地域にも産業構造がある。そのため地域は産業の盛衰の影響を免れない。本講義では産業構造の変遷が地域経済に与える影響について、いくつかの代表的な産業に焦点を当て、佐賀県内の事例も取りあげて説明する。またグループに分かれ、地域分析の課題にも取り組んでもらう。本講義では、地域と産業の関わり合いについて理解し、またそれらをもとに地域分析を行うための基礎を身につけることを目指す。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	地域経済と社会Ⅲ		地域経済と商業は密接に関連している。地域の成長力は、その地域の小売企業の成長力を規定している。ただ現代では小売企業が地域経済の成長に貢献する場合もある。また地域の小売商業を守ることは地域の消費者のためでもある。しかしすべての地域の小売業が成長しているわけではなく、むしろ多くの地域で昔ながらの小売企業の衰退が見られる。本講義では講義形式とグループでの研究発表を、小売業と地域の関係性を表す事柄について行っていくことにする。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	地域経済と社会Ⅳ		現代社会では、実にさまざまな国や地方自治体／地方公共団体による行政活動が行われており、それらは、われわれ市民の日常生活に深く関係しています。 たとえば、雇用をめぐっては、労働関係法令や国の制度による施策に加えて、地方自治体等により地域の実情に応じた雇用に係る施策が行われています。 本授業では、とくに雇用に着目して、法律、国の制度、地域の実情に対応した施策などを取り上げていきます。 これら法律、国及び地方自治体等の施策の考察を通して、日々見聞きする国や地方自治体／地方公共団体が関わるニュース等について、なにが問題になっているのかを適切に把握するとともに、主体的に検討し、自らの意見を有することができる視座の獲得を目指します。 授業では、基本的な事項をわかりやすく説明することを何よりも心がけますが、アクチュアルな問題や最近の裁判例なども随時取り上げたいと思います。外部講師による講演を適宜取り入れます。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	佐賀SDGsグローカルアクション１－Ⅰ		SDGsの全体像、および個別目標毎のターゲットやインディケーターについて学ぶ。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すためにグローバルな目標（ターゲット・インディケーター）を佐賀県等を事例にローカライズし、身近な課題解決型の講義とする。 （オムニバス方式／全15回） （480 五十嵐勉／9回）ガイダンス、SDGs概論（SDGs思考）、特別講義、まとめ （327 原口智和／2回）SDGs各論（陸の豊かさ）、まとめ （107 SALIYA DE SILVA／2回）SDGs各論（貧困、ジェンダー平等）、まとめ （108 HOUGHTON STEPHANIE ANN／2回）SDGs各論（健康と福祉）、まとめ	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀大学	佐賀SDGsグローカルアクション１－Ⅱ		SDGsの個別目標毎（関連する目標のターゲットを含む）のグループワークを実施する。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すために、学外での体験型学習や現地見学等のフィールドワーク、企業・団体等での短期のインターンシップ、データの収集・分析などを通して、身近な課題解決型の講義とする。行政（佐賀市）ー団体（佐賀SDGs官民連携円卓フォーラム）ー企業（リコージャパン佐賀支店等）との協働によって学習する。	共同

教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース		佐賀大学	佐賀SDGsグローカルアクションⅢ		SDGs目標11（持続可能なまちづくり）のターゲットやインディケーターについて学ぶ。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すためにグローバルな目標（ターゲット・インディケーター）を、佐賀県等を事例にローカライズし、身近な課題解決型の講義とする。 （オムニバス方式／全15回） （154 大串浩一郎／4回）SDGs各論（持続可能なまちづくり）、災害に関連する外的要因、大規模災害に対する適応策と社会実装、特別講義 （132 三島伸雄／4回）近年の地方創生の課題と地域社会の胎動、歴史的環境を用いた地方創生の取り組み事例、特別講義 （176 藤村美穂／4回）農業と雇用、農業の教育力、農業の福祉力、特別講義 （167 辻一成／4回）都市と農村、農村の変化と過疎問題、特別講義	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース		佐賀大学	佐賀SDGsグローカルアクションⅣ		各教員が提示する課題に対応して、グループに分かれ、それらの課題に応じた講義ならびに議論を行い、発表資料を作成する。 具体的なグループでの作業として、グループ別のレクチャー、現地調査、対象地の課題に関するPPTを作成させ、中間発表を行う。その後、中間発表を踏まえた議論、対象地のSDGs課題解決の方向性や具体的方法を議論する。中間発表を行い、テーマの再整理、資料を作成し最終発表をおこなう。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	共通		佐賀大学	インターフェース演習		「インターフェース演習」の授業科目は、インターフェースプログラムの教育内容をさらに深めるために、必要に応じて、インターフェースプログラムの担当教員が開講します。インターフェース演習の授業科目を開講する際には、ホームページ又は掲示によって履修希望者を募ります。また、インターフェース演習の授業科目で修得した単位を、インターフェースプログラムの授業科目の単位として認めることがあります。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	熊本大学	英語A-1		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。社会的、学問的なトピックや日常生活のトピックについて英語で話す積極性を養い、ダイアログでの適切な応答、プレゼンテーション、情報交換、ディスカッションなど、スピーキングの基本的なスキルとストラテジーを養う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	熊本大学	英語A-2		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	熊本大学	英語B-1		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。あわせて、書くことの基礎を培う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	熊本大学	英語B-2		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。さらに、身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。加えて、発信型の技能（スピーキングやライティング）につながる総合的なコミュニケーション能力の基礎を培う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	熊本大学	英語e		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。大学での学修と国際コミュニケーションに必要な英語基礎力を身につけ、検定試験により各自の英語習熟度を測定し、その結果に応じて授業担当教員のメンタリングを受けながら、継続的に学修に取り組む。学期内に受験するTOEIC IPテストにおいて一定の水準のスコアを獲得することを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	熊本大学	英語C-1		広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けることができるとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能（スピーキングやライティング）につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	熊本大学	英語C-2		広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けることができるとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能（スピーキングやライティング）につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ドイツ語Ⅰ-1		ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ドイツ語Ⅰ-2		ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ドイツ語Ⅱ-1		ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ドイツ語Ⅱ-2		ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	フランス語Ⅰ-1		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組かクラス全員で一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	フランス語Ⅰ-2		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組かクラス全員で一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	フランス語Ⅲ-1		動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込見つつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、 日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	フランス語Ⅲ-2		動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込見つつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、 日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	中国語Ⅰ-1		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返し、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	中国語Ⅰ-2		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返し、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	コリア語Ⅰ-1		ハングルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やパッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「合니다体」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようにする。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	コリア語Ⅰ-2		ハングルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やパッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「合니다体」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようにする。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	コリア語Ⅱ-1		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	コリア語Ⅱ-2		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	コリア語Ⅲ-1		韓国語の中級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験（TOPIKⅠ・Ⅱ）に合格することを目的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中級レベルの文法と表現を身に付け、様々な問題を解きながら、試験対策（聞き取り、書き取り、読解）ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連付づけ、韓国社会と文化について学修する。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	コリア語Ⅲ-2		韓国語の中・上級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験（TOPIKⅠ・Ⅱ）に合格することを目的的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中・上級レベルの文法と表現を身に付け、様々な問題を解きながら、試験対策（聞き取り、書き取り、読解）ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連付づけ、韓国社会と文化について学修する。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ロシア語Ⅰ-1		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえでのロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリール文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように､定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ロシア語Ⅰ-2		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえでのロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリール文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように､定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ラテン語Ⅰ-1		ラテン語の単語の多くは様々に活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第１～３変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ラテン語Ⅰ-2		ラテン語の単語の多くは様々に活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第１～３変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	スペイン語Ⅰ-1		スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	スペイン語Ⅰ-2		スペイン語Ⅰ-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	スペイン語Ⅱ-1		スペイン語Ⅰ-2に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	スペイン語Ⅱ-2		スペイン語Ⅱ-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ヘブライ語Ⅰ-1		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	ヘブライ語Ⅰ-2		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	イタリア語Ⅰ-1		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」・「聴く」などの基礎の語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	イタリア語Ⅰ-2		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」・「聴く」などの基礎の語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	日本語Ⅰ-2		授業は対面で、ペア・グループによる聞き取り・口頭練習、導入文法を使った読み・書き練習を行う。この授業では、日本語の話す・聞く・読む・書くの４技能を身につけながら、N4 レベルの文法を学ぶことを目指す。N4レベルの文法を正しく理解し、習った文法を使って正しい文を発話し、書くことができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	日本語Ⅱ-2		初級が終わった人を対象に、日常よく接する場面での会話の聞き取り力を高めること、さらに、聞く力を伸ばすことによって、話す力が身につくことを目的としています。登場人物の人間関係や場面が異なるスキットを聞き、タスクを通して内容の理解を深めます。さらに、それぞれの課の重要表現でポイントを確認し、会話の中で使う練習を行う。1. 自然に近いスピードで話される日常会話の具体的な内容が聞き取れるようになること。2. 人間関係や場面、トピックに応じた表現の違いがあることを理解し、自分でも正しく使えるようになること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	日本語Ⅲ-1		中級レベル以降の文法、語彙、表現を身につけて、より高い日本語レベルになることを目指す。中級レベルの大切な学習項目のアウトラインを示して、練習問題を中心に進める。１）中級レベル(日本語能力試験Ｎ３-Ｎ２レベル)の日本語力を付け、日本語能力試験N2に合格することができること。２）中級レベルの文法や語彙を使って、文章を読んだり書いたりすることができること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	日本語Ⅲ-2		授業では、様々な資料を読んだり、その内容について議論したりしながら、いろいろな分野で使われる語彙を増やし、総合的な日本語力の向上を目指します。読みのストラテジーやスキルを使い、おおまかな意味が早く・的確に理解できるようになること。様々な話題について聞き手のことを配慮した表現や話し方ができるようになること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	日本語Ⅳ-1		日本語能力試験N1レベルの文法項目について、その意味・接続・用法・使用制限などを解説する。その後、練習問題を解いて、定着を図る。また、語と語を結びつけて意味の通る文が作れるよう、実際に文を組み立てる練習問題や、まとまった長さの文章の中で文法項目がどのように使われているかを考える練習問題にも取り組む。日本語の読解力や表現力を支える表現文法を学び、既習文法や類似文法との用法・意味の微妙な違いを比較・考察し、練習問題を通して確実に使い分けができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	熊本大学	日本語Ⅳ-2		中上級レベルの日本語学習者（日本語レベル4-5, JLPT2級レベル）が、日本の大学生活で必要とされる「公の場でまとまった内容のことを話したり議論したりする」練習をする。主な活動として、「スピーチ」「ディスカッション」を行い、それぞれのテーマの最後には、発表を行う。留学生が大学生活の場で必要とされる「スピーチ」や「ディスカッション」について、大学生に求められるレベルのまとまった内容で、できるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	情報科目		熊本大学	ICTリテラシー		大学生活に必要なITスキルを身につけるとともに、ネットワーク社会で生きて行くための情報の収集・作成の基礎を修得する。具体的には、パスワードの取り扱いを始めとする情報セキュリティの基礎や電子メール等のオンラインコミュニケーションにおけるネチケット、検索エンジン等用いた情報収集、著作権・知的財産権を理解した上での引用を学び、構造化された文書を作成する能力を身につける。また、不特定多数が利用するWebサービスを含め、情報セキュリティ・法律・情報倫理についても学ぶ。	
教養教育	基礎科目	情報科目		熊本大学	DSリテラシー		データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習することで、社会における事象を適切に捉え、分析・説明できるようになることを到達目標とする。また、インターネット上での情報発信に必要となるWebサイト作成能力、Webアプリケーション活用能力も併せて身につける。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスに用いられる手法と得られる結果の解釈について把握するために、統計学の基礎的内容を概観するとともに、データサイエンスの手法について説明する。また、インターネット上で情報発信を行うための基礎としてHTMLの基本構造やスタイルシートについて併せて学ぶ。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		熊本大学	文系のための数学入門		文系の学生が数学とはどのような学問なのかということを理解し、数学の考え方や使い方を身につけることを目的とする。データサイエンスに関する基礎的事項を理解し、実際にR言語を使用してデータの整理や関係の分析、推定や検定ができるようになることを目指し、データの整理から統計的な分析手法までについて取り扱い、実際にR言語によりそれらの処理ができるように、演習を踏まえて講義する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		熊本大学	数学の世界		初等整数論に登場する基本的な用語、概念、定理を学び、それらが暗号にどの様に使われているかを理解する。過去の統計活動および確率論に基づく統計学の形成過程について学び、現代社会における確率・統計の役割を知る。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスにおいてはどのような方法で結論が導かれるか、どのような利点や問題点があるかを把握する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		熊本大学	物理学入門		高校の化学で習ったような物質の成り立ちや性質を電子レベルのエネルギーや運動量という観点から眺めることにより、化学の知識を物理学的な観点から直観的かつ本質的に理解するという学びを通じて，物理学的思考方法を身につける。力学を通して、物理法則である数式で自然現象が説明できることを理解する。現代天文学の基礎事項を学び、我々が住む宇宙についての認識を深め、また天文学の背後にある現代科学の素養を身につける。高圧下での物質の挙動の理解を深めるために、圧力に関する歴史を学び、基礎的な物理法則を習得し、生活の中さらには自然界に存在する圧力とその仕組みを理解すること、さらに高圧下で実際に物質が見せる挙動、現象についての知識を深める。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	教養の化学		持続可能性について科学的に理解を深めるために，元素の周期表に基づいて物質の世界を化学的視点で捉え，考察できるようになる。人々のくらしで活躍しているガラスについて，その基礎と応用について化学的視点で説明できるようになる。また、持続可能性の課題を克服するために，ガラスが貢献できることについて提案できるようになる。化学がどのように生まれ進化してきたかを学ぶことで、現代の日常生活を支える化学への理解を深めつつ、物事を多面的角度から見ることの重要性を学ぶ。様々な化学的事例を取り上げその化学的特性につて考えることで、特徴や性質について覚えるのではなく、考えて理解する化学の基礎を習得する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	生物の世界		過去のノーベル賞受賞研究を紹介する共に、現代における生命科学とどう繋がっているのかを理解する。生き物にみられる環境適応の多様さ・巧妙さを知るとともに、それを創出してきた自然選択（自然淘汰）および進化の原理について正しく理解できるようになる。基本的な生物学的事象を講義し、実験・観察で実際に確認して生物の本来の姿を理解し、生物学的な思考を身につける。生命の設計図である遺伝子DNAを理解し、生命がどのようなシステムで成立しているのかを説明できるようになる。地球上に生命が誕生してからどのように進化したのかを説明できるようになる。水の中にいる生物の驚くべき特徴や生態について学ぶとともに，実際に自分でも特定の生き物や水に関わる事象について調べ，それを分かりやすく発表する。私たちの体がどのように発生し、次世代に命をつなげているのかについて理解する。植物が環境に応じて成長するしくみを学び、その生物学的な特徴と、私たちとの関わりについて理解する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	地球環境の現状と人類		この宇宙の中で、我々の住む地球とはどのような星なのだろうか。太陽系の各惑星、さらには、太陽系の外に存在する惑星に関する最新の探査、観測よって、宇宙には実に様々な惑星が存在することが明らかとなりつつある。空間的にも、時間的にも広大な宇宙の中に存在するそれら惑星の姿との比較を通して、地球という惑星の存在を理解する。以下の項目について、最新のデータを紹介しつつ講義する。 ・身近な天体－月、太陽と地球の関係と暦 ・太陽系の大きさと宇宙の時間、空間スケール ・地球－月系の特徴と、地球形成以来の地球環境の変遷 ・太陽系形成過程 ・太陽系外惑星系	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	持続可能な都市と地域づくり		熊本県で危惧される自然災害、および派生する社会的災害に対する基本的な知識を有するとともに、それに基づいて平常時からまちづくり等の地域活動に関心を持ち，災害時には適切で主導的な対応ができる知識と姿勢が身についている人材【減災型地域社会のリーダー】の育成を目指し，次の３項目を修得する。自然災害の基本的発生メカニズムを自然科学と社会科学の両面から学ぶ。災害に関する基礎的情報とそれらの取り扱い方，基礎的減災対策の事項を具体的に学ぶ。その上で減災リテラシー入門が目指す「減災型地域社会」の提示と，それに関わる様々なステークホルダーの役割と相互理解の必要性、減災リーダーに求められる資質を理解する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	豊かさを持続させるものづくり		地球温暖化を紹介し、環境問題を抑制するPPTを用いた再生可能エネルギーの基礎研究について説明し、バイオマス・エネルギーに関する基礎知識を理解する。毎回、先端の科学技術にかかわるいくつかのトピックを取り上げて講義し、科学技術発展の現状を理解するとともに、現在ある課題を理解することに加えて、科学技術の未来について学ぶ。本授業を通じて、エネルギーと社会・暮らしとの関わりについて考えを展開していくためのきっかけや手がかりを見出し、広く深く思考展開ができることを目指す。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	日々の生活に垣間見る情報と通信		テレビ、ラジオ、携帯電話など、電波を利用した電子機器がいかなる機能をもつ部品と回路の組合せでできているかを、電波の原理を学ぶ講義と中波ラジオの製作実習を通して理解する。ハードウェア、ソフトウェアの基礎を解説、誰にでもできる簡単な指導を行い、スイッチやセンサの値を読み取ることができたり、LEDやモータを制御することができたりするようになる。基本的な電波通信の仕組みを理解し、教員やTAのアドバイスのもとで、電気回路の配線と機器のデザインができることを目指す。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	倫理学入門		現代社会の倫理的問題に関して、その内容や問題の射程を理解し、それらについて、倫理学的な考え方を踏まえて自分の考えを持つことができるようになる。小・中学校の道徳の授業で用いられる教材をいくつか取り上げ、そこに含まれる価値や規範（規則遵守や生命尊重、公平・公正や思いやりなど）について哲学・倫理学の観点から考察を深める。また、善・悪や正・不正について子どもたちが抱く素朴な疑問について、大人はどう向かい合えばよいのかを考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	心と世界		人間の生命活動を論じる上で、中心的なテーマとなる心と行為について、心とは何か、人間とは何か、なぜ行為が問題か、なぜ哲学の中心問題は心と行為か、行為の正・不正、正義、幸福、行為の選択をめぐる問題等について論じ、心、行為、人間、意志、自由といった基本的な日常語について理解を深めた上で、これまでの自分の考え方を、少しでも自分で見直すことができるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	思考と論理		現代論理学（自然演繹法による）の基礎を学び、論証（推論）の正しさを見分ける技術と感覚を身につける。この授業では、現代論理学の基礎にある概念や記号法、証明技術を学んで、論理的に考える手助けとし、さらに論理とは何かについて理解を深めることを目指す。本授業を通じて、日本語文の論理構造を把握し、十分に形式言語で表記ができ、また論理学の証明方法を使って推論の妥当性を容易に証明できるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	現代心理行動学		特別支援教育に含まれている心理学的なトピックスを取り上げ，講義を受講後，グループで協議し，授業後にMoodle上のまとめテストに解答することを通じて人の「こころ」についての理解を深める。また，グループ協議を通じて，多様な人との社会性を身につける。心理学の観点から発達をとらえ、また様々な発達の障害について理解することで、人間の生涯発達の諸現象について深く考察する。「社会」の中における対人関係スタイルの成り立ちを理解し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	こころの科学		こころについて科学的に見たり考えたりする方法を学修する。こころについて、心理学の幾つかの領域（心理学全般、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学、周辺領域）から学修し、様々な領域にわたって心理学に関する基礎的な知識を身につけ、生活場面で活用できるようにする。また、不登校について取り上げ、不登校の対象理解と対処や不登校が果たす社会的機能について学ぶ。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	芸術文化論		”現代音楽文化”の基本となる西洋音楽の歴史と理論を学ぶことにより、豊かな教養と感性を身につけ、さらには世界における”自分の文化”を考えることができるようになる。スペクトル楽派、ミニマル・ミュージック、ポスト・ミニマリズム、新ロマン主義、パフォーマンス作品、楽器によるミュージック・コンクレート、引用の音楽、ノイズ、ミュージック・シアター、国際的に活躍するアジアの作曲家の動向、担当教員の自作品について、多くの視聴覚資料を用いながら解説し、興味・関心を持った21世紀の作曲家、作品について自ら主体的に調べ学習を行い、知識を高め、より深く理解し、自らの言葉で詳細に説明することができるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	文学の諸相		文豪たちが生み出した近・現代の日本文学について、その時代に良いと思われていたこと・悪いと思われていたこと、作者が良いと思っていたこと・悪いと思っていたことの相関関係において講じ、時代との関連においてどのような文学的表現が出現するか歴史的な知見を得る。他言語で書かれたテクストをもとに、「食」に焦点をあて他文化や他言語について学ぶ。食や言語をめぐる様々なテクストに触れ、他文化について深い知識を身につける。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	モノが語る歴史		日本を中心に東アジアにおける食文化の実態と変遷について、考古学の最新成果を通して理解する。また、文献史学、民族学、さらには理化学分析などの成果と考古学を融合しながら、いかにして食文化の歴史的側面に迫ることができるのかを考える。様々な角度から主食を中心とする食文化を眺め、相対化することで日常的な食事の歴史的成り立ちを学びます。特に、考古学は過去の人々の日常的な食文化を復元するのに最適な学問です。それに文献史学や民族学を加え、さらには近年その成果が蓄積されつつある化学分析を合わせることで、より具体的な食文化の歴史的実態にアプローチします。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	地域の世界史		現代中国にも大きな影響を残しつづけている近代以前の中国の社会と国家の仕組みと特質を知り、人類社会の多様性を理解する。近代イギリスの歴史と文化についての知識と理解を深め、現代イギリス社会やイギリス文化の歴史的起源を長期かつグローバルな観点から説明できるようになる。現代イギリス社会の問題やイギリス文化を歴史的な観点から説明できるようになる。韓国の社会と文化についての知識と理解を深め、日韓の異なる文化や価値観を共有し認識することで、現代の日韓関係の在り方を考える。西洋の中世史、近世史、近代史に関する基礎的な知識を摂取しながら、その流れを大まかに理解し、世界史における西洋世界の位置づけの変化を理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	日本社会の歴史		江戸・明治時代の歴史から、日本人の意識や心性の形成過程を考える。歴史学を実証的に分析するには、物事を客観的かつ理論的にとらえる能力が求められます。そして理論を実践的に転換する手段として、博物館をテーマに取り上げ、まず博物館の歴史的変遷を正しく理解する。その結果、今後あるべき日本の博物館、さらには地域の文化行政のありかたについて考える。260年以上も続いた江戸時代を終わらせ、現代日本につながる社会をもたらした明治維新という変革について知り、その意義を理解できるようになる。戦国時代と現代との繋がりを理解し、また、戦国動乱が収束して内戦が長く凍結された要因を探ることで、未来に向けての平和主義の発展のための歴史的基盤を探求する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	法学の基礎		民事事件の重要な問題について、基本的知識を得た上で、受講生が具体的に筋道を立てて思考し問題解決を図ることができるようになる。法律学の基本的な考え方を知り、身近な問題に対して法的知見に基づく理解力・洞察力を身につける。基本的な消費者取引関連法の概要が理解できる。消費者取引のトラブルについて、解決方法を導く力を身につける。消費者に縁の深い決済方法について理解できる。 法哲学という学問分野の中でも「法とは何か」という問題に取り組む法概念論を研究し、「法」の概念がいかなる内容と問題性を有しているのかを検討するとともに、「法」の概念を用いることで私たちは結局何をし（ようとし）ているのかを探究する。 探究を通して、主に法を素材にしつつ哲学的思考法を習得する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	現代政治の諸相		実際の新聞報道など毎回実践に即したテーマを取り上げ、新聞報道の役割、ジャーナリズムについての理解を深め、新聞、テレビを中心にしたメディアの特性を学びながら、それを取り巻く現状や課題を認識し、ジャーナリズムに関する知識を習得する。水俣病やハンセン病、免田事件、赤ちゃんポストといった熊本における普遍的なテーマを取り上げ、地域課題と地方紙の役割について多角的に考察し、ネットメディアが台頭する中で、ローカルジャーナリズムの意義について考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	最前線の社会文化研究		対象に応じた調査手法の選び方と調査設計の手法についての基礎知識および技術を身につける。主に民俗学で研究対象とされる「生業」を元に授業を行い、具体的な遊び方についても紹介し、様々な自然と触れあうための意欲と知識を養う。偽史や都市伝説、陰謀論などといった社会の中に流通する「物語（ナラティヴ）」に関する研究の最前線を紹介し、最新の研究動向を概説し、現代社会における物語（ナラティヴ）の位置づけについて考える。世界遺産の概要とそれをめぐる現状を概観し、世界遺産と現代社会の関係を理解する。熊本の伝説や祭礼に関する知見を増やし、身近な素材から学問的課題を発見することを通じて、より広範な現代社会の諸課題への理解を深める。自然について多様な角度から見る力を養い、人との関わりからみえてくる自然とはどのようなものかを理解する。ユーラシアからアフリカまで広がる世界の牧畜の歴史と現状を概観することで、人間と動物と土地とのつながりを理解する。メディアと社会の関係について考えるための基礎的な知識や考え方を身につける。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	現代社会の解読		＜水俣病＞事件の歴史性と現代性の解読を試み、＜水俣病＞事件の現代的な意義について多角的な視点で考えられるようになる。地域社会学の基礎的知識や社会学の考え方（理論、方法、概念など）について講義し、それらの知識や概念を習得し、社会学的な観点から現代社会における課題について考察する力を養う。社会調査について、基本的な用語と考え方を学ぶ。わたしたちがいまどのような社会に生きているのかを、近現代における国民国家の形成やグローバル化を手がかりに理解し、考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	熊本大学	自然と人間の地理学		地域の諸問題ついて，特に熊本県や九州の事例を交え，地理学的観点から現状と課題を考察する。 地理学的ものの見方と考え方およびアプローチ方法を理解する。現代社会が抱える環境問題や社会問題が起こる背景や要因を地理学的に理解する。人間生活と自然環境との関係を多角的に見る力を養う。熊本が7年前に地震被災地となったことをうけて、地震等の自然災害の被災地が、どのように復旧・復興したのかしなかったのかを知ることにより、地震被災地としての熊本の将来を考えることができるようになる。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	数学と文化		高等学校を用いて理解できる応用数学の様々なトピック(折り紙，2進数，アルゴリズム，素数，ゲーム，グラフ，統計)を扱い、高等学校までに学習した数学を基礎として、応用数学に関する様々な話題を取り上げ、現代数学を理解する。高等学校までに学習した数学を基礎として、主に代数学に関する話題を取り上げ、現代数学を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	物理学の世界		広い視野をもって社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応できるように，特に材料工学の視点から幅広く深い教養を身につける。また国際的な活躍ができる人材の育成を目的として，材料工学分野を拠点とする世界が直面する課題とその解決方法を考える。地球以外に生命が存在するのかどうかを科学的に考察する力を身につけ、必要な自然科学の広い知識を身につける。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	暮らしと化学		生体および環境のさまざまな事象について化学的に考えることができる基礎的な知識を身に付ける。身の回りに存在する化学的な現象や事項について、あらためて目を向け、その原理や概要を理解する。化学的な理解を深めることで、不意の事故の防止や、有用な現象の利用を拡大することが可能となる。高校の教科書にも載っているような基本的な有機化合物について，その“かたち”を決める原理を考察できるようになる。さらに，便利で豊かな生活が様々な有機化合物によって支えられていることを実感できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	化学と環境		大気の歴史や大気に関連する環境問題を主に化学の視点より講義し、大気や空気について理解を深める。大気の構成や成分を把握し，大気に関連する環境問題の現象や影響を化学的な視点で理解する。複雑な化学反応で維持されている人体への化学物質によるポジティブな影響やネガティブな影響についてメカニズムを理解する。また，化学の目で健康をいかにとらえているかを理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	最先端の生命科学		植物の形づくりと環境応答、細胞の構造と振舞いについて学習し、最先端の植物科学研究を理解するための素地をつくる。バイオリソースの重要性を理解し、実験動物及び動物実験に関する正しい知識を身に付ける。ヒト免疫不全ウイルスHIV-1等の感染症について、ウイルス、造血および免疫の観点から学ぶ。遺伝の基本的な仕組みの学習を通じて、栽培化・家畜化・育種等の生物と人類の多面的な関わり方の背景となるメカニズムを理解する。進化の基本を学び、節足動物の一群（ヤスデ類）で見られる擬態現象の理解を通して、生物多様性創出の基本概念を理解することを目的とする。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	地球環境科学の最前線		海洋学の真髄である「海という視点」から分野横断的に海洋現象や海洋問題を解説し，これまでほとんど教わっていない“海洋学的知識”を食わず嫌いの領域から脱却してもらい、「海の理解者」としての素養を身に付ける。地球のシステムや古環境の変遷，生物の進化に関連する現象について理解する。熊本県下に特徴的な地質や地形に関連する現象について理解する。私たちの身のまわりに日常起こる現象に大気と水がどのように関わっているのかを解説し、地球が「大気圏」「水圏」「岩石圏」「生物圏」から構成される１つの「システム」であることを認識し、それらの構成圏の間にどのような相互作用が働いているかを、主に気象現象を通じて理解する。大気の組成や循環の変化を原因とするグローバルな環境問題がどのようなメカニズムによって引きおこされているか理解する。火山の研究，観測，教育，アウトリーチ，防災などに関わる専門家の講義を通して，火山に関するさまざまなテーマを学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	地域づくりと科学技術		人々の「くらし」を切り口として国内外の住宅を様々な視点から分析し、「よい住宅・インテリアとは何か」を理解する。地域や都市の基盤となる社会インフラの概要とその防災減災技術、まちづくりの理論と実践方法等について、自分の言葉で説明できるようになる。世界史や日本史に登場する都市を取り上げ、その都市の成り立ちから現在の姿を読み解くことで、その都市がどのような都市計画（自然発生的な成立を含む）によって形成されたのかを理解し、現在の都市計画の考え方や手法を説明できるようになる。歴史的な建築物や，それらが集まって出来上がった街並みや都市，石工や建築家に関するテーマを取り上げて，建築や都市と，社会や技術との関係を論じ、大学で学ぶことは何かを理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	ものづくりの科学と技術		エネルギー源の種類と特徴や社会・生活における利用形態について自主的に学習し、自分なりの考え方を持てるようになる。またクラス内での意見交換を通して、主張の方法と他人の意見を聞く柔軟性を身につける。科学技術と暮らしにかかわるいくつかのテーマについて考え、科学技術が暮らしとどのようにかかわっているのかを考え認識を深める。資源循環型社会を実現するためにはどのようにすればよいかについて、考える機会を持つ。資源やエネルギーの諸問題を解決するためにどのような科学的アプローチや取り組みが行われているかを学び，主に今後の製品化や環境負荷低減に貢献するナノ材料を化学的な観点から理解する。食品、医薬品、プラスチックなどを題材にくらしの中にある化学物質とそれらを構成する元素について講義し、化学的見地からものごとを考える力をつける。社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応し得るよう、広い視野に立ち、幅広く深い教養を身につけられるようになること，および国際的な活躍ができる人材になれるよう，今日の世界が直面する課題を理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	暮らしと情報・通信技術		デジタル処理の原理を学び情報のコミュニケーションや人間環境のモニタリングやセンシングの原理と応用について講義し、現代社会の基盤を構成している情報・通信技術にかかわる知識や技術を学び，科学的な見方・考え方の素養を身につける。現代社会の基盤を構成している情報・通信技術に関わる知識や技術の一端を学び，これら技術の重要性を知る。現代社会の基盤を構成している電気エネルギーの発生や電気エネルギーの効率的利用や応用に関する知識や技術について知識と理解を深めます。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	健康の科学		人間の健康に影響を与える要因にはどのようなものがあるか多角的な視点から理解し、それらへの対処能力を養うために必要な知識やスキルを身につけることができるよう教授し、大学生活のみならず将来の生活も含めて具体的にイメージしてもらい、こころとからだの健康とヘルスケアについて理解し、自身の日常生活に生かすことができるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	病気の医科学		解剖学、病理学、生理学、脳科学、免疫学をそれぞれ専門とする教員が、医学を専門としない幅広い分野の学生を対象として、各回の授業テーマにあげた内容について基礎から解説し、誰にとっても大きな関心事である健康と病気について、氾濫する情報の中で根拠のない誤ったものに惑わされず、正しい判断ができるための科学的な知識と考え方を身につける。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	臨床医学の最前線		熊本大学病院における医療の最前線で活躍している各分野の専門家が、がん、生活習慣病、救急疾患、小児疾患などそれぞれの分野について最新の知識を提供し、がん、最新の医学の進歩について広く学ぶ。がん、生活習慣病、救急疾患、精神疾患など多岐にわたる病態を対象とし、研究や診断・治療法の進歩を紹介し、本科目を受講することで、最先端の医学研究や医療の概要を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代社会と医学		第一線の医療を担う医師・歯科医師及び熊本県庁の行政担当者を招いて，こうした地域医療の諸活動と問題点等を講義し、それにより我が国の医療・保健・福祉について、医療従事者の視点や行政担当者の視点から概観し多面的に理解するとともに、将来医療や行政に携わる学生にとってのキャリア教育にもなりうる。一方、医療や福祉のことを広く身近な問題として捉えてもらえる内容としている。これを踏まえ、この授業の目的は，日本における医療制度（特に地域医療制度）を取り上げ、その諸活動と問題点等を学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	心身の健康と看護		現代社会における心身の健康について理解し、自らを振り返り，心身の健康を増進させる方策について考察する。我が国の疾病構造の変化ならびに生活と健康について理解し、自分や家族、地域の人々が健康的な生活を送るための知識や実践力を身につける。認知症や生活習慣病について学ぶことにより、超高齢化社会がもたらしている影響・課題について理解し、そのような社会状況のなかで、健康寿命を延長する具体的な取り組みや誰もがが安心して暮らせるまちづくりのために現在の自分たちに何ができるかを考察、実践することができる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	医療における理工学		放射線の医学・医療利用に関して社会へ対する理工学的貢献を理解することを目的として、放射線に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、放射線利用のひとつである医学・医療利用の原理および科学技術について学ぶ。本授業を通じて、放射線の基礎知識の修得、放射線の医学・医療利用についての理解、放射線利用とリスクに対する考え方の理解を深める。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代の医学検査		私たちが社会活動を営むうえで、「健康」は基礎となっている。しかし、私たちが暮らす「環境」や「感染症」などに代表される、健康を脅かす様々なリスクが存在することは事実である。本講義では、人類が直面してきた感染症について学ぶとともに、ワクチン、抗菌薬などについて学ぶことで、感染症リスクに対する対処法を学ぶ。また、世界的視点で感染症の流行状況を学ぶことで、健康格差について学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代医療と生命科学		古くて新しい糖の生物学的役割や糖（鎖）を利用した工業製品や医薬品の開発を理解する。また、プレゼンテーションを通じて、自己表現力を高める。医学以外の分野を専門とする学部学生が、現代医学で不可欠といえる免疫の基本的考え方について説明できるようになる。免疫学の基礎を学び、生体内で起こる免疫の仕組みを理解する。免疫疾患の発症機序や臨床所見を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	薬科学入門		生体機能物質の化学について、様々な視点から講義し、生体機能物質とは何か、また、なぜそれが生体に機能するかを理解し、それを他人に説明できるようになる。薬の科学について、様々な視点から分かりやすく講義し、薬にはいかなる種類があり、どのように探索・設計・最適化され、いかに効力を発揮するのかについて、それぞれの立場から深く理解し、その概要を説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代社会と薬学		現代社会における人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因（遺伝要因、生活要因、環境要因）を把握し、その予防・治療に関する基本的知識を深めるために、健康と疾病の概念、疾病の予防（疾病の予防の定義、感染症とその予防、生活習慣病とその予防）、疾病の治療、伝統・伝承医療とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進などの内容を専門外の受講者にもわかるような平易な表現で解説する。現代社会を生き抜くためのリテラシーとして、薬と正しく付き合いその効果を生活に適切に活かしていくために、薬に対する正しい理解を深め、薬の使用に必要な薬学の概念・基礎知識を習得する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代教育について考える		障害のある人を包摂する、インクルージョンをめざす生活や教育のあり方について考える。家庭科の歴史、学校教育の選抜機能、家族の変遷等を考察しながら、各自のライフスタイルの確立に役立てる。日常生活を安心して送る拠点として自分に合ったより良い住環境を選択できる実践的な力を養う。自然と人間の共生について興味・関心を高め，自然環境と教育に関する現代的課題を見据えて未来の展望をもつことができる。論理･集合，代数，幾何，解析，応用数学等の中から，いくつかの数学的な話題に触れ，数学的に考えることを学ぶ。持続可能なライフスタイルの構築において、私たちが毎日の生活の中で抱えている問題を明らかにし、問題の解決方法を考え、解決に向けて実践する力を身につける。これまで自明視されてきた家族や子育て・教育のあり方について問い直すとともに、現代の親や子どもと教育の問題について理解する。日本本土とは異なる社会制度、公的社会教育が脆弱ななかで、沖縄の住民はどのように自治的に自らの生活と文化を育み継承してきたのか、社会教育の枠組みから考察する。教育における対話的コミュニケーションの重要性を中心に、社会的構成主義の学習観に基づいた学びの在り方について理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	心理学の探求		このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて，心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説し、心理学領域の代表的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることで，人間の行動を支える心の働きを科学的にとらえられるようになる。心理学的な考え方や、心や行動の諸現象について学ぶことで、人の心や行動を客観的に理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	芸術への招待		4分野実技（絵画　工芸　声楽）の授業として、１分野ごとの芸術実技の基礎的技能を学び、作り出す芸術実技を体感する。内容は初歩的なことであるが、芸術（音・美）が繰り広げる「魅力を生み出す力」を体験し、芸術を深く理解する。音楽、美術を通じて現代文化について学ぶ。また演習等で実践的活動を行えるようにする。本授業を通じて、芸術実技について魅力を知り、芸術への理解を高度に深めること、各芸術分野（絵画　工芸　声楽）について基礎的技能を学び、芸術に存する「生み出す力」を体感し、芸術実技を高度に身に着け、高度な表現力を培い教養とすることを目指す。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代と言語		日本語学という学問の視点から「いろいろな日本語」の姿を観察し，大いに楽しむ方法を紹介するとともに，私たちは自分（たち）のことばとどのように向き合っていけばいいのかを考える。日本各地でどのようなことばが使用されているかがまとめられている「言語地図」を解釈することを通して、日本語のバリエーションや歴史について理解し、身の回りのことばをバリエーションやことばの歴史という観点から考察できるようになる。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代と文学		文学テクストの読みと国語教科書・国語の授業という枠組みとの関係性について考える。日本古典文学が近現代の文学や海外に与えた影響について、時代や国境を越えて広い視野で考え、理解する。日本漢詩を読み、漢詩の詩型や押韻、基本的な知識を身につけた上で、漢詩を鑑賞する力を養う。異なる言語、文化の視点から見ることにより、日本の文学、文化への理解を深めるとともに、外国の文学、文化について学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代世界の形成と課題		薬害肝炎被害者、水俣病患者支援者、在日コリアンの方のお話しを参考に、日本社会の人権状況を正確に理解し、認識を深める。全体を通じて、人権や性の問題に真摯に向き合う基本的姿勢を身につける。国内最大のハンセン病療養所である菊池恵楓園を退所された方、また、ハンセン病問題に関わってきた様々な専門家（医師・研究者・新聞記者・弁護士）に、それぞれの立場から講義をしていただき、ハンセン病問題の歴史を踏まえて、正しい認識を構築する。核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語ることが出来るようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	最先端の法学		平成17年に制定された会社法は、現在の我が国にもっとも大きな影響を及ぼす経済主体である会社に関する法規範であり、また会社以外の企業主体に関する法規範にも大きく影響を与えている。本講義では、会社法をはじめとする企業組織に関する法規範やコーポレートガバナンス・コードなどを紹介するとともに、企業組織に関する最新の法的問題を紹介し、各自にその問題について自ら考える機会を持ってもらう。企業活動についての理解を深めてもらうとともに、企業組織に関する最新の法規制についても理解を深めてもらう。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代社会と経済		経済学の基本的な理論とその応用を学習し、経済学の基本的な考え方ができるようになる。日常の生活に焦点を合わせ，その視点から，個人の意思決定から社会問題に至るさまざまな問題について考え、価格，コスト，嗜好（選好），収益，損失，リスク，インセンティブ，情報の対称性，ゲーム的状況などのキーワードをもとに現代社会を読み解く。経営学のうち、マネジメント、マーケティング、経営戦略論の基礎を学び、どのような学説があり、それはどのように活かされるのかを学生自身の言葉で説明できるようになる。韓国の経済発展をめぐる問題と現在直面している経済的社会的課題を取り上げ、それぞれの問題の概要や背景にある要因を多面的に理解し、自分の言葉で説得的に説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	現代の政治		我々にとって最も身近な政府である自治体、とりわけ自治体政治に焦点を当て、その現状と課題について考察する。現代世界の特徴について理解するとともに、様々な政治現象を自分の力で読み解くことができるようになる。近代日本の戦争を通じて、争点をめぐる外交交渉が武力行使に転換する理由、作戦計画における目的設定と実施過程における問題点、戦争を終結させる際にどのような困難があったのかを説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	熊本大学	学際科目		九州内の国立大学が協力し合い、九州各県・各地域の特色を活かして、それぞれの魅力について多角的に学修する。新聞記者の指導で文章作成を体験する過程で、メディアに関する理解を深め、情報を読み解く力（メディアリテラシー）、文章力などを高めていく。授業で多様なニュースに触れることで、社会の動きや課題についての認識も広げる。日本の財政、金融及び地域経済の現状等を知ってもらうとともに、税制や税関の役割や仕組み、さらには金融取引等の基礎知識等について理解を深める。将来の日本経済を担っていく学生に生きた経済や、より実践的な金融の知識を身につける。実際のビジネスの世界において発生している事案を専門士業（弁護士、公認会計士及び不動産鑑定士）の観点から整理することで、事案の本質を分析する目を養うことのみならず、ディベートを通じて網羅性等を担保した分析能力を習得する。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	熊本大学	Introduction to Science and Technology Ⅰ		（英文） To understand the basic infromation on renewable energy pertinent to biomass.To understand the basic infromation on renewable energy or clean energy.To learn prominent scientists in multidisciplinary fields of science and technology, and how their works are shaping our future. To learn the fundamentals and terminologies in entrepreneurship, with reviews and analyses of some successful science-related businesses.The students learn coastal sustainability issues in various disciplines such as history, political, social/cultural, ethical and science and technology taking into consideration possible contribution to UN Sustainable Development Goals (SDGs) and a carbon neutral society.This course will explore information and communications technologies (ICTs) and their multidisciplinary applications to the social and natural sciences.Students will understand basic biological mechanisms, so that they will better understand environmental risks posed by pollutants including endocrine disrupting chemicals (EDCs). （和訳） バイオマスに関連する再生可能エネルギーの基礎知識を理解する。 再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの基礎知識を理解する。起業家精神の基礎と用語を学び、成功した科学関連ビジネスのレビューと分析を行う。国連の持続可能な開発目標（SDG）とカーボン ニュートラルな社会への貢献の可能性を考慮して、歴史、政治、社会/文化、倫理、科学技術などのさまざまな分野で沿岸の持続可能性の問題を学ぶ。情報とコミュニケーションを探求する。学生は基本的な生物学的メカニズムを理解し、内分泌攪乱化学物質（EDC）を含む汚染物質によってもたらされる環境リスクをよりよく理解できるようになる。	

教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	熊本大学	Introduction to Science and Technology Ⅱ		（英文） To learn the fundamentals of separation processes common in the industries and environment. The students will also learn to apply basic knowledge of chemistry, physics and mathematics to understanding common separation processes while actively discussing with classmates. To learn the fundamentals of chemical reaction processes common in the industries and environment. The students will learn from this multidisciplinary course the fundamentals of biomass utilization to gain broader global perspectives of this exciting field. （和訳） 業界や環境で一般的な分離プロセスの基礎を学ぶ。 また、クラスメートと積極的に議論しながら、一般的な分離プロセスを理解するために化学、物理学、数学の基礎知識を適用することも学ぶ。 産業や環境に共通する化学反応過程の基礎を学ぶ。 この学際的なコースからバイオマス利用の基礎を学び、より広いグローバルな視点を得る。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	熊本大学	Socio-Cultural Studies		（英文） This class will cover history, social/cultural issues, ethics and science of humanitarian efforts. Students learn terminologies and concepts related to humanitarian issues, which can be adapted to subsequent courses in life and natural science as well as in the practice of the profession after graduation. Individual and large-scale projects to promote human welfare in areas afflicted by war, famine, natural disasters or diseases have a long and rich history and form the basis of many contemporary political discussions. We will look at humanitarian issues from different points of view including historical, scientific and anthropological approaches. （和訳） この授業では、人道的活動の歴史、社会的／文化的問題、倫理、科学について学ぶ。学生は人道問題に関連する用語や概念を学ぶが、これはその後の生命科学や自然科学の科目や、卒業後の専門職の実践に適応することができる。戦争、飢饉、自然災害、疾病に苦しむ地域において、人類の福祉を促進するための個人的または大規模なプロジェクトには、長く豊かな歴史があり、現代の多くの政治的議論の基礎となっている。歴史的、科学的、人類学的アプローチを含む様々な視点から人道的問題を考察する。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	熊本大学	World History		（英文） The course is designed to make students know more about European history and culture focusing on language and its role in the development of national identity. The goal of this course is to deepen cross-cultural understanding and to build bridges between past and present.The goal of this course is to provide profound knowledge about European geography and cultural history. （和訳） 学生が言語と国民的アイデンティティの発達におけるその役割に焦点を当てたヨーロッパの歴史と文化について知る。異文化理解を深め、過去と現在の架け橋を築く。ヨーロッパの地理と文化史に関する深い知識を提供する。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	熊本大学	Area Studies		（英文） We will study the impact of modernization on Japanese society and the challenges of leadership during the first half of the Meiji period. We will have a comprehensive look at the education of the future elite at the Fifth High School also addressing the symbolism of the school’s organization and architecture. Taking the Fifth High School as an example, we pick up several aspects of Meiji Period elite training and discuss the social and historical background. （和訳） 近代化が日本社会に与えた影響と、明治時代前半におけるリーダーシップの課題について学びます。第五高等学校における将来のエリート教育について、その組織や建築の象徴性にも触れながら包括的に考察する。第五高等学校を例に、明治期のエリート教育のいくつかの側面を取り上げ、その社会的・歴史的背景について議論する。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	熊本大学	Comprehensive English Communication		（英文） Each session, we will look closely at the various components necessary for successful presentations made in English. Students will work in pairs to prepare and deliver a 7 minute presentation to the class. Through completion of this course, students will: ・Understand the components and structure necessary for successful presentations ・Become adept at accessible, intuitive, and efficient slide design ・Become proficient in gathering research data ・Improve English communication and presentation skills （和訳） 毎回、英語でのプレゼンテーションを成功させるために必要な様々な構成要素について詳しく見ていく。生徒は2人1組で7分間のプレゼンテーションを準備し、クラスで発表する。 本科目を修了することで、以下のことが習得できる： ・プレゼンテーションを成功させるために必要な構成要素と構造を理解する ・分かりやすく、直感的で、効率的なスライドデザインに習熟する ・リサーチデータの収集に習熟する ・英語でのコミュニケーションとプレゼンテーションのスキルを向上させる	

教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	熊本大学	Global Career Development		（英文） Gaining insights and perspectives through exchanging with Kumamoto University faculty members with global career experience. The goal of this course is to offer valuable and rare opportunities to interact with local based experts whose experiences and skills will broaden the scope for students'' career options. The goal is to improve analytic and communication skills, in addition to the basic understanding of business operations. （和訳） グローバルなキャリアを積んだ熊本大学の教職員との交流を通じて洞察と視点を得る。経験とスキルが学生のキャリアの選択肢の範囲を広げる地元の専門家と交流する貴重でまれな機会を提供する。事業運営の基本的な理解に加えて、分析とコミュニケーションのスキルを向上させる。	
教養教育	教養科目	キャリア科目	熊本大学	キャリア科目		現代的課題の1つとされる男女共同参画社会を実現するために、女性のライフコースの特性を理解し、女性のキャリア形成のあり方について考えるとともに、仕事と生活の両面から、自分の将来の生活設計を立案できるようになる。国内外で実施されているボランティア活動を事例に支援者（ボランティア）の役割とマネジメントについて理解し、支援活動における基礎知識を身につける。ベンチャー企業の経営者、事業再生を経験した経営者、地域で活躍する中小企業や地方創生に取り組む企業の経営者等の生の声を聴くことで、ベンチャーマインド、経営マインドとは何かを学ぶ。大学での学び、生活と仕事・職業の関係について理解し、主体的な大学生活を過ごすための基礎知識を習得する。ダイバーシティ・インクルージョンの基本的知識を習得し、社会の担い手としての問題意識を持つ。	
教養教育	教養科目	開放科目	熊本大学	開放科目		本来学部の専門科目として開講されている科目のうち、内容が教養教育にふさわしく、開講学部以外の学生が履修できる科目として特に指定しているもの。（例：聴覚障害児教育、医療倫理、プログラミング演習、国際関係論、地域防災等）	
教養教育	教養科目	体育・スポーツ科学科目	熊本大学	体育・スポーツ科学a		スポーツの実践とスポーツ文化の理解を深めるとともに、スポーツの持つ魅力を理解し生涯スポーツへの基礎作りを行う。運動・スポーツを行うにあたって最低限必要な基礎的知識や身体の手入れの方法などを習得し、身体トレーニングを行うことを通して、将来にわたって体力・健康つくりができるようになる。健康の保持増進のために、運動習慣の大切さを理解するとともに日常生活において実践する態度を身につける。	
教養教育	教職科目	体育・スポーツ科学科目	熊本大学	体育・スポーツ科学b		実技の技能を高めると同時に、グループでの学習効果を生む展開を学ぶ。また、講義では生活習慣病と日常生活活動を関連させ、今後の生活に生かせる知識と実践能力を修得する。医学的検査の意義も学び、ヒトの生体機能を動的および静的側面から考えられるようになる。１）スポーツに関する理解を深める。２）技術学習の計画を立案し、実践できるようになる。３）健康の維持増進に関する理解を深める。４）予防医学としての運動療法や処方を習得する。５）班内で協力し合い、技術や能力の向上、および課題探求能力を養う。ことを目標とする。	
教養教育	教職科目	日本国憲法科目	熊本大学	暮らしの中の憲法		SNSなどで気軽に情報発信できるようになった現代社会では、多くの有益な情報と共に不正確な情報も氾濫するようになっている。憲法問題についても例外ではなく、日本国憲法の基本的な原理を理解し、現代社会の諸問題について憲法の基本的な知識を踏まえながら論理的に考えることができるようになることを目的とする。生活の中での具体的問題を念頭に置きながら、判例、学説の検討を中心に、日本国憲法の意義、諸原理を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	教育原理A（理念及び思想）	○	そもそも教育とは何か、学校は何のためにあるのか、どのような教育であれば「よい」と言いうるのか、教師は何のために存在し、どうあれば「よい」と言いうるか。本授業では、このような原理的、本質的問いに答え抜くことを通して、受講者の皆さんの教育観を数段深めることに寄与する。教育の古典的名著から、現代の最先端の教育実践まで、大量の情報のシャワーを浴びてもらいながら、自分がこれまでに受けてきた、当たり前だと思ってきた学校観、教育観、授業観、子ども観等を見つめ直し、さらに鍛えていく。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	教育原理B（歴史・制度）	○	教育の思想と実践の変化を、日本と西洋諸国の教育の歴史に位置づけて考える。「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識を身につけ、現在の学校教育の原理との関わりを理解することを目的とし、西洋諸国と日本における、古代から現代に至るまでの教育の理念や思想、制度を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史的変遷について講義を行う。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	教職入門	○	教職の意義及び教育の役割、教員の職務内容、教員の労働条件と研修に関する基礎的知識・理解を身につけ、自分の理想とする教員像を明確にする。教職の意義や教員の職務内容、労働条件や研修について基礎的内容を学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解しながらこれから求められる教員の資質・能力について考え、自分の理想の教師像を確立して今後の教職科目の履修に活かせるようにする。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	現代の教育と社会A	○	本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の３点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	現代の教育と社会B	○	公教育制度および教育行政の理念と仕組みを理解する。また、現在の学校を取り巻く問題とそれに対応する諸改革、学校安全の必要性と対応策について認識し理解を深めることを目的として、全ての子どもに就学機会を保障する公教育の具体的な法制度と、現在の学校を取り巻く問題と改革、さらに学校管理下での安全を保障するための学校安全法制と取り組みについて講義を行う。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	教育心理学A（学習）	○	幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、子どもへの支援の基礎となる心理学的な理解や考え方を学ぶ。子どもの行動のもつ意味を読み解くことができる力を養うために必要な心理学的知識や考え方を概説する。	

専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	教育心理学B（発達）	○	幼児、児童及び生徒の発達段階に応じた特徴を理解し、学習や学校生活における適切な支援を考えることができるようになることを目標に、子どもの発達の特徴を紹介し、環境要因としての教師の役割・関わり方について考える。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	特別支援教育の基礎	○	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する。本授業では、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、各種の障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	特別支援教育の展開	○	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する本授業では、「特別支援教育の基礎」を受け、特に通常の学級における特別支援教育の展開を中心に、発達障害や通級による指導の実際、また通常学級におけるインクルーシブな授業・学級づくりについて概説する。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	教育課程論	○	学校で何を、いつ、どのような順番で、どうやって教えるのか、という問いに取り組む中で、教育課程は編成される。また教育課程は、学習指導要領や学習指導要領解説だけでなく地域の特色や現状、社会のニーズなども踏まえて、編成される。しかし、これらすべてに対応して教育課程を編成しようとすると、授業時数に対する内容の量が過剰（詰め込み過ぎ）になったり特定の教科が優先（他の教科等の活動が軽視）されたりする懸念がある。そのため、教師も児童生徒も疲弊しないように、教育課程を柔軟に編成することが求められる。そこで本科目では教育課程の編成の方法を学修する。特に、教育課程の編成の基本原理や観点、組織として教育課程を編成するための学校の在り方や意義を学修する。最終的に、実在する学校を１校選び、その学校の教育課程の編成の案を提示できるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	道徳教育の理論	○	本授業科目は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の定める「道徳の理論及び指導法」にあたり、学習指導要領に掲げる事項に即した内容について取り扱う。主な内容については以下の通りである。まず、道徳とは何かという基本的な問題について、印欧語族や日本語の「道徳」の語源に基づき、その意味や歴史的変遷を考察する。また、倫理学、心理学、社会学などの学問分野における道徳の捉え方について概説し、多角的な視点から道徳の本質に迫る。道徳教育の歴史については、日本の戦前と戦後の道徳教育を比較しつつ、その問題点を論じる。また現代的な課題については、生命倫理やSDGs、社会参画や情報化への対応等を検討する。道徳性の発達理論については、他律から自律へと至る過程について理解するため、ピアジェやフロイト等、種々の学説を取りあげる。道徳教育の目標・内容については、「よりよく生きる」ことについて中心に論じるとともに、道徳の内容項目における重要な概念を考究する。道徳教育の全体計画および道徳科の年間指導計画については、熊本市の事例をもとに、その内容と留意点を考察する。道徳科の評価については、基本的な考え方、評価の観点について検討する。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	道徳教育の実践	○	本授業は、道徳・道徳教育に関する基礎的理解を踏まえたうえで、多様な道徳授業論・指導法を学習し、道徳の学びとは何かという問いを軸にしながら道徳の実践方法の幅広さを学ぶ。これらの知識理解の基、道徳授業の指導案作成やグループワーク・ピアレビューなどの協働的な学びを通して、授業計画を吟味し改善する多様な視点を得る。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	○	特別活動の指導法について講義・実践する。学習指導要領に記載されている学級活動・児童生徒会活動・学校行事・クラブ活動等について割り当てをし、各事項ごとのミッションを課すので、それをこなしてもらう。総合的な学習の時間の指導法についての講義・実践もまた同様とする。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	教育方法学	○	本授業では、教育方法として一般的に想起される一斉授業の形態を、歴史、現代の動向、教育目的の変化、学習観、学び合い、学習環境デザインといった視点から批判的俯瞰的に捉え直し、教育方法の多様なあり方を学習する。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	教育とICT活用	○	一斉講義形式ではなく、情報通信機器の実技を伴う演習を通したり、学校現場の実態を理解したりすることによって、情報通信技術を効果的に活用した実践的な指導力を高める。また、授業ごとにデジタル・リフレクションシートを記入できるようにして形成的に評価し、学生自らが「主体的・対話的で深い学び」の実際を体験できるようにする。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	生徒指導と学校カウンセリング	○	（１）生徒指導の意義と原理と課題を理解する。 （２）学校カウンセリングの方法を含む生徒指導の多彩な進め方を理解する。 （３）生徒指導上の個別の課題とそれぞれの対応について理解する。 （４）組織的な対応、特に連携を重視した取り組みのあり方を理解する。 （５）保護者理解と保護者連携について理解する。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	教育相談の理論及び方法	○	子どもを取り巻く状況（学校・家庭・社会）や、学校教育の領域でなされている活動がどのように心理的健康と関連するかを概観し、様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を提供します。それらを知的にも体験的にも学習する。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○	児童生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長していけるよう、進路指導は教師にとって重要な教育活動です。また、それを包含するキャリア教育は学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育むことを目的としている。これらのことについて、学生自身も教師を目指す立場として主体的に学んでいく。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	事前・事後指導	○	事前指導：1年次においては、4年間の実習の流れを理解し、教育現場で学ぶときの身だしなみや話の仕方など教師としての基本的な態度を習得する。2年次においては、1年次の学びを再確認し、３年次の教育実習に臨むための準備段階として、教育現場に赴き、学習者と教師の相互の関わりを観察し、教育現場を体験的に理解する。3年次、4年次においては教育実習に臨む直前の準備と、各自の課題を再確認する。事後指導：教育実習における学びを整理・省察し、教職を目指すうえでの今後の課題と学びの方策を考える。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	初等教育実習Ⅰ	○	附属小学校において、附属学校の教員の指導を受けながら、授業構想・実践、学級経営、児童理解などについて学び、小学校教師の職務に求められる実践的指導力の基礎を修得する。また、教育の基礎的理解や教科及び教科の指導法で学習した理論を実践に結び付け、理論の活用を体験的に学ぶ。さらに教育実践における自分の体験を振り返り、初等教育実習Ⅱで取り組む課題を見出す。	

専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	初等教育実習Ⅱ	○	公立の協力小学校において、初等教育実習Ⅰで見出した課題に取り組むとともに、チーム学校の一員として授業構想・実践、学級経営、児童理解などについて学び、小学校教員としての資質・能力の向上を図る。特に学習の反応や実態からの学びを重視する。また、初等教育実習Ⅰでの学びを基礎として、理論と実践の往還を深める。さらに教育実習中の学びのプロセスを省察し、自分自身の長所や課題を明らかにし、教職を目指すための自己学習に発展させる。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	中等教育実習Ⅰ	○	附属中学校において、附属学校の教員の指導を受けながら、授業構想・実践、学級経営、生徒理解などについて学び、中学校教師の職務に求められる実践的指導力の基礎を修得する。また、教育の基礎的理解や教科及び教科の指導法で学習した理論を実践に結び付け、理論の活用を体験的に学ぶ。さらに教育実践における自分の体験を振り返り、中等教育実習Ⅱで取り組む課題を見出す。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	熊本大学	中等教育実習Ⅱ	○	公立の協力中学校において、中等教育実習Ⅰで見出した課題に取り組むとともに、チーム学校の一員として授業構想・実践、学級経営、児童理解などについて学び、中学校教員としての資質・能力の向上を図る。特に学習の反応や実態からの学びを重視する。また、中等教育実習Ⅰでの学びを基礎として、理論と実践の往還を深める。さらに教育実習中の学びのプロセスを省察し、自分自身の長所や課題を明らかにし、教職を目指すための自己学習に発展させる。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	小学校教育実習Ⅰ	○	大学および小学校（附属小学校・本庄小学校・西与賀小学校）にて行う ・事前指導（全体）　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導　リフレクション ・事後指導　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	小学校教育実習Ⅱ	○	※本講義は、幼少連携教育コース（幼小発達教育専攻、特別支援教育専攻）、小中連携教育コース（初等教育主免専攻）の学生を対象に、関連科目「小学校教育実習Ⅰ」と一緒に履修する。 大学および小学校（附属小学校・本庄小学校・西与賀小学校）にて行う ・事前指導（全体）　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導　リフレクション ・事後指導　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	中学校教育実習Ⅰ	○	大学のほか、附属中学校あるいは佐賀市内の中学校・大学が指定する中学校において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習：　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	中学校教育実習Ⅱ	○	※本講義は、教育学部小中連携教育コース（中等教育主免専攻）および芸術地域デザイン学部、理工学部、農学部の学生を対象に、関連科目「中学校教育実習Ⅰ」と一緒に履修する。 大学のほか、附属中学校あるいは佐賀市内の中学校・大学が指定する中学校において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習：　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	佐賀大学	高等学校教育実習	○	大学のほか、高等学校（主に母校）において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習：　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	各大学	幼稚園教育実習Ⅰ		大学のほか、附属幼稚園あるいは佐賀市内の幼稚園、認定こども園において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、留意事項 ・教育実習：　実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	各大学	幼稚園教育実習Ⅱ		※本講義は、関連科目「幼稚園教育実習Ⅰ」と一緒に履修する。 大学のほか、附属幼稚園あるいは佐賀市内の幼稚園、認定こども園において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、留意事項 ・教育実習：　実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	各大学	教職実践演習（幼・小・中・高）	○	教師としての専門的力量形成を図るために、4年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を育成する。教員として求められる以下の４つの事項を踏まえ、４年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を有する教員としての資質を確認する。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項　②社会性や対人関係能力に関する事項　③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項　④教科・保育内容等の指導力に関する事項	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科に関する専門的事項	各大学	初等国語	○	本授業では、小学校国語科の専門的な内容（言葉の知識、文学的文章、言語文化）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （19 中里　理子／4回）第1回～第4回を担当する。 （45 奥野　新太郎／4回）第5回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （88 山下（古田）真里／3回）第1回～第3回を担当する。 （61 跡上　史郎／2回）第4回～第5回を担当する。 （33 中尾　健一郎／3回）第6回～第8回を担当する。	オムニバス

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等書写	○	本授業では、小学校国語科の専門的な内容（書写）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等社会	○	学習指導要領をもとに小学校社会科の特質と役割、目標と内容構成について説明する。そして、小学校社会科で扱ういくつかのトピックを地理・歴史・公民の３分野に分けて取り上げ、その内容に関する教材研究の進め方についても講義する。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （9 後藤　正英／2回）第1回～第2回を担当する。 （49 黒田　圭介／2回）第3回～第4回を担当する。 （4 岡本　託／2回）第5回～第6回を担当する。 （7 吉岡　剛彦／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （32 黨　武彦／2回）第1回～第2回を担当する。 （90 山本　耕三／2回）第3回～第4回を担当する。 （35 春田　直紀／2回）第5回～第6回を担当する。 （67 大野　正久／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等算数	○	論理･集合、代数、幾何、解析、応用数学等の中から、いくつかの話題を取り上げて紹介する。また、それらの内容と小学校算数の繋がりを考えたり、それらの内容を発展的に考察しさらに理解を深めたりする活動を行い、算数の指導力向上に繋げる。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （87 萩原　幸二／2回）第1回～第2回を担当する。 （34 中川　泰宏／2回）第3回～第4回を担当する。 （92 吉村　昇／2回）第5回～第6回を担当する。 （91 吉井　貴寿／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等理科	○	将来、小学校教員になった際に自信を持って理科を指導できるように、小学校理科教科書４領域（エネルギー、粒子、生命、地球）の知識を確かなものとすると同時に、授業実施のための教科特性を理解する。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （6 嬉　正勝／2回）第1回～第2回を担当する。 （5 角縁　進／2回）第3回～第4回を担当する。 （18 中村　聡／2回）第5回～第6回を担当する。 （3 岡島　俊哉／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （31 田邊　力／2回）第1回～第2回を担当する。 （69 岸木　敬太／3回）第3回、第5回、第6回を担当する。 （85 村田　貴広／2回）第4回、第7回を担当する。 （29 島田　秀昭／1回）第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等生活	○	小学校「生活」の教育内容について、（1）社会と子ども、（2）自然と子ども、（3）遊びと子ども、（4）家庭と子どもの4つの分野に分けて、オムニバスで講義形式の授業をオンラインで行う。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （49 黒田　圭介／2回）第1回～第2回を担当する。 （444 坂本　憲明／2回）第3回～第4回を担当する。 （8 栗山　裕至／2回）第5回～第6回を担当する。 （17 中西　雪夫／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （61 飯野(金柿)直子／2回）第1回～第2回を担当する。 （35 春田　直紀／2回）第3回～第4回を担当する。 （196 田口　浩継／2回）第5回～第6回を担当する。 （40 八幡　彩子／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等音楽	○	小学校音楽科の授業を実践する上で必要な楽譜の読み書きや音楽の規則を理解したり、発声法、演奏法や音楽の歴史 を知る。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （10 荒巻　治美／2回）第1回、第8回を担当する。 （11 今井　治人／2回）第2回～第3回を担当する。 （51 石川　美也子／2回）第4回～第5回を担当する。 （93 小村　朋代／2回）第6回～第7回を担当する。 【熊本大学】 （41 山﨑　浩隆／2回）第1回、第8回を担当する。 （89 山田　高誌／2回）第2回～第3回を担当する。 （63 稲森　安太己／2回）第4回～第5回を担当する。 （79 中原　雅彦／2回）第6回～第7回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	佐賀大学	小学音楽実技（ピアノ）		小学校の授業展開に必要なピアノを演奏する上での基本的技能・知識を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	佐賀大学	小学音楽実技（声楽）		声楽についての基本的技能・知識を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等図画工作	○	図画工作科の意義を明らかにし、表現及び鑑賞の活動をおこないながら、図画工作指導を行うに必要な、資質・能力を育成するものである。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （519 喜久山　悟／4回）第1回、第5回、第6回、第8回を担当する。 （38 松永　拓己／4回）第2回～第4回、第7回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等家庭	○	小学校家庭科の授業づくりための基礎的知識について内容を解説するとともに基礎技能を習得するための演習等を行う。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （435 奥谷（竹内）めぐみ／2回）第1回～第2回を担当する。 （46 萱島　知子／2回）第3回～第4回を担当する。 （50 小松　美和子／2回）第5回～第6回を担当する。 （22 澤島　智明／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （40 八幡　彩子／2回）第1回～第2回を担当する。 （523 篠塚　到子／4回）第3回～第6回を担当する。 （77 中迫(北後)由実／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等体育	○	本授業は、小学校学習指導要領において体育の内容として取り上げられている運動領域「陸上運動」「器械運動」「体つくり運動」「球技」「水泳」および「新体力テスト」の学習内容を理解し、教員としてそれぞれの運動種目を指導していくために必要な基本的な技能を学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) 【佐賀大学】 (13 山津　幸司・12 坂元　康成・2 井上　伸一／3回) (共同) 第1回～第3回を担当する。 (12 坂元　康成／2回) 第4回～第5回を担当する。 (2 井上　伸一／1回) 第6回を担当する。 (13 山津　幸司／2回) 第7回～第8回を担当する。	オムニバス・共同(一部) (佐賀大学のみ)
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	各大学	初等外国語	○	小学校外国語活動及び外国語の授業実践に必要な英語表現を、題材(話題・場面) ごとに整理し、演習を通して実践的な英語運用能力の向上を図る。8回の授業を通して、英語の音声の仕組み(アクセント、リズム、イントネーション、発音と綴りの関係など) や正書法、文学素材などについて講義と演習を交えて学びながら英語に関する背景的な知識を身に付け、小学校での外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用能力の習得を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等国語科指導法Ⅰ	○	『小学校学習指導要領解説　国語編』に基づいて国語科の目標・内容を理解し、小学校国語科教科書の教材を用いて学習指導や評価の方法についての理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等国語科指導法Ⅱ	○	「初等国語科指導法Ⅰ」で学んだことをもとに、学習指導案の作成や模擬授業に取り組む。模擬授業後にリフレクションを行い、授業の中で得られた実践的知識の共有と深化を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等社会科指導法Ⅰ	○	社会科といえば知識を暗記することとの誤解を解くことを目的に、学習指導要領の解説や過去や外国の社会科教育の事例なども参照しながら、社会科とは何でなければならないのかを理論的に解明する。今後実践的に社会科の在り方を考えるうえで必須の理論的基盤を確立させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等社会科指導法Ⅱ	○	教科書の特性・特質を踏まえた教材(教科書) 研究に取り組む。教科書を活用して小学校社会科の学習指導案を作成する。模擬授業を実施して、その検討会を開催する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等算数科指導法Ⅰ	○	算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。 (オムニバス方式／全8回) 【熊本大学】 (91 吉井　貴寿／4回) 第1回、第3回、第4回、第6回を担当する。 (92 吉村　昇／4回) 第2回、第5回、第7回、第8回を担当する。	オムニバス(熊本大学のみ)
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等算数科指導法Ⅱ	○	算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。 (オムニバス方式／全8回) 【熊本大学】 (91 吉井　貴寿／2回) 第2回、第8回を担当する。 (92 吉村　昇／3回) 第1回、第3回、第4回を担当する。 (90 吉井　貴寿・91 吉村　昇／3回) (共同) 第5回～7回を担当する。	オムニバス・共同(一部) (熊本大学のみ)
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等理科指導法Ⅰ	○	初等理科教育に関する目的論、カリキュラム論、学習指導方法論、自然認識論、評価論等の各領域について概説する。 1.小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点(含：発展的な内容) 、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。 2.生徒の自然認識・科学的思考・理科の学力などの実態を視野に入れた理科授業設計の重要性、教科としての理科の特性に応じたICT・教材の効果的な活用法、理科学習指導案の構成と具体的実践を想定した教材研究の方法(含：理科実践研究の動向) について具体的に論じる。 (オムニバス方式／全8回) 【熊本大学】 (43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)　直子／2回) (共同) 第1回、第8回を担当する。 (42 渡邉　重義／3回) 第2回～第4回を担当する。 (61 飯野(金柿)　直子／3回) 第5回～第7回を担当する。	オムニバス・共同(一部) (熊本大学のみ)
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等理科指導法Ⅱ	○	初等理科教育に関する実際の授業実践を想定し、具体的な理科の学習内容について取り上げる。 1.小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点(含：発展的な内容) 、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。 2.理科の学習内容等の発表(模擬授業) の実施とその振り返りから、授業改善の視点(含：授業設計の向上) について具体的に論じる。 (オムニバス方式／全8回) 【熊本大学】 (43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)　直子／3回) (共同) 第1回、第7回、第8回を担当する。 (61 飯野(金柿)　直子／5回) 第2回～第6回を担当する。	オムニバス・共同(一部) (熊本大学のみ)
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等生活科指導法Ⅰ	○	・初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。 ・具体的実践事例を講義し、自然領域における教材開発を実際に行う。 ・模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。 (オムニバス方式／全8回) 【佐賀大学】 (444 坂本　憲明／5回) 第1回～第5回を担当する。 (56 名倉　一美／3回) 第6回～第8回を担当する。	オムニバス(佐賀大学のみ)
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等生活科指導法Ⅱ	○	・初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。 ・具体的実践事例を講義し、特にICTを活用した教材開発を実際に行う。 ・模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。 (オムニバス方式／全8回) 【佐賀大学】 (49 黒田　圭介／5回) 第1回～第5回を担当する。 (56 名倉　一美／3回) 第6回～第8回を担当する。	オムニバス(佐賀大学のみ)
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	各大学	初等音楽科指導法Ⅰ	○	小学校における表現と鑑賞の各活動の指導のあり方とその考え方を知り、教育実習等、指導の実際にかかわる指導方法を考える。また、ICTを活用した効果的な指導法についても知る。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等音楽科指導法Ⅱ	○	小学校音楽科における表現と鑑賞の授業づくりについての理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等図画工作科指導法Ⅰ	○	第1～3回において小学校図画工作科の意義や目的、発達と造形の関係等の全般的な内容を学ぶ。第4回以降においては学習指導要領を踏まえた教科の内容（表現及び鑑賞）を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等図画工作科指導法Ⅱ	○	小学校図画工作科の学習指導・支援や学習評価の全般的な内容を学ぶ。教科内容の模擬演習・講義や、模擬授業の取り組みを通して授業技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等家庭科指導法Ⅰ	○	家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等家庭科指導法Ⅱ	○	家庭科の授業実践に必要な基礎的技能を身に付けるため、小学校家庭科における課題解決学習、ICT活用、評価などの実践事例を分析し、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を実施する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等体育科指導法Ⅰ	○	本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等体育科指導法Ⅱ	○	本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して小学校学習指導要領において取り上げられている「体つくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ボール運動」「表現運動」「保健」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等外国語指導法Ⅰ	○	小学校外国語活動の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解・考察を深めていく。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞を取り入れることにより、英語指導技術の基礎を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法		各大学	初等外国語指導法Ⅱ	○	小学校外国語活動及び外国語科の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解を深める。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞や模擬授業実践を取り入れることにより、英語指導技術を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	佐賀大学	国語学概説Ⅰ	○	現代日本語の特徴について音声・音韻・語彙・方言・文法の側面から学び、日本語のしくみについて考える。身近な言語事象を通して学ぶことで現代の生きた日本語の基礎知識を身に付けることを目指す。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	各大学	国語学概説Ⅱ	○	授業の前半では、現代日本語の文字・表記、待遇表現の特徴について基礎的な知識について学ぶことで、日本語で表現するための基礎力を身に付ける。授業の後半では、日本語による表現力を高めるため、さまざまな種類の文章を作成し、相互評価を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	熊本大学	国語学概説Ⅲ		日本語の変遷についての基礎的な知識を身に付け、説明でき、身の回りのことばについて、日本語の変化という観点からとらえることができることを目標とする。日本語の変遷について、文字、音韻、仮名遣い、文法、語彙の分野ごとに解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	各大学	国語学演習Ⅰ		第１回から第５回では、国語教育において日本語を分析できる力の重要性および日本語について調査・分析する方法を学ぶ。第６回以降は、各自がテーマを見つけて実際に調査・分析を行った内容を発表し、話し合いを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	佐賀大学	国語学演習Ⅱ		教科書で扱う古典作品を中心に、古語や表現に着目して読み味わう。合わせて古典文法や当時の文化に関する知識を確認し作品理解を深める。後半は作品ごとに分担を割り当て、受講者の発表を取り入れて作品を読み進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	佐賀大学	国語学演習Ⅲ		日本語学（国語学）の研究分野の中から、語彙と文章表現を中心に、文字・表記、意味変化、文法などを取り上げ、課題の発見のしかたと研究方法について学ぶ。前半は、語彙を中心に解説しながら簡単な課題について考える。後半は、受講生各自が興味を持った研究分野・研究対象を選び、簡単な調査を行い、データを分析・考察して資料にまとめて発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	熊本大学	国語学特別演習Ⅰ		国語学の諸問題および国語学に関する基礎的な調査方法、文献読解力を身に付けることを目標とする。指定された、または受講者が設定したテーマについて、調査発表者を決め質疑応答を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	熊本大学	国語学特別演習Ⅱ		国語学研究の諸問題および研究論文を読解する力を身に付けることを目標とする。指定された、または受講者が選んだ研究論文について、調査発表者を決め質疑応答を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	熊本大学	国文学概説	○	国文学史及び国文学に関する歴史的理解を得ることを目標とする。国文学に関して具体的な作品を挙げながら歴史を講ずる。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （33 中尾　健一郎／7回）第1回～第7回を担当する。 （61 跡上　史郎／8回）第8回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	佐賀大学	国文学論		講義の10回分は、近代文学史（主に小説）における重要なトピックを辿りながら、歴史的な展開について講義を行う。高校までのように、単に作家名と作品名を覚えるだけではなく、実際の作品に触れながら立体的に理解できるよう授業を進める。残りのうち4回で、語り手や人称、小説の構造など、文学作品を理解する上で重要な事項を具体的に取り上げ、グループワークをしながら作品を読んでいく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	熊本大学	国文学講義Ⅰ（古典）		古代から近世までの日本古典文学の流れについて講述する。具体的な作品を取り上げ、成立の背景や時代性、作者の問題等について考えるとともに、他作品との影響関係や後世の受容と展開について理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	熊本大学	国文学講義Ⅱ（近現代）		日本近現代文学研究の実例及びレポートではない論文を書くことに関する理解を得ることを目標とし、夏目漱石の研究史から文学研究の方法を学び村上春樹研究に応用する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	熊本大学	国文学講読（古典）		講義・演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『和学知辺草』の内容を読解する形で授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	佐賀大学	国文学演習Ⅰ		国語辞典を読む。「ことば」というものを自覚的に認識する習慣を身に付けることを目指す。国語辞典はふつう引くものであるが、本授業では語釈を始め、用例・語誌などを丁寧に読む。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	佐賀大学	国文学演習Ⅱ		古典の原典を読む。崩し字の文字が読めるようになることを目指す。古典の作品を、活字本ではなく、古典時代の読者とおなじ原典で読む。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	佐賀大学	国文学演習Ⅲ		江戸の都市空間と藩邸。江戸後期の社会・生活・文化・学問などを理解することを目指す。柳河藩士牧園茅山の江戸滞在日記（文政2年6月）の日記を読む。その日、江戸で何があったかを観察しながら、江戸の都市空間とそこに生きる一漢学者の生活を読み解く。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	佐賀大学	国文学演習Ⅳ		古典と仮名遣い。仮名遣いの本質を認識することを目指す。規範仮名遣いの歴史をたどる。こんにちの現代仮名遣いの意味を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	熊本大学	国文学特別演習Ⅰ（近現代）		日本近現代文学の諸問題及び日本近現代文学に関する基礎的読解力を身に付けることを目標に、指定された、または受講者が選んだ近現代文学について発表・質疑応答を行い、歴史・表現両面における調査能力を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	熊本大学	国文学特別演習Ⅱ（近現代）		近現代文学の説明文（論説文）を書くことを通じて説明文と文学の関係を理解することを目標に、指定された、または受講者が選んだ近現代文学について、データ、論拠（裏付け、限定詞、反証）、主張の視点から発表・質疑応答を行い、説明文（論説文）を書く。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	佐賀大学	漢文学概説Ⅰ	○	中国古典文学における重要な事項を取り上げて、それに関連する様々な時代の資料を読み、漢文の表現や主題について理解を深めていく。前半は、対句や韻律といった漢詩特有の表現技法について考察し、後半は作品のテーマやモチーフについて検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	熊本大学	漢文学概説Ⅱ	○	講義・演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、漢詩の内容を読解する形で授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	各大学	漢文学演習Ⅰ		演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『蒙求』の内容を読解する形で授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	佐賀大学	漢文学演習Ⅱ		漢文を読むために必要な辞書や工具書を紹介した後、演習形式で作品を読み進めていく。高校の漢文教科書に載っている詩歌を主に取りあげて精読する。毎回、担当者を決め、原文の訓読・日本語訳と注釈を発表してもらう。担当者以外も毎回、必ず予習をしておくこと。質疑応答、討論など授業への積極的な参加を求める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	佐賀大学	漢文学演習Ⅲ		漢文を読むために必要な辞書や工具書を紹介した後、演習形式で作品を読み進めていく。白居易の詩歌を取りあげて精読する。毎回、担当者を決め、原文の訓読・日本語訳と注釈を発表してもらう。担当者以外も毎回、必ず予習をしておくこと。質疑応答、討論など授業への積極的な参加を求める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	熊本大学	漢文学特別演習Ⅰ		漢文学の諸問題及び漢文学と国文学の関係に関する基礎的読解力を身に付けることを目標に、指定された、または受講者が選んだ文学作品について調査発表者を決め質疑応答を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	熊本大学	漢文学特別演習Ⅱ		漢文学と国文学の関係に関する漢文学研究の諸問題、及び漢文学と国文学の比較研究に関する研究論文を読解する力を身に付けることを目標に、指定された、または受講者が選んだ研究論文について調査発表者を決め質疑応答を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	書道	各大学	書写	○	小学校および中学校の国語科書写の学年目標を理解し、楷書や行書の特徴と基本点画、仮名との調和等について学ばせる。この授業は中学校の実務経験を有している教員が書写の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	書道	佐賀大学	書道Ⅰ		北魏・唐時代の楷書の古典を中心に鑑賞・臨書に取り組むことにより楷書の特徴を捉え、用筆法・運筆法・字形の取り方等についても学ばせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	書道	佐賀大学	書道Ⅱ		行書と草書の古典作品の鑑賞と臨書を通して、多様な美を理解しながら表現技法を学ばせる。また、その表現技法を生かし、行草作品の創作に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	書道	佐賀大学	書道Ⅲ		篆書は甲骨文・金文・大篆・小篆、隷書は古隷・八分、および簡牘を取り上げ、その鑑賞と臨書を通して、二つの書体の用筆法や字形について学ばせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	書道	佐賀大学	書道Ⅳ		仮名の基礎的な技法を習得し、臨書や散らし書きの学習によって仮名の美を学ばせる。また、漢字仮名交じりの書の基礎的な制作方法を身につけ、自分の思いにかなった制作に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	書道	佐賀大学	書道史		「書の歴史」について、代表的な書体の変遷と、主要な書人をとりあげてその書風や、各時代の書の捉え方、展開について論じる。さらに、我々が現在使用している文字の成り立ちや芸術性、その指導の重要性についても考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	書道	佐賀大学	書論・鑑賞		歴代書論の理解と、制作における理論の把握についての重要性は、学習指導要領にも示されており、それらの素養を身に付ける授業である。代表的な書論の講読力を身に付けるとともに、代表書跡に付せられた題跋等の講読を通じた書跡理解力や鑑賞力も養成する科目である。また、鑑賞については、書跡の歴史的・技法的深化を踏まえ、直観力を身に付けることに繋げていく。 ＊ 高等学校芸術科書道 学習指導要領内容B 鑑賞 ・書の美の多様性と作品の特徴、書論による書の理解と鑑賞の深化をはかる。 ・日本及び中国の書の伝統と諸文化との関連をはかり、書文化の継承と創造への関心を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		各大学	中等国語科指導法Ⅰ	○	本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		各大学	中等国語科指導法Ⅱ	○	本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		各大学	中等国語科指導法Ⅲ	○	本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解を深めるとともに指導法について考察することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		各大学	中等国語科指導法Ⅳ	○	本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解を深めるとともに指導法について考察することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		熊本大学	国語科教育学演習A		国語科教育における小中連携や学び合いの充実に向けて、教材研究や学習指導案の作成に取り組むことを通して、国語科授業実践力を高めることができることを目標とし、初等国語科教育法や中等国語科教育法で学んだことをもとに、授業を構築・実践するための能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		熊本大学	国語科教育学演習B		国語科「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」領域の目標と内容を理解するとともに小・中接続、中・高接続の観点から授業を構築・実践するための能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		熊本大学	国語科教育学演習C		国語科教育に関する多様な領域についての理論と実践とを往還させながら、新たな授業開発に向けての実践知を獲得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		熊本大学	国語科教育学演習D		国語科「読むこと」領域の目標と内容を理解するとともに、小・中接続、中・高接続の観点から授業を構築・実践するための能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		佐賀大学	書道科教育法Ⅰ		書道科年間指導計画の作成や、漢字の書の「楷書と行書」の教材を使用し、学習指導案の作り方を知り、教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）（＊R4入学生～情報通信技術の活用を含む）授業実践の研究に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		佐賀大学	書道科教育法Ⅱ		「仮名・漢字仮名交じりの書・篆刻・刻字」の教材を使用して、学習指導案の作り方を知り、教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）＊R4入学生～（情報通信技術の活用を含む）、授業実践法研究に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	熊本大学	日本史概説	○	日本史研究の最先端の議論を知ることで、新たな歴史の見方を学び、各時代の特質に関する理解を深めるとともに、日本史の教材研究の基礎を身に付けることを目標とし、先史時代から現代まで日本史の通史的展開にそって、各時代を特徴づける主要なテーマを掲げ、研究の最先端の議論を紹介していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	熊本大学	日本史特講Ⅰ(史料論)		史料に即して日本史の事象を理解し、史料を用いて教材をつくる力量を身に付けることを目標として、日本史の代表的な事象について、さまざまな史料を読みながら、学び直していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	日本史特講Ⅱ（近現代）		本講義では、近世と近代の日本史の時代ごとに代表的な事象について、さまざまな史料を読みながら、学び直していく。また、映像資料や被災史料もとりあげ、その有効性についても考える。この授業を通して、さまざまな史料の読解を通して古代から中世まで各時代の特質について理解を深め、史料読解に基づいた教材研究の手法を実践的に身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	日本史特講Ⅲ（近世史）		近現代日本の歴史が民衆にとってどのような時代であったのかを考えるため、国家や中央の政治家・官僚・軍人にとっての歴史ではなく、地域に生きる民衆にとっての歴史という視点から日本近現代史について講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	日本史特講Ⅳ（中世史）		「武士」の発生以降、近世初頭に属する豊臣政権の成立前後までの約650年間を対象とした日本社会の諸相を多角的に検討しながら、歴史学を追究するための基本的な方法論―多様な史料の扱い方、歴史的事象への客観的視点などー について解説していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	日本史特講Ⅴ（古代史）		日本原始・古代の歴史に関する重要テーマを考古学的研究も混じえて、概説していく。講義は、高等学校用の教科書や大学の入試問題にこれらの論点がどのような形で現われているのか注意しながら、進められる。原始・古代の社会・文化が日本史を通じての基層を構成していることに関して認識を深めながら、日本原始・古代の歴史研究の成果と現状を学んでもらえれば、と考えている。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	各大学	世界史概説	○	中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、基礎的かつ包括的な講義をおこなう。その際、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。また、トピックによっては、日本の事柄とも関連づけながら理解を深めていきたい。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	熊本大学	世界史特講Ⅰ（中国史）		中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、日本の近現代史においても重要な意味を持つ中国近現代史に関する講義を映像資料を活用しながら行う。その際、台湾海峡問題など、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	世界史特講Ⅱ（西洋史）		教育、経済、政治、都市構造、市民生活などの様々なテーマを用いて、近代社会のターニングポイントとなった19世紀の社会を理解する。同時に、19世紀後半は西洋諸国が本格的にアジアへ進出した時代であり、本講義では、フランス外交の視点から、アジア進出における西洋諸国の力関係、日本へと進出した目的、日本へ赴任した外交官の特徴などを学んでいく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	世界史特講Ⅲ（東南アジア史）		東洋史を要説する。世界史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けてアジア・日本諸地域の歴史を、東洋史のなかに立体的に定置概観する。アジアの諸文化の多様性・複合性と現代世界の特質を解説する。我が国の歴史と文化の多様性を、日本と東南アジアを東洋史の枠組みのなかで理解できるようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	熊本大学	日本史演習Ⅰ（地域史調査）		さまざまな歴史資料による分析と現地調査に基づいた地域史研究の方法を身に付けることを目標として、調査地域の歴史に関する先行研究の検討と現地調査の準備・実施を共同で行う。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	熊本大学	日本史演習Ⅱ（中世文書）		史料の訓読と解釈、それにもとづいた歴史研究の手法を実践的に身に付けることを目標として、中世の古文書を教材にしながら、文書を訓読し、その内容が解釈できるところまで指導する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	熊本大学	日本史演習Ⅲ（荘園調査）		さまざまな歴史資料による分析と現地調査に基づいた荘園史研究の方法を身に付けることを目標として、荘園故地の歴史に関する先行研究の検討と現地調査の準備・実施を共同で行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	熊本大学	日本史演習Ⅳ（近世文書）		史料の判読・読解とそれにもとづいた歴史研究の手法を実践的に身に付けることを目標として、近世の古文書を教材にしながら、文書の訓読・くずし字の判読から文書の内容を読解し、その情報に基づいた考察ができるところまで指導する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	日本史演習Ⅴ		日本近世～近代史の研究手法や最新の研究史・歴史観を理解することを目標として、日本近世～近代史に関する研究文献を読み、歴史学の手法や最新の研究史、歴史の見方を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	日本史演習Ⅵ		日本近世史研究史上の重要テーマを概観する。高等学校用の教科書や大学入試にこれらの論点がどのような形で現れているのか、問題演習の形で取り扱う。歴史研究の成果に歴史教育が無関心であってはならないことを意識しつつ、近世史研究の成果と現状を学んでいく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	熊本大学	日本史調査実習		地域の歴史を語る素材を掘り起こし史料化・教材化していく技法を、実践的に身につけていくことを目標として、ひとつの地域に滞在し、その土地の歴史に関わるあらゆる情報を収集し、整理していく。具体的には村落を対象に、古文書の調査、住民への聞き取り、信仰物や農地・牧野・山林の現場確認をし、調査成果を報告書にまとめる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	西洋史演習Ⅰ		近現代のグローバル・ヒストリーに関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識などを学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	西洋史演習Ⅱ		歴史修正主義に関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識を学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションを行う。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	西洋史演習Ⅲ		日本から見た世界、世界から見た日本をテーマとした文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識などを学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	歴史学	佐賀大学	西洋史演習Ⅳ		近現代ヨーロッパ史・アメリカ史に関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識を学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションを行う。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	熊本大学	人文地理学概説	○	人文地理学とは何かを知る。中学校社会科地理的分野および高等学校地理総合・地理探究のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得することを目標として、人文地理学における主要なトピックを紹介する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	佐賀大学	自然地理学概説	○	本講義では主に気候学と地形学を中心に取り上げて、講義形式で授業を行うが、教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、地図を用いた解析作業を何度か行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	熊本大学	人文地理学特講		平成２８年熊本地震の被災地を事例として、野外調査を行う。自然環境と防災。高等学校学習指導要領　地理総合　２内容　Ｃ（１）自然環境と防災　の記述内容のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得することを目標として、平成２８年熊本地震の被災地がいかに復旧・復興したか、あるいはしなかったかについて、地理学的な野外調査を行って考察する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	熊本大学	自然地理学特講Ⅰ		この授業では、人々の暮らしのなかで環境との関わりから生じた問題や文化について、主に日本国内の事例を取り上げ、地理学の基礎的な概念を踏まえながら解説する。事例の解説や読図作業を通じて、地理学的な視点・手法を習得するとともに、文化や環境問題を多面的に考えられるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	佐賀大学	自然地理学特講Ⅱ		本講義では主に地形学分野を中心に取り上げて、講義形式で授業を行うが、教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、簡単な解析作業を何度か行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	各大学	地誌学概説	○	中学校社会科地理的分野≒地誌学習と言われることがあるが、区分された地域ごとに①自然環境、②人口、③産業、④交通などを平板に列挙するのではなく、地域の特色や地域間の結びつきを理解させなければならない。そこで、地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを通して、特色や結び付きを考察していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	熊本大学	人文地理学演習Ⅰ		野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付けることを目標として、大学所在地を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	熊本大学	人文地理学演習Ⅱ		野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付けることを目標として、大学所在地を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	熊本大学	人文地理学演習Ⅲ		野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付けることを目標として、大学所在地近隣市町村を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	熊本大学	人文地理学演習Ⅳ		野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付けることを目標として、大学所在地とは生活圏が異なる熊本県内を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	佐賀大学	自然地理学演習Ⅰ		この演習では、机上作業として地図読解を行って、地形分類図やハザードマップなどの主題を作成し、その成果をもって現地調査（フィールドワーク）を行い、その図が現実とマッチしているか、演習後半に確認作業（グランドトゥルース）の現地調査を実施する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	佐賀大学	自然地理学演習Ⅱ		本演習では、修学旅行や社会科見学を想定し、特に「自然環境」「土地利用」「産業」に着目して企画を行って、実際に現地調査・現地観察を行い、その学習効果を確認する。グループワークが主であるが、適宜講義も行って、知識の涵養に努める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	佐賀大学	自然地理学演習Ⅲ		本演習では、まずGISの理論を学び、次いでGISを用いて実際に主題図を作成して、その操作法や解析方法を学ぶ。最後に、現地調査を行ってデータを収集し、それをもってGISにて主題図の作成、および解析作業を行って、実践力を養う。本演演習では、デジタル機器を用いた測量を行って、GISで地形解析を実施する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	佐賀大学	自然地理学演習Ⅳ		本演習では、特に「内・外水氾濫」と「地震災害」に着目し、序盤はこれらの基礎的理解を深めるため、国内外の論文講読を行う。次に、災害地の調査法を学び、実際に被災した地域を訪れて調査・観察を行う。最後に、調査地のハザードマップの作成を行う。これらを通じて、実践力を養い、児童・生徒に対して災害大国日本で生き抜く術を教授できる教員の育成を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	熊本大学	地理学調査実習		地理学の調査法のいくつかを修得し、自分で調査できるようになることを目標として、３泊程度の日程で実地調査（フィールドワーク）を行う。災害の被災地等現地にて、文献調査、聞き取り調査を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	佐賀大学	法律学概説	○	本講義では、担当教員が、出来るだけ具体的な社会問題を取り上げつつ、そこに含まれている法的論点を解説する。法と道徳の比較、いじめ問題など学校現場における法や人権のあり方、裁判員制度を念頭に置いた法教育に触れながら、憲法・刑法・民法の基礎知識を習得する。その上で学期後半では、交通事故という身近で具体的な問題を取り上げ、刑法や民法に関する法的知識を応用しつつ考察する。講義を通じて、法の基本的な考え方や仕組みにつき、受講学生に馴染んでもらうと共に、個々の問題とそれに対する（法的）対処を共に考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	佐賀大学	法律学特講		憲法の基本理念・基礎知識について説明した上で、社会的に不利な立場にある人たち（マイノリティ）の「人権」をめぐる法的論点や社会状況について講ずる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	熊本大学	政治学概説Ⅰ		現代政治で見られる様々な現象を理解することを狙いとしている。新聞などで聞く話を十分に理解できるだけではなく、自分で分析し、どのような因果関係があるのか発見できるようになることが最終目的であり、今日の世界で起きる様々な政治問題を取り上げて検討していく。現代世界の状況を理解し、なぜアメリカではトランプ政権が誕生したのか、なぜイギリスはＥＵから離脱したのかといった問題を国内、国際の両面から検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	佐賀大学	政治学概説Ⅱ		本講義の内容は、以下の三つのパートからなる。 ①政治の概念：政治を理解し、政治について議論する上で重要な概念をいくつか取り上げ、その概念の歴史的背景と意義について学ぶ。 ②戦後日本の政治：戦後の日本の政治状況がどのように形成されたのかを学ぶ。 ③現代政治の諸問題：現在我々が直面している政治的課題について、上記の議論をふまえて考察する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	熊本大学	政治学特講Ⅰ		冷戦後に起きた紛争・戦争を考察することで、現代世界の特徴を理解する。授業で取り扱う内容を説明できるようになることが最低限の目標であるが、それだけではなくそれぞれの紛争・戦争にはいかなる背景があるのか、そこから自分でインプリケーションを引き出せるようになることが最終目的であり、冷戦後に起きた紛争、１９９０年代に見られた人道的介入、２０００年代以降の対テロ戦争について考察する。加えて近年起きたウクライナ戦争、ガザをめぐるイスラエル・パレスチナ問題についても検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	佐賀大学	政治学特講Ⅱ		本講義では、西洋政治思想の基礎知識を学ぶ。具体的には、政治思想の発展に大きな影響を与えた思想家を取り上げて、その著作（いわゆる古典）を解説していくが、その際にたんに結論だけを紹介するのではなく、彼らが具体的にどのような問題に直面し、それに対してどのようなアプローチで答えようとしたのかという思索のプロセスに重点を置いて説明する。また、学生どうしで討論する時間を設け、現在の政治問題を政治思想の観点から分析し、解決策について議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	佐賀大学	法学演習Ⅰ		「家族・結婚・ジェンダーをめぐる法」に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、家族をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	佐賀大学	法学演習Ⅱ		法的／倫理的責任を論じた（複数の）テキストを指定し、講読する。担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	佐賀大学	法学演習Ⅲ		生命倫理に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、人が〈生まれること／生きること〉をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	佐賀大学	法学演習Ⅳ		生命倫理に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、人が〈死ぬこと／死なせること〉をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	熊本大学	政治学演習Ⅰ		演習では学生の積極的な発言が求められる。毎回課題文献を読み、独自の見解を報告することが求められる。それを踏まえ社会科公民分野及び公民科の指導内容に関わる自分の研究を深めていくことが狙いである。社会科公民分野及び公民科の指導に関連する大学一年生向けの内容を心がけ、現代性の特徴を一つ一つ検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	熊本大学	政治学演習Ⅱ		政治学の古典を精読し、現代政治の理解を深めることが目的である。最初に政治思想の流れを包括的に論じた『民主主義とは何か』を精読する。その後J.S.ミルをはじめ、様々な古典を読んでいく。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	熊本大学	政治学演習Ⅲ		現代社会で見られる様々な政治問題について検討し、自分で分析できるようになることが目的である。受講生のプレゼンテーション能力を磨くことも目的である。ベーシックインカム、外国人労働者の受け入れ、日本の選挙制度などについてディベート形式で検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	熊本大学	政治学演習Ⅳ		演習では学生の積極的な発言が求められる。毎回課題文献を読み、独自の見解を報告することが求められる。それを踏まえ社会科公民分野及び公民科の指導内容に関わる自分の研究を深めていくことが狙いである。学生の主体的な発言を通じて社会科公民分野及び公民科の指導の前提となる現代世界の理解を深めていく。とりわけポピュリズムの問題、民主主義に対する挑戦について考えていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	熊本大学	政治学調査実習		実社会において政治、法律がどのように機能しているのか考察する。自分で問いを立て、それを分析する能力を身に着けることが目的である。自分で資料を収集すること、データを作ることとはどういうことか。具体的な事例をもとに検討していく。また議会見学、裁判所見学なども取り入れていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	経済学概説	○	授業の前半では、市場における価格決定の理論について説明し、国際貿易等の問題について、市場均衡や余剰の概念を用いて考察する。授業の後半では、ゲーム理論について説明し、各国の貿易政策の問題等へのゲーム理論の応用や公共財供給の問題について説明する。また、行動経済学の基本的な概念についても学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	佐賀大学	社会学概説		講義では、社会学的なものの見方の基礎に親しんでもらうことを目標にしながら、社会とその中で生きる私たち自身について複眼的に考えるテーマを扱っていく。社会学をつうじて、「あたりまえ」から距離をとり、ふだんその中に（それを前提に）成り立っている学生自身の姿を再発見する。この講義は、そうした考察に向けて皆さんを案内するための「はじまりの地図」のようなもの。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	佐賀大学	社会学特講		私たちの生きている現代社会は、とても複雑で不透明です。この講義では、そんな現代社会と、その中に生きる私たち自身の姿を知るための方法（のひとつ）として、社会学的なものの見方・考え方を紹介・解説する。現代社会には、性急で過度な一般化（わかりやすさ）が溢れています。そのこと自体、現代社会の捉え難さ・不透明さの裏返しなのかも知れません。しかし「現実」の複雑さや奥行きは、私たちの常識も含めて、そうした「わかりやすさ」を一度疑ってみることの先にようやく見えてくる。そうした発見と思考のアップデートを皆さんに経験してもらうために、社会学の視点から具体的な社会現象・社会問題を取り上げつつ、講義を進めていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	地域社会学概説		産業化、都市化とともに大きく変化してきた地域について幅広く解説する。本講義では、農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について考察する力を養うことを目的とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	社会人間学特講		社会学的観点から現代社会の特性を捉え、論じることができることを目標として、社会学的観点から現代社会の構造と変容を講義する。まず社会学的な考え方を示し、次いでその考え方に基づいて現代社会とその「来し方行方」を考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	経済学特講		授業の前半では、はじめに経済学の考え方について説明し、その後、地方財政や地域経済の様々な問題について、経済学的な観点から説明する。授業の後半では、主に公共経済学や環境経済学における基本的な経済理論について説明する。経済社会における様々な問題への公共政策や環境政策について経済学的な観点から学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	経済学演習Ⅰ		ミクロ経済学の考え方を主なテーマとする。ミクロ経済学の考え方と分析手法について理解し、様々な経済社会問題について、ミクロ経済学の視点から考えることができるようになることを目標としている。授業では、主にミクロ経済学について学習し、また、応用として、行動経済学についても学習する。ミクロ経済学と行動経済学のテキストを輪読し、ミクロ経済学および行動経済学の考え方について学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	経済学演習Ⅱ		現代の経済社会問題の経済学的考察をテーマとする。現代の経済社会問題について学習し、経済学的な観点から問題の解決策を考察できるようになることを目標としている。授業では、各自興味のある経済社会問題に関連した既刊論文等について発表を行い、経済学的視点からの解決策について議論する。さらに、地域における公共政策についても議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	経済学演習Ⅲ		応用経済学と行動経済学の考え方を主なテーマとする。応用経済学と行動経済学の考え方について理解し、環境問題等の様々な経済社会問題について、応用経済学と行動経済学の視点から考えることができるようになることを目標としている。授業では、応用経済学と行動経済学のテキストを輪読し、応用経済学と行動経済学の考え方について学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	経済学演習Ⅳ		現代の環境問題の経済学的考察をテーマとする。現代の環境問題について学習し、経済学的な観点から問題の解決策を考察できるようになることを目標としている。授業では、各自興味のある環境問題に関連した既刊論文等について発表を行い、経済学的視点からの解決策について議論する。さらに、公衆衛生に関する政策についても議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	熊本大学	地域調査実習		熊本における環境政策と公共政策をテーマとする。熊本における環境政策と公共政策の現状と課題を理解し、今後の環境政策と公共政策について考えることができるようになることを目標としている。授業では、熊本における自治体の環境政策と公共政策に関して調査を行う。そして、熊本における今後の環境政策と公共政策について発表を行い、議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	佐賀大学	倫理学概説	○	過去の主要な哲学者たちの倫理思想と応用倫理学の諸分野について概説する。授業は基本的に講義形式で行うが、倫理的問題について双方向的な意見交換の機会も設ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	佐賀大学	哲学概説		哲学についての基礎的知見を獲得することを目標として、哲学の諸分野、哲学の歴史、および哲学の現代的諸問題について講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	佐賀大学	倫理学特講		この授業では、近現代の西洋倫理思想の流れを寛容論の観点から再検討する。グローバル化の進行する多文化社会においては、さまざまな差異をもつ人びとの間の交渉と共存の技法について、考えを深めておくことが大切である。そのためのヒントを代表的な哲学者の倫理思想のうちに探っていく。授業は基本的に講義形式で行うが、適宜、倫理的問題についてグループ・ディスカッションをする機会も設ける。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	熊本大学	応用倫理学概説		現代社会の諸問題に対し、近現代の代表的な倫理学理論（義務倫理学、功利主義、徳倫理学など）の考え方を適用し、多面的・多角的な考察や議論を行うことができるようになることを目標として授業を進める。現代社会の諸問題として、身近な倫理の問題、倫理と法の問題等を取り上げ、議論の状況を解説する。次いで、それぞれの問題についての意見交換を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	熊本大学	応用倫理学特論		人間の心や体のあり方に関係する多様な倫理的課題に対し、近現代の代表的な倫理学理論の考え方を適用し、多面的・多角的な考察や議論を行うことができるようになることを目標として授業を進める。具体的には、身体の改変・増強の問題、脳機能の調整・強化の問題等を取り上げ、議論の状況を解説する。次いで、それぞれの問題についての意見交換を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	佐賀大学	倫理学演習Ⅰ		この演習では、近現代西洋の代表的倫理学者の著作の抜粋を読み、彼らの提起する問題について考え、参加者全員で議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	佐賀大学	倫理学演習Ⅱ		この演習では、近現代日本の代表的倫理学者の著作の抜粋を読み、彼らの提起する問題について考え、参加者全員で議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	佐賀大学	倫理学演習Ⅲ		応用倫理学の諸分野の中から、特に生命倫理・環境倫理・社会倫理をとりまく諸問題を取り上げて、担当者の口頭発表に対して参加者全員でディスカッションする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	佐賀大学	倫理学演習Ⅳ		人類の長い歴史においては、宗教が倫理思想をはぐくむ土壌となってきた。それぞれの地域の倫理思想の特色を理解し異文化理解を深めるうえで、宗教に関する基礎知識は必要不可欠である。この授業では、世界の諸宗教に見られる倫理思想についてその概要を紹介し、参加者の議論を通して理解を深める。授業の中では、宗教と現代社会をめぐる問題についても考察する。授業は、テーマごとに、三つのプロセス（教員による概要の説明、文献購読、担当者による口頭発表とディスカッション）を繰り返す形で進行する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	社会科教育演習Ⅰ		小中学校社会科や高等学校社会系教科の基盤である社会科教育学の基礎知識を身に付けることを目標として、社会認識教育学会編『新・社会科教育学ハンドブック』を読み、報告し、議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	社会科教育演習Ⅱ		教科書を活用した社会科授業づくりの方法を身に付けることを目標として、小中学校社会科や高等学校社会系教科の教科書を活用して授業を開発する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	社会科教育演習Ⅲ		小中学校社会科や高等学校社会系教科における授業改善の方法を身に付けることを目標として、教育実習生や受講者自身の授業を観察・分析して、授業改善を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	社会科教育演習Ⅳ		小中学校社会科や高等学校社会系教科に関する高度な授業づくりの方法を身に付けることを目標として、授業づくりの現状を把握し、先行実践の特質と課題を整理して、その課題を克服する授業づくりに取り組む。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	社会科教育演習Ⅴ		社会系教科教育学の最新の文献講読を手がかりに、学界の研究動向を大まかに把握し、他者に伝えることの難しさ（授業の困難さ）を実感するとともに、その留意点を理論的・体験的に獲得することを目標として、「研究成果を他者に伝える」をキーワードに、新書、専門書、論文とハードルを上げていき、その内容を伝え、伝わったかを議論する過程で、その留意点を考える。転じて、授業をするうえで最も重要な要素（教師の教材研究の成果を自身とは大きく異なる他者【子ども】にわかりやすく伝えるための方略）の体得に努める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	社会科教育演習Ⅵ		先行研究分析を手がかりに、教科内容と教科教育の研究動向を大まかに把握し、教材研究の難しさ（授業づくりの困難さ）を実感するとともに、その留意点を理論的・体験的に獲得することを目標として、地域調査と文献調査の二つを中心に、授業づくりにおける教材研究の在り方に関する演習を行う。それぞれの調査を計画、実施、公表、相互検討、評価する過程で、その留意点を実践的に把握する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	社会科教育演習Ⅶ		把握した研究動向を踏まえ、中学社会・高校地理歴史科・公民科の授業づくり演習を行うにあたり、任意の教材（テーマ）を選択し、先行研究分析を手がかりに、教科内容と教科教育の研究動向を把握し、問いの構造化の難しさ（授業づくりの困難さ）を実感するとともに、その留意点を理論的・体験的に獲得することを目標として、授業づくりをキーワードに演習を行う。これまでの調査や演習の成果をどのように任意で組み合わせ、中学社会や高校地理歴史科における自らの選んだ教材（テーマ）に関するより優れた授業が作成できるか、その際の留意点などを実践的に把握・克服する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	社会科教育演習Ⅷ		中学校社会科・高校地理歴史科・公民科の指導案（教授書）を作成し、その難しさを実感するとともに、留意点を理論的・体験的に獲得する。作成した指導案（教授書）を模擬的に実践し、その成果と課題を踏まえ、再考することを目標として、Ⅶで作成した授業をひとまず実践し、その成果と課題を確認したのち、より優れた指導案（教授書）の作成をキーワードに演習を行う。これまでの調査や演習の成果をどのように任意で組み合わせ、自らの選んだ教材（テーマ）における非常に優れた提案性のある授業指導案（教授書）を作成・実践できるか、その際の留意点などを実践的に把握・克服する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	中等社会科教育特講（租税教育論）		第１～４回（藤瀬）：生徒の租税観の実態を踏まえた授業づくりに必要な基礎知識を学習する。 第５～９回（竹中）：税の歴史を題材にした中等歴史学習の授業を開発し模擬授業に取り組む。 第10～15回（藤瀬）：財政民主主義を題材にした中等公民学習の授業を開発し模擬授業に取り組む。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （36 藤瀬　泰司／10回）第1回～第4回、第10回～第15回を担当する。 （76 竹中　伸夫／5回）第5回～第9回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科の指導法		各大学	中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰ	○	第１～３回：学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校公民科の全体構造を学習する。 第４～９回：学習指導要領の下で行われている授業づくりの意義と課題を学習する。 第10～15回：教科書を主教材にした授業づくりの方法を学習し体験する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科の指導法		各大学	中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰ	○	本授業では、学習者の社会科観を再構築することを目的とし、外国等の事例などをもとに多様な実践・目標観を比較・検討する。そののち、自身の目標観に基づき指導案を作成・実施・再検討する演習を行う。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科の指導法		各大学	中等社会科指導法（社会・公民）Ⅱ	○	第１～15回：中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰの成果を踏まえて授業の分析や授業づくりに取り組む。 第１～７回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を学習する。 第11～15回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を活用する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科の指導法		各大学	中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅱ	○	本授業は中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰの応用である。前半は評価論の概説とそれに基づく自身の授業評価演習、後半は中・長期的カリキュラム・マネジメントの必要性と重要性に関する概説とそれに基づく中期的カリキュラム作り演習で構成している。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	代数学	佐賀大学	代数学基礎	○	行列や行列の演算に関する基本的事項から始め、行列の基本変形、行列を用いた連立一次方程式の解法、逆行列の求め方や行列式の計算などについて講義、演習を行う。また抽象的なベクトル空間を学ぶための準備として、数ベクトル空間の基底や次元について解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	代数学	佐賀大学	代数学序論	○	ベクトル空間、内積と直交性、行列の固有値と対角化についての解説及び演習を行う。様々な数学分野、物理学等の他分野へ線形代数学がどのように活用されているかについて学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	代数学	熊本大学	代数学概論	○	中学校、高等学校の算数・数学における代数教育に必要な整数論と代数系、特に初等整数論と群論を中心に代数学の導入を行い、数学的背景を理解することを目標とする。本授業は、代数学の基礎となる初等整数論と群論について扱う。整数についての基本的性質および群に関する基本的概念を理解する。様々な例や問題を通して、性質や概念をしっかりと身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	代数学	各大学	代数学講義	○	代数学の基盤となる群論と環論について扱う。群および環についての基本的性質および応用について理解する。様々な例や問題を通して、性質や概念をしっかりと身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	代数学	熊本大学	代数学特論	○	中学校、高等学校の算数・数学における代数教育に必要な代数系、特に体論について学ぶ。体の考え方を導入し、有限体・有理数の拡大体の概念を理解し、数学的背景を理解することを目標とする。 本授業は、代数学の基盤となる体論について扱う。体の定義から始めて、体の拡大・有限体などの体の基本的な性質を講義する。様々な例や問題を通して、性質や概念をしっかりと身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	幾何学	佐賀大学	幾何学序論	○	現代数学の言語である集合、写像について講義する。特に集合、写像、同値関係、濃度、順序関係などの重要項目について詳しく解説する。証明を中心に講義を展開していくが、何をどのような手順で示しているかを説明しながら進めていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	幾何学	熊本大学	幾何学概論	○	中学校、高等学校の算数・数学における図形教育に必要な図形や空間に対する感覚を養い、その数学的背景を認識することを目標とする。本授業は、現代数学において基礎となっている「位相」の概念について、その基本的事項についてユークリッド空間、および距離空間を中心に解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	幾何学	各大学	幾何学講義	○	現代の幾何学の中心の１つである微分幾何学の基本的事項について、曲線(平面曲線、および空間曲線)を題材に解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	幾何学	熊本大学	幾何学特論	○	教師に必要な素養のひとつである幾何学的な見方を習得するために幾何学の基礎を理解することを目標とする。本授業は、現代の幾何学の中心の１つである微分幾何学の基本的事項について、曲面論(ガウス・ボンネの定理等)を題材に解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	佐賀大学	解析学基礎	○	１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について解説する。微分積分が物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	各大学	解析学序論	○	１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について解説する。微分積分が物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	各大学	解析学概論	○	多変数関数の微分積分学、フーリエ級数論の基礎的な内容について解説する。それらが物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	各大学	解析学講義	○	微分積分学を深く理解するためにその論理的側面（諸定理の証明）について詳しく学ぶ。証明問題の演習も重視する。履修生が少数の場合は、彼らに黒板で諸定理等の証明を説明させ、その後で質疑応答を行うセミナー形式を（部分的に）取ることもあり得る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	熊本大学	解析学特論	○	中学校・高等学校の数学の教員として必要な素養を涵養することを目標に、解析学の基礎であるラプラス変換、フーリエ積分と複素関数論を学習することを目標とする。本授業は、社会・自然現象を記述する数理モデル（外力項がある微分方程式）を学習する。また、複素数の歴史と複素関数論を学習する。但し、受講生の習熟度に合わせて講義を進めて行く。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	確率論・統計学	佐賀大学	確率統計学基礎		統計的データを見る視点やデータを纏める方法を解説する。また、統計学ではデータの背後に確率モデルが設定されるので、統計的データを理論的に考察するには確率論の素養が不可欠である。確率についての基本的事項を丁寧に説明する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	確率論・統計学	熊本大学	確率統計学	○	中学・高等学校数学科における確率・統計分野の内容について授業を行う際に必要となる、記述統計や確率モデルの基礎を学習することを目的とする。基本的な確率・統計に関する知識や技能を身に付け、それらを実際の役立てるデータ処理に応用することができることを目標とする。本授業は、身近な統計的データを取り上げながら、実際のデータの収集法、データの整理の仕方、確率モデルなどの確率統計の基本的な知識について説明する。また、統計的推定・検定について解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	コンピューター	各大学	コンピュータ	○	Python、Scratchなどのプログラミング言語、Mathematica、SageMath、Sympy（Pythonのmodule）などの数式処理ソフトおよびlatexを用いたコンピュータ演習を行う。小学・中学・高等学校数学科、大学数学(微分積分学/線形代数学)の内容を中心に、実際に数値実験・プログラミングを行い、その問題と解法についての理解を深め、数学教育、成績処理等におけるコンピュータの活用法について考える。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （15 川中子　正／14回）第1回～第7回、第9回～第15回を担当する。 （94 大林　将呉／1回）第8回を担当する。	オムニバス（佐賀大学のみ）

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	コンピューター	熊本大学	応用数学特論		計算の原理やアルゴリズムなどの計算機科学の基礎としての数学について学ぶ。特に、集合・数え上げ・グラフ理論・グラフアルゴリズムを中心に、アルゴリズムを作るうえで基礎になる数学的背景について理解することを目標とする。本授業は、集合・数え上げ・グラフ理論・グラフアルゴリズムなどの、アルゴリズムを作るうえで基礎になる数学的背景について解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		佐賀大学	数学特論		受講者の理解度に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。 教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために、受講者に発表の機会を与える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		佐賀大学	数学研究Ⅰ		受講者の理解度に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。 教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために、受講者に発表の機会を与える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		佐賀大学	数学研究Ⅱ		受講者の理解度に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。 教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために、受講者に発表の機会を与える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		佐賀大学	数学教育学研究Ⅰ		受講者の理解度と興味関心に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。教員としての説明力や信念を身に付けさせるために受講者に発表の機会を与える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		佐賀大学	数学教育学研究Ⅱ		受講者の理解度と興味関心に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。教員としての説明力や信念を身に付けさせるために受講者に発表の機会を与える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科の指導法		各大学	中等数学科指導法Ⅰ	○	数学教育学の基礎的原理・方法について理解し、数学の教科としての存在意義についての認識を深めるとともに、具体的な授業構成のための基礎知識を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科の指導法		各大学	中等数学科指導法Ⅱ	○	中学校・高等学校数学科の学習指導に関して、学習指導要領に示された目的、内容を理解するとともに、基本的な学習指導理論をもとに、具体的な授業設計を行う。また、学習環境デザイン視点から、教材開発の資質・能力を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科の指導法		各大学	中等数学科指導法Ⅲ	○	中学校・高等学校数学科で指導される学習内容を概観し、それぞれの教材の背景的知識を理解する。また、単に教科書の内容を分かりやすく教えるということにとどまらず、生徒にとって望ましい学習環境のデザインという視点から、教材開発の資質・能力を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科の指導法		各大学	中等数学科指導法Ⅳ	○	中学校・高等学校数学科の学習指導に関して、学習指導要領に示された目的、内容を理解するとともに、基本的な学習指導理論をもとに、具体的な授業設計を行う。また、学習環境デザイン視点から、理解教材開発の資質を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	佐賀大学	基礎物理学A	○	1 理科離れの現状 ： 産業界と教育現場、学年進行（他教科との比較）、嫌いになる理由（小学校から潜在する理科離れ）、実験の功罪と本来の目的 2 現状打開への試み ： 現職教員の活動(物理サークルなど)、進学校と入試問題 3 生徒の先入観 ： 放物運動の例、運動量と力の混同、先入観の力学体系、力学的自然観、先入観を利用する教育（意志の力と体重計の実験など)、先入観を知っておく 4 教育の改善 ： 電流の誤概念(小学校で身につけ中学校で破綻する電流概念)、海外の研究、改善案(負担と効果)、授業担当者による工夫(授業方法の要点と教育効果)	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	熊本大学	基礎物理学B	○	進化の基本、自然選択、性選択、遺伝的浮動、有性生殖、分類、系統の各分野の基礎概念を解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	佐賀大学	物理学概論Ⅰ		1 力学の基本 ： 力と釣り合い、運動の表し方、運動の法則、簡単な運動 （力学の中心課題は、原因=受ける力によって結果=運動がどうなるか) 2 力学の展開 ： 保存則（力とその蓄積を区別する)、慣性力、剛体の力学（教育用実験器具の盲点) 3 熱 ： 熱と分子運動、熱機関	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	佐賀大学	物理学概論Ⅱ		1 波 ： 縦波/横波などの基本概念、弾性体振動の方程式(媒質イメージを確立する)、屈折などの波の諸性質、光は粒子か波か?(探求の歴史) 2 電荷と電場 ： 電気回路(抵抗/コンデンサ)、電場、電荷間力、電荷の保存(電流に関する誤概念) 3 磁気 ： 磁気に関する基本概念、電流と磁場、物質の磁性、 （補足）ベクトル解析とその応用 4 電磁気学の完成 ： 電磁誘導の法則、マクスウェルの方程式、コイルと変圧、電磁波 5 相対論への道 ： 光の媒質と絶対静止、特殊相対性理論、力学と電磁気の関係	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	熊本大学	物理学Ⅰ		小中高校の理科の教員にとって必要とされる力学の知識を身に付ける。力学の基礎的知識を習得し、質点系と剛体の運動に対しての演習問題も解けるようになることを目標として、微積分学を使い力学における質点と質点系と剛体の運動を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	熊本大学	物理学Ⅱ		小中高校の理科の教員にとって必要とされる電磁気学の知識を身に付ける。電磁気学の基礎的知識を習得し、電磁気学において基本的な演習問題についても解けるようになることを目標として、電磁気学の初歩からマクスウエルの方程式まで講義と問題演習を行う。電磁気学で使用するベクトル解析ついても講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	佐賀大学	エネルギー科学		序論 ： 学習指導要領、資源枯渇と文明崩壊 1 エネルギー資源 ： エネルギーの保存、エネルギー変換 2 気体分子運動論 ： 状態方程式、気体の変化、比熱、熱の移動、大気圧と高度 3 エントロピー ： エネルギーのリサイクル不可能性、エントロピーの定式化、断熱変化とエントロピー、熱機関（エントロピーから見る) 4 資源・エネルギー問題 ： エネルギー節約の物理的意味、将来のエネルギー需給、枯渇性エネルギー資源の見積もり	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	佐賀大学	量子物理		1 原子・分子 ： 原子・分子論、気体分子運動論 2 原子の構造 ： 電子の発見、原子核の発見 3 量子論への展開 ： エネルギー量子、光の粒子性、原子スペクトル、2つの新しい力学 4 量子力学 ： シュレーディンガー方程式、簡単な場合の解 5 波動関数の解釈 ： 確率解釈、確率解釈への反論、トンネル効果 6 量子力学の応用 ： テーマは受講者の興味に応じて選択	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	熊本大学	基礎物理学演習		物理学で必要とされる微積分の基礎を問題演習により習得する。後期の「物理学I」と「物理学II」で学ぶ運動の法則、マクスウエルの方程式などの理解につなげることを目標として、微積分を概説し演習問題を解く。物理学における数学の役割を理解できるようにする。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	佐賀大学	基礎化学A	○	物質を構成する粒子やその結びつき方など、物質の基本を講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（発展性）を意識させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	熊本大学	基礎化学B	○	「化学の基礎」をテーマに、中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭としての資質能力を培うことができ、化学の基礎概念を中心に化学の基礎的事項を説明することができることを目標としている。本授業は、物質を構成する粒子、原子構造とその安定性、元素の性質の周期性を中心に化学の基礎概念を修得するとともに、身近な物質を化学の視点で捉えて、現代社会における化学の重要性について展開して講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	佐賀大学	化学概論Ⅰ		物質の状態及び物質の変化について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	佐賀大学	化学概論Ⅱ		物質の変化について講義する。「化学 Ⅰ」の「物質の変化（入門編）」の回の詳細編である。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	熊本大学	化学Ⅰ		「一般化学」をテーマに、中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭としての資質能力を培うことができること、原子の構造と性質をもとに化学を理解することができること、原子の性質と周期性に基づいて、多種多様な物質が形成されることを説明できること、物質の物理的・化学的性質と化学反応について、これらの事象が原子の特性と挙動に起因していることを説明できることを目標としている。本授業は、原子の構造を丹念に取り扱い、その理解に基づいて、化学結合、物質の構造、物質の相転移、物質の状態変化とそれらの性質、化学反応速度論、化学平衡、酸と塩基、酸化と還元について講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	熊本大学	化学Ⅱ		中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭として固体化学を通じて資質能力の専門性を向上することができることを目標としている。本授業は、多様な物質群における固体を構成する元素とその化学結合の特性に基づいて、個々の物質に特徴的な構造と性質について講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	佐賀大学	物理化学		無機物質について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	佐賀大学	無機・有機化学		有機化合物及び高分子化合物について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。有機化合物及び高分子化合物については、小学校と中学校において扱う内容は少ないので、生活の中で多く触れる（身近に存在する）物質を主に講義する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	佐賀大学	基礎生物学A	○	ヒトを中心とする生物の体のつくりと機能について、高校生物を未履修のものでも理解できるようやさしく通説してゆく。この講義を通して、ヒトを中心とした動物の構造や機能は必然性を持っていることを理解し、巨視的、体系的に生物学を理解して欲しい。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	熊本大学	基礎生物学B	○	進化の基本、自然選択、性選択、遺伝的浮動、有性生殖、分類、系統の各分野の基礎概念を解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	佐賀大学	生物学概論Ⅰ		生物の基本的なしくみとはたらきを高校生物の内容を交えながら、高校生物を未履修のものでも理解できるようやさしく通説してゆく。個体の大小や組織での機能に関係なく、細胞は生物を構成する基本単位である。その細胞がどのような構造を有し、いかに機能し個体を維持しているかについて講義する。この講義を通して、ヒトを含んだ様々な生物の構造や機能は必然性を持っていることを理解し、巨視的、体系的に生物学を理解して欲しい。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	佐賀大学	生物学概論Ⅱ		動物は、外部環境の変化を瞬時に判断し適切な行動をおこなう。これには、それぞれの生活環境に適応した多彩な感覚受容器及び、その情報を伝える神経細胞が重要な働きをしている。この講義では、ヒトを含む様々な動物の神経系及び受容器に焦点を当て、動物の体の巧妙なしくみについて深く理解させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	熊本大学	生物学Ⅰ		生態学の基礎概念、物質循環、生態系でのエネルギーの流れ、捕食関係、物質循環、環境DNA、生物多様性、絶滅危惧種、環境保全についての概念を習得し、身近な熊本県での事例を交えてそれらを説明できることを目標とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	熊本大学	生物学Ⅱ		生殖、発生、生物地理、地球温暖化、系統の各分野の基礎概念を習得し、身近な熊本県での実例を交えて、それらを説明できることを目標とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	佐賀大学	生命科学		動物生理学分野の実験手法や実験データを理解するすべを講義、トレーニングする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	佐賀大学	理科フィールド演習A		野外実習を行い、講義で学修したことを野外で体験させ、生物や地学の専門性を高める。地学と生物を同時に行うことで、領域を跨いだ学修を行う。また、野外実習をとおして集団行動や協調性、コミュニケーション能力の向上を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	佐賀大学	基礎地学A	○	中学校や高校教員（理科）として基礎的な内容を講義する。（1）はじめに地球の形と重力、地磁気について説明し、地震波と地球の層構造の関係について講義する。（2）（1）を踏まえて、プレートの運動によって、火山や地震が起きることを講義する。（3）はじめに太陽系に最も影響を及ぼす太陽の構造や特徴について説明し、次の太陽の周りを公転する各惑星の特徴を説明する。太陽系の恒星や惑星の特徴を踏まえたうえで、他の惑星と地球との違いを理解させる。 （4）地球を取り巻く大気圏の構造について説明し、対流圏で起こる雨や低気圧、台風などの身近な気象現象の仕組みについて理解させる。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （5 角縁　進／3回）第1回～第3回を担当する。 （59 髙島　千鶴／4回）第4回～第7回を担当する。 （5 角縁　進・59 髙島　千鶴／1回）（共同）第8回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	熊本大学	基礎地学B	○	中学校や高校教員（理科）に必要とされる基礎的な内容を講義する。はじめに（1）では、岩石サイクルの中で岩石の分類を講義し、（2）では、地層の層序の原理や堆積物の特徴と、堆積構造や地殻変動による構造について講義し、（3）では、化石化作用や化石の特性と地層から判読できる地殻変動や気候変動の事例を講義する。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	佐賀大学	地学概論Ⅰ		中学校や高校教員（理科）として基礎的で必要な内容を講義する。(1)は地球の形成過程とそれによる地球の形、大きさ・内部構造などについて講義を行う。(2)はプレートテクトニクスの３つの境界と、そこで生じる地質現象を講義する。(3)鉱物の結晶構造について理解し、マグマと火山噴火との関係・火山災害について講義する。(4)地震活動について	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	佐賀大学	地学概論Ⅱ		中学校や高校教員（理科）として基礎的で必要な内容を講義する。(1)は大気と海洋の構造や運動を踏まえ、大気と海洋との間に起こるエネルギー循環を理解させながら、気象現象について講義する。(2)は地球誕生から順に追って、現在までの環境変遷と生物進化の関連性に焦点を当て講義を行う。(3)は(1)と(2)を講義したうえで、地球環境問題を取りあげ、科学的な説明をして、解決策等を考えさせる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	熊本大学	地学Ⅰ		中学校や高校教員（理科）に必要とされる基礎的な内容である固体地球のはたらきと環境変動について理解し、熊本県の地質の特性と関連付けて説明できるようになることを目標としている。 本授業は、（１）地球環境の概要、（２）固体地球のはたらきと関連する熊本県内の地質事象について解説し、（３）地球環境の変動と生物進化について、熊本県の地質と化石とを関連付けながら講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	熊本大学	地学Ⅱ		本授業では、地球と生命の共進化、生物の大量絶滅、地殻変動と生物進化の関係と私たちに最も身近な生物である脊椎動物の起源と進化について説明できるようになることを目標として、中学校や高校教員（理科）に必要とされる基礎的な内容として（1）地球の環境の変化で引き起こされる大量絶滅や生物の応答について解説し、（2）脊椎動物化石の実例や調査方法にも触れながら、化石に基づく脊椎動物の起源と進化について講義する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	佐賀大学	地球科学		（１）鉱物学と岩石学の基礎からマグマの生成過程や多様性について講義する。（２）「気候変動と生物進化」についてより専門的な内容と最新の研究結果を交えながら講義する。太陽系の中で現在唯一生命が確認されている「地球」の特異性を説明し、地球と生命（微生物～人類まで）が、どのように相互作用してきたかを講義する。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （5 角縁　進／6回）第1回～第6回を担当する。 （59 髙島　千鶴／9回）第7回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	佐賀大学	理科フィールド演習B		野外実習を行い、講義で学修したことを野外で体験させ、地学や生物の専門性を高める。地学と生物を同時に行うことで、領域を跨いだ学修を行う。また、野外実習をとおして、集団行動や協調性、コミュニケーション能力の向上を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	佐賀大学	基礎物理学実験	○	1 誤差と近似 ： 誤差論、測定誤差の見積もり、有効数字、近似、ノギスと副尺 2-1 力学実験器具と回転運動 ： 斜面を転がる物体、剛体振り子 2-2 電磁誘導 ： 速度や磁力などと起電力の関係、変圧 2-3 太陽電池の特性 ： 基本的性質、電流-電圧特性、化学電池・ダイオードとの比較 2-4 真空放電と断熱変化 ： 水の凝固、圧力-温度測定(熱単元の実験の困難性)、真空放電 3 作成を伴う実験 ： 簡易分光器の作成、電子回路の作成 など 4 挑戦的テーマ ： 先輩が取り組んでいない、又はその先のテーマに取り組む	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	熊本大学	物理学実験A	○	これまでの講義の内容を実験により実感し、物理学の理解を深める。さらに、物理学実験に対する基本的な技術を習得し、教育実習での研究授業の準備を自立してできるようになることを目標としている。本授業は、力学、電磁気学、音などに関して、小中学校理科に関連する実験を少人数のグループで行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	熊本大学	物理学実験B		これまでの講義の内容を実験により実感し、高度な内容の物理学の理解を深める。さらに、物理学実験に対する基本的な技術を習得し、教育実習での研究授業の準備を自立してできるようになることを目標としている。本授業は、力学、電磁気学、光、量子力学などに関して、小中学校理科に関連する実験や、高等学校の基礎物理に関連する実験を少人数のグループで行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	佐賀大学	基礎化学実験	○	初等・中等教育段階で行われる化学実験を体験させ、初等・中等教育段階の水準以上の実験操作を体験させ、実験時に要される技能を気付かせる。小学校・中学校および高等学校で行われる実験に要する技能水準と比較しつつ、その関連性及び発展性に気付かせ、熟達への意欲を醸成する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	熊本大学	化学実験A	○	本授業は、小学校および中学校理科の化学領域における基礎知識を習得するために、試薬の安全な取り扱い方および実験廃棄物の適切な処理について学習する。また、各種実験器具の取り扱い方について学ぶとともにそれらを利用した実験基本操作についても学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	熊本大学	化学実験B		本授業は、無機化学、分析化学および物理化学に関わる基礎的な実験方法を身に付けるため、酸塩基滴定、酸化還元滴定、吸光光度分析、反応速度解析、クロマトグラフィーを取り上げ、コンピュータを使用した実験データの適切な処理と解析を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	佐賀大学	基礎生物学実験	○	実験観察を通して自信を持って小・中・高の学校現場における生物実験を実施できるようにする。初等・中等教育の生物実験指導能力を身に付ける。小、中学校および高等学校での学習内容に関する実験を主に扱う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	熊本大学	生物学実験A	○	身近な自然観察、昆虫採集、昆虫標本作成を通じて、生物の幅広い分類群についての理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	熊本大学	生物学実験B		身近な自然観察を通じて、動物、植物の幅広い分類群についての理解を深める。博物館、動植物園等の社会教育施設を見学し、学校教育での活用法を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	佐賀大学	基礎地学実験	○	地学に関する実験・実習を行なう。主に小学校・中学校・高校で行う実験や観察を扱い、その際に方法や観察のポイントや実験における安全面での注意点を説明する。また、実験器具の扱い方や管理の仕方についても説明する。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （5 角縁　進／7回）第1回～第7回を担当する。 （59 髙島　千鶴／8回）第8回～第15回を担当する。	オムニバス

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)		教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	熊本大学	地学実験A	○	小中学校理科地学分野の授業実践の基礎となる実験・観察を適切に行うことができ、科学的なデータの取り扱いや論理的な文書作成ができるようになることを目標としている。本授業は、野外や室内において地質学分野の基礎的な実験・観察を実施し、調査観察器具の適切な操作法を習得するとともに、地質学的事象の見方、考え方を学ぶ。また、実験・観察の結果をレポートにまとめ、科学的文書の作成技能の向上を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)		教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	熊本大学	地学実験B		小中学校理科地学分野の学習に必要な実験観察の技能などを習得した上で、学校現場で活用できる地学関連の実践的な教材開発を自主的に行うことができることを目標としている。本授業は、野外や室内において地質学や天文学の分野の基礎的な実験・観察を実施し、調査・観察器具の適切な操作方法等を習得するとともに、 地質学的事象の見方、考え方を学ぶ。 また、実験・観察の結果をレポートにまとめ、科学的文書の作成技能の向上を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		熊本大学	理科基礎研究		本授業では、卒業研究で必要となる専門分野の基礎的理論および研究遂行に必須となる基礎的技能を身に付けることができるようになることを目標としている。 卒業研究の専門分野において必要な基礎的知識とその応用およびICT活用、情報処理、プログラミング、文献調査、課題設定、実験操作をはじめとする研究遂行に必須となる基礎的技能に関して講義と演習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)		教科の指導法		各大学	中等理科指導法Ⅰ	○	中等理科教育に関する目的論、カリキュラム論、学習指導方法論、自然認識論、評価論等の各領域について概説する。また、実際の授業実践を想定し、具体的な理科の学習内容についても取り上げていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)		教科の指導法		各大学	中等理科指導法Ⅱ	○	中等理科教育法の教材研究から授業構想までのアプローチを各論的に取り上げて説明を行い、その内容に関する理解を演習的な活動で深める。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)直子／2回）（共同）第1回、第15回を担当する。 （61 飯野(金柿)　直子／2回）第10回～第11回を担当する。 （42 渡邉　重義／11回）第2回～第9回、第12回～第14回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)		教科の指導法		各大学	中等理科指導法Ⅲ	○	指導法の理論や学習者の自然認識、評価、ＩＣＴ活用など、中等理科教育法１および2での学修を踏まえて教材研究や授業作りを行い、模擬授業や授業提案を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)		教科の指導法		各大学	中等理科指導法Ⅳ	○	中等理科教育における授業実践について、教材の特性や指導法の理論、学習者の自然認識、評価方法、ICT活用などの観点から分析・評価する。また、授業実践の省察などを通して、学習構想、指導支援の方策の提案、教材作成、模擬授業などを行う。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)直子／5回）（共同）第1回、第12回～第15回を担当する。 （61 飯野(金柿)　直子／2回）第10回～第11回を担当する。 （42 渡邉　重義／8回）第2回～第9回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)		教科の指導法		熊本大学	理科教育実践入門		中学校理科教材の分析を行い、理科授業実践に必要な知識や技能を的確に抽出し、理科教育実践の授業記録の視聴を通して、教える立場と学ぶ立場から授業観察を行い、理科教材研究を実施し、自分の学びのプロセスを適切に考察することができることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)直子／9回）（共同）第1回、第8回～第15回を担当する。 （61 飯野(金柿)　直子／3回）第4回～第6回を担当する。 （42 渡邉　重義／3回）第2回、第3回、第7回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	各大学	ソルフェージュ基礎	○	音高、音価、リズムの把握等について、視唱や聴音（旋律・和声等）の課題を含む様々な課題を通じて、教育活動や演奏の場面に活かせるソルフェージュ力をバランスよく養う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	佐賀大学	ソルフェージュ応用A	○	新曲視唱（テノール記号・アルト記号を含む）、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々な調性によるカデンツ奏などの課題を与え、さらに高いソルフェージュ力をバランスよく身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	熊本大学	ソルフェージュ応用B	○	ソルフェージュ力及び読譜能力の向上。コードネーム、数字付低音、簡易な伴奏付け、スコア・リーディングの実習を通して、教育現場に活用させ得るソルフェージュ力を修得することを目標として、コードネーム、数字付低音の基礎を学習し、それに基づいた簡易な伴奏付けを実習する。スコア・リーディングの基礎を学習し、総合的なソルフェージュ力を向上させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	佐賀大学	ソルフェージュ展開Ⅰ		新曲視唱（テノール記号・アルト記号を含む）、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々な調性によるカデンツ奏などの課題を与え、ソルフェージュ力をバランスよく高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	佐賀大学	ソルフェージュ展開Ⅱ		新曲視唱、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々なハ音記号による読譜課題を与え、ソルフェージュ力をバランスよく高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	各大学	声楽基礎Ⅰ（伝統的な歌唱を含む）	○	音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する為、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （93 小村　朋代／13回）第1回～8回、第11回～15回を担当する。 （463 林　直子／2回）第9回～第10回を担当する。）	オムニバス（佐賀大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	佐賀大学	声楽基礎Ⅱ	○	発声の基礎を引き続き学びつつ、コンコーネ・イタリア歌曲集の教材を用い、言葉の発音や音楽的な表現について学びを深める。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	熊本大学	声楽基礎Ⅲ	○	西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する為、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	佐賀大学	声楽展開Ⅰ		声楽作品を演奏するための基礎的な知識と技術の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げることを目標として、声楽の基礎力を身に付けるため、イタリア歌曲集１・２を教材に用い指導を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	熊本大学	声楽基礎Ⅳ		西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。ドイツ歌曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	佐賀大学	声楽展開Ⅱ		声楽作品を演奏するための基礎的な知識と技術の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げることを目標として、声楽の基礎力を身に付けるため、イタリア歌曲集１・２を教材に用い指導を行う。目標として、声楽の基礎力を身に付けるため、イタリア歌曲集１・２を教材に用い指導を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	熊本大学	声楽基礎Ⅴ		日本歌曲における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。日本歌曲と歌唱共通教材の日本歌曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。また、ピアノ弾き歌いもおこなう。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	佐賀大学	声楽展開Ⅲ		日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえつつ演奏する力を養うことを目標として、日本歌曲を中心に指導を行い、日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえた上での演奏を実践出来るようになる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	熊本大学	声楽実技Ⅰ		西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。前期ロマン派の曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	佐賀大学	声楽展開Ⅳ		日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえつつ演奏する力を養うことを目標として、日本歌曲を中心に指導を行い、日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえた上での演奏を実践出来るようになる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	熊本大学	声楽実技Ⅱ		西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。後期ロマン派の曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	佐賀大学	声楽展開Ⅴ		声楽作品を演奏するための基礎的な知識の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げることを目標として、作品解釈などのディスカッションを重ね、より良い演奏実現に向け指導する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	佐賀大学	声楽課題研究		音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中でも唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、様々な曲の歌唱における表現の幅を広げ、自分なりの考えを持って演奏出来るようになること。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	各大学	合唱	○	合唱の基本的な知識や発声法・表現法を身に付けることを目的とする。またアンサンブルにおける表現の向上を目指し、楽曲の練習から完成までの実践的な過程を学ぶ。また、合唱曲におけるピアノ伴奏についても学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	各大学	ピアノ基礎Ⅰ	○	正しい読譜力・演奏技術の基礎を学ぶ。音楽の知識を修得し表現技術へ結びつけ、演奏に反映できることを目標として、ピアノを演奏する上での正しい指の基本動作を身につけ、技術・表現の基礎力を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	ピアノ基礎Ⅱ	○	読譜力・演奏技術の基礎を習得し、音楽の知識を表現技術へ結びつけ、演奏に反映できることを目標として、練習曲を中心課題とし、ピアノを演奏する上で必要な技術の基礎力を強化し、表現基礎を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	熊本大学	ピアノ基礎Ⅲ	○	ロマン派の作曲家のソナタ、及び他の作品を通して、音楽を表現するための演奏技術を学ぶと同時に、楽曲分析能力をつけるための方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	ピアノ展開Ⅰ		読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。さらに、技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できることを目標として、古典派作品を中心とし、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力について考察する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	熊本大学	ピアノ実技Ⅰ		ロマン派の楽曲を通して、ピアニスティックな演奏技術の習得と楽曲分析能力を向上させる。高度な演奏技術を要する楽曲を流暢に弾くことができ、楽曲の構成を理解できることを目標として、ロマン派の作曲家によるソナタ及び他の作品を通して、音楽を表現するための演奏技術を学び、楽曲分析能力をつけるための方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	ピアノ展開Ⅱ		読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。身体の使い方の変化を学ぶため、ロマン派作品を中心課題とする。ピアノを演奏する上で必要な技術基礎力を高め、ロマン派の幅広い表現手法へ反映できるようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	熊本大学	ピアノ実技Ⅱ		近代に作曲された様々な作品を通して、ピアニスティックな演奏技術の習得と楽曲分析能力を向上させることを目標として、フランスやロシアの近代の作曲家の作品にふさわしい演奏様式と解釈を学ぶ。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	ピアノ展開Ⅲ		読譜力・演奏技術の基礎を応用し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。さらに、技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映することを目標として、ピアノ協奏曲を中心に学ぶ。アンサンブルソリストとしての解釈により、音楽全体を捉える技術、聴覚、表現について考察する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	熊本大学	ピアノ実技Ⅲ		様々な作品を通してピアニスティックな演奏技術に習熟し、高度な演奏様式を身に付ける。演奏解釈に必要な楽曲分析の能力を高めることを目標として、各受講生が課題曲を選定し、それぞれの楽曲にふさわしい表現を様々な演奏技術と知識を駆使して楽曲の演奏に反映する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	ピアノ展開Ⅳ		読譜力・演奏技術の基礎を応用し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。これまでの技術と表現の結びつきを客観的に捉え、ロマン派後期～近現代作品を課題とし、文化の発展による楽器や演奏手法の変化を学び、幅広い演奏表現に対応できる音楽技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	熊本大学	ピアノ実技Ⅳ		規模の大きな作品を通してピアニスティックな演奏技術に習熟し、高度な演奏様式を身に付ける。複雑な楽曲の演奏解釈に必要な楽曲分析の能力を高めることを目標として、各受講生が課題曲を選定し、それぞれの楽曲にふさわしい表現を高度な演奏技術と知識を駆使して楽曲の演奏に反映する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	ピアノ展開Ⅴ		読譜力・演奏技術を発展させ、舞台での演奏表現を学ぶ。各時代様式の表現理解と特性から、舞台構成を視野に入れた課題を選曲する。基本的な音楽技能を展開し、人前での演奏表現手法を身に付ける。総合的知識を深めながら、ピアノの演奏技術、表現技術、楽曲分析力を高め、卒業演奏に向けて音楽技能の応用力を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	ピアノ課題研究		読譜力・演奏技術を発展させ、楽曲分析から演奏技術への反映、音楽表現に必要な客観性へ結びつけることができる。専門性の高い音楽教員としての音楽技能を習得することを目標として、卒業演奏に向けて、舞台表現にふさわしい個々に適した作品を課題とし、卒業論文により学術的な知識を深めながら演奏表現に結びつけ、総合的に音楽技能を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	各大学	器楽基礎（和楽器を含む）	○	リコーダーの歴史、用いられた時代の演奏様式について学び、様々な様式、ジャンルの音楽の実習を行う。また、日本伝統楽器として琴、三味線等について広く学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （11 今井　治人／10回）第1回～第10回を担当する。 （463 林　直子／5回）第11回～第15回を担当する。	オムニバス（佐賀大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	器楽展開		楽器奏法を習得する過程から器楽指導の実践で必要な知識・技能を身に付けることを目標として、各種リコーダーによる重奏の課題を通じて、器楽指導における実践的な知識・技能の演習をする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	日本伝統音楽実習		日本伝統音楽を習得し、学校教育現場で実際に実技指導を伴う授業を実現することを目標として、三味線を使い、童謡から長唄まで実技を体験し、日本伝統音楽の基本を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	器楽特別演習		器楽奏法の学修を深め、技術と表現を両輪とする器楽指導の実践で必要な知識・技能を身に付けることを目標として、受講生の演奏技術の向上に資するとともに、器楽指導における実践的な知識・技能の演習をする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	音楽実践課題研究		授業で培った演奏や研究への多様な視点を用いて自らの力で演奏や研究成果を構築できることを目標として、指揮・器楽の課題研究である。課題曲について技術と知識の両面から考察を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	各大学	合奏	○	合奏の指導に必要な知識と技能を身につけ、指導に生かすことができることを目標として、楽器演奏を通して合奏の方法を学び、合奏指導で活用できる実践的な知識と技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	各大学	伴奏法演習Ⅰ	○	ピアノ伴奏の基礎知識、基礎技術を修得する。さらに、音楽全体を捉えることを目標として、音楽教員の授業展開に必要なピアノ伴奏の基礎技術や、主に学校教材の中の作品を取り上げ、楽曲全体の理解力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	佐賀大学	伴奏法演習Ⅱ		ピアノ伴奏の知識、応用技術を修得する。さらに、音楽全体を捉えることを目標として、音楽教員の授業を幅広く展開できるピアノ伴奏における様々な技術を学ぶ。楽器や形態の違う作品を取り上げ、楽曲全体の理解力や表現、鑑賞能力を高め、伴奏に反映する技術を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	指揮法	佐賀大学	指揮法Ⅰ	○	音楽的な意図を明確に伝えるための基礎的な指揮法を身に付けることを目標として、ピアノを使った演習を行い、基礎的な段階から応用段階に至る指揮の技法について解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	指揮法	佐賀大学	指揮法Ⅱ		音楽的な意図を明確に伝えるための基礎的な指揮法を身に付けることを目標として、ピアノ連弾を使った演習。スコアリーディングの習熟と共に応用段階の指揮法について解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	音楽理論A	○	データベース、レファレンス資料の使い方、そして先行研究を調べ、自らの興味や問を自ら解決する手法を身に付ける。そしてそれらを通して音楽研究、分析法を学ぶことを目標として、レファレンス資料、データベースの使い方、学術論文の仕組み、レジュメとパワーポイントの使い方を学び、多様な音楽に関わる専門研究について理解を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	佐賀大学	音楽基礎理論	○	音楽の基礎理論を理解し、読譜における基礎知識を習得する。基本的な楽曲分析ができることを目標として、基本的な楽譜上の理論を学び、楽曲分析や読譜における基礎力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	音楽理論BⅠ	○	音楽教育に必要な西洋音楽の基礎理論、和声法を学習し、音楽の知識と理解を深めることを目標として、和声理論の講義をもとに、和声課題を実施し、その実践力を確認する。各種楽曲の和声分析を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	音楽理論BⅡ		音楽理論を通して調性感覚、和声感覚を高め、課題実習を通して理論を習得することを目標として、ドミナント諸和音、借用和音の進行法を学習する。バス課題およびソプラノ課題の実施を通して理論に習熟し、知識を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	音楽史Ⅰ	○	世界各地の音楽の役割を理解したうえで、西洋と世界の各時代の様々なトピックを学ぶことを目標として、「音楽」の総体から、一部が抜き出されて「歴史」とされたその「一部」の西洋と世界の音楽、および取りこぼされてきた音楽について、それぞれ理解を深める。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	音楽史Ⅱ		通史の一部となる西洋音楽の個別ジャンルの形成と展開を、具体的なトピックを通して学ぶことを目標として、シンフォニー、オペラを中心に、ジャンルの形成、展開を多角的に検討する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	作曲法	○	音楽教育に必要な西洋音楽の基礎理論、和声法を学習し、知識と理解を深める。楽曲の和声分析や非和声音の分析を通して楽曲の読譜力を高めることを目標として、和声理論の講義をもとに、和声課題を実施し、実践力を身に付ける。各種楽曲の和声分析や非和声音の分析を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	作曲演習Ⅰ		楽器学・管弦楽法の基礎を学び、編曲実習を通して楽器を活かした書法を磨く。様々な作曲家の様式を学習し、各種様式を模した作曲実習を行い、音楽理解力を高めることを目標として、様々な作曲家の様式による作曲実習を行う。短いピアノ曲を小編成（二重奏から三重奏）のアンサンブルに編曲する実習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	作曲演習Ⅱ		管弦楽の楽器の特性や書法を深く理解し、作曲に活かす。楽曲の形式や構成を工夫し、創作主題をもとに小編成の楽曲を作曲し、創造的な音楽性を高めることを目標として、管弦楽の楽器の特性や書法、主題の創作や展開、変奏法について学習する。創作主題に基づき、形式・構成を感じさせることのできる楽曲の作曲実習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	音楽学演習Ⅰ		音楽学の諸課題について理解を深めることを目標として、音楽学の中心的課題である楽譜校訂について学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	熊本大学	音楽学演習Ⅱ		音楽文化に関わる諸課題（西洋、諸民族、日本、ポピュラー）について理解を深めることを目標として、音楽文化学領域の様々な対象、研究手法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	佐賀大学	日本・民族音楽概説	○	日本の伝統音楽の代表的な種目とその成立過程、音楽美のあり方や表現様式の特徴などを全般的に理解することを目標として、日本の伝統音楽の代表的な種目と、関連するアジアの諸芸能の例について、歴史の流れに沿って概説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科の指導法		各大学	中等音楽科指導法Ⅰ	○	音楽の指導法について歴史を含め多様な指導の在り方を理解するとともに、内容および方法の検討を行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに音楽科の指導法について検討する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科の指導法		各大学	中等音楽科指導法Ⅱ	○	音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科の指導法		各大学	中等音楽科指導法Ⅲ	○	音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科の指導法		各大学	中等音楽科指導法Ⅳ	○	自身で設定した指導における課題を文献によって探究し、音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献および実践資料を通して指導についての理解を深めるとともに、それをいかした授業を構想し、実践することができる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	熊本大学	絵画基礎Ⅰ	○	絵画のデッサンと映像メディア表現の基礎技能・表現力習得することを目標として、様々なモチーフを単色で描写する。作品制作に取組、社会的制作発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	熊本大学	絵画基礎Ⅱ		絵画表現に慣れ親しみ、基礎的水彩技法・制作法を習得することを目標として、水彩画材の基礎を学び、様々な描画材に慣れ表現し、社会的発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	熊本大学	絵画演習Ⅰ		静物モチーフ描写、人物モデル描写を通して自己の構想的絵画表現ができることを目標として、様々な描画材を用いて、静物画、人物画による絵画制作課題に取り組む。画面作り計画を理解する。素材、色彩、バランス、プロポーションの理解を進め絵画制作を行い学外発表する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	熊本大学	絵画演習Ⅱ		テーマを設定、制作し、具象・抽象表現を理解し、自己表現を研究することを目標として、風景画を制作する。自然の中で五感を生かし、具象的表現、抽象的表現について計画を立て制作・作品発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	熊本大学	絵画演習Ⅲ		絵画における異素材表現研究を行い、コラージュ、版等による制作及びデジタル活用による絵画制作が出来ることを目標として、版を使った絵画表現と、デジタル素材（印刷を含む）活用による絵画表現の発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	彫刻	各大学	彫刻基礎	○	彫刻芸術に講義・演習によって多角的にアプローチすることで、自分の表現や他人の表現を多角的に見る力を養う。彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を具体的な講義と演習によって理解する。彫刻を言語化するための基礎知識を学び、粘土、石膏、木材を使った演習を行う。知識を学び、言語化することで記録に残る彫刻作品の道筋を理解し、材料体験や技法体験を通じて、記憶に残る彫刻作品への道筋を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	彫刻	佐賀大学	彫刻演習		授業２コマ180分間、毎回受講者が二人組となりお互いにモデルをしながらモデリングを進行し、1回、又は２回の授業で完成を目指す。制作にスピード感が必要。教員は塑造による頭像の制作の手順や技法を解説し、実習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。１０回目以降は作品の石膏どりを行う。作品は毎回写真で記録を残し、講評の時に過去作品と比較して自分の成長を振り返る。受講者は作品の写真と、石膏どりをした「頭像」を最後に提出する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	デザイン	佐賀大学	デザイン基礎Ⅰ	○	CGアプリケーションの基本的な使用方法を学ぶ。ポスター制作を通し、デザイン的な思考の基礎を学ぶ。言語を視覚化しコミュニケーションのための媒体としてイラストレーションポスターを制作する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	デザイン	佐賀大学	デザイン基礎Ⅱ		架空の商品のロゴの制作を通し、基本的な技能を習得し、デザインの基本についての理解を深めデザイン教育の基本的な能力を培うタイポグラフィーの基本的な理解を深める。 ショート動画制作を通し、映像制作の基礎を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	デザイン	佐賀大学	デザイン演習Ⅰ		絵本制作を通し、デザイン的な思考の基礎を学ぶ。文字等を含み応用する。言語を視覚化しコミュニケーションのための媒体として絵本を制作する。タイポグラフィーの基本的な理解を深める。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	デザイン	佐賀大学	デザイン演習Ⅱ		本授業では、実技制作を通してイメージする力や発想力の向上をはかる。また、学校現場では生徒作品の記録撮影が必要になるため、適切な記録方法やICT機器を使用したポートフォリオ制作方法についても習得する。映像メディア表現では、学校現場での指導を想定した映像作品の制作方法について学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	デザイン	佐賀大学	デザイン演習Ⅲ		現在住んでいる地域の魅力を県外に向けてPRするための広報物の制作を行うことで、地域の魅力をより深く知り、広報を通じて第三者へ効果的に伝達する方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	工芸	熊本大学	工芸基礎	○	自然素材との関わりを通して立体造形の基礎技能を養う。また、学校教材としての工芸について考察することを目標として、制作実践が中心であるが、ここで獲得する技術、技能は個人制作の表現的力量を上げると同時に、工芸教育実践指導力を向上できる内容とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	工芸	各大学	工芸演習		「工芸演習Ⅰ」では応用的美術表現を中心に行っていく。すなわち自己完結型の表現活動を越えて他者との関わり（造形的コミュニケーション）を意識した制作活動となる。具体例としては「アートミュージアムショップ商品開発」の課題を設け、アート・商品・消費者（購買者）の複合的視点からより良い作品（架空の商品）の企画から制作までを実施できるようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	美術理論・美術史	各大学	美術史概論	○	古今東西のさまざまな造形作品、資料を題材にして、さまざまな角度から美術史・文化史について教えます。具体的には、スライドやyou tubeを使ってさまざまな作品を見せながら授業を進めます。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		各大学	造形実践演習		造形表現の諸領域について、概説と演習を通じて理解を深めるとともに、それらの内容と教育実践とを接続しながら学修を進めることで、教材開発能力を高めていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科の指導法		各大学	中等美術科指導法Ⅰ	○	本講義では、A表現に関わる中学校美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教科の歴史、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿ったA表現の授業について、指導計画を立案し短時間の模擬授業（デジタル機器やタブレット端末等のICT機器を適宜活用）を行うことで、授業方法の専門知識・技術を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科の指導法		各大学	中等美術科指導法Ⅱ	○	美術科教育の内容や教育方法について、社会状況との関係、異校種との連携・接続、教材・教具などの観点から多面的に学習を進めていく。試行実践も適宜行い、授業実践力の向上へつなげていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科の指導法		各大学	中等美術科指導法Ⅲ	○	前半では情報機器を活用した表現学習の授業開発を行う。後半では鑑賞学習の授業開発を中心に学修を進め、模擬授業を行う。これらを通じて授業方法の専門知識や授業手法の理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科の指導法		各大学	中等美術科指導法Ⅳ	○	先行授業実践例に基づく授業研究を行うとともに情報機器の効果的活用を検討する。さらに、模擬授業へ向けた指導計画立案や教具作成等を行い、模擬授業を実施する。最終回のまとめにおいて、教育実習へ向けた課題整理を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	各大学	体つくり運動	○	本授業は、中学校、高等学校における保健体育教員として、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領における体力の内容及びその高め方等について理解するとともに実践的指導力を高めることを目的に、履修者自らが主体となり、体つくり運動の目的、内容、方法について実践し、心と体が一体であること、仲間とのかかわり方について学ぶ授業である。加えて、ＩＣＴの活用によるコミュニケーションの広がりと効果を目指す。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	各大学	器械運動	○	器械運動は、マット、鉄棒、平均台、とび箱などの器械、器具を使った「技」によって構成されている運動である。各運動種目では、自己の能力に応じて「技を習得する」「技が円滑にできる」ことをねらいとし、様々な運動課題の解決に取り組む学習指導が展開される。また、そこでの学習の対象となる運動は、非日常的驚異性と姿勢的簡潔性を特徴として、誰にでも有効で客観的な技術を持つ技が取り上げられる。特に、学習指導要領に提示されている技を中心に練習、習得していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	各大学	水泳	○	水泳指導の基本を身につけ、最終的には80分程度の連続泳ができるようになることを目指す。最初の3～4回は講義形式、残りの授業はプールでの実技形式で行う。水泳指導の基礎基本を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	各大学	陸上競技	○	陸上競技の短距離種目、跳躍種目、投てき種目、中・長距離走種目の特性や科学的知識を理解し、基本的な技術を身につけ、自身の技術を分析することで、学校体育における陸上競技の指導法を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	各大学	ゴール型球技	○	ゴール型球技の代表的種目として、サッカー及びバスケットボールを取り扱うが、本講義ではバスケットボールを展開する。バスケットボールの競技特性を理解し、個人的・集団的スキルの習得とチームプレイや戦術について学習し、また、発達段階に応じたスキル指導の内容や方法等、指導方法、さらにルールや審判法についても理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （12 坂元　康成・461 片桐　章光／1回）（共同）第1回を担当する。 （317 片桐　章光／14回）第2回～第15回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（佐賀大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	各大学	ネット型球技	○	ネット型球技としてのバレーボールの技術構造、ルール、および練習方法などについて学習するとともに、試合を行うための審判・企画・運営等についても学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	佐賀大学	ベースボール型球技		ベースボール型球技の全体構造や特性を理解させるとともに、ゲームのやり方、指導方法についても実習し、ルールの理解並びに審判法についても学習する。野球及びソフトボールにおける個人的技術を学習するとともに、ゲームの進め方、作戦の立て方等についても理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	各大学	ダンス	○	中学校におけるダンス授業に対応した内容を中心に、多様なテーマや課題を取り上げ、ダンスの理論と実技を学習する。授業のまとめとして、グループで作品を創作する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	各大学	柔道	○	本授業は柔道の基本的な動作のメカニズム（理合）の理解とその動作（投技と受身）の習得を目指して実際に柔道の稽古を行います。十分な基本動作の習得が確認された場合には、それを実戦（乱取）の中で活用する方法を学びます。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	佐賀大学	剣道		日本的な運動文化として剣道の技やそれに伴う所作の意味を理解した上で、剣道の実技や審判ができることを目標として、「木刀による剣道基本技稽古法」を学習し、そこで学習した技を基に防具をつけての剣道運動の実技・審判法を実施する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	佐賀大学	ヘルスプロモーション実習		佐賀大学が地域貢献事業として開催している健康教室に参加し、地域住民への運動指導を通じて、コミュニケーション力、指導力、企画運営力等の実践力を身に付ける。それぞれの学生は自分の担当班の参加者にストレッチや筋力トレーニング等を指導するとともに、対象の体力に応じたトレーニングメニューを作成させ、運動指導の能力を身につけさせる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	熊本大学	野外活動		野外における活動の特性に応じた目的を理解し、その企画、運営、指導の為の資質と技術を身に付けることを目指す。本授業は、体験型学習として夏季においてはキャンプおよび野外での活動体験を行う。冬季においてはスノースポーツを体験する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	佐賀大学	運動学（バイオメカニクスを含む）	○	実践的運動研究に基づいた運動学の概念や基礎理論について、授業回ごとにトピックを定め、講義形式で70分程度説明する。残りの時間を使いそのトピックに関する議論や演習を行う。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （2 井上　伸一／5回）第1回～第5回を担当する。 （447 市川　浩／10回）第6回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	佐賀大学	体育心理学	○	運動・スポーツをより効果的、効率的かつ継続的に実践していくには、身体的側面のみならず心理学的な諸理論の理解が不可欠である。心理学の知見を応用できるようになるための基礎を教授する。共同科目のため開講形態はオンライン授業とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	各大学	体育原理	○	「体育・スポーツとは何か」という根源的な問いから、体育・スポーツに関する様々な事柄について理解を深め、体育・スポーツのあるべき姿や進むべき方向について考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	各大学	体育経営管理学	○	学校体育や地域等のスポーツ振興に必要となる体育・スポーツ経営の基礎理論及び方法論についての理解を深める。本稿では、アメリカンスポーツマネジメントの現状を参考にしながら、体育・スポーツ事業の経営過程について学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	各大学	体育社会学	○	スポーツは現代社会において、文化の一つとして人びとの生活のあらゆる側面に深く浸透している。本授業では、体育を取り巻く様々な現象を社会学的に検討し、それらをめぐる問題や課題について考察することを通じて、体育・スポーツ科学の一つの専門領域である体育社会学の見方、考え方を解説する。そこでは、スポーツの高度化や大衆化が社会にプラスのみならずマイナスの機能も生じさせている事実とその乗り越えの可能性についても考察していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	佐賀大学	トレーニング科学		本授業では、体力の各要素と体力の各要素の優劣に与える要因、また、その能力を測定するための体力テストと体力の関係についての解説を行う。また、それらの能力を高めるためのトレーニング方法について、その実践例と合わせて解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	佐賀大学	ヘルスプロモーション演習		健康のための種々の運動について理論的に理解するとともに、その指導方法を実践的に学ぶ。佐賀大学が地域貢献事業としておこなっている健康教室に参加し、地域住民に運動指導をおこなっていく中で、指導方法を身に付けるとともに、種々の測定をおこなうことで運動の効果について理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	熊本大学	保健体育科課題研究Ⅰ		体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する専門知識を身に付け、これらの基礎的な専門知識を基に、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する研究を行うための基礎的能力を身に付けることを目標としている。本授業は、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する資料収集、文献輪読、演習を中心にゼミ形式で学習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	熊本大学	保健体育科課題研究Ⅱ		体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する高度な専門知識を身に付け、これらの高度な専門知識を基に、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する研究を行うための実践的能力を身に付けることを目標としている。 本授業は、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する資料収集、文献輪読、演習を中心にゼミ形式で学習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	生理学	各大学	生理学（運動生理学を含む）	○	各授業では学生に必要な追加資料を配布し、運動生理学に関する基本的な知見について概説する。さらに、運動・トレーニングに対する生体の適応についても解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	生理学	佐賀大学	解剖学		本授業では、体育の教員として理解して欲しい身体活動と関連の強い人体の各器官系の構造とそれらの器官系と身体活動との関連について解説する。また、授業の後半には解剖供覧を行い、人体の構造についての理解を深める。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （53 町田　正直／3回）第1回～第3回を担当する。 （566 川久保　善智／5回）第4回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	生理学	熊本大学	生理学実験・演習		生理学（運動生理学を含む。）の授業で得た知識を基に実験・演習を行うことで、人体生理についての理解を深める。具体的には、自分自身の体力・運動能力特性（最大酸素摂取量、筋線維組成、反応時間、心臓の活動、筋疲労、運動学習、反射）を測定および評価する。また、測定を行うことで、自然科学的な実験についての基礎を学ぶ。これらを通して、①実験の方法を学ぶと共に人体生理についての理解を深める、②運動による人体生理の適応についての理解を深め説明できるようになる、ことを目指す。授業は共同形式で実施する。両教員ともに15回の授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	衛生学・公衆衛生学	熊本大学	衛生・公衆衛生学	○	衛生学および公衆衛生学の概念と意義を説明することができるようになり、ヒトの健康に影響を及ぼす自然環境や社会的環境について理解することを目標として、衛生学および公衆衛生学上の主要な問題点について概説する。そのうえで、社会や環境と健康の関わりについて考察し、議論していく。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	熊本大学	学校保健	○	学校現場における保健問題の現状を理解し、基本的知識を身に付けることで、課題解決を図れるようになることを目標として、学校現場における保健問題の現状や子どもの健康問題について理解し、基本的知識を身につけながら、課題解決の方法を探る。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （25 井福　裕俊・72 坂本　将基・522 伊藤　雅浩／1回） （共同）第1回を担当する。 （368 伊藤　雅浩／6回）第2回～第7回を担当する。 （24 井福　裕俊／6回）第8回～第13回を担当する。 （71 坂本　将基／2回）第14回～第15回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	佐賀大学	学校安全・救急処置		本授業は、中学校、高等学校における保健体育教員として、学校安全の意義や学校体育を中心とした事故の動向と対策、救急処置の基本について理解する。また、安全教育の観点を踏まえ、学校体育を巡る事故動向を分析し、傾向と対策について教師役と生徒役に分かれて模擬授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科の指導法		各大学	中等保健体育科指導法Ⅰ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科の指導法		各大学	中等保健体育科指導法Ⅱ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科の指導法		各大学	中等保健体育科指導法Ⅲ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科の指導法		各大学	中等保健体育科指導法Ⅳ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」及び保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	熊本大学	木材加工Ⅰ（実習を含む）	○	技術科教員に必要な木材加工の基礎基本として、①木材②木質材料の性能と特徴を理解する。具体的には、森林の有益な機能、森林資源の保護と木材利用の調和、生物由来の木材の特性、木質材料の特徴、木材の接着・塗装加工法等について学習する。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／4回）第1回～第4回を担当する。 （195 大塚　芳生／4回）第5回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	熊本大学	木材加工Ⅱ	○	技術科教育の教員養成に備えるべき材料と加工分野における木材加工の基礎基本として、①手工具、②木工機械の構造と機能を教授する。具体的には、木材加工に関する切削理論と加工法、主な木工手工具および木工機械の構造と機能を理解し、中学校技術の授業が担当できる力を養成する。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／4回）第1回～第4回を担当する。 （195 大塚　芳生／4回）第5回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	熊本大学	木材加工実習		木材を使用したものづくり課題として、各種の手工具と機械を安全に使用し、鍋敷き、マルチラック等を製作する。また、自由製作品の構造と機能を考えて製図を行い、各種の手工具と機械を安全に使用し、作品を完成する。中学校技術科教員に必要不可欠な木材加工に関する基礎知識と基本技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	佐賀大学	製図Ⅰ（実習を含む）	○	学士力達成のために、機械製図の基本的ルールを学ぶことを目標として、技術科教員試験対応の、三角法、等角法、キャビネット法などを教授する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	佐賀大学	製図Ⅱ	○	機械製図の基本的ルールを学んだあと、PCを使った図面を書けるようになることを目標として、２DCAD、３DCADでの図面の書き方を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	佐賀大学	金属加工Ⅰ（実習を含む）	○	金属の特性を組織学的に理解し、加工するための鉄の本質を理解することを目標として、鉄の組織学を学んだ後、グローバルな鉄の性質や測定法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	佐賀大学	金属加工Ⅱ	○	さまざまな鉄の加工法を学ぶことを目標として、鉄の組織学を学んだうえで、いろいろな加工法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	各大学	機械Ⅰ（実習を含む）	○	材料力学・構造力学の基礎を学習することを目標として、力のつりあいを理解し、構造物にかかる応力が計算できるようになる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	各大学	機械Ⅱ	○	機械Iで 材料力学・構造力学を学び、トラスの設計を行うことを目標として、平面トラスの設計を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	各大学	機械実習		学士力に到達するために機械工作のやり方および安全に対する知識を身に付けることを目標として、安全について学んだあと、主に機械加工を体験する。また、接着加工として溶接、はんだ、ろう付けの加工方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	佐賀大学	電気Ⅰ（実習を含む）	○	これは、後続科目「電気Ⅱ」とともに、電気工学の出発点となるべき基本的な授業科目である。それゆえ、中途半端な理解では、現代社会における関連技術の理解に支障を来すことが予想される。そこで、本講義では、工業高校において教科書として採用される書籍を敢えて取り上げ、直流回路、電流と磁気という順序で深く学ぶ。また、演習問題に取り組むことを通して、その知識を活用できるように鍛える。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	佐賀大学	電気Ⅱ	○	これは、先行科目「電気Ⅰ（実習を含む）」の続編という位置付けである。両科目は、電気工学の出発点であり、電子工学、情報通信工学と発展して、その延長線上に人工知能がある。それゆえ、現代社会における関連技術の理解に欠かせない内容を含む。そこで、本講義では、工業高校の教科書を敢えて取り上げ、静電気、交流回路という順序で深く学ぶ。また、演習問題に取り組むことを通して、その知識を活用できるように鍛える。※「電気Ⅰ（実習を含む）」の履修を前提として進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	各大学	電気実習		これは、いくつかの現象を実際に観察し、その内容をレポートとしてとりまとめる授業科目である。そこで、本実習では、実験内容をとりまとめて第三者に分かりやすく説明するための「実験レポート」について、その重要性を説明した後、実践的なトレーニングとして、いくつかの基本的な電気回路及び電子回路に関わる実験に取り組む。※「電気Ⅰ（実習を含む）」の履修を前提として進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	生物育成	佐賀大学	生物育成ⅠA（実習を含む）	○	栽培学は、作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、受け入れられるものとした。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	生物育成	佐賀大学	生物育成ⅡA	○	栽培学は、作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、受け入れられるものとした。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	生物育成	熊本大学	生物育成ⅠB（実習を含む）	○	生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について講義と実習により理解することを目標としている。具体的には、生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用いるとともに実習により学修を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	生物育成	熊本大学	生物育成ⅡB	○	生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について理解するすることを目標としている。具体的には、生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用い学修を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	生物育成	熊本大学	生物育成実習		生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について講義と実習により理解することを目標としている。具体的には、大江農場においての栽培実習を通して、「生物育成の技術」に関連した作物の管理技術や環境調節技術を習得する。また、生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用いるとともに実習により学修を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ	熊本大学	情報とコンピュータⅠ（実習を含む）	○	ICT活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報およびICTを活用した問題解決の理論・概念の理解と基礎的能力を育むことを目標としている。具体的には、ディジタル作品作成技術、画像表現、ネットワーク社会のルールとマナー、プログラミングの基礎について学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ	熊本大学	情報とコンピュータⅡ	○	ICT活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報およびICTを活用した問題解決の理論・概念の理解を踏まえて、社会的な課題を解決できることを目標としている。具体的には、ディジタル化の利点、情報伝達のしくみ、生活の中にある計測と制御、プログラミングによる問題解決について学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ	熊本大学	情報とコンピュータ実習		ICT活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報およびICTを活用した問題解決の理論・概念の理解を踏まえて、課題を解決できる能力を育むことを目標としている。具体的には、プログラミング技法、マルチメディア利用、制御技術とそれに伴う課題等を学びます。授業ごとに設定した学習課題について、ICTを用いながら学ぶ。毎時のはじめに前回の振り返りを実施する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ	佐賀大学	プログラミング		これは、様々な命令を用いて実際にコンピュータを動作させ、基本的な情報処理の仕組みを理解する授業科目である。今や、一種の家電製品と化したコンピュータであるが、決して、勝手に仕事をやってくれる「魔法の道具」ではない。あらかじめ記憶させた一連の命令を、単に順次実行させているだけである。そこで、本講義では、その一連の流れを体験することで、コンピュータを用いた情報処理について理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	職業指導	熊本大学	職業指導		現代の子供たちが抱えている問題や学校環境・家庭環境を深く分析し、その問題点を多面的にとらえて、これからの進路指導（職業指導）の課題と望ましいあり方について深く考える。具体的には、諸外国との比較を交えながら、日本の社会、経済、教育制度、産業構造の変化および学校が抱えている課題をしっかり捉え、持続可能な開発のための教育として、学校における職業指導（進路指導、キャリア教育）のあり方や自己の適性をふまえた的確な職業選択能力の養成手法について考えを深めていく。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／6回）第1回～第6回を担当する。 （195 大塚　芳生／9回）第7回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		熊本大学	中等技術科指導法Ⅰ	○	技術科教育における各学習内容について、課題解決学習の視点や具体的な指導内容、指導方法について学修する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／8回）第1回～第8回を担当する。 （195 大塚　芳生／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		各大学	中等技術科指導法Ⅱ	○	技術科教育に関連する指導計画、授業設計、授業分析、学習指導、学習評価、安全管理と指導、技術科固有の資質と能力の育成について学修する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （195 大塚　芳生／8回）第1回～第8回を担当する。 （196 田口　浩継／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		各大学	中等技術科指導法Ⅲ	○	技術科教育に関連する目的・意義、歴史的背景、教育課程、学校教育法、比較研究（各国の教育課程、実践事例）などについて学修する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／8回）第1回～第8回を担当する。 （195 大塚　芳生／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		各大学	中等技術科指導法Ⅳ	○	技術科教育に関する基礎的な知識や技能を理解した上で、中学校技術・家庭科（技術分野）の教材研究の主題の立て方、手順、情報収取の方法、諸外国の技術教育や先端的な技術科教育などについて学習する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （195 大塚　芳生／8回）第1回～第8回を担当する。 （196 田口　浩継／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		熊本大学	工業科指導法Ⅰ		工業高校の現状と課題から、工業高等学校教育のあり方について理解し、工業高校における授業を実施できるようになる。工業高校の現状と課題、諸外国との比較などによって知識を獲得するとともに、工業高校訪問から実体験を得る。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／5回）第1回、第2回、第8回、第14回、第15回を担当する。 （195 大塚　芳生／10回）第3回～第7回、第9回～第13回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		熊本大学	工業科指導法Ⅱ		「工業科指導法Ⅰ」を基礎にして、より実用的な授業法、生徒指導、進路指導、教育評価について考えを深め、「工業」教師としての総合的な実践力を身に付ける。工業高等学校が抱える課題と解決策について学生間で討論と考察を重ね、豊かな発想と表現力およびコミュニケーション力を身に付ける。さらに、学生間で模擬授業を展開しながら教科指導上の諸問題を考察し合い、実践的能力と学生自身のプレゼンテーション技法を養う。また、常に生徒の立場になって考えを深め、生徒の学習意欲の向上と自らの指導法の改善の必要性を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／6回）第1回～第3回、第8回、第11回、第15回を担当する。 （195 大塚　芳生／9回）第4回～第7回、第9回～第10回、第12回～第14回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	各大学	家庭経営学Ⅰ	○	家庭経営学の学び方について、基礎理論を確認した後、家庭経営（家庭経済を含む）に関連するトピックスをとりあげる。それらのトピックスについて自分自身の問題として「考える」ことを通して、自分流ライフスタイルの構築をめざすとともに、現代社会における家庭経営に関する諸課題について、自分自身の生活設計上の問題と関連させながら考察を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	熊本大学	家庭経営学Ⅱ		家庭経営学Ⅰの学びをふまえ，中学校・高等学校家庭科の授業づくりを視野に入れる。高等学校家庭科で重視されている生活設計やリスク・マネジメントの基礎理論を修得すると共に，（おもに高等学校家庭科における）家庭経営に関する授業づくりを考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	熊本大学	家庭経営学演習		(1)複式家計簿記の演習では、キャッシュレス時代に対応した複式家計簿記帳を通して、フローとストックの把握方法を習得する。 (2)家計調査年報等を活用した家計の構造分析では、受講者に「家計調査年報」等に基づくデータを配布し、消費構造や家計構造の分析手法を学ぶ。 (3)生活時間研究とその応用では、1日の生活時間調査を実施し、それをもとにエネルギー消費量を算出し、摂取エネルギーとのバランスのとり方を考えるとともに、家事労働研究への応用や疲労回復の方法について演習する。 (4)人生80年時代の生活設計では、高校生が家庭科を学ぶ視点に立って、ライフコースの選択、ライフコースのよりよい実現を可能にする長期の経済計画について立案・シミュレーションを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	熊本大学	家政学原論		本授業では，日本とアメリカを中心とする家政学の歴史（家政学史ならびに比較家政学），家政学論，家庭生活論，これからの家政学（家政学の将来）などの内容をもとに，「家政学とは何か」，家庭生活が人間生活において果たす役割について考えることを通して，家政学を学んだ学生が教職を含む社会的活動や社会貢献を行うことの意義を考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	熊本大学	家族関係学	○	家族は、社会の最も基礎的な集団であり、私たちに最も身近な存在である。戦後、家族に生じた変化は、社会にさまざまな影響を及ぼしてきた。この授業では、家族関係や家族法に関する基礎的知識を習得するとともに、家族の生涯発達について学際的に概観し、社会の変化とこれからの家族のあり方について展望する。さらに、習得した基礎理論を活用して、家族のライフコースに関する聞き取り調査を実施し、分析・考察を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	佐賀大学	被服学Ⅰ	○	被服学の基礎を解説するとともに、被服実習を行う。衣生活の基礎知識を理解するとともに実習を通して基礎技能を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	佐賀大学	被服学Ⅱ		被服学の基礎について科学的根拠を元に解説し、多面的な角度から衣生活の知識や技能を理解するとともに、実習を通して技能を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	佐賀大学	被服学演習Ⅰ		学会誌に掲載されている被服学関連の論文を読む力を身につけさせる。実験や実習を組み立て実験を行い、論理的、科学的な思考を養う。研究に向けて文章をまとめる力を養う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	佐賀大学	被服学演習Ⅱ		学会誌に掲載されている被服学関連の論文を読みまとめる。実験を組み立て実践し検証を行う。卒業研究に向けて研究計画の立て方などを解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	各大学	被服実習	○	被服実習の基礎知識と基礎技術の習得を目指す。被服製作の基礎となる構成学と実習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	佐賀大学	食物学Ⅰ	○	栄養学と食品学の内容について基礎的事項を解説する。また、意見交換する活動を取り入れ、健康維持のための食生活のあり方を考える力を身に付けさせる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	各大学	食物学Ⅱ		調理科学の内容について基礎的事項を解説する。また、意見交換する活動を取り入れ、現代の食生活のあり方を考える力を身に付けさせる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	各大学	食物学実験・実習Ⅰ	○	食物学の調理実習の内容について、基礎知識を解説し、基本的な調理操作に関する実習・実験を行う。調理の目的について考え、理解を深める活動を取り入れる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学（被服実習を含む。）	各大学	食物学実験・実習Ⅱ	○	食物学の調理実習の内容について、基本的な献立についての実習・実験を行う。地域の食材や郷土料理を取り入れた献立作成について解説する。調理実習の指導上の留意点について考え、理解を深める活動を取り入れる。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学(被服実習を含む。)	佐賀大学	食物学実験・実習Ⅲ		食物学の講義や実習で学んだ内容を検証し、理解を深める実験・実習を行う。指定条件での献立作成の実習を行う。得られた結果について根拠資料を基に評価し、議論する活動を取り入れる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学(被服実習を含む。)	佐賀大学	食物学演習		食物学のテキストと学術論文の輪読を行う。学術論文について批判的に考え、課題を見出し、研究計画を立てる活動を取り入れる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	各大学	住居学Ⅰ	○	中学校、高等学校家庭科住居分野で扱う内容を取り上げ、家庭科教員として必要な住居分野の知識を習得し、自身の生活の中での実践力を身に付けることを目的とする。中学校、高等学校家庭科住居分野で扱われている専門的知識について学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	各大学	住居学Ⅱ		講義と見学を通じて、わが国の住まいや住まい方をとりまく諸問題に関する基礎知識を習得させ、これからの住生活のあり方を考える力を身に付けさせる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	熊本大学	住居学Ⅲ		「まちづくり」について基本的な考え方や関係する知識を学ぶと共に、地域を歩き、安全で安心できる地域環境や今後の自分と居住地域との関わりについて考察する。まちづくりに関する先行事例を学び、実践的なまちづくりの知識を習得するとともに、身近な地域の諸問題について考察する能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	各大学	住居計画学		中学校、高等学校家庭科教員として住居分野に必要な知識を習得する。家事動線や時間とともに変化する住まいに対する要求を理解し、平面図を作成することを通して、ライフスタイルにあった住まいの特徴を理解し、計画する際の実践力を身に付ける。 住宅を計画するにあたり必要な、構造、設備、間取り、空間の使い方、資金計画などの知識を習得し、住まいの提案を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	佐賀大学	住居学演習		前半は住まいの物理的環境（音・熱・光・空気）に関する基礎知識を講義するとともに、身近な生活空間から物理的環境に関する問題点を見つけてその環境要素を測定する。測定結果をまとめてレポートを作成、発表、議論する。後半は住居学の学術論文を読み、課題を見出して研究計画を立てる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	保育学	熊本大学	保育学	○	子どもの社会学・生活史・保育実践・家庭環境・現代の課題について考察し、子どもの社会的位置を理解することで、今後どのような支援が必要か議論していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	保育学	佐賀大学	保育学演習Ⅰ		授業の前半では、妊娠・出産と幼児の基本的生活習慣の獲得について解説する。授業の後半では現代の保育をめぐる諸問題について受講生が各自でテーマを決め、問題背景やその解決策について探究活動を行い、相互に情報共有をして保育問題への理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	保育学	熊本大学	保育学演習Ⅱ		授業の前半では、子どもの身体的・心理的発達、社会性の発達を発達段階ごとに解説する。授業の後半では実際の子どもを観察し、子どもの発達や保育実践について理解を深める。最後に子どもに関する制度について紹介し、子どもを支える仕組みへの関心を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科の指導法		各大学	中等家庭科指導法Ⅰ	○	家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。 また、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を行い、基礎的な技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科の指導法		各大学	中等家庭科指導法Ⅱ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科の指導法		各大学	中等家庭科指導法Ⅲ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科の指導法		各大学	中等家庭科指導法Ⅳ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （77 中迫(北後)由実／7回）第1回～第7回を担当する。 （84 増田　仁／8回）第8回～第15回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	熊本大学	英語音声学	○	音声学の基礎知識を理解し身につけ、英語の個々の音と単語・文レベルの発音ができる。音声指導のスキル・アイデアを豊富に有し、実践することができることを目標として、小・中・高等学校において、英語科教員（英語教師）として音声指導する際に必要とされる音声学の基礎知識を得ながら、音声指導のスキルとアイデアを実践する。演習形式時にはペアやグループワークで協働することを求める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	各大学	英語学	○	「英語学」というのは、英語という言葉がどのような仕組みになっているかを考える言語学の一領域です。その仕組みから規則を明らかにして英語を深いレベルで理解しようとします。つまり英語の音や単語、文や会話、様々な視点から英語がどのルールに沿って使用されているかを理解しようとする分野です。この科目では、その「音」（音素など）の組み立てを明らかにする音韻論、「単語」の仕組みを明らかにする形態論、「文」の仕組みを明らかにする統語論、などの観点から英語を考え、これから児童や生徒に教える教員として英語に関しての理解をより深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	各大学	英語学演習	○	「英語学」で構築された知識をもとに英文による英語学の解説を通じて様々な視点から英語を言語的に考え、仕組みをさらに理解を深める。この理解を用いて教科書に使われている英文を分析しクラスルームプラクティスに繋げていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	佐賀大学	英語音声学演習	○	日本人による英語発音(日本人英語)の特徴を明らかにしたうえで、日本人英語の弊害を理解する。授業では、日本人英語の原因を一つ一つ取り除き、正しい英語の発音を身に着けるようにしてゆく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	佐賀大学	第二言語習得論	○	第二言語習得研究とは何か、どのような研究成果があり、どのような仮説が提案されているかを整理・分析して理解することで、英語科教育における教授法の内容について、どこまでが事実として認められているか、どのような仮説が提案され、どのような内容が認められているかを概観する。英語教育に必要な第二言語習得の基礎的内容を知ることで理論的実践的に対応できる知識と技能を身に付ける。コース前半は理論、先行研究を中心に学修し、コース後半はどのように小中高の英語教育現場に行かせることができるかについて考える。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語学	佐賀大学	英文法演習	○	英文法の本質的な特徴を理解することにより、コミュニケーションをする上での言語の果たす役割 についての理解を深めていく。高校で習った個々の文法項目への理解を確認し、コミュニケーション上必要な使い分けのニュアンスや使用領域についての理解まで発展させる。日本語と比較しながら理解を深め、英文法の基礎的な知識を確認し、他者にわかりやすく説明できることを目標とする。その結果、コミュニケーションの中で場面に合った自然で正確なアウトプットができるようになると共に、中高の英語授業担当者として、必要なメタ言語知識を育成する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語学	熊本大学	英語学課題研究		英語教育における語彙・文法と英語学との関わりについての討議・演習を中心に進めていく。教育実践への応用を前提とした英語学論文及び学術図書の批判的読解の方法も指導する。授業の目標は、(1)英語学に関わる高度な知識の習得を目指す。(2)英語教育と英語学との接点を適切に理解した上で、英語学の諸理論を英語教育実践へ応用する方略を探求できる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語文学	佐賀大学	英語文学概論	○	この授業では、『不思議の国のアリス』『ナルニア国物語』『ハリー・ポッター』といった、有名なイギリスの児童文学作品の読解を行う。そして作品鑑賞を通し、文学作品の多様な批評方法について講義を行う。授業では映像化作品等を用いおおまかなストーリーを確認し、ポイントとなる箇所の原文を精読する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語文学	各大学	英語文学演習Ⅰ	○	この講義では、英語圏の文学作品について、同一の作品であっても多様な角度から異なる読み方ができることを学ぶ。また講義を通して学んだ観点をもとに、学生自身が主体的に作品を精読し、先行研究を踏まえながら作品を分析する。最終課題としてその成果はプレゼン等の形でアウトプットする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語文学	各大学	英語文学演習Ⅱ	○	私たちは、1) テキストの言語と文字通りの意味を理解すること、2) 文字通りの意味を超えたより深い理解を養うこと、2)作品のテーマ、構造、スタイルを理解することを目指します。学生はグループディスカッションに積極的に参加することが求められます。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語文学	佐賀大学	英語文学講読Ⅰ	○	この授業では、1920年代にイギリスの小説家A。 A。 ミルンが著したWinnie-the-Pooh及びThe House at the Pooh Cornerを用い、多様な文学批評の方法について講義を行う。また、Milneによる原文の読解はもちろんであるが、ディズニーによって生み出されたアニメーション作品等も重要なテクストとして、授業の題材として扱う。各回資料を配布するため教科書は用いないが、対象となる２冊の小説（Winnie-the-Pooh、The House at the Pooh Corner 講談社英語文庫等）は各自で購入し、あらかじめ目を通しておくことが望ましい。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語文学	佐賀大学	英語文学講読Ⅱ	○	本講義では、SwiftのGulliver's Travels、DickensのChristmas Carolといった英文学を代表する作家の作品を鑑賞する。その際には、作家の伝記的背景や、宗教的な影響などを探りながら、重要な箇所の原文読解を行う。授業終盤では受講者自身が自ら読解する作品を選定し、その読解箇所に関する講義を行ってもらう。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語文学	佐賀大学	英語文学特論	○	本講義では、Peter and Wendy（1911）の読解を通して、フェミニズムやポストコロニアリズムといった多様な文学作品へのアプローチ方法を講義する。その際には、Barrieの英文学作品と、後年ディズニーによって映像化されたアニメーション（1952）及び最新の映像作品（2023）の比較を通し、批評理論の理解をさらに深める。授業後半では本講義で身に付けた内容をもとに、Harry Potterシリーズを題材とした英語文学講読の教材作成を行ってもらう。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語文学	熊本大学	英米文学課題研究		各自の課題を設定し、教員も含めてお互いに討論しながら内容を深めて行く。 作品を特定していく過程で、日本語や英語を使って実際に 論文の形にまとめる。何度も書き直しをすることによって、 自分の考えをはっきりさせて行く。また、英語論文を読み、形式に慣れるようにする。ほぼ毎回レジメを使っての発表が中心となる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語コミュニケーション	佐賀大学	英語コミュニケーション論	○	英語によるコミュニケーションは英語を母語を使うものとのコミュニケーションと限らず、現在においてはアカデミア、医療、ビジネス等の「共通語の英語」として使われている。国境を越えたコミュニケーションでも、たとえサブカルチャー内のコミュニケーションでも、広い意味での文化と文化の間のコミュニケーションをどう図るかも効果的な英語のよるコミュニケーションの大事な要素の一つです。その手助けとして、コミュニケーションの取り方の背景にある心理学、社会心理学、言語学、人類学などの知識と理解を深め、より効果的な英語コミュニケーションにつなげていく。この科目ではこういった背景について英語の文章の解読から学び、ディスカッションからその理解を深め、学生自身の考えを作文で整理する流れになる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語コミュニケーション	各大学	英語アカデミックライティング	○	英語でアカデミックな文章を作成する際の、情報収集、情報整理、構成の方法、英文構成、パラグラフライティング、アウトライン、 文章のまとめまでを演習形式で進める。また、口語的な表現や言い回しを超えたアカデミックな文章で使われる語彙や表現を学修する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語コミュニケーション	熊本大学	英会話	○	学生はペアワークやグループワークに参加し、日常の会話や議論でよく使われる慣用表現の語彙と知識を広げる。また、さまざまなトピックについて理由を添えて意見を述べる能力や、イントネーション・ジェスチャーを適切に使用してより明確なコミュニケーションを促進する能力も向上させる。授業の目標は、1)会話力を向上させ、語彙を増やす。2)言語の使用における文化の役割を認識する。3)英語を話すことに自信をつけ、他国の英語話者と交流できるようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語コミュニケーション	佐賀大学	英語オーラルコミュニケーションⅠ	○	一般的なアカデミックリテラシーとコミュニケーション能力の向上に焦点を当てた実践的な英語クラスで、特にアカデミックな場面での口頭コミュニケーションスキルの発展に重点を置いています。学習方法には、教科書の使用、語彙力を養うための読解およびリスニング練習、ペアおよび個人の口頭コミュニケーション活動、そしてクラスプレゼンテーションが含まれる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語コミュニケーション	佐賀大学	英語オーラルコミュニケーションⅡ	○	英語オーラルコミュニケーションⅠの学習を基にした実践的な英語クラスで、一般的な学術的リテラシーとコミュニケーション能力の向上にさらに焦点を当て、特にアカデミックな場面での口頭コミュニケーションスキルの発展に重点を置いている。学習方法には、教科書の使用、語彙力を養うための読解およびリスニング練習、クラスプレゼンテーション、そして流暢さを向上させるためのグループワークが含まれる。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語コミュニケーション	佐賀大学	英語アカデミックスピーキングⅠ	○	アカデミックなセッティングにおいて、論理的に順序よく、そして分かりやすく情報を伝達し、その内容について質疑応答などを通じて理解を深めること非常に大切である。この科目においては、これらをするための英語表現と共にプレゼンテーションスキルを育成した後、学んだことを実践できる機会を与える。授業展開として、導入、サインポースティング、チャンキングとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンのまとめ方、質疑応答の対応などに使える英語表現を提示、練習、最終的に教育学関連の内容のプレゼンで実践する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	英語コミュニケーション	佐賀大学	英語アカデミックスピーキングⅡ	○	アカデミックなセッティングにおいて、論理的に順序よく、そして分かりやすく情報を伝達し、その内容について質疑応答などを通じて理解を深めること非常に大切である。この科目においては、アカデミックスピーキングⅠで学んだ基礎的な英語プレゼンテーションスキルを発展させ、日本の現代社会に関連する「文化」、「食」、「社会」、「言語」などの様々な分野のプレゼンのための英語表現と共にプレゼンテーションスキルを育成した後、学んだことを実践できる機会を与える。授業展開として、導入、サインポースティング、チャンキングとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンのまとめ方、質疑応答の対応などに使える英語表現を提示、練習、最終的に内容のプレゼンで実践する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	異文化理解	熊本大学	異文化理解	○	文化、言語的および非言語的コミュニケーション、価値観の多様性、認識の違いについて探求する。・異なる文化と自分自身の文化に対する理解と尊敬を育む。授業の目標は、1）自分の文化で標準とされていることが、必ずしも他の文化でも標準とされているわけではないことを認識する。2）言語を学ぶときに文化の重要性を理解する。3）コミュニケーションは言葉だけでなく、身振り、姿勢、表情、沈黙などの非言語的手段を通じても行われることを認識する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	異文化理解	佐賀大学	英米文化事情Ⅰ		西洋には、「ヨーロッパ」という地中海の波の周期を意味する美しい名前のほかに、秘められたもう一つの名前がある―「オクシデント（日の没する地・没落の地）」。ヨーロッパの精神は、この呪われた名（表象）を12世紀後半、極西アイルランドの北西ドニゴール州・ダーヴ湖に浮かぶある小島（悪霊島）の洞窟の中に密かに封印した。以後、この島は生前の罪を贖う煉獄巡礼地とされ、今日に至っている。本授業では、ヨーロッパ文化史を周縁（極西）の地アイルランドから眺め直すことで、文化のもう一つの側面、闇の相貌に迫ってみたい。この試みは、いわば＜知の冒険＞にほかならないが、小島の穴の奥には知の秘宝が隠されていることを想えば、価値のある行為である。ダンテ、シェイクスピア、ラブレーもこの冒険に挑み、宝を密かに持ち帰った者たちなのである。彼らに倣い、洞窟から宝を持ち帰り、身に付けること、それが本授業の目的である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	異文化理解	佐賀大学	異文化理解演習Ⅰ		学生に馴染み深い現代の英米の音楽の歌詞を精読しながら、その背後にある英米を中心としたヨーロッパ文化の特質を学んでいく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	異文化理解	佐賀大学	異文化理解論Ⅰ		本授業では、異文化理解の根本命題を自文化の認識―自文化を深く理解するためにこそ他文化を学ぶ―におき、その方法（基礎理論）を具体的に提示していく。その方法とは異文化という逆説の合わせ鏡に自文化を映すというものである。合わせ鏡として想定しているものは、「オリエント」＝日本文化の対極に位置する「オクシデント」＝ヨーロッパ文化である。自文化を映す鏡は対極（逆説）であればあるほどよいからである。本授業では、ヨーロッパのなかの極西アイルランド文化を鏡として主に用いる。極東の日本にとって対極の地理的位相＝表象の対極に位置するからである。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	異文化理解	佐賀大学	英米文化事情Ⅱ		「英米文化事情」とは広範にすぎる。そのため、本授業ではヨーロッパ文化の古層に横たわるケルト/アイルランド文化に絞って講義を行う。テーマはヨーロッパ文化固有の死生観である煉獄の概念である。とくに、煉獄の中世都市伝説が誕生した地、アイルランド・ドニゴール・ダーグ湖の小島にある「聖パトリックの煉獄の穴」は注目点となる。この煉獄の穴が英文学に与えた大いなる影響をW.B.イェイツのいくつかの詩、戯曲、シェイマス・ヒーニーのいくつかの詩とシェイクスピア作『ハムレット』を中心に精読していくことになる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	異文化理解	佐賀大学	異文化理解演習Ⅱ		通常、アイルランド文化は「イギリス」内部の周縁とみなされることが多い。だが、アイルランドはイギリスとは異なる民族（ケルト）、言語（ゲール語）、精神性を有しており、そこから当然のことながら、イギリスとは全く異なる固有の文化・文学を生み出してきた。本授業では、イギリス文化との比較をとおし、このことを確認していくことで、文化のもつ固有性と普遍性について学んでいく。テキストは、主にW。B。 イェイツの作品（詩・戯曲）を用いて精読を試みる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	異文化理解	佐賀大学	異文化理解論Ⅱ		国家とはひとつの概念であって、本質的に実在しているわけではなく、ひとつの表象、すなわち虚構である。文化もまたそうである。だが、一度、虚構から発生した文化はしだいに実体化していく。本授業では、表象がどのようにして発生し、それが現実の歴史といったかの実例を日本＝オリエントからみて極西に位置するアイルランド＝オクシデントの国家成立までのプロセスとその後の歴史・文化をみていく。そのうえで、比較文化学の立場から、今度は逆にオクシデントの対極をオリエント日本の東の関所、鎌倉幕府成立のプロセスを文化・文学＝虚構の視点からみていく。そのことで、虚構の力が現在にまでおよんでいることが分かるだろう。その際の注目点は、アジールとしての鎌倉・東慶寺である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法	各大学	中等英語科指導法Ⅰ	○	各回のテーマについてテキストを中心とした文献を読み、日本の小・中・高等学校における外国語教育についての理解・考察を深めていく。また、言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては演習形式で検討していくことにより、授業指導の基礎を修得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法	各大学	中等英語科指導法Ⅱ	○	英語の国際化、単元設計、コミュニケーション能力、４技能の統合、ICTの利活用、Team　Teachingなどのテーマに関する講義と演習課題に取組み、英語の学習・指導に関する知識の向上と授業実践及び学習評価についての基礎の修得を目指す。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法	各大学	中等英語科指導法Ⅲ	○	各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における英語指導についての理解・考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討していくことにより、英語指導技術の定着及び指導力の更なる向上を達成させる。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法	各大学	中等英語科指導法Ⅳ	○	各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における外国語教育について複眼的な視点から考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討し、指導力及び外国語教育研究の知識・スキルの更なる向上を達成する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法	熊本大学	英語科教育課題研究		英語科教育に関して専門的な知識を身につけ、研究課題を設定する。卒業論文を書くために、文献の集め方、研究の進め方、卒論の書き方等を修得することを目標として、英語教育学に関わる討議・演習を通して、研究方法を指導する。卒論の題目を設定し、研究計画書を作成する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	佐賀大学	日本とアメリカの教育改革		授業のテーマ及び到達目標 近代から現代において日本とアメリカで展開された教育改革について理解を深める。その上で、各国の教育改革が教師教育に及ぼした影響を検討し、今後の教育と教師教育の在り方を考える。 授業の概要 近代から現代に展開された日本とアメリカの教育改革について、改革の要因となった教育思想と社会背景を理解し、教育制度の変遷を理解する。その上で、教育改革が教員の養成と研修に及ぼした影響を理解し、両国の今後の教育の在り方を検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	熊本大学	教育制度		法律主義を採用しているわが国においては、教育制度は教育関係の法規に大きく規定されている。従って、教育法に関する知識がなければ教育制度の仕組みや課題を理解することは困難である。従って、教育法規の基本的知識を身に付け、公教育としての学校教育がどのような仕組みで動いているのかを説明できるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	熊本大学	教育制度特殊講義		教育制度に関する理論・概念や方法論に関する基本的知識を身に付け、公教育としての学校教育制度がいかなる歴史的経緯で展開してきたのか、その過程においてどのような問題を抱えるに至ったのかについて説明できるようになることが授業の目標である。授業では、基本的には講義者が作成したレジュメに沿って講義を行うが、適宜、必要な資料を配付したり、その時の問題について受講者同士で討論をするようなことも考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	熊本大学	教育制度演習		教育制度に関して幅広く問題を取り上げている文献を指定して、その中で何が問題として論じられているのか、現代的課題を把握することを目的とする。授業では、グループごとに担当する文献（章）を決めて丁寧に報告レジュメを作成すること、また他者に分かりやすく報告すること、疑問点を考えてきて討論する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育社会学	熊本大学	学校社会学		本授業は、学校の諸機能について理解するとともに、学校を社会学的にとらえる視点を確立し、それによって学校現場の様々な現実を客観的にとらえることを目的とする。授業では、学校や学級というシステムが生み出された経緯や学校組織の特徴について学ぶとともに、そうした学校の構造がもたらす現代の教育課題とその解決について主体的に考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育社会学	熊本大学	教育社会学特殊講義		授業の目的は、現代の親や子どものおかれた状況について理解するとともに、家族問題を考える際に重要となるジェンダーの視点を取り入れることによって人間の社会的形成についての理解を深めることである。授業では、子どもを産むということから現代における子どもの価値について再考するとともに、現代の子育ての特徴と課題について理解し、家族支援・子育て支援について考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育社会学	熊本大学	教育社会学演習		教育社会学の成果と知見を学ぶとともに、様々な教育的事象について教育社会学的な理解を深める。また、文献を批判的に読み解き、主体的に考え、他者との討論を通じて学びの深化を図ることを目的とする。授業では、各自が関心を持っている教育現象や教育的課題に関する教育社会学の文献を読み、内容を検討して、発表・討論を行う。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	熊本大学	生涯学習概論		生涯学習および社会教育の本質と意義について理解を深めるために、教育に関する法律、自治体行政・施策、学校教育・家庭教育との連携、ならびに社会教育施設・専門職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。生涯学習の理念は、日本社会のみならず、世界各国共通の教育概念であり、海外の成人教育・生涯学習との比較検討を通して、地域社会の社会教育的機能を考察する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	熊本大学	社会教育演習		授業の目的は、社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質および能力の総合的かつ実践的な定着を図ることである。授業では、社会教育に関する現場体験として、阿蘇青少年交流の家が主催する通学合宿「阿蘇ふるさと自然塾」へ参加し、実践的な能力およびコミュニケーション能力の向上をめざす。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	熊本大学	生涯学習支援論Ⅰ		「地域と教育」を基本的視点に、具体的な社会教育実践に注目して、地域と人間の関わり、教育的機能について分析を試み、地域教育と人間の発達について考察することを目的とする。到達目標は、自分の生まれ育った地域社会の自慢ができる。地域社会の抱える現代的課題に対し、他人事ではなく、自分事として捉え解決を図る思考力を養う。また、社会教育事業へボランティアとして参加し、実地から理解することをめざす。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	熊本大学	生涯学習支援論Ⅱ		生涯学習の支援に関する教育理論を深めるために、多様な学習者に対する支援の方法、プログラム開発について考察する。学校教育における不登校支援をはじめ、ひろく地域社会における様々な学習とその支援者のあり方に関する知識と技能の習得をめざす。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	熊本大学	社会教育経営論Ⅰ		子どもの生活体験活動を育む「通学合宿」事業へのボランティア参加を通して、子どもの学校外教育をつくる社会教育施設・青少年教育施設の役割と専門職員によるコーディネート、学習プログラムの開発等について理解を深める。家庭・学校・地域が協働する「通学合宿」を手がかりに、地域社会における多様な連携・協働に気づけるようになる。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	熊本大学	社会教育経営論Ⅱ		講義では、多様な人々や組織と協働し、学習成果を地域課題解決などにつなげる社会教育について、地域づくりを支える人材や行政などの先駆的実践から考察し、これからの社会教育経営のありかたを検討する。具体的には、多様な人々と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等に生かしていくために、社会教育行政および地域社会が抱える課題を整理し、それを乗り越えるための方策・方途を考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	熊本大学	社会教育実習		社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質および能力ーコーディネート能力、プレゼンテーション能力、ファシリテーション能力ーの向上をめざす。本実習では、熊本市内の公立公民館の社会教育主事（主に学校教員出身）の下で、公民館における教育実践を体験する。	

専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育哲学	熊本大学	教育哲学		力強い、地に足の着いた教育論・教育構想・教育実践のためには、そもそも教育とは何か、そしてそれはどうあれば「よい」と言いうるか、という問いに対する、共通了解可能な深い“答え”が必要である。本授業の目的は、この問いに徹底的に答え抜くことにある。受講者の皆さんには、その過程で、教育の哲学が、現実の教育構想・実践にこれほどにも役に立つのだということ、そしてまた、このように役立てることができるのだということを、存分に学び取ってもらいたい。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育哲学	熊本大学	教育哲学特殊講義		哲学的思考を修得するとともに、それを活用して、それぞれの教育学的問題関心を「解明」することを目的とする。授業では、哲学的思考のエッセンス、とりわけ「本質観取」の方法を学んだのち、各受講生の関心に沿いながら、さまざまな教育学的テーマについての「本質観取」を行う。到達目標は以下の通り。１。哲学的思考（とりわけ本質観取）を修得する。　２。本質観取を通して、各受講生の問題関心を「解明」する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育哲学	熊本大学	教育哲学演習		授業の目的は、哲学的思考の初歩を修得するとともに、現代教育の諸問題について学び、またこれをどうすれば解き明かすことができるかを提示することである。授業では、文献講読を通して、哲学的思考の初歩を修得するとともに、それを活用しながら、現代教育の諸問題について考察する。到達目標は以下の通り。１。哲学的思考の修得。２。現代教育の諸問題に精通する。３。上記諸問題を克服するための方途を見出す。４。本質観取ができるようになる。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	道徳教育	佐賀大学	道徳教育と学級経営		道徳教育と学級経営それぞれの理解および両者の深い関連性の理解の下、「個」と「集団」の関係に関わるトピックとして多様性理解、人権理解、個性の理解、成長や学力の捉え、いじめ問題などを取り上げる。加えて、学級経営の諸事例などを学ぶ。これらの知識を踏まえ、協働学習の形で具体的な学級経営案を作成することを通して、理念と具体の往還の思考を身に付けるとともに、将来に活かせる学級経営の多様なアイディアを得る。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	道徳教育	熊本大学	道徳教育方法論		本授業では、現代において代表的だと考えられる道徳の授業のいくつかについてその理論と実践を修得し、それをふまえて模擬授業を行うことをねらいとする。授業概要については、まず、伝統主義的な道徳の授業について概観し、次に現代的な道徳の授業（モラルジレンマ等）について考察し、最終的には各自が模擬授業を行う。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	道徳教育	熊本大学	道徳教育特殊講義		本講義では、まず道徳教育とは何かという原理的な問題を考察し、その問題について自分なりの答えを出すことをねらいとする。授業概要は以下の通り。まず道徳教育とは何か、そもそも道徳は教えられるのかという問題を考察する。次に日本の道徳教育の歴史的変遷を概観します。第三に道徳性の発達についても言及し、それをふまえて道徳の主な授業理論について説明する。さらに、現代において求められる道徳教育の目標や課題について考究する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	道徳教育	熊本大学	道徳教育演習		授業では、道徳的価値に関する諸問題に関して、その問題解決のために参考になる文献を講読する。とくに、道徳教育における視点として「自分とのかかわり」、「自然や崇高なものとかかわり」、「他の人とのかかわり」、「社会とのかかわり」があるが、それぞれの視点について現代の喫緊の課題は何であるかを理解するために有益な文献を講読する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	各大学	心理学概論		人間は、さまざまな状況の中でどのようにものごとを理解し、判断し、振る舞っている。このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説し、人の心の働きを理解し、自己、他者、社会に関して心理学的立場から説明できるようにする。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	佐賀大学	心理学の研究法		授業のテーマ及び到達目標 　心理学の諸領域で用いられている代表的な研究法を学び、データに語らせる心理学研究の意義と方法を習得することを目指す。 　本講義の達成目標は次の2点である。 （１）心理学研究の基礎知識について説明することができる。 （２）心理学研究の手続きについて基本的な説明をすることができる。 授業の概要 　目に見えない心を研究対象とする心理学の、科学としての工夫について、理論と実際の両面から解説する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	熊本大学	心理学統計法		記述統計学の基礎を学び、心理学的な研究によって収集されたデータを数値化し、そのデータの特徴を数量的に記述・表現できるようにする。また推論統計・検定の基礎を学び、心理学研究において用いられる統計に関する基礎的知識を獲得する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	熊本大学	心理学実験		心理学は実証科学であり、その理解のためには、実際に心理学がどのような方法によってデータを得て、それを分析し、解釈するのかを理解する必要がある。そこで本講義前半では、ミュラー・リアーの錯視、両側性転移、ＳＤ法など、心理学の古典的な実験を体験する。また後半では質問紙調査法による調査を体験する。これらの実習をとおして、データのまとめ方、統計処理、レポートの書き方を学び、実験及び調査から得られたデータの解釈に必要な統計に関する基礎知識を習得し、心理学的思考法を身に付ける。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （74 高岸　幸弘／8回） 心理学の基本的実験法を担当する。 （75 髙崎　文子／8回） 質問紙調査法を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	熊本大学	心理的アセスメント		心理アセスメントの対象の理解と倫理的配慮など心理アセスメントについて基本的な考え方を学習した上で、人の心を数量的に測定する方法である心理検査についての学習を行う。心理検査は多様であるがその中で、数量的な処理を中心に行う知能検査と、投影検査法のロールシャッハテストを中心に数種類の検査を体験することで、施行方法や結果処理方法、報告書の書き方についての基本的な知識を身に付ける。そして、心理的アセスメントの基礎知識となる、心の状態に関する知識を増やすことをねらいとする。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （74 高岸　幸弘／8回） ロールシャッハを担当する。 （75 髙崎　文子／8回） 知能検査を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育・発達心理学	熊本大学	教育・学校心理学		学校現場における諸課題について、心理学の理論を用いて解説し教育心理学的な視点から理解する。教育における心理・社会的課題や必要な支援について、教育心理学の知見から理解を深め、具体的な対応について検討し、教育実践にどのように対応するかを考える。	

専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育・発達心理学	熊本大学	教育・学校心理学演習		現代の教育現場における諸課題のうち特に「いじめ」と「学習意欲」を中心的に取り上げ、教育心理学における研究知見を踏まえた上で、具体的な対処について学生同士の議論をもとに検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育・発達心理学	熊本大学	発達心理学	○	主に関係における発達（育ち合い）や関係における学習（学び合い、教え合い）とそれぞれの支援（発達支援、学習支援）を取り上げ、その問題を具体的に検討しながら、共有されている発達観や学習観を整理する。本講義で取り上げるテーマは以下の通りである。［I 関係における認知発達、II 社会性の発達と認知の社会的形成、III 学習−教授についての素朴理論、IV 関係における学習−教授と発達支援、V 生涯発達的視点からみた発達観の再考］	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育・発達心理学	熊本大学	発達心理学演習		「発達心理学」で取り上げた講義テーマに関連した最近の発達・学習心理学に係る文献（海外の専門雑誌論文等の文献を含む）を選んで、参加者同士のディスカッションを重ねた講読を行う。それにより、関係における発達や学習に係る概念を構成し、子どもの変化の過程を捉える見方や考え方について学修を深める。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	熊本大学	臨床心理学概論		臨床心理学は、応用心理学の１つであり、心理学的な諸理論や科学的知見に基づく方法を実践し、問題行動の改善、心理社会的な不適応状態の解消、さまざまな病理的問題の解決、あるいは人格的な成長の促進を目指す学問、かつ専門的な援助体系である。それらこころの問題や悩みへの臨床心理学的支援について学習する。支援法の背景理論やその成立までの歴史を概観した上で、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野における主な問題に対する援助方法、および臨床の実際の概要について支援の実例を取り上げながら臨床心理学の基礎的な知識を身に付ける。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （74 高岸　幸弘／8回） 臨床心理学の理論を担当する。 （71 黒山　竜太／8回） 心理学的支援法を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	熊本大学	心理学的支援法		困難を抱えている人に対する心理的な支援として、心理療法がある。ここでは、代表的な心理療法として、精神分析、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、箱庭療法、エンカウンターグループ、フォーカシング、心理劇、臨床動作法を取り上げ、講義する。また、それらの心理療法の初歩の実践が出来るようになるために、実践トレーニングの時間も講義内に取り入れていく予定である。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （520 藤中　隆久／8回） 人間性アプローチの理論を担当する。 （71 黒山　竜太／8回） アクションメソッドを担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	熊本大学	感情・人格心理学		人に感情はなぜあるのか、いかなる機能を有するのかを進化心理学的に考察する。また、豊かな感情をどうやって育ててゆくのかを教育心理学的に考察する。さらに、ネガティブな感情をコントロールして適応的に生きる方法を臨床心理学的に考察する。それらの考察を通して、進化心理学的、教育心理学的、臨床心理学的に、感情が人格形成に及ぼす影響と人格が感情に及ぼす影響を考えてゆく。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （520 藤中　隆久／8回） 感情理論を担当する。 （71 黒山　竜太／8回） パーソナリティ理論を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	熊本大学	臨床心理学演習		臨床心理学概論で学んだ臨床心理学に関する基礎知識をもとに、こころの支援の実際について近年の実践報告や、科学的研究を題材として学ぶ。受講生が主体的に現代の臨床心理学的援助の実際について調べ、プレゼンテーションの形態で情報を共有し、臨床心理学的観点から議論を行うことによって、より高度な臨床心理学の知見を身に付けることをねらいとする。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	佐賀大学	家族支援の心理学		社会的動物である人間が、社会を構成する他者からどのように影響を受け、またそうした社会をどのように認識しているのか。そして、集団としての行動は、個人の行動とどのように異なるのかについて解説する。さらに、もっとも身近な社会である家族の機能についても考えていく。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	応用心理学	熊本大学	社会・集団・家族心理学		「職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援」および「組織における人の行動」について、主たる理論や代表的研究、それらを実践するにあたっての考え方等を考察する。前者については、過労死、ハラスメント等の実際的な問題を念頭に、同調圧力や攻撃性などの心理学的概念を軸に議論を進めるとともに、ナラティヴ心理学に基づくキャリアコンサルティング等にも言及する。後者については、リーダーシップ、安全文化と組織風土等を念頭に、具体的な事例を踏まえながら組織心理学の理論と実践的な適用のあり方を総合的に検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	応用心理学	熊本大学	産業・組織心理学		障害、「特別な教育的ニーズ」について受講生が自分自身の考えを深めることを目指す。特別支援教育の仕組みや実際及び各障害領域に関する基礎知識をもつとともに、特別支援教育の関連領域や関連団体についてその概要を把握し、国際動向にも目を向ける。到達目標は、特別支援教育の仕組み及び各障害について基礎的知識をもつこと、特別支援教育と関わる関連領域・関係団体の概要を把握し、国際動向にも目を向けること、障害、特別な教育的ニーズについて各自が自分自身の考えを深めることである。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育	佐賀大学	保育観察実習		授業のテーマ及び到達目標 　保育現場における参与観察実習を通して、乳幼児の特性を理解し、保育者の役割やあり方を探求する力を身に付ける 授業の概要 　乳幼児期の子どもの特性、および保育者の役割やあり方について、受講生各自が設定した課題に基づいて行う保育参与観察と実践を通して、理解を深める。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育	佐賀大学	子どもの支援Ⅰ		３歳児健診等の結果によると、発達障害のある幼児の数は少なくないと推定されている。本科目は、小学校教諭免許状や特別支援学校教諭免許状、幼稚園教諭免許状や将来保育士資格の取得を目指す学生が、発達障害のある幼児・児童を理解し、支援への意欲・使命感をもち、基本的な支援法を身に付けることを目的とする。 以下の3点を目標とする。 ①発達障害のある幼児について基本的に理解することができる。 ②支援に対して意欲と使命感を持つことができる。 ③基本的な支援方法を習得することができる。	

専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育	各大学	特別支援教育基礎論	○	特別支援教育の基礎について総論的に講義する。障害の捉え方、障害児教育の歴史、特別支援教育の理念と制度、特別支援学校の教育と課題、小・中学校等における特別支援教育、特別支援教育の対象となる各種障害の理解と支援に関して概説する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		各大学	幼児と健康		講義形式で行う。発育、遊び、生活習慣、体力づくり、スポーツ、安全能力の指導（防災を含む）など、乳幼児の健康に関するテーマ・知見について、受講者の調査・発表、および全体討論を中心に進めていく。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （73 末永　祐介・199 矢野　潔子・372 入谷　仁士／4回）（共同）第1回・2回・7回・8回を担当する。 （72 末永　祐介／2回）第3回～第4回を担当する。 （199 矢野　潔子・281 入谷　仁士／2回）（共同）第5回～第6回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		各大学	幼児と人間関係		幼児期の社会性の発達特性について、０歳から６歳にかけての変化過程を理解する。幼児の人との関わりの特徴や、個々の多様な実態について、多面的に理解する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		各大学	幼児と環境		特に幼少期から年長期にかけての子どもの学びに関する「環境」の視点について講義を行い、「環境」という要素を中心に据えて、他要素（健康、言葉、人間関係、表現）との関わり合いも意識しながら、子どもを観る視点の枠組みを創る。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		各大学	幼児と言葉		受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら保育内容における「言葉」の役割を考察する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		各大学	幼児と表現Ⅰ		幼児の表現における音楽の位置や意味を理解したり、そのために必要な表現媒体などを追及したりする。「表現とは何か」という問いのもとに、学生にアクティブなグループディスカッションや探究的な活動を通して幼児期における表現体験とその本質について考察する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		各大学	幼児と表現Ⅱ		講義形式で行う。幼児の発達に伴う造形的な遊びや表現の変化、表現のための適切な環境構成や支援のあり方について、適宜ビデオ視聴を行いながら進めていく。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		各大学	保育内容（健康）		現代の乳幼児が置かれている社会状況を捉えながら、生涯に亘る健康の基礎となる乳幼児期の心身の成長や発達に関する理解を深める。主に講義形式で行うが、乳幼児期の健康に対する支援のあり方については教材研究、指導案作成、模擬保育等を通して検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		各大学	保育内容（環境）		現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容の理解を深める。幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		各大学	保育内容（人間関係）		保育内容「人間関係」のねらいや内容を、具体的な実践と結び付けながら理解する。その上で、幼児の人間関係を育むための保育実践について、自ら創造する力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		各大学	保育内容（言葉）		受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら、保育内容における「言葉」の役割を基盤とした教材研究、保育計画（指導案）作成、模擬保育を行い、具体的な指導の方法を検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		各大学	保育内容（表現Ⅰ）		子どもの身体的特性についての理解を深め、音楽における身体表現の意味を探る。保育者に必要な音楽知識や技術を習得するとともに、保育における音楽活動のあり方について考察する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		各大学	保育内容（表現Ⅱ）		教材研究、保育案の作成、保育実践の観点から、幼児教育実践の基礎的能力を養うよう設定している。具体的には、表現素材の知識、保育案の形式・内容・評価法に関する理解を進める。保育実践の適切な環境設定について理解を進める。指導計画の作成と模擬実践に取り組むとともに、相互批評を通して指導法の獲得へつなげる。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		佐賀大学	保育表現演習Ⅰ（言語表現）		受講者全員で幼稚園教育要領と資料を読み進めながら、幼児の発達における言葉の意義と役割を考える。また、絵本・紙芝居等の言語文化財の特徴を理解し、工夫して活用することができるようにする。これらの演習や受講者同士のコミュニケーションに積極的に取り組むことで、保育者として幼児にかかわる姿勢を形成する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		佐賀大学	保育表現演習II（運動表現）		本授業は、幼稚園教育要領の心身の健康に関する領域「健康」のねらいや内容などの基本的な考え方を理解するとともに、幼稚園における運動遊びの基本的な考え方や具体的な実践内容、指導法を理解する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		佐賀大学	保育表現演習Ⅲ（造形表現）		造形的な活動を中心に演習を行いながら、保育実践における造形活動の内容と実践上の重要点について学修を進める。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		佐賀大学	保育表現演習Ⅳ（リズム表現）		保育表現の中のリズム表現について、基礎知識を獲得し応用する力を身に付けるための演習を行う。ボディパーカッションの教材例を自ら体験する中から、独自のアイデアを活用した教材を作成する方法を研究する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		佐賀大学	幼児教育と保育の原理	○	現在の日本の保育・幼児教育の施設種や制度、基本的理念について解説を行うとともに、そこに至るまでの歴史的背景について講義する。また、子育て支援、小学校教育との接続、海外の保育等の現状を紹介し、保育・幼児教育の今後の課題について解説する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	幼児理解の理論及び方法		各大学	幼児理解の理論と方法		幼児一人一人の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け、幼児期の発達の特性を踏まえ、理解を深めながら、幼児の生活の実情に即した幼児教育の基本的な考え方や方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目（第一欄）		各大学	特別支援教育基礎論	○	特別支援教育の基礎について総論的に講義する。障害の捉え方、障害児教育の歴史、特別支援教育の理念と制度、特別支援学校の教育と課題、小・中学校等における特別支援教育、特別支援教育の対象となる各種障害の理解と支援に関して概説する。	

専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目（第一欄）		熊本大学	特別支援教育研究法		特別支援教育分野において用いられる研究方法について総合的に講義する。特別支援教育と関連の深い心理学や教育学での各種の研究方法について解説し、先行研究を事例にリサーチクエスチョンに基づく研究法の選択について学ぶ。また複数の先行研究で得られた知見を解釈する際、用いられている方法に即したエビデンスレベルを踏まえて解釈することで、総合的に研究知見をとらえる力を身に付ける。さらに統計学に基づいてデータを科学的に分析することができるように基本的な分析方法について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （27 菊池　哲平／5回）第1回、第9回～第12回を担当する。 （86 本吉　大介／5回）第2回～第6回を担当する。 （82 半田　健／5回）第7回～第8回、第13回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	各大学	知的障害児の心理・生理・病理	○	知的障害のある子どもの障害の重度化、多様化に応じて、指導実践の理論的背景に踏み込んだ研究がなされている。本授業では、心理学や中枢神経系の機能、知的障害に関わる病理的側面、家庭・関係機関との連携の観点から、知的障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	熊本大学	肢体不自由児の心理・生理・病理	○	本授業では、肢体不自由児の心理、生理、病理に関する基礎的な知識を学び、具体的な事例を通して、それぞれの特性や支援の方法について検討する。また、家庭や医療機関との連携の重要性についても理解を深める。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	佐賀大学	病弱児の心理・生理・病理	○	健康に関する考え方や病弱（身体虚弱を含む）による教育的ニーズをもつ子どもの病気に関する心理、生理、病理的側面に関する理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	各大学	知的障害児指導法	○	わが国において、知的障害児の学習指導要領がどのような考え方によって編成されているのか、特別支援学校ではどのような学習指導法がとられているのか、そして、教育活動の質向上に向けたカリキュラム・マネジメントの考え方とはどのようなことなのかについて講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	各大学	知的障害児アセスメント論	○	知的障害のアセスメント法を学び、知的障害の知的機能や適応機能を評価し適切な支援を検討するプロセスについて理解を深め、知的障害児の指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	熊本大学	肢体不自由児教育総論	○	本授業では、特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の意義、編成方法、及びカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。また、教育課程の基盤となる特別支援学校教育要領に基づき、具体的な指導計画の作成方法を実践的に理解することを目的とする。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	熊本大学	肢体不自由児指導法	○	本授業では、肢体不自由児の特性を理解し、各教科等の指導における配慮事項を具体的に学ぶ。また、授業設計や教材開発の実践的なスキルを習得し、自立活動と関連付けた効果的な授業案作成を目指す。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	各大学	病弱児教育総論	○	病弱児・身体虚弱児の教育に関して、病弱および身体虚弱の概念、その意義、教育の場・就学、特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法、カリキュラム・マネジメント、進路指導、小・中学校における病弱教育、医療的ケア児の教育の観点から概説する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	各大学	病弱児指導法	○	病弱児・身体虚弱児とその教育に関して、病弱児・身体虚弱児の特性、病弱教育の意義、教育的ニーズ、教育の場、特別支援学校（病弱）における教育課程と指導法、カリキュラムマネジメント、進路指導、病弱教育の課題、重症心身障害児の教育の観点から概説する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	各大学	知的障害児教育総論	○	本科目は、特別支援学校教員免許を取得するためのオリエンテーション科目と位置付けている。知的障害について、その原因の生理・病理学的なメカニズムや知的発達に関する基本的な事項を解説する（心理・生理・病理分野）と共に、知的障害のある児童生徒に対する特別支援学校における教育の実態について、その特徴を解説する。さらに、障害のある子どもと関連する福祉的制度やサービス等について（療育手帳制度や児童発達支援・放課後等デイサービス、福祉就労制度等）について説明する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	佐賀大学	発達障害児脳科学論	○	発達障害のある子どもの障害特性や認知特性の背景にある脳機能の特徴を理解し、発達障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	佐賀大学	視覚障害児の心理・生理・病理		本授業は、視覚障害児童・生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導および必要な支援を実践するために必要となる基本的知識の習得を目指す。本授業を通して、視覚障害による学習上または生活上の困難とそれに対する適切な配慮や支援について理解する。 本授業は資料（スライド）を用いて講義形式で行う。 内容ごとに小テストを行い、知識の整理と確認を行う。 本授業は、視能訓練士として視覚機能の評価と支援に関する実務経験を有している教員が、視覚障害児童・生徒への支援に関して必要となる知識を実践的に教育する科目である。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （436 岡野（内川）真弓／8回）第1回～第8回を担当する。 （458 内川　義和／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	佐賀大学	聴覚障害児の心理・生理・病理		教員作成の資料に基づき、聴覚障害理解のための基礎、幼児から大学までの教育内容と配慮、社会保障制度までを概説する。特別支援教育領域の聴覚障害児・者に関する領域を「中心となる領域」とする科目である。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	熊本大学	障害児行動分析学		小・中学校や特別支援学校において発達障害・知的障害のある児童生徒が示す行動問題について、応用行動分析学に基づく支援を講義する。また、発達障害・知的障害のある児童生徒を含む学校・学級集団への支援や、ソーシャルスキルトレーニング、家庭や関係機関との連携についても講義する。	

専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	佐賀大学	発達障害児教育総論		発達障害について、各疾患の心理的特徴や教育的ニーズを学び、発達障害のある子どもの理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	各大学	重複障害児教育総論	○	特別支援学校では、幼児児童生徒の障害が重度化・重複化する傾向が見られる。本講義では、視覚障害や聴覚障害を含む重度・重複障害児に対する学校教育の取り組みを中心に論じる。具体的には、重複障害児の概念、心理的・生理的・病理的特徴、実態把握の進め方（観察・評価・アセスメント）、感覚や基本動作の発達支援、コミュニケーションの促進、教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント、個別の指導計画の活用、ならびに教育現場での具体的な実践例を映像等を用いて紹介する。また、重複障害児の特性に応じた指導法や支援の在り方について、教育実践例を基に考察する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	佐賀大学	ギフテッド・2E教育論		高い潜在能力をもつギフテッドや高い能力と障害を併せ持つ２Ｅについて、心理的特徴や教育的ニーズを学び、ギフテッドや２Ｅのある子どもの理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習（第四欄）		各大学	障害児教育実習	○	附属特別支援学校において、附属学校の教員の指導を受けながら、授業構想・実践、学級経営、障害児理解などについて学び、特別支援学校教師の職務に求められる実践的指導力の基礎を修得する。また、教育の基礎的理解や特別支援教育に関する科目で学習した理論を実践に結び付け、理論の活用を体験的に学ぶ。さらに教育実践における自分の体験を振り返り、今後の実践で取り組む課題を見出す。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			佐賀大学	教育実践フィールド演習Ⅰ		配属校での様々な体験活動を通して教育への関心及び教職への意欲を高めることを目的とする。 配属校に3日間体験活動に行き、参与観察を行う。グループで振り返りを行い、各自報告レポートを書き、気づきを共有する。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			佐賀大学	教育実践フィールド演習Ⅱ		１単位時間の授業づくりに関する課題に個人で取り組む。学習指導要領や教科書、先行の授業実践を検討し、課題に応じた学習指導案、授業で用いる資料や教具等を作成して模擬授業を行い、授業改善を重ねる。作成した学習指導案等によって教育実習において実地授業を行い、その成果と課題及び具体的改善案について個人でリフレクションレポートにまとめる。また、これらの活動を通し、小学校・中学校教育実践に関する問題意識と教職への意欲を高め、卒業研究につながる積極的な態度を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			熊本大学	教育実践研究指導法演習		種々の体験活動等を通して、子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、実践的指導力の基礎を身に付けることができる。教育学部学生がボランティアとして、熊本市内の公民館、熊本市教育委員会生涯学習課、熊本県生涯学習推進センター等と連携・協力しながら、子どもとかかわる種々の体験的活動等を自主的・主体的に企画・実施し、体験的活動等を通して、主として公立小・中学校の子どもたちと触れ合い、子どもの気持ちや行動を理解できるようになる。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			熊本大学	教育臨床体験演習		教育相談や生徒指導に関連して、現代の教育現場における様々な課題の中でもクローズアップされている不登校の児童・生徒の理解と支援に関して体験的に実態を学び、教師としての資質向上を図る。具体的には熊本市との連携事業として行っているユア・フレンド事業での研修と体験活動を通して、教育相談や生徒指導に関しての児童生徒の理解と知識・技能の習得を深める。熊本市教育委員会と教育学部が連携しておこなっているユア・フレンド事業の体験活動と活動のまとめを通して得られた体験的知識の習得につとめる。演習は2名の教員が共同で行う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			熊本大学	教職実践基礎セミナー	○	教員として求められる４つの事項「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項」を踏まえ、実践的指導力を有する教員としての自覚と基礎的な資質を育成する。前期：学校・教育現場の観察・体験を通して、現在の学校や教育現場の実態、児童生徒像について理解を深める。後期：学校・教育現場の観察・体験を通して、現在の学校や教育現場の実態、児童生徒像について理解を深める。さらに、１年間の演習を総括して学校体験を多面的に省察し、教育学部における自らの学びに関する課題を明確化する。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			熊本大学	初等教育課題探究	○	初等教育における様々な課題のなかから、学生が自らの問題関心に応じた授業を選択し、課題解決に向けての学びを深めていくことを目的とする。いじめや不登校、発達障害、ICTの活用、外国にルーツをもつ子どもの教育、子どもの貧困などの現代的な教育課題、あるいは学級経営、防災・減災教育、SDGs、STEAMといった教科・領域横断的で総合的なテーマなど、多様な授業内容（テーマ）を設定し、選択したテーマのもとでインタビュー調査やグループ・ディスカッションなどの多様な方法を用いて、学生自身が探究的に学んでいく。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			熊本大学	小学校教科指導探究（国語）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			熊本大学	小学校教科指導探究（社会）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	

専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	小学校教科指導探究（算数）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	小学校教科指導探究（理科）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	小学校教科指導探究（英語）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	小学校教科指導探究（音楽）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	小学校教科指導探究（図工）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	小学校教科指導探究（保健体育）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	小学校教科指導探究（家庭）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	実技系教科指導探究	○	新たな時代の教育に求められるものとして、少子高齢化やグローバル化の一層の進展、地球規模の環境問題や貧困問題の深刻化、AI 時代の到来、大規模災害や感染症の流行などがある。そこで、それらに対応できるような能力育成を行う。年次教職実践基礎セミナーで実施する内容の計画・実施を各グループで実施する。4～5人程度のグループ単位での活動となる。予測困難な事態にも対処しながら、SDGs（持続可能な開発目標）やSociety5.0 の理念等に含まれる新たな諸価値を創出していく力を育成する。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／4回）第1回～第4回を担当する。 （40 八幡　彩子／4回）第5回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	熊本・学びの最前線	○	学校現場でも活用できるプレゼンテーションに関する知識・技能の獲得をして、実際に活用できる力を修得できる。児童・生徒が効果的に情報活用能力を身に付けるために教員として必要な技能・考え方の基礎概念を学習する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／3回）第1回～第3回を担当する。 （37 前田　康裕／8回）第4回～第11回を担当する。 （195 大塚　芳生／4回）第12回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	日本語教育指導探究	○	外国につながる子どもたちを日本の公立学校で受け入れる際に求められる日本語指導とは何かについて、県内の公立学校（地域拠点校）での観察実習や附属学校国際クラスでの教育実習の経験を踏まえて吟味・検討する。具体的には、(1)ことばの豊かさ、思考の豊かさ、こころの豊かさの関係について、(2)異文化間移動に表出する子どもの人格形成上の課題と日本語指導について、(3)対話型日本語能力測定から見た学校生活支援と教科学習支援について等の観点から考察を行う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	地域教育課題探究	○	①子どもたちに夢を与え子どもたちの夢を叶える教育とは、②地域発の教育改革・実行プランとは何か、③令和の時代の学校教育に求められる教員の資質・能力とは何かについて、２週間にわたる宿泊型教育実習を通した学修内容を踏まえ、ローカルかつグローバルな視野から探究し省察する。子どもの視点に立った地域発の教育改革プランの実際について深く学び、子どもが主体となる授業運営・学級運営・学校運営のあり方について教育実習のレベルで省察し、ローカルな視点とグローバルな視点を融合させながら令和の学校教育に求められる教員の資質・能力とは何かについて、再帰的に学び探究する態度や姿勢を身に付ける。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本大学	グローバル教育課題探究	○	教育の国際化に向けて、学習指導要領の内容を日本語と英語で授業を行なうイマージョン教育とは何かについて、県内の公立学校（地域拠点校）での観察実習や附属学校国際クラスでの教育実習の経験を踏まえて吟味・検討する。具体的には、(1)言葉の発達と概念獲得のあいだに言語の違い（母語と外国語）はどのように影響するか、(2)語彙が安定的に増えて行く際に記憶はどのように働くか、(3)教育のDX化はイマージョン教育にどのような効果をもたらすか等の観点から考察を加える。	

専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		佐賀大学	幼小連携・小中連携教育論		前半は幼小連携教育の実態や課題について、教育制度、発達心理、認識論の視点から考察をする。後半は教科で異なる小中連携教育の実態や課題について考察するとともに、小中連携教育の展望について考察をする。 （オムニバス方式／全15回） （8 栗山　裕至・14 成松　美枝・16 達富　洋二・17 中西　雪夫・23 石井　宏祐・56 名倉　一美・94 大林　将呉／1回）（共同）第1回を担当する。 （56 名倉　一美／1回）第2回を担当する。 （14 成松　美枝／2回）第3回～第4回を担当する。 （50 石井　宏祐／2回）第5回～第6回を担当する。 （8 栗山　裕至／2回）第7回～第8回を担当する。 （16 達富　洋二／2回）第9回～第10回を担当する。 （93 大林　将呉／2回）第11回～第12回を担当する。 （17 中西　雪夫／2回）第13回～第14回を担当する。 （16 達富　洋二・17 中西　雪夫・93 大林　将呉／1回）（共同）第15回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		佐賀大学	ＬＤ等学習指導法		学習や行動上の困難があり、支援を必要とする通常学級に在籍する児童生徒は8．8%にのぼり、通常学級において特別支援教育を行う事が当然の時代になっている。本講義では、学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害や関連する実態のある子どもの理解を深め、アセスメントの方法、学級経営上の配慮や指導上の工夫の基礎を学ぶことを目標とする。また講義内容に応じて、ペアワーク・グループワークやICT機器を用いたアンケート等を適宜行う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		佐賀大学	大学生の道徳・倫理		本授業では、教職の学びとして「特別の教科 道徳」の内容理解を深めることと、一人の人間として道徳学習当事者としての態度形成を図ることの２側面をねらいとする。授業は講義形式による知識習得だけでなく、個々の調べ学習やグループ学習によるワーク形式など多様な学習形態で学びを深めるため、協働的学びへの積極参加を求める。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		佐賀大学	教育統計		教育における統計的考え方の必要性を理解し、社会科学の諸領域で用いられる統計的手法のうち基礎的なものを習得する。また、具体的な課題に対して、その数量的な把握と統計的な検討から適切な解決を導く基礎的な力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		熊本大学	人権教育論		以下のさまざまな観点から、現代日本の人権問題について考えながら、２１世紀の人権教育及び共生社会のあり方を考える。①人権の原理を知る、②人間の性と人権について知る、③定住外国人の人権について知る、④ハラスメントについて知る、⑤子どもの権利について知る。多様なゲスト・スピーカーを迎え、より具体的、実践的に人権教育について考えることができるようにする。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		熊本大学	教職保健		本授業は、学校保健および学校安全に関する法律や制度の概要、子どもの心身の健康の保持増進および健康や安全に関する医学的知識や情報、さらに健康安全に関する具体的かつ効果的な指導法や現代的健康課題への対応など、学校保健・学校安全に関する知識の修得とその活用を目指した授業実践や事例検討を行う。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （198 大沼　久美子／11回）第1回～第3回、第6回～第10回、第13回～第15回を担当する。 （373 長谷　真／2回）第4回～第5回を担当する。 （371 秋月　百合／4回）第11回～第12回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		熊本大学	教育評価		指導と評価の一体化という考え方を理解し、評価を教育実践に活かす具体的な方法を考えることができることを目標として、教育評価の目的を問い直し、その歴史的位置づけや機能や様々な評価方法の特徴について解説し、教育実践において評価を用いる意義や適切な評価方法について解説する	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		熊本大学	学校経営学		本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の３点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		熊本大学	児童・生徒の性的問題に係る教育支援		本講義では、児童・生徒による性加害の予防と対応に焦点を当て、性加害を行う子どもの心理や、彼らを取り巻く環境の特徴について学ぶ。性加害に関する基礎知識を習得した後、専門的な教育的介入法を紹介し、実践的な対応方法を考察する。さらに、性加害を防ぐための学校全体での取り組みや、関係機関との連携の重要性についても触れる。特に、教師として性加害を起こした児童・生徒を理解し、チームワークを活かしてどのように支援するべきかを学ぶ。これにより、児童・生徒が性加害行動を起こした際、冷静かつ適切な対応ができる力を養うことを目指す。実際の場面で役立つ知識と技能を身に付けるため、ケーススタディを通じた実践的な学びを重視する。	
専門教育	専門科目	卒業研究		各大学	卒業研究		明確な研究題目の設定と方法論に基づく調査・研究を行い、卒業論文を執筆し、発表を行うことができるようになる。卒業研究を行い、探究的な学びに関する以下の資質・能力を高める。・取り組む課題の背景や研究の意義、動機を明らかにできる。・先行研究を調査し、取り組む課題の位置づけを行うことができる。・課題を解決する方法（観察、実験、調査、シミュレーションなど）を考え、解決を試みることができる。・成果をまとめて卒業論文を作成することができる。・成果をまとめて卒業論文の内容を発表することができる。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	演習・実習	熊本大学	心理演習		臨床心理学の知見を活かして活動するために必要な知識と技能の基本的な水準の獲得を目的とし、支援対象者とのコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援・連携に関する演習課題を行う。具体的には、支援対象者の理解とニーズの把握をケースフォーミュレーションとしてまとめる課題、地域やチームでの連携・支援の計画の立案、それぞれの支援活動にかかる倫理的配慮および法的義務についてプレゼンテーションおよびロールプレイを行い議論する。	

専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	演習・実習	熊本大学	心理実習		臨床心理学の学習は、基盤となる心理科学の基礎的知識の獲得を目指した学習を土台に、臨床心理学や近接領域、研究法、関連する倫理と法を学ぶ講義と、それを文献研究やロールプレイなどを通して学ぶ演習、現場での体験を通して学ぶ実習の大きく分けて3種類によって構成され、それらが相互に関連しながら系統的学習がなされる。本心理実習では、それまでの講義・演習などで学習してきた知識・技術をふまえ、保健医療、福祉、教育、産業分野における現場での心理学的支援の実際を体験的に学ぶ。それらを通じて、心理学と現場での活動を結びつけるとともに、社会の福祉的利益の増大に寄与するための基本的な態度や姿勢を身に付ける。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	公認心理師の職責		心理職における専門性について理解を深め、保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働分野における心理専門職の実際のはたらきについて知るとともに、実践において求められる法制度の知識と、心理専門職としての倫理と基本的姿勢を学ぶ。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	知覚・認知心理学		認知の低次過程といえる感覚・知覚等の無意識的な機能から、問題解決や判断・意思決定などのより高次で意識的な認知機能のしくみを解説し人間の認知のメカニズムについて学ぶ。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	学習・言語心理学		学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。言語習得の基本プロセスと言語の機能（役割）を学び、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしたり思考の道具として用いていることを理解する。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	神経・生理心理学		神経心理学の知見をもとに、脳と心は密接に関連していることと、人間の日々の活動はきわめて精巧な脳の仕組みによって成り立っていることを学び、脳が損傷されたときに人間がどのような症状をきたすのかについて理解する	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	障害者・障害児心理学		様々な障害のある人の理解及び支援を行う上で必要な、障害の基本的な捉え方、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などの各種の障害の概要、心理社会的課題と支援に関する内容を解説する。それらの観点を踏まえ、障害に対する早期支援や家族支援、地域援助といった障害のある個人とその人を取り巻く周囲を含む、心理社会的観点の基礎について概説する。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	健康・医療心理学		健康心理学の知見をもとに、ストレスと心身の疾病との関係、医療現場や保健活動における心理社会的課題及び必要な支援、災害時等に必要な心理的支援について学び、心身ともに健康に生きていくために必要なことについて理解する。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	福祉心理学		社会福祉の価値や理念、法制度、福祉現場で生じる様々な問題とその背景および必要な支援について解説し、福祉現場において生じる問題及びその背景についての理解や福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解する	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	司法・犯罪心理学		犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識と関連法制度、司法・犯罪分野における心理的援助・支援実務を理解する。　司法・犯罪領域における実務経験をもとに、公認心理師をめざす上で必須となる司法・犯罪心理学の基礎知識と関連法制度、犯罪・非行の今日的な問題、犯罪・非行の加害者や被害者の心理と彼らに対する心理支援等について講義する。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	人体の構造と機能及び疾病		人体の構造をマクロ・ミクロの両面から系統的に学ぶ。またさまざまな器官・組織の機能と、相互に密接に関連しながら機能している機能の調節をも含めて、トータルとしての人体の構造と機能を系統的に学ぶ。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	精神疾患とその治療		精神疾患にはどのようなものがあり、それぞれどのような特徴をもっているか、疾患をどのように診断し治療するのか、治療法にはどのようなものがあるか、精神疾患の当事者をとりまく社会制度や援助のための社会資源はどのような現状にあるか、このような基本的な知識・理解を獲得することを目的とする	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	熊本大学	関係行政論		公認心理師としての活動に関連する、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野に関係のある法律、制度について理解する。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		熊本大学	博物館概論		博物館及び博物館学に関する基礎的知識の習得を図り、専門性の基礎となる能力を養う。博物館の定義、種類、目的、機能を学ぶと共に、博物館の歴史と現状を把握した上で、現代社会が博物館に求める社会的意義と役割を理解する。併せて博物館の理念、目的、機能の哲学的な基礎を知り、そのあるべき姿を考え、博物館とはなにか、なぜ博物館が必要とされるのかを理解することを目的とする。授業においては、博物館の機能と役割、博物館学の理論と実践、博物館活動と学芸員、博物館法及び関係諸法規わが国の博物館事情等について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		熊本大学	博物館経営論		博物館の形態面と活動面において、利用者とミュージアムワーカー双方の立場に立った適切な管理・運営を理解し、生涯学習社会における博物館の意義と役割をミュージアムマネージメントの視点から読み解くための基礎的能力を身に付けることを目的とする。博物館の行財政制度と経営形態、博物館の組織と職員、博物館の施設・設備、博物館の経済効果、博物館の危機管理、博物館倫理、博物館ネットワークと地域社会等について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		熊本大学	博物館資料論		博物館資料の収集、分類、整理、保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動や資料公開の理念と方法等の理解を通じて、人文科学系・自然科学系双方の博物館資料に関する基礎的能力を養うことを目的とする。博物館資料とはなにか、人文科学系博物館資料・自然科学系博物館資料の収集、博物館資料の調査研究、博物館資料の活用について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		熊本大学	博物館資料保存論		資料の保存と公開（展示）という相矛盾した行為の意義を博物館活動の中で明確にし、博物館における資料保存及び保存・展示環境を科学的に捉えることを目的とする。併せて博物館の周辺地域における資源や文化遺産の保護と活用に関して基礎的な知識を身に付けることを目的とする。文化財保護の歴史から資料保存の意義を考える、文化財の保存と活用、保存環境と劣化要因、国宝・重要文化財の公開に関する取扱要項、公開承認施設制度、ＩＰＭと燻蒸について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		熊本大学	博物館展示論		展示は広範な人々を対象とした情報伝達手段であるが、博物館は資料を媒体として展示活動を行い、情報を伝達していることから、他の社会教育機関との相違を明確にしている。こうした観点から、博物館における展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことを目的とする。総合メディアとしての展示、コミュニケーション手段としての展示、展示の政治性と社会性、資料保存の観点からみた展示の両義性、展示技術について学ぶ。	

専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目	熊本大学	博物館教育論		博物館活動の総体を「教育」ととらえ、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。併せて、生涯学習社会における博物館教育の可能性を理解し、実践的能力を身に付けることを目的とする。人びとや地域との絆を深める博物館、過去と現在と未来をつなぐ博部館、博物館の総合力、成熟社会と博物館教育について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目	熊本大学	博物館情報・メディア論		博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開の課題等について理解を図る。博物館の諸活動を情報という観点から見直し、コミュニケーション充実のための適切な情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことを目的とする。情報の意義と役割、記憶装置と伝達装置、博物館資料のデータベース化、その現状と課題、知的財産権、権利関係への対応について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目	熊本大学	博物館実習Ⅰ		博物館実習Ⅰ（見学実習）は博物館実習Ⅱ（学内実務実習）及び博物館実習Ⅲ（館園実習）の前段階に実施し、様々な博物館（設置者別・法的区分別・館種別）の運営実態を学ぶことを目的とする。特にバックヤードの見学を通して施設及び設備の理解を深め、空調・照明・燻蒸設備等、資料の展示・収蔵に係る施設整備の在り方を学習すると共に、展示手法やボランティアスタッフの活用等、学芸員課程を履修する上で必要な全般的知識の理解を図る。また、館ごとの見学レポート及び終了後には総括レポートを提出してもらい、担当教員が添削をして受講生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を行う。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目	熊本大学	博物館実習Ⅱ		資料調査、資料撮影、資料登録、資料の取扱い及び梱包、あるいは展示・教育普及活動等における基礎的な実務能力を身につけ、館園実習に備えることを目的とする。グループごとあるいは各人が作成した企画書、レイアウト図面、撮影画像やキャプション等は最終段階で提出を求め、学内実務実習を体験しての反省・自己評価等をレポートにまとめ、それらを実習担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を実施する。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目	熊本大学	博物館実習Ⅲ		これまでの博物館に関する科目で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念と設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると共に、博物館資料の取り扱いや教育普及活動、来館者対応等における実務の一端を担うことによって、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、博物館で働く心構えを涵養することを目的とする。また、館園実習を体験しての反省・自己評価等レポートを課し、担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を実施する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授 業 科 目 の 概 要

（熊本大学教育学部共同教員養成課程）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	英語A-1		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。社会的、学問的なトピックや日常生活のトピックについて英語で話す積極性を養い、ダイアログでの適切な応答、プレゼンテーション、情報交換、ディスカッションなど、スピーキングの基本的なスキルとストラテジーを養う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	英語A-2		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	英語B-1		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。あわせて、書くことの基礎を培う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	英語B-2		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。さらに、身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。加えて、発信型の技能（スピーキングやライティング）につながる総合的なコミュニケーション能力の基礎を培う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	英語e		国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。大学での学修と国際コミュニケーションに必要な英語基礎力を身につけ、検定試験により各自の英語習熟度を測定し、その結果に応じて授業担当教員のメンタリングを受けながら、継続的に学修に取り組む。学期内に受験するTOEIC IPテストにおいて一定の水準のスコアを獲得することを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	英語C-1		広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けることができるとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能（スピーキングやライティング）につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（既修）	英語C-2		広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けることができるとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能（スピーキングやライティング）につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語Ⅰ-1		ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語Ⅰ-2		ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語Ⅱ-1		ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語Ⅱ-2		ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅰ-1		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組かクラス全員で一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅰ-2		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組かクラス全員で一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅲ-1		動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込見つつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、 日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅲ-2		動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込見つつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、 日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	中国語Ⅰ-1		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返し、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	中国語Ⅰ-2		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返し、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅰ-1		ハングルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やパッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「습니다体」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようにする。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅰ-2		ハングルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やパッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「습니다体」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようにする。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅱ-1		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅱ-2		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅲ-1		韓国語の中級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験（TOPIKⅠ・Ⅱ）に合格することを目的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中級レベルの文法と表現を身に付け、様々な問題を解きながら、試験対策（聞き取り、書き取り、読解）ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連付づけ、韓国社会と文化について学修する。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅲ-2		韓国語の中・上級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験（TOPIKⅠ・Ⅱ）に合格することを目的的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中・上級レベルの文法と表現を身に付け、様々な問題を解きながら、試験対策（聞き取り、書き取り、読解）ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連付づけ、韓国社会と文化について学修する。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語Ⅰ-1		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえでのロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリール文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように､定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語Ⅰ-2		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえでのロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリール文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように､定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ラテン語Ⅰ-1		ラテン語の単語の多くは様々に活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第１～３変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ラテン語Ⅰ-2		ラテン語の単語の多くは様々に活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第１～３変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語Ⅰ-1		スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語Ⅰ-2		スペイン語Ⅰ-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語Ⅱ-1		スペイン語Ⅰ-2に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語Ⅱ-2		スペイン語Ⅱ-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ヘブライ語Ⅰ-1		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ヘブライ語Ⅰ-2		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	イタリア語Ⅰ-1		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」・「聴く」などの基礎の語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	イタリア語Ⅰ-2		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」・「聴く」などの基礎の語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅰ-2		授業は対面で、ペア・グループによる聞き取り・口頭練習、導入文法を使った読み・書き練習を行う。この授業では、日本語の話す・聞く・読む・書くの４技能を身につけながら、N4 レベルの文法を学ぶことを目指す。N4レベルの文法を正しく理解し、習った文法を使って正しい文を発話し、書くことができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅱ-2		初級が終わった人を対象に、日常よく接する場面での会話の聞き取り力を高めること、さらに、聞く力を伸ばすことによって、話す力が身につくことを目的としています。登場人物の人間関係や場面が異なるスキットを聞き、タスクを通して内容の理解を深めます。さらに、それぞれの課の重要表現でポイントを確認し、会話の中で使う練習を行う。1. 自然に近いスピードで話される日常会話の具体的な内容が聞き取れるようになること。2. 人間関係や場面、トピックに応じた表現の違いがあることを理解し、自分でも正しく使えるようになること。を目標とする。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅲ-1		中級レベル以降の文法、語彙、表現を身につけて、より高い日本語レベルになることを目指す。中級レベルの大切な学習項目のアウトラインを示して、練習問題を中心に進める。１）中級レベル(日本語能力試験Ｎ３-Ｎ２レベル)の日本語力を付け、日本語能力試験N2に合格することができること。２）中級レベルの文法や語彙を使って、文章を読んだり書いたりすることができること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅲ-2		授業では、様々な資料を読んだり、その内容について議論したりしながら、いろいろな分野で使われる語彙を増やし、総合的な日本語力の向上を目指します。読みのストラテジーやスキルを使い、おおまかな意味が早く・的確に理解できるようになること。様々な話題について聞き手のことを配慮した表現や話し方ができるようになること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅳ-1		日本語能力試験N1レベルの文法項目について、その意味・接続・用法・使用制限などを解説する。その後、練習問題を解いて、定着を図る。また、語と語を結びつけて意味の通る文が作れるよう、実際に文を組み立てる練習問題や、まとまった長さの文章の中で文法項目がどのように使われているかを考える練習問題にも取り組む。日本語の読解力や表現力を支える表現文法を学び、既習文法や類似文法との用法・意味の微妙な違いを比較・考察し、練習問題を通して確実に使い分けができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅳ-2		中上級レベルの日本語学習者（日本語レベル4-5，JLPT2級レベル）が、日本の大学生活で必要とされる「公の場でまとまった内容のことを話したり議論したりする」練習をする。主な活動として、「スピーチ」「ディスカッション」を行い、それぞれのテーマの最後には、発表を行う。留学生が大学生活の場で必要とされる「スピーチ」や「ディスカッション」について、大学生に求められるレベルのまとまった内容で、できるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	情報科目		ICTリテラシー		大学生活に必要なITスキルを身につけるとともに、ネットワーク社会で生きて行くための情報の収集・作成の基礎を修得する。具体的には、パスワードの取り扱いを始めとする情報セキュリティの基礎や電子メール等のオンラインコミュニケーションにおけるネチケット、検索エンジン等用いた情報収集、著作権・知的財産権を理解した上での引用を学び、構造化された文書を作成する能力を身につける。また、不特定多数が利用するWebサービスを含め、情報セキュリティ・法律・情報倫理についても学ぶ。	
教養教育	基礎科目	情報科目		DSリテラシー		データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習することで、社会における事象を適切に捉え、分析・説明できるようになることを到達目標とする。また、インターネット上での情報発信に必要となるWebサイト作成能力、Webアプリケーション活用能力も併せて身につける。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスに用いられる手法と得られる結果の解釈について把握するために、統計学の基礎的内容を概観するとともに、データサイエンスの手法について説明する。また、インターネット上で情報発信を行うための基礎としてHTMLの基本構造やスタイルシートについて併せて学ぶ。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		文系のための数学入門		文系の学生が数学とはどのような学問なのかということを理解し、数学の考え方や使い方を身につけることを目的とする。データサイエンスに関する基礎的事項を理解し、実際にR言語を使用してデータの整理や関係の分析、推定や検定ができるようになることを目指し、データの整理から統計的な分析手法までについて取り扱い、実際にR言語によりそれらの処理ができるように、演習を踏まえて講義する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		数学の世界		初等整数論に登場する基本的な用語、概念、定理を学び、それらが暗号にどの様に使われているかを理解する。過去の統計活動および確率論に基づく統計学の形成過程について学び、現代社会における確率・統計の役割を知る。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスにおいてはどのような方法で結論が導かれるか、どのような利点や問題点があるかを把握する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		物理学入門		高校の化学で習ったような物質の成り立ちや性質を電子レベルのエネルギーや運動量という観点から眺めることにより、化学の知識を物理学的な観点から直観的かつ本質的に理解するという学びを通じて，物理学的思考方法を身につける。力学を通して、物理法則である数式で自然現象が説明できることを理解する。現代天文学の基礎事項を学び、我々が住む宇宙についての認識を深め、また天文学の背後にある現代科学の素養を身につける。高圧下での物質の挙動の理解を深めるために、圧力に関する歴史を学び、基礎的な物理法則を習得し、生活の中さらには自然界に存在する圧力とその仕組みを理解すること、さらに高圧下で実際に物質が見せる挙動、現象についての知識を深める。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		教養の化学		持続可能性について科学的に理解を深めるために，元素の周期表に基づいて物質の世界を化学的視点で捉え，考察できるようになる。人々のくらしで活躍しているガラスについて，その基礎と応用について化学的視点で説明できるようになる。また、持続可能性の課題を克服するために，ガラスが貢献できることについて提案できるようになる。化学がどのように生まれ進化してきたかを学ぶことで、現代の日常生活を支える化学への理解を深めつつ、物事を多面的角度から見ることの重要性を学ぶ。様々な化学的事例を取り上げその化学的特性につて考えることで、特徴や性質について覚えるのではなく、考えて理解する化学の基礎を習得する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		生物の世界		過去のノーベル賞受賞研究を紹介する共に、現代における生命科学とどう繋がっているのかを理解する。生き物にみられる環境適応の多様さ・巧妙さを知るとともに、それを創出してきた自然選択(自然淘汰)および進化の原理について正しく理解できるようになる。基本的な生物学的事象を講義し、実験・観察で実際に確認して生物の本来の姿を理解し、生物学的な思考を身につける。生命の設計図である遺伝子DNAを理解し、生命がどのようなシステムで成立しているのかを説明できるようになる。地球上に生命が誕生してからどのように進化したのかを説明できるようになる。水の中にいる生物の驚くべき特徴や生態について学ぶとともに，実際に自分でも特定の生き物や水に関わる事象について調べ，それを分かりやすく発表する。私たちの体がどのように発生し、次世代に命をつなげているのかについて理解する。植物が環境に応じて成長するしくみを学び、その生物学的な特徴と、私たちとの関わりについて理解する。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	地球環境の現状と人類		この宇宙の中で、我々の住む地球とはどのような星なのだろうか。太陽系の各惑星、さらには、太陽系の外に存在する惑星に関する最新の探査、観測よって、宇宙には実に様々な惑星が存在することが明らかとなりつつある。空間的にも、時間的にも広大な宇宙の中に存在するそれら惑星の姿との比較を通して、地球という惑星の存在を理解する。以下の項目について、最新のデータを紹介しつつ講義する。 ・身近な天体－月、太陽と地球の関係と暦 ・太陽系の大きさと宇宙の時間、空間スケール ・地球－月系の特徴と、地球形成以来の地球環境の変遷 ・太陽系形成過程 ・太陽系外惑星系	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	持続可能な都市と地域づくり		熊本県で危惧される自然災害、および派生する社会的災害に対する基本的な知識を有するとともに、それに基づいて平常時からまちづくり等の地域活動に関心を持ち，災害時には適切で主導的な対応ができる知識と姿勢が身についている人材【減災型地域社会のリーダー】の育成を目指し，次の３項目を修得する。自然災害の基本的発生メカニズムを自然科学と社会科学の両面から学ぶ。災害に関する基礎的情報とそれらの取り扱い方，基礎的減災対策の事項を具体的に学ぶ。その上で減災リテラシー入門が目指す「減災型地域社会」の提示と，それに関わる様々なステークホルダーの役割と相互理解の必要性、減災リーダーに求められる資質を理解する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	豊かさを持続させるものづくり		地球温暖化を紹介し、環境問題を抑制するPPTを用いた再生可能エネルギーの基礎研究について説明し、バイオマス・エネルギーに関する基礎知識を理解する。毎回、先端の科学技術にかかわるいくつかのトピックを取り上げて講義し、科学技術発展の現状を理解するとともに、現在ある課題を理解することに加えて、科学技術の未来について学ぶ。本授業を通じて、エネルギーと社会・暮らしとの関わりについて考えを展開していくためのきっかけや手がかりを見出し、広く深く思考展開ができることを目指す。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	日々の生活に垣間見る情報と通信		テレビ、ラジオ、携帯電話など、電波を利用した電子機器がいかなる機能をもつ部品と回路の組合せでできているかを、電波の原理を学ぶ講義と中波ラジオの製作実習を通して理解する。ハードウェア、ソフトウェアの基礎を解説、誰にでもできる簡単な指導を行い、スイッチやセンサの値を読み取ることができたり、LEDやモータを制御することができたりするようになる。基本的な電波通信の仕組みを理解し、教員やTAのアドバイスのもとで、電気回路の配線と機器のデザインができることを目指す。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	倫理学入門		現代社会の倫理的問題に関して、その内容や問題の射程を理解し、それらについて、倫理学的な考え方を踏まえて自分の考えを持つことができるようになる。小・中学校の道徳の授業で用いられる教材をいくつか取り上げ、そこに含まれる価値や規範（規則遵守や生命尊重、公平・公正や思いやりなど）について哲学・倫理学の観点から考察を深める。また、善・悪や正・不正について子どもたちが抱く素朴な疑問について、大人はどう向かい合えばよいのかを考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	心と世界		人間の生命活動を論じる上で、中心的なテーマとなる心と行為について、心とは何か、人間とは何か、なぜ行為が問題か、なぜ哲学の中心問題は心と行為か、行為の正・不正、正義、幸福、行為の選択をめぐる問題等について論じ、心、行為、人間、意志、自由といった基本的な日常語について理解を深めた上で、これまでの自分の考え方を、少しでも自分で見直すことができるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	思考と論理		現代論理学（自然演繹法による）の基礎を学び、論証（推論）の正しさを見分ける技術と感覚を身につける。この授業では、現代論理学の基礎にある概念や記号法、証明技術を学んで、論理的に考える手助けとし、さらに論理とは何かについて理解を深めることを目指す。本授業を通じて、日本語文の論理構造を把握し、十分に形式言語で表記ができ、また論理学の証明方法を使って推論の妥当性を容易に証明できるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代心理行動学		特別支援教育に含まれている心理学的なトピックスを取り上げ，講義を受講後，グループで協議し，授業後にMoodle上のまとめテストに解答することを通じて人の「こころ」についての理解を深める。また，グループ協議を通じて，多様な人との社会性を身につける。心理学の観点から発達をとらえ、また様々な発達の障害について理解することで、人間の生涯発達の諸現象について深く考察する。「社会」の中における対人関係スタイルの成り立ちを理解し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	こころの科学		こころについて科学的に見たり考えたりする方法を学修する。こころについて、心理学の幾つかの領域（心理学全般、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学、周辺領域）から学修し、様々な領域にわたって心理学に関する基礎的な知識を身につけ、生活場面で活用できるようにする。また、不登校について取り上げ、不登校の対象理解と対処や不登校が果たす社会的機能について学ぶ。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	芸術文化論		”現代音楽文化”の基本となる西洋音楽の歴史と理論を学ぶことにより、豊かな教養と感性を身につけ、さらには世界における”自分の文化”を考えることができるようになる。スペクトル楽派、ミニマル・ミュージック、ポスト・ミニマリズム、新ロマン主義、パフォーマンス作品、楽器によるミュージック・コンクレート、引用の音楽、ノイズ、ミュージック・シアター、国際的に活躍するアジアの作曲家の動向、担当教員の自作品について、多くの視聴覚資料を用いながら解説し、興味・関心を持った21世紀の作曲家、作品について自ら主体的に調べ学習を行い、知識を高め、より深く理解し、自らの言葉で詳細に説明することができるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	文学の諸相		文豪たちが生み出した近・現代の日本文学について、その時代に良いと思われていたこと・悪いと思われていたこと、作者が良いと思っていたこと・悪いと思っていたことの相関関係において講じ、時代との関連においてどのような文学的表現が出現するか歴史的な知見を得る。他言語で書かれたテクストをもとに、「食」に焦点をあて他文化や他言語について学ぶ。食や言語をめぐる様々なテクストに触れ、他文化について深い知識を身につける。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	モノが語る歴史		日本を中心に東アジアにおける食文化の実態と変遷について、考古学の最新成果を通して理解する。また、文献史学、民族学、さらには理化学分析などの成果と考古学を融合しながら、いかにして食文化の歴史的側面に迫ることができるのかを考える。様々な角度から主食を中心とする食文化を眺め、相対化することで日常的な食事の歴史的成り立ちを学びます。特に、考古学は過去の人々の日常的な食文化を復元するのに最適な学問です。それに文献史学や民族学を加え、さらには近年その成果が蓄積されつつある化学分析を合わせることで、より具体的な食文化の歴史的実態にアプローチします。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	地域の世界史		現代中国にも大きな影響を残しつづけている近代以前の中国の社会と国家の仕組みと特質を知り、人類社会の多様性を理解する。近代イギリスの歴史と文化についての知識と理解を深め、現代イギリス社会やイギリス文化の歴史的起源を長期かつグローバルな観点から説明できるようになる。現代イギリス社会の問題やイギリス文化を歴史的な観点から説明できるようになる。韓国の社会と文化についての知識と理解を深め、日韓の異なる文化や価値観を共有し認識することで、現代の日韓関係の在り方を考える。西洋の中世史、近世史、近代史に関する基礎的な知識を摂取しながら、その流れを大まかに理解し、世界史における西洋世界の位置づけの変化を理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	日本社会の歴史		江戸・明治時代の歴史から、日本人の意識や心性の形成過程を考える。歴史学を実証的に分析するには、物事を客観的かつ理論的にとらえる能力が求められます。そして理論を実践的に転換する手段として、博物館をテーマに取り上げ、まず博物館の歴史的変遷を正しく理解する。その結果、今後あるべき日本の博物館、さらには地域の文化行政のありかたについて考える。260年以上も続いた江戸時代を終わらせ、現代日本につながる社会をもたらした明治維新という変革について知り、その意義を理解できるようになる。戦国時代と現代との繋がりを理解し、また、戦国動乱が収束して内戦が長く凍結された要因を探ることで、未来に向けての平和主義の発展のための歴史的基盤を探求する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	法学の基礎		民事事件の重要な問題について、基本的知識を得た上で、受講生が具体的に筋道を立てて思考し問題解決を図ることができるようになる。法律学の基本的な考え方を知り、身近な問題に対して法的知見に基づく理解力・洞察力を身につける。基本的な消費者取引関連法の概要が理解できる。消費者取引のトラブルについて、解決方法を導く力を身につける。消費者に縁の深い決済方法について理解できる。法哲学という学問分野の中でも「法とは何か」という問題に取り組む法概念論を研究し、「法」の概念がいかなる内容と問題性を有しているのかを検討するとともに、「法」の概念を用いることで私たちは結局何をし（ようとし）ているのかを探究する。 探究を通して、主に法を素材にしつつ哲学的思考法を習得する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代政治の諸相		実際の新聞報道など毎回実践に即したテーマを取り上げ、新聞報道の役割、ジャーナリズムについての理解を深め、新聞、テレビを中心にしたメディアの特性を学びながら、それを取り巻く現状や課題を認識し、ジャーナリズムに関する知識を習得する。水俣病やハンセン病、免田事件、赤ちゃんポストといった熊本における普遍的なテーマを取り上げ、地域課題と地方紙の役割について多角的に考察し、ネットメディアが台頭する中で、ローカルジャーナリズムの意義について考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	最前線の社会文化研究		対象に応じた調査手法の選び方と調査設計の手法についての基礎知識および技術を身につける。主に民俗学で研究対象とされる「生業」を元に授業を行い、具体的な遊び方についても紹介し、様々な自然と触れあうための意欲と知識を養う。偽史や都市伝説、陰謀論などといった社会の中に流通する「物語（ナラティヴ）」に関する研究の最前線を紹介し、最新の研究動向を概説し、現代社会における物語（ナラティヴ）の位置づけについて考える。世界遺産の概要とそれをめぐる現状を概観し、世界遺産と現代社会の関係を理解する。熊本の伝説や祭礼に関する知見を増やし、身近な素材から学問的課題を発見することを通じて、より広範な現代社会の諸課題への理解を深める。自然について多様な角度から見る力を養い、人との関わりからみえてくる自然とはどのようなものかを理解する。ユーラシアからアフリカまで広がる世界の牧畜の歴史と現状を概観することで、人間と動物と土地とのつながりを理解する。メディアと社会の関係について考えるための基礎的な知識や考え方を身につける。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代社会の解読		＜水俣病＞事件の歴史性と現代性の解読を試み、＜水俣病＞事件の現代的な意義について多角的な視点で考えられるようになる。地域社会学の基礎的知識や社会学の考え方（理論、方法、概念など）について講義し、それらの知識や概念を習得し、社会学的な観点から現代社会における課題について考察する力を養う。社会調査について、基本的な用語と考え方を学ぶ。わたしたちがいまどのような社会に生きているのかを、近現代における国民国家の形成やグローバル化を手がかりに理解し、考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	自然と人間の地理学		地域の諸問題ついて，特に熊本県や九州の事例を交え，地理学的観点から現状と課題を考察する。 地理学ものの見方と考え方およびアプローチ方法を理解する。現代社会が抱える環境問題や社会問題が起こる背景や要因を地理学的に理解する。人間生活と自然環境との関係を多角的に見る力を養う。熊本が7年前に地震被災地となったことをうけて、地震等の自然災害の被災地が，どのように復旧・復興したのかしなかったのかを知ることにより、地震被災地としての熊本の将来を考えることができるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	数学と文化		高等学校を用いて理解できる応用数学の様々なトピック(折り紙，2進数，　アルゴリズム，素数，ゲーム，グラフ，統計)を扱い、高等学校までに学習した数学を基礎として、応用数学に関する様々な話題を取り上げ、現代数学を理解する。高等学校までに学習した数学を基礎として、主に代数学に関する話題を取り上げ、現代数学を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	物理学の世界		広い視野をもって社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応できるように，特に材料工学の視点から幅広く深い教養を身につける。また国際的な活躍ができる人材の育成を目的として，材料工学分野を拠点とする世界が直面する課題とその解決方法を考える。地球以外に生命が存在するのかどうかを科学的に考察する力を身につけ、必要な自然科学の広い知識を身につける。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	暮らしと化学		生体および環境のさまざまな事象について化学的に考えることができる基礎的な知識を身に付ける。身の回りに存在する化学的な現象や事項について、あらためて目を向け、その原理や概要を理解する。化学的な理解を深めることで、不意の事故の防止や、有用な現象の利用を拡大することが可能となる。高校の教科書にも載っているような基本的な有機化合物について，その“かたち”を決める原理を考察できるようになる。さらに，便利で豊かな生活が様々な有機化合物によって支えられていることを実感できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	化学と環境		大気の歴史や大気に関連する環境問題を主に化学の視点より講義し、大気や空気について理解を深める。大気の構成や成分を把握し，大気に関連する環境問題の現象や影響を化学的な視点で理解する。複雑な化学反応で維持されている人体への化学物質によるポジティブな影響やネガティブな影響についてメカニズムを理解する。また，化学の目で健康をいかにとらえているかを理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	最先端の生命科学		植物の形づくりと環境応答、細胞の構造と振舞いについて学習し、最先端の植物科学研究を理解するための素地をつくる。バイオリソースの重要性を理解し、実験動物及び動物実験に関する正しい知識を身に付ける。ヒト免疫不全ウイルスHIV-1等の感染症について、ウイルス、造血および免疫の観点から学ぶ。遺伝の基本的な仕組みの学習を通じて、栽培化・家畜化・育種等の生物と人類の多面的な関わり方の背景となるメカニズムを理解する。進化の基本を学び、節足動物の一群（ヤスデ類）で見られる擬態現象の理解を通して、生物多様性創出の基本概念を理解することを目的とする。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	地球環境科学の最前線		海洋学の真髄である「海という視点」から分野横断的に海洋現象や海洋問題を解説し，これまでほとんど教わっていない“海洋学的知識”を食わず嫌いの領域から脱却してもらい、「海の理解者」としての素養を身に付ける。地球のシステムや古環境の変遷，生物の進化に関連する現象について理解する。熊本県下に特徴的な地質や地形に関連する現象について理解する。私たちの身のまわりに日常起こる現象に大気と水がどのように関わっているのかを解説し、地球が「大気圏」「水圏」「岩石圏」「生物圏」から構成される１つの「システム」であることを認識し、それらの構成圏の間にどのような相互作用が働いているかを、主に気象現象を通じて理解する。大気の組成や循環の変化を原因とするグローバルな環境問題がどのようなメカニズムによって引きおこされているか理解する。火山の研究，観測，教育，アウトリーチ，防災などに関わる専門家の講義を通して，火山に関するさまざまなテーマを学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	地域づくりと科学技術		人々の「くらし」を切り口として国内外の住宅を様々な視点から分析し、「よい住宅・インテリアとは何か」を理解する。地域や都市の基盤となる社会インフラの概要とその防災減災技術、まちづくりの理論と実践方法等について、自分の言葉で説明できるようになる。世界史や日本史に登場する都市を取り上げ、その都市の成り立ちから現在の姿を読み解くことで、その都市がどのような都市計画（自然発生的な成立を含む）によって形成されたのかを理解し、現在の都市計画の考え方や手法を説明できるようになる。歴史的な建築物や，それらが集まって出来上がった街並みや都市，石工や建築家に関するテーマを取り上げて，建築や都市と，社会や技術との関係を論じ、大学で学ぶことは何かを理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	ものづくりの科学と技術		エネルギー源の種類と特徴や社会・生活における利用形態について自主的に学習し、自分なりの考え方を持てるようになる。またクラス内での意見交換を通して、主張の方法と他人の意見を聞く柔軟性を身につける。科学技術と暮らしにかかわるいくつかのテーマについて考え、科学技術が暮らしとどのようにかかわっているのかを考え認識を深める。資源循環型社会を実現するためにはどのようにすればよいかについて、考える機会を持つ。資源やエネルギーの諸問題を解決するためにどのような科学的アプローチや取り組みが行われているかを学び，主に今後の製品化や環境負荷低減に貢献するナノ材料を化学的な観点から理解する。食品、医薬品、プラスチックなどを題材にくらしの中にある化学物質とそれらを構成する元素について講義し、化学的見地からものごとを考える力をつける。社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応し得るよう、広い視野に立ち、幅広く深い教養を身につけられるようになること，および国際的な活躍ができる人材になれるよう，今日の世界が直面する課題を理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	暮らしと情報・通信技術		デジタル処理の原理を学び情報のコミュニケーションや人間環境のモニタリングやセンシングの原理と応用について講義し、現代社会の基盤を構成している情報・通信技術にかかわる知識や技術を学び，科学的な見方・考え方の素養を身につける。現代社会の基盤を構成している情報・通信技術に関わる知識や技術の一端を学び，これら技術の重要性を知る。現代社会の基盤を構成している電気エネルギーの発生や電気エネルギーの効率的利用や応用に関する知識や技術について知識と理解を深めます。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	健康の科学		人間の健康に影響を与える要因にはどのようなものがあるか多角的な視点から理解し、それらへの対処能力を養うために必要な知識やスキルを身につけることができるよう教授し、大学生活のみならず将来の生活も含めて具体的にイメージしてもらい、こころとからだの健康とヘルスケアについて理解し、自身の日常生活に生かすことができるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	病気の医科学		解剖学、病理学、生理学、脳科学、免疫学をそれぞれ専門とする教員が、医学を専門としない幅広い分野の学生を対象として、各回の授業テーマにあげた内容について基礎から解説し、誰にとっても大きな関心事である健康と病気について、氾濫する情報の中で根拠のない誤ったものに惑わされず、正しい判断ができるための科学的な知識と考え方を身につける。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	臨床医学の最前線		熊本大学病院における医療の最前線で活躍している各分野の専門家が、がん、生活習慣病、救急疾患、小児疾患などそれぞれの分野について最新の知識を提供し、がん、最新の医学の進歩について広く学ぶ。がん、生活習慣病、救急疾患、精神疾患など多岐にわたる病態を対象とし、研究や診断・治療法の進歩を紹介し、本科目を受講することで、最先端の医学研究や医療の概要を理解する。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と医学		第一線の医療を担う医師・歯科医師及び熊本県庁の行政担当者を招いて，こうした地域医療の諸活動と問題点等を講義し、それにより我が国の医療・保健・福祉について、医療従事者の視点や行政担当者の視点から概観し多面的に理解するとともに、将来医療や行政に携わる学生にとってのキャリア教育にもなりうる。一方、医療や福祉のことを広く身近な問題として捉えてもらえる内容としている。これを踏まえ、この授業の目的は，日本における医療制度（特に地域医療制度）を取り上げ、その諸活動と問題点等を学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	心身の健康と看護		現代社会における心身の健康について理解し、自らを振り返り，心身の健康を増進させる方策について考察する。我が国の疾病構造の変化ならびに生活と健康について理解し、自分や家族、地域の人々が健康的な生活を送るための知識や実践力を身につける。認知症や生活習慣病について学ぶことにより、超高齢化社会がもたらしている影響・課題について理解し、そのような社会状況のなかで、健康寿命を延長する具体的な取り組みや誰もがが安心して暮らせるまちづくりのために現在の自分たちに何ができるかを考察、実践することができる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	医療における理工学		放射線の医学・医療利用に関して社会へ対する理工学的貢献を理解することを目的として、放射線に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、放射線利用のひとつである医学・医療利用の原理および科学技術について学ぶ。本授業を通じて、放射線の基礎知識の修得、放射線の医学・医療利用についての理解、放射線利用とリスクに対する考え方の理解を深める。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代の医学検査		私たちが社会活動を営むうえで、「健康」は基礎となっている。しかし、私たちが暮らす「環境」や「感染症」などに代表される、健康を脅かす様々なリスクが存在することは事実である。本講義では、人類が直面してきた感染症について学ぶとともに、ワクチン、抗菌薬などについて学ぶことで、感染症リスクに対する対処法を学ぶ。また、世界的視点で感染症の流行状況を学ぶことで、健康格差について学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代医療と生命科学		古くて新しい糖の生物学的役割や糖（鎖）を利用した工業製品や医薬品の開発を理解する。また、プレゼンテーションを通じて、自己表現力を高める。医学以外の分野を専門とする学部学生が、現代医学で不可欠といえる免疫の基本的考え方について説明できるようになる。免疫学の基礎を学び、生体内で起こる免疫の仕組みを理解する。免疫疾患の発症機序や臨床所見を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	薬科学入門		生体機能物質の化学について、様々な視点から講義し、生体機能物質とは何か、また、なぜそれが生体に機能するかを理解し、それを他人に説明できるようになる。薬の科学について、様々な視点から分かりやすく講義し、薬にはいかなる種類があり、どのように探索・設計・最適化され、いかに効力を発揮するのかについて、それぞれの立場から深く理解し、その概要を説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と薬学		現代社会における人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因（遺伝要因、生活要因、環境要因）を把握し、その予防・治療に関する基本的知識を深めるために、健康と疾病の概念、疾病の予防（疾病の予防の定義、感染症とその予防、生活習慣病とその予防）、疾病の治療、伝統・伝承医療とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進などの内容を専門外の受講者にもわかるような平易な表現で解説する。現代社会を生き抜くためのリテラシーとして、薬と正しく付き合いその効果を生活に適切に活かしていくために、薬に対する正しい理解を深め、薬の使用に必要な薬学の概念・基礎知識を習得する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代教育について考える		障害のある人を包摂する、インクルージョンをめざす生活や教育のあり方について考える。家庭科の歴史、学校教育の選抜機能、家族の変遷等を考察しながら、各自のライフスタイルの確立に役立てる。日常生活を安心して送る拠点として自分に合ったより良い住環境を選択できる実践的な力を養う。自然と人間の共生について興味・関心を高め，自然環境と教育に関する現代的課題を見据えて未来の展望をもつことができる。論理･集合，代数，幾何，解析，応用数学等の中から，いくつかの数学的な話題に触れ，数学的に考えることを学ぶ。持続可能なライフスタイルの構築において、私たちが毎日の生活の中で抱えている問題を明らかにし、問題の解決方法を考え、解決に向けて実践する力を身につける。これまで自明視されてきた家族や子育て・教育のあり方について問い直すとともに、現代の親や子どもと教育の問題について理解する。日本本土とは異なる社会制度、公的社会教育が脆弱ななかで、沖縄の住民はどのように自治的に自らの生活と文化を育み継承してきたのか、社会教育の枠組みから考察する。教育における対話的コミュニケーションの重要性を中心に、社会的構成主義の学習観に基づいた学びの在り方について理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	心理学の探求		このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて，心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説し、心理学領域の代表的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることで，人間の行動を支える心の働きを科学的にとらえられるようになる。心理学的な考え方や、心や行動の諸現象について学ぶことで、人の心や行動を客観的に理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	芸術への招待		4分野実技（絵画　工芸　声楽）の授業として、１分野ごとの芸術実技の基礎的技能を学び、作り出す芸術実技を体感する。内容は初歩的なことであるが、芸術（音・美）が繰り広げる「魅力を生み出す力」を体験し、芸術を深く理解する。音楽、美術を通じて現代文化について学ぶ。また演習等で実践的活動を行えるようにする。本授業を通じて、芸術実技について魅力を知り、芸術への理解を高度に深めること、各芸術分野（絵画　工芸　声楽）について基礎的技能を学び、芸術に存する「生み出す力」を体感し、芸術実技を高度に身に着け、高度な表現力を培い教養とすることを目指す。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代と言語		日本語学という学問の視点から「いろいろな日本語」の姿を観察し，大いに楽しむ方法を紹介するとともに，私たちは自分（たち）のことばとどのように向き合っていけばいいのかを考える。日本各地でどのようなことばが使用されているかがまとめられている「言語地図」を解釈することを通して、日本語のバリエーションや歴史について理解し、身の回りのことばをバリエーションやことばの歴史という観点から考察できるようになる。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	現代と文学		文学テクストの読みと国語教科書・国語の授業という枠組みとの関係性について考える。日本古典文学が近現代の文学や海外に与えた影響について、時代や国境を越えて広い視野で考え、理解する。日本漢詩を読み、漢詩の詩型や押韻、基本的な知識を身につけた上で、漢詩を鑑賞する力を養う。異なる言語、文化の視点から見ることにより、日本の文学、文化への理解を深めるとともに、外国の文学、文化について学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代世界の形成と課題		薬害肝炎被害者、水俣病患者支援者、在日コリアンの方のお話しを参考に、日本社会の人権状況を正確に理解し、認識を深める。全体を通じて、人権や性の問題に真摯に向き合う基本的姿勢を身につける。国内最大のハンセン病療養所である菊池恵楓園を退所された方、また、ハンセン病問題に関わってきた様々な専門家（医師・研究者・新聞記者・弁護士）に、それぞれの立場から講義をしていただき、ハンセン病問題の歴史を踏まえて、正しい認識を構築する。核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語ることが出来るようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	最先端の法学		平成17年に制定された会社法は、現在の我が国にもっとも大きな影響を及ぼす経済主体である会社に関する法規範であり、また会社以外の企業主体に関する法規範にも大きく影響を与えている。本講義では、会社法をはじめとする企業組織に関する法規範やコーポレートガバナンス・コードなどを紹介するとともに、企業組織に関する最新の法的問題を紹介し、各自にその問題について自ら考える機会を持ってもらう。企業活動についての理解を深めてもらうとともに、企業組織に関する最新の法規制についても理解を深めてもらう。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と経済		経済学の基本的な理論とその応用を学習し、経済学の基本的な考え方ができるようになる。日常の生活に焦点を合わせ，その視点から，個人の意思決定から社会問題に至るさまざまな問題について考え、価格，コスト，嗜好（選好），収益，損失，リスク，インセンティブ，情報の対称性，ゲーム的状況などのキーワードをもとに現代社会を読み解く。経営学のうち、マネジメント、マーケティング、経営戦略論の基礎を学び、どのような学説があり、それはどのように活かされるのかを学生自身の言葉で説明できるようになる。韓国の経済発展をめぐる問題と現在直面している経済的社会的課題を取り上げ、それぞれの問題の概要や背景にある要因を多面的に理解し、自分の言葉で説得的に説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代の政治		我々にとって最も身近な政府である自治体、とりわけ自治体政治に焦点を当て、その現状と課題について考察する。現代世界の特徴について理解するとともに、様々な政治現象を自分の力で読み解くことができるようになる。近代日本の戦争を通じて、争点をめぐる外交交渉が武力行使に転換する理由、作戦計画における目的設定と実施過程における問題点、戦争を終結させる際にどのような困難があったのかを説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	学際科目		九州内の国立大学が協力し合い、九州各県・各地域の特色を活かして、それぞれの魅力について多角的に学修する。新聞記者の指導で文章作成を体験する過程で、メディアに関する理解を深め、情報を読み解く力（メディアリテラシー）、文章力などを高めていく。授業で多様なニュースに触れることで、社会の動きや課題についての認識も広げる。日本の財政、金融及び地域経済の現状等を知ってもらうとともに、税制や税関の役割や仕組み、さらには金融取引等の基礎知識等について理解を深める。将来の日本経済を担っていく学生に生きた経済や、より実践的な金融の知識を身につける。実際のビジネスの世界において発生している事案を専門士業（弁護士、公認会計士及び不動産鑑定士）の観点から整理することで、事案の本質を分析する目を養うことのみならず、ディベートを通じて網羅性等を担保した分析能力を習得する。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology Ⅰ		（英文） To understand the basic infromation on renewable energy pertinent to biomass.To understand the basic infromation on renewable energy or clean energy.To learn prominent scientists in multidisciplinary fields of science and technology, and how their works are shaping our future. To learn the fundamentals and terminologies in entrepreneurship, with reviews and analyses of some successful science-related businesses. The students learn coastal sustainability issues in various disciplines such as history, political, social/cultural, ethical and science and technology taking into consideration possible contribution to UN Sustainable Development Goals (SDGs) and a carbon neutral society.This course will explore information and communications technologies (ICTs) and their multidisciplinary applications to the social and natural sciences.Students will understand basic biological mechanisms, so that they will better understand environmental risks posed by pollutants including endocrine disrupting chemicals (EDCs). （和訳） バイオマスに関連する再生可能エネルギーの基礎知識を理解する。 再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの基礎知識を理解する。起業家精神の基礎と用語を学び、成功した科学関連ビジネスのレビューと分析を行う。国連の持続可能な開発目標（SDG）とカーボン ニュートラルな社会への貢献の可能性を考慮して、歴史、政治、社会/文化、倫理、科学技術などのさまざまな分野で沿岸の持続可能性の問題を学ぶ。情報とコミュニケーションを探求する。学生は基本的な生物学的メカニズムを理解し、内分泌攪乱化学物質（EDC）を含む汚染物質によってもたらされる環境リスクをよりよく理解できるようになる。	

教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology Ⅱ		（英文） To learn the fundamentals of separation processes common in the industries and environment. The students will also learn to apply basic knowledge of chemistry, physics and mathematics to understanding common separation processes while actively discussing with classmates. To learn the fundamentals of chemical reaction processes common in the industries and environment. The students will learn from this multidisciplinary course the fundamentals of biomass utilization to gain broader global perspectives of this exciting field. （和訳） 業界や環境で一般的な分離プロセスの基礎を学ぶ。 また、クラスメートと積極的に議論しながら、一般的な分離プロセスを理解するために化学、物理学、数学の基礎知識を適用することも学ぶ。 産業や環境に共通する化学反応過程の基礎を学ぶ。 この学際的なコースからバイオマス利用の基礎を学び、より広いグローバルな視点を得る。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Socio-Cultural Studies		（英文） This class will cover history, social/cultural issues, ethics and science of humanitarian efforts. Students learn terminologies and concepts related to humanitarian issues, which can be adapted to subsequent courses in life and natural science as well as in the practice of the profession after graduation. Individual and large-scale projects to promote human welfare in areas afflicted by war, famine, natural disasters or diseases have a long and rich history and form the basis of many contemporary political discussions. We will look at humanitarian issues from different points of view including historical, scientific and anthropological approaches. （和訳） この授業では、人道的活動の歴史、社会的／文化的問題、倫理、科学について学ぶ。学生は人道問題に関連する用語や概念を学ぶが、これはその後の生命科学や自然科学の科目や、卒業後の専門職の実践に適応することができる。戦争、飢饉、自然災害、疾病に苦しむ地域において、人類の福祉を促進するための個人的または大規模なプロジェクトには、長く豊かな歴史があり、現代の多くの政治的議論の基礎となっている。歴史的、科学的、人類学的アプローチを含む様々な視点から人道的問題を考察する。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	World History		（英文） The course is designed to make students know more about European history and culture focusing on language and its role in the development of national identity. The goal of this course is to deepen cross-cultural understanding and to build bridges between past and present.The goal of this course is to provide profound knowledge about European geography and cultural history. （和訳） 学生が言語と国民的アイデンティティの発達におけるその役割に焦点を当てたヨーロッパの歴史と文化について知る。異文化理解を深め、過去と現在の架け橋を築く。ヨーロッパの地理と文化史に関する深い知識を提供する。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Area Studies		（英文） We will study the impact of modernization on Japanese society and the challenges of leadership during the first half of the Meiji period. We will have a comprehensive look at the education of the future elite at the Fifth High School also addressing the symbolism of the school’s organization and architecture. Taking the Fifth High School as an example, we pick up several aspects of Meiji Period elite training and discuss the social and historical background. （和訳） 近代化が日本社会に与えた影響と、明治時代前半におけるリーダーシップの課題について学びます。第五高等学校における将来のエリート教育について、その組織や建築の象徴性にも触れながら包括的に考察する。第五高等学校を例に、明治期のエリート教育のいくつかの側面を取り上げ、その社会的・歴史的背景について議論する。	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Comprehensive English Communication		（英文） Each session, we will look closely at the various components necessary for successful presentations made in English. Students will work in pairs to prepare and deliver a 7 minute presentation to the class. Through completion of this course, students will: ・Understand the components and structure necessary for successful presentations ・Become adept at accessible, intuitive, and efficient slide design ・Become proficient in gathering research data ・Improve English communication and presentation skills （和訳） 毎回、英語でのプレゼンテーションを成功させるために必要な様々な構成要素について詳しく見ていく。生徒は2人1組で7分間のプレゼンテーションを準備し、クラスで発表する。 本科目を修了することで、以下のことが習得できる： ・プレゼンテーションを成功させるために必要な構成要素と構造を理解する ・分かりやすく、直感的で、効率的なスライドデザインに習熟する ・リサーチデータの収集に習熟する ・英語でのコミュニケーションとプレゼンテーションのスキルを向上させる	

教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Global Career Development		（英文） Gaining insights and perspectives through exchanging with Kumamoto University faculty members with global career experience. The goal of this course is to offer valuable and rare opportunities to interact with local based experts whose experiences and skills will broaden the scope for students'' career options. The goal is to improve analytic and communication skills, in addition to the basic understanding of business operations. （和訳） グローバルなキャリアを積んだ熊本大学の教職員との交流を通じて洞察と視点を得る。経験とスキルが学生のキャリアの選択肢の範囲を広げる地元の専門家と交流する貴重でまれな機会を提供する。事業運営の基本的な理解に加えて、分析とコミュニケーションのスキルを向上させる。	
教養教育	教養科目	キャリア科目	キャリア科目		現代的課題の1つとされる男女共同参画社会を実現するために、女性のライフコースの特性を理解し、女性のキャリア形成のあり方について考えるとともに、仕事と生活の両面から、自分の将来の生活設計を立案できるようになる。国内外で実施されているボランティア活動を事例に支援者（ボランティア）の役割とマネジメントについて理解し、支援活動における基礎知識を身につける。ベンチャー企業の経営者、事業再生を経験した経営者、地域で活躍する中小企業や地方創生に取り組む企業の経営者等の生の声を聴くことで、ベンチャーマインド、経営マインドとは何かを学ぶ。大学での学び、生活と仕事・職業の関係について理解し、主体的な大学生活を過ごすための基礎知識を習得する。ダイバーシティ・インクルージョンの基本的知識を習得し、社会の担い手としての問題意識を持つ。	
教養教育	教養科目	開放科目	開放科目		本来学部の専門科目として開講されている科目のうち、内容が教養教育にふさわしく、開講学部以外の学生が履修できる科目として特に指定しているもの。（例：聴覚障害児教育、医療倫理、プログラミング演習、国際関係論、地域防災等）	
教養教育	教養科目	体育・スポーツ科学科目	体育・スポーツ科学a		スポーツの実践とスポーツ文化の理解を深めるとともに、スポーツの持つ魅力を理解し生涯スポーツへの基礎作りを行う。運動・スポーツを行うにあたって最低限必要な基礎的知識や身体の手入れの方法などを習得し、身体トレーニングを行うことを通して、将来にわたって体力・健康つくりができるようになる。健康の保持増進のために、運動習慣の大切さを理解するとともに日常生活において実践する態度を身につける。	
教養教育	教職科目	体育・スポーツ科学科目	体育・スポーツ科学b		実技の技能を高めると同時に、グループでの学習効果を生む展開を学ぶ。また、講義では生活習慣病と日常生活活動を関連させ、今後の生活に生かせる知識と実践能力を修得する。医学的検査の意義も学び、ヒトの生体機能を動的および静的側面から考えられるようになる。１）スポーツに関する理解を深める。２）技術学習の計画を立案し、実践できるようになる。３）健康の維持増進に関する理解を深める。４）予防医学としての運動療法や処方を習得する。５）班内で協力し合い、技術や能力の向上、および課題探求能力を養う。ことを目標とする。	
教養教育	教職科目	日本国憲法科目	暮らしの中の憲法		SNSなどで気軽に情報発信できるようになった現代社会では、多くの有益な情報と共に不正確な情報も氾濫するようになっている。憲法問題についても例外ではなく、日本国憲法の基本的な原理を理解し、現代社会の諸問題について憲法の基本的な知識を踏まえながら論理的に考えることができるようになることを目的とする。生活の中での具体的問題を念頭に置きながら、判例、学説の検討を中心に、日本国憲法の意義、諸原理を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育原理A（理念及び思想）	○	そもそも教育とは何か、学校は何のためにあるのか、どのような教育であれば「よい」と言いうるのか、教師は何のために存在し、どうあれば「よい」と言いうるか。本授業では、このような原理的、本質的問いに答え抜くことを通して、受講者の皆さんの教育観を数段深めることに寄与する。教育の古典的名著から、現代の最先端の教育実践まで、大量の情報のシャワーを浴びてもらいながら、自分がこれまでに受けてきた、当たり前だと思ってきた学校観、教育観、授業観、子ども観等を見つめ直し、さらに鍛えていく。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	現代の教育と社会A	○	本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の３点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育心理学B（発達）	○	幼児、児童及び生徒の発達段階に応じた特徴を理解し、学習や学校生活における適切な支援を考えることができるようになることを目標に、子どもの発達の特徴を紹介し、環境要因としての教師の役割・関わり方について考える。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別支援教育の展開	○	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する 本授業では、「特別支援教育の基礎」を受け、特に通常の学級における特別支援教育の展開を中心に、発達障害や通級による指導の実際、また通常学級におけるインクルーシブな授業・学級づくりについて概説する。	

専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育課程論	○	学校で何を、いつ、どのような順番で、どうやって教えるのか、という問いに取り組む中で、教育課程は編成される。また教育課程は、学習指導要領や学習指導要領解説だけでなく地域の特色や現状、社会のニーズなども踏まえて、編成される。しかし、これらすべてに対応して教育課程を編成しようとすると、授業時数に対する内容の量が過剰（詰め込み過ぎ）になったり特定の教科が優先（他の教科等の活動が軽視）されたりする懸念がある。そのため、教師も児童生徒も疲弊しないように、教育課程を柔軟に編成することが求められる。そこで本科目では教育課程の編成の方法を学修する。特に、教育課程の編成の基本原理や観点、組織として教育課程を編成するための学校の在り方や意義を学修する。最終的に、実在する学校を１校選び、その学校の教育課程の編成の案を提示できるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	道徳教育の理論	○	本授業科目は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の定める「道徳の理論及び指導法」にあたり、学習指導要領に掲げる事項に即した内容について取り扱う。主な内容については以下の通りである。まず、道徳とは何かという基本的な問題について、印欧語族や日本語の「道徳」の語源に基づき、その意味や歴史的変遷を考察する。また、倫理学、心理学、社会学などの学問分野における道徳の捉え方について概説し、多角的な視点から道徳の本質に迫る。道徳教育の歴史については、日本の戦前と戦後の道徳教育を比較しつつ、その問題点を論じる。また現代的な課題については、生命倫理やSDGs、社会参画や情報化への対応等を検討する。道徳性の発達理論については、他律から自律へと至る過程について理解するため、ピアジェやフロイト等、種々の学説を取りあげる。道徳教育の目標・内容については、「よりよく生きる」ことについて中心に論じるとともに、道徳の内容項目における重要な概念を考究する。道徳教育の全体計画および道徳科の年間指導計画については、熊本市の事例をもとに、その内容と留意点を考察する。道徳科の評価については、基本的な考え方、評価の観点について検討する。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	○	特別活動の指導法について講義・実践する。学習指導要領に記載されている学級活動・児童生徒会活動・学校行事・クラブ活動等について割り当てをし、各事項ごとのミッションを課すので、それをこなしてもらう。総合的な学習の時間の指導法についての講義・実践もまた同様とする。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育とICT活用	○	一斉講義形式ではなく、情報通信機器の実技を伴う演習を通したり、学校現場の実態を理解したりすることによって、情報通信技術を効果的に活用した実践的な指導力を高める。また、授業ごとにデジタル・リフレクションシートを記入できるようにして形成的に評価し、学生自らが「主体的・対話的で深い学び」の実際を体験できるようにする。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育相談の理論及び方法	○	子どもを取り巻く状況（学校・家庭・社会）や、学校教育の領域でなされている活動がどのように心理的健康と関連するかを概観し、様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を提供します。それらを知的にも体験的にも学習する。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○	児童生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長していけるよう、進路指導は教師にとって重要な教育活動です。また、それを包含するキャリア教育は学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育むことを目的としている。これらのことについて、学生自身も教師を目指す立場として主体的に学んでいく。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	事前・事後指導	○	事前指導：1年次においては、4年間の実習の流れを理解し、教育現場で学ぶときの身だしなみや話の仕方など教師としての基本的な態度を習得する。2年次においては、1年次の学びを再確認し、３年次の教育実習に臨むための準備段階として、教育現場に赴き、学習者と教師の相互の関わりを観察し、教育現場を体験的に理解する。3年次、4年次においては教育実習に臨む直前の準備と、各自の課題を再確認する。事後指導：教育実習における学びを整理・省察し、教職を目指すうえでの今後の課題と学びの方策を考える。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	初等教育実習Ⅰ	○	附属小学校において、附属学校の教員の指導を受けながら、授業構想・実践、学級経営、児童理解などについて学び、小学校教師の職務に求められる実践的指導力の基礎を修得する。また、教育の基礎的理解や教科及び教科の指導法で学習した理論を実践に結び付け、理論の活用を体験的に学ぶ。さらに教育実践における自分の体験を振り返り、初等教育実習Ⅱで取り組む課題を見出す。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	初等教育実習Ⅱ	○	公立の協力小学校において、初等教育実習Ⅰで見出した課題に取り組むとともに、チーム学校の一員として授業構想・実践、学級経営、児童理解などについて学び、小学校教員としての資質・能力の向上を図る。特に学習の反応や実態からの学びを重視する。また、初等教育実習Ⅰでの学びを基礎として、理論と実践の往還を深める。さらに教育実習中の学びのプロセスを省察し、自分自身の長所や課題を明らかにし、教職を目指すための自己学習に発展させる。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	中等教育実習Ⅰ	○	附属中学校において、附属学校の教員の指導を受けながら、授業構想・実践、学級経営、生徒理解などについて学び、中学校教師の職務に求められる実践的指導力の基礎を修得する。また、教育の基礎的理解や教科及び教科の指導法で学習した理論を実践に結び付け、理論の活用を体験的に学ぶ。さらに教育実践における自分の体験を振り返り、中等教育実習Ⅱで取り組む課題を見出す。	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等	中等教育実習Ⅱ	○	公立の協力中学校において、中等教育実習Ⅰで見出した課題に取り組むとともに、チーム学校の一員として授業構想・実践、学級経営、児童理解などについて学び、中学校教員としての資質・能力の向上を図る。特に学習の反応や実態からの学びを重視する。また、中等教育実習Ⅰでの学びを基礎として、理論と実践の往還を深める。さらに教育実習中の学びのプロセスを省察し、自分自身の長所や課題を明らかにし、教職を目指すための自己学習に発展させる。	

専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等		幼稚園教育実習Ⅰ		大学のほか、附属幼稚園あるいは佐賀市内の幼稚園、認定こども園において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、留意事項 ・教育実習：　実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等		幼稚園教育実習Ⅱ		※本講義は、関連科目「幼稚園教育実習Ⅰ」と一緒に履修する。 大学のほか、附属幼稚園あるいは佐賀市内の幼稚園、認定こども園において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、留意事項 ・教育実習：　実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育	専門科目	教育の基礎的理解に関する科目等		教職実践演習（幼・小・中・高）	○	教師としての専門的力量形成を図るために、4年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を育成する。教員として求められる以下の４つの事項を踏まえ、４年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を有する教員としての資質を確認する。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項　②社会性や対人関係能力に関する事項　③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項　④教科・保育内容等の指導力に関する事項	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等国語	○	本授業では、小学校国語科の専門的な内容（言葉の知識、文学的文章、言語文化）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （19 中里　理子／4回）第1回～第4回を担当する。 （45 奥野　新太郎／4回）第5回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （88 山下（古田）真里／3回）第1回～第3回を担当する。 （61 跡上　史郎／2回）第4回～第5回を担当する。 （33 中尾　健一郎／3回）第6回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等書写	○	本授業では、小学校国語科の専門的な内容（書写）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等社会	○	学習指導要領をもとに小学校社会科の特質と役割、目標と内容構成について説明する。そして、小学校社会科で扱ういくつかのトピックを地理・歴史・公民の３分野に分けて取り上げ、その内容に関する教材研究の進め方についても講義する。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （9 後藤　正英／2回）第1回～第2回を担当する。 （49 黒田　圭介／2回）第3回～第4回を担当する。 （4 岡本　託／2回）第5回～第6回を担当する。 （7 吉岡　剛彦／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （32 黨　武彦／2回）第1回～第2回を担当する。 （90 山本　耕三／2回）第3回～第4回を担当する。 （35 春田　直紀／2回）第5回～第6回を担当する。 （67 大野　正久／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等算数	○	論理･集合、代数、幾何、解析、応用数学等の中から、いくつかの話題を取り上げて紹介する。また、それらの内容と小学校算数の繋がりを考えたり、それらの内容を発展的に考察しさらに理解を深めたりする活動を行い、算数の指導力向上に繋げる。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （87 靱原　幸二／2回）第1回～第2回を担当する。 （34 中川　泰宏／2回）第3回～第4回を担当する。 （92 吉村　昇／2回）第5回～第6回を担当する。 （91 吉井　貴寿／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等理科	○	将来、小学校教員になった際に自信を持って理科を指導できるように、小学校理科教科書４領域（エネルギー、粒子、生命、地球）の知識を確かなものとすると同時に、授業実施のための教科特性を理解する。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （6 嬉　正勝／2回）第1回～第2回を担当する。 （5 角縁　進／2回）第3回～第4回を担当する。 （18 中村　聡／2回）第5回～第6回を担当する。 （3 岡島　俊哉／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （31 田邊　力／2回）第1回～第2回を担当する。 （69 岸木　敬太／3回）第3回、第5回、第6回を担当する。 （85 村田　貴広／2回）第4回、第7回を担当する。 （29 島田　秀昭／1回）第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等生活	○	小学校「生活」の教育内容について、（1）社会と子ども、（2）自然と子ども、（3）遊びと子ども、（4）家庭と子どもの4つの分野に分けて、オムニバスで講義形式の授業をオンラインで行う。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （49 黒田　圭介／2回）第1回～第2回を担当する。 （444 坂本　憲明／2回）第3回～第4回を担当する。 （8 栗山　裕至／2回）第5回～第6回を担当する。 （17 中西　雪夫／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （61 飯野(金柿)直子／2回）第1回～第2回を担当する。 （35 春田　直紀／2回）第3回～第4回を担当する。 （196 田口　浩継／2回）第5回～第6回を担当する。 （40 八幡　彩子／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等音楽	○	小学校音楽科の授業を実践する上で必要な楽譜の読み書きや音楽の規則を理解したり、発声法、演奏法や音楽の歴史を知る。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （10 荒巻　治美／2回）第1回、第8回を担当する。 （11 今井　治人／2回）第2回～第3回を担当する。 （51 石川　美也子／2回）第4回～第5回を担当する。 （93 小村　朋代／2回）第6回～第7回を担当する。 【熊本大学】 （41 山﨑　浩隆／2回）第1回、第8回を担当する。 （89 山田　高誌／2回）第2回～第3回を担当する。 （63 稲森　安太己／2回）第4回～第5回を担当する。 （79 中原　雅彦／2回）第6回～第7回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等図画工作	○	図画工作科の意義を明らかにし、表現及び鑑賞の活動をおこないながら、図画工作指導を行うに必要な、資質・能力を育成するものである。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （519 喜久山　悟／4回）第1回、第5回、第6回、第8回を担当する。 （38 松永　拓己／4回）第2回～第4回、第7回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等家庭	○	小学校家庭科の授業づくりための基礎的知識について内容を解説するとともに基礎技能を習得するための演習等を行う。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （435 奥谷（竹内）めぐみ／2回）第1回～第2回を担当する。 （46 萱島　知子／2回）第3回～第4回を担当する。 （50 小松　美和子／2回）第5回～第6回を担当する。 （22 澤島　智明／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （40 八幡　彩子／2回）第1回～第2回を担当する。 （523 篠塚　到子／4回）第3回～第6回を担当する。 （77 中迫(北後)由実／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等体育	○	本授業は、小学校学習指導要領において体育の内容として取り上げられている運動領域「陸上運動」「器械運動」「体つくり運動」「球技」「水泳」および「新体力テスト」の学習内容を理解し、教員としてそれぞれの運動種目を指導していくために必要な基本的な技能を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科に関する専門的事項	初等外国語	○	小学校外国語活動及び外国語の授業実践に必要な英語表現を、題材（話題・場面）ごとに整理し、演習を通して実践的な英語運用能力の向上を図る。８回の授業を通して、英語の音声の仕組み（アクセント、リズム、イントネーション、発音と綴りの関係など）や正書法、文学素材などについて講義と演習を交えて学びながら英語に関する背景的な知識を身に付け、小学校での外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用能力の習得を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	初等国語科指導法Ⅰ	○	『小学校学習指導要領解説　国語編』に基づいて国語科の目標・内容を理解し、小学校国語科教科書の教材を用いて学習指導や評価の方法についての理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	初等国語科指導法Ⅱ	○	「初等国語科指導法Ⅰ」で学んだことをもとに、学習指導案の作成や模擬授業に取り組む。模擬授業後にリフレクションを行い、授業の中で得られた実践的知識の共有と深化を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	初等社会科指導法Ⅰ	○	社会科といえば知識を暗記することとの誤解を解くことを目的に、学習指導要領の解説や過去や外国の社会科教育の事例なども参照しながら、社会科とは何でなければならないのかを理論的に解明する。今後実践的に社会科の在り方を考えるうえで必須の理論的基盤を確立させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	初等社会科指導法Ⅱ	○	教科書の特性・特質を踏まえた教材（教科書）研究に取り組む。教科書を活用して小学校社会科の学習指導案を作成する。模擬授業を実施して、その検討会を開催する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	初等算数科指導法Ⅰ	○	算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （91 吉井　貴寿／4回）第1回、第3回、第4回、第6回を担当する。 （92 吉村　昇／4回）第2回、第5回、第7回、第8回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校専攻)	教科の指導法	初等算数科指導法Ⅱ	○	算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （91 吉井　貴寿／2回）第2回、第8回を担当する。 （92 吉村　昇／3回）第1回、第3回、第4回を担当する。 （90 吉井　貴寿・91 吉村　昇／3回）（共同）第5回～7回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等理科指導法Ⅰ	○	初等理科教育に関する目的論、カリキュラム論、学習指導方法論、自然認識論、評価論等の各領域について概説する。 1. 小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点（含：発展的な内容）、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。 2. 生徒の自然認識・科学的思考・理科の学力などの実態を視野に入れた理科授業設計の重要性、教科としての理科の特性に応じたICT・教材の効果的な活用法、理科学習指導案の構成と具体的実践を想定した教材研究の方法（含：理科実践研究の動向）について具体的に論じる。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)　直子／2回）（共同）第1回、第8回を担当する。 （42 渡邉　重義／3回）第2回～第4回を担当する。 （61 飯野(金柿)　直子／3回）第5回～第7回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等理科指導法Ⅱ	○	初等理科教育に関する実際の授業実践を想定し、具体的な理科の学習内容について取り上げる。 1. 小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点（含：発展的な内容）、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。 2. 理科の学習内容等の発表（模擬授業）の実施とその振り返りから、授業改善の視点（含：授業設計の向上）について具体的に論じる。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)　直子／3回）（共同）第1回、第7回、第8回を担当する。 （61 飯野(金柿)　直子／5回）第2回～第6回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等生活科指導法Ⅰ	○	・初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。 ・具体的実践事例を講義し、自然領域における教材開発を実際に行う。 ・模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等生活科指導法Ⅱ	○	・初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。 ・具体的実践事例を講義し、特にICTを活用した教材開発を実際に行う。 ・模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等音楽科指導法Ⅰ	○	小学校における表現と鑑賞の各活動の指導のあり方とその考え方を知り、教育実習等、指導の実際にかかわる指導方法を考える。また、ICTを活用した効果的な指導法についても知る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等音楽科指導法Ⅱ	○	小学校音楽科における表現と鑑賞の授業づくりについての理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等図画工作科指導法Ⅰ	○	第1～3回において小学校図画工作科の意義や目的、発達と造形の関係等の全般的な内容を学ぶ。第4回以降においては学習指導要領を踏まえた教科の内容（表現及び鑑賞）を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等図画工作科指導法Ⅱ	○	小学校図画工作科の学習指導・支援や学習評価の全般的な内容を学ぶ。教科内容の模擬演習・講義や、模擬授業の取り組みを通して授業技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等家庭科指導法Ⅰ	○	家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等家庭科指導法Ⅱ	○	家庭科の授業実践に必要な基礎的技能を身に付けるため、小学校家庭科における課題解決学習、ICT活用、評価などの実践事例を分析し、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を実施する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等体育科指導法Ⅰ	○	本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等体育科指導法Ⅱ	○	本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して小学校学習指導要領において取り上げられている「体つくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ボール運動」「表現運動」「保健」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等外国語指導法Ⅰ	○	小学校外国語活動の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解・考察を深めていく。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞を取り入れることにより、英語指導技術の基礎を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校専攻）	教科の指導法	初等外国語指導法Ⅱ	○	小学校外国語活動及び外国語科の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解を深める。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞や模擬授業実践を取り入れることにより、英語指導技術を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学 国語学概説Ⅱ	○	授業の前半では、現代日本語の文字・表記、待遇表現の特徴について基礎的な知識について学ぶことで、日本語で表現するための基礎力を身に付ける。授業の後半では、日本語による表現力を高めるため、さまざまな種類の文章を作成し、相互評価を行う。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	国語学概説Ⅲ		日本語の変遷についての基礎的な知識を身に付け、説明でき、身の回りのことばについて、日本語の変化という観点からとらえることができることを目標とする。日本語の変遷について、文字、音韻、仮名遣い、文法、語彙の分野ごとに解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	国語学演習Ⅰ		第１回から第５回では、国語教育において日本語を分析できる力の重要性および日本語について調査・分析する方法を学ぶ。第６回以降は、各自がテーマを見つけて実際に調査・分析を行った内容を発表し、話し合いを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	国語学特別演習Ⅰ		国語学の諸問題および国語学に関する基礎的な調査方法、文献読解力を身に付けることを目標とする。指定された、または受講者が設定したテーマについて、調査発表者を決め質疑応答を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国語学	国語学特別演習Ⅱ		国語学研究の諸問題および研究論文を読解する力を身に付けることを目標とする。指定された、または受講者が選んだ研究論文について、調査発表者を決め質疑応答を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	国文学概説	○	国文学史及び国文学に関する歴史的理解を得ることを目標とする。国文学に関して具体的な作品を挙げながら歴史を講ずる。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （33 中尾　健一郎／7回）第1回～第7回を担当する。 （61 跡上　史郎／8回）第8回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	国文学講義Ⅰ（古典）		古代から近世までの日本古典文学の流れについて講述する。具体的な作品を取り上げ、成立の背景や時代性、作者の問題等について考えるとともに、他作品との影響関係や後世の受容と展開について理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	国文学講義Ⅱ（近現代）		日本近現代文学研究の実例及びレポートではない論文を書くことに関する理解を得ることを目標とし、夏目漱石の研究史から文学研究の方法を学び村上春樹研究に応用する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	国文学講読（古典）		講義・演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『和学知辺草』の内容を読解する形で授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	国文学特別演習Ⅰ（近現代）		日本近現代文学の諸問題及び日本近現代文学に関する基礎的読解力を身に付けることを目標に、指定された、または受講者が選んだ近現代文学について発表・質疑応答を行い、歴史・表現両面における調査能力を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	国文学	国文学特別演習Ⅱ（近現代）		近現代文学の説明文（論説文）を書くことを通じて説明文と文学の関係を理解することを目標に、指定された、または受講者が選んだ近現代文学について、データ、論拠（裏付け、限定詞、反証）、主張の視点から発表・質疑応答を行い、説明文（論説文）を書く。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	漢文学概説Ⅱ	○	講義・演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、漢詩の内容を読解する形で授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	漢文学演習Ⅰ		演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『蒙求』の内容を読解する形で授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	漢文学特別演習Ⅰ		漢文学の諸問題及び漢文学と国文学の関係に関する基礎的読解力を身に付けることを目標に、指定された、または受講者が選んだ文学作品について調査発表者を決め質疑応答を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	漢文学	漢文学特別演習Ⅱ		漢文学と国文学の関係に関する漢文学研究の諸問題、及び漢文学と国文学の比較研究に関する研究論文を読解する力を身に付けることを目標に、指定された、または受講者が選んだ研究論文について調査発表者を決め質疑応答を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科に関する専門的事項	書道	書写	○	小学校および中学校の国語科書写の学年目標を理解し、楷書や行書の特徴と基本点画、仮名との調和等について学ばせる。この授業は中学校の実務経験を有している教員が書写の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		中等国語科指導法Ⅰ	○	本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		中等国語科指導法Ⅱ	○	本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		中等国語科指導法Ⅲ	○	本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解を深めるとともに指導法について考察することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		中等国語科指導法Ⅳ	○	本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解を深めるとともに指導法について考察することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		国語科教育学演習A		国語科教育における小中連携や学び合いの充実に向けて、教材研究や学習指導案の作成に取り組むことを通して、国語科授業実践力を高めることができることを目標とし、初等国語科教育法や中等国語科教育法で学んだことをもとに、授業を構築・実践するための能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		国語科教育学演習B		国語科「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」領域の目標と内容を理解するとともに小・中接続、中・高接続の観点から授業を構築・実践するための能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		国語科教育学演習C		国語科教育に関する多様な領域についての理論と実践とを往還させながら、新たな授業開発に向けての実践知を獲得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語専攻）	教科の指導法		国語科教育学演習D		国語科「読むこと」領域の目標と内容を理解するとともに、小・中接続、中・高接続の観点から授業を構築・実践するための能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	日本史概説	○	日本史研究の最先端の議論を知ることで、新たな歴史の見方を学び、各時代の特質に関する理解を深めるとともに、日本史の教材研究の基礎を身に付けることを目標とし、先史時代から現代まで日本史の通史的展開にそって、各時代を特徴づける主要なテーマを掲げ、研究の最先端の議論を紹介していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	日本史特講I（史料論）		史料に即して日本史の事象を理解し、史料を用いて教材をつくる力量を身に付けることを目標として、日本史の代表的な事象について、さまざまな史料を読みながら、学び直していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	世界史概説	○	中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、基礎的かつ包括的な講義をおこなう。その際、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。また、トピックによっては、日本の事柄とも関連づけながら理解を深めていきたい。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	世界史特講Ⅰ（中国史）		中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、日本の近現代史においても重要な意味を持つ中国近現代史に関する講義を映像資料を活用しながら行う。その際、台湾海峡問題など、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	日本史演習Ⅰ（地域史調査）		さまざまな歴史資料による分析と現地調査に基づいた地域史研究の方法を身に付けることを目標として、調査地域の歴史に関する先行研究の検討と現地調査の準備・実施を共同で行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	日本史演習Ⅱ（中世文書）		史料の訓読と解釈、それにもとづいた歴史研究の手法を実践的に身に付けることを目標として、中世の古文書を教材にしながら、文書を訓読し、その内容が解釈できるところまで指導する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	日本史演習Ⅲ（荘園調査）		さまざまな歴史資料による分析と現地調査に基づいた荘園史研究の方法を身に付けることを目標として、荘園故地の歴史に関する先行研究の検討と現地調査の準備・実施を共同で行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	日本史演習Ⅳ（近世文書）		史料の判読・読解とそれにもとづいた歴史研究の手法を実践的に身に付けることを目標として、近世の古文書を教材にしながら、文書の訓読・くずし字の判読から文書の内容を読解し、その情報に基づいた考察ができるところまで指導する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	歴史学	日本史調査実習		地域の歴史を語る素材を掘り起こし史料化・教材化していく技法を、実践的に身につけていくことを目標として、ひとつの地域に滞在し、その土地の歴史に関わるあらゆる情報を収集し、整理していく。具体的には村落を対象に、古文書の調査、住民への聞き取り、信仰物や農地・牧野・山林の現場確認をし、調査成果を報告書にまとめる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	地理学	人文地理学概説	○	人文地理学とは何かを知る。中学校社会科地理的分野および高等学校地理総合・地理探究のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得することを目標として、人文地理学における主要なトピックを紹介する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	地理学	人文地理学特講		平成２８年熊本地震の被災地を事例として、野外調査を行う。自然環境と防災。高等学校学習指導要領　地理総合　２内容　C（１）自然環境と防災　の記述内容のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得することを目標として、平成２８年熊本地震の被災地がいかに復旧・復興したか、あるいはしなかったかについて、地理学的な野外調査を行って考察する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	地理学	自然地理学特講Ⅰ		この授業では、人々の暮らしのなかで環境との関わりから生じた問題や文化について、主に日本国内の事例を取り上げ、地理学の基礎的な概念を踏まえながら解説する。事例の解説や読図作業を通じて、地理学的な視点・手法を習得するとともに、文化や環境問題を多面的に考えられるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	地理学	地誌学概説	○	中学校社会科地理的分野≒地誌学習と言われることがあるが、区分された地域ごとに①自然環境、②人口、③産業、④交通などを平板に列挙するのではなく、地域の特色や地域間の結びつきを理解させなければならない。そこで、地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを通して、特色や結び付きを考察していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	地理学	人文地理学演習Ⅰ		野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付けることを目標として、大学所在地を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	地理学	人文地理学演習Ⅱ		野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付けることを目標として、大学所在地を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会専攻）	教科に関する専門的事項	地理学	人文地理学演習Ⅲ		野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付けることを目標として、大学所在地近隣市町村を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	人文地理学演習Ⅳ		野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付けることを目標として、大学所在地とは生活圏が異なる熊本県内を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	地理学	地理学調査実習		地理学の調査法のいくつかを修得し、自分で調査できるようになることを目標として、３泊程度の日程で実地調査（フィールドワーク）を行う。災害の被災地等現地にて、文献調査、聞き取り調査を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	政治学概説Ⅰ		現代政治で見られる様々な現象を理解することを狙いとしている。新聞などで聞く話を十分に理解できるだけではなく、自分で分析し、どのような因果関係があるのか発見できるようになることが最終目的であり、今日の世界で起きる様々な政治問題を取り上げて検討していく。現代世界の状況を理解し、なぜアメリカではトランプ政権が誕生したのか、なぜイギリスはＥＵから離脱したのかといった問題を国内、国際の両面から検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	政治学特講Ⅰ		冷戦後に起きた紛争・戦争を考察することで、現代世界の特徴を理解する。授業で取り扱う内容を説明できるようになることが最低限の目標であるが、それだけではなくそれぞれの紛争・戦争にはいかなる背景があるのか、そこから自分でインプリケーションを引き出せるようになることが最終目的であり、冷戦後に起きた紛争、１９９０年代に見られた人道的介入、２０００年代以降の対テロ戦争について考察する。加えて近年起きたウクライナ戦争、ガザをめぐるイスラエル・パレスチナ問題についても検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	政治学演習Ⅰ		演習では学生の積極的な発言が求められる。毎回課題文献を読み、独自の見解を報告することが求められる。それを踏まえ社会科公民分野及び公民科の指導内容に関わる自分の研究を深めていくことが狙いである。社会科公民分野及び公民科の指導に関連する大学一年生向けの内容を心がけ、現代性の特徴を一つ一つ検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	政治学演習Ⅱ		政治学の古典を精読し、現代政治の理解を深めることが目的である。最初に政治思想の流れを包括的に論じた『民主主義とは何か』を精読する。その後J.S.ミルをはじめ、様々な古典を読んでいく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	政治学演習Ⅲ		現代社会で見られる様々な政治問題について検討し、自分で分析できるようになることが目的である。受講生のプレゼンテーション能力を磨くことも目的である。ベーシックインカム、外国人労働者の受け入れ、日本の選挙制度などについてディベート形式で検討していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	政治学演習Ⅳ		演習では学生の積極的な発言が求められる。毎回課題文献を読み、独自の見解を報告することが求められる。それを踏まえ社会科公民分野及び公民科の指導内容に関わる自分の研究を深めていくことが狙いである。学生の主体的な発言を通じて社会科公民分野及び公民科の指導の前提となる現代世界の理解を深めていく。とりわけポピュリズムの問題、民主主義に対する挑戦について考えていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	法律学・政治学	政治学調査実習		実社会において政治、法律がどのように機能しているのか考察する。自分で問いを立て、それを分析する能力を身に着けることが目的である。自分で資料を収集すること、データを作ることとはどういうことか。具体的な事例をもとに検討していく。また議会見学、裁判所見学なども取り入れていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	経済学概説	○	授業の前半では、市場における価格決定の理論について説明し、国際貿易等の問題について、市場均衡や余剰の概念を用いて考察する。授業の後半では、ゲーム理論について説明し、各国の貿易政策の問題等へのゲーム理論の応用や公共財供給の問題について説明する。また、行動経済学の基本的な概念についても学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	地域社会学概説		産業化、都市化とともに大きく変化してきた地域について幅広く解説する。本講義では、農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について考察する力を養うことを目的とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	社会人間学特講		社会学的観点から現代社会の特性を捉え、論じることができることを目標として、社会学的観点から現代社会の構造と変容を講義する。まず社会学的な考え方を示し、次いでその考え方に基づいて現代社会とその「楽し方行方」を考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	経済学特講		授業の前半では、はじめに経済学の考え方について説明し、その後、地方財政や地域経済の様々な問題について、経済学的な観点から説明する。授業の後半では、主に公共経済学や環境経済学における基本的な経済理論について説明する。経済社会における様々な問題への公共政策や環境政策について経済学的な観点から学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	経済学演習Ⅰ		ミクロ経済学の考え方を主なテーマとする。ミクロ経済学の考え方と分析手法について理解し、様々な経済社会問題について、ミクロ経済学の視点から考えることができるようになることを目標としている。授業では、主にミクロ経済学について学習し、また、応用として、行動経済学についても学習する。ミクロ経済学と行動経済学のテキストを輪読し、ミクロ経済学および行動経済学の考え方について学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	経済学演習Ⅱ		現代の経済社会問題の経済学的考察をテーマとする。現代の経済社会問題について学習し、経済学的な観点から問題の解決策を考察できるようになることを目標としている。授業では、各自興味のある経済社会問題に関連した既刊論文等について発表を行い、経済学的視点からの解決策について議論する。さらに、地域における公共政策についても議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	経済学演習Ⅲ		応用経済学と行動経済学の考え方を主なテーマとする。応用経済学と行動経済学の考え方について理解し、環境問題等の様々な経済社会問題について、応用経済学と行動経済学の視点から考えることができるようになることを目標としている。授業では、応用経済学と行動経済学のテキストを輪読し、応用経済学と行動経済学の考え方について学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	経済学演習Ⅳ		現代の環境問題の経済学的考察をテーマとする。現代の環境問題について学習し、経済学的な観点から問題の解決策を考察できるようになることを目標としている。授業では、各自興味のある環境問題に関連した既刊論文等について発表を行い、経済学的視点からの解決策について議論する。さらに、公衆衛生に関する政策についても議論する。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	社会学・経済学	地域調査実習		熊本における環境政策と公共政策をテーマとする。熊本における環境政策と公共政策の現状と課題を理解し、今後の環境政策と公共政策について考えることができるようになることを目標としている。授業では、熊本における自治体の環境政策と公共政策に関して調査を行う。そして、熊本における今後の環境政策と公共政策について発表を行い、議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	応用倫理学概説		現代社会の諸問題に対し、近現代の代表的な倫理学理論（義務倫理学、功利主義、徳倫理学など）の考え方を適用し、多面的・多角的な考察や議論を行うことができるようになることを目標として授業を進める。現代社会の諸問題として、身近な倫理の問題、倫理と法の問題等を取り上げ、議論の状況を解説する。次いで、それぞれの問題についての意見交換を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科に関する専門的事項	哲学・倫理学・宗教学	応用倫理学特論		人間の心や体のあり方に関係する多様な倫理的課題に対し、近現代の代表的な倫理学理論の考え方を適用し、多面的・多角的な考察や議論を行うことができるようになることを目標として授業を進める。具体的には、身体の改変・増強の問題、脳機能の調整・強化の問題等を取り上げ、議論の状況を解説する。次いで、それぞれの問題についての意見交換を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅰ		小中学校社会科や高等学校社会系教科の基盤である社会科教育学の基礎知識を身に付けることを目標として、社会認識教育学会編『新・社会科教育学ハンドブック』を読み、報告し、議論する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅱ		教科書を活用した社会科授業づくりの方法を身に付けることを目標として、小中学校社会科や高等学校社会系教科の教科書を活用して授業を開発する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅲ		小中学校社会科や高等学校社会系教科における授業改善の方法を身に付けることを目標として、教育実習生や受講者自身の授業を観察・分析して、授業改善を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅳ		小中学校社会科や高等学校社会系教科に関する高度な授業づくりの方法を身に付けることを目標として、授業づくりの現状を把握し、先行実践の特質と課題を整理して、その課題を克服する授業づくりに取り組む。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅴ		社会系教科教育学の最新の文献講読を手がかりに、学界の研究動向を大まかに把握し、他者に伝えることの難しさ（授業の困難さ）を実感するとともに、その留意点を理論的・体験的に獲得することを目標として、「研究成果を他者に伝える」をキーワードに、新書、専門書、論文とハードルを上げていき、その内容を伝え、伝わったかを議論する過程で、その留意点を考える。転じて、授業をするうえで最も重要な要素（教師の教材研究の成果を自身とは大きく異なる他者【子ども】にわかりやすく伝えるための方略）の体得に努める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅵ		先行研究分析を手がかりに、教科内容と教科教育の研究動向を大まかに把握し、教材研究の難しさ（授業づくりの困難さ）を実感するとともに、その留意点を理論的・体験的に獲得することを目標として、地域調査と文献調査の二つを中心に、授業づくりにおける教材研究の在り方に関する演習を行う。それぞれの調査を計画、実施、公表、相互検討、評価する過程で、その留意点を実践的に把握する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅶ		把握した研究動向を踏まえ、中学社会・高校地理歴史科・公民科の授業づくり演習を行うにあたり、任意の教材（テーマ）を選択し、先行研究分析を手がかりに、教科内容と教科教育の研究動向を把握し、問いの構造化の難しさ（授業づくりの困難さ）を実感するとともに、その留意点を理論的・体験的に獲得することを目標として、授業づくりをキーワードに演習を行う。これまでの調査や演習の成果をどのように任意で組み合わせ、中学社会や高校地理歴史科における自らの選んだ教材（テーマ）に関するより優れた授業が作成できるか、その際の留意点などを実践的に把握・克服する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		社会科教育演習Ⅷ		中学校社会科・高校地理歴史科・公民科の指導案（教授書）を作成し、その難しさを実感するとともに、留意点を理論的・体験的に獲得する。作成した指導案（教授書）を模擬的に実践し、その成果と課題を踏まえ、再考することを目標として、Ⅶで作成した授業をひとまず実践し，その成果と課題を確認したのち，より優れた指導案（教授書）の作成をキーワードに演習を行う。これまでの調査や演習の成果をどのように任意で組み合わせ、自らの選んだ教材（テーマ）における非常に優れた提案性のある授業指導案（教授書）を作成・実践できるか、その際の留意点などを実践的に把握・克服する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		中等社会科教育特講（租税教育論）		第１～４回（藤瀬）：生徒の租税観の実態を踏まえた授業づくりに必要な基礎知識を学習する。 第５～９回（竹中）：税の歴史を題材にした中等歴史学習の授業を開発し模擬授業に取り組む。 第10～15回（藤瀬）：財政民主主義を題材にした中等公民学習の授業を開発し模擬授業に取り組む。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （36 藤瀬　泰司／10回）第1回～第4回、第10回～第15回を担当する。 （76 竹中　伸夫／5回）第5回～第9回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科の指導法		中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰ	○	第１～３回：学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校公民科の全体構造を学習する。 第４～９回：学習指導要領の下で行われている授業づくりの意義と課題を学習する。 第10～15回：教科書を主教材にした授業づくりの方法を学習し体験する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科の指導法		中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰ	○	本授業では、学習者の社会科観を再構築することを目的とし、外国等の事例などをもとに多様な実践・目標観を比較・検討する。そののち、自身の目標観に基づき指導案を作成・実施・再検討する演習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科の指導法		中等社会科指導法（社会・公民）Ⅱ	○	第１～15回：中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰの成果を踏まえて授業の分析や授業づくりに取り組む。 第１～７回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を学習する。 第11～15回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を活用する。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(社会専攻)	教科の指導法		中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅱ	○	本授業は中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰの応用である。前半は評価論の概説とそれに基づく自身の授業評価演習、後半は中・長期的カリキュラム・マネジメントの必要性と重要性に関する概説とそれに基づく中期的カリキュラム作り演習で構成している。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	代数学	代数学概論	○	中学校、高等学校の算数・数学における代数教育に必要な整数論と代数系、特に初等整数論と群論を中心に代数学の導入を行い、数学的背景を理解することを目標とする。本授業は、代数学の基礎となる初等整数論と群論について扱う。整数についての基本的性質および群に関する基本的概念を理解する。様々な例や問題を通して、性質や概念をしっかりと身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	代数学	代数学講義	○	代数学の基盤となる群論と環論について扱う。群および環についての基本的性質および応用について理解する。様々な例や問題を通して、性質や概念をしっかりと身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	代数学	代数学特論	○	中学校、高等学校の算数・数学における代数教育に必要な代数系、特に体論について学ぶ。体の考え方を導入し、有限体・有理数の拡大体の概念を理解し、数学的背景を理解することを目標とする。 本授業は、代数学の基盤となる体論について扱う。体の定義から始めて、体の拡大・有限体などの体の基本的な性質を講義する。様々な例や問題を通して、性質や概念をしっかりと身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	幾何学	幾何学概論	○	中学校、高等学校の算数・数学における図形教育に必要な図形や空間に対する感覚を養い、その数学的背景を認識することを目標とする。本授業は、現代数学において基礎となっている「位相」の概念について、その基本的事項についてユークリッド空間、および距離空間を中心に解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	幾何学	幾何学講義	○	現代の幾何学の中心の１つである微分幾何学の基本的事項について、曲線(平面曲線、および空間曲線)を題材に解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	幾何学	幾何学特論	○	教師に必要な素養のひとつである幾何学的な見方を習得するために幾何学の基礎を理解することを目標とする。本授業は、現代の幾何学の中心の１つである微分幾何学の基本的事項について、曲面論(ガウス・ボンネの定理等)を題材に解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	解析学序論	○	１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について解説する。微分積分が物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	解析学概論	○	多変数関数の微分積分学、フーリエ級数論の基礎的な内容について解説する。それらが物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	解析学講義	○	微分積分学を深く理解するためにその論理的側面（諸定理の証明）について詳しく学ぶ。証明問題の演習も重視する。履修生が少数の場合は、彼らに黒板で諸定理等の証明を説明させ、その後で質疑応答を行うセミナー形式を（部分的に）取ることもあり得る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	解析学	解析学特論	○	中学校・高等学校の数学の教員として必要な素養を涵養することを目標に、解析学の基礎であるラプラス変換、フーリエ積分と複素関数論を学習することを目標とする。本授業は、社会・自然現象を記述する数理モデル（外力項がある微分方程式）を学習する。また、複素数の歴史と複素関数論を学習する。但し、受講生の習熟度に合わせて講義を進めて行く。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	確率論・統計学	確率統計学	○	中学・高等学校数学科における確率・統計分野の内容について授業を行う際に必要となる、記述統計や確率モデルの基礎を学習することを目的とする。基本的な確率・統計に関する知識や技能を身に付け、それらを実際の役立てるデータ処理に応用することができることを目標とする。本授業は、身近な統計的データを取り上げながら、実際のデータの収集法、データの整理の仕方、確率モデルなどの確率統計の基本的な知識について説明する。また、統計的推定・検定について解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	コンピューター	コンピュータ	○	Python、Scratchなどのプログラミング言語、Mathematica、SageMath、Sympy（Pythonのmodule）などの数式処理ソフトおよびlatexを用いたコンピュータ演習を行う。小学・中学・高等学校数学科、大学数学(微分積分学/線形代数学)の内容を中心に、実際に数値実験・プログラミングを行い、その問題と解法についての理解を深め、数学教育、成績処理等におけるコンピュータの活用法について考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科に関する専門的事項	コンピューター	応用数学特論		計算の原理やアルゴリズムなどの計算機科学の基礎としての数学について学ぶ。特に、集合・数え上げ・グラフ理論・グラフアルゴリズムを中心に、アルゴリズムを作るうえで基礎になる数学的背景について理解することを目標とする。本授業は、集合・数え上げ・グラフ理論・グラフアルゴリズムなどの、アルゴリズムを作るうえで基礎になる数学的背景について解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科の指導法		中等数学科指導法Ⅰ	○	数学教育学の基礎的原理・方法について理解し、数学の教科としての存在意義についての認識を深めるとともに、具体的な授業構成のための基礎知識を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科の指導法		中等数学科指導法Ⅱ	○	中学校・高等学校数学科の学習指導に関して、学習指導要領に示された目的、内容を理解するとともに、基本的な学習指導理論をもとに、具体的な授業設計を行う。また、学習環境デザイン視点から、教材開発の資質・能力を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科の指導法		中等数学科指導法Ⅲ	○	中学校・高等学校数学科で指導される学習内容を概観し、それぞれの教材の背景的知識を理解する。また、単に教科書の内容を分かりやすく教えるということにとどまらず、生徒にとって望ましい学習環境のデザインという視点から、教材開発の資質・能力を高める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(数学専攻)	教科の指導法		中等数学科指導法Ⅳ	○	中学校・高等学校数学科の学習指導に関して、学習指導要領に示された目的、内容を理解するとともに、基本的な学習指導理論をもとに、具体的な授業設計を行う。また、学習環境デザイン視点から、理解教材開発の資質を高める。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	基礎物理学B	○	進化の基本、自然選択、性選択、遺伝的浮動、有性生殖、分類、系統の各分野の基礎概念を解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	物理学Ⅰ		小中高校の理科の教員にとって必要とされる力学の知識を身に付ける。力学の基礎的知識を習得し、質点系と剛体の運動に対しての演習問題も解けるようになることを目標として、微積分学を使い力学における質点と質点系と剛体の運動を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	物理学Ⅱ		小中高校の理科の教員にとって必要とされる電磁気学の知識を身に付ける。電磁気学の基礎的知識を習得し、電磁気学において基本的な演習問題についても解けるようになることを目標として、電磁気学の初歩からマクスウエルの方程式まで講義と問題演習を行う。電磁気学で使用するベクトル解析ついても講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学	基礎物理学演習		物理学で必要とされる微積分の基礎を問題演習により習得する。後期の「物理学Ⅰ」と「物理学ⅠⅠ」で学ぶ運動の法則、マクスウエルの方程式などの理解につなげることを目標として、微積分を概説し演習問題を解く。物理学における数学の役割を理解できるようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	基礎化学B	○	「化学の基礎」をテーマに、中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭としての資質能力を培うことができ、化学の基礎概念を中心に化学の基礎的事項を説明することができることを目標としている。本授業は、物質を構成する粒子、原子構造とその安定性、元素の性質の周期性を中心に化学の基礎概念を修得するとともに、身近な物質を化学の視点で捉えて、現代社会における化学の重要性について展開して講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	化学Ⅰ		「一般化学」をテーマに、中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭としての資質能力を培うことができること、原子の構造と性質をもとに化学を理解することができること、原子の性質と周期性に基づいて、多種多様な物質が形成されることを説明できること、物質の物理的・化学的性質と化学反応について、これらの事象が原子の特性と挙動に起因していることを説明できることを目標としている。本授業は、原子の構造を丹念に取り扱い、その理解に基づいて、化学結合、物質の構造、物質の相転移、物質の状態変化とそれらの性質、化学反応速度論、化学平衡、酸と塩基、酸化と還元について講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	化学	化学Ⅱ		中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭として固体化学を通じて資質能力の専門性を向上することができることを目標としている。本授業は、多様な物質群における固体を構成する元素とその化学結合の特性に基づいて、個々の物質に特徴的な構造と性質について講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	基礎生物学B	○	進化の基本、自然選択、性選択、遺伝的浮動、有性生殖、分類、系統の各分野の基礎概念を解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	生物学Ⅰ		生態学の基礎概念、物質循環、生態系でのエネルギーの流れ、捕食関係、物質循環、環境DNA、生物多様性、絶滅危惧種、環境保全についての概念を習得し、身近な熊本県での事例を交えてそれらを説明できることを目標とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	生物学	生物学Ⅱ		生殖、発生、生物地理、地球温暖化、系統の各分野の基礎概念を習得し、身近な熊本県での実例を交えて、それらを説明できることを目標とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	基礎地学B	○	中学校や高校教員（理科）に必要とされる基礎的な内容を講義する。はじめに（1）では、岩石サイクルの中で岩石の分類を講義し、（2）では、地層の層序の原理や堆積物の特徴と、堆積構造や地殻変動による構造について講義し、（3）では、化石化作用や化石の特性と地層から判読できる地殻変動や気候変動の事例を講義する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	地学Ⅰ		中学校や高校教員（理科）に必要とされる基礎的な内容である固体地球のはたらきと環境変動について理解し、熊本県の地質の特性と関連付けて説明できるようになることを目標としている。 本授業は、（1）地球環境の概要、（2）固体地球のはたらきと関連する熊本県内の地質事象について解説し、（3）地球環境の変動と生物進化について、熊本県の地質と化石とを関連付けながら講義を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	地学	地学Ⅱ		本授業では、地球と生命の共進化、生物の大量絶滅、地殻変動と生物進化の関係と私たちに最も身近な生物である脊椎動物の起源と進化について説明できるようになることを目標として、中学校や高校教員（理科）に必要とされる基礎的な内容として（1）地球の環境の変化で引き起こされる大量絶滅や生物の応答について解説し、（2）脊椎動物化石の実例や調査方法にも触れながら、化石に基づく脊椎動物の起源と進化について講義する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理学実験A	○	これまでの講義の内容を実験により実感し、物理学の理解を深める。さらに、物理学実験に対する基本的な技術を習得し、教育実習での研究授業の準備を自立してできるようになることを目標としている。本授業は、力学、電磁気学、音などに関して、小中学校理科に関連する実験を少人数のグループで行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理学実験B		これまでの講義の内容を実験により実感し、高度な内容の物理学の理解を深める。さらに、物理学実験に対する基本的な技術を習得し、教育実習での研究授業の準備を自立してできるようになることを目標としている。本授業は、力学、電磁気学、光、量子力学などに関して、小中学校理科に関連する実験や、高等学校の基礎物理に関連する実験を少人数のグループで行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	化学実験A	○	本授業は、小学校および中学校理科の化学領域における基礎知識を習得するために、試薬の安全な取り扱い方および実験廃棄物の適切な処理について学習する。また、各種実験器具の取り扱い方について学ぶとともにそれらを利用した実験基本操作についても学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	化学実験B		本授業は、無機化学、分析化学および物理化学に関わる基礎的な実験方法を身に付けるため、酸塩基滴定、酸化還元滴定、吸光光度分析、反応速度解析、クロマトグラフィーを取り上げ、コンピュータを使用した実験データの適切な処理と解析を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	生物学実験A	○	身近な自然観察、昆虫採集、昆虫標本作成を通じて、生物の幅広い分類群についての理解を深める。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	生物学実験B		身近な自然観察を通じて、動物、植物の幅広い分類群についての理解を深める。博物館、動植物園等の社会教育施設を見学し、学校教育での活用法を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	地学実験A	○	小中学校理科地学分野の授業実践の基礎となる実験・観察を適切に行うことができ、科学的なデータの取り扱いや論理的な文書作成ができるようになることを目標としている。本授業は、野外や室内において地質学分野の基礎的な実験・観察を実施し、調査観察器具の適切な操作法を習得するとともに、地質学的事象の見方、考え方を学ぶ。また、実験・観察の結果をレポートにまとめ、科学的文書の作成技能の向上を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科に関する専門的事項	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	地学実験B		小中学校理科地学分野の学習に必要な実験観察の技能などを習得した上で、学校現場で活用できる地学関連の実践的な教材開発を自主的に行うことができることを目標としている。本授業は、野外や室内において地質学や天文学の分野の基礎的な実験・観察を実施し、調査・観察器具の適切な操作方法等を習得するとともに、 地質学的事象の見方、考え方を学ぶ。 また、実験・観察の結果をレポートにまとめ、科学的文書の作成技能の向上を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		理科基礎研究		本授業では、卒業研究で必要となる専門分野の基礎的理論および研究遂行に必須となる基礎的技能を身に付けることができるようになることを目標としている。 卒業研究の専門分野において必要な基礎的知識とその応用およびICT活用、情報処理、プログラミング、文献調査、課題設定、実験操作をはじめとする研究遂行に必須となる基礎的技能に関して講義と演習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科の指導法		中等理科指導法Ⅰ	○	中等理科教育に関する目的論、カリキュラム論、学習指導方法論、自然認識論、評価論等の各領域について概説する。また、実際の授業実践を想定し、具体的な理科の学習内容についても取り上げていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科の指導法		中等理科指導法Ⅱ	○	中等理科教育法の教材研究から授業構想までのアプローチを各論的に取り上げて説明を行い、その内容に関する理解を演習的な活動で深める。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)直子／2回）（共同）第1回、第15回を担当する。 （61 飯野(金柿)　直子／2回）第10回～第11回を担当する。 （42 渡邉　重義／11回）第2回～第9回、第12回～第14回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科の指導法		中等理科指導法Ⅲ	○	指導法の理論や学習者の自然認識、評価、ＩＣＴ活用など、中等理科教育法１および2での学修を踏まえて教材研究や授業作りを行い、模擬授業や授業提案を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科の指導法		中等理科指導法Ⅳ	○	中等理科教育における授業実践について、教材の特性や指導法の理論、学習者の自然認識、評価方法、ICT活用などの観点から分析・評価する。また、授業実践の省察などを通して、学習構想、指導支援の方策の提案、教材作成、模擬授業などを行う。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)直子／5回）（共同）第1回、第12回～第15回を担当する。 （61 飯野(金柿)　直子／2回）第10回～第11回を担当する。 （42 渡邉　重義／8回）第2回～第9回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(理科専攻)	教科の指導法		理科教育実践入門		中学校理科教材の分析を行い、理科授業実践に必要な知識や技能を的確に抽出し、理科教育実践の授業記録の視聴を通して、教える立場と学ぶ立場から授業観察を行い、理科教材研究を実施し、自分の学びのプロセスを適切に考察することができることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （43 渡邉　重義・61 飯野(金柿)直子／9回）（共同）第1回、第8回～第15回を担当する。 （61 飯野(金柿)　直子／3回）第4回～第6回を担当する。 （42 渡邉　重義／3回）第2回、第3回、第7回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュ基礎	○	音高、音価、リズムの把握等について、視唱や聴音（旋律・和声等）の課題を含む様々な課題を通じて、教育活動や演奏の場面に活かせるソルフェージュ力をバランスよく養う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュ応用B	○	ソルフェージュ力及び読譜能力の向上。コードネーム、数字付低音、簡易な伴奏付け、スコア・リーディングの実習を通して、教育現場に活用させ得るソルフェージュ力を修得することを目標として、コードネーム、数字付低音の基礎を学習し、それに基づいた簡易な伴奏付けを実習する。スコア・リーディングの基礎を学習し、総合的なソルフェージュ力を向上させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	声楽基礎Ⅰ（伝統的な歌唱を含む）	○	音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する為、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	声楽基礎Ⅲ	○	西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する為、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	声楽基礎Ⅳ		西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。ドイツ歌曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	声楽基礎Ⅴ		日本歌曲における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。日本歌曲と歌唱共通教材の日本歌曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。また、ピアノ弾き歌いもおこなう。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	声楽実技Ⅰ		西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。前期ロマン派の曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	声楽実技Ⅱ		西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得することを目標として、音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。後期ロマン派の曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	声楽	合唱	○	合唱の基本的な知識や発声法・表現法を身に付けることを目的とする。またアンサンブルにおける表現の向上を目指し、楽曲の練習から完成までの実践的な過程を学ぶ。また、合唱曲におけるピアノ伴奏についても学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	ピアノ基礎Ⅰ	○	正しい読譜力・演奏技術の基礎を学ぶ。音楽の知識を修得し表現技術へ結びつけ、演奏に反映できることを目標として、ピアノを演奏する上での正しい指の基本動作を身につけ、技術・表現の基礎力を習得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	ピアノ基礎Ⅲ	○	ロマン派の作曲家のソナタ、及び他の作品を通して、音楽を表現するための演奏技術を学ぶと同時に、楽曲分析能力をつけるための方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	ピアノ実技Ⅰ		ロマン派の楽曲を通して、ピアニスティックな演奏技術の習得と楽曲分析能力を向上させる。高度な演奏技術を要する楽曲を流暢に弾くことができ、楽曲の構成を理解できることを目標として、ロマン派の作曲家によるソナタ及び他の作品を通して、音楽を表現するための演奏技術を学び、楽曲分析能力をつけるための方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	ピアノ実技Ⅱ		近代に作曲された様々な作品を通して、ピアニスティックな演奏技術の習得と楽曲分析能力を向上させることを目標として、フランスやロシアの近代の作曲家の作品にふさわしい演奏様式と解釈を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	ピアノ実技Ⅲ		様々な作品を通してピアニスティックな演奏技術に習熟し、高度な演奏様式を身に付ける。演奏解釈に必要な楽曲分析の能力を高めることを目標として、各受講生が課題曲を選定し、それぞれの楽曲にふさわしい表現を様々な演奏技術と知識を駆使して楽曲の演奏に反映する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	ピアノ実技Ⅳ		規模の大きな作品を通してピアニスティックな演奏技術に習熟し、高度な演奏様式を身に付ける。複雑な楽曲の演奏解釈に必要な楽曲分析の能力を高めることを目標として、各受講生が課題曲を選定し、それぞれの楽曲にふさわしい表現を高度な演奏技術と知識を駆使して楽曲の演奏に反映する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	器楽基礎（和楽器を含む）	○	リコーダーの歴史、用いられた時代の演奏様式について学び、様々な様式、ジャンルの音楽の実習を行う。また、日本伝統楽器として琴、三味線等について広く学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	合奏	○	合奏の指導に必要な知識と技能を身につけ、指導に生かすことができることを目標として、楽器演奏を通して合奏の方法を学び、合奏指導で活用できる実践的な知識と技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	器楽	伴奏法演習Ⅰ	○	ピアノ伴奏の基礎知識、基礎技術を修得する。さらに、音楽全体を捉えることを目標として、音楽教員の授業展開に必要なピアノ伴奏の基礎技術や、主に学校教材の中の作品を取り上げ、楽曲全体の理解力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	音楽理論A	○	データベース、レファレンス資料の使い方、そして先行研究を調べ、自らの興味や問を自ら解決する手法を身に付ける。そしてそれらを通して音楽研究、分析法を学ぶことを目標として、レファレンス資料、データベースの使い方、学術論文の仕組み、レジュメとパワーポイントの使い方を学び、多様な音楽に関わる専門研究について理解を図る。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	音楽理論BⅠ	○	音楽教育に必要な西洋音楽の基礎理論、和声法を学習し、音楽の知識と理解を深めることを目標として、和声理論の講義をもとに、和声課題を実施し、その実践力を確認する。各種楽曲の和声分析を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	音楽理論BⅡ		音楽理論を通して調性感覚、和声感覚を高め、課題実習を通して理論を習得することを目標として、ドミナント諸和音、借用和音の進行法を学習する。バス課題およびソプラノ課題の実施を通して理論に習熟し、知識を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	音楽史Ⅰ	○	世界各地の音楽の役割を理解したうえで、西洋と世界の各時代の様々なトピックを学ぶことを目標として、「音楽」の総体から、一部が抜き出されて「歴史」とされたその「一部」の西洋と世界の音楽、および取りこぼされてきた音楽について、それぞれ理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	音楽史Ⅱ		通史の一部となる西洋音楽の個別ジャンルの形成と展開を、具体的なトピックを通して学ぶことを目標として、シンフォニー、オペラを中心に、ジャンルの形成、展開を多角的に検討する。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	作曲法	○	音楽教育に必要な西洋音楽の基礎理論、和声法を学習し、知識と理解を深める。楽曲の和声分析や非和声音の分析を通して楽曲の読譜力を高めることを目標として、和声理論の講義をもとに、和声課題を実施し、実践力を身に付ける。各種楽曲の和声分析や非和声音の分析を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	作曲演習Ⅰ		楽器学・管弦楽法の基礎を学び、編曲実習を通して楽器を活かした書法を磨く。様々な作曲家の様式を学習し、各種様式を模した作曲実習を行い、音楽理解力を高めることを目標として、様々な作曲家の様式による作曲実習を行う。短いピアノ曲を小編成（二重奏から三重奏）のアンサンブルに編曲する実習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	作曲演習Ⅱ		管弦楽の楽器の特性や書法を深く理解し、作曲に活かす。楽曲の形式や構成を工夫し、創作主題をもとに小編成の楽曲を作曲し、創造的な音楽性を高めることを目標として、管弦楽の楽器の特性や書法、主題の創作や展開、変奏法について学習する。創作主題に基づき、形式・構成を感じさせることのできる楽曲の作曲実習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	音楽学演習Ⅰ		音楽学の諸課題について理解を深めることを目標として、音楽学の中心的課題である楽譜校訂について学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科に関する専門的事項	音楽理論・作曲法・音楽史	音楽学演習Ⅱ		音楽文化に関わる諸課題（西洋、諸民族、日本、ポピュラー）について理解を深めることを目標として、音楽文化学領域の様々な対象、研究手法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科の指導法		中等音楽科指導法Ⅰ	○	音楽の指導法について歴史を含め多様な指導の在り方を理解するとともに、内容および方法の検討を行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに音楽科の指導法について検討する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科の指導法		中等音楽科指導法Ⅱ	○	音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科の指導法		中等音楽科指導法Ⅲ	○	音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（音楽）	教科の指導法		中等音楽科指導法Ⅳ	○	自身で設定した指導における課題を文献によって探究し、音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献および実践資料を通して指導についての理解を深めるとともに、それをいかした授業を構想し、実践することができる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	絵画基礎Ⅰ	○	絵画のデッサンと映像メディア表現の基礎技能・表現力習得することを目標として、様々なモチーフを単色で描写する。作品制作に取組、社会的制作発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	絵画基礎Ⅱ		絵画表現に慣れ親しみ、基礎的水彩技法・制作法を習得することを目標として、水彩画材の基礎を学び、様々な描画材に慣れ表現し、社会的発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	絵画演習Ⅰ		静物モチーフ描写、人物モデル描写を通して自己の構想的絵画表現ができることを目標として、様々な描画材を用いて、静物画、人物画による絵画制作課題に取り組む。画面作り計画を理解する。素材、色彩、バランス、プロポーションの理解を進め絵画制作を行い学外発表する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	絵画演習Ⅱ		テーマを設定、制作し、具象・抽象表現を理解し、自己表現を研究することを目標として、風景画を制作する。自然の中で五感を生かし、具象的表現、抽象的表現について計画を立て制作・作品発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	絵画	絵画演習Ⅲ		絵画における異素材表現研究を行い、コラージュ、版等による制作及びデジタル活用による絵画制作が出来ることを目標として、版を使った絵画表現と、デジタル素材（印刷を含む）活用による絵画表現の発表を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	彫刻	彫刻基礎	○	彫刻芸術に講義・演習によって多角的にアプローチすることで、自分の表現や他人の表現を多角的に見る力を養う。彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を具体的な講義と演習によって理解する。彫刻を言語化するための基礎知識を学び、粘土、石膏、木材を使った演習を行う。知識を学び、言語化することで記録に残る彫刻作品の道筋を理解し、材料体験や技法体験を通じて、記憶に残る彫刻作品への道筋を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	工芸	工芸基礎	○	自然素材との関わりを通して立体造形の基礎技能を養う。また、学校教材としての工芸について考察することを目標として、制作実践が中心であるが、ここで獲得する技術、技能は個人制作の表現的力量を上げると同時に、工芸教育実践指導力を向上できる内容とする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	工芸	工芸演習		「工芸演習Ⅰ」では応用的美術表現を中心に行っていく。すなわち自己完結型の表現活動を越えて他者との関わり（造形的コミュニケーション）を意識した制作活動となる。具体例としては「アートミュージアムショップ商品開発」の課題を設け、アート・商品・消費者（購買者）の複合的視点からより良い作品（架空の商品）の企画から制作までを実施できるようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科に関する専門的事項	美術理論・美術史	美術史概論	○	古今東西のさまざまな造形作品、資料を題材にして、さまざまな角度から美術史・文化史について教えます。具体的には、スライドやyou tubeを使ってさまざまな作品を見せながら授業を進めます。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		造形実践演習		造形表現の諸領域について、概説と演習を通じて理解を深めるとともに、それらの内容と教育実践とを接続しながら学修を進めることで、教材開発能力を高めていく。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科の指導法	中等美術科指導法Ⅰ	○	本講義では、A表現に関わる中学校美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教科の歴史、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿ったA表現の授業について、指導計画を立案し短時間の模擬授業（デジタル機器やタブレット端末等のICT機器を適宜活用）を行うことで、授業方法の専門知識・技術を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科の指導法	中等美術科指導法Ⅱ	○	美術科教育の内容や教育方法について、社会状況との関係、異校種との連携・接続、教材・教具などの観点から多面的に学習を進めていく。試行実践も適宜行い、授業実践力の向上へつなげていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科の指導法	中等美術科指導法Ⅲ	○	前半では情報機器を活用した表現学習の授業開発を行う。後半では鑑賞学習の授業開発を中心に学修を進め、模擬授業を行う。これらを通じて授業方法の専門知識や授業手法の理解を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（美術・工芸）	教科の指導法	中等美術科指導法Ⅳ	○	先行授業実践例に基づく授業研究を行うとともに情報機器の効果的活用を検討する。さらに、模擬授業へ向けた指導計画立案や教具作成等を行い、模擬授業を実施する。最終回のまとめにおいて、教育実習へ向けた課題整理を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	体つくり運動	○	本授業は、中学校、高等学校における保健体育教員として、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領における体力の内容及びその高め方等について理解するとともに実践的指導力を高めることを目的に、履修者自らが主体となり、体つくり運動の目的、内容、方法について実践し、心と体が一体であること、仲間とのかかわり方について学ぶ授業である。加えて、ＩＣＴの活用によるコミュニケーションの広がりと効果を目指す。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	器械運動	○	器械運動は、マット、鉄棒、平均台、とび箱などの器械、器具を使った「技」によって構成されている運動である。各運動種目では、自己の能力に応じて「技を習得する」「技が円滑にできる」ことをねらいとし、様々な運動課題の解決に取り組む学習指導が展開される。また、そこでの学習の対象となる運動は、非日常的驚異性と姿勢的簡潔性を特徴として、誰にでも有効で客観的な技術を持つ技が取り上げられる。特に、学習指導要領に提示されている技を中心に練習、習得していく。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	水泳	○	水泳指導の基本を身につけ、最終的には80分程度の連続泳ができるようになることを目指す。最初の3～4回は講義形式、残りの授業はプールでの実技形式で行う。水泳指導の基礎基本を学ぶ。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	陸上競技	○	陸上競技の短距離種目、跳躍種目、投てき種目、中・長距離走種目の特性や科学的知識を理解し、基本的な技術を身につけ、自身の技術を分析することで、学校体育における陸上競技の指導法を身に付ける。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	ゴール型球技	○	ゴール型球技の代表的種目として、サッカー及びバスケットボールを取り扱うが、本講義ではバスケットボールを展開する。バスケットボールの競技特性を理解し、個人的・集団的スキルの習得とチームプレイや戦術について学習し、また、発達段階に応じたスキル指導の内容や方法等、指導方法、さらにルールや審判法についても理解を深める。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	ネット型球技	○	ネット型球技としてのバレーボールの技術構造、ルール、および練習方法などについて学習するとともに、試合を行うための審判・企画・運営等についても学習する。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	ダンス	○	中学校におけるダンス授業に対応した内容を中心に、多様なテーマや課題を取り上げ、ダンスの理論と実技を学習する。授業のまとめとして、グループで作品を創作する。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	柔道	○	本授業は柔道の基本的な動作のメカニズム（理合）の理解とその動作（投技と受身）の習得を目指して実際に柔道の稽古を行います。十分な基本動作の習得が確認された場合には、それを実戦（乱取）の中で活用する方法を学びます。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育実技	野外活動		野外における活動の特性に応じた目的を理解し、その企画、運営、指導の為の資質と技術を身に付けることを目指す。本授業は、体験型学習として夏季においてはキャンプおよび野外での活動体験を行う。冬季においてはスノースポーツを体験する。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	体育原理	○	「体育・スポーツとは何か」という根源的な問いから、体育・スポーツに関する様々な事柄について理解を深め、体育・スポーツのあるべき姿や進むべき方向について考える。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	体育経営管理学	○	学校体育や地域等のスポーツ振興に必要となる体育・スポーツ経営の基礎理論及び方法論についての理解を深める。本稿では、アメリカンスポーツマネジメントの現状を参考にしながら、体育・スポーツ事業の経営過程について学習する。
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	体育社会学	○	スポーツは現代社会において、文化の一つとして人びとの生活のあらゆる側面に深く浸透している。本授業では、体育を取り巻く様々な現象を社会学的に検討し、それらをめぐる問題や課題について考察することを通じて、体育・スポーツ科学の一つの専門領域である体育社会学の見方、考え方を解説する。そこでは、スポーツの高度化や大衆化が社会にプラスのみならずマイナスの機能も生じさせている事実とその乗り越えの可能性についても考察していく。

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	保健体育科課題研究Ⅰ		体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する専門知識を身に付け、これらの基礎的な専門知識を基に、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する研究を行うための基礎的能力を身に付けることを目標としている。 本授業は、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する資料収集、文献輪読、演習を中心にゼミ形式で学習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史・運動学（運動方法学を含む）	保健体育科課題研究Ⅱ		体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する高度な専門知識を身に付け、これらの高度な専門知識を基に、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する研究を行うための実践的能力を身に付けることを目標としている。 本授業は、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する資料収集、文献輪読、演習を中心にゼミ形式で学習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	生理学	生理学（運動生理学を含む）	○	各授業では学生に必要な追加資料を配布し、運動生理学に関する基本的な知見について概説する。さらに、運動・トレーニングに対する生体の適応についても解説する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	生理学	生理学実験・演習		生理学（運動生理学を含む。）の授業で得た知識を基に実験・演習を行うことで、人体生理についての理解を深める。具体的には、自分自身の体力・運動能力特性（最大酸素摂取量、筋線維組成、反応時間、心臓の活動、筋疲労、運動学習、反射）を測定および評価する。また、測定を行うことで、自然科学的な実験についての基礎を学ぶ。これらを通して、①実験の方法を学ぶと共に人体生理についての理解を深める、②運動による人体生理の適応についての理解を深め説明できるようになる、ことを目指す。授業は共同形式で実施する。両教員ともに15回の授業を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	○	衛生学および公衆衛生学の概念と意義を説明することができるようになり、ヒトの健康に影響を及ぼす自然環境や社会的環境について理解することを目標として、衛生学および公衆衛生学上の主要な問題点について概説する。そのうえで、社会や環境と健康の関わりについて考察し、議論していく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科に関する専門的事項	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	学校保健	○	学校現場における保健問題の現状を理解し、基本的知識を身に付けることで、課題解決を図れるようになることを目標として、学校現場における保健問題の現状や子どもの健康問題について理解し、基本的知識を身につけながら、課題解決の方法を探る。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （25 井福　裕俊・72 坂本　将基・522 伊藤　雅浩／1回）（共同）第1回を担当する。 （368 伊藤　雅浩／6回）第2回～第7回を担当する。 （24 井福　裕俊／6回）第8回～第13回を担当する。 （71 坂本　将基／2回）第14回～第15回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科の指導法		中等保健体育科指導法Ⅰ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科の指導法		中等保健体育科指導法Ⅱ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科の指導法		中等保健体育科指導法Ⅲ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（保健体育）	教科の指導法		中等保健体育科指導法Ⅳ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」及び保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの考え方を理解する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	木材加工Ⅰ（実習を含む）	○	技術科教員に必要な木材加工の基礎基本として、①木材②木質材料の性能と特徴を理解する。具体的には、森林の有益な機能、森林資源の保護と木材利用の調和、生物由来の木材の特性、木質材料の特徴、木材の接着・塗装加工法等について学習する。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／4回）第1回～第4回を担当する。 （195 大塚　芳生／4回）第5回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	木材加工Ⅱ	○	技術科教育の教員養成に備えるべき材料と加工分野における木材加工の基礎基本として、①手工具、②木工機械の構造と機能を教授する。具体的には、木材加工に関する切削理論と加工法、主な木工手工具および木工機械の構造と機能を理解し、中学校技術の授業が担当できる力を養成する。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／4回）第1回～第4回を担当する。 （195 大塚　芳生／4回）第5回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	材料加工（実習を含む。）	木材加工実習		木材を使用したものづくり課題として、各種の手工具と機械を安全に使用し、鍋敷き、マルチラック等を製作する。また、自由製作品の構造と機能を考えて製図を行い、各種の手工具と機械を安全に使用し、作品を完成する。中学校技術科教員に必要不可欠な木材加工に関する基礎知識と基本技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	機械Ⅰ（実習を含む）	○	材料力学・構造力学の基礎を学習することを目標として、力のつりあいを理解し、構造物にかかる応力が計算できるようになる。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	機械Ⅱ	○	機械Iで 材料力学・構造力学を学び、トラスの設計を行うことを目標として、平面トラスの設計を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	機械実習		学士力に到達するために機械工作のやり方および安全に対する知識を身に付けることを目標として、安全について学んだあと、主に機械加工を体験する。また、接着加工として溶接、はんだ、ろう付けの加工方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	機械・電気（実習を含む。）	電気実習		これは、いくつかの現象を実際に観察し、その内容をレポートとしてとりまとめる授業科目である。そこで、本実習では、実験内容をとりまとめて第三者に分かりやすく説明するための「実験レポート」について、その重要性を説明した後、実践的なトレーニングとして、いくつかの基本的な電気回路及び電子回路に関わる実験に取り組む。※「電気Ⅰ（実習を含む）」の履修を前提として進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	生物育成	生物育成ⅠB（実習を含む）	○	生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について講義と実習により理解することを目標としている。具体的には、生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用いるとともに実習により学修を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	生物育成	生物育成ⅡB	○	生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について理解するすることを目標としている。具体的には、生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用い学修を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	生物育成	生物育成実習		生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について講義と実習により理解することを目標としている。具体的には、大江農場においての栽培実習を通して、「生物育成の技術」に関連した作物の管理技術や環境調節技術を習得する。また、生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用いるとともに実習により学修を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ	情報とコンピュータⅠ（実習を含む）	○	ICT活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報およびICTを活用した問題解決の理論・概念の理解と基礎的能力を育むことを目標としている。具体的には、ディジタル作品作成技術、画像表現、ネットワーク社会のルールとマナー、プログラミングの基礎について学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ	情報とコンピュータⅡ	○	ICT活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報およびICTを活用した問題解決の理論・概念の理解を踏まえて、社会的な課題を解決できることを目標としている。具体的には、ディジタル化の利点、情報伝達のしくみ、生活の中にある計測と制御、プログラミングによる問題解決について学ぶ。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	情報とコンピュータ	情報とコンピュータ実習		ICT活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報およびICTを活用した問題解決の理論・概念の理解を踏まえて、課題を解決できる能力を育むことを目標としている。具体的には、プログラミング技法、マルチメディア利用、制御技術とそれに伴う課題等を学びます。授業ごとに設定した学習課題について、ICTを用いながら学ぶ。毎時のはじめに前回の振り返りを実施する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導		現代の子供たちが抱えている問題や学校環境・家庭環境を深く分析し、その問題点を多面的にとらえて、これからの進路指導（職業指導）の課題と望ましいあり方について深く考える。具体的には、諸外国との比較を交えながら、日本の社会、経済、教育制度、産業構造の変化および学校が抱えている課題をしっかり捉え、持続可能な開発のための教育として、学校における職業指導（進路指導、キャリア教育）のあり方や自己の適性をふまえた的確な職業選択能力の養成手法について考えを深めていく。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／6回）第1回～第6回を担当する。 （195 大塚　芳生／9回）第7回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		中等技術科指導法Ⅰ	○	技術科教育における各学習内容について、課題解決学習の視点や具体的な指導内容、指導方法について学修する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／8回）第1回～第8回を担当する。 （195 大塚　芳生／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		中等技術科指導法Ⅱ	○	技術科教育に関連する指導計画、授業設計、授業分析、学習指導、学習評価、安全管理と指導、技術科固有の資質と能力の育成について学修する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （195 大塚　芳生／8回）第1回～第8回を担当する。 （196 田口　浩継／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		中等技術科指導法Ⅲ	○	技術科教育に関連する目的・意義、歴史的背景、教育課程、学校教育法、比較研究（各国の教育課程、実践事例）などについて学修する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／8回）第1回～第8回を担当する。 （195 大塚　芳生／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		中等技術科指導法Ⅳ	○	技術科教育に関する基礎的な知識や技能を理解した上で、中学校技術・家庭科（技術分野）の教材研究の主題の立て方、手順、情報収取の方法、諸外国の技術教育や先端的な技術科教育などについて学習する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （195 大塚　芳生／8回）第1回～第8回を担当する。 （196 田口　浩継／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法		工業科指導法Ⅰ		工業高校の現状と課題から、工業高等学校教育のあり方について理解し、工業高校における授業を実施できるようになる。工業高校の現状と課題、諸外国との比較などによって知識を獲得するとともに、工業高校訪問から実体験を得る。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／5回）第1回、第2回、第8回、第14回、第15回を担当する。 （195 大塚　芳生／10回）第3回～第7回、第9回～第13回を担当する。	オムニバス

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中（技術）・高（工業）	教科の指導法	工業科指導法Ⅱ		「工業科指導法Ⅰ」を基礎にして、より実用的な授業法、生徒指導、進路指導、教育評価について考えを深め、「工業」教師としての総合的な実践力を身に付ける。工業高等学校が抱える課題と解決策について学生間で討論と考察を重ね、豊かな発想と表現力およびコミュニケーション力を身に付ける。さらに、学生間で模擬授業を展開しながら教科指導上の諸問題を考察し合い、実践的能力と学生自身のプレゼンテーション技法を養う。また、常に生徒の立場になって考えを深め、生徒の学習意欲の向上と自らの指導法の改善の必要性を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／6回）第1回～第3回、第8回、第11回、第15回を担当する。 （195 大塚　芳生／9回）第4回～第7回、第9回～第10回、第12回～第14回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家庭経営学Ⅰ	○	家庭経営学の学び方について、基礎理論を確認した後、家庭経営（家庭経済を含む）に関連するトピックスをとりあげる。それらのトピックスについて自分自身の問題として「考える」ことを通して、自分流ライフスタイルの構築をめざすとともに、現代社会における家庭経営に関する諸課題について、自分自身の生活設計上の問題と関連させながら考察を進める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家庭経営学Ⅱ		家庭経営学Ⅰの学びをふまえ，中学校・高等学校家庭科の授業づくりを視野に入れる。高等学校家庭科で重視されている生活設計やリスク・マネジメントの基礎理論を修得すると共に，（おもに高等学校家庭科における）家庭経営に関する授業づくりを考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家庭経営学演習		(1)複式家計簿記の演習では、キャッシュレス時代に対応した複式家計簿記帳を通して、フローとストックの把握方法を習得する。 (2)家計調査年報等を活用した家計の構造分析では、受講者に「家計調査年報」等に基づくデータを配布し、消費構造や家計構造の分析手法を学ぶ。 (3)生活時間研究とその応用では、1日の生活時間調査を実施し、それをもとにエネルギー消費量を算出し、摂取エネルギーとのバランスのとり方を考えるとともに、家事労働研究への応用や疲労回復の方法について演習する。 (4)人生80年時代の生活設計では、高校生が家庭科を学ぶ視点に立って、ライフコースの選択、ライフコースのよりよい実現を可能にする長期の経済計画について立案・シミュレーションを行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家政学原論		本授業では，日本とアメリカを中心とする家政学の歴史（家政学史ならびに比較家政学），家政学論，家庭生活論，これからの家政学（家政学の将来）などの内容をもとに，「家政学とは何か」，家庭生活が人間生活において果たす役割について考えることを通して，家政学を学んだ学生が教職を含む社会的活動や社会貢献を行うことの意義を考える。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家族関係学	○	家族は、社会の最も基礎的な集団であり、私たちに最も身近な存在である。戦後、家族に生じた変化は、社会にさまざまな影響を及ぼしてきた。この授業では、家族関係や家族法に関する基礎的知識を習得するとともに、家族の生涯発達について学際的に概観し、社会の変化とこれからの家族のあり方について展望する。さらに、習得した基礎理論を活用して、家族のライフコースに関する聞き取り調査を実施し、分析・考察を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学(被服実習を含む。)	被服実習	○	被服実習の基礎知識と基礎技術の習得を目指す。被服製作の基礎となる構成学と実習を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学(被服実習を含む。)	食物学Ⅱ		調理科学の内容について基礎的事項を解説する。また、意見交換する活動を取り入れ、現代の食生活のあり方を考える力を身に付けさせる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学(被服実習を含む。)	食物学実験・実習Ⅰ	○	食物学の調理実習の内容について、基礎知識を解説し、基本的な調理操作に関する実習・実験を行う。調理の目的について考え、理解を深める活動を取り入れる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	被服学(被服実習を含む。)	食物学実験・実習Ⅱ	○	食物学の調理実習の内容について、基本的な献立についての実習・実験を行う。地域の食材や郷土料理を取り入れた献立作成について解説する。調理実習の指導上の留意点について考え、理解を深める活動を取り入れる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	住居学Ⅰ	○	中学校、高等学校家庭科住居分野で扱う内容を取り上げ、家庭科教員として必要な住居分野の知識を習得し、自身の生活の中での実践力を身に付けることを目的とする。中学校、高等学校家庭科住居分野で扱われている専門的知識について学習する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	住居学Ⅱ		講義と見学を通じて、わが国の住まいや住まい方をとりまく諸問題に関する基礎知識を習得させ、これからの住生活のあり方を考える力を身に付けさせる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	住居学Ⅲ		「まちづくり」について基本的な考え方や関係する知識を学ぶと共に、地域を歩き、安全で安心できる地域環境や今後の自分と居住地域との関わりについて考察する。まちづくりに関する先行事例を学び、実践的なまちづくりの知識を習得するとともに、身近な地域の諸問題について考察する能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	住居学	住居計画学		中学校、高等学校家庭科教員として住居分野に必要な知識を習得する。家事動線や時間とともに変化する住まいに対する要求を理解し、平面図を作成することを通して、ライフスタイルにあった住まいの特徴を理解し、計画する際の実践力を身に付ける。 住宅を計画するにあたり必要な、構造、設備、間取り、空間の使い方、資金計画などの知識を習得し、住まいの提案を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	保育学	保育学	○	子どもの社会学・生活史・保育実践・家庭環境・現代の課題について考察し、子どもの社会的位置を理解することで、今後どのような支援が必要か議論していく。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科に関する専門的事項	保育学	保育学演習Ⅱ		授業の前半では、子どもの身体的・心理的発達、社会性の発達を発達段階ごとに解説する。授業の後半では実際の子どもを観察し、子どもの発達や保育実践について理解を深める。最後に子どもに関する制度について紹介し、子どもを支える仕組みへの関心を深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科の指導法		中等家庭科指導法Ⅰ	○	家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。 また、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を行い、基礎的な技能を身に付ける。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科の指導法		中等家庭科指導法Ⅱ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科の指導法		中等家庭科指導法Ⅲ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（実技系専攻）	免許教科：中・高（家庭）	教科の指導法		中等家庭科指導法Ⅳ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （77 中迫(北後)由実／7回）第1回～第7回を担当する。 （84 増田　仁／8回）第8回～第15回を担当する。	オムニバス（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	英語音声学	○	音声学の基礎知識を理解し身につけ、英語の個々の音と単語・文レベルの発音ができる。音声指導のスキル・アイデアを豊富に有し、実践することができることを目標として、小・中・高等学校において、英語科教員（英語教師）として音声指導する際に必要とされる音声学の基礎知識を得ながら、音声指導のスキルとアイデアを実践する。演習形式時にはペアやグループワークで協働することを求める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	英語学	○	「英語学」というのは、英語という言葉がどのような仕組みになっているかを考える言語学の一領域です。その仕組みから規則を明らかにして英語を深いレベルで理解しようとします。つまり英語の音や単語、文や会話、様々な視点から英語がどのルールに沿って使用されているかを理解しようとする分野です。この科目では、その「音」（音素など）の組み立てを明らかにする音韻論、「単語」の仕組みを明らかにする形態論、「文」の仕組みを明らかにする統語論、などの観点から英語を考え、これから児童や生徒に教える教員として英語に関しての理解をより深める。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	英語学演習	○	「英語学」で構築された知識をもとに英文による英語学の解説を通じて様々な視点から英語を言語的に考え、仕組みをさらに理解を深める。この理解を用いて教科書に使われている英文を分析しクラスルームプラクティスに繋げていく。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語学	英語学課題研究		英語教育における語彙・文法と英語学との関わりについての討議・演習を中心に進めていく。教育実践への応用を前提とした英語学論文及び学術図書の批判的読解の方法も指導する。授業の目標は、(1)英語学に関わる高度な知識の習得を目指す。(2)英語教育と英語学との接点を適切に理解した上で、英語学の諸理論を英語教育実践へ応用する方略を探求できる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語文学	英語文学演習Ⅰ	○	この講義では、英語圏の文学作品について、同一の作品であっても多様な角度から異なる読み方ができることを学ぶ。また講義を通して学んだ観点をもとに、学生自身が主体的に作品を精読し、先行研究を踏まえながら作品を分析する。最終課題としてその成果はプレゼン等の形でアウトプットする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語文学	英語文学演習Ⅱ	○	私たちは、1）テキストの言語と文字通りの意味を理解すること、2）文字通りの意味を超えたより深い理解を養うこと、2）作品のテーマ、構造、スタイルを理解することを目指します。学生はグループディスカッションに積極的に参加することが求められます。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語文学	英米文学課題研究		各自の課題を設定し、教員も含めてお互いに討論しながら内容を深めて行く。 作品を特定していく過程で、日本語や英語を使って実際に 論文の形にまとめる。何度も書き直しをすることによって、 自分の考えをはっきりさせて行く。また、英語論文を読み、形式に慣れるようにする。ほぼ毎回レジメを使っての発表が中心となる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語コミュニケーション	英語アカデミックライティング	○	英語でアカデミックな文章を作成する際の、情報収集、情報整理、構成の方法、英文構成、パラグラフライティング、アウトライン、文章のまとめまでを演習形式で進める。また、口語的な表現や言い回しを超えたアカデミックな文章で使われる語彙や表現を学修する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		英語コミュニケーション	英会話	○	学生はペアワークやグループワークに参加し、日常の会話や議論でよく使われる慣用表現の語彙と知識を広げる。また、さまざまなトピックについて理由を添えて意見を述べる能力や、イントネーション・ジェスチャーを適切に使用してより明確なコミュニケーションを促進する能力も向上させる。授業の目標は、1)会話力を向上させ、語彙を増やす。2)言語の使用における文化の役割を認識する。3)英語を話すことに自信をつけ、他国の英語話者と交流できるようにする。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項		異文化理解	異文化理解	○	文化、言語的および非言語的コミュニケーション、価値観の多様性、認識の違いについて探求する。・異なる文化と自分自身の文化に対する理解と尊敬を育む。授業の目標は、1）自分の文化で標準とされていることが、必ずしも他の文化でも標準とされているわけではないことを認識する。2）言語を学ぶときに文化の重要性を理解する。3）コミュニケーションは言葉だけでなく、身振り、姿勢、表情、沈黙などの非言語的手段を通じても行われることを認識する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法		中等英語科指導法Ⅰ	○	各回のテーマについてテキストを中心とした文献を読み、日本の小・中・高等学校における外国語教育についての理解・考察を深めていく。また、言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては演習形式で検討していくことにより、授業指導の基礎を修得する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法		中等英語科指導法Ⅱ	○	英語の国際化、単元設計、コミュニケーション能力、４技能の統合、ICTの利活用、Team　Teachingなどのテーマに関する講義と演習課題に取組み、英語の学習・指導に関する知識の向上と授業実践及び学習評価についての基礎の修得を目指す。	

専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法	中等英語科指導法Ⅲ	○	各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における英語指導についての理解・考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討していくことにより、英語指導技術の定着及び指導力の更なる向上を達成させる。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法	中等英語科指導法Ⅳ	○	各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における外国語教育について複眼的な視点から考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討し、指導力及び外国語教育研究の知識・スキルの更なる向上を達成する。	
専門教育	専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目(英語専攻)	教科に関する専門的事項	教科の指導法	英語科教育課題研究		英語科教育に関して専門的な知識を身につけ、研究課題を設定する。卒業論文を書くために、文献の集め方、研究の進め方、卒論の書き方等を修得することを目標として、英語教育学に関わる討議・演習を通して、研究方法を指導する。卒論の題目を設定し、研究計画書を作成する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	教育制度		法律主義を採用しているわが国においては、教育制度は教育関係の法規に大きく規定されている。従って、教育法に関する知識がなければ教育制度の仕組みや課題を理解することは困難である。従って、教育法規の基本的知識を身に付け、公教育としての学校教育がどのような仕組みで動いているのかを説明できるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	教育制度特殊講義		教育制度に関する理論・概念や方法論に関する基本的知識を身に付け、公教育としての学校教育制度がいかなる歴史的経緯で展開してきたのか、その過程においてどのような問題を抱えるに至ったのかについて説明できるようになることが授業の目標である。授業では、基本的には講義者が作成したレジュメに沿って講義を行うが、適宜、必要な資料を配付したり、その時の問題について受講者同士で討論をするようなことも考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	教育制度演習		教育制度に関して幅広く問題を取り上げている文献を指定して、その中で何が問題として論じられているのか、現代的課題を把握することを目的とする。授業では、グループごとに担当する文献（章）を決めて丁寧に報告レジュメを作成すること、また他者に分かりやすく報告すること、疑問点を考えてきて討論する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育社会学	学校社会学		本授業は、学校の諸機能について理解するとともに、学校を社会学的にとらえる視点を確立し、それによって学校現場の様々な現実を客観的にとらえることを目的とする。授業では、学校や学級というシステムが生み出された経緯や学校組織の特徴について学ぶとともに、そうした学校の構造がもたらす現代の教育課題とその解決について主体的に考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育社会学	教育社会学特殊講義		授業の目的は、現代の親や子どものおかれた状況について理解するとともに、家族問題を考える際に重要となるジェンダーの視点を取り入れることによって人間の社会的形成についての理解を深めることである。授業では、子どもを産むということから現代における子どもの価値について再考するとともに、現代の子育ての特徴と課題について理解し、家族支援・子育て支援について考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育社会学	教育社会学演習		教育社会学の成果と知見を学ぶとともに、様々な教育的事象について教育社会学的な理解を深める。また、文献を批判的に読み解き、主体的に考え、他者との討論を通じて学びの深化を図ることを目的とする。授業では、各自が関心を持っている教育現象や教育的課題に関する教育社会学の文献を読み、内容を検討して、発表・討論を行う。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	生涯学習概論		生涯学習および社会教育の本質と意義について理解を深めるために、教育に関する法律、自治体行政・施策、学校教育・家庭教育との連携、ならびに社会教育施設・専門職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。生涯学習の理念は、日本社会のみならず、世界各国共通の教育概念であり、海外の成人教育・生涯学習との比較検討を通して、地域社会の社会教育的機能を考察する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	社会教育演習		授業の目的は、社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質および能力の総合的かつ実践的な定着を図ることである。授業では、社会教育に関する現場体験として、阿蘇青少年交流の家が主催する通学合宿「阿蘇ふるさと自然塾」へ参加し、実践的な能力およびコミュニケーション能力の向上をめざす。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	生涯学習支援論Ⅰ		「地域と教育」を基本的視点に、具体的な社会教育実践に注目して、地域と人間の関わり、教育的機能について分析を試み、地域教育と人間の発達について考察することを目的とする。到達目標は、自分の生まれ育った地域社会の自慢ができる。地域社会の抱える現代的課題に対し、他人事ではなく、自分事として捉え解決を図る思考力を養う。また、社会教育事業へボランティアとして参加し、実地から理解することをめざす。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	生涯学習支援論Ⅱ		生涯学習の支援に関する教育理論を深めるために、多様な学習者に対する支援の方法、プログラム開発について考察する。学校教育における不登校支援をはじめ、ひろく地域社会における様々な学習とその支援者のあり方に関する知識と技能の習得をめざす。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	社会教育経営論Ⅰ		子どもの生活体験活動を育む「通学合宿」事業へのボランティア参加を通して、子どもの学校外教育をつくる社会教育施設・青少年教育施設の役割と専門職員によるコーディネート、学習プログラムの開発等について理解を深める。家庭・学校・地域が協働する「通学合宿」を手がかりに、地域社会における多様な連携・協働に気づけるようになる。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	社会教育経営論Ⅱ		講義では、多様な人々や組織と協働し、学習成果を地域課題解決などにつなげる社会教育について、地域づくりを支える人材や行政などの先駆的実践から考察し、これからの社会教育経営のありかたを検討する。具体的には、多様な人々と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等に生かしていくために、社会教育行政および地域社会が抱える課題を整理し、それを乗り越えるための方策・方途を考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	社会教育	社会教育実習		社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質および能力ーコーディネート能力、プレゼンテーション能力、ファシリテーション能力ーの向上をめざす。本実習では、熊本市内の公立公民館の社会教育主事（主に学校教員出身）の下で、公民館における教育実践を体験する。	

専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育哲学	教育哲学		力強い、地に足の着いた教育論・教育構想・教育実践のためには、そもそも教育とは何か、そしてそれはどうあれば「よい」と言いうるか、という問いに対する、共通了解可能な深い“答え”が必要である。本授業の目的は、この問いに徹底的に答え抜くことにある。受講者の皆さんには、その過程で、教育の哲学が、現実の教育構想・実践にこれほどにも役に立つのだということ、そしてまた、このように役立てることができるのだということを、存分に学び取ってもらいたい。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育哲学	教育哲学特殊講義		哲学的思考を修得するとともに、それを活用して、それぞれの教育学的問題関心を「解明」することを目的とする。授業では、哲学的思考のエッセンス、とりわけ「本質観取」の方法を学んだのち、各受講生の関心に沿いながら、さまざまな教育学的テーマについての「本質観取」を行う。到達目標は以下の通り。１。哲学的思考（とりわけ本質観取）を修得する。　２。本質観取を通して、各受講生の問題関心を「解明」する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育哲学	教育哲学演習		授業の目的は、哲学的思考の初歩を修得するとともに、現代教育の諸問題について学び、またこれをどうすれば解き明かすことができるかを提示することである。授業では、文献講読を通して、哲学的思考の初歩を修得するとともに、それを活用しながら、現代教育の諸問題について考察する。到達目標は以下の通り。１。哲学的思考の修得。２。現代教育の諸問題に精通する。３。上記諸問題を克服するための方途を見出す。４。本質観取ができるようになる。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	道徳教育	道徳教育方法論		本授業では、現代において代表的だと考えられる道徳の授業のいくつかについてその理論と実践を修得し、それをふまえて模擬授業を行うことをねらいとする。授業概要については、まず、伝統主義的な道徳の授業について概観し、次に現代的な道徳の授業（モラルジレンマ等）について考察し、最終的には各自が模擬授業を行う。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	道徳教育	道徳教育特殊講義		本講義では、まず道徳教育とは何かという原理的な問題を考察し、その問題について自分なりの答えを出すことをねらいとする。授業概要は以下の通り。まず道徳教育とは何か、そもそも道徳は教えられるのかという問題を考察する。次に日本の道徳教育の歴史的変遷を概観します。第三に道徳性の発達についても言及し、それをふまえて道徳の主な授業理論について説明する。さらに、現代において求められる道徳教育の目標や課題について考究する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	道徳教育	道徳教育演習		授業では、道徳的価値に関する諸問題に関して、その問題解決のために参考になる文献を講読する。とくに、道徳教育における視点として「自分とのかかわり」、「自然や崇高なものとかかわり」、「他の人とのかかわり」、「社会とのかかわり」があるが、それぞれの視点について現代の喫緊の課題は何であるかを理解するために有益な文献を講読する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	心理学概論		人間は、さまざまな状況の中でどのようにものごとを理解し、判断し、振る舞っている。このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説し、人の心の働きを理解し、自己、他者、社会に関して心理学的立場から説明できるようにする。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	心理学統計法		記述統計学の基礎を学び、心理学的な研究によって収集されたデータを数値化し、そのデータの特徴を数量的に記述・表現できるようにする。また推論統計・検定の基礎を学び、心理学研究において用いられる統計に関する基礎的知識を獲得する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	心理学実験		心理学は実証科学であり、その理解のためには、実際に心理学がどのような方法によってデータを得て、それを分析し、解釈するのかを理解する必要がある。そこで本講義前半では、ミュラー・リアーの錯視、両側性転移、ＳＤ法など、心理学の古典的な実験を体験する。また後半では質問紙調査法による調査を体験する。これらの実習をとおして、データのまとめ方、統計処理、レポートの書き方を学び、実験及び調査から得られたデータの解釈に必要な統計に関する基礎知識を習得し、心理学的思考法を身に付ける。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （74 高岸　幸弘／8回） 心理学の基本的実験法を担当する。 （75 髙崎　文子／8回） 質問紙調査法を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	心理的アセスメント		心理アセスメントの対象の理解と倫理的配慮など心理アセスメントについて基本的な考え方を学習した上で、人の心を数量的に測定する方法である心理検査についての学習を行う。心理検査は多様であるがその中で、数量的な処理を中心に行う知能検査と、投影検査法のロールシャッハテストを中心に数種類の検査を体験することで、施行方法や結果処理方法、報告書の書き方についての基本的な知識を身に付ける。そして、心理的アセスメントの基礎知識となる、心の状態に関する知識を増やすことをねらいとする。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （74 高岸　幸弘／8回） ロールシャッハを担当する。 （75 髙崎　文子／8回） 知能検査を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育・発達心理学	教育・学校心理学		学校現場における諸課題について、心理学の理論を用いて解説し教育心理学的な視点から理解する。教育における心理・社会的課題や必要な支援について、教育心理学の知見から理解を深め、具体的な対応について検討し、教育実践にどのように対応するかを考える。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育・発達心理学	教育・学校心理学演習		現代の教育現場における諸課題のうち特に「いじめ」と「学習意欲」を中心的に取り上げ、教育心理学における研究知見を踏まえた上で、具体的な対処について学生同士の議論をもとに検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育・発達心理学	発達心理学	○	主に関係における発達（育ち合い）や関係における学習（学び合い、教え合い）とそれぞれの支援（発達支援、学習支援）を取り上げ、その問題を具体的に検討しながら、共有されている発達観や学習観を整理する。本講義で取り上げるテーマは以下の通りである。［I 関係における認知発達、II 社会性の発達と認知の社会的形成、III 学習-教授についての素朴理論、IV 関係における学習-教授と発達支援、V 生涯発達的視点からみた発達観の再考］	

専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育・発達心理学	発達心理学演習		「発達心理学」で取り上げた講義テーマに関連した最近の発達・学習心理学に係る文献（海外の専門雑誌論文等の文献を含む）を選んで、参加者同士のディスカッションを重ねた講読を行う。それにより、関係における発達や学習に係る概念を構成し、子どもの変化の過程を捉える見方や考え方について学修を深める。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	臨床心理学概論		臨床心理学は、応用心理学の１つであり、心理学的な諸理論や科学的知見に基づく方法を実践し、問題行動の改善、心理社会的な不適応状態の解消、さまざまな病理的問題の解決、あるいは人格的な成長の促進を目指す学問、かつ専門的な援助体系である。それらこころの問題や悩みへの臨床心理学的支援について学習する。支援法の背景理論やその成立までの歴史を概観した上で、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野における主な問題に対する援助方法、および臨床の実際の概要について支援の実例を取り上げながら臨床心理学の基礎的な知識を身に付ける。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （74 高岸　幸弘／8回） 臨床心理学の理論を担当する。 （71 黒山　竜太／8回） 心理学的支援法を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	心理学的支援法		困難を抱えている人に対する心理的な支援として、心理療法がある。ここでは、代表的な心理療法として、精神分析、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、箱庭療法、エンカウンターグループ、フォーカシング、心理劇、臨床動作法を取り上げ、講義する。また、それらの心理療法の初歩の実践が出来るようになるために、実践トレーニングの時間も講義内に取り入れていく予定である。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （520 藤中　隆久／8回） 人間性アプローチの理論を担当する。 （71 黒山　竜太／8回） アクションメソッドを担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	感情・人格心理学		人に感情はなぜあるのか、いかなる機能を有するのかを進化心理学的に考察する。また、豊かな感情をどうやって育ててゆくのかを教育心理学的に考察する。さらに、ネガティブな感情をコントロールして適応的に生きる方法を臨床心理学的に考察する。それらの考察を通して、進化心理学的、教育心理学的、臨床心理学的に、感情が人格形成に及ぼす影響と人格が感情に及ぼす影響を考えてゆく。 （オムニバス方式／全16回） 【熊本大学】 （520 藤中　隆久／8回） 感情理論を担当する。 （71 黒山　竜太／8回） パーソナリティ理論を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	臨床心理学演習		臨床心理学概論で学んだ臨床心理学に関する基礎知識をもとに、こころの支援の実際について近年の実践報告や、科学的研究を題材として学ぶ。受講生が主体的に現代の臨床心理学的援助の実際について調べ、プレゼンテーションの形態で情報を共有し、臨床心理学的観点から議論を行うことによって、より高度な臨床心理学の知見を身に付けることをねらいとする。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	応用心理学	社会・集団・家族心理学		「職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援」および「組織における人の行動」について、主たる理論や代表的研究、それらを実践するにあたっての考え方等を考察する。前者については、過労死、ハラスメント等の実際的な問題を念頭に、同調圧力や攻撃性などの心理学的概念を軸に議論を進めるとともに、ナラティヴ心理学に基づくキャリアコンサルティング等にも言及する。後者については、リーダーシップ、安全文化と組織風土等を念頭に、具体的な事例を踏まえながら組織心理学の理論と実践的な適用のあり方を総合的に検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	応用心理学	産業・組織心理学		障害、「特別な教育的ニーズ」について受講生が自分自身の考えを深めることを目指す。特別支援教育の仕組みや実際及び各障害領域に関する基礎知識をもつとともに、特別支援教育の関連領域や関連団体についてその概要を把握し、国際動向にも目を向ける。到達目標は、特別支援教育の仕組み及び各障害について基礎的知識をもつこと、特別支援教育と関わる関連領域・関係団体の概要を把握し、国際動向にも目を向けること、障害、特別な教育的ニーズについて各自が自分自身の考えを深めることである。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育	特別支援教育基礎論	○	特別支援教育の基礎について総論的に講義する。障害の捉え方、障害児教育の歴史、特別支援教育の理念と制度、特別支援学校の教育と課題、小・中学校等における特別支援教育、特別支援教育の対象となる各種障害の理解と支援に関して概説する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		幼児と健康		講義形式で行う。発育、遊び、生活習慣、体力づくり、スポーツ、安全能力の指導（防災を含む）など、乳幼児の健康に関するテーマ・知見について、受講者の調査・発表、および全体討論を中心に進めていく。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （73 末永　祐介・199 矢野　潔子・372 入谷　仁士／4回）（共同）第1回・2回・7回・8回を担当する。 （72 末永　祐介／2回）第3回～第4回を担当する。 （199 矢野　潔子・281 入谷　仁士／2回）（共同）第5回～第6回を担当する。	オムニバス・共同（一部）（熊本大学のみ）
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		幼児と人間関係		幼児期の社会性の発達特性について、０歳から６歳にかけての変化過程を理解する。幼児の人との関わりの特徴や、個々の多様な実態について、多面的に理解する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		幼児と環境		特に幼少期から年長期にかけての子どもの学びに関する「環境」の視点について講義を行い、「環境」という要素を中心に据えて、他要素（健康、言葉、人間関係、表現）との関わ合いも意識しながら、子どもを観る視点の枠組みを創る。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		幼児と言葉		受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら保育内容における「言葉」の役割を考察する。	

専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		幼児と表現Ⅰ		幼児の表現における音楽の位置や意味を理解したり、そのために必要な表現媒体などを追及したりする。「表現とは何か」という問いのもとに、学生にアクティブなグループディスカッションや探究的な活動を通して幼児期における表現体験とその本質について考察する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	領域に関する専門的事項		幼児と表現Ⅱ		講義形式で行う。幼児の発達に伴う造形的な遊びや表現の変化、表現のための適切な環境構成や支援のあり方について、適宜ビデオ視聴を行いながら進めていく。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（健康）		現代の乳幼児が置かれている社会状況を捉えながら、生涯に亘る健康の基礎となる乳幼児期の心身の成長や発達に関する理解を深める。主に講義形式で行うが、乳幼児期の健康に対する支援のあり方については教材研究、指導案作成、模擬保育等を通して検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（環境）		現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容の理解を深める。幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（人間関係）		保育内容「人間関係」のねらいや内容を、具体的な実践と結び付けながら理解する。その上で、幼児の人間関係を育むための保育実践について、自ら創造する力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（言葉）		受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら、保育内容における「言葉」の役割を基盤とした教材研究、保育計画（指導案）作成、模擬保育を行い、具体的な指導の方法を検討する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（表現Ⅰ）		子どもの身体的特性についての理解を深め、音楽における身体表現の意味を探る。保育者に必要な音楽知識や技術を習得するとともに、保育における音楽活動のあり方について考察する。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（表現Ⅱ）		教材研究、保育案の作成、保育実践の観点から、幼児教育実践の基礎的能力を養うよう設定している。具体的には、表現素材の知識、保育案の形式・内容・評価法に関する理解を進める。保育実践の適切な環境設定について理解を進める。指導計画の作成と模擬実践に取り組むとともに、相互批評を通して指導法の獲得へつなげる。	
専門教育	専門科目	発達支援に関する科目	幼児理解の理論及び方法		幼児理解の理論と方法		幼児一人一人の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け、幼児期の発達の特性を踏まえ、理解を深めながら、幼児の生活の実情に即した幼児教育の基本的な考え方や方法を学ぶ。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目（第一欄）		特別支援教育基礎論	○	特別支援教育の基礎について総論的に講義する。障害の捉え方、障害児教育の歴史、特別支援教育の理念と制度、特別支援学校の教育と課題、小・中学校等における特別支援教育、特別支援教育の対象となる各種障害の理解と支援に関して概説する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目（第一欄）		特別支援教育研究法		特別支援教育分野において用いられる研究方法について総合的に講義する。特別支援教育と関連の深い心理学や教育学での各種の研究方法について解説し、先行研究を事例にリサーチクエスチョンに基づく研究法の選択について学ぶ。また複数の先行研究で得られた知見を解釈する際、用いられている方法に即したエビデンスレベルを踏まえて解釈することで、総合的に研究知見をとらえる力を身に付ける。さらに統計学に基づいてデータを科学的に分析することができるように基本的な分析方法について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （27 菊池　哲平／5回）第1回、第9回～第12回を担当する。 （86 本吉　大介／5回）第2回～第6回を担当する。 （82 半田　健／5回）第7回～第8回、第13回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害児の心理・生理・病理	○	知的障害のある子どもの障害の重度化、多様化に応じて、指導実践の理論的背景に踏み込んだ研究がなされている。本授業では、心理学や中枢神経系の機能、知的障害に関わる病理的側面、家庭・関係機関との連携の観点から、知的障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	肢体不自由児の心理・生理・病理	○	本授業では、肢体不自由児の心理、生理、病理に関する基礎的な知識を学び、具体的な事例を通して、それぞれの特性や支援の方法について検討する。また、家庭や医療機関との連携の重要性についても理解を深める。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害児指導法	○	わが国において、知的障害児の学習指導要領がどのような考え方によって編成されているのか、特別支援学校ではどのような学習指導法がとられているのか、そして、教育活動の質向上に向けたカリキュラム・マネジメントの考え方とはどのようなことなのかについて講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害児アセスメント論	○	知的障害のアセスメント法を学び、知的障害の知的機能や適応機能を評価し適切な支援を検討するプロセスについて理解を深め、知的障害児の指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	肢体不自由児教育総論	○	本授業では、特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の意義、編成方法、及びカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。また、教育課程の基盤となる特別支援学校教育要領に基づき、具体的な指導計画の作成方法を実践的に理解することを目的とする。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	肢体不自由児指導法	○	本授業では、肢体不自由児の特性を理解し、各教科等の指導における配慮事項を具体的に学ぶ。また、授業設計や教材開発の実践的なスキルを習得し、自立活動と関連付けた効果的な授業案作成を目指す。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	病弱児教育総論	○	病弱児・身体虚弱児の教育に関して、病弱および身体虚弱の概念、その意義、教育の場・就学、特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法、カリキュラム・マネジメント、進路指導、小・中学校における病弱教育、医療的ケア児の教育の観点から概説する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	病弱児指導法	○	病弱児・身体虚弱児とその教育に関して、病弱児・身体虚弱児の特性、病弱教育の意義、教育的ニーズ、教育の場、特別支援学校（病弱）における教育課程と指導法、カリキュラムマネジメント、進路指導、病弱教育の課題、重症心身障害児の教育の観点から概説する。	

専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目（第二欄）	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教	知的障害児教育総論	○	本科目は、特別支援学校教員免許を取得するためのオリエンテーション科目と位置付けている。知的障害について、その原因の生理・病理学的なメカニズムや知的発達に関する基本的な事項を解説する（心理・生理・病理分野）と共に、知的障害のある児童生徒に対する特別支援学校における教育の実態について、その特徴を解説する。さらに、障害のある子どもと関連する福祉的制度やサービス等について（療育手帳制度や児童発達支援・放課後等デイサービス、福祉就労制度等）について説明する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	障害児行動分析学		小・中学校や特別支援学校において発達障害・知的障害のある児童生徒が示す行動問題について、応用行動分析学に基づく支援を講義する。また、発達障害・知的障害のある児童生徒を含む学校・学級集団への支援や、ソーシャルスキルトレーニング、家庭や関係機関との連携についても講義する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（第三欄）	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	重複障害児教育総論	○	特別支援学校では、幼児児童生徒の障害が重度化・重複化する傾向が見られる。本講義では、視覚障害や聴覚障害を含む重度・重複障害児に対する学校教育の取り組みを中心に論じる。具体的には、重複障害児の概念、心理的・生理的・病理的特徴、実態把握の進め方（観察・評価・アセスメント）、感覚や基本動作の発達支援、コミュニケーションの促進、教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント、個別の指導計画の活用、ならびに教育現場での具体的な実践例を映像等を用いて紹介する。また、重複障害児の特性に応じた指導法や支援の在り方について、教育実践例を基に考察する。	
専門教育	専門科目	特別支援教育に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習（第四欄）		障害児教育実習	○	附属特別支援学校において、附属学校の教員の指導を受けながら、授業構想・実践、学級経営、障害児理解などについて学び、特別支援学校教師の職務に求められる実践的指導力の基礎を修得する。また、教育の基礎的理解や特別支援教育に関する科目で学習した理論を実践に結び付け、理論の活用を体験的に学ぶ。さらに教育実践における自分の体験を振り返り、今後の実践で取り組む課題を見出す。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			教育実践研究指導法演習		種々の体験活動等を通して、子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、実践的指導力の基礎を身に付けることができる。教育学部学生がボランティアとして、熊本市内の公民館、熊本市教育委員会生涯学習課、熊本県生涯学習推進センター等と連携・協力しながら、子どもとかかわる種々の体験的活動等を自主的・主体的に企画・実施し、体験的活動等を通して、主として公立小・中学校の子どもたちと触れ合い、子どもの気持ちや行動を理解できるようになる。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			教育臨床体験演習		教育相談や生徒指導に関連して、現代の教育現場における様々な課題の中でもクローズアップされている不登校の児童・生徒の理解と支援に関して体験的に実態を学び、教師としての資質向上を図る。具体的には熊本市との連携事業として行っているユア・フレンド事業での研修と体験活動を通して、教育相談や生徒指導に関しての児童生徒の理解と知識・技能の習得を深める。熊本市教育委員会と教育学部が連携しておこなっているユア・フレンド事業の体験活動と活動のまとめを通して得られた体験的知識の習得につとめる。演習は2名の教員が共同で行う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			教職実践基礎セミナー	○	教員として求められる４つの事項「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項」を踏まえ、実践的指導力を有する教員としての自覚と基礎的な資質を育成する。前期：学校・教育現場の観察・体験を通して、現在の学校や教育現場の実態、児童生徒像について理解を深める。後期：学校・教育現場の観察・体験を通して、現在の学校や教育現場の実態、児童生徒像について理解を深める。さらに、１年間の演習を総括して学校体験を多面的に省察し、教育学部における自らの学びに関する課題を明確化する。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			初等教育課題探究	○	初等教育における様々な課題のなかから、学生が自らの問題関心に応じた授業を選択し、課題解決に向けての学びを深めていくことを目的とする。いじめや不登校、発達障害、ICTの活用、外国にルーツをもつ子どもの教育、子どもの貧困などの現代的な教育課題、あるいは学級経営、防災・減災教育、SDGs、STEAMといった教科・領域横断的で総合的なテーマなど、多様な授業内容（テーマ）を設定し、選択したテーマのもとでインタビュー調査やグループ・ディスカッションなどの多様な方法を用いて、学生自身が探究的に学んでいく。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			小学校教科指導探究（国語）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			小学校教科指導探究（社会）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目			小学校教科指導探究（算数）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	

専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	小学校教科指導探究（理科）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	小学校教科指導探究（英語）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	小学校教科指導探究（音楽）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	小学校教科指導探究（図工）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	小学校教科指導探究（保健体育）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	小学校教科指導探究（家庭）	○	教科の専門的事項及び指導法についての学習を基礎として、教育実習での実践を視野に入れながら、実際の教科指導の内容・方法等について学生自身が探究していく。授業内容としては教材研究及び模擬授業を中心にして、学生が自らの問題関心に基づいて課題を設定し、個別に、あるいはグループ単位で探究することを基本とする。これによって、より実践的な教科指導の力を形成するとともに、学生自らが教科指導に関する専門性を高めていくための基礎を培う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	実技系教科指導探究	○	新たな時代の教育に求められるものとして、少子高齢化やグローバル化の一層の進展、地球規模の環境問題や貧困問題の深刻化、AI 時代の到来、大規模災害や感染症の流行などがある。そこで、それらに対応できるような能力育成を行う。年次教職実践基礎セミナーで実施する内容の計画・実施を各グループで実施する。4～5人程度のグループ単位での活動となる。予測困難な事態にも対処しながら、SDGs（持続可能な開発目標）やSociety5.0 の理念等に含まれる新たな諸価値を創出していく力を育成する。 （オムニバス方式／全8回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／4回）第1回～第4回を担当する。 （40 八幡　彩子／4回）第5回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	熊本・学びの最前線	○	学校現場でも活用できるプレゼンテーションに関する知識・技能の獲得をして、実際に活用できる力を修得できる。児童・生徒が効果的に情報活用能力を身に付けるために教員として必要な技能・考え方の基礎概念を学習する。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （196 田口　浩継／3回）第1回～第3回を担当する。 （37 前田　康裕／8回）第4回～第11回を担当する。 （195 大塚　芳生／4回）第12回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	日本語教育指導探究	○	外国につながる子どもたちを日本の公立学校で受け入れる際に求められる日本語指導とは何かについて、県内の公立学校（地域拠点校）での観察実習や附属学校国際クラスでの教育実習の経験を踏まえて吟味・検討する。具体的には、(1)ことばの豊かさ、思考の豊かさ、こころの豊かさの関係について、(2)異文化間移動に表出する子どもの人格形成上の課題と日本語指導について、(3)対話型日本語能力測定から見た学校生活支援と教科学習支援について等の観点から考察を行う。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	地域教育課題探究	○	①子どもたちに夢を与え子どもたちの夢を叶える教育とは、②地域発の教育改革・実行プランとは何か、③令和の時代の学校教育に求められる教員の資質・能力とは何かについて、２週間にわたる宿泊型教育実習を通した学修内容を踏まえ、ローカルかつグローバルな視野から探究し省察する。子どもの視点に立った地域発の教育改革プランの実際について深く学び、子どもが主体となる授業運営・学級運営・学校運営のあり方について教育実習のレベルで省察し、ローカルな視点とグローバルな視点を融合させながら令和の学校教育に求められる教員の資質・能力とは何かについて、再帰的に学び探究する態度や姿勢を身に付ける。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目	グローバル教育課題探究	○	教育の国際化に向けて、学習指導要領の内容を日本語と英語で授業を行なうイマージョン教育とは何かについて、県内の公立学校（地域拠点校）での観察実習や附属学校国際クラスでの教育実習の経験を踏まえて吟味・検討する。具体的には、(1)言葉の発達と概念獲得のあいだに言語の違い（母語と外国語）はどのように影響するか、(2)語彙が安定的に増えて行く際に記憶はどのように働くか、(3)教育のDX化はイマージョン教育にどのような効果をもたらすか等の観点から考察を加える。	

専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		人権教育論		以下のさまざまな観点から、現代日本の人権問題について考えながら、２１世紀の人権教育及び共生社会のあり方を考える。①人権の原理を知る、②人間の性と人権について知る、③定住外国人の人権について知る、④ハラスメントについて知る、⑤子どもの権利について知る。多様なゲスト・スピーカーを迎え、より具体的、実践的に人権教育について考えることができるようにする。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		教職保健		本授業は、学校保健および学校安全に関する法律や制度の概要、子どもの心身の健康の保持増進および健康や安全に関する医学的知識や情報、さらに健康安全に関する具体的かつ効果的な指導法や現代的健康課題への対応など、学校保健・学校安全に関する知識の修得とその活用を目指した授業実践や事例検討を行う。 （オムニバス方式／全15回） 【熊本大学】 （198 大沼　久美子／11回）第1回～第3回、第6回～第10回、第13回～第15回を担当する。 （373 長谷　真／2回）第4回～第5回を担当する。 （371 秋月　百合／4回）第11回～第12回を担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		教育評価		指導と評価の一体化という考え方を理解し、評価を教育実践に活かす具体的な方法を考えることができることを目標として、教育評価の目的を問い直し、その歴史的位置づけや機能や様々な評価方法の特徴について解説し、教育実践において評価を用いる意義や適切な評価方法について解説する	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		学校経営学		本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の３点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。	
専門教育	専門科目	大学が独自に設定する科目		児童・生徒の性的問題に係る教育支援		本講義では、児童・生徒による性加害の予防と対応に焦点を当て、性加害を行う子どもの心理や、彼らを取り巻く環境の特徴について学ぶ。性加害に関する基礎知識を習得した後、専門的な教育的介入法を紹介し、実践的な対応方法を考察する。さらに、性加害を防ぐための学校全体での取り組みや、関係機関との連携の重要性についても触れる。特に、教師として性加害を起こした児童・生徒を理解し、チームワークを活かしてどのように支援するべきかを学ぶ。これにより、児童・生徒が性加害行動を起こした際、冷静かつ適切な対応ができる力を養うことを目指す。実際の場面で役立つ知識と技能を身に付けるため、ケーススタディを通じた実践的な学びを重視する。	
専門教育	専門科目	卒業研究		卒業研究		明確な研究題目の設定と方法論に基づく調査・研究を行い、卒業論文を執筆し、発表を行うことができるようになる。卒業研究を行い、探究的な学びに関する以下の資質・能力を高める。・取り組む課題の背景や研究の意義、動機を明らかにできる。・先行研究を調査し、取り組む課題の位置づけを行うことができる。・課題を解決する方法（観察、実験、調査、シミュレーションなど）を考え、解決を試みることができる。・成果をまとめて卒業論文を作成することができる。・成果をまとめて卒業論文の内容を発表することができる。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	演習・実習	心理演習		臨床心理学の知見を活かして活動するために必要な知識と技能の基本的な水準の獲得を目的とし、支援対象者とのコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援・連携に関する演習課題を行う。具体的には、支援対象者の理解とニーズの把握をケースフォーミュレーションとしてまとめる課題、地域やチームでの連携・支援の計画の立案、それぞれの支援活動にかかる倫理的配慮および法的義務についてプレゼンテーションおよびロールプレイを行い議論する。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	演習・実習	心理実習		臨床心理学の学習は、基盤となる心理科学の基礎的知識の獲得を目指した学習を土台に、臨床心理学や近接領域、研究法、関連する倫理と法を学ぶ講義と、それを文献研究やロールプレイなどを通して学ぶ演習、現場での体験を通して学ぶ実習の大きく分けて3種類によって構成され、それらが相互に関連しながら系統的学習がなされる。本心理実習では、それまでの講義・演習などで学習してきた知識・技術をふまえ、保健医療、福祉、教育、産業分野における現場での心理学的支援の実際を体験的に学ぶ。それらを通じて、心理学と現場での活動を結びつけるとともに、社会の福祉的利益の増大に寄与するための基本的な態度や姿勢を身に付ける。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	公認心理師の職責		心理職における専門性について理解を深め、保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働分野における心理専門職の実際のはたらきについて知るとともに、実践において求められる法制度の知識と、心理専門職としての倫理と基本的姿勢を学ぶ。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	知覚・認知心理学		認知の低次過程といえる感覚・知覚等の無意識的な機能から、問題解決や判断・意思決定などのより高次で意識的な認知機能のしくみを解説し人間の認知のメカニズムについて学ぶ。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	学習・言語心理学		学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。言語習得の基本プロセスと言語の機能（役割）を学び、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしたり思考の道具として用いていることを理解する。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	神経・生理心理学		神経心理学の知見をもとに、脳と心は密接に関連していることと、人間の日々の活動はきわめて精巧な脳の仕組みによって成り立っていることを学び、脳が損傷されたときに人間がどのような症状をきたすのかについて理解する	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	障害者・障害児心理学		様々な障害のある人の理解及び支援を行う上で必要な、障害の基本的な捉え方、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などの各種の障害の概要、心理社会的課題と支援に関する内容を解説する。それらの観点を踏まえ、障害に対する早期支援や家族支援、地域援助といった障害のある個人とその人を取り巻く周囲を含む、心理社会的観点の基礎について概説する。	

専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	健康・医療心理学		健康心理学の知見をもとに、ストレスと心身の疾病との関係、医療現場や保健活動における心理社会的課題及び必要な支援、災害時等に必要な心理的支援について学び、心身ともに健康に生きていくために必要なことについて理解する。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	福祉心理学		社会福祉の価値や理念、法制度、福祉現場で生じる様々な問題とその背景および必要な支援について解説し、福祉現場において生じる問題及びその背景についての理解や福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解する	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	司法・犯罪心理学		犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識と関連法制度、司法・犯罪分野における心理的援助・支援実務を理解する。　司法・犯罪領域における実務経験をもとに、公認心理師をめざす上で必須となる司法・犯罪心理学の基礎知識と関連法制度、犯罪・非行の今日的な問題、犯罪・非行の加害者や被害者の心理と彼らに対する心理支援等について講義する。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	人体の構造と機能及び疾病		人体の構造をマクロ・ミクロの両面から系統的に学ぶ。またさまざまな器官・組織の機能と、相互に密接に関連しながら機能している機能の調節をも含めて、トータルとしての人体の構造と機能を系統的に学ぶ。	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	精神疾患とその治療		精神疾患にはどのようなものがあり、それぞれどのような特徴をもっているか、疾患をどのように診断し治療するのか、治療法にはどのようなものがあるか、精神疾患の当事者をとりまく社会制度や援助のための社会資源はどのような現状にあるか、このような基本的な知識・理解を獲得することを目的とする	
専門教育	専門科目	公認心理師受験資格取得のための必須科目	その他公認心理師受験資格取得のための必須科目	関係行政論		公認心理師としての活動に関連する、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野に関係のある法律、制度について理解する。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		博物館概論		博物館及び博物館学に関する基礎的知識の習得を図り、専門性の基礎となる能力を養う。博物館の定義、種類、目的、機能を学ぶと共に、博物館の歴史と現状を把握した上で、現代社会が博物館に求める社会的意義と役割を理解する。併せて博物館の理念、目的、機能の哲学的な基礎を知り、そのあるべき姿を考え、博物館とはなにか、なぜ博物館が必要とされるのかを理解することを目的とする。授業においては、博物館の機能と役割、博物館学の理論と実践、博物館活動と学芸員、博物館法及び関係諸法規わが国の博物館事情等について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		博物館経営論		博物館の形態面と活動面において、利用者とミュージアムワーカー双方の立場に立った適切な管理・運営を理解し、生涯学習社会における博物館の意義と役割をミュージアムマネージメントの視点から読み解くための基礎的能力を身に付けることを目的とする。博物館の行財政制度と経営形態、博物館の組織と職員、博物館の施設・設備、博物館の経済効果、博物館の危機管理、博物館倫理、博物館ネットワークと地域社会等について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		博物館資料論		博物館資料の収集、分類、整理、保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動や資料公開の理念と方法等の理解を通じて、人文科学系・自然科学系双方の博物館資料に関する基礎的能力を養うことを目的とする。博物館資料とはなにか、人文科学系博物館資料・自然科学系博物館資料の収集、博物館資料の調査研究、博物館資料の活用について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		博物館資料保存論		資料の保存と公開（展示）という相矛盾した行為の意義を博物館活動の中で明確にし、博物館における資料保存及び保存・展示環境を科学的に捉えることを目的とする。併せて博物館の周辺地域における資源や文化遺産の保護と活用に関して基礎的な知識を身に付けることを目的とする。文化財保護の歴史から資料保存の意義を考える、文化財の保存と活用、保存環境と劣化要因、国宝・重要文化財の公開に関する取扱要項、公開承認施設制度、ＩＰＭと燻蒸について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		博物館展示論		展示は広範な人々を対象とした情報伝達手段であるが、博物館は資料を媒体として展示活動を行い、情報を伝達していることから、他の社会教育機関との相違を明確にしている。こうした観点から、博物館における展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことを目的とする。総合メディアとしての展示、コミュニケーション手段としての展示、展示の政治性と社会性、資料保存の観点からみた展示の両義性、展示技術について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		博物館教育論		博物館活動の総体を「教育」ととらえ、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。併せて、生涯学習社会における博物館教育の可能性を理解し、実践的能力を身に付けることを目的とする。人びとや地域との絆を深める博物館、過去と現在と未来をつなぐ博部館、博物館の総合力、成熟社会と博物館教育について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		博物館情報・メディア論		博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開の課題等について理解を図る。博物館の諸活動を情報という観点から見直し、コミュニケーション充実のための適切な情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことを目的とする。情報の意義と役割、記憶装置と伝達装置、博物館資料のデータベース化、その現状と課題、知的財産権、権利関係への対応について学ぶ。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目		博物館実習Ⅰ		博物館実習Ⅰ（見学実習）は博物館実習Ⅱ（学内実務実習）及び博物館実習Ⅲ（館園実習）の前段階に実施し、様々な博物館（設置者別・法的区分別・館種別）の運営実態を学ぶことを目的とする。特にバックヤードの見学を通して施設及び設備の理解を深め、空調・照明・燻蒸設備等、資料の展示・収蔵に係る施設整備の在り方を学習すると共に、展示手法やボランティアスタッフの活用等、学芸員課程を履修する上で必要な全般的知識の理解を図る。また、館ごとの見学レポート及び終了後には総括レポートを提出してもらい、担当教員が添削をして受講生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を行う。	

専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目	博物館実習Ⅱ		資料調査、資料撮影、資料登録、資料の取扱い及び梱包、あるいは展示・教育普及活動等における基礎的な実務能力を身につけ、館園実習に備えることを目的とする。グループごとあるいは各人が作成した企画書、レイアウト図面、撮影画像やキャプション等は最終段階で提出を求め、学内実務実習を体験しての反省・自己評価等をレポートにまとめ、それらを実習担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を実施する。	
専門教育	専門科目	学芸員科目 社会教育士科目	博物館実習Ⅲ		これまでの博物館に関する科目で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念と設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると共に、博物館資料の取り扱いや教育普及活動、来館者対応等における実務の一端を担うことによって、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、博物館で働く心構えを涵養することを目的とする。また、館園実習を体験しての反省・自己評価等レポートを課し、担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を実施する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授 業 科 目 の 概 要

（佐賀大学教育学部共同教員養成課程）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	大学入門科目		大学入門科目Ⅰ		（概要） 佐賀大学に入学した学生に、大学生としての生活の指針を与え、大学における学習への転換を促すことにより高校から大学への接続を円滑にすることを主たる目的とする。また、各学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力を養うことを目的とする。 佐賀大学や学部の歴史や特徴、計画的な履修方法、附属図書館の利用方法、情報リテラシー、ラーニングポートフォリオの活用、正課外活動、学生生活、環境問題への取り組み、国際交流、留学、キャリアガイダンスなどについて理解を深め、大学生としての生活と学習態度を養う。 特定の課題についての調査、分析、デザイン、報告、討論など、各学部で必要とされる基礎的なスキルや問題解決能力を身に付けるとともに、他者とともに共同して目標を達成することを学ぶ。同じ学科や課程の学生によってクラスを編成し、各専門分野の特性に応じて授業を行う。講義だけでなく、様々な手法を通じて、能動的な学習への転換を促す。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	英語Ａ		中学・高校の６年間で培った基礎学力を基盤として、４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	英語Ｂ		中学・高校の６年間で培った基礎学力を基盤として、４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	英語Ｃ		中学・高校の６年間で培った基礎学力を基盤として、４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。 少人数クラスの利点を活かして、コミュニケーション志向型の授業を行う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	英語Ｄ		中学・高校の６年間で培った基礎学力を基盤として、４技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。 e-learningを活用した自学自習型の授業を行う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	実践日本語Ｃ		（概要） 本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの中級後半の科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造一格表示・後置詞対応と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応を説明し、学生に機会--１）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する--を提供する。読む文章は教科書のEU、雑談力、日本の自殺者数、カラオケボックスの他の利用法の4本である。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	実践日本語Ｄ		（概要） 本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの中級Ⅱの科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応、③関連のある言葉を探す方法を説明し、学生に機会--１）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する--を提供する。読む文章は教科書の外国語の勉強方法、巨大ロボット、主食、アジアとヨーロッパで好まれる色の違いの4本である。	外国人留学生のための科目

教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目		実践日本語Ｅ		（概要） 本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの上級の科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応、③ 筆者の意見を見抜く、筆者の立場を見分ける、大切なことを伝えるサインをつかむ、目印を使って内容を整理する方法を説明し、学生に機会--１）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する--を提供する。読む文章は教科書の日本の町のごみ、レジ袋の有料化、ワークシェアリング、優先席の4本である。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目		実践日本語Ｆ		（概要） この講義では、中・上級レベルの学習者を対象にした授業を行います。読解ストラテジーに焦点を当てながら、日本語の文章が正しく理解できるように様々な読解課題を実施します。また、テキストの情報をテーマにしてグループ・ディスカッションを行い作文にまとめるなど、四技能の伸長にも配慮して進めます。 様々な読解ストラテジーについて知りそれを実践することを通して、より複雑な日本語の文章を効率的に理解できるようになる。また、日本を題材としたテーマについて自分の考えを他者と共有し、深める中で日本語コミュニケーション能力を高める。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	情報リテラシー科目		情報基礎概論		情報技術は、我々の生活を便利にしてくれるものであると同時に、普及にともなって様々な負の側面も現れている。本講義では、現代の社会で生活していく上で不可欠な情報技術の基礎について学ぶとともに、情報化された社会とその仕組みについて、利点と課題について学ぶ。 そのため、情報技術に関する基礎知識の習得と、社会で日常的に使われている様々なインターネット媒体の活用に関する利点と課題の把握を目標とする。特に、利用者としてのセキュリティ対策の基本習得を行う。	
教養教育科目	共通基礎科目	情報リテラシー科目		情報基礎演習Ｉ		大学での学習や研究においても情報技術の活用が不可欠である。本講義では、大学での専門教育及び卒業後に必要とされる情報処理に関する基礎技術を習得することを目的とする。 そのため、情報技術に関する基礎技能の習得として、大学での学習を行う上で必要となる情報システムやソフトウェアの利用方法などの基礎的情報処理技術を、学科・課程の特性に応じて習得することを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （1 小野文慈・3 岡島俊哉／1回）（共同） ライブキャンパスの登録方法等 （1 小野文慈／10回） 文書の作成・表の作成、図形，数式ツール(Word)や関数、相対参照・絶対参照、グラフと図形の作成など（Excel）についての講義と演習 （3 岡島俊哉／4回） LP、教職カルテのPC入力、相対参照、絶対参照（Excel)についての講義と演習	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	Introduction to Science		アカデミックな英語力育成の一環として、理工学の７つの分野（数理科学、物理科学、知能情報システム学、化学、機械システム工学、電気電子工学、都市工学）の概要や研究内容、最近の話題などを英語を用いて紹介する。 （オムニバス方式／全15回） （352 藤澤知績／2回） 化学分野についての講義 （485 三島悠一郎／2回） 都市工学分野についての講義 （301 VONGTHANASUNTHORN NARUMOL／1回） 都市工学分野についての講義 （223 高橋智／1回） 物理科学分野についての講義 （567 YEOH WEN LIANG／2回） 知能情報システム学分野についての講義 （165 長谷川裕之／1回） 機械システム工学についての講義 （120 郭其新／2回） 電気電子工学分野についての講義 （368 加藤孝盛／2回） 数理科学分野についての講義 （180 冨永昌人／1回） 化学分野についての講義 （495 石田賢治／1回） 機械システム工学についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	物理の世界Ｉ		古典物理学（力学、波動、電磁気学）の基本法則を知り、典型的な物理現象を理解する力を身に付けることを目指します。 物理の世界Ｉの概要、力と運動の表し方、運動の法則、等速円運動、放物運動、雨滴の落下、振動、仕事とエネルギー、運動量、慣性力、回転運動、波動、熱、電場と地場についての講義を行います。 力学を学んだ後、波動、熱力学、電磁気学など、物理的な世界観を構成するために必要な基本的な考え方と意味について簡単に説明しますので、毎回予習復習を行い、物理的な見方を学んで下さい。	

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	物理の世界Ⅱ		現代物理学の基本法則を知り、典型的な物理現象を理解する力を身に付けることを目指します。 物理の世界Ⅱの概要、相対性理論、時計の遅れと棒の収縮、質量とエネルギー、原子の構造、光の粒子性、電子の波動性、不確定性原理、水素原子、原子核の構造、核エネルギー、放射能、素粒子、宇宙のビッグバンについての講義を行います。 相対性理論、原子の構造、不確定性原理、原子核、素粒子、宇宙論に関する、現代物理学を理解するために必要な知識について、初歩的な説明をしますので、毎回予習復習を行い、現代物理的な見方を学んで下さい。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	化学の世界Ａ		化学の世界Ⅰでは現代の生活に関わる，大気汚染，オゾン層破壊，地球温暖化，エネルギー問題，飲料水，酸性雨の６つのテーマを扱う。社会および個人として見た各課題の諸側面を提示した後でそれぞれの課題と化学との関わりを示し、次いで、その化学の中身を説明し、最後に、社会および個人の関わりを改めて議論する。 （オムニバス方式／全15回） （313 坂口幸一／7回） 大気、オゾン、気候変動に関する化学について講義する （180 冨永昌人／8回） エネルギー、水、酸性雨に関する化学について講義する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	化学の世界Ｂ		現代の生活に関わる，原子力，電池，高分子化合物，薬，栄養，遺伝子工学の６つのテーマを扱い，実際の生活に関係する様々な場面において、化学がどのように関わっているのか，具体例を紹介しながら講義する。 （オムニバス方式／全15回） （128 鯉川雅之／7回） 核化学、電池、高分子に関する化学について講義する （352 藤澤知績／8回） 薬、栄養、遺伝に関する化学について講義する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	実験化学Ａ		（概要） 様々な化学現象を理解するための化学実験を行ない、化学現象の基礎を理解することを目標とし、安全に化学実験するためのポイントを学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （136 山田泰教／5回） 諸注意と安全教育、無機化合物の実験と講義 （146 成田貴行／2回） ナイロンの合成の実験と講義 （188 矢田光徳／2回） 人工イクラの実験と講義 （358 梅木辰也／2回） ヨウ素デンプン反応の実験と講義 （568 磯野健一／2回） 石鹸からろうそくを作る実験と講義 （481 江良正直／2回） 電気を流すプラスチックの実験と講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	実験化学Ｂ		（概要） 化学のおもしろさは、モルの計算でもなければ、反応式でもない。実験をすることである。この講義では、高校や中学で紹介された実験や生活の中で役立つ簡単な化学実験を中心に、「なぜだろう」から「簡単な原理」までを紹介する。 （オムニバス方式／全15回） （313 坂口幸一／5回） ガイダンスと安全教育、アミノ酸の匂い・化学平衡 （166 長田聡史／2回） ナイロンの合成 （128 鯉川雅之／2回） 化学発光と炎症反応 （117 海野雅司／3回） 色と光の吸収 （352 藤澤知績／3回） 高吸水性樹脂	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	地学の世界		（概要） 地球の構造や運動と､地球環境の変遷と生物進化および環境問題について講義を行う。 地球の構造や歴史を知り、その上で現在起こっている地球環境問題について考えていき、我々が住んでいるいる「地球」について理解を深める。 地球の構造、プレートテクニクス、地球の誕生、生命の誕生、先カンブリア紀の環境と生物進化、古生代の環境と生物進化、中生代の環境と生物進化、新生代の環境と生物進化、気候変動、地球環境問題に項目をわけて講義を行う。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	数理の世界		この講義では、主に初等整数論を解説する。 この分野は「数学Ａ」の内容にもあるが、その単元の知識を前提とはしない。 「初等整数論は早期の数学教育にとってもっともよい教材の一つであろう。 それは予備知識をほとんど必要としない。その主題は確実で親しみやすく、用いられる推論の過程は単純で、一般的で、また新しい。そして人間の自然な好奇心に訴える点では、数学的な学問のなかでは独自のものがある。整数論を一ヶ月うまく教えると、微積分学を一ヶ月教えたよりは2倍も教育的で2倍も役に立ち、10倍も面白い。(Hardy, 1877-1947)」	

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	原子の発見		（概要） この世界にあるすべての物質は、原子という小さな粒子が多数集まってできています。これは、現代では常識です。しかし、我々は普段の生活の中で原子の存在を意識することはありません。原子はとても小さいので、その一つ一つを直接目で見ることができないからです。理科の時間に使った光学顕微鏡を使っても見えません。原子を見るには電子顕微鏡が必要です。 原子は今から100年ほど昔の20世紀初頭に、その存在が確立されました。その時代には、電子顕微鏡はありませんでした。電子顕微鏡は、原子の存在が確かめられ、原子がさらに小さな原子核と電子からできていることがわかった後に開発されたからです。虫眼鏡や光学顕微鏡しかない時代に、どのようにして原子の存在を確かめたのでしょうか？この授業では、人類がどのようにして原子の存在を確かめたのかを、じっくりと講義します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	情報科学の世界Ａ		コンピュータの理論的な動作原理を簡易型プログラミング言語（Scratch）での演習を含め、解説する。 具体的には有限状態オートマトン、プッシュダウンオートマトン、チューリングマシンについて講義する。 それらをプログラミング言語で実際にプログラミングする演習を行い、動作確認を行う。 授業と教員の研究内容との関連 本講義の内容は、担当教員の研究テーマのひとつであるプログラミング言語の基礎知識に相当する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	情報科学の世界Ｂ		情報システムは、現代社会を支える基本的な仕組みとなっている。いまや社会基盤となった情報システムを理解することは、現代社会に生きる者として必須となっている。情報システムを理解するために、情報科学の基礎、情報システムの仕組み、情報システムを支えるインターネットの仕組み、情報システムを活用した様々なサービスの仕組み、そして安心して情報システムが使えるようにするためのセキュリティについて講義する。 【授業と教員の研究内容との関連】 担当教員は、永く総合情報基盤センター教員を務め、情報システムの設計・導入・運用に携わってきた。実務に関連した論文も執筆している。実務経験に基づく話題を取り入れながら講義を行う。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	機械工学の世界Ａ		機械工学の世界において，安全で，かつ経済的なものづくりを行うには，材料の力学，製図，加工などの知識が欠かせない．この科目は二人の教員で担当する。 （オムニバス方式／全15回） （179 萩原世也／8回） 力学の基礎となる力のつり合い、モーメントのつり合いなど初歩的な内容から説明した後、材料力学の基礎となる応力とひずみなどについて解説する。 （182 服部信祐／7回） 機械材料、製図、および加工などの基礎的な内容について解説を行う。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	機械工学の世界Ｂ		機械工学のもっとも基礎的な力学の一つである流体力学（流れの力学）の初歩を理解する。 （186 木上洋一／7回） 流体力学（流れの力学）の初歩を講義する。具体的には、粘性と圧縮性、圧力と水深の関連性、浮力の働き、渦運動や加速度運動、流体のエネルギーなどについて、具体例を交えて解説する。 （145 松尾繁／8回） 引き続き流体力学（流れの力学）の初歩を講義する。具体的には、ジェット推進、流線曲率の定理、コアンダ効果、はく離、境界層、揚力、マグナス効果などについて、具体例を交えて解説する。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	電気電子工学の世界Ａ		普段の生活の中で使われている様々なセンサ（光を使ったセンサ、電波を使ったセンサ、磁気を使ったセンサ、(超)音波を用いたセンサなど）やセンシング技術，さらには，医療及び産業界で開発されている先端センシング技術を紹介し，それらの原理や開発に至るまでの過程について説明する。普段の生活で利用しているセンサ及びセンシング技術の基本を理解する．また，センサ及びセンシング技術の開発に至る過程での基礎知識と発想や想像力の大切さを理解する．	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	電気電子工学の世界Ｂ		電気電子工学を学ぶにあたり必要となる知識を，中学と高校で学んだ理科・物理の内容を含め，簡単な歴史に触れながら説明する． 続いて，システム制御について概説し，その例として，様々な用途に利用されている機器について紹介する． 電気電子工学の基本となる，発電，モータ，電気回路等について，その基礎を理解する．システム制御と，その実社会での応用例（農作業ロボット、介護ロボットなど）についての知識を得る．	

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	都市と生活		（概要） 暑さ寒さを和らげて快適な室内空間を作り出すために、住宅やビルなどの建築には様々な工夫がなされています。特に最近は住宅においても断熱と気密の性能が向上しており、省エネルギー性だけでなく、安全性も高くなりつつあります。この講義では、住宅やオフィスビルなどにおける室内熱・空気環境調節技術について、建築的ならびに設備的な観点から説明します。 また、建築を取り巻く昨今のエネルギー問題や地球環境問題についても紹介します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	インタラクティブコンテンツ入門		（概要） 主な授業内容は以下の4点 （１）Springin’Classroomを用いて2Dインタラクティブコンテンツ制作の基礎について理解する （２）3次元空間についての基礎知識を理解する （３）Unityを用いて3Dインタラクティブコンテンツ制作の基礎について理解する （４）VRやMR、メタバースなどの先端的社会状況について論考する。 ――――― 授業は、講義が半分、演習が半分です。 講義では、話を聞くだけではなく、グループ等でのディスカッションも取り入れます。 教え合い・学び合いを基本方針とします。 演習では、上記ソフトウェア（アプリ）を使った初歩的なコンテンツの作り方を学んだ後、上記のソフトウェア（アプリ）のどちらかオリジナルのコンテンツを作成してもらいます。 オリジナルのコンテンツはシンプルなもので構いません。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	環境をはかる		（概要） 本講義では，毎回，身近な環境問題から地球規模的な問題をいくつかを取り上げ，広範な「環境」問題を読み解かせる． 社会生活の高度化とともに多種多様な物質が意図的あるいは非意図的に環境中へ放出され，人間を含めた生態系に大きな影響をもたらしている．また，近年ではこのような環境問題は，多方面にわたり，その被害や影響は地球規模に及んでいる．ここでは，環境問題が意味することを読み解くための基礎的知識の習得を行うことを目指す．	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	肥前セラミック学		（概要） 佐賀県の代表的産業であるやきもの・セラミックスに関連する講義を行うとともに、実験や実習やフィールドワーク等の実践的な教育も行う。 （オムニバス方式／全15回） （188 矢田光徳／1回） ガイダンス、やきもの・セラミックスとは （110 一ノ瀬弘道／1回） サイエンスの視点から見たやきもの作り （122 近藤文義／1回） やきもので使う土・泉山陶石 （117 海野雅司／1回） やきもの鑑定 （482 根上武仁／1回） やきもの・セラミック廃材の有効利用 （148 川喜田英孝／1回） 実験１：セラミックス粒子を導入したゾル （568 磯野健一、314 三沢達也／1回）（共同） 実験１：セラミックスを用いた電池の作成 （137 山本長次／2回） 有田の磁器生産や販売 （175 湯之原淳、310 甲斐広文／2回）（共同） カップの排泥鋳込み （189 有馬隆文／2回） 有田の街並み・建築 （170 田中右紀／1回） 肥前窯業の歴史や仕組み （315 三木悦子／1回） 鋳込み体験したカップの仕上げ	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	ＡＩ・数理・データサイエンスⅠ		（概要） プログラミングができれば、大量のデータを処理する、あるいは作業を自動化することができます。効率があがるだけでなく、間違いも少なくなります。しかし、プログラミングは難しいのでは？Pythonは、比較的簡単に習得でき、かつ短いプログラムで様々なことができるプログラミング言語です。本講義は、プログラミングを全く知らない人をが、Pythonの初歩を習得させることを目指します。併せてMATLABの最初の一歩も提供します。	共同
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	ＡＩ・数理・データサイエンスⅡ		現代のAI・データサイエンスには機械学習が必要不可欠です． この講義では「機械学習とは何か？」をテーマとして，機械学習の数理的な背景とそのプログラミングについて講義します． また，AIやデータサイエンスではどのように機械学習を使っているかを事例を通して説明します． データさえ入力すれば自動的に結果が出てくるというような，計算機が出力した結果を鵜呑みにするのではなく，その機械学習モデルの背景の知識とそれを実際に計算する能力を身につけてください．	共同

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	農学の世界Ａ		本授業では、農業従事者が生活する農村における生活環境及び自然環境と人々の活動との関連について学びます。 本授業では、佐賀県の地形、佐賀県の気象、佐賀県の農業、農村の水環境、農村の土環境、農村の大気環境、農村における開発行為、農村における環境保全についての講義を行います。 講義では、人々の生活や農業に欠かすことのできない水（質・量）や大気に関する佐賀県内での事例を中心に紹介します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	農学の世界Ｂ		農業生産の基盤である農地は、高い土地生産性と労働生産性、および環境に関する保全性を併せ持つ必要がある。本授業は、地域による特殊性を考慮した農地の造成、整備、環境保全に関わる基本的な事項について講義します。国内外の農業と農地環境に関わる基本的知識を習得します。具体的には、農地の造成と整備に係わる農業土木的な計画・設計・維持管理に加えて、農地の果たす環境保全的な役割について理解することを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	STEAM学習基礎		講義前半では、STEAM教育の基本概念や歴史、デザイン思考、社会事例から見るSTEAMの意義、ロジカルシンキング、チームビルディングのスキル等について理解する。また、CADソフト（Fusion）を用いた３次元モデリングの練習を行い、プロダクト設計の基礎的なスキルを身につける。授業後半では，チームごとに身近な課題を解決するためのプロダクトを考案するとともに，Fusionを用いて設計し，更に３Dプリンターを用いて製作する。また，学びの総括として製作した小物を用いたプレゼンテーションコンテストを行う。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生物科学の世界Ａ		（概要） 本講義では「生命の科学」分野の中でも，特に細胞と遺伝子について．それらはどういうものなのか？私達の生活とどのような関わりがあるのかなどを学ぶ． なお，本講義は基本的に前半を鈴木章弘教授，後半を後藤文之教授が担当する． （オムニバス方式／全15回） （190 鈴木章弘／8回） 主に高等植物の細胞と遺伝子の働きについて具体例を交えて解説する。 （127 後藤文之／7回） 生命の機能単位としての細胞等について解説する。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生物科学の世界Ｂ		（概要） 多くの生物のゲノム配列が解読された現在、生物に対する分子レベルでの理解が急速に深まりつつある。この新しい生命科学研究の潮流を踏まえつつ、生命科学、特に遺伝学・分子生物学の基礎について学習する。ネット上の教科書であるDNA from the beginning（http://www.dnaftb.org/）に沿って、生命科学の基礎について学習する。 生命科学、特に遺伝学・分子生物学の基礎の基本的な知識を得ることができることを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	栄養科学Ａ		（概要） 栄養と人体のいくつかの器官系の構造や機能、疾病を関連させて講義する。なお、筋骨格系（運動）については、「こころに関する恒常性（ホメオスタシス）」と関連づけて後期の「栄養科学B」で扱う。また、五大栄養素のうち、ビタミンとミネラルについても「栄養科学 B」で扱う。 「健康」を考える上で、人体を「モノ（身体）に関する恒常性（ホメオスタシス）」が成立しているシステムと捉え、健全に維持するための知識と日常生活上の技能を紹介する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	栄養科学Ｂ		（概要） 生体の恒常性（ホメオスタシス）とその維持について、心身（身心）の構造と働きを視点として講義する。 三大栄養素、人体の機能を保つために必要な有機化合物とミネラル（無機質）、人体の構造と機能、「ヘルス」「ウェルネス」「ウェルビーイング」あるいは「ハピネス」という概念、生体（概日）リズムと睡眠、「メンタルヘルス」、心理療法などについて解説する。 心身（身心）の構造と働きについて意識し、生体の恒常性（ホメオスタシス）と関連事項を理解し、日常生活に役立てられるようになることを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	栄養科学Ｃ		（概要） 食品、調理、食品衛生、公衆衛生の概論（全体像）について講義する。 食及び食の周辺事項に関する知識を獲得し、知識を基に思考や行動を主体的にでき、知り得た知識を基に食に関する生活場面での必要に応じて、技術を調べて自ら試すことができるようになる等、学生自ら食生活の質の向上を図れるようになることを意図する。 （オムニバス方式／全15回） （3 岡島俊哉／11回） 食品、調理、食品衛生について講義する （138 市場正良／4回） 公衆衛生について講義する	オムニバス

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生命科学の基礎A		男女の「性差」についての知見は，遺伝子やDNAの発見によって大きく進展し，性ホルモンや脳の機能にまで研究が及ぶようになったが、日本社会の全般的な認識としては旧来の常識がまだ根強く残っており，影響を及ぼしている．そこで，多分野にわたる講師によるオムニバス形式で，概説や専門的で多様な視点からの分析を通して「性」とは何か，また「性差」について統合的に幅広く学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （191 鈴木智恵子／4回） 脳機能と性差、総括 （160 池田智哉／4回） 男女間の社会的・法的問題 （582 大坪美由紀／4回） 性とは　発達と性差 （7 吉岡剛彦／3回） 生殖とジェンダー	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生命科学の基礎B		人類が幸福な生活を送るために医学・医療は不可欠なものである。医学・医療の発達には動物実験が不可欠であることは多くのヒトが認めることではあるが、不適切な動物実験に対する反対運動があることも事実である。適切な動物実験を理解し、社会に認知された動物実験を行うことが求められている。本講義では、動物実験に使用される実験動物の種類、適切な維持・管理の方法と動物福祉に基づいた適切な動物実験について講義する。 （オムニバス方式／全15回） （360 北嶋修司／10回） 実験動物概論、規則・法律、実験動物の種類、実験動物の遺伝学的統御、環境統御、飼育管理と取扱い、動物福祉 （576 松久葉一／5回） 実験動物の微生物学的統御、人獣共通感染症、発生工学	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生命科学の基礎C		（概要） 医学・看護学研究の最新の話題を，主に基礎医学系，看護系の研究室から紹介する。後半は臨床医学の導入や臨床研究に関して紹介する。模擬研究も行う予定。臨床的な視点に興味は向きがちだが，医学・看護学の基礎研究も重要であることを知ってほしい。 （オムニバス方式／全15回） （571 岩本脩平／1回） 病因病態と研究1 （114 加藤省一／1回） 病因病態と研究2 （570 岡田貴裕／1回） 分子生物学と研究1 （578 石塚茂宜／1回） 分子生物学と研究2 （135 山田小織／1回） 看護学と研究1 （579 折橋隆三／1回） 看護学と研究2 （150 倉岡晃夫／1回） 生体構造機能と研究1 （569 塩谷孝夫／1回） 生体構造機能と研究2 （124 原めぐみ／1回） 社会医学と研究 （316 山下駿／1回） 医学教育開発と研究 （353 德島圭宜／1回） 臨床医学と研究1 （573 香月尚子／1回） 臨床医学と研究2 （143 青木茂久、140 小田康友／2回）（共同） 模擬研究の解説・演習と発表	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生命科学の基礎F		生命現象の分子的基盤について、いろいろな生体分子の構造・機能・生合成という点から解説する。 酵素学およびタンパク質や糖鎖などの生体高分子の構造と機能が内容の多くを占めるので、このような分野に全く興味がない場合にはかなりの苦痛をともなう可能性がある。医学に関連した生物化学の知識を深めたい人で、かつ興味を維持出来る人の受講を希望する。また、この講義をきっかけにして、各自興味のある生体分子やそれが関与する生命現象についての理解を深め、各自の専門教育に活かしてもらいたい。 （オムニバス方式／全15回） （159 池田義孝／6回） 酵素反応のしくみ、活性酸素と酸化ストレスについての講義、総括 （305 井原秀之／5回） 糖鎖の機能と生合成、血液型と糖鎖、糖鎖と疾患、糖鎖工学、翻訳後修飾についての講義 （570 岡田貴裕／5回） 免疫系の概要、自然免疫、獲得免疫、ワクチンとアジュバントについての講義	オムニバス

教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学と技術の分野特別講義	九州・沖縄学Ⅱ		（概要） 本授業は、九州地区の国立大学が連携して実施する「九州学ー九州の自然編」の授業である。各大学が提供する下記のトピック科目の中から７つのトピックを受講生が選択し、九州各県・各地域の特色を活かし、それらの魅力について多角的に学修する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学と技術の分野特別講義	やさしい電子回路		現代の高度情報化社会を支える基盤技術は、スマートフォンを含めたコンピュータなしでは語れない。現在、そこに蓄積される膨大な情報には、想像以上の価値が見出されているものの、それを可能としているのは、トランジスタなどで構成される電子回路である。普段、我々の目には触れないため、概して関心は低いかもしれないが、現状では、このような技術なしで世の中は動いていかないのも事実である。そこで、本講義では、このようなトランジスタを用いた電子回路の働きについて理解する。 まず電気回路の復習から始め、能動素子（ダイオードやトランジスタ）、増幅回路、オペアンプを用いた電子回路という順番で、少しずつ段階的に説明していく。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅰ		（概要） 本講義はドイツ語の初級文法を学ぶことを目的とする授業です。文法事項は本学オンライン試験システム（＝eラーニング）を使って学んだ項目の課題を毎週提出する形で学習を勧めます。教室での対面授業では発音と聞き取りに重点をおいて学んでいきます。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を連動させた形で進めます。 ドイツ語の習得を通してドイツ語圏の言語と文化への関心を高めるために、毎回教科書に沿って文法項目をひとつずつ学びつつ、eラーニングを使った練習問題でドイツ語の理解の定着を目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅱ		（概要） 本講義はドイツ語の初級文法を学ぶことを目的とする授業です。文法事項は本学オンライン試験システム（＝eラーニング）を使って学んだ項目の課題を毎週提出する形で学習を勧めます。教室での対面授業では発音と聞き取りに重点をおいて学んでいきます。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を連動させた形で進めます。 ドイツ語の習得を通してドイツ語圏の言語と文化への関心を高めるために、毎回教科書に沿って文法項目をひとつずつ学びつつ、表現演習でドイツ語の理解の定着を目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	フランスの言語と文化Ⅰ		（概要） テキスト『 なびふらんせ１ーパリをめぐるー 』は豊富なパリ情報や文化紹介の写真を見ながら、パリにいるイメージで学習が進みます。自然なフランス語を通してフランスでの生活や文化に触れ、「 聞く・話す 」「 読む・書く 」ために必要な基礎を固めます。まずフランス語の音に触れ、状況を目で見て想像力を働かせて理解するよう努めます。その流れの中でフランス語の使い方を発見しましょう。文法を理解し語彙を増やしたら、フランス語をコミュニケーション・ツールとして使ってみます。状況に応じてフランス語を使えるよう、知り得た情報から考えながらフランス語で表現できるように実践しましょう。 フランス語を学ぶことにより、フランス語を使う人々の文化や習慣を知り、価値観の多様性を認識し、国際社会に対する複眼的視野を育成します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	フランスの言語と文化Ⅱ		（概要） テキスト『 なびふらんせ１ーパリをめぐるー 』は豊富なパリ情報や文化紹介の写真を見ながら、パリにいるイメージで学習が進みます。自然なフランス語を通してフランスでの生活や文化に触れ、「 聞く・話す 」「 読む・書く 」ために必要な基礎を固めます。まずフランス語の音に触れ、状況を目で見て想像力を働かせて理解するよう努めます。その流れの中でフランス語の使い方を発見しましょう。文法を理解し語彙を増やしたら、フランス語をコミュニケーション・ツールとして使ってみます。状況に応じてフランス語を使えるよう、知り得た情報から考えながらフランス語で表現できるように実践しましょう。 フランス語を学ぶことにより、フランス語を使う人々の文化や習慣を知り、価値観の多様性を認識し、国際社会に対する複眼的視野を育成します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	中国の言語と文化Ⅰ		中国語の学習を通して中国の文化についてふれる。発音練習から始めて、中国語の基礎的な事項について講義する。文法・語法についても詳しく解説する。教科書に沿って授業を進めていく。毎回小テストを課すので、予習・復習をした上で、授業に臨むこと。 発音や文法・語法の基礎を習得したり、日常会話によく用いられる語彙のうち、比較的簡単なものを覚えることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	中国の言語と文化Ⅱ		（概要） 中国語の基礎的な事項について学ぶ。教科書に沿って授業を進めていく。毎回小テストを課すので、予習・復習をした上で、授業に臨むこと。後期は前期の続きですので、受講登録は、中国の言語と文化Ⅰを受講したことがある者に限ります。 発音や文法・語法の基礎を習得したり、日常会話によく用いられる語彙のうち、比較的簡単なものを覚える、そして簡単な自己紹介ができるようになることを目指します。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ		（概要） 日本語と系統を同じくする韓国・朝鮮語は日本語を母語とする学習者にとって学びやすい言語ですが、発音及び音の構造が日本語とは異なります。言語構造及び音素文字でハングルを学びながら音の構造を学びます。 韓国語の発音の構造を理解し、表音文字であるハングルを正しく読めるようになる、韓国語の構造を理解し、基本的な文法を習得することを目指します。また、韓国語を学ぶことで韓国についての理解を深めます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ		（概要） 韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰを受講した学生もしくはハングルが読める学生が対象です。韓国語の用言の活用を学び、作文及び翻訳ができるようになることを目指します。また、会話練習を行います。 韓国語で作文・翻訳ができるようになり、会話を楽しむことができます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Western Culture		This course explores key aspects of Western culture, focusing on cultural values, traditions, social structures, language, and the arts. It encourages comparative analysis between Western and Japanese cultures, helping students develop a deeper understanding of cultural similarities and differences. Through discussions, research, and the study of English idioms and sayings, students will enhance their cultural awareness and language skills. English Proficiency Requirement: This course is designed for students with a TOEIC score of 500 or higher or at least an intermediate (B1) level of English proficiency. Students should be able to comprehend lectures, participate in discussions, and express their ideas in both written and spoken English. This class will be conducted entirely in English. このコースでは、文化的価値観、伝統、社会構造、言語、芸術に焦点を当て、西洋文化の主要な側面を探求します。西洋文化と日本文化の比較分析を促し、文化の類似点と相違点についての理解を深めます。ディスカッション、リサーチ、英語の慣用句やことわざの学習を通して、文化認識と言語能力を高めます。 英語力の要件 このコースはTOEIC500点以上、または中級（B1）以上の英語力を持つ学生を対象としています。講義を理解し、ディスカッションに参加し、書き言葉と話し言葉の両方で自分の考えを表現できることが望ましい。このクラスはすべて英語で行われます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Intensive English I		This course will guide students to sharpen their skills in reading, listening, speaking, and writing so that they may attend the academic and social events offered in English at the University more confidently. They will be instructed on how to initiate and continue self-learning outside of class hours to expedite the learning process. Since the classes will mainly be conducted as seminars where collaborative learning is encouraged and task-based learning (TBL) is a major approach, students will be given individual, pair, and group work. Those who happen to miss out on any class may be given one or more additional assignments as homework このコースでは、学生がリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングのスキルを磨き、大学で提供される英語の学術的および社会的イベントに自信を持って参加できるようにすることを目的としています。授業外の時間に自己学習を開始し、継続する方法についても指導され、学習プロセスを迅速化します。 授業は主にセミナー形式で行われ、協働学習が奨励され、タスク・ベースド・ラーニング（TBL）が主要なアプローチとなります。学生は個人、ペア、グループでの課題が与えられます。 授業を欠席した場合、追加の宿題が一つ以上与えられることがあります。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Intensive English Ⅱ		This course will guide students to enhance their knowledge of and skills in all areas of English so that they may continue self-learning taking classes offered in English more confidently. How to develop skills in critical thinking and converting such thinking to argumentative writing also will be a focus in this class. Since the classes will mainly be conducted as seminars where collaborative learning is encouraged and task-based learning (TBL) is a major approach, students will be given individual, pair, and group work. このコースでは、英語のあらゆる分野の知識とスキルを高め、英語で行われる授業をより自信をもって受けられるよう、自己学習を継続できるよう指導します。また、クリティカル・シンキング（批判的思考）をいかに身につけ、それを論述につなげるかという点にも重点を置く。 授業は主にゼミ形式で行われ、共同学習が奨励され、タスク・ベースド・ラーニング（TBL）が主要なアプローチとなるため、学生には個人ワーク、ペアワーク、グループワークが与えられる。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Academic English		In academic settings, it is extremely important to convey information in a logical, orderly, and easy-to-understand manner, and to deepen understanding of through questions and answers. In this course, students will develop presentation skills along with the English expressions needed to do so, and then have the opportunity to put what they have learned into practice. The course will include presentations and practice of English expressions that can be used for introductions, sign-posting, chunking and intonation, emphasizing important content, summarizing a presentation, and responding to questions and answers, and will finally put these into practice in a presentation on education-related content. アカデミックな場では、情報を論理的・整然とわかりやすく伝え、質疑応答を通して理解を深めることが非常に重要です。本講座では、プレゼンテーション能力とそれに必要な英語表現を身につけ、実践の場で活用できるようにします。 イントロダクション、サインポスト、チャンクとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンテーションの要約、質疑応答などに使える英語表現の発表と練習を行い、最終的には教育関連の内容のプレゼンテーションで実践します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Business English		（英文） his course will focus on improving English listening and reading skills through study efforts for TOEIC® and other English language exams. Due to the compressed format of the class, some units will not be covered in full. This course aims to provide students with strategies to improve their vocabulary, listening, and reading skills in each of the areas covered by the TOEIC. TOEIC®をはじめとする英語検定試験の学習を通して、英語のリスニング力とリーディング力の向上を目指します。圧縮された授業形式のため、一部の単元は完全にカバーされません。 このコースでは、TOEICでカバーされる各分野の語彙力、リスニング力、リーディング力を向上させるためのストラテジーの習得を目指します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	アカデミック独語		（概要） 本講義は中級レベルのドイツ語力の定着を目的とする授業です。ドイツ語検定3級、2級の過去問や同レベルの類似の問題を用い、文法の総復習を行うことでこれまで学んできた文法事項を確認し、自由に使える能力を養います。 独検受験を取り掛かりとして中級以上（独検2級合格に要求される以下のレベル）のドイツ語力を定着させることを目指します。 ①ドイツ語の文法と語彙についての知識を前提に日常生活に必要な会話や社会生活で出会う文章を理解できる。②長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツ文化論A		（概要） ドイツ人は何を食べ､どう暮らし、何を考えてきたのか タキトゥスの記述に見られる古代ゲルマンから、宮廷叙事詩を生んだ騎士文化の花開いた中世、三十年戦争の影を色濃く残すバロック、近代の科学技術の扉を開いた啓蒙期、豊かな芸術と思想を生み出したロマン主義の19世紀前半までのドイツ語圏の様々な文化事象を解説する。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの歴史と文化事象を概観するには、ヨーロッパそのものを視野に入れなければならないし、近世以降は、世界を視野に入れて、ドイツとは何かを問う必要がある。ヨーロッパ文化史、世界文化史の文脈でドイツ文化を見ると新たになにが見えてくるかを提示する。従って第一に、ヨーロッパの歴史の流れを理解する。そして第二に、その流れの中にドイツ語圏の文化を位置づける。この二つの作業を通じて、受講者はドイツとは何かという問を考察してゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツ文化論B		（概要） ドイツ人は何を食べ､どう暮らし、何を考えてきたのか 文化爛熟の19世紀末､ナショナリズムと20世紀の二度の世界大戦、そして東西への分断と統一を経験した今日までのドイツとドイツ語圏の歴史を概観し、そこに生まれた芸術作品を中心に紹介する。芸術作品の鑑賞を通じてドイツ語圏の豊かな文化を照らし出す。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの歴史と文化事象を概観するには、ヨーロッパそのものを視野に入れなければならないし、近世以降は、世界を視野に入れて、ドイツとは何かを問う必要がある。ヨーロッパ文化史、世界文化史の文脈でドイツ文化を見ると新たになにが見えてくるかを提示する。従って第一に、ヨーロッパの歴史の流れを理解する。そして第二に、その流れの中にドイツ語圏の文化を位置づける。この二つの作業を通じて、受講者はドイツとは何かという問を考察してゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツ文化論C		ヨーロッパのなかのドイツ語圏−生活文化の比較と考察― 　ヨーロッパ古代から現代までの衣食住についてドイツ語圏とその他の地域の特徴を比較しながら，ドイツ語圏特有のありさまを把握する。服装の意味や，食卓の変化，建築様式の変遷などを，文学や絵画や音楽などの文化事象を手がかりに考察する。 　地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの文化史という観点から，ヨーロッパそのものを視野に入れ，ドイツ語圏とは何かを問う。ヨーロッパ文化史，世界文化史の文脈のなかにドイツ語圏の文化を位置付けることによって見えてくる影響関係と特異性とを取り上げる。主に生活文化という視点から考察を進めてゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツ文化論D		ヨーロッパのなかのドイツ語圏−言語文化の比較と考察― 　ヨーロッパ古代から現代までの言語文化についてドイツ語圏とその他の地域の特徴を比較しながら，ドイツ語圏特有のありさまを把握する。文字の歴史や，音声の変化，文学の誕生と存在意義などを考察する。絵画や音楽などの芸術や生活文化にかかわるメタテクストとしての批評をも手がかりとして考察する。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの文化史という観点から，ヨーロッパそのものを視野に入れ，ドイツ語圏とは何かを問う。ヨーロッパ文化史，世界文化史の文脈のなかにドイツ語圏の文化を位置付けることによって見えてくる影響関係と特異性とを取り上げる。主に言語文化という視点から考察を進めてゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	日本古典文学A		日本の平安時代の古典文学、具体的には『竹取物語』『伊勢物語』を読む。日本の平安時代の古典文学を読み、物語文学の読み方や考え方、また古典文学の常識を学ぶことにより、平安文学という異文化を理解することを目的とする。また、基礎的な語彙力を養成することも目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	日本古典文学B		日本の平安時代の古典文学、具体的には『源氏物語』若菜上・若菜下を読む。古典文学の最高傑作『源氏物語』の中でも、特にドラマチックとされる若菜上・若菜下を読み、そこから物語文学の読み方や考え方、また古典文学の常識を学ぶ。平安文学という異文化を理解することを目的とする。また、日本の文学史の知識を習得する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	欧米の文化・文学		イギリスの中世文学作品の解読を通して、それらがイギリス国民意識の成長にいかに寄与したかを探っていきます。 　第1回で、授業の構成等について説明した後、第2回から第6回までは、「アーサー王物語」の歴史的背景と物語の継承について概説します。続いて、第7回から第11回までは、「ロビン=フッド物語」の歴史的背景と物語の継承について解説します。第12回から第15回までは、中世に生まれたこれらの伝承文学が、どのようにしてイギリスの国民文学に発展し、国民のアイデンティティ形成に影響を及ぼしたかを考察していきます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	ドイツ文学A		（概要） 本講義は、読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から２作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいます。作品の引用箇所は履修者の皆さんで順番に音読してもらいます。 　今回取り上げるのは次の２作品です。 ●ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ『若きウェルテルの悩み』 ●ベルンハルト・シュリンク『朗読者』 異文化への興味を高め、読書を身近なものとして感じる体験をしてもらいたいです。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	ドイツ文学Ｂ		（概要） 本講義は、読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から２作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいます。作品の引用箇所は履修者の皆さんで順番に音読してもらいます。 　今回取り上げるのは次の２作品です。 ●ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』 ●ミヒャエル・エンデ『モモ』 異文化への興味を高め、読書を身近なものとして感じる体験をしてもらいたいです。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	芸術論		（概要） 講義は二人の講師によって前半と後半に分けて行ないます。 （オムニバス方式／全15回） （8 栗山　裕至／8回） 精神医学や臨床心理学の基礎理論に基づきながら、人間の精神構造や無意識の心理、創造性や病理の関係などを概説する。それらの内容を受けて、具体的に造形芸術家の例をあげ、病跡学的解説を行います。 （99 吉住　磨子／7回） 社会の中で周縁におかれた人々の図像を通して、ヨーロッパ社会の権力や中心を相対化することを試みます。	隔年・オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	音楽史・音楽論		生きている時代の文化や社会構造，政治的背景に翻弄される人間の感性の痕跡を，その時々の音楽から読み解いていく。それぞれの時代に聴かれた音楽を多面的に理解することで，近現代史における多様な社会の側面を理解する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	日本語学		（概要） 上古から近現代まで日本語がどのように変化してきたかについて、音韻・文字・表記・語彙・文法などの側面から見ていきます。当時の言語資料を知るために、簡単な文学史の復習と作品講読を取り入れ、当時の文章に触れながら言葉の変化を理解することを目指します。 奈良時代、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代前期・後期、明治以降ごとに、れぞれの時代背景と言葉の変化が大きく関わっていることを認識し、いくつかの古典作品の講読を通して、各時代の日本語の様相を理解します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	コミュニケーション論		（概要） 本科目は、総合的なコミュニケーション能力の向上につながる基本的な知識や技能を修得するための講義を行います。基礎理論、言語、非言語コミュニケーション、対人的コミュニケーションから異文化コミュニケーションまでを包括的に取り扱います。講義は複数名の教員で担当するオムニバス形式の授業です。 現代社会において最も重要なスキルであるコミュニケーションについて学問的な知識を身につけるために、さまざまな観点からコミュニケーションの概念について理解します。	共同
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	Critical Thinking for the Modern Age		（英文） This course introduces students to key aspects of critical thinking essential for navigating today's world, including logical reasoning, media literacy, ethical decision-making, and problem-solving. Students will analyze real-world case studies from both Japanese society and the wider world. Through interactive discussions, presentations, and written assignments, they will refine their ability to think critically and apply these skills to contemporary issues. The primary aim of this course is to cultivate a mindset of critical inquiry and rational thinking. By engaging with real-world examples and practical exercises, students will enhance their ability to question information, evaluate evidence, and articulate well-founded arguments. Ultimately, the course seeks to equip students with the skills necessary to make informed decisions, contribute meaningfully to discussions, and adapt to an ever-evolving global landscape. このコースでは、論理的推論、メディア・リテラシー、倫理的意思決定、問題解決など、現代社会を生き抜くために不可欠なクリティカル・シンキングの重要な側面を紹介します。受講生は、日本社会および世界における実際のケーススタディを分析します。双方向のディスカッション、プレゼンテーション、レポート課題を通して、批判的に考える力を磨き、これらのスキルを現代の問題に応用していきます。 このコースの第一の目的は、批判的探究心と合理的思考を養うことである。実際の事例や実践的な演習に取り組むことで、情報を疑い、証拠を評価し、根拠のある議論を明確にする能力を高めます。最終的には、十分な情報に基づいた意思決定を行い、議論に有意義に貢献し、進化し続けるグローバルな状況に適応するために必要なスキルを身につけることを目指します。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	Cultural Metaphors		（英文） This course will consist of lectures, discussions, note-taking activities, critical thinking activities and writing activities about the values of various cultures around the world. During the course, students will be expected to take notes and actively participate in discussions. Regular attendance and participation are very important. This class will let the students develop a framework for understanding and interpreting the cultural of other societies and help them grow as members of a global society. このコースは、世界中のさまざまな文化の価値観についての講義、ディスカッション、ノートテイキング活動、批判的思考活動、ライティング活動で構成されます。コース期間中、受講生はノートを取り、ディスカッションに積極的に参加することが求められます。定期的な出席と参加は非常に重要です。 この授業を通して、他国の文化を理解・解釈するための枠組みを身につけ、グローバル社会の一員として成長することを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	哲学・倫理学		哲学は、前提条件をつけずに、あらゆる事柄をとことん最後まで考え抜くところに、その特徴があります。哲学が、様々な学問が前提にしている知識や概念（自然、生命、歴史、経済、法、道徳）を自明視せずに、それらの根拠を更に問おうとするのは、哲学的思惟の本質に属しているといえます。 ところで、予備知識がなくても素手でものを考えることができる点に哲学の一つの醍醐味がありますが、とはいえ、哲学を理解するうえで、論理的にものを考えるトレーニングを積むことや、哲学の古典を読解する能力を身につけることや、哲学史の流れを把握することも重要です。 本講義では、いくつかのテーマに沿って、現代日本の哲学者の主張を紹介しながら、そのテーマに関する哲学思想のエッセンスについて概説します。授業の後半では倫理思想に関する話題も取り上げます。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	考古学		（概要） 考古学の方法等の概要について講義形式で学習する。 考古学的な成果が歴史学に占める比重は、次第に高まっている。その歴史的な意義を的確に判断するためには、考古学の方法等についての知識が不可欠である。本講義では考古学の方法、理論等の現状について、日本各地はもとより他国の例もみながら概観することにしたい。 具体的には、考古学の対象範囲と抗議の概要、考古学の成り立ちと展開、考古学の資料、考古学の方法、考古学と古環境、考古学からの食生活の復元、などの講義を行う。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	日本史		（概要） 本講義では、日本史上の政治的変遷を中心にその基礎的内容の解説を行うが、特に各時代の政治・経済・文化等の様々な社会システムの中核施設だった「城」と「城下町」の発達史を通じて、最新の調査・分析成果を交えながら日本社会の変化の実像を学習してもらう。 日本史を考え、より深く理解するためには様々な媒体（古文書、古記録、絵画史料、遺跡、遺物…等々）からのアプローチが欠かせない。一つのテーマを追究するために、多面的な事象や情報を駆使しながら考える習慣を身に付けていく。そして、社会人として必要な文化的素養の習得と充実に繋げる。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	東洋史		（概要） 中国の歴史を、古代から現代まで概説する。各時代において重要な役割を担った人物にも光を当て、また、その歴史に様々な形で影響を与えてきた儒教・仏教・道教についても解説する。中国と日本との関係についても適宜紹介していきたい。日本をはじめ東アジアに多大な影響を与えてきた中国の歴史を学ぶことで、隣国中国について学び、佐賀大学学士力に示された「3-(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力」を身につける。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	西洋史		（概要） 近現代ヨーロッパ（フランス）の歴史をさまざまなトピックに分けて学んでいく。現代社会には教育、家族、宗教、移民、言語、政治などの分野において、さまざまな社会問題が存在する。しかし、これらの問題は現代に突然発生したものではなく、その起源と本質を知るためには19世紀にまで遡らなければならない。これらの社会問題の起源・本質を知るために19世紀のヨーロッパの歴史を考察する。また、同時代の日本の歴史を比較検討することで、近現代の歴史についてグローバルに学んでいく。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	人類学		人類学は大きく分けて２つある。一つは、ヒトの文化的特徴や社会的営みを研究対象にする文化人類学、もう一つは、霊長類全般（ヒト包括したサルの仲間）を含め、身体的特徴や遺伝的情報など生物学的特徴を研究対象にする自然人類学である。この講義では、自然人類学を学んでいく。特に、どのような動物・霊長類からヒトが進化して現在に至るのか、さらには日本列島のヒト・地域集団は、どのような集団から分かれて現在のものとなったのか、形態学的特徴と遺伝的情報の２つの側面から探っていく。毎回の講義は、スライドと配布資料を用いて行う。 （オムニバス方式／全15回） （477 菊池泰弘／7回） 人類学の歴史、現生霊長類、現生類人猿についての講義 （566 川久保善智／7回） 原人、旧人、新人、縄文人、弥生人、復顔についての講義 （583 大野憲五/1回） 発掘の方法や研究についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	スポーツウェルネスの世界		（概要） ゴルフ，ボウリングというポピュラーなスポーツを題材とし，主にスライドを用いてこれらの競技が成立するに至った時代背景，ルール変遷の歴史的経緯，著しい技術革新がもたらした道具の進化など，主に歴史的・文化的側面からスポットを当てつつ解説する。 WHOによって提示された“ウェルネス（wellness）”とは，いわゆる「健康」の枠組みを超えた多元的な健康観であり，各人が自身の価値観や人生観に基づき，目的としてではなく，より良く生きるための手段として健康をとらえることを指す。当該講義は，学生が歴史的・文化的視点から競技としてのゴルフとボウリングの成熟過程を学ぶことで，社会を形成する市民として必要なスポーツ文化に対する理解を深めることを目的とし，さらにウェルネスの概念との接続によって，生涯スポーツの実践につながる布石と成すことを期待したい。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	近代サッカーの成立と進歩		（概要） この授業科目は、単にサッカーをする授業ではない。近代サッカーの理論を講義から理解すると共に、その理論を基とした技術・戦術の理解と体得を目指す科目である。 近年、大きく発展したサッカーの理論を元にした技術・戦術を体得してもらうために、毎回の授業では近代サッカーの理論について理解すると共に、演習として学んだ技術・戦術をゲーム等の中で表現してもらう。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	サッカーの歴史と技法		（概要） サッカーを取り巻くあらゆる諸相を取り上げ、様々な観点からサッカー競技の課題研究・分析する科目である。主にグループワークが中心となるが、それぞれが関心のあるテーマでプレゼンテーションを行いながら、サッカー競技全般を取り巻く諸相について見識を深め理解する。 スポーツとしてのサッカーの技術的な問題に加え、その背景にある成り立ち、歴史、文化、規則等と関連させながら深く学ぶことで、サッカーに関する知識を文化的側面まで理解、発展させる素養を築いてもらうことを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	柔道の歴史と技法		本講義は、柔道未経験者を対象にして柔道の歴史背景や文化、理論、哲学等と関連させながら初歩的な技術を学ぶ科目です。技術の理解・習得には多くの時間を要しますので、多くの時間を稽古の時間に充てます。基本的には試合は原則しませんので、争うことが苦手な人でも問題ない内容になっています。授業の最終回後には授業内容を「振り返りシート」に整理してもらいます。「実技試験」の結果と「振り返りシート」の記載内容が評価対象になります。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	哲学の世界		（概要） 本授業では、哲学的な「心身問題」を取り上げます。前半は、近代哲学の父と言われるR.デカルトが考えた心身二元論（デカルトの神話）の理解です。後半は、古代ギリシャや西洋中世の魂論を取り上げます。 哲学は常識批判ともいわれます。あたり前のことがあたり前ではないことに気づくとき、私たちの日常が再度活性化されます。それを体験していただくことが第一目的です。哲学者たちが私たちを取り巻く世界をどう説明しようとしたのかを一緒に見ていきましょう。映像資料もまじえ、分かり易い授業を心がけます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	地域史		この授業のサブタイトルは「チャレンジ佐賀学」である。「佐賀学」とは、地域学の一つとして、佐賀の文化や歴史、文化的伝統や風土、自然や環境などを総合的に捉えることにより、新しい研究分野と教育の創造を目指そうとするものである。佐賀は古来より、大陸文化流入の通路、いわば知のシルクロードであり、とりわけ江戸時代末期から明治維新にかけて、政治、教育、科学等の各分野の我が国社会改革の原動力の一つとなった。 本講義では佐賀学の入門・基礎編として、①それらの革新性と保守性（限界）などについて、②維新に貢献した人物に焦点をあて、③ネット授業の利点をいかして、視覚的に時間と空間を超えて探求する。 佐賀学にチャレンジし、チャレンジ精神にあふれて新たらしい世代と社会を切り開いた佐賀人たちと気持を一つにして、自分たちのチャレンジ精神を育ててもらいたい。	

教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	宗教学		「生きる助けともなれば、苦悩の元凶ともなる宗教。人類の誕生以来存在し続けてきた宗教。人間はなぜ宗教という営みをするのか？　何が宗教を形作ってきたのか？　現代社会の宗教はどのような状況にあるのか？」（教科書の帯文句より） 最新の研究成果に基づく教科書を用いて、生と死や悪といった宗教哲学的な問題からスピリチュアリティや聖地巡礼ツーリズムなどの現代社会の宗教現象まで、現代において宗教を理解するために必要な知識を概説します。世界や日本の伝統宗教の基礎知識を確認する機会も設けます。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	水中文化遺産学		わが国の海・河川・湖沼には、古代以来の物流や人的交流の歴史を証明する多様な水没文化財（水中歴史遺産・水中遺跡）が数多く存在するが、その内容については陸上の歴史文化遺産に比べて一般的な認知度が低い。 本講義では、その性格と概要を解説し、これまでの調査・保存・研究の状況を紹介しつつ、陸上を舞台とする歴史文化の世界に対して、水域から見た「海洋国・日本」の歴史の特徴を教示する。 東シナ海と玄海灘に接する九州・沖縄地方は、古来、日本と東アジア諸国との交流史上の窓口であり続けた。そのため国際的注目を浴びる水中遺跡の分布地帯となっており、我が国の海中考古学調査の先進地域でもある。そのような恵まれた歴史文化的環境下に集う本学の学生に、水中の文化遺産学・海事史学の基本と概要を学んでもらいたい。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文化の分野特別講義	九州・沖縄学Ⅰ		（概要） 九州・沖縄地区の国立大学が連携して実施する「九州・沖縄学」の歴史文化編である。受講生は各大学が提供する下記のトピックの中から７つを選択し、九州・沖縄地区の歴史と文化の背景を知るとともに、各県、各地域の魅力と特色について学ぶ。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	経済学		高等学校では地歴教科を選択していた方が多いと思われますが、公民教科の政治・経済を選択した方はどれだけいるでしょうか。また、「経済学」という学問の存在さえ知らなかった方もいるかもしれません。新聞等で「経済」という言葉をよく耳にすると思いますが、その意味を問われて答えることができますか？特に学問である「経済学」で用いられる専門用語はその漢字から意味を読み取ることができないことが少なくありません。そこで、「経済学」に必要な基礎的概念について、日常的に報道される経済統計データから探っていきたいと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	会計学		（概要） 本講義は、税理士法人諸井会計の提供講義です。企業の経営状況を示す鏡であろう会計学の基礎と会計の社会における役割について学習します。 会計とは何か、会計によって何が分かるのか、会計の仕組みはどうなっているのか、会計は社会においてどのような役割をしているのかを学びます。また、会計情報が企業経営を知る上でどのように役立つかを理解します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	経営学		本講義では企業(組織)運営に焦点を当て、経営戦略およびマーケティング戦略に関する基本原理について事例を交えながら体系的に習得することを目指します。 昨今、我々を取り巻く環境は大きく変化していると言われています。よく耳にするIoT、FinTech、コーポレートガバナンスという言葉も、この変化を捉えた1つの例であるといえます。 この変化に対応する手段の1つとして「経営学」の手法や知見に注目が集まり、様々な書籍や雑誌を目にすることが多くなっています。 しかしこのような「経営学」に関する情報は増えている一方で、その情報量に圧倒されて学習を諦めた方や、何を読めばよいかと途方に暮れている方もいるのではないでしょうか。 本講義では「経営学」の分析対象や基本知識を中心に取り上げ、「経営学」に対する理解や関心を少しでも深められるようにアシストしたいと考えています。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	法律学		地球温暖化、環境汚染、高齢化に伴う老後問題、少子化による労働力不足、雇用形態の変化、貧富の格差、民族・男女等による差別、新しい財産権の登場など現代社会には様々な問題が十分に解決されないまま存在する。いま社会で何が起こっているのか。原因は何か。どうすれば解決できるかについて、法の観点から広く概観する。 （オムニバス方式／全15回） （344 中山泰道／3回） 授業ガイダンス、民法についての講義 （354 内山真由美／2回） 刑法についての講義 （183 平部康子／2回） 社会保障法についての講義 （151 早川智津子／2回） 労働法についての講義 （475 樫澤秀木/2回） 環境法についての講義 （332 孫友容／2回） 知的財産法についての講義	オムニバス

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	政治学		私たちは、現在気候危機や少子化、格差や貧困の拡大など深刻な課題に直面しています。戦後に築いてきた社会や経済が揺らぎ、政治のあり方が問われています。本授業では、戦後の日本政治を振り返り、そして、現在と未来の社会や政治を考えてみたいと思います。それと同時に、政治と金をめぐる政治の混乱など最新の政治に関する知識や情報を身に着けてほしいと思います。そのことで、主権者であるみなさんが政治に関心をもち、日本政治について考え、行動するヒントを得ることができればと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	日本国憲法		（概要） 日本国憲法は私たち個人にとって、普段、あまり意識されない法律です。ところが、憲法の背後にあるさまざまな原理（国民主権や基本的人権の尊重、平和主義など）は、私たちが生きている現代社会に実にさまざまな問題を投げかけています。この講義では、できるかぎり具体的な憲法上の事件・争いを検討しながら、憲法の基本的知識としくみについて解説します。実際に憲法が国家の中で用いられている現状を見ながら、政治権力や死刑制度、あるいは福祉のあり方など社会の様々な問題に触れながら、私たちの価値観をできるだけ柔らかくするような多様な立場を日本国憲法から学びます。 受講者には自分たちが現在生きている社会状況を常に意識しながら、国家や法が引き起こす様々な問題を自分たち自身の問題として捉えるよう求めます。色々な立場を考えながら自らの立場について論理的・客観的に考えるという「問題の悩み方」を学習してほしいと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	現代社会の法と政治		アメリカで1999年から約７年間放送され、人気を博したテレビドラマ・シリーズ『ザ・ホワイトハウス』（原題：The West Wing）を素材としながら、現代アメリカ政治のいくつかのトピック（論点・争点）について担当教員が講ずる。民主党／共和党の二大政党制、黒人（アフリカ系）などに対する人種差別や、妊娠中絶・同性愛・銃規制などをめぐる価値観の対立、死刑制度の動向、連邦最高裁判事指名の仕組み、核兵器・原子力政策などを取り上げて、日本の現状や制度と比較をまじえながら解説する予定である。題材とする上記ドラマについては、適宜に内容の説明や一部の上映を行なう。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	地理学		（概要） 地理学における主要なテーマである景観と環境について考える。特に、人間が作った文化景観（Cultural Landscape）や二次的な生態系である里山や里地の環境について、グローバルに考え、ローカルな実践への糸口を見出すことを目的とする。地理的環境論、環境と文化的景観の諸相、環境と文化的景観の保全・活用について講義を行います。景観や環境と人間との関係について理解し、それらを保全する意味について理解できるようになることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	Introduction to Sociology		（英文） In-depth class and group discussions about difficult issues in today's society.To enhance student's English speaking and vocabulary though thoughtful discussions about issues in society and how best to address them. -This class will be held in person, but it is possible that some class will be conducted online via Zoom or Teams. -Students must join the Microsoft Teams group for this class. -A link to the Microsoft Team group will be shared with all enrolled students via Live Campus. -In general all communications will be sent via Microsoft Teams, NOT Live Campus. -A special assignment may be given to students unable to attend class when necessary. 今日の社会における難しい問題について、クラスやグループで徹底的にディスカッションします。社会における問題や、それらに対処する最善の方法について思慮深く議論することで、生徒の英語力と語彙力を高めます。 -本授業は対面式で行われますが、一部ZoomやTeamsを利用したオンライン授業が行われる可能性があります。 -この授業では、Microsoft Teams グループに参加する必要があります。 -Microsoft Teamsグループへのリンクは、Live Campusを通じて受講生全員に共有されます。 -一般的に、すべての連絡は Live Campus ではなく Microsoft Teams 経由で行われます。 -授業に出席できない学生には、必要に応じて特別な課題を与えることがあります。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	社会思想		（概要） 本講義では、社会的正義に関する現代政治哲学の一連の議論及び自由や平等をめぐる論争を概観する。まず実際の社会問題や公共政策と政治理論の関係を議論し、これまでに行われてきた議論の意義や問題点を参加者と共に考える。今日の公共政策においても有力な考え方である功利主義や、ジョン・ロールズの社会的正義論を紹介し、これらに関連する論争を紹介し、参加者と共にその意義や課題を検討する。 現代社会における課題や政策には、その根底に自由、平等、福祉、共同体、民主主義といった理念をめぐる論争が存在する。このような理念をめぐる現代政治哲学の論争を概観し、私たちの社会における問題や政策のあり方について思考を深めることが、本講義の開講意図である。このような教養の習得はシティズンシップ教育の一部としても有意義である	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育と人生		（概要） 「心（の）理」「物（の）理」「生（の）理」を基盤に、人の発達と人生について考える。自分自身が人生を肯定し、かつ、他者を時には教育あるいは指導し、（親、職業としては医師、看護師あるいは教師として）まずは思いやりを持って寄り添うことができる人になって欲しい。 本科目では、医療、福祉・介護、学校における教育活動などに応用されている心理的・社会的（精神的）活動の基礎理論（特に、「個の心」あるいは「社会との接点」に影響するさまざまな要素）を紹介し、考えてもらうことを目的としています。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学A		（概要） 医療において活用されている心理学を中心とした講義を行う。 具体的には、心理学の歴史。代表的な心理学者。心理学に関連する代表的な理論、モデル、枠組み。社会における心理学。発達段階と心理学。認知と心理学。パーソナリティと心理学。災害における心理学。臨床心理学。心理検査。心理尺度。医療における心理学的アプローチやカウンセリングなどについて講義する。 医療者に求められる対象理解の一助として心理学に関する基本的な考え方の習得を目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学B		心理学Bは、副題を「人間と社会の心理学」とする。 本講義では、認知と認識の心理学、対人関係の社会心理学、メンタルヘルスの心理学を講ずる。 錯視と錯覚、認知と認識、ゲシュタルト、好意の成り立ち、同調と服従、協調と責任の拡散、印象形成、メンタルヘルス、ストレス、うつ、過労死と突然死等について展望する。 講義及び視聴覚資料の視聴を中心に進める。 なお、遠隔授業においては著作権の関係上、視聴覚資料の提示は大幅に割愛する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	健康科学A		（概要） 生涯にわたって、健康に関する自己管理能力は必要不可欠である。健康管理を適切に行うには様々な知識が必要となる。この講義では、心身の健康に関する様々な科学的な知識や体得すべき生活習慣について学び、健康の保持増進、健康的なライフスタイルの確立についての理解を深める。 この講義は医師としての実務経験を有している教員が、健康についての実践的な教育を行う科目である。 心身の健康や運動に関する知識の向上を目標とする。 加えて、学生が自分自身の健康についても興味、関心を持ち、身近な健康に関しての事項（飲酒、喫煙、感染症、生活習慣病等）についての理解をさらに深めることをめざす。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	健康科学B		（概要） 一般的な病気について学習する。 病気になったときのために、日本の医療事情を知ってもらう。健康に関わる情報を取得するスキルを身につけることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （503 福留健司／14回） イントロダクション、命を守る身のこなし方、生活習慣病にならないために、誰のためのメタボ検診？、さまよえる血圧、発がんリスク、なぜアレルギーは増えたのか、脳梗塞、心筋梗塞、エコノミー症候群、沈黙の臓器、サイレントキラー、認知症との付き合い方、なぜ、うつ病が増えているのか、心のストレス、体のストレス、細胞のストレス、日本の医療は、素晴らしい？ （133 山下佳雄／1回） 知らないと損をする口腔ケア	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	スポーツと健康		本授業は、これまで学生が体育の授業等で経験してきたスポーツ題材にルールの機能と役割、さらにルールを使い熟すための思考方法や動作等の習得方法について実際の実技経験を通して理解してもらう科目です。そのため、多くの時間を運動の時間に充てます。毎回の授業の前半では準備体操などの具体的な運動や動作の指示もしますが、後半はチーム毎に分かれ教員が提示するテーマの範囲内で学生同士が考えた練習と試合を行う予定です。授業の最終回後には授業内容を「振り返りシート」に整理してもらいます。「実技試験」の結果と「振り返りシート」の記載内容が評価対象になります。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	Citizenship Education		This course is focused on studying some of the most important issues facing the world today. Through studying a variety of issues that face the world, and Japan. By studying such topical content in English, students will evaluate their own role as individuals and as members of society. The course will support and enable learners to critically evaluate and understand the impact of their choices and how they can live and work in responsible ways to ensure that our home, planet earth, can thrive and remain habitable for future generations. このコースは、今日の世界が直面している最も重要な問題を学ぶことに重点を置いている。世界、そして日本が直面する様々な問題を学ぶことを通して、日本、そして世界が直面する様々な問題を理解する。このような時事的な内容を英語で学ぶことにより、学習者は個人として、また社会の一員としての自分自身の役割を評価することになります。このコースは、学習者が自分の選択が及ぼす影響を批判的に評価し、理解し、私たちの故郷である地球が繁栄し、未来の世代のために住み続けられるようにするために、どのように責任ある方法で生活し、働くことができるかをサポートし、理解できるようにします。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	Life in the Global World		The course examines what has constituted globalization in the past, what it is for us today, and what globalization means for our lives economically, politically, culturally, and ecologically. The intention is to develop knowledge and understanding of the issues that a globalized economy means for our lives in the 21st century. By the end of the course, students will: - gain a clearer understanding of globalization and its economic, political, cultural and ecological effects; - expand knowledge and understandings of what it means to live as a global citizen このコースでは、過去においてグローバリゼーションとは何であったのか、現在の私たちにとってグローバリゼーションとは何であるのか、そしてグローバリゼーションが経済的、政治的、文化的、環境的に私たちの生活にとって何を意味するのかを考察します。 その目的は、グローバル化した経済が21世紀の私たちの生活にとって何を意味するかについての知識と理解を深めることです。 コース終了時には、受講生は以下のことを修得することを目指します。 - グローバリゼーションとその経済的、政治的、文化的、生態学的影響についてより明確に理解する。 - 地球市民として生きるとはどういうことかについての知識と理解を深める。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	情報メディアと倫理		近年のインターネットの普及によって、現代社会は様々な場面でデジタル化された情報を活用するユビキタス情報社会へと向かおうとしている。このようなユビキタス情報社会の基盤を形成していくためには、情報技術に関する知識だけでなく、情報倫理、道徳規律、法律の知識といったものが必要となる。この授業では、情報社会に適合できる人間育成を目的とし、情報化社会における倫理観、その中での行動規範、知的所有権、プライバシーの尊重といった考えを身に付けて貰うことを目的とする。 【授業と教員の研究内容との関連】 本講義の内容は総合情報基盤センターにおける「情報ネットワーク運営・管理」「情報サービス」に関する業務や研究成果、関連分野の基礎的事項が含まれている。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心の病と癒しのプロセス		うつ病や統合失調症、アディクション、不登校、発達障害、人間関係の問題などの心の病や心の問題について、共感的な理解を促すため、できる限り具体的に解説していく。各回、資料を用いる。個人が特定されないようデフォルメされた典型的な事例などを具体例として採り上げながら、心の病や問題に関する基本的な知識や、痛みを抱えた心が回復していくプロセスについて解説する。 心の病や問題に対し、学生各自の理解や心的距離感は異なることと思います。授業を通して、様々な心の病や問題に関心をもち、その痛みについて現実感をもってイメージができるようになり、加えて回復のプロセスについても基礎的な知識を獲得できるよう、開講します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心身の発達過程		（概要） メンタルヘルスに関連する心身の発達のプロセスについて、発達心理学および臨床心理学の視点から学ぶ。学士力番号１−(１)に相当。 生涯発達という昨今の視点から、心身の成長や変化のプロセスを各年齢区分で整理する。発達に関する正しい知識に基づいた理解の視座が獲得できる。乳幼児期から老年期の様々な発達理論や、心身の適応に関連するモデルを各年代ごとに理解することで、広く発達の概要が理解できる。職業人や家庭人としての今後を見据えた場合、これらは教育のみならず福祉や医療など支援を鑑みた際に有効である。基礎知識をもとに、社会人として必要な、子育て・障害・老い・喪失体験といった、各種の困難を受け止めるための臨床心理学・発達心理学における技を習得する。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	情報メディアコミュニケーション		この授業は、（1）メディア（伝達媒体）とは何かについて理解し、メディアを媒介にした情報伝達をコミュニケーションとして理解する。それを踏まえ（2）インターネットを中心としたメディア、（3）VRやMRなどのサイバースペース（電脳空間）の社会、（4）AIやIoTを含むデジタルトランスフォーメーションについて個人やグループで論考する。 履修者が講義を聴くだけでなく、調べて・考えて・議論し・評価し・自己省察（振り返り）をするという学習活動を重視した（皆さんが積極的に学習活動を行う必要がある）授業です。 履修者には、人に話をすること、人の話を聞いて・理解して・受け入れてたうえで、ディスカッションすることを求めます。	共同
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	Aspects of Modern Society		An examination of the changes that have happened over the past hundred years and how they have shaped our modern world and how we see ourselves and others. No text will be used in this lesson so class notes will be important. To show how the modern world has developed and to understand different ways of thinking among generations and cultures. Lessons includes: Introduction to modern society and historical background, Human rights, Gender roles and equality, LGBTQ+ rights and acceptance,Environmental awareness and nature conservation, Technological innovation, Mental health awareness, and more. 過去 100 年間に起こった変化と、それらが現代世界をどのように形作ったか、そして私たちが自分自身や他者をどのように見ているかを考察します。このレッスンではテキストは使用しないので、授業ノートが重要になります。 現代世界がどのように発展してきたかを示し、世代や文化による考え方の違いを理解します。 授業内容は以下の通り：現代社会の紹介と歴史的背景、人権、ジェンダーの役割と平等、LGBTQ+の権利と受容、環境意識と自然保護、技術革新、メンタルヘルスへの意識、ほか	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	プレゼンテーション・デザイン		（概要） プレゼンテーションとは、相手（聴衆）に情報を伝達し、相手の理解や行動を得るためのものである。我々は、実に様々な場面でプレゼンテーションを行っているが、本科目では主に教育や研究発表、そしてビジネスの場面を想定したプレゼンテーションについて学ぶ。これまでは相手と同じ空間で対面して行われることが多かったプレゼンテーションも、新型コロナウイスの感染拡大の影響により、オンラインで行う機会が増えるなど、その環境も大きく変化し、それに対応した方法を理解しておく必要がある。本科目では、現代社会に求められる対面やオンラインでのプレゼンテーションににについて学ぶ。 　本科目は対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）を組み合わせて実施する。また、PCを使った演習もあるため、PCとインターネット接続環境が必須である。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	現代教育学		本科目は全学部の学生対象とし，現代教育の現状と課題，並びに「教育」への自己の適性を見極める機会となる科目である。その中で国内における教職や教員養成のしくみについての基礎的な知識を身に付け，「カリキュラム・マネジメント」の観点から現代教育を分析する。講義に加え，実際に，本学で実施されている「教師へのとびら」に参画し，現職教員や大学生（学部・大学院）と懇談し，さまざまな視点に立って，教育機関と地域社会の連携を生かした現代教育の在り方について検討・提案を行う。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学A		（概要） 現代社会の制度として教育に焦点を当て、教育学における教育の研究課題を俯瞰すると共に、社会における教育の営みを多角的な視点から考え、教育をめぐる諸問題への関心を高める。人間形成と発達、現代社会と子ども、学校と教師、学校経営・管理、国家と人権、宗教と道徳、学校法制、社会変動と教育を主たるテーマとして、教育学者が教育をめぐる人の営みに対して、どのような視座から、何を課題として、いかなる研究を行ってきたのかを解説する。その上で、教育の機能について受講生と共に客観的に解題することをめざす。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学B		（概要） 現代社会の制度として教育に焦点を当て、教育をめぐる人の営みがどのような教育の仕組みを作り上げ、いかなる問題を生み出してきたのかを、社会学的な視点から考える。学力、入試・就職のような選抜、いじめなど社会病理を主たるテーマとして、教育の仕組みを作り上げる人の営みに関する社会学的な研究の系譜を整理しながら解説する。その上で、教育の機能について受講生と共に客観的に解題することをめざす。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学C		（概要） 授業では，現在の教育学において多用される”グループワーク”について，その技法と実践を通じて学びます。特に，グループワークなど能動的な学びを支援するために不可欠な”ファシリテーション”の技法と考え方を実践的に習得します。大学生活や就職活動，さらには社会人になってからも活用することができる「ファシリテーション」の考え方と知識・技能を習得後，学びの確認として，教育/人材育成を目的としたワークショップをデザインします。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	体育実技Ⅰ		体育実技Ⅰでは、大人数で行うスポーツ（ソフトボール、バレーボール、サッカー、バスケットボールなど）の中の2種目を学期中の前半と後半で実施します。今年度は前半にソフトボール、後半にバレーボールを行う予定です。スポーツ基本法の第2条第2項では「スポーツは、とりわけ心身の成長の過程にある青少年のスポーツが、体力を向上させ、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成に大きな影響を及ぼすもの」とされています。本授業ではスポーツ基本法の理念を尊重し、特に「公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成」への理解と可能なら実践につなげていきたいと考えています。本授業では試合時間を多く確保しますし、授業外の学習時間を確保いただく必要があります。また、本授業は教職の必修科目としての側面も有することから、学んだことを実社会で活かしていただきたいと思います。	共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	体育実技Ⅱ		本授業は、少人数で行うスポーツ（前半バドミントン、後半卓球）を題材に、楽しさを作り出すために必要な個人とチームの動き方の習得方法や楽しさを作り出すための環境整備のための視点について実際の実技経験を通して理解してもらう科目です。そのため、多くの時間を運動の時間に充てます。毎回の授業の前半では準備体操などの具体的な運動や動作の指示もしますが、後半はチーム毎に分かれ教員が提示するテーマの範囲内で学生同士が考えた練習と試合を行う予定です。授業の最終回後には授業内容を「振り返りシート」に整理してもらいます。「実技試験」の結果と「振り返りシート」の記載内容が評価対象になります。	共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在		主に新聞を媒体としたジャーナリズムの実際について理解を深めるとともに，その将来についても展望する。 講師は，佐賀新聞社員，報道の最前線にいる記者，紙面のレイアウトを担当する整理部記者をはじめとする編集部門だけでなく，広告,事業，販売のほか，ウェブ・携帯速報，テレビタ刊など新聞社のクロスメディア担当らキャップクラスと若手を中心に選び，それぞれ現場の雰囲気をスライド・紙面・実習等を用いて伝える予定である。 なお、講義は授業計画にも示すように、複数名の佐賀新聞社社員で担当するオムニバス形式の授業である。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	アジアコミュニティ論		本講義では、ワンアジア財団の寄付により、学内外・海外から14人の素晴らしい講師陣をお招きし、アジアを中心に社会経済、安全、文化等の多様な面で、アジアの「共生・協働」を模索します。現代の世界は、グローバル化が進む中、「地域の平和と繁栄」を理念とした地域共同体の形成を求めています。そのモデルとなっているのがEUです。本講義では、EU の動向を含めて、アジア各国の現状等を検討しながら、地域コミュニティとしての東アジア共同体構想について、その可能性と課題を議論します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	知的財産学		10年前ぐらいまでは、情報を受信することは簡単にできていたのですが　不特定多数への発信はまだ特定の人々に限られておりました。 しかし　現在　私たちは　インターネットを通じて　　さまざまな情報を一瞬にして世界中の不特定の人々に対し、個人の知的活動の成果を発信することが できるようになりました。 一方、個人の不注意が大変な事態をひきおこしかつ　後始末が個人の能力を超えてしまう時代になってきました。そこでこの講義では、知的財産のエキスパートであられる振透弁護士をお招きし，知的財産に関する法律をその発生原理から理解し、 実務の現場で役立てることを目的としてつくりました。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	環境科学Ⅰ		（概要） 我が国の環境保全の取組の概要を、″自然″・″社会″・″暮らし″ の３つの視点から講義する。 （オムニバス方式／全15回） （3 岡島俊哉／12回） ガイダンス、検定試験の説明。持続可能な社会に向けて、地球を知る　①地球の基礎知識　②いま地球で起きていること、（地球温暖化と脱炭素社会、エネルギー、生物多様性･自然共生社会、地球環境問題、持続可能な社会に向けたアプローチ）、各主体の役割･行動（各主体の役割･活動とパブリックセクター、企業の環境への取組み、個人の行動、NPO、各主体の連携） （138 市場正良／3回） 環境問題を知る（循環型社会、地域環境問題、化学物質、災害･放射性物質）	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	環境科学Ⅲ		（概要） 持続可能な社会の形成に向けた一つのテーマである「3R」および「気候変動」に関する理論、手法および取組事例など、将来の社会人として知っておくべき知識等の範囲を紹介する。 （オムニバス方式／全15回） （3 岡島俊哉／10回） ガイダンス、融合分野（持続可能な社会、公害と環境問題、生物多様性と自然共生）3R分野（ゴミ処理の歴史と概念、3Rとは、3Rの取組み、ごみ処理の現状、有害廃棄物など）、特別講義を担当する （138 市場正良／5回） 気候変動分野（気候変動対策の国際議論、地球温暖化のメカニズムと影響、温室効果ガス排出の実態など）を担当する	オムニバス

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	インストラクショナル・デザイン		（概要） 教育機関などで行われている授業設計を目的としたインストラクショナル・デザインを講義する。インストラクショナル・デザインを学ぶ上での基礎を学んだ後、ニーズ分析、タスク分析、学習目標分析、ICTの活用、メディア分析などについて学ぶ。講義は全ての回をオンデマンド型のオンライン授業で行う。 インストラクショナル・デザインの基本概念を理解する、学生が自分で自分の学生生活の設計や生涯設計ができるようになることを目指す。	共同
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	国際社会学		私たちがその中を生きているグローバリゼーションとはどのような現象なのだろうか？本講義では、「グローバリゼーション」という言葉の意味を検討し、その現状、成果、課題について議論する。「情報とグローバル化」では、情報伝達の加速・情報量の増大とリアリティの把握の可能性に関して、「貿易とグローバル化」では、市場の開拓の必要とその歴史的展開を、「格差とグローバル化」では、富の移動と平等・不平等につき検討する。さらに、「環境とグローバル化」では、地球の歴史及び今日の環境問題につき概観し「人とグローバル化」では、人の移動、人的資本に関する現状を紹介する。グローバリゼーションへの理解を深め、受講者が今後の人生に、その知見を活かしていけるようになることが本講義の目的である。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	現代日本の経済社会問題		本講義は現代日本の経済社会問題を解説し、経済学的背景も加味しながら、社会科学や社会問題に関する基本的リテラシーを養成しようとするものである。今年度はその中で、特に現代日本の経済政策について論じる。 　経済政策学は経済諸学の中でも歴史のある分野であるが、最近の社会情勢の急激な変化を織り込んだ対応、発展及び変革が求められる状況にある。 　特に2010年代以降の経済政策の展開は、従来の経済理論では解釈が困難な政策展開が行われることが多く、以後経済論壇も世論の経済政策議論も混乱したままである。 　しかしながら、実際には多くの問題は既存の経済学の基礎部分と照らし合わせて十分に解釈可能であることが多い。今年度の本講義では、最近の日本の経済政策を紹介し、経済学の視点からどう解釈できるかを議論する。さらにそのことを通じて受講者の社会理解を促進、併せて経済学の初歩的な理解も促そうとするものである。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	グローバル化と証券投資		（概要） 本特殊講義は各現場で活躍する野村證券グループ・野村資本市場研究所の講師陣により実施される資本市場と証券業務の実際についての講義です。 株式市場、債券市場、外国為替市場についての基礎知識、金融商品と生活設計のおけるその活用、これからの産業展望と企業評価の方法など、就職だけでなく、生きていくうえで必要な金融知識を学びます。 実際に業務に携わる方の講義を聴き、国際化が進展し変貌しつつある資本市場と証券業務の実際について、実社会の「生きた経済」を学びます。 金融の仕組みについて学び、経済社会についての理解を深めながら、生活設計にも役立てる知識をえることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	西洋近代社会思想史		（概要） 近代初頭のマキャベリから今日のリベラリズムに至る西洋の社会思想史につき、それぞれの思想が出現した時代と思想の文脈、思想家が直面していた問題を概観する。まず、講師がそれぞれの思想家の理論を紹介し、その今日における意義や問題点などにつき参加者で討論する。 私たちは今日、法の支配と市場経済を柱とする近代社会の枠組みの中に生きている。このような近代社会は15～16世紀以降のヨーロッパでそのシステムの原型が形作られ、今日に至る。近代社会の揺籃期から現在に至るまでのヨーロッパおよび北米の思想家による、法、道徳、経済を中心とした世界観を概観することで、今日私たちが生きる社会のあり方を認識し、今後のそのありかたを検討するための基盤を得ることを開講意図とする。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	多文化社会論		今日の多元的・多文化的な社会において、他者や異文化との共生の必要性につき議論が行われている。グローバリゼーションが進行する中、国境を越えた人の移動も多くなり、複数の文化によって構成される国においては、先住権や文化維持権をめぐる論争などもしばしば見受けられる。今日の多元社会や多文化社会においてはなにが問題視されており、他者や異文化と共生をするために、どのような課題が解決されなければならないのか。この講義では、主に現代政治理論の分野における多文化社会の理論や論争を紹介し、ヨーロッパの多文化社会をめぐる問題と共生に向けての制度やその他の取り組みを紹介する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	経営工学からみたマネジメント		経営工学の対象範囲は大変広く、関連する技術は私達の身の回りの様々な場面で用いられています。しかし、他の工学(例えば機械工学など)と異なり、経営工学では直接「モノ(ハード)」を取り扱いません。その代わり、経営をInput/Outputシステムとして捉えた時、システムの構成要素それぞれがスムーズに、全体最適で作用するような 「モノゴトの間にある仕組み(ソフト)」を方法論（メソドロジー）として取り扱います。仕組みはシステムの内部に隠れてしまいますので、私達の目には映りづらく縁の下の力持ち的な学問分野であり、ある意味でインタンジブルな工学とも言えます。 　この授業では経営工学のエッセンスを身近な例を取り上げながらわかりやすく解説していきます。講義が主ですが、理解を助けるために簡単な演習も交えながら進めていきます。	

教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	金融リテラシーと生命保険		本講義は一般社団法人生命保険協会、佐賀財務事務所、日本銀行佐賀事務所により提供されるもので、金融庁が公表している「最低限身に付けるべき金融リテラシー（知識・判断）」４分野１５項目をカバーする講義である。はじめに「金融経済の基礎知識」を学び現状を理解した上で、人生設計における「家計管理と資金計画（資産形成）等」と「リスク管理（生命保険）」について、複数の実務家（全て現役の実務家を予定）により具体的かつ多面的に講じられる予定である。 とりわけ、公的保障（社会保障制度）の内容について学習し、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している諸課題の理解を深めた上で、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めて行く。また、講座の後半では、成年年齢引き下げの中、様々な金融トラブルが起こっているが、その現状と防止策についても学習する。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		海外交流実習		①本学が交流協定を締結している大学等を訪問し、学生との交流、授業見学、自主課題調査、現地視察、海外で活躍する日本人との交流等を行います。 （実習プログラム） 韓国　大邱大学校 オーストラリア　ラトローブ大学 インドネシア・スラバヤ工科大学 台湾・東華大学 米国・パシフィック大学 スペイン・アルメリア大学 ②佐賀大学副専攻プログラム欧米の言語文化専攻一独語コースの選択必修科目であるこの授業では「ドイツの言語と文化IとII」（基本教養科目）、「ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化I-IV」（インターフェース科目）を通してドイツ語の語学力を伸ばすと同時にドイツ語圏の教会や協会関連施設で歴史・文化について学ぶ機会を提供している。この授業の授業にはつぎの2つの重点がある。 １）ドイツ語での会話。２）キリスト教に関する学び。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		キャリアデザイン		（概要） 授業を通して、キャリアデザインについての基本的な知識を習得し、学生一人ひとりのキャリアオーナーシップの獲得を目指す。 授業では、多様なキャリアのゲスト（佐賀大学卒業生をはじめ多様な方々）を招聘し、異なる職種におけるキャリア形成と、実践的な能力を身に付けるための学修の計画や行動のモデルを示す。この授業を通じて、自分自身で納得のいくキャリアをデザインしていくことができる人材となることを期待する。 キャリアや就職活動に関する様々な情報があふれる現代社会において、情報に惑わされることなく、自分自身の価値観やビジョンを確立し、生涯にわたりキャリアをデザインしていける力を身につける。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		グループワークの技法と実践		授業では，ワークショップを通して，グループでの話し合いや会議等を進行する際に必要なファシリテーションの技法と考え方を実践的に習得します。また，同時に人材育成を目的としたワークショップを自らデザインします。 （ワークショップとは，参加者が持つ既有知を共有しながら新たな知を想像する場やその手法のことです。そのため，参加者の主体性が非常に重要な要素となります。） 大学生活や就職活動，さらには社会人になってからも活用することができる「ファシリテーション」の考え方と知識・技能を習得後，学びの確認として，人材育成を目的としたワークショップをデザインします。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		チャレンジ・インターンシップA		（概要） 本学学生に、基礎的なデータサイエンス等に関する企業実務等を経験させることにより，将来の職業選択に向けての準備や新たな学習意欲の喚起を図ることを目的とする。 企業と協力し，社会への興味関心を喚起し、ビジネス課題の整理と解決力と基礎力を身に付ける。 受け入れ企業・日程が決まり次第、情報を更新する。 受け入れ企業例：一般社団法人地域デザイン総合研究所 各種ビッグデータ、佐賀市中心市街地に設置するIoTセンサーで取得した環境データ、人流データ、オープンデータ等を使い、佐賀市中心市街地を活性化するためのデータ分析を行う。 データ分析結果は、定期的にレポートにまとめ、街なかの事業者等にフィードバックをする。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		チャレンジ・インターンシップB		（概要） 佐賀大学内に本社をおくIT企業において，社会人基礎力とIT業界の業務内容を理解することを目的とした研修を行う。実際には，企画立案，営業，開発等の一連の業務を座学にて説明を受けたのち，チームごとに分かれて，IoT，AI，ICT等を用いたサービス開発及びプログラミング，調査事業，ビジネスモデル構築といった業務を経験する。 IT企業の実務を経験することによって，社会人基礎力，アントレプレーシップ，知財知識の重要性を理解できる。また，異業種間の協業の重要性と効果を理解でき，一領域にとらわれずに，様々な価値観を繋げるためのコミュニケーション力を習得できるようになることを目指す。	

教養教育科目	基本教養科目	総合科目	ライフデザインとセルフ・リーダーシップ		（概要） ライフプラン、生きる目的や夢の実現、仕事、恋愛、家族、友情、趣味といった、人間にとって大きなテーマといえるものの重要性を講義形式（視聴覚教材等含む）で学んだ上で、ディスカッションを行い、ワークで自己の考え方を明確にし、ライフプランを構築する。ライフマネジメントを行なうためのセルフ・リーダーシップ（セルフ・コーチング）の手法を修得する。 学生が、自らの人生観、生きる目的や夢の実現、家庭と仕事の両立、恋愛と友情等の重要性を知ることにより、自分の生き様を確立し、その生き様を全うするために学生時代の学びや生活が如何に大切かを理解することを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	Online Immersion Program		This online immersion program consists of three components: 1. Pre-program workshiops: these will be held both on the Honjo campus and on Zoom. The workshops will help students tackle for the unique challenges of participating actively and overcoming barriers to communciation related to both language and the online environment. 2. Online immersion program: this will be conducted by Slippery Rock University. Program details are available in advance by request. 3. Post-program workshop: students provide a final assessment of what they learned. このオンライン イマージョン プログラムは 3 つのコンポーネントで構成されています。 1. 事前ワークショップ：本庄キャンパスとZoomの両方で開催します。このワークショップは、学生が積極的に参加し、言語とオンライン環境の両方に関連するコミュニケーションの障壁を克服するという独特の課題に取り組むのに役立ちます。 2. オンライン イマージョン プログラム: これはスリッパリー ロック大学によって実施されます。プログラムの詳細については、リクエストに応じて事前にご確認いただけます。 3. プログラム後のワークショップ: 学生は学んだことの最終評価を行います。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	Overseas Practicum		Study abroad preparation program To prepare students for a 10 day trip to Slippery Rock University. Limited to 15 students who have met the requirements of interview and placement. This program allows participants to directly experience university classes. It includes a short-term language training of about 10 days, along with a rich academic content unique to partner schools. At the end of the program, a certificate of completion will be awarded. 留学支援プログラム スリッパリーロック大学への 10 日間の留学に備える。 面接と選抜の条件を満たした15名限定です。 実際に大学の授業を直に体験するプログラムです。約10日間という短期間での語学研修を始め、豊富な学術的内容を含むプログラムは、提携校ならではのものです。プログラムの最後に修了証書が授与されます。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	データサイエンス Basic Ⅰ		（概要） 本講義では、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事などの場で利活用できる基礎的素養を身に付け，これらを問題解決や他者との円滑なコミュニケーション等に正しく活用できる人材を育成することを目的として，授業計画に記した内容について学ぶ。 ビッグデータという言葉に象徴されるように，ビジネス，医療，教育，農業，工業など様々な分野で大量かつ多様なデータが得られるようになってきた。そのため，このデータを新しい資源ととらえ，データに基づいて様々な問題を解決していく能力，「データサイエンス力」を備えた人材があらゆる分野で求められている。ぜひ本講義を通して，文系理系を問わず、データサイエンスに興味をもってもらいたい。なお，本講義は，高大連携活動の一環として高校生も受講できるように開講する。	共同
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	データサイエンス Basic Ⅱ		（概要） データを読み解くために必要な基本的な統計知識と，データを活用するために必要な基本的な統計手法について解説し，演習課題を通してスキルの定着を図る。 現在，ビッグデータという言葉に象徴されるように，ビジネス，医療，教育，農業，工業など様々な分野で大量かつ多様なデータが得られるようになってきた。そのため，このデータを新しい資源ととらえ，データに基づいて様々な問題を解決していく能力，「データサイエンス力」を備えた人材があらゆる分野で求められている。そこで本講義では，データ活用には欠かせない，基本的な統計手法について学ぶ。なお，本講義は，高大連携活動の一環として高校生も受講できるように開講する。なお，数学Aの『場合の数と確率』及び数学B『統計的な推測』を学習していることが望ましい。	共同

教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	日本事情－自然科学と技術の分野		（概要） 本講義は、外国人留学生を対象に、日本語をもって行います。講義では、主に新聞や雑誌などの記事を用いて、日本に関係する自然科学と技術について考えます。講義における解説とともに、受講生に発言や討議を求めます。 本講義は、外国人留学生に日本に関連する自然科学や技術についての知識を身につけさせ、自然科学と技術に関する幅広い知識を習得するとともに、科学的素養を基に合理的および論理的に判断する力を養います。日本語による文書と会話を通じて、自然科学と技術に関連するトピックについて意思疎通を行う能力を養成します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	日本事情－文化の分野		（概要） この講義は、外国人留学生が日本の歴史と文化を学ぶための授業です。 約2,000年前からの日本の政治や文化の流れを中心とした講義を行います。特に、武士による政治が行われた時代を重点的に取りあげます。 授業は日本語で進めます。日本史の講義なので漢字を多く使います。したがって、一定の日本語の読解力が必要になります。 履修する人は、語学の勉強にも励んでおいてください。 留学先での異文化を学ぶことで、自分の母国の歴史と文化の特徴を、再認識するきっかけにしてもらう。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	日本事情－現代社会		（概要） 日本の教育と社会の関係性に焦点を当て、人間形成と発達、現代社会と子ども、学校と教師、学校経営・管理、国家と人権、宗教と道徳、学校法制、社会変動と教育などを主たるテーマとして、日本の社会事情を解説する。その上で、外国人留学生が個々にもつ理解を日本の文脈において相対化できるよう、受講生間で教育と社会の関係性についてディスカッションする。 現代社会において大部分が経験する制度の１つである教育に焦点を当て、教育の営みを社会との関係性に照らして多角的な視点から考え、日本社会への理解を深める。	隔年
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境Ａ－Ⅰ		近年の国際的な緊急課題の一つであるエネルギーと環境問題を取り上げ、最新の現状と展望とともに、その本質および考え方について教授する。また、佐賀大学で行われているエネルギーと環境に関する最先端の研究内容について詳細に概説する。特に、エネルギーの歴史と課題、自然エネルギーの開発の現状、資源リサイクルと社会問題などについて解説する。 （224 オムニバス方式／全15回） （今井康孝／5回） 温暖化ガス排出規制（パリ協定、欧州の取り組み、国内の取り組み）、温暖化予測とモデル検証、再生可能エネルギー転換とその問題についての講義 （158 池上康之／5回） エネルギー問題の概説、海洋温度差発電開発（歴史、複合利用）、再生可能エネルギー開発と地域振興、エネルギー問題の将来 （346 鶴若菜／5回） 自然エネルギー概説、海洋発電概説、波力・風力・潮流発電、その他海洋開発、海洋エネルギーの有効利用と課題	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境Ａ－Ⅱ		機械設計および機械加工は，自動車を代表とするいわゆる“機械”を生みだす基盤技術となる．本科目では，機械設計・機械加工の基本理論と緒現象について詳述するとともに，近年の環境問題への取組み，技術動向について説明する．本講義はオムニバス形式となり，各教員の専門分野およびその周辺分野にに関するを内容を取り扱う．授業を通じて，機械設計・加工かかわる技術や機器についての理解を深め，設計生産技術と環境の関わりについての知識を習得するとともに，各教員が与えた課題について調査・検討を行い，小論文・レポートとしてまとめ提出する． （オムニバス方式／全15回） （165 長谷川裕之／5回） 授業概要説明、機構学の基礎、環境と機構学 （343 大島史洋／5回） 歯車設計・歯切り加工の基礎、環境と歯車設計 （357 馬渡俊文／5回） トライボロジー、環境とトライボロジー	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境Ⅲ		（概要） 本講義においては，医工学に関連した流体の基礎と流体機器への応用，流体機械や自然エネルギーを利用した機器，数値シミュレーションの工学分野での応用，蒸気タービン，翼周り，冷凍サイクルのエジェクターなどで生ずる圧縮性を伴う流動場や関連した流体現象について説明する． （オムニバス形式／全15回） （307 橋本時忠／5回）医工学における流体機器の基礎と応用 （335 住隆博／5会）数値シミュレーションの基礎と応用 （321 塩見憲正／5回）流れのふしぎに基づく流体工学の基礎と応用 --- （概要） 本講義では，金属を中心とした機械材料の基礎について概説するとともに，その関連技術および環境問題との関連について学習する． （オムニバス形式／全15回） （157 只野裕一／5回）機械材料と環境の関わり、環境問題を考慮した材料評価 （252 森田繁樹／5回）機械材料の構造と力学特性 （181 武富紳也／5回）機械材料の環境影響評価	オムニバス方式・クラスを選択して履修

教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境Ⅳ		熱工学の基礎，伝熱とエネルギー変換，エネルギー利用と様々なエネルギー機器，エネルギー環境問題とその対策技術について講義する． 佐賀県および九州におけるエネルギー事情および新エネルギーへの取り組みについても扱う． （オムニバス形式／全15回） （495 石田賢治／7回）熱工学の基礎、エネルギー・環境問題とその対策技術 （366 有馬博史／4回）エネルギーの利用と様々なエネルギー機器 （322 仮屋圭史／4回）伝熱とエネルギー変換 --- （概要） Arduinoに代表されるマイクロコントローラを用いて，我々をとりまく環境情報の一部を自動的に取得し，PCと通信し，判断し，動作をする簡単なシステムを構築する． （オムニバス形式／全15回） （487 寺本顕武／12回）マイクロコントローラ、電子回路初歩、Arduinoプログラミング概要など （211 MD.T.ISLAM KHAN／3回）Arduinoスケッチ	オムニバス・クラスを選択して履修
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	エレクトロニクスと環境Ａ－Ⅰ		電波と電波を用いたアプリケーションを理解する上で必要な基礎知識（波動、電波伝搬、電気回路・電子回路など）、について講義し、電波の応用を考える上での基礎を養う。8週目までは基礎知識（波動、電波伝搬、電気回路・電子回路）、レーダの原理、各種レーダについて説明する。10週目は佐賀県出身の技術者を紹介する。9週目,11週目以降は、現代社会における電波の応用について調査し、調査内容についてプレゼンテーションを行うことにより電波の社会に対する役割を理解し、よりよい社会の実現を考えることができるようにする。	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	エレクトロニクスと環境Ａ－Ⅱ		電磁工学の基礎について概説するとともに，その関連技術および環境問題との関連について，講義および調査を通じて学習し，電磁工学と環境とのかかわりについて理解させる．環境・資源・エネルギー問題の解決に資する電磁工学の歴史と最近の技術動向について理解を深める． 6回までは電磁工学の基礎、電磁工学と環境の関わりについての講義や、佐賀県における電磁工学の課題及び関連企業の取り組みについて紹介する．後半は、電磁工学に関する昔評問題や対策技術について調査し、発表を行う．	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	エレクトロニクスと環境Ⅲ		プラズマエレクトロニクスの基礎及びその関連技術および環境問題との関連について解説する。班分けを行い、班毎にプラズマエレクトロニクスに関する環境問題やその対策技術に関するグループ調査を行い，プレゼンテーションを実施させ、プラズマエレクトロニクスと環境との関わりについて理解させる.環境・資源・エネルギー問題の解決に資するプラズマエレクトロニクスの歴史やその知識、最近の技術動向について理解を深める．	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	エレクトロニクスと環境Ⅳ		半導体産業は裾野が広く，電気電子工学のみならず，理工学部のすべての分野，さらには経済学等を含めた学部の学問分野にも関係する。本講義では，半導体とは何か，半導体の基礎，応用，半導体産業の動向について概説する。また，オプトエレクトロニクスに関して，太陽電池、発光ダイオードなど各種光デバイスの開発の歴史，材料，動作原理などについても概説する。これらと環境・エネルギー問題との関連についても紹介する。インターフェース科目として，自ら学ぶ専門分野や知識が社会とどのような接点を持つのか把握することも重要であるので，半導体やオプトエレクトロニクスに関連した調査学習を行い，プレゼンにまとめる。これらを通して，電気電子工学（エレクトロニクス）と環境および生活について理解を深める。地域との関わりも学ぶ。	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀の環境Ａ－Ⅰ		環境に関連した様々な問題を身の回りの話題から考え、科学技術、地域、経済、政治など社会全体の変化と対応させる。メディアを通して得られる環境に関する知識は断片的であり、時には誤っている場合もあるので、これらを科学的考察に基づいて精査し、相互に関連づける。環境問題についての“正しい”知識を得るための方法を学ぶ。これまでのライフスタイルを「自然と共生する」ことに主眼をおいて考え直す契機とする。 10回（外部講師5名、内部講師のべ5名を予定）のオムニバス講義と体験学習（ゴミ体験隊、自然観察会）、現地見学会、グループ討論で構成される。講義内容、講師は変更する可能性あり。 （オムニバス方式／16回） （367 兒玉宏樹／14回）フォーラム概略説明、環境問題総論、グループ討論会、環境学習会 （326 郡山益実／1回）沿岸域の環境保全 （327 原口智和／1回）再生可能エネルギーは「エコ」？	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀の環境Ａ－Ⅱ		(A)市民と共に身近な環境問題について調査研究し、佐賀市の環境施策や佐賀大学の環境研究と関連づける。 (B)一線で活躍する環境活動グループの活動に参加し、その実情を体験し、その意義を知る。 身近な環境問題について自ら解決のために活動し，その中から問題解決のための様々な手法を学ぶ。学生同士や社会人など意見や都合の異なる人間同士の意見を調整、集約し議論や交渉、協働作業を通じ、知識や経験を共有し、活動を行なう社会人としての能力を培う。	共同

教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀の環境Ⅲ		佐賀の環境Ⅲ（有明海学Ⅰ） 佐賀大学がある佐賀市は、広大な干潟があり、独特の生き物が生息する有明海に面しています。この海の自然とそこに生きる人の暮らし、そして今起きている環境問題について概観します。 原則として対面で講義しますが、第1回はワークショップを含む形式で実施し、第9-10回は実際に干潟を訪れてフィールドワークを行います。フィールドワークは土曜日あるいは日曜日に1日かけて実施します。 （オムニバス方式／全15回） （331 速水祐一／7回）グリーンマップ作り、海水の物性、干潟とエスチュアリー、波と潮汐、内湾の流れほか （326 郡山益実／5回）有明海底泥の役割、干潟の環境、ガタ土の環境、干潟現地見学 （302 阿南光政／1回）集水域がもたらす有明海への影響 （362 木村圭／2回）生物の代謝、有明海の生物生産構造、有明海の水産業	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	佐賀の環境Ⅳ		佐賀の環境Ⅳ（有明海学Ⅱ） 有明海を対象に、沿岸海域の物理学，生物学等の基礎について講義した後，沿岸海域の環境問題や人と海のかかわりについて講義します．　実際の有明海の調査データ等を扱ったアクティブラーニングを含みます。 （オムニバス方式／全15回） （331 速水祐一／6回）有明海の地形と地史、海の構造と貧酸素、有明海の海洋調査の実際、人による有明海の利用、有明海の干拓と諫早干拓問題、沿岸域の持続的利用に向けた取り組み （326 郡山益実／3回）干潟の物質環境、野鳥や陸生植物、干潟調査と研究例紹介 （302 阿南光政／1回） 泥と濁り （362 木村圭／2回） 植物プランクトンと赤潮、海藻とノリ養殖 （580 折田亮／1回） 有明海の動物プランクトン等 （274 木村圭・388 折田亮／2回）（共同） 有明海の生物とその問題	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流１－Ⅰ		現代において、異文化の人間が交わることは、他の地域と比べて閉鎖的とも言われる日本国内ですら、もはや常態化していると言っていい。必然的な異文化交流の行き着く先は多文化共生であり、日本国内においても多文化共生の重要性はますます高まりつつある。本講義では、平和学及び紛争解決学の理論に則って、平和的な異文化交流及び多文化共生の形を追求すると同時に、講師の現場体験も踏まえつつ多文化共生の事例をわかりやすく紐解く。さらには、その発展系としての世界平和の実現の可能性と困難性について、模擬国際会議で理解を深める。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流１－Ⅱ		協働、会話・交流を通じて異文化交流を体験する。外国人の留学生に長めの自己紹介（３，4分間、英語で）をしたり、異文化交流に関するトピックで外国人と協働して口頭発表（英語で）をしたり、海外での学位取得を体験した教師の講演を聞いたり、日本の文化・事情（有田焼）を外国人に英語で紹介・説明したり、外国人と一緒に学外研修に行ったりする。 異文化・事情に育った海外の人との交流を通じて、彼らに、自分自身（および一般の日本人）の経験してきた日本の文化や事情を説明し、彼らから彼ら自身（およびさまざまな国の外国人）の経験してきた海外の文化・事情を聞き、理解する。グループ口頭発表はこれを基にして協働して行う。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流Ⅲ		この授業では、日常生活で遭遇する倫理的問題（死生観、様々なライフスタイル、学校教育、ソーシャルメディアの使い方、動物と人間の関係など）について異文化交流の観点から考察します。この授業では、文化的背景が違う参加者との対話を通して、現代社会が抱える様々な倫理的問題について考察する機会を提供します。この授業の第一の目的は、留学生と日本の学生が対話や協同作業を通して交流することにあります。文化や倫理に関する多様なテーマを取り上げる予定ですが、日本社会や日本文化の専門的知識を系統立て講義する授業ではありません。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流Ⅳ		「異文化交流Ⅳ」はインターフェイスの最後の科目です。本授業では、インターフェイスの総仕上げとして、多文化環境下において文化や言語の異なる他者と協働するために必要な知識、態度、スキルを養います。国内学生と交換留学生による多文化チームをつくり、世界共通の課題について多様な背景を持つ仲間と議論します。本授業では、グループメンバーとともにテーマに関連する議論やプロジェクトワークを行います。データを分析し、ローカルとグローバルの両面から検証し、解決方法を提示します。プロジェクトの成果物はプレゼンテーションとレポートでアウトプットします。	

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication１－Ⅰ		As one of the Interface subjects with the theme of Culture and Coexistence in General Education, this is designed for the English Course, fully conducted in English. The class provides hands-on practices in authentic contexts for students to find values in understanding of other cultures as well as their own and to develop intercultural communicative competence to prepare students to become a global citizen. The class activities require student’s high engagement such as discussions, group works, presentations, and written communication. The topics include intercultural communication, communication strategies in English, and connecting the local community to the world and this study to their individual future goals. The end project will reflect on what students have learned throughout the course. Students will have study-abroad like experiences throughout the class as it will be taught by Instructor from a U.S. partner university in a typical method used in U.S. higher education. このクラスは、英語コース向けに設定されており、完全英語で行われます。このクラスでは、学生が自国の文化だけでなく他文化を理解する価値観を見つけ、学生が地球市民になる準備をするための異文化コミュニケーション能力を開発するための、本物の文脈での実践的な練習を提供します。クラス活動では、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、書面によるコミュニケーションなど、学生の高い関与が求められます。トピックには、異文化コミュニケーション、英語でのコミュニケーション戦略、地元コミュニティと世界、そしてこの研究を各自の将来の目標に結び付けることが含まれます。最終プロジェクトでは、学生がコース全体で学んだことを振り返ります。米国提携大学の講師が米国の高等教育で使用される典型的な方法で授業を行うため、学生は授業全体を通して留学のような体験をすることができます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication１－Ⅱ		本授業は佐賀県にまつわる土地、物、文化のどれかを国内外に発信する成果物を英語で作ります。その過程でアカデミック英語と異文化コミュニケーションについて学ぶことを目的とします。 佐賀に関する紹介プレゼンテーションを英語で作成することで、次の事項に係る英語力を身に付けます。１）調査、２）交渉、３）発信。調査は、主に国外のデータを調べます。交渉は、国内外の企業や機関へのメール送信を行います。発信は、英語での動画制作が主たる活動です。これらに加えて、授業が終わった後も自律的に学習を続けられるように、SNSを使った英語学習方法についても指導していきます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication Ⅲ		This class will focus on practical experiences with intercultural communication and understanding via virtual exchange activities. Students will discuss their perception of other cultures, discuss topics with people from other cultures, research other cultures and present information about other cultures. This class will be conducted entirely in English. This class will help students develop intercultural communication skills in order to prepare them for participation in global society. Sufficient English language ability - Class is intended for students with an intermediate understanding of English このクラスでは、バーチャルな交流活動を通して、異文化コミュニケーションと異文化理解の実践的な体験に焦点を当てます。異文化に対する認識、異文化の人々とのディスカッション、異文化リサーチ、異文化情報のプレゼンテーションなどを行います。この授業はすべて英語で行われます。 グローバル社会に参加するための異文化コミュニケーション能力を身につけることを意図とします。 十分な英語力 - 中級程度の英語力を有する学生を対象とします。	

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication Ⅳ		This course introduces students to the principles of intercultural communication. It covers themes such as self-introductions, hospitality, social norms, relationships, and communication styles. Students will enhance their English skills through discussions and activities while developing cultural awareness and sensitivity in everyday interactions. The course aims to prepare students to navigate intercultural communication effectively by examining cultural differences in daily life. Students will gain insights into cross-cultural interactions, promoting adaptability, respect, and open-mindedness in a globalized world. このコースは、学生に異文化コミュニケーションの原則を紹介します。自己紹介、ホスピタリティ、社会的規範、関係性、コミュニケーションスタイルなどのテーマを扱います。学生はディスカッションや活動を通じて英語スキルを向上させながら、日常のやり取りにおける文化的な意識と感受性を育成します。 このコースは、日常生活における文化の違いを検討することで、学生が異文化コミュニケーションを効果的に行えるように準備することを目的としています。学生は異文化間の交流についての洞察を得ることで、グローバル化した世界において適応力、尊重、そして柔軟な思考を促進します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	肥前陶磁器産業体験Ａ－Ⅰ		本授業では、有田を中心に肥前地区の古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、外部からの視点ではなく、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から学ぶ。講義や演習をつうじて陶器や磁器についての知識理解と産業全体の成り立ちについて学ぶ。後期は、実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなうのでその基礎的知識を身につける。 １．日本陶磁器の産地と流れ ２．肥前陶磁器の流れ ３．窯と焼成 ４．LP,ブタンガス窯の構造 ５．ガス窯の焼成 ６．有田の産業構造 ７．有田の産業構造2 ８．肥前陶磁器の高台削り ９．「焼き物の表情」他3篇 10．「急須の後引き」 11．後引きのない急須の作図 12．陶磁器製造における欠点及び、対処法 13．思いを託した土の形－鈴木治 14．制作の主題について 15．制作に主題について2 以上は、学生の状況で並び、内容によって変化する。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	肥前陶磁器産業体験Ａ－Ⅱ		本授業では、有田の窯元での陶磁器産業体験をつうじて、古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、外部からの視点ではなく、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から、職人の仕事を支えるための作業や雑用を行う中で、自ら感じ取る方法を体験的に学ぶ。（場所：有田キャンパス）。実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなう（一窯元に一人が原則）。窯元の通常業務に支障をきたさない範囲でインターンシップを行い労働経験を積むことによって、佐賀の主要産業の一つである陶磁産業のことを深く理解する。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	肥前陶磁器産業体験Ⅲ		本授業は前期「肥前陶磁器産業体験Ⅲ」後期「肥前陶磁器産業体験Ⅳ」通して行う。 肥前地区の窯業事業者との協働を通して、自己の陶磁器制作を行い、やきものの専門性と表現領域を深める。また肥前地区の窯業の実態を学び、技術や表現の面において思考し、自己の制作に繋げることを目的とする。 プロジェクトの成果物として最終的に展示発表を行う。 また、肥前陶磁器産業への理解や窯業事業者との協働を通して、対外的な対応や関係構築や、自主的な制作を行うことで、制作や展示において全体的なスケジュールが把握・管理できるようになることを目指す。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	肥前陶磁器産業体験Ⅳ		本授業は前期「肥前陶磁器産業体験Ⅲ」後期「肥前陶磁器産業体験Ⅳ」通して行う。 肥前地区の窯業事業者との協働を通して、自己の陶磁器制作を行い、やきものの専門性と表現領域を深める。また肥前地区の窯業の実態を学び、技術や表現の面において思考し、自己の制作に繋げることを目的とする。 プロジェクトの成果物として最終的に展示発表を行う。 また、肥前陶磁器産業への理解や窯業事業者との協働を通して、対外的な対応や関係構築や、自主的な制作を行うことで、制作や展示において全体的なスケジュールが把握・管理できるようになることを目指す。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅰ		基本教養科目「ドイツの言語と文化」でやり残していた初級文法を学びつつ、ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいきます。 ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。 さらに、実際にドイツ語を身に付けるために対面授業では発音練習と聞き取り練習に力を入れます。 また、キリスト教の基礎知識についても学びます。	

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅱ		基本教養科目「ドイツの言語と文化」でやり残していた初級文法を学びつつ、ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいきます。 ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。 さらに、実際にドイツ語を身に付けるために対面授業では発音練習と聞き取り練習に力を入れます。 また、キリスト教の基礎知識についても学びます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅲ		◎ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいきます。 ◎佐賀県内の市町村と姉妹都市の関係にある都市を取り上げ、佐賀とドイツの国際交流の一端を学びます。（ピアノがつないだ国際交流 鳥栖市とツァイツ） ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の最新情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。 さらに、実際にドイツ語を身につけるために対面授業では発音・聞き取り練習に力を入れます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化Ⅳ		◎ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいきます。 ◎佐賀県内の市町村と姉妹都市の関係にある都市を取り上げ、佐賀とドイツの国際交流の一端を学びます。（磁器がつないだ国際交流 有田町とマイセン） ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の最新情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。 さらに、実際にドイツ語を身につけるために対面授業では発音・聞き取り練習に力を入れます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	芸術と社会Ａ－Ⅰ		絵画や彫刻の歴史から現代美術やデザインの歴史までを幅広く講義し、芸術への理解を深めます。 あわせて芸術理論の基礎を学ぶことで、芸術作品をより深く鑑賞できるような知識を身につけます。 （オムニバス方式／全15回） （303 阿部浩之／4回）現代のデジタル表現、現代のアートとデザイン （528 德安和博／4回）身近にある彫刻（銅像）の制作過程、拡張を続ける彫刻の定義、西洋の彫刻、東洋の彫刻 （173 土屋貴哉／3回）構造の操作 （341 世利幸代／4回）デザイン・建築・人間社会の形成史（古代、中世～近世、近代、モダニズム）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	芸術と社会Ａ－Ⅱ		芸術の鑑賞・体験について3人の教員がそれぞれのテーマに基づき講義・見学等を担当。 （必要に応じて現地体験、美術館見学、ゲスト講義等を行う） 佐賀の伝統的な工芸や芸能について施設見学や体験等を通して理解を深める。現代アーティストと社会の関わりについて関係者の話を聞きながら理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （116 花田伸一／6回）近代美術館見学2回 （144 石井美恵／4回）佐賀の無形文化財（※令和7年度は花田が代理開講） （108 HOUGHTON STEPHANIE ANN／5回）異文化コミュニケーション、芸術と社会について講義を実践	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	芸術と社会Ⅲ		（概要） 芸術と社会の繋がりをめぐる講義および有田地域の現地見学を行う。 各自の専門分野と芸術の繋がりを考える。 （オムニバス方式／全15回） （116 花田伸一／10回）美・美術・美術館、美の諸相についての講義、各自の専門分野と美についての学生発表 （175 湯之原淳／5回）有田見学 --- （概要） 芸術地域デザイン学部の教員によって行われるアクティブラーニング。日本画、西洋画、木工の３分野における作品制作を各５回の授業で経験する。 （オムニバス方式／全15回） （325 近藤恵介／5回）絵画を学ぶ、日本画を学ぶ （109 井川　健／5回）西洋画を学ぶ （359 富田俊明／5回）染色を学ぶ	オムニバス方式、クラスを選択して履修
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	芸術と社会Ⅳ		音楽、人権、歴史、建築・都市などのさまざまな領域と芸術の関係性を学ぶことで，これまでに獲得した視野をさらに広げることを目指します。音楽、人権、歴史、建築・都市などの具体的テーマから「芸術と社会」について考えます。 （オムニバス方式／全15回） （189 有馬隆文／5回）建築と都市：近代の都市デザイン、戦後の都市デザイン、戦後からバブル期までの都市デザイン、現代の都市デザイン （349 藤井康隆／3回）歴史：中国南京の文化遺産と都市、中国六朝芸術と東アジア、中国江南の風景とミュージアム （7 吉岡剛彦／3回）人権：性表現とその限界（芸術家猥褻か、ポルノ規制論、限界事例から） （11 今井治人／4回）音楽：レナード・バーンスタインはどこから来たのか、グレン・グールドでバッハを聞く、社会が求めた音楽カルチャーの変容、社会と音楽	オムニバス

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化１－Ⅰ		－「鎖国」時代の異文化接触－ 「江戸時代は鎖国であった」という先入観から脱却し、異文化接触の観点から、日本の近世史をとらえなおします。 ①日本の近世における異文化接触について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容についてコメント・質問を提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化１－Ⅱ		－映画で学ぶ幕末維新－ 幕末から明治維新までの歴史を、映画やテレビドラマの映像を参考にしながら、分かりやすく解説する。 年代を覚えるだけの歴史教育ではなくて、時代を輝くように生きた偉人たちの“無私”の人間像や、さまざまな時代状況に適合していく各藩の生き方を伝える。 本授業では、佐賀藩が参加したパリ万博、悲劇の藩・会津藩のたどった道、薩摩藩はなぜ雄藩になりえたか？、長州藩の関ヶ原以来の恨みなどのテーマで講義を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化Ⅲ		－佐賀「賢」人の足跡－ 佐賀は多くの賢人を輩出しました。佐賀「賢」人の足跡をたどり、その生きざまについて学びます。 ①地域（佐賀）の賢人について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容について質問やコメントを提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化Ⅳ		－地域の文化遺産－ 各自、文献調査とフィールドワークをとおして、地域の文化遺産の歴史背景と意義について発表し、議論を行います。 ①地域（佐賀県）の文化遺産について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容についてコメント・質問を提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	英語コミュニケーションＡ－Ⅰ		This course is focused on studying some of the most important issues facing the world today. Through studying a variety of issues that face the world, and Japan. By studying such topical content in English, students will evaluate their own role as individuals and as members of society. The course will support and enable learners to critically evaluate and understand the impact of their choices and how they can live and work in responsible ways to ensure that our home, planet earth, can thrive and remain habitable for future generations. このコースは、今日世界が直面している最も重要な問題のいくつかを学ぶことに焦点を当てています。世界と日本が直面するさまざまな問題を学びます。このような時事的な内容を英語で学ぶことで、学生は個人として、また社会の一員としての自分の役割を評価します。このコースは、学習者が自分の選択の影響と、私たちの家である地球が確実に繁栄し、将来の世代にとって住み続けられるようにするために責任ある方法で生活し働く方法を批判的に評価して理解できるようにサポートし、可能にします。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	英語コミュニケーションＡ－Ⅱ		This course is designed to help students develop confidence and fluency in English conversation through engaging, practical, and interactive speaking activities. Using “New Conversations in Class 2” as the core textbook, students will explore real-life topics such as travel, entertainment, family, and future dreams. Each week, students will practice speaking, listening, and critical thinking skills through pair work, group discussions, and role-plays. このコースは、学生が実践的でインタラクティブなスピーキング活動を通じて、英会話に自信と流暢さを身につけることを目的としています。コアテキストとして「New Conversations in Class 2」を使用し、旅行、エンターテイメント、家族、将来の夢などの現実的なトピックを探求します。毎週、学生はペアワーク、グループディスカッション、ロールプレイを通じてスピーキング、リスニング、クリティカルシンキングのスキルを練習します。	

教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	英語コミュニケーションⅢ		This class is focused on improving general communicative competence, by using a textbook, reading & listening practices, writing assignments, class presentations and group discussions. In each class, the contents of the textbook will be explained and students will be required to answer the questions, participate actively in group discussions and check each other's writing assignments. Face-to-face classes will be conducted weekly. It is essential to prepare the contents of the textbook before each class and submit homework weekly. このクラスは、教科書の使用、リーディングとリスニングの練習、ライティング課題、クラスでのプレゼンテーション、グループディスカッションを通じて、一般的なコミュニケーション能力を向上させることに重点を置いています。各授業では、教科書の内容を説明し、質問に答えたり、グループディスカッションに積極的に参加したり、お互いの作文課題を確認したりすることが求められます。 対面授業は毎週行われます。各授業の前に教科書の内容を準備し、毎週宿題を提出することが不可欠です。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	英語コミュニケーションⅣ		This class will consist of reading, listening, grammar, viewing videos and having discussions about the content of the reading and viewing exercises. The intention of this class is to provide the tools for students to improve their academic skills. The aim of this class is for students to use the skills they acquire in this course to improve not only their English skills, but also to help them improve their communication skills and academic skills in all aspects of their academic career and beyond. The classes will be a mixture of lecture time, question and aswer time, discussion time and viewing time, so it is important to attend all classes. このクラスは、読解、リスニング、文法、ビデオ視聴、および読解と視聴の練習内容についてのディスカッションで構成されます。 このクラスの目的は、学生が学力を向上させるためのツールを提供することです。 このクラスの目的は、学生がこのコースで習得したスキルを使用して、英語スキルだけでなく、学術的キャリアおよびその先のあらゆる面でコミュニケーションスキルと学術スキルを向上させることです。 授業は講義時間、質疑応答時間、ディスカッション時間、視聴時間の混合で行われるため、すべての授業に出席することが重要です。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅰ		人類の生活を支える材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を講義し、新しい材料が新たに生み出す世界を考察させる。 その中でも、有機機能性材料の科学について講義をおこなう。 未来の有機材料について、グループワークならびに発表会を実施している。 ※この授業科目は、民間企業で有機機能材料について研究していた経験を持つ教員による、有機機能材料に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 （オムニバス方式／全15回） （161 竹下道範／7回）オリエンテーションと有機機能材料の基礎、液晶と液晶材料、フォトクロミック材料、分子認識と超分子化学、双方向授業双方向授業 （481 江良正直／4回）機能性有機材料とエレクトロニクス、有機EL素子、有機太陽電池、有機トランジスタ、メゾスコピック有機材料とフォトニクス （575 小山田重蔵／2回）高分子化学概論、機能性高分子材料 （584 米田宏／2回）錯体化学の基礎と応用	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅱ		身近な無機材料や陶磁器の開発の歴史とその機構ならびに利用を、板書や配布資料やPowerPointファイルを用いて講義し、新しい無機材料が新たに生み出す世界を考察することができる人材の育成を目標とする。特に、陶磁器の歴史・研究開発の講義については、肥前セラミック研究センターの教員による講義を実施する. ※この授業は、県の研究開発センター（佐賀県窯業技術センター）で企業と共同した陶磁器の研究開発の実務経験を有している教員が、陶磁器の歴史や研究開発に関する実践的な教育を行う科目である。 （オムニバス方式／全15回） （188 矢田光徳／5回）光触媒材料、医療材料に関する講義 （136 山田泰教／5回）錯体系無機材料に関する講義 （110 一ノ瀬弘道／5回）陶磁器の歴史について、陶器・磁器の製造法、構造、特性について、機能性陶磁器の機能発現理由について	オムニバス

教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学Ⅲ		人類の生活を支える生体機能材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を講義し、新しい生体機能材料が新たに生み出す世界を考察する。また、学生との議論をおこなうことがある。 この授業科目は、民間企業で水質と金属材料の腐食との関係について研究していた経験を持つ教員による、水質と金属材料に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 （オムニバス方式／全15回） （148 川喜田英孝／3回）工学的な酵素利用、多糖の構造と糖類、生体分子の分離材料 （131 高椋利幸／3回）水の性質、溶けるということ、宇宙、地球及び生物と水 （156 大渡啓介／3回）生体模倣の材料、分子間力と超分子、人工生体模倣分子の機能と構造 （117 海野雅司／3回）生体分子（糖類、タンパク質）、生体分子（DNA）、薬について、薬と生体材料 （178 徳留嘉寛／2回）佐賀県コスメティック構想と佐賀大学の関わり、化粧品に使用されている科学（技術）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学Ⅳ		人類の生活を支える様々な機能性材料に関する講義と実験を行う．また佐賀地域の特色を考えた化学関連商品についての試案させる。 ※この授業科目は、民間企業でビジネスプランニング（企画書）に関する経験を持つ教員による、ビジネスプランニング（企画書）に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 グループに別れ，実験テーマ(LED)を実施する． 材料を用いたビジネスプランを個人または小グループで考え，教員および他の学生に向けて発表を行う． （オムニバス方式／全15回） （146 成田貴行／9回） イオン液体実験 （146 成田貴行・575 小山田重蔵・358 梅木辰也・584 米田宏／3回）（共同） イオン液体実験 （352 藤澤知績・568 磯野健一／3回）（共同） LED実験	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅰ		情報技術者として身につけておくべき基礎的知識を講義するとともに、ITパスポート試験（ストラテジ分野およびマネジメント分野）に合格するレベルにスキルアップするための演習を行う。 情報技術者＝SE・プログラマとの誤解があるが，情報系の職業はそれよりもはるかに多様である．また，情報技術は社会的ニーズや企業活動との関連も強い．最近はDX（Digital Transformation）の推進が強く求められており，そのための人材育成も重要である．本科目を学ぶことにより，学生は情報系の様々な職業や，IT（情報技術）と企業活動や社会とのつながりを正しく理解するための基礎を身に付けることができる．	共同
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅱ		職業人が共通に備えておくべき情報技術を講義するとともに、ITパスポート試験に合格するレベルにスキルアップするための演習をおこなう。 なお、この授業は情報系企業の勤務経験を有している教員がその経験をもとにITパスポート試験の有用性を解説します。 本授業の内容は情報処理技術者試験シラバスに従っており、具体的なトピックとしては、情報の基礎理論、ハードウェア、ソフトウェア、マルチメディア、システム構成、ネットワーク、セキュリティ、データベース、アルゴリズムとプログラミングが挙げられる。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザインⅡ		情報技術者として身につけておくべき論理的思考能力、プレゼンテーション能力を講義や演習を通じて養う。 論理的思考による問題解決や、知識や情報を分かりやすく伝えるための技術は、情報技術者としての基本的な要件の一つである。 本授業では、論理的思考能力（ロジカルシンキング）・問題解決・コミュニケーション技術の学習を行うことにより、パーソナルスキルを向上することができる。 （オムニバス方式／全15回） （113 岡崎泰久／6回）ロジカルシンキング（概要および基本となる思考），Whatツリー，Whyツリー，Howツリーおよびピラミッドストラクチャーの概要と活用方法 （118 皆本晃弥／3回）コミュニケーション（自己紹介，説明・報告）およびプレゼンの組み立て方 （363 木村拓馬／6回）マトリクスおよびプロセスの概要と活用方法，問題解決（問題発見，原因分析，解決手段検討）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザインⅣ		「敵を知り己を知らば百戦危うべからず」・・・の格言にもあるように、今後、情報技術研究あるいは情報技術関連業界へ巣立っていく者として身につけておかなければならない様々な周辺知識を修得させる。 なお、この授業では、佐賀県内に本社、支社、事業拠点のある情報・通信関連企業を対象とし、業界研究を実施する。 ● 情報技術者倫理 ● 情報技術者の多様な進路 ● 情報関連業界の現状と情報技術者の責務	

教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅰ		本講義は，1年間を通して，起業を目指したビジネスプランを作るための講義である。Ⅰでは，アントレプレナーシップ（起業家精神），起業の技術～論理的思考，マーケティング理論，アイディアの発散と収束等についてトライする。 また，この講義は，佐賀を中心とした社会人向けビジネススクールを手掛けるNPO鳳雛塾の全面協力のもと，起業に必須のロジカルシンキング，ケースメソッドを活用した企業分析，自ら考える地力をつけるためのキャリア教育を中心にして展開する。横尾敏史（ビジネスモデル構築担当、NPO鳳雛塾、佐賀銀行）、大島 清美（NPO鳳雛塾、農学部特任講師）、田中宗浩（農学部）が講義を担当する。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅱ		本講義は，1年間を通して，起業を目指したビジネスプランを作るための講義である。 この講義は，佐賀を中心とした社会人向けビジネススクールを手掛けるNPO鳳雛塾の全面協力のもと，起業に必須のロジカルシンキング，ケースメソッドを活用した企業分析，自ら考える地力をつけるためのキャリア教育を中心にして展開する。横尾敏史（ビジネスモデル構築担当、NPO鳳雛塾、佐賀銀行）、大島 清美（NPO鳳雛塾、農学部特任講師）、田中宗浩（農学部）が講義を担当する。 Ⅱでは，5名程度のグループを構成してビジネスプランの構築に取り組む。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅲ		IoTの進展には、主体的に行動し、自ら課題を解決する「アントレプレナーシップ」が重要である。同時に、社会のあらゆる局面を見渡しながら、IoTの実装とその効果を自らの力で判断し、モノを作り出すことが重要となる。 この能力を「業を起こす（がばいベンチャーを作る）」をテーマに2年間の一連した積み上げ式の講義、演習で身に付けることを目的とする。 本講義は2年目の開講科目である。この講義では、実際にブレインストーミングでアイデア創造を行う。商品企画のケースを活用した事例研究により意思決定、行動力、問題解決能力を育む。 今学期は，清川隼矢，千住和久、オプティムエンジニアチーム（プログラミング担当、（株）オプティム）、横尾敏史（ビジネスモデル構築担当 NPO鳳雛塾、佐賀銀行）、NPO鳳雛塾スタッフ，田中宗浩（農学部）が講義を担当する。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅳ		この講義では、Ⅰ～Ⅲの講義の中で身に付けた知識やITスキル及び自らの専門知識を用いて、自らの専門知識とITを融合させたビジネスプランを考え、実際に形とする力とアントレプレナーシップを身に着けることを目的とする。実際にビジネスプランを検討し、サービスの構築、プレゼンテーションを行う。また，佐賀県内の産業と連携をした地域振興につながるビジネスモデルの仕上げと発表を行う。今期の講義は、プログラミング関係は、清川隼矢，千住和久，オプティムエンジニアチーム（株式会社オプティム），ビジネスプラン構築については、横尾敏史（NPO鳳雛塾，佐賀銀行），NPO鳳雛塾スタッフ，及び田中宗浩（農学部）が担当する。また，外部からのゲストスピーカーを招いた講演も実施する。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	食糧生産の科学Ｂ－Ⅰ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、園芸科学、植物の病害虫と生態系、作物と家畜の生産、作物育種と栽培環境の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイディアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	食糧生産の科学Ｂ－Ⅱ		食糧や農作物の生産に関係する動植物や微生物の生態について教授するとともに、それらを生産する際に問題となる病害虫やそれらの防除方法について教授する。 （オムニバス方式／全15回） （121 吉賀豊司／3回）農薬の安全性、農薬の作用機序、遺伝子組み換え作物による防除 （177 徳田誠／4回）害虫防除の歴史、害虫防除の実際、生態系と食糧生産、生物多様性と食糧生産 （345 辻田有紀／4回）花卉園芸作物の分類、花卉園芸作物の生産（用途別にみた生産体系、植物の生態的特徴からみた生産体系）、花卉園芸作物の利用 （152 草場基章／4回）食糧生産に関係する微生物、食糧生産への微生物の利用、食糧生産で問題となる微生物、食糧生産と微生物	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	食糧生産の科学Ⅲ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、作物と家畜の生産、作物育種と栽培環境の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイディアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （169 鄭紹輝／4回）日本における食用作物の生産事情、佐賀県の農業環境と作物生産、豆類作物の栽培と利用、イモ類雑穀類作物の栽培と利用 （339 上埜喜八／4回）日本におけるイネの生産、米の特性と利用法、日本における麦類の生産、麦類の生育環境と品種特性 （308 江原史雄／3回）動物の管理、動物への配慮、アニマルウェルフェア畜産の現在と未来 （318 山中賢一／4回）動物生産とSDGs、繁殖技術①人工授精、繁殖技術②体外受精、繁殖技術③生殖細胞の凍結保存	オムニバス

教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	食糧生産の科学Ⅳ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、作物学、育種学、植物生理学、園芸科学の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイディアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （190 鈴木章弘／3回）作物生態生理学（作物とは、作物栽培の実際、微生物共生の作物栽培への応用） （348 渡邊啓史／3回）日本における食糧生産の実情、世界における遺伝子組み換え作物の利用、作物育種の方法と現状 （350 藤田大輔／3回）イネについて、イネ生産の課題（非生物的ストレス、生物的ストレス） （328 西田翔／3回）土壌の役割と性質、植物の栄養吸収と利用、食糧生産における環境問題 （127 後藤文之／3回）施設園芸学（施設園芸の定義、歴史、施設園芸における植物生理学、オランダの園芸と植物工場）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅰ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （168 辻田忠志／3回）食品の機能性を判断する細胞実験、実験体験 （330 川添嘉徳／3回）海産物・植物・キノコなどの菌類が生産する機能性物質 （185 堀谷正樹／3回）食品中のタンパク質、食品を消化する酵素、タンパク質と疾患 （476 関清彦／3回）タンパク質・脂質の一般分析、炭水化物（糖質）の分析 （400 基幹教員以外の教員（担当者未定）／3回）光と色の測定法、植物・海藻の色を決める色素の測定法、植物の非破壊測定技術	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅱ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面、機能的側面も持つ。食品が消費者の手元に届くまでにはこれら食品の特性を保持しつつ食中毒等のリスクを低減させる処理がなされる。また、加工食品の開発には市場調査も欠かせない。さらに近年では、食糧枯渇問題を背景に新たな食資源の開発も行われている。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （365 野間誠司／4回） 食品の加熱殺菌と微生物数評価、食品の新しい殺菌技術と品質評価、食品保存技術と品質評価 （194 濵洋一郎／3回） 食中毒の概要、食品製造現場での食品衛生、食中毒についてグループワーク （370 龍田勝輔／3回）食資源としての昆虫利用、昆虫食の利点と欠点、昆虫を利用した機能性成分 （585 本島浩之／3回）食品アンケートの概要、食品アンケート調査と解析 （277 野間誠司・394 龍田勝輔／1回）（共同） 野間、龍田担当分の演習 （194 濵洋一郎・393 本島浩之／1回）（共同） 濱、本島担当分の演習	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	ライフサイエンス・フードサイエンスⅢ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （149 川口真一／3回）食品・サプリメント・化粧品に含まれる有機低分子 （129 光武進／3回）食品の安全を担保するための規制、HACCPによる食品製造管理、HACCPを自炊に生かそう （112 永野幸生／3回）分子系統解析に関する演習 （362 木村圭／3回）藻類食品、海苔の食味官能評価、藻類養殖と栄養成分の講義 （306 井上奈穂／3回）食品機能に関する講義、食品の機能性研究に関する演習、機能性食品に関する発表	オムニバス

教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	ライフサイエンス・フードサイエンスⅣ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （111 永尾晃治／3回）健康に関する食品表示制度の講義、特別用途食品の機能性に関する演習 （580 折田亮／3回）魚介類の利活用に関する講義と演習 （139 宗伸明／3回）食品の分析と調理の科学に関する講義と演習 （125 後藤正利／3回）発酵食品の製造と分析に関する講義と演習 （142 小林元太／3回）発酵食品の製造と分析に関する講義と演習	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅰ		本授業は、「①チームビルディングのスキル」，「②リーダーシップ理論の知識」，「③課題発見能力」をテーマとして扱う。毎回の授業では，「①チームビルディングを目的とした30分程度のアクティビティ」と「②リーダーシップ理論の知識」あるいは「③課題発見能力」に関する講義およびグループワークを実施する。特に③の事柄は、本授業の中核となる活動である。具体的には、教員からテーマ（問い）の提示→資料収集やディスカッション等のグループ活動→結論や主張を示す資料作成→振り返りという流れで実施する。1つのテーマにつき3コマ程度の時間をかけて、グループの主張や結論を導き出す。全15回の授業中に4つ程度のテーマ（問い）に取り組むことで、後述の開講意図および到達目標に掲げる能力の修得を目指す。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅱ		本授業では、前期授業で学習した「チームビルディング」「リーダーシップ」「課題発見・設定」に関する知識や技術を活用し，提示された「テーマ」に対する「課題」を特定した上で，その解決のための企画立案およびプレゼンテーションする。 本プログラムは、「組織および社会において自己の役割と責任を認識し、主体的にリーダーシップを発揮し行動できる人材の輩出」を目指している。本授業では、そのために必要な能力の育成を目的とする。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	チームビルディングとリーダーシップⅢ		特定の佐賀県内企業から提示されたテーマを題材として、テーマに基づいた課題解決のための企画提案を行う。学習者は複数人でチームを形成し、提示されたテーマについて現状分析や課題把握を行った上で、その解決策について企画を行う。一連の学習プロセスには、チューターとして企業から社会人が参画し学びをサポートする。チームで構築した企画については、プレゼンテーションを行う。 なお、本授業については、主に佐賀県内企業に対しての公開授業として、自由な参観があることを申し添える。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	チームビルディングとリーダーシップⅣ		本授業ではプログラムの集大成として、リーダーシップとチームビルディングに関するプロジェクトを実施する。プロジェクトの内容等については、佐賀県あるいは佐賀市が抱える問題・課題を解決するものを前提とするが、詳細は受講学生間で議論し決めることとする。授業の進め方は、基本的にはPBL（Project-Baced Learning）を基本とし、プロジェクト実施とそれまでのプロセスを学生が主体となって進める。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシー１－Ⅰ		人が決断を迫られる時、何らかの事実に基づいて望ましい決断をしたいと考えることがしばしばある。噂話に耳を傾けることもあれば、信頼している誰かに経験談を語ってもらおうとするかもしれない。統計も事実を知るための一つの方法である。だが、統計が作成され、利用される過程で政治的な仮定が入り込むことや、意図的もしくは無意図的に誤用されることさえある。 本プログラムは、統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指「リサーチ・リテラシー」のフェーズⅠとして、統計データの読み込みと統計データの作成を行う。担当教員は、統計の活用に関するさまざまな議論を提示し、統計データの適切な読み込みができるよう支援する。履修者は担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、各自の問題意識を明らかにし、グループワークを通して興味・関心に即した統計データを実際に作成する。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシー１－Ⅱ		人が決断を迫られる時、何らかの事実に基づいて望ましい決断をしたいと考えることがしばしばある。噂話に耳を傾けることもあれば、信頼している誰かに経験談を語ってもらおうとするかもしれない。統計も事実を知るための一つの方法である。だが、統計が作成され、利用される過程で政治的な仮定が入り込むことや、意図的もしくは無意図的に誤用されることさえある。 本プログラムは、統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指「リサーチ・リテラシー」のフェーズⅡとして、統計データの読み込みに加え、統計データの処理に必要となる検定と解析を学ぶ。担当教員は、統計的な有意性検定や解析技法の基礎につて、講習を交えて講義し、統計的な知識と技法の修得を支援する。履修者はグループワークを通して統計データの処理を実際に試みる。	

教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシーⅢ		統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について、共同作業やプレゼンテーションを交えて検討する。21世紀に入り既に10年を経過した現代の日本社会が直面している課題は、少子化や個人・企業・政府による経済活動、財政から、地震や河川の氾濫などの災害、DNA解析まで、膨大な領域に及んでいる。「リサーチ・リテラシーⅢ（調査データの分析）」では、人の心理や教育、社会政策に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な作成と読み込みができるよう支援する。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシーⅣ		統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について、共同作業やプレゼンテーションを交えて検討する。21世紀に入り既に10年を経過した現代の日本社会が直面している課題は、少子化やそれに伴う教育の諸問題、個人・企業・政府による経済活動、財政から、地震や河川の氾濫などの災害、DNA解析まで、膨大な領域に及んでいる。「リサーチ・リテラシーⅣ（人文・社会・自然科学の統計）」では、人文・社会科学、自然学が扱う社会的な諸課題に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な読み込みができるよう支援する。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダー１－Ⅰ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー１」においては、企画立案に必要な基礎知識や企画書作成のためのプロセスについて講義した後、大学における１つの問題解決をテーマに企画書の作成をしてもらいます。企画書の内容を評価対象とします。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダー１－Ⅱ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、イベントづくりのための基礎的な知識を講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー２」においては、２つの企業から依頼される案件を題材に提案をプレゼンにまとめる方法について講義で学び、実際にスライドの作成やプレゼン動画の作成を行います。 加えて、春休み期間中にはスポーツイベントのボランティア体験をしてもらいます。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー３」においては、さが桜マラソンの反省とチームワークやリーダーシップの知識等をベースに「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を作成してもらう。その後、２班に別れ地元企業等からスポーツイベントの作り方などについて学び、その知識を元に企画立案をしてもらう。	共同

教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー４」では「スポーツイベントとボランティアリーダー３」で立案した企画を「また関わりたいと思えるスポーツイベント」になるように実施する事を通して、スポーツボランティアリーダーとして求められる能力の獲得に向けて行動してもらいます。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	課題解決のためのプロジェクトデザインーⅠ		本授業におけるプロジェクトデザインとは、「ある特定の問題を分析し、その原因や取り組むべき課題を明らかにするとともに、課題を解決するための計画をたてること」を指す。本授業では、５名前後の学生チームを作り、教員が提示するテーマ（問い）に取り組むことで、プロジェクトデザインの知識やスキル、チームで協働するためのスキル・マインドを学ぶ。 毎回の授業では，「①チームビルディングを目的としたグループワーク」と「②プロジェクトデザインに関する講義およびグループワーク」を実施する。具体的には、教員からテーマ（問い）の提示→資料収集やディスカッション等のグループ活動→結論や主張を示す資料作成→振り返りという流れで実施する。学生間でのディスカッションやチーム活動が授業の中心となるため、履修にあたっては、これらの活動に積極的に参加する前提であることが望ましい。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	課題解決のためのプロジェクトデザインーⅡ		本授業におけるプロジェクトデザインとは、「ある特定の問題を分析し、その原因や取り組むべき課題を明らかにするとともに、課題を解決するための計画をたてること」を指す。本授業では、前期授業（Ⅰ）で学習した「プロジェクトデザイン」及び「チームビルディング」に関する知識・スキルを活用し、提示されたテーマに対する「課題」を特定したうえで、その解決のための企画立案及びプレゼンテーションを行う。本授業におけるテーマは、佐賀県内企業の協力のもと提示する。履修学生は、実際に佐賀県内企業が抱える問題を解決するための企画立案に取り組む。Ⅰの授業に引き続き、学生間でのディスカッションやチーム活動が授業の中心となるため、履修にあたっては、これらの活動に積極的に参加する前提であることが望ましい。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	教育から学ぶインターフェース論ーⅠ		副題を「インターフェースの基礎技法」と題し、教育学部に所属する12名の教員の研究成果をもとに、「インターフェース」の言葉が含有する広範囲な意味について様々な角度から明らかにしていく。 （オムニバス方式／全15回） （11 今井治人／3回）ガイダンス、総論、音楽の界隈で出会うもの （16 達富洋二／1回）ここからはじまるコミュニケーション （43 Moxon Jonathan／1回）英語を学ぶ理由 （15 川中子正／1回）現実問題への数学の応用について （10 荒巻治美／1回）音楽と人間 （47 吉村圭／1回）イギリス児童文学に映し出される社会問題 （8 栗山裕至／1回）美術から得られるものとは （94 大林将呉／1回）「問い」や「思い」を生み出す数学的事象との出合い （51 石川美也子／1回）音楽の系譜 （60 日高茂暢／1回）映画で学ぶ障害心理学と特別支援教育 （52 足立佳菜／1回）ダイバーシティ時代の道徳 （18 中村聡／2回）里山の生物多様性～宮崎駿の創作活動①②	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	教育から学ぶインターフェース論ーⅡ		副題を「身体と空間」と題し、教育学部に所属する12名の先生方の研究成果をもとに、インターフェースの概念について多彩かつ広範な領域から探求する。 （オムニバス方式／全15回） （11 今井治人／3回）ガイダンス、総論、表現する身体 （47 吉村圭／1回）イギリス文学と映像化作品からみる社会通念の変化 （48 橋永貴弘／1回）折り紙とハサミで数学をしよう （6 嬉正勝／1回）ヒトの視覚と空間認知 （22 澤島智明／1回）住まいと生活 （1 小野文慈／1回）もの・人を安全に運ぶ科学を考える （46 萱島知子／1回）食と健康 （50 小松美和子／1回）衣服のかたち （49 黒田圭介／2回）自然災害と地理学、地域おこしと没場所化 （93 小村朋代／1回）発声のためのボディ・マッピング （7 吉岡剛彦／1回）身体・ジェンダー・自己決定 （56 名倉一美／1回）日本の「子育て支援」の現状	オムニバス

教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	教育レクリエーション支援の探究-Ⅰ		本プログラムでは、レクリエーション支援の理論を、学校や地域、企業・団体等における教育実践場面に活用し、個人や組織のチカラを主体的に元気にしていくことができるレクリエーション人材（高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を備えたアクティブな人材）の輩出を目指しており、「教育レクリエーション支援の探究Ⅰ・Ⅱ」という２つの授業を通して、レクリエーションの理念と価値、レクリエーション支援の理論の理解やレクリエーション支援の方法について学びます。 本授業は、講義と演習、実技によるアクティブラーニング型形式の授業となります。さらに、レクリエーション活動やグループワークの体験が学習の主となる展開方法となりますので、積極的に他者と関わることが求められます。 　加えて、本授業では実習（フィールドワーク）として学外授業４回分の「レクリエーション事業参加体験」を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	教育レクリエーション支援の探究-Ⅱ		本プログラムでは、レクリエーション支援の理論を、学校や地域、企業・団体等における教育実践場面に活用し、個人や組織のチカラを主体的に元気にしていくことができるレクリエーション人材（高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を備えたアクティブな人材）の輩出を目指している。本授業では、「信頼関係づくりの理論とその方法（ホスピタリティ）」「良好な集団づくりの理論とその方法（アイスブレーキング）」を中心に取り組みます。加えて、実際に行われているレクリエーション事業に「学外授業」として参加することでレクリエーション支援についての理解や本授業で学んだ内容の理解を深めてもらいます。毎回の授業後には「授業リフレクション」としてその授業を振り返っての感想や自己評価などの振り返りをオンラインツールを用いて収集します。授業の最終回後にはすべての授業内容を振り返る「総括リフレクション」を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	現代社会と医療－Ⅰ		わが国は、江戸時代に西洋医学と日本漢方医学とが出会い、明治期以降近代医学が形成されてきた。授業内容は、江戸時代に日本漢方医学や西洋医学がどのように影響しあって、現代にどのように影響しているかを明らかにする。とくに医師及び人々の人体内部を見る目がどのように発達し、解剖学から生理学、病理学、自然科学へと学問の発達を見たこと、我が国近代医学の形成に佐賀藩がどのように関わったか、西洋医学の発達との関連などを、現代の医療の問題とリンクさせて理解することを目的に講義をする。理解を深めるために資料プリントを配布する。心構えは授業のノートをとることがよい。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	現代社会と医療－Ⅱ		医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいたったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	食と健康－Ⅰ		健康を維持・増進するための身体活動や運動、食事（飲酒を含む）に関する科学的エビデンスを学び、生涯にわたり健康的なライフスタイルを日常的に実践できるようになることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （577 西田裕一郎／6回）オリエンテーション、健康寿命、肥満と運動、生活習慣病の予防と身体活動、運動による楽しい健康づくり（スロージョギング、ピックルボール）、講義・スポーツ実技まとめ （508 射場裕美子／2回）生活習慣病の予防のための食事、ライフステージ別の栄養 （111 永尾晃治／2回）栄養の概念と五大栄養素、エネルギーの摂取と消費のバランス （306 井上奈穂／2回）食品の機能性、健康に資する食品の活用（保健機能食品とは？） （570 岡田貴裕／1回）糖尿病と食事 （337 松本明子／1回）飲酒、ALDH2遺伝子と健康 （12 坂元康成／1回）運動による楽しい健康づくり（ボールゲーム）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	食と健康－Ⅱ		医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいたったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	

教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	ライフサイクルからみた医療－Ⅰ		人生100年時代といわれる現代社会を健康に活躍していくことが重要な課題となっている。 これに関して提示した資料を題材としてグループ討論と発表を行うことにより， 課題を解決するために多角的視点で考察する能力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （351 藤本裕二／5回）科目ガイダンス，Teams操作の把握、メンタルヘルスの課題提示・グループ討論・発表を行う、総括 （399 基幹教員以外の教員（担当者未定）／4回）予防医学の課題提示・グループ討論・発表を行う （582 大坪美由紀／3回）子育て支援の課題提示・グループ討論・発表を行う （574 山田春奈／3回）ワーク・ライフ・バランスの課題提示・グループ討論・発表を行う	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	ライフサイクルからみた医療－Ⅱ		医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいたったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	患者に寄り添う医療－Ⅰ		さまざまな医療現場で働く医療職の教員等が、実際の経験を元に、あらゆる年齢層の患者・家族の行動や、それぞれの心理・社会的、文化的な背景について紹介し、患者に真に寄り添うとはどういうことなのか考えさせる講義（オムニバス形式）である。 （オムニバス方式／全15回） （江村正／15回） 行動科学の立場から患者と家族に寄り添う医療について講義する。また、各回の授業のゲストスピーカーに関する総括を行う。ゲストスピーカーの授業内容は以下のとおり。 総合診療医、小児科医、産婦人科医・助産師、救急医、リハビリテーション、外科医、地域の病院の医師・看護師、メディカルソーシャルワーカー、歯科医、佐賀県、緩和ケア医・がん看護専門看護師、、脳神経内科医、臨床倫理コンサルテーションチームのそれぞれの立場から、またユマニチュードについて講義する。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	患者に寄り添う医療－Ⅱ		くすりの話 高齢化が進む現代社会での医療においては、病気と共存していくための適正な薬物療法が重要となる。この講義では、佐賀大学病院は高度先進医療を担う医療機関であることから、病気や医薬品についての最先端の研究成果や臨床での最新の話題もおり混ぜて、病気と医薬品の基礎と臨床応用について学ぶ。医学部附属病院などで実際に診療にあたっているトップランナーの医師や薬剤師などがそれぞれの専門の立場から、病気や健康に興味のある学生や医療職を目指す学生にわかりやすく講義する。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ａ－Ⅰ		幕末から明治初期の佐賀地域の歴史について、国内の大きな歴史の流れとともに学びます。特に当時の国内でも最先端を走っていた佐賀藩の科学技術についても触れます。講義ではパワーポイントとプリントを使って説明し、適宜レポート提出を求めます。学外での施設見学も予定しています（時期については講義の中でお知らせします）。 現代にも多くの痕跡を残す幕末維新期の佐賀地域について学ぶことで、歴史を身近に感じるきっかけとし、佐賀の歴史文化プログラムの導入とします。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ａ－Ⅱ		佐賀地域の古代～近世初頭にかけての歴史を語る多様な史料（古文書、古絵図、出土遺物、石造物など）の中身と意味を解読し、佐賀の歴史の具体的変遷を学ぶ。 特に、佐賀が舞台となった豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）を通じて政治史・外交史を深く知るため、国指定特別史跡「名護屋城跡」でのフィールドスタディを予定している。 古文書の読み方や基礎知識、様々な史料の使い方や特性を学ぶとともに、佐賀の代表的な歴史的事象について理解を深める。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ⅲ		佐賀に関する考古学的遺跡などの歴史的記念物について学び、その現代的な意義を考える。授業はグループ討議、発表を中心に展開する予定である。2025年度は吉野ヶ里遺跡を対象とする。 第６～９回の授業として５月17日土曜日（予備、５月18日日曜日）に吉野ヶ里歴史公園の現地見学を予定している。授業では講義、現地見学、グループ討議を基礎に、「吉野ケ里歴史公園にどのような価値があるか？それを現代（未来）にどのように活かしていくか？」を大きなテーマとし、それぞれのグループ独自の視点（発表のサブタイトルなどつけると良い）から発表してもらいます（第12～14回、各班20分程度）。 　また、その発表の発展（あるいはグループ発表に盛り込めなかった自分の意見のまとめ）を文章化したものをレポートとして提出してもらいます	

教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ⅳ		古文書をもちいて江戸時代の佐賀のようすを学び、現代の佐賀に与えている影響を考えます。講義ではパワーポイントとプリントを使って説明し、適宜レポート提出を求めます。 江戸時代の日本にかんする通説的な知識を身につけ、それを元に江戸時代から明治初期にかけての佐賀地域について基本的な知識の取得を目指します。古文書の重要性や、鍋島直正の政治、龍造寺氏と鍋島氏、佐賀の多様性、佐賀藩の人口、疫病と佐賀などについての講義を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会Ａ－Ⅰ		少子化が進行し、地方から大都会へと若者が流出、農村では耕作放棄地が増加し、地域社会の人口が減少したため、需要も減少して地域経済が衰退していく。こうした問題は、21世紀日本の地域経済と社会に限った話ではない。実は、18世紀の江戸日本も、同様の問題に悩まされていた。だが19世紀前半になると、少子化は止まり、人口も経済も成長に転じる。その背景には、幕府や藩による各種の政策があった。 本講義では、地域経済と社会が抱える問題を、18世紀から21世紀の現代までについて、人材育成や経済政策、国際経済との連関などの視点から、解説していく。 また、数名のグループに分かれ、本講義内容を参考にしつつ、地域活性化の方法について、考えてもらう。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会Ａ－Ⅱ		一つの国に産業構造があるように、特定の地域にも産業構造がある。そのため地域は産業の盛衰の影響を免れない。本講義では産業構造の変遷が地域経済に与える影響について、いくつかの代表的な産業に焦点を当て、佐賀県内の事例も取りあげて説明する。またグループに分かれ、地域分析の課題にも取り組んでもらう。本講義では、地域と産業の関わり合いについて理解し、またそれらをもとに地域分析を行うための基礎を身につけることを目指す。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会Ⅲ		地域経済と商業は密接に関連している。地域の成長力は、その地域の小売企業の成長力を規定している。ただ現代では小売企業が地域経済の成長に貢献する場合もある。また地域の小売商業を守ることは地域の消費者のためでもある。しかしすべての地域の小売業が成長しているわけではなく、むしろ多くの地域で昔ながらの小売企業の衰退が見られる。本講義では講義形式とグループでの研究発表を、小売業と地域の関係性を表す事柄について行っていくことにする。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会Ⅳ		現代社会では、実にさまざまな国や地方自治体／地方公共団体による行政活動が行われており、それらは、われわれ市民の日常生活に深く関係しています。 たとえば、雇用をめぐっては、労働関係法令や国の制度による施策に加えて、地方自治体等により地域の実情に応じた雇用に係る施策が行われています。 本授業では、とくに雇用に着目して、法律、国の制度、地域の実情に対応した施策などを取り上げていきます。 これら法律、国及び地方自治体等の施策の考察を通して、日々見聞きする国や地方自治体／地方公共団体が関わるニュース等について、なにが問題になっているのかを適切に把握するとともに、主体的に検討し、自らの意見を有することができる視座の獲得を目指します。 授業では、基本的な事項をわかりやすく説明することを何よりも心がけますが、アクチュアルな問題や最近の裁判例なども随時取り上げたいと思います。外部講師による講演を適宜取り入れます。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀SDGsグローカルアクション１－Ⅰ		SDGsの全体像、および個別目標毎のターゲットやインディケーターについて学ぶ。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すためにグルーバルな目標（ターゲット・インディケーター）を佐賀県等を事例にローカライズし、身近な課題解決型の講義とする。 （オムニバス方式／全15回） （480 五十嵐勉／9回）ガイダンス、SDGs概論（SDGs思考）、特別講義、まとめ （327 原口智和／2回）SDGs各論（陸の豊かさ）、まとめ （107 SALIYA DE SILVA／2回）SDGs各論（貧困、ジェンダー平等）、まとめ （108 HOUGHTON STEPHANIE ANN／2回）SDGs各論（健康と福祉）、まとめ	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀SDGsグローカルアクション１－Ⅱ		SDGsの個別目標毎（関連する目標のターゲットを含む）のグループワークを実施する。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すために、学外での体験型学習や現地見学等のフィールドワーク、企業・団体等での短期のインターンシップ、データの収集・分析などを通して、身近な課題解決型の講義とする。行政（佐賀市）ー団体（佐賀SDGs官民連携円卓フォーラム）ー企業（リコージャパン佐賀支店等）との協働によって学習する。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀SDGsグローカルアクションⅢ		SDGs目標11（持続可能なまちづくり）のターゲットやインディケーターについて学ぶ。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すためにグローバルな目標（ターゲット・インディケーター）を、佐賀県等を事例にローカライズし、身近な課題解決型の講義とする。 （オムニバス方式／全15回） （154 大串浩一郎／4回）SDGs各論（持続可能なまちづくり）、災害に関連する外的要因、大規模災害に対する適応策と社会実装、特別講義 （132 三島伸雄／4回）近年の地方創生の課題と地域社会の胎動、歴史的環境を用いた地方創生の取り組み事例、特別講義 （176 藤村美穂／4回）農業と雇用、農業の教育力、農業の福祉力、特別講義 （167 辻一成／4回）都市と農村、農村の変化と過疎問題、特別講義	オムニバス

教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀SDGsグローカルアクションⅣ		各教員が提示する課題に対応して、グループに分かれ、それらの課題に応じた講義ならびに議論を行い、発表資料を作成する。 具体的なグループでの作業として、グループ別のレクチャー、現地調査、対象地の課題に関するPPTを作成させ、中間発表を行う。その後、中間発表を踏まえた議論、対象地のSDGs課題解決の方向性や具体的方法を議論する。中間発表を行い、テーマの再整理、資料を作成し最終発表をおこなう。	共同
教養教育科目	インターフェース科目	共通	インターフェース演習		「インターフェース演習」の授業科目は、インターフェースプログラムの教育内容をさらに深めるために、必要に応じて、インターフェースプログラムの担当教員が開講します。インターフェース演習の授業科目を開講する際には、ホームページ又は掲示によって履修希望者を募ります。また、インターフェース演習の授業科目で修得した単位を、インターフェースプログラムの授業科目の単位として認めることがあります。	
専門教育科目	先端的教育科目		幼小連携・小中連携教育論	○	前半は幼小連携教育の実態や課題について、教育制度、発達心理、認識論の視点から考察をする。後半は教科で異なる小中連携教育の実態や課題について考察するとともに、小中連携教育の展望について考察をする。 （オムニバス方式／全15回） （8 栗山　裕至・14 成松　美枝・16 達富　洋二・17 中西　雪夫・23 石井　宏祐・56 名倉　一美・94 大林　将呉／1回）（共同）第1回を担当する。 （56 名倉　一美／1回）第2回を担当する。 （14 成松　美枝／2回）第3回～第4回を担当する。 （50 石井　宏祐／2回）第5回～第6回を担当する。 （8 栗山　裕至／2回）第7回～第8回を担当する。 （16 達富　洋二／2回）第9回～第10回を担当する。 （93 大林　将呉／2回）第11回～第12回を担当する。 （17 中西　雪夫／2回）第13回～第14回を担当する。 （16 達富　洋二・17 中西　雪夫・93 大林　将呉／1回）（共同）第15回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育科目	先端的教育科目		ＬＤ等学習指導法	○	学習や行動上の困難があり、支援を必要とする通常学級に在籍する児童生徒は8．8%にのぼり、通常学級において特別支援教育を行う事が当然の時代になっている。本講義では、学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害や関連する実態のある子どもの理解を深め、アセスメントの方法、学級経営上の配慮や指導上の工夫の基礎を学ぶことを目標とする。また講義内容に応じて、ペアワーク・グループワークやICT機器を用いたアンケート等を適宜行う。	
専門教育科目	先端的教育科目		大学生の道徳・倫理		本授業では、教職の学びとして「特別の教科 道徳」の内容理解を深めることと、一人の人間として道徳学習当事者としての態度形成を図ることの２側面をねらいとする。授業は講義形式による知識習得だけでなく、個々の調べ学習やグループ学習によるワーク形式など多様な学習形態で学びを深めるため、協働的学びへの積極参加を求める。	
専門教育科目	先端的教育科目		教育統計		教育における統計的考え方の必要性を理解し、社会科学の諸領域で用いられる統計的手法のうち基礎的なものを習得する。また、具体的な課題に対して、その数量的な把握と統計的な検討から適切な解決を導く基礎的な力を身に付ける。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等国語	○	本授業では、小学校国語科の専門的な内容（言葉の知識、文学的文章、言語文化）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （19 中里　理子／4回）第1回～第4回を担当する。 （45 奥野　新太郎／4回）第5回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （88 山下（古田）真里／3回）第1回～第3回を担当する。 （61 跡上　史郎／2回）第4回～第5回を担当する。 （33 中尾　健一郎／3回）第6回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等書写	○	本授業では、小学校国語科の専門的な内容（書写）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等社会	○	学習指導要領をもとに小学校社会科の特質と役割、目標と内容構成について説明する。そして、小学校社会科で扱ういくつかのトピックを地理・歴史・公民の３分野に分けて取り上げ、その内容に関する教材研究の進め方についても講義する。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （9 後藤　正英／2回）第1回～第2回を担当する。 （49 黒田　圭介／2回）第3回～第4回を担当する。 （4 岡本　託／2回）第5回～第6回を担当する。 （7 吉岡　剛彦／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （32 黨　武彦／2回）第1回～第2回を担当する。 （90 山本　耕三／2回）第3回～第4回を担当する。 （35 春田　直紀／2回）第5回～第6回を担当する。 （67 大野　正久／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス

専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等算数	○	論理･集合、代数、幾何、解析、応用数学等の中から、いくつかの話題を取り上げて紹介する。また、それらの内容と小学校算数の繋がりを考えたり、それらの内容を発展的に考察しさらに理解を深めたりする活動を行い、算数の指導力向上に繋げる。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等理科	○	将来、小学校教員になった際に自信を持って理科を指導できるように、小学校理科教科書４領域（エネルギー、粒子、生命、地球）の知識を確かなものとすると同時に、授業実施のための教科特性を理解する。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （6 嬉　正勝／2回）第1回～第2回を担当する。 （5 角縁　進／2回）第3回～第4回を担当する。 （18 中村　聡／2回）第5回～第6回を担当する。 （3 岡島　俊哉／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （31 田邊　力／2回）第1回～第2回を担当する。 （69 岸木　敬太／3回）第3回、第5回、第6回を担当する。 （85 村田　貴広／2回）第4回、第7回を担当する。 （29 島田　秀昭／1回）第8回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等生活	○	小学校「生活」の教育内容について、（1）社会と子ども、（2）自然と子ども、（3）遊びと子ども、（4）家庭と子どもの4つの分野に分けて、オムニバスで講義形式の授業をオンラインで行う。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （49 黒田　圭介／2回）第1回～第2回を担当する。 （444 坂本　憲明／2回）第3回～第4回を担当する。 （8 栗山　裕至／2回）第5回～第6回を担当する。 （17 中西　雪夫／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （61 飯野(金柿)直子／2回）第1回～第2回を担当する。 （35 春田　直紀／2回）第3回～第4回を担当する。 （196 田口　浩継／2回）第5回～第6回を担当する。 （40 八幡　彩子／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等音楽	○	小学校音楽科の授業を実践する上で必要な楽譜の読み書きや音楽の規則を理解したり、発声法、演奏法や音楽の歴史を知る。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （10 荒巻　治美／2回）第1回、第8回を担当する。 （11 今井　治人／2回）第2回～第3回を担当する。 （51 石川　美也子／2回）第4回～第5回を担当する。 （93 小村　朋代／2回）第6回～第7回を担当する。 【熊本大学】 （41 山﨑　浩隆／2回）第1回、第8回を担当する。 （89 山田　高誌／2回）第2回～第3回を担当する。 （63 稲森　安太己／2回）第4回～第5回を担当する。 （79 中原　雅彦／2回）第6回～第7回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	小学音楽実技（ピアノ）		小学校の授業展開に必要なピアノを演奏する上での基本的技能・知識を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	小学音楽実技（声楽）		声楽についての基本的技能・知識を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等図画工作	○	図画工作科の意義を明らかにし、表現及び鑑賞の活動をおこないながら、図画工作指導を行うに必要な、資質・能力を育成するものである。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等家庭	○	小学校家庭科の授業づくりための基礎的知識について内容を解説するとともに基礎技能を習得するための演習等を行う。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （435 奥谷（竹内）めぐみ／2回）第1回～第2回を担当する。 （46 萱島　知子／2回）第3回～第4回を担当する。 （50 小松　美和子／2回）第5回～第6回を担当する。 （22 澤島　智明／2回）第7回～第8回を担当する。 【熊本大学】 （40 八幡　彩子／2回）第1回～第2回を担当する。 （523 篠塚　到子／4回）第3回～第6回を担当する。 （77 中迫(北後)由実／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等体育	○	本授業は、小学校学習指導要領において体育の内容として取り上げられている運動領域「陸上運動」「器械運動」「体つくり運動」「球技」「水泳」および「新体力テスト」の学習内容を理解し、教員としてそれぞれの運動種目を指導していくために必要な基本的な技能を学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （13 山津　幸司・12 坂元　康成・2 井上　伸一／3回） （共同）第1回～第3回を担当する。 （12 坂元　康成／2回）第4回～第5回を担当する。 （2 井上　伸一／1回）第6回を担当する。 （13 山津　幸司／2回）第7回～第8回を担当する。	オムニバス・共同（一部）

専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等外国語	○	小学校外国語活動及び外国語の授業実践に必要な英語表現を、題材（話題・場面）ごとに整理し、演習を通して実践的な英語運用能力の向上を図る。８回の授業を通して、英語の音声の仕組み（アクセント、リズム、イントネーション、発音と綴りの関係など）や正書法、文学素材などについて講義と演習を交えて学びながら英語に関する背景的な知識を身に付け、小学校での外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用能力の習得を図る。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等国語科指導法Ⅰ	○	『小学校学習指導要領解説　国語編』に基づいて国語科の目標・内容を理解し、小学校国語科教科書の教材を用いて学習指導や評価の方法についての理解を深める。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等国語科指導法Ⅱ	○	「初等国語科指導法Ⅰ」で学んだことをもとに、学習指導案の作成や模擬授業に取り組む。模擬授業後にリフレクションを行い、授業の中で得られた実践的知識の共有と深化を図る。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等社会科指導法Ⅰ	○	社会科といえば知識を暗記することとの誤解を解くことを目的に、学習指導要領の解説や過去や外国の社会科教育の事例なども参照しながら、社会科とは何でなければならないのかを理論的に解明する。今後実践的に社会科の在り方を考えるうえで必須の理論的基盤を確立させる。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等社会科指導法Ⅱ	○	教科書の特性・特質を踏まえた教材（教科書）研究に取り組む。教科書を活用して小学校社会科の学習指導案を作成する。模擬授業を実施して、その検討会を開催する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等算数科指導法Ⅰ	○	算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等算数科指導法Ⅱ	○	算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等理科指導法Ⅰ	○	初等理科教育に関する目的論、カリキュラム論、学習指導方法論、自然認識論、評価論等の各領域について概説する。 1.小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点（含：発展的な内容）、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。 2.生徒の自然認識・科学的思考・理科の学力などの実態を視野に入れた理科授業設計の重要性、教科としての理科の特性に応じたICT・教材の効果的な活用法、理科学習指導案の構成と具体的実践を想定した教材研究の方法（含：理科実践研究の動向）について具体的に論じる。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等理科指導法Ⅱ	○	初等理科教育に関する実際の授業実践を想定し、具体的な理科の学習内容について取り上げる。 1.小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点（含：発展的な内容）、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。 2.理科の学習内容等の発表（模擬授業）の実施とその振り返りから、授業改善の視点（含：授業設計の向上）について具体的に論じる。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等生活科指導法Ⅰ	○	・初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。 ・具体的実践事例を講義し、自然領域における教材開発を実際に行う。 ・模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （444 坂本　憲明／5回）第1回～第5回を担当する。 （56 名倉　一美／3回）第6回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等生活科指導法Ⅱ	○	・初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。 ・具体的実践事例を講義し、特にICTを活用した教材開発を実際に行う。 ・模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （49 黒田　圭介／5回）第1回～第5回を担当する。 （56 名倉　一美／3回）第6回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等音楽科指導法Ⅰ	○	小学校における表現と鑑賞の各活動の指導のあり方とその考え方を知り、教育実習等、指導の実際にかかわる指導方法を考える。また、ICTを活用した効果的な指導法についても知る。	

専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等音楽科指導法Ⅱ	○	小学校音楽科における表現と鑑賞の授業づくりについての理解を深める。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等図画工作科指導法Ⅰ	○	第1～3回において小学校図画工作科の意義や目的、発達と造形の関係等の全般的な内容を学ぶ。第4回以降においては学習指導要領を踏まえた教科の内容（表現及び鑑賞）を習得する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等図画工作科指導法Ⅱ	○	小学校図画工作科の学習指導・支援や学習評価の全般的な内容を学ぶ。教科内容の模擬演習・講義や、模擬授業の取り組みを通して授業技能を身に付ける。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等家庭科指導法Ⅰ	○	家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等家庭科指導法Ⅱ	○	家庭科の授業実践に必要な基礎的技能を身に付けるため、小学校家庭科における課題解決学習、ICT活用、評価などの実践事例を分析し、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を実施する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等体育科指導法Ⅰ	○	本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等体育科指導法Ⅱ	○	本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して小学校学習指導要領において取り上げられている「体つくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ボール運動」「表現運動」「保健」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等外国語指導法Ⅰ	○	小学校外国語活動の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解・考察を深めていく。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞を取り入れることにより、英語指導技術の基礎を身に付ける。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	初等外国語指導法Ⅱ	○	小学校外国語活動及び外国語科の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解を深める。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞や模擬授業実践を取り入れることにより、英語指導技術を身に付ける。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育実践フィールド演習Ⅰ	○	配属校での様々な体験活動を通して教育への関心及び教職への意欲を高めることを目的とする。 配属校に3日間体験活動に行き、参与観察を行う。グループで振り返りを行い、各自報告レポートを書き、気づきを共有する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育実践フィールド演習Ⅱ	○	１単位時間の授業づくりに関する課題に個人で取り組む。学習指導要領や教科書、先行の授業実践を検討し、課題に応じた学習指導案、授業で用いる資料や教具等を作成して模擬授業を行い、授業改善を重ねる。作成した学習指導案等によって教育実習において実地授業を行い、その成果と課題及び具体的改善案について個人でリフレクションレポートにまとめる。また、これらの活動を通し、小学校・中学校教育実践に関する問題意識と教職への意欲を高め、卒業研究につながる積極的な態度を培う。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理B（歴史・制度）	○	教育の思想と実践の変化を、日本と西洋諸国の教育の歴史に位置づけて考える。「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識を身につけ、現在の学校教育の原理との関わりを理解することを目的とし、西洋諸国と日本における、古代から現代に至るまでの教育の理念や思想、制度を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史的変遷について講義を行う。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職入門	○	教職の意義及び教育の役割、教員の職務内容、教員の労働条件と研修に関する基礎的知識・理解を身につけ、自分の理想とする教員像を明確にする。教職の意義や教員の職務内容、労働条件や研修について基礎的内容を学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解しながらこれから求められる教員の資質・能力について考え、自分の理想の教師像を確立して今後の教職科目の履修に活かせるようにする。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	現代の教育と社会B	○	公教育制度および教育行政の理念と仕組みを理解する。また、現在の学校を取り巻く問題とそれに対応する諸改革、学校安全の必要性と対応策について認識し理解を深めることを目的として、全ての子どもに就学機会を保障する公教育の具体的な法制度と、現在の学校を取り巻く問題と改革、さらに学校管理下での安全を保障するための学校安全法制と取り組みについて講義を行う。	

専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目		教育心理学A（学習）	○	幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、子どもへの支援の基礎となる心理学的な理解や考え方を学ぶ。子どもの行動のもつ意味を読み解くことができる力を養うために必要な心理学的知識や考え方を概説する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目		特別支援教育の基礎	○	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する。 本授業では、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、各種の障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳教育の実践	○	本授業は、道徳・道徳教育に関する基礎的理解を踏まえたうえで、多様な道徳授業論・指導法を学習し、道徳の学びとは何かという問いを軸にしながら道徳の実践方法の幅広さを学ぶ。これらの知識理解の基、道徳授業の指導案作成やグループワーク・ピアレビューなどの協働的な学びを通して、授業計画を吟味し改善する多様な視点を得る。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育方法学	○	本授業では、教育方法として一般的に想起される一斉授業の形態を、歴史、現代の動向、教育目的の変化、学習観、学び合い、学習環境デザインといった視点から批判的俯瞰的に捉え直し、教育方法の多様なあり方を学習する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		生徒指導と学校カウンセリング	○	（1）生徒指導の意義と原理と課題を理解する。 （2）学校カウンセリングの方法を含む生徒指導の多彩な進め方を理解する。 （3）生徒指導上の個別の課題とそれぞれの対応について理解する。 （4）組織的な対応、特に連携を重視した取り組みのあり方を理解する。 （5）保護者理解と保護者連携について理解する。	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目		小学校教育実習Ⅰ	○	大学および小学校（附属小学校・本庄小学校・西与賀小学校）にて行う ・事前指導（全体）　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導　リフレクション ・事後指導　講義、リフレクション	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目		小学校教育実習Ⅱ	○	※本講義は、幼少連携教育コース（幼小発達教育専攻、特別支援教育専攻）、小中連携教育コース（初等教育主免専攻）の学生を対象に、関連科目「小学校教育実習Ⅰ」と一緒に履修する。 大学および小学校（附属小学校・本庄小学校・西与賀小学校）にて行う ・事前指導（全体）　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導　リフレクション ・事後指導　講義、リフレクション	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目		幼稚園教育実習Ⅰ		大学のほか、附属幼稚園あるいは佐賀市内の幼稚園、認定こども園において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、留意事項 ・教育実習：　実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目		幼稚園教育実習Ⅱ		※本講義は、関連科目「幼稚園教育実習Ⅰ」と一緒に履修する。 大学のほか、附属幼稚園あるいは佐賀市内の幼稚園、認定こども園において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、留意事項 ・教育実習：　実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育科目	初等教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目		教職実践演習（幼・小・中・高）	○	教師としての専門的力量形成を図るために、4年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を育成する。教員として求められる以下の４つの事項を踏まえ、４年間で学んだ理論と実践の統合を図り、実践的指導力を有する教員としての資質を確認する。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項　②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項　④教科・保育内容等の指導力に関する事項	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	国語学概説Ⅰ	○	現代日本語の特徴について音声・音韻・語彙・方言・文法の側面から学び、日本語のしくみについて考える。身近な言語事象を通して学ぶことで現代の生きた日本語の基礎知識を身に付けることを目指す。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	国語学概説Ⅱ	○	授業の前半では、現代日本語の文字・表記、待遇表現の特徴について基礎的な知識について学ぶことで、日本語で表現するための基礎力を身に付ける。授業の後半では、日本語による表現力を高めるため、さまざまな種類の文章を作成し、相互評価を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	国語学演習Ⅰ		第１回から第５回では、国語教育において日本語を分析できる力の重要性および日本語について調査・分析する方法を学ぶ。第６回以降は、各自がテーマを見つけて実際に調査・分析を行った内容を発表し、話し合いを行う。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	国語学演習Ⅱ		教科書で扱う古典作品を中心に、古語や表現に着目して読み味わう。合わせて古典文法や当時の文化に関する知識を確認し作品理解を深める。後半は作品ごとに分担を割り当て、受講者の発表を取り入れて作品を読み進める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	国語学演習Ⅲ		日本語学（国語学）の研究分野の中から、語彙と文章表現を中心に、文字・表記、意味変化、文法などを取り上げ、課題の発見のしかたと研究方法について学ぶ。前半は、語彙を中心に解説しながら簡単な課題について考える。後半は、受講生各自が興味を持った研究分野・研究対象を選び、簡単な調査を行い、データを分析・考察して資料にまとめて発表を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国文学(国文学史を含む。)	国文学論		講義の10回分は、近代文学史（主に小説）における重要なトピックを辿りながら、歴史的な展開について講義を行う。高校までのように、単に作家名と作品名を覚えるだけではなく、実際の作品に触れながら立体的に理解できるよう授業を進める。残りのうち4回で、語り手や人称、小説の構造など、文学作品を理解する上で重要な事項を具体的に取り上げ、グループワークをしながら作品を読んでいく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国文学(国文学史を含む。)	国文学演習Ⅰ		国語辞典を読む。「ことば」というものを自覚的に認識する習慣を身に付けることを目指す。国語辞典はふつう引くものであるが、本授業では語釈を始め、用例・語誌などを丁寧に読む。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国文学(国文学史を含む。)	国文学演習Ⅱ		古典の原典を読む。崩し字の文字が読めるようになることを目指す。古典の作品を、活字本ではなく、古典時代の読者とおなじ原典で読む。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国文学(国文学史を含む。)	国文学演習Ⅲ		江戸の都市空間と藩邸。江戸後期の社会・生活・文化・学問などを理解することを目指す。柳河藩士牧園茅山の江戸滞在日記（文政2年6月）の日記を読む。その日、江戸で何があったかを観察しながら、江戸の都市空間とそこに生きる一漢学者の生活を読み解く。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	国文学(国文学史を含む。)	国文学演習Ⅳ		古典と仮名遣い。仮名遣いの本質を認識することを目指す。規範仮名遣いの歴史をたどる。こんにちの現代仮名遣いの意味を理解する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	漢文学	漢文学概説Ⅰ	○	中国古典文学における重要な事項を取り上げて、それに関連する様々な時代の資料を読み、漢文の表現や主題について理解を深めていく。前半は、対句や韻律といった漢詩特有の表現技法について考察し、後半は作品のテーマやモチーフについて検討していく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	漢文学	漢文学演習Ⅰ		演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『蒙求』の内容を読解する形で授業を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	漢文学	漢文学演習Ⅱ		漢文を読むために必要な辞書や工具書を紹介した後、演習形式で作品を読み進めていく。高校の漢文教科書に載っている詩歌を主に取りあげて精読する。毎回、担当者を決め、原文の訓読・日本語訳と注釈を発表してもらう。担当者以外も毎回、必ず予習をしておくこと。質疑応答、討論など授業への積極的な参加を求める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	漢文学	漢文学演習Ⅲ		漢文を読むために必要な辞書や工具書を紹介した後、演習形式で作品を読み進めていく。白居易の詩歌を取りあげて精読する。毎回、担当者を決め、原文の訓読・日本語訳と注釈を発表してもらう。担当者以外も毎回、必ず予習をしておくこと。質疑応答、討論など授業への積極的な参加を求める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	書道(書写を中心とする。)	書写	○	小学校および中学校の国語科書写の学年目標を理解し、楷書や行書の特徴と基本点画、仮名との調和等について学ばせる。この授業は中学校の実務経験を有している教員が書写の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	書道(書写を中心とする。)	書道Ⅰ		北魏・唐時代の楷書の古典を中心に鑑賞・臨書に取り組むことにより楷書の特徴を捉え、用筆法・運筆法・字形の取り方等についても学ばせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	書道(書写を中心とする。)	書道Ⅱ		行書と草書の古典作品の鑑賞と臨書を通して、多様な美を理解しながら表現技法を学ばせる。また、その表現技法を生かし、行草作品の創作に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	書道(書写を中心とする。)	書道Ⅲ		篆書は甲骨文・金文・大篆・小篆、隷書は古隷・八分、および簡牘を取り上げ、その鑑賞と臨書を通して、二つの書体の用筆法や字形について学ばせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	書道(書写を中心とする。)	書道Ⅳ		仮名の基礎的な技法を習得し、臨書や散らし書きの学習によって仮名の美を学ばせる。また、漢字仮名交じりの書の基礎的な制作方法を身につけ、自分の思いにかなった制作に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	書道(書写を中心とする。)	書道史		「書の歴史」について、代表的な書体の変遷と、主要な書人をとりあげてその書風や、各時代の書の捉え方、展開について論じる。さらに、我々が現在使用している文字の成り立ちや芸術性、その指導の重要性についても考える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	書道(書写を中心とする。)	書論・鑑賞		歴代書論の理解と、制作における理論の把握についての重要性は、学習指導要領にも示されており、それらの素養を身に付ける授業である。代表的な書論の講読力を身に付けるとともに、代表書跡に付せられた題跋等の講読を通じた書跡理解力や鑑賞力も養成する科目である。また、鑑賞については、書跡の歴史的・技法的深化を踏まえ、直観力を身に付けることに繋げていく。 ＊ 高等学校芸術科書道 学習指導要領内容B 鑑賞 ・書の美の多様性と作品の特徴、書論による書の理解と鑑賞の深化をはかる。 ・日本及び中国の書の伝統と諸文化との関連をはかり、書文化の継承と創造への関心を高める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等国語科指導法Ⅰ	○	本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等国語科指導法Ⅱ	○	本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等国語科指導法Ⅲ	○	本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解を深めるとともに指導法について考察することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等国語科指導法Ⅳ	○	本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解を深めるとともに指導法について考察することである。本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	書道科教育法Ⅰ		書道科年間指導計画の作成や、漢字の書の「楷書と行書」の教材を使用し、学習指導案の作り方を知り、教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）（＊R4入学生～情報通信技術の活用を含む）授業実践の研究に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（国語科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	書道科教育法Ⅱ		「仮名・漢字仮名交じりの書・篆刻・刻字」の教材を使用して、学習指導案の作り方を知り、教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）＊R4入学生～（情報通信技術の活用を含む）、授業実践法研究に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	日本史特講Ⅱ（近現代）		本講義では、近世と近代の日本史の時代ごとに代表的な事象について、さまざまな史料を読みながら、学び直していく。また、映像資料や被災史料もとりあげ、その有効性についても考える。この授業を通して、さまざまな史料の読解を通して古代から中世まで各時代の特質について理解を深め、史料読解に基づいた教材研究の手法を実践的に身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	日本史特講Ⅲ（近世史）		近現代日本の歴史が民衆にとってどのような時代であったのかを考えるため、国家や中央の政治家・官僚・軍人にとっての歴史ではなく、地域に生きる民衆にとっての歴史という視点から日本近現代史について講義を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	日本史特講Ⅳ（中世史）		「武士」の発生以降、近世初頭に属する豊臣政権の成立前後までの約650年間を対象とした日本社会の諸相を多角的に検討しながら、歴史学を追究するための基本的な方法論―多様な史料の扱い方、歴史的事象への客観的視点などー について解説していく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	日本史特講Ⅴ（古代史）		日本原始・古代の歴史に関する重要テーマを考古学的研究も混じえて、概説していく。講義は、高等学校用の教科書や大学の入試問題にこれらの論点がどのような形で現われているのか注意しながら、進められる。原始・古代の社会・文化が日本史を通じての基層を構成していることに関して認識を深めながら、日本原始・古代の歴史研究の成果と現状を学んでもらえれば、と考えている。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	世界史概説	○	中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、基礎的かつ包括的な講義をおこなう。その際、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。また、トピックによっては、日本の事柄とも関連づけながら理解を深めていきたい。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	世界史特講Ⅱ（西洋史）		教育、経済、政治、都市構造、市民生活などの様々なテーマを用いて、近代社会のターニングポイントとなった19世紀の社会を理解する。同時に、19世紀後半は西洋諸国が本格的にアジアへ進出した時代であり、本講義では、フランス外交の視点から、アジア進出における西洋諸国の力関係、日本へと進出した目的、日本へ赴任した外交官の特徴などを学んでいく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	世界史特講Ⅲ（東南アジア史）		東洋史を要説する。世界史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けてアジア・日本諸地域の歴史を、東洋史のなかに立体的に定置概観する。アジアの諸文化の多様性・複合性と現代世界の特質を解説する。我が国の歴史と文化の多様性を、日本と東南アジアを東洋史の枠組みのなかで理解できるようにする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	日本史演習Ⅴ		日本近世～近代史の研究手法や最新の研究史・歴史観を理解することを目標として、日本近世～近代史に関する研究文献を読み、歴史学の手法や最新の研究史、歴史の見方を学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	日本史演習Ⅵ		日本近世史研究史上の重要テーマを概観する。高等学校用の教科書や大学入試にこれらの論点がどのような形で現れているのか、問題演習の形で取り扱う。歴史研究の成果に歴史教育が無関心であってはならないことを意識しつつ、近世史研究の成果と現状を学んでいく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	西洋史演習Ⅰ		近現代のグローバル・ヒストリーに関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識などを学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	西洋史演習Ⅱ		歴史修正主義に関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識を学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションを行う。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	西洋史演習Ⅲ		日本から見た世界、世界から見た日本をテーマとした文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識などを学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	日本史・外国史	西洋史演習Ⅳ		近現代ヨーロッパ史・アメリカ史に関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識を学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションを行う。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	地理学（地誌を含む。）	自然地理学概説	○	本講義では主に気候学と地形学を中心に取り上げて、講義形式で授業を行うが、教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、地図を用いた解析作業を何度か行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	地理学（地誌を含む。）	自然地理学特講Ⅱ		本講義では主に地形学分野を中心に取り上げて、講義形式で授業を行うが、教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、簡単な解析作業を何度か行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	地理学（地誌を含む。）	地誌学概説	○	中学校社会科地理的分野≒地誌学習と言われることがあるが、区分された地域ごとに①自然環境、②人口、③産業、④交通などを平板に列挙するのではなく、地域の特色や地域間の結びつきを理解させなければならない。そこで、地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを通して、特色や結び付きを考察していく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	地理学（地誌を含む。）	自然地理学演習Ⅰ		この演習では、机上作業として地図読解を行って、地形分類図やハザードマップなどの主題を作成し、その成果をもって現地調査（フィールドワーク）を行い、その図が現実とマッチしているか、演習後半に確認作業（グランドトゥルース）の現地調査を実施する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	地理学（地誌を含む。）	自然地理学演習Ⅱ		本演習では、修学旅行や社会科見学を想定し、特に「自然環境」「土地利用」「産業」に着目して企画を行って、実際に現地調査・現地観察を行い、その学習効果を確認する。グループワークが主であるが、適宜講義も行って、知識の涵養に努める。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	地理学（地誌を含む。）	自然地理学演習Ⅲ		本演習では、まずGISの理論を学び、次いでGISを用いて実際に主題図を作成して、その操作法や解析方法を学ぶ。最後に、現地調査を行ってデータを収集し、それをもってGISにて主題図の作成、および解析作業を行って、実践力を養う。本演習では、デジタル機器を用いた測量を行って、GISで地形解析を実施する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	地理学（地誌を含む。）	自然地理学演習Ⅳ		本演習では、特に「内・外水氾濫」と「地震災害」に着目し、序盤はこれらの基礎的理解を深めるため、国内外の論文講読を行う。次に、災害地の調査法を学び、実際に被災した地域を訪れて調査・観察を行う。最後に、調査地のハザードマップの作成を行う。これらを通じて、実践力を養い、児童・生徒に対して災害大国日本で生き抜く術を教授できる教員の育成を図る。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	法律学・政治学	法律学概説	○	本講義では、担当教員が、出来るだけ具体的な社会問題を取り上げつつ、そこに含まれている法的論点を解説する。法と道徳の比較、いじめ問題など学校現場における法や人権のあり方、裁判員制度を念頭に置いた法教育に触れながら、憲法・刑法・民法の基礎知識を習得する。その上で学期後半では、交通事故という身近で具体的な問題を取り上げ、刑法や民法に関する法的知識を応用しつつ考察する。講義を通じて、法の基本的な考え方や仕組みにつき、受講学生に馴染んでもらうと共に、個々の問題とそれに対する（法的）対処を共に考える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	法律学・政治学	法律学特講		憲法の基本理念・基礎知識について説明した上で、社会的に不利な立場にある人たち（マイノリティ）の「人権」をめぐる法的論点や社会状況について講ずる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	法律学・政治学	政治学概説Ⅱ		本講義の内容は、以下の三つのパートからなる。 ①政治の概念：政治を理解し、政治について議論する上で重要な概念をいくつか取り上げ、その概念の歴史的背景と意義について学ぶ。 ②戦後日本の政治：戦後の日本の政治状況がどのように形成されたのかを学ぶ。 ③現代政治の諸問題：現在我々が直面している政治的課題について、上記の議論をふまえて考察する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	法律学・政治学	政治学特講Ⅱ		本講義では、西洋政治思想の基礎知識を学ぶ。具体的には、政治思想の発展に大きな影響を与えた思想家を取り上げて、その著作（いわゆる古典）を解説していくが、その際にたんに結論だけを紹介するのではなく、彼らが具体的にどのような問題に直面し、それに対してどのようなアプローチで答えようとしたのかという思索のプロセスに重点を置いて説明する。また、学生どうしで討論する時間を設け、現在の政治問題を政治思想の観点から分析し、解決策について議論する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	法律学・政治学	法学演習Ⅰ		「家族・結婚・ジェンダーをめぐる法」に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、家族をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	法律学・政治学	法学演習Ⅱ		法的／倫理的責任を論じた（複数の）テキストを指定し、講読する。担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	法律学・政治学	法学演習Ⅲ		生命倫理に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、人が〈生まれること／生きること〉をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	法律学・政治学	法学演習Ⅳ		生命倫理に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、人が〈死ぬこと／死なせること〉をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	社会学・経済学	社会学概説		講義では、社会学的なものの見方の基礎に親しんでもらうことを目標にしながら、社会とその中で生きる私たち自身について複眼的に考えるテーマを扱っていく。社会学をつうじて、「あたりまえ」から距離をとり、ふだんその中に（それを前提に）成り立っている学生自身の姿を再発見する。この講義は、そうした考察に向けて皆さんを案内するための「はじまりの地図」のようなもの。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	社会学・経済学	社会学特講		私たちの生きている現代社会は、とても複雑で不透明です。この講義では、そんな現代社会と、その中に生きる私たち自身の姿を知るための方法（のひとつ）として、社会学的なものの見方・考え方を紹介・解説する。現代社会には、性急で過度な一般化（わかりやすさ）が溢れています。そのこと自体、現代社会の捉え難さ・不透明さの裏返しなのかも知れません。しかし「現実」の複雑さや奥行きは、私たちの常識も含めて、そうした「わかりやすさ」を一度疑ってみることの先にようやく見えてくる。そうした発見と思考のアップデートを皆さんに経験してもらうために、社会学の視点から具体的な社会現象・社会問題を取り上げつつ、講義を進めていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	哲学、倫理学、宗教学	倫理学概説	○	過去の主要な哲学者たちの倫理思想と応用倫理学の諸分野について概説する。授業は基本的に講義形式で行うが、倫理的問題について双方向的な意見交換の機会も設ける。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	哲学、倫理学、宗教学	哲学概説		哲学についての基礎的知見を獲得することを目標として、哲学の諸分野、哲学の歴史、および哲学の現代的諸問題について講義を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	哲学、倫理学、宗教学	倫理学特講		この授業では、近現代の西洋倫理思想の流れを寛容論の観点から再検討する。グローバル化の進行する多文化社会においては、さまざまな差異をもつ人びとの間の交渉と共存の技法について、考えを深めておくことが大切である。そのためのヒントを代表的な哲学者の倫理思想のうちに探っていく。授業は基本的に講義形式で行うが、適宜、倫理的問題についてグループ・ディスカッションをする機会も設ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	哲学、倫理学、宗教学	倫理学演習Ⅰ		この演習では、近現代西洋の代表的倫理学者の著作の抜粋を読み、彼らの提起する問題について考え、参加者全員で議論する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	哲学、倫理学、宗教学	倫理学演習Ⅱ		この演習では、近現代日本の代表的倫理学者の著作の抜粋を読み、彼らの提起する問題について考え、参加者全員で議論する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	哲学、倫理学、宗教学	倫理学演習Ⅲ		応用倫理学の諸分野の中から、特に生命倫理・環境倫理・社会倫理をとりまく諸問題を取り上げて、担当者の口頭発表に対して参加者全員でディスカッションする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	哲学、倫理学、宗教学	倫理学演習Ⅳ		人類の長い歴史においては、宗教が倫理思想をはぐくむ土壌となってきた。それぞれの地域の倫理思想の特色を理解し異文化理解を深めるうえで、宗教に関する基礎知識は必要不可欠である。この授業では、世界の諸宗教に見られる倫理思想についてその概要を紹介し、参加者の議論を通して理解を深める。授業の中では、宗教と現代社会をめぐる問題についても考察する。授業は、テーマごとに、三つのプロセス（教員による概要の説明、文献購読、担当者による口頭発表とディスカッション）を繰り返す形で進行する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰ	○	第１～３回：学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校公民科の全体構造を学習する。 第４～９回：学習指導要領の下で行われている授業づくりの意義と課題を学習する。 第10～15回：教科書を主教材にした授業づくりの方法を学習し体験する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰ	○	本授業では、学習者の社会科観を再構築することを目的とし、外国等の事例などをもとに多様な実践・目標観を比較・検討する。そののち、自身の目標観に基づき指導案を作成・実施・再検討する演習を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等社会科指導法（社会・公民）Ⅱ	○	第１～15回：中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰの成果を踏まえて授業の分析や授業づくりに取り組む。 第１～７回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を学習する。 第11～15回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を活用する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（社会科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅱ	○	本授業は中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰの応用である。前半は評価論の概説とそれに基づく自身の授業評価演習、後半は中・長期的カリキュラム・マネジメントの必要性と重要性に関する概説とそれに基づく中期的カリキュラム作り演習で構成している。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	代数学	代数学基礎	○	行列や行列の演算に関する基本的事項から始め、行列の基本変形、行列を用いた連立一次方程式の解法、逆行列の求め方や行列式の計算などについて講義、演習を行う。また抽象的なベクトル空間を学ぶための準備として、数ベクトル空間の基底や次元について解説する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	代数学	代数学序論	○	ベクトル空間、内積と直交性、行列の固有値と対角化についての解説及び演習を行う。様々な数学分野、物理学等の他分野へ線形代数学がどのように活用されているかについて学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	代数学	代数学講義	○	代数学の基盤となる群論と環論について扱う。群および環についての基本的性質および応用について理解する。様々な例や問題を通して、性質や概念をしっかりと身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	幾何学	幾何学序論	○	現代数学の言語である集合、写像について講義する。特に集合、写像、同値関係、濃度、順序関係などの重要項目について詳しく解説する。証明を中心に講義を展開していくが、何をどのような手順で示しているかを説明しながら進めていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	幾何学	幾何学講義	○	現代の幾何学の中心の１つである微分幾何学の基本的事項について、曲線(平面曲線、および空間曲線)を題材に解説する。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	解析学	解析学基礎	○	１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について解説する。微分積分が物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	解析学	解析学序論	○	１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について解説する。微分積分が物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	解析学	解析学概論	○	多変数関数の微分積分学、フーリエ級数論の基礎的な内容について解説する。それらが物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	解析学	解析学講義	○	微分積分学を深く理解するためにその論理的側面（諸定理の証明）について詳しく学ぶ。証明問題の演習も重視する。履修生が少数の場合は、彼らに黒板で諸定理等の証明を説明させ、その後で質疑応答を行うセミナー形式を（部分的に）取ることもあり得る。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	確率論、統計学	確率統計学基礎		統計的データを見る視点やデータを纏める方法を解説する。また、統計学ではデータの背後に確率モデルが設定されるので、統計的データを理論的に考察するには確率論の素養が不可欠である。確率についての基本的事項を丁寧に説明する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	コンピュータ	コンピュータ	○	Python、Scratchなどのプログラミング言語、Mathematica、SageMath、Sympy（Pythonのmodule）などの数式処理ソフトおよびlatexを用いたコンピュータ演習を行う。小学・中学・高等学校数学科、大学数学(微分積分学/線形代数学)の内容を中心に、実際に数値実験・プログラミングを行い、その問題と解法についての理解を深め、数学教育、成績処理等におけるコンピュータの活用法について考える。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （15 川中子　正／14回）第1回～第7回、第9回～第15回を担当する。 （94 大林　将呉／1回）第8回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	数学特論		受講者の理解度に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。 教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために、受講者に発表の機会を与える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	数学研究Ⅰ		受講者の理解度に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。 教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために、受講者に発表の機会を与える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	数学研究Ⅱ		受講者の理解度に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。 教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために、受講者に発表の機会を与える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	数学教育学研究Ⅰ		受講者の理解度と興味関心に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。教員としての説明力や信念を身に付けさせるために受講者に発表の機会を与える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	数学教育学研究Ⅱ		受講者の理解度と興味関心に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく。教員としての説明力や信念を身に付けさせるために受講者に発表の機会を与える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等数学科指導法Ⅰ	○	数学教育学の基礎的原理・方法について理解し、数学の教科としての存在意義についての認識を深めるとともに、具体的な授業構成のための基礎知識を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等数学科指導法Ⅱ	○	中学校・高等学校数学科の学習指導に関して、学習指導要領に示された目的、内容を理解するとともに、基本的な学習指導理論をもとに、具体的な授業設計を行う。また、学習環境デザイン視点から、教材開発の資質・能力を高める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等数学科指導法Ⅲ	○	中学校・高等学校数学科で指導される学習内容を概観し、それぞれの教材の背景的知識を理解する。また、単に教科書の内容を分かりやすく教えるということにとどまらず、生徒にとって望ましい学習環境のデザインという視点から、教材開発の資質・能力を高める。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（数学科）	教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等数学科指導法Ⅳ	○	中学校・高等学校数学科の学習指導に関して、学習指導要領に示された目的、内容を理解するとともに、基本的な学習指導理論をもとに、具体的な授業設計を行う。また、学習環境デザイン視点から、理解教材開発の資質を高める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学	基礎物理学Ａ	○	1 理科離れの現状 ： 産業界と教育現場、学年進行（他教科との比較）、嫌いになる理由（小学校から潜在する理科離れ）、実験の功罪と本来の目的 2 現状打開への試み ： 現職教員の活動(物理サークルなど)、進学校と入試問題 3 生徒の先入観 ： 放物運動の例、運動量と力の混同、先入観の力学体系、力学的自然観、先入観を利用する教育(意志の力と体重計の実験など)、先入観を知っておく 4 教育の改善 ： 電流の誤概念(小学校で身につけ中学校で破綻する電流概念)、海外の研究、改善案(負担と効果)、授業担当者による工夫(授業方法の要点と教育効果)	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学	物理学概論Ⅰ		1 力学の基本 ： 力と釣り合い、運動の表し方、運動の法則、簡単な運動 （力学の中心課題は、原因=受ける力によって結果=運動がどうなるか) 2 力学の展開 ： 保存則（力とその蓄積を区別する)、慣性力、剛体の力学（教育用実験器具の盲点） 3 熱 ： 熱と分子運動、熱機関	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学	物理学概論Ⅱ		1 波 ： 縦波/横波などの基本概念、弾性体振動の方程式(媒質イメージを確立する)、屈折などの波の諸性質、光は粒子か波か?(探求の歴史) 2 電荷と電場 ： 電気回路(抵抗/コンデンサ)、電場、電荷間力、電荷の保存(電流に関する誤概念) 3 磁気 ： 磁気に関する基本概念、電流と磁場、物質の磁性、 （補足）ベクトル解析とその応用 4 電磁気学の完成 ： 電磁誘導の法則、マクスウェルの方程式、コイルと変圧、電磁波 5 相対論への道 ： 光の媒質と絶対静止、特殊相対性理論、力学と電磁気の関係	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学	エネルギー科学		序論 ： 学習指導要領、資源枯渇と文明崩壊 1 エネルギー資源 ： エネルギーの保存、エネルギー変換 2 気体分子運動論 ： 状態方程式、気体の変化、比熱、熱の移動、大気圧と高度 3 エントロピー ： エネルギーのリサイクル不可能性、エントロピーの定式化、断熱変化とエントロピー、熱機関(エントロピーから見る) 4 資源・エネルギー問題 ： エネルギー節約の物理的意味、将来のエネルギー需給、枯渇性エネルギー資源の見積もり	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学	量子物理		1 原子・分子 ： 原子・分子論、気体分子運動論 2 原子の構造 ： 電子の発見、原子核の発見 3 量子論への展開 ： エネルギー量子、光の粒子性、原子スペクトル、2つの新しい力学 4 量子力学 ： シュレーディンガー方程式、簡単な場合の解 5 波動関数の解釈 ： 確率解釈、確率解釈への反論、トンネル効果 6 量子力学の応用 ： テーマは受講者の興味に応じて選択	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	化学	基礎化学Ａ	○	物質を構成する粒子やその結びつき方など、物質の基本を講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（発展性）を意識させる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	化学	化学概論Ⅰ		物質の状態及び物質の変化について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	化学	化学概論Ⅱ		物質の変化について講義する。「化学 Ⅰ」の「物質の変化（入門編）」の回の詳細編である。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	化学	物理化学		無機物質について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	化学	無機・有機化学		有機化合物及び高分子化合物について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。有機化合物及び高分子化合物については、小学校と中学校において扱う内容は少ないので、生活の中で多く触れる（身近に存在する）物質を主に講義する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	生物学	基礎生物学Ａ	○	ヒトを中心とする生物の体のつくりと機能について、高校生物を未履修のものでも理解できるようやさしく通説してゆく。この講義を通して、ヒトを中心とした動物の構造や機能は必然性を持っていることを理解し、巨視的、体系的に生物学を理解して欲しい。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	生物学	生物学概論Ⅰ		生物の基本的なしくみとはたらきを高校生物の内容を交えながら、高校生物を未履修のものでも理解できるようやさしく通説してゆく。個体の大小や組織での機能に関係なく、細胞は生物を構成する基本単位である。その細胞がどのような構造を有し、いかに機能し個体を維持しているかについて講義する。この講義を通して、ヒトを含んだ様々な生物の構造や機能は必然性を持っていることを理解し、巨視的、体系的に生物学を理解して欲しい。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	生物学	生物学概論Ⅱ		動物は、外部環境の変化を瞬時に判断し適切な行動をおこなう。これには、それぞれの生活環境に適応した多彩な感覚受容器及び、その情報を伝える神経細胞が重要な働きをしている。この講義では、ヒトを含む様々な動物の神経系及び受容器に焦点を当て、動物の体の巧妙なしくみについて深く理解させる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	生物学	生命科学		動物生理学分野の実験手法や実験データを理解するすべを講義、トレーニングする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	生物学	理科フィールド演習A		野外実習を行い、講義で学修したことを野外で体験させ、生物や地学の専門性を高める。地学と生物を同時に行うことで、領域を跨いだ学修を行う。また、野外実習をとおして集団行動や協調性、コミュニケーション能力の向上を図る。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	地学	基礎地学A	○	中学校や高校教員（理科）として基礎的な内容を講義する。（１）はじめに地球の形と重力、地磁気について説明し、地震波と地球の層構造の関係について講義する。（２）（１）を踏まえて、プレートの運動によって、火山や地震が起きることを講義する。（３）はじめに太陽系に最も影響を及ぼす太陽の構造や特徴について説明し、次の太陽の周りを公転する各惑星の特徴を説明する。太陽系の恒星や惑星の特徴を踏まえたうえで、他の惑星と地球との違いを理解させる。（４）地球を取り巻く大気圏の構造について説明し、対流圏で起こる雨や低気圧、台風などの身近な気象現象の仕組みについて理解させる。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （5 角縁　進／3回）第1回～第3回を担当する。 （59 髙島　千鶴／4回）第4回～第7回を担当する。 （5 角縁　進・59 髙島　千鶴／1回）（共同）第8回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	地学	地学概論Ⅰ		中学校や高校教員（理科）として基礎的で必要な内容を講義する。(1)は地球の形成過程とそれによる地球の形、大きさ・内部構造などについて講義を行う。(2)はプレートテクトニクスの３つの境界と、そこで生じる地質現象を講義する。（3）鉱物の結晶構造について理解し、マグマと火山噴火との関係・火山災害について講義する。(4)地震活動について	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	地学	地学概論Ⅱ		中学校や高校教員（理科）として基礎的で必要な内容を講義する。(1)は大気と海洋の構造や運動を踏まえ、大気と海洋との間に起こるエネルギー循環を理解させながら、気象現象について講義する。(2)は地球誕生から順に追って、現在までの環境変遷と生物進化の関連性に焦点を当て講義を行う。（3)は(1)と(2)を講義したうえで、地球環境問題を取りあげ、科学的な説明をして、解決策等を考えさせる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	地学	地球科学		（１）鉱物学と岩石学の基礎からマグマの生成過程や多様性について講義する。（２）「気候変動と生物進化」についてより専門的な内容と最新の研究結果を交えながら講義する。太陽系の中で現在唯一生命が確認されている「地球」の特異性を説明し、地球と生命（微生物～人類まで）が、どのように相互作用してきたかを講義する。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （5 角縁　進／6回）第1回～第6回を担当する。 （59 髙島　千鶴／9回）第7回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	地学	理科フィールド演習B		野外実習を行い、講義で学修したことを野外で体験させ、地学や生物の専門性を高める。地学と生物を同時に行うことで、領域を跨いだ学修を行う。また、野外実習をとおして、集団行動や協調性、コミュニケーション能力の向上を図る。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	基礎物理学実験	○	1 誤差と近似 ： 誤差論、測定誤差の見積もり、有効数字、近似、ノギスと副尺 2-1 力学実験器具と回転運動 ： 斜面を転がる物体、剛体振り子 2-2 電磁誘導 ： 速度や磁力などと起電力の関係、変圧 2-3 太陽電池の特性 ： 基本的性質、電流-電圧特性、化学電池・ダイオードとの比較 2-4 真空放電と断熱変化 ： 水の凝固、圧力-温度測定(熱単元の実験の困難性)、真空放電 3 作成を伴う実験 ： 簡易分光器の作成、電子回路の作成など 4 挑戦的テーマ ： 先輩が取り組んでいない、又はその先のテーマに取り組む	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	基礎化学実験	○	初等・中等教育段階で行われる化学実験を体験させ、初等・中等教育段階の水準以上の実験操作を体験させ、実験時に要される技能を気付かせる。小学校・中学校および高等学校で行われる実験に要する技能水準と比較しつつ、その関連性及び発展性に気付かせ、熟達への意欲を醸成する。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	基礎生物学実験	○	実験観察を通して自信を持って小・中・高の学校現場における生物実験を実施できるようにする。初等・中等教育の生物実験指導能力を身に付ける。小、中学校および高等学校での学習内容に関する実験を主に扱う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	基礎地学実験	○	地学に関する実験・実習を行なう。主に小学校・中学校・高校で行う実験や観察を扱い、その際に方法や観察のポイントや実験における安全面での注意点を説明する。また、実験器具の扱い方や管理の仕方についても説明する。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （5 角縁　進／7回）第1回～第7回を担当する。 （59 髙島　千鶴／8回）第8回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等理科指導法Ⅰ	○	中等理科教育に関する目的論、カリキュラム論、学習指導方法論、自然認識論、評価論等の各領域について概説する。また、実際の授業実践を想定し、具体的な理科の学習内容についても取り上げていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等理科指導法Ⅱ	○	中等理科教育法の教材研究から授業構想までのアプローチを各論的に取り上げて説明を行い、その内容に関する理解を演習的な活動で深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等理科指導法Ⅲ	○	指導法の理論や学習者の自然認識、評価、ＩＣＴ活用など、中等理科教育法１および2での学修を踏まえて教材研究や授業作りを行い、模擬授業や授業提案を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（理科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等理科指導法Ⅳ	○	中等理科教育における授業実践について、教材の特性や指導法の理論、学習者の自然認識、評価方法、ICT活用などの観点から分析・評価する。また、授業実践の省察などを通して、学習構想、指導支援の方策の提案、教材作成、模擬授業などを行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	ソルフェージュ	ソルフェージュ基礎	○	音高、音価、リズムの把握等について、視唱や聴音（旋律・和声等）の課題を含む様々な課題を通じて、教育活動や演奏の場面に活かせるソルフェージュ力をバランスよく養う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	ソルフェージュ	ソルフェージュ応用A	○	新曲視唱（テノール記号・アルト記号を含む）、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々な調性によるカデンツ奏などの課題を与え、さらに高いソルフェージュ力をバランスよく身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	ソルフェージュ	ソルフェージュ展開Ⅰ		新曲視唱（テノール記号・アルト記号を含む）、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々な調性によるカデンツ奏などの課題を与え、ソルフェージュ力をバランスよく高める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	ソルフェージュ	ソルフェージュ展開Ⅱ		新曲視唱、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々なハ音記号による読譜課題を与え、ソルフェージュ力をバランスよく高める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽基礎Ⅰ（伝統的な歌唱を含む）	○	音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する為、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （93 小村　朋代／13回）第1回～8回、第11回～15回を担当する。 （463 林　直子／2回）第9回～第10回を担当する。）	オムニバス
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽基礎Ⅱ	○	発声の基礎を引き続き学びつつ、コンコーネ・イタリア歌曲集の教材を用い、言葉の発音や音楽的な表現について学びを深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽展開Ⅰ		声楽作品を演奏するための基礎的な知識と技術の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げることを目標として、声楽の基礎力を身に付けるため、イタリア歌曲集１・２を教材に用い指導を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽展開Ⅱ		声楽作品を演奏するための基礎的な知識と技術の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げることを目標として、声楽の基礎力を身に付けるため、イタリア歌曲集１・２を教材に用い指導を行う。目標として、声楽の基礎力を身に付けるため、イタリア歌曲集１・２を教材に用い指導を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽展開Ⅲ		日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえつつ演奏する力を養うことを目標として、日本歌曲を中心に指導を行い、日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえた上での演奏を実践出来るようになる。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽展開Ⅳ		日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえつつ演奏する力を養うことを目標として、日本歌曲を中心に指導を行い、日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえた上での演奏を実践出来るようになる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽展開Ⅴ		声楽作品を演奏するための基礎的な知識の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げることを目標として、作品解釈などのディスカッションを重ね、より良い演奏実現に向け指導する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽課題研究		音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中でも唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、様々な曲の歌唱における表現の幅を広げ、自分なりの考えを持って演奏出来るようになること。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	合唱	○	合唱の基本的な知識や発声法・表現法を身に付けることを目的とする。またアンサンブルにおける表現の向上を目指し、楽曲の練習から完成までの実践的な過程を学ぶ。また、合唱曲におけるピアノ伴奏についても学習する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ基礎Ⅰ	○	正しい読譜力・演奏技術の基礎を学ぶ。音楽の知識を修得し表現技術へ結びつけ、演奏に反映できることを目標として、ピアノを演奏する上での正しい指の基本動作を身につけ、技術・表現の基礎力を習得する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ基礎Ⅱ	○	読譜力・演奏技術の基礎を習得し、音楽の知識を表現技術へ結びつけ、演奏に反映できることを目標として、練習曲を中心課題とし、ピアノを演奏する上で必要な技術の基礎力を強化し、表現基礎を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ展開Ⅰ		読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。さらに、技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できることを目標として、古典派作品を中心とし、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力について考察する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ展開Ⅱ		読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。身体の使い方の変化を学ぶため、ロマン派作品を中心課題とする。ピアノを演奏する上で必要な技術基礎力を高め、ロマン派の幅広い表現手法へ反映できるようにする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ展開Ⅲ		読譜力・演奏技術の基礎を応用し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。さらに、技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映することを目標として、ピアノ協奏曲を中心に学ぶ。アンサンブルソリストとしての解釈により、音楽全体を捉える技術、聴覚、表現について考察する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ展開Ⅳ		読譜力・演奏技術の基礎を応用し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。これまでの技術と表現の結びつきを客観的に捉え、ロマン派後期～近現代作品を課題とし、文化の発展による楽器や演奏手法の変化を学び、幅広い演奏表現に対応できる音楽技能を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ展開Ⅴ		読譜力・演奏技術を発展させ、舞台での演奏表現を学ぶ。各時代様式の表現理解と特性から、舞台構成を視野に入れた課題を選曲する。基本的な音楽技能を展開し、人前での演奏表現手法を身に付ける。総合的知識を深めながら、ピアノの演奏技術、表現技術、楽曲分析力を高め、卒業演奏に向けて音楽技能の応用力を習得する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノ課題研究		読譜力・演奏技術を発展させ、楽曲分析から演奏技術への反映、音楽表現に必要な客観性へ結びつけることができる。専門性の高い音楽教員としての音楽技能を習得することを目標として、卒業演奏に向けて、舞台表現にふさわしい個々に適した作品を課題とし、卒業論文により学術的な知識を深めながら演奏表現に結びつけ、総合的に音楽技能を高める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	器楽基礎（和楽器を含む）	○	リコーダーの歴史、用いられた時代の演奏様式について学び、様々な様式、ジャンルの音楽の実習を行う。また、日本伝統楽器として琴、三味線等について広く学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （11 今井　治人／10回）第1回～第10回を担当する。 （463 林　直子／5回）第11回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	器楽展開		楽器奏法を習得する過程から器楽指導の実践で必要な知識・技能を身に付けることを目標として、各種リコーダーによる重奏の課題を通じて、器楽指導における実践的な知識・技能の演習をする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	日本伝統音楽実習		日本伝統音楽を習得し、学校教育現場で実際に実技指導を伴う授業を実現することを目標として、三味線を使い、童謡から長唄まで実技を体験し、日本伝統音楽の基本を学ぶ。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	器楽特別演習		器楽奏法の学修を深め、技術と表現を両輪とする器楽指導の実践で必要な知識・技能を身に付けることを目標として、受講生の演奏技術の向上に資するとともに、器楽指導における実践的な知識・技能の演習をする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	音楽実践課題研究		授業で培った演奏や研究への多様な視点を用いて自らの力で演奏や研究成果を構築できることを目標として、指揮・器楽の課題研究である。課題曲について技術と知識の両面から考察を深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	合奏	○	合奏の指導に必要な知識と技能を身につけ、指導に生かすことができることを目標として、楽器演奏を通して合奏の方法を学び、合奏指導で活用できる実践的な知識と技能を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	伴奏法演習Ⅰ	○	ピアノ伴奏の基礎知識、基礎技術を修得する。さらに、音楽全体を捉えることを目標として、音楽教員の授業展開に必要なピアノ伴奏の基礎技術や、主に学校教材の中の作品を取り上げ、楽曲全体の理解力を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	伴奏法演習Ⅱ		ピアノ伴奏の知識、応用技術を修得する。さらに、音楽全体を捉えることを目標として、音楽教員の授業を幅広く展開できるピアノ伴奏における様々な技術を学ぶ。楽器や形態の違う作品を取り上げ、楽曲全体の理解力や表現、鑑賞能力を高め、伴奏に反映する技術を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	指揮法	指揮法Ⅰ	○	音楽的な意図を明確に伝えるための基礎的な指揮法を身に付けることを目標として、ピアノを使った演習を行い、基礎的な段階から応用段階に至る指揮の技法について解説する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	指揮法	指揮法Ⅱ		音楽的な意図を明確に伝えるための基礎的な指揮法を身に付けることを目標として、ピアノ連弾を使った演習。スコアリーデングの習熟と共に応用段階の指揮法について解説する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	音楽基礎理論	○	音楽の基礎理論を理解し、読譜における基礎知識を習得する。基本的な楽曲分析ができることを目標として、基本的な楽譜上の理論を学び、楽曲分析や読譜における基礎力を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	日本・民族音楽概説	○	日本の伝統音楽の代表的な種目とその成立過程、音楽美のあり方や表現様式の特徴などを全般的に理解することを目標として、日本の伝統音楽の代表的な種目と、関連するアジアの諸芸能の例について、歴史の流れに沿って概説する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等音楽科指導法Ⅰ	○	音楽の指導法について歴史を含め多様な指導の在り方を理解するとともに、内容および方法の検討を行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに音楽科の指導法について検討する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等音楽科指導法Ⅱ	○	音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等音楽科指導法Ⅲ	○	音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（音楽科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等音楽科指導法Ⅳ	○	自身で設定した指導における課題を文献によって探究し、音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができることを目標として、文献および実践資料を通して指導についての理解を深めるとともに、それをいかした授業を構想し、実践することができる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	彫刻	彫刻基礎	○	彫刻芸術に講義・演習によって多角的にアプローチすることで、自分の表現や他人の表現を多角的に見る力を養う。彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を具体的な講義と演習によって理解する。彫刻を言語化するための基礎知識を学び、粘土、石膏、木材を使った演習を行う。知識を学び、言語化することで記録に残る彫刻作品の道筋を理解し、材料体験や技法体験を通じて、記憶に残る彫刻作品への道筋を理解する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	彫刻	彫刻演習		授業２コマ180分間、毎回受講者が二人組となりお互いにモデルをしながらモデリングを進行し、1回、又は２回の授業で完成を目指す。制作にスピード感が必要。教員は塑造による頭像の制作の手順や技法を解説し、実習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。１０回目以降は作品の石膏どりを行う。作品は毎回写真で記録を残し、講評の時に過去作品と比較して自分の成長を振り返る。受講者は作品の写真と、石膏どりをした「頭像」を最後に提出する。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	デザイン（映像メディア表現を含む。）	デザイン基礎Ⅰ	○	CGアプリケーションの基本的な使用方法を学ぶ。ポスター制作を通し、デザイン的な思考の基礎を学ぶ。言語を視覚化しコミュニケーションのための媒体としてイラストレーションポスターを制作する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	デザイン（映像メディア表現を含む。）	デザイン基礎Ⅱ		架空の商品のロゴの制作を通し、基本的な技能を習得し、デザインの基本についての理解を深めデザイン教育の基本的な能力を培うタイポグラフィーの基本的な理解を深める。ショート動画制作を通し、映像制作の基礎を学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	デザイン（映像メディア表現を含む。）	デザイン演習Ⅰ		絵本制作を通し、デザイン的な思考の基礎を学ぶ。文字等を含み応用する。言語を視覚化しコミュニケーションのための媒体として絵本を制作する。タイポグラフィーの基本的な理解を深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	デザイン（映像メディア表現を含む。）	デザイン演習Ⅱ		本授業では、実技制作を通してイメージする力や発想力の向上をはかる。また、学校現場では生徒作品の記録撮影が必要になるため、適切な記録方法やICT機器を使用したポートフォリオ制作方法についても習得する。映像メディア表現では、学校現場での指導を想定した映像作品の制作方法について学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	デザイン（映像メディア表現を含む。）	デザイン演習Ⅲ		現在住んでいる地域の魅力を県外に向けてPRするための広報物の制作を行うことで、地域の魅力をより深く知り、広報を通じて第三者へ効果的に伝達する方法を学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	工芸	工芸演習		「工芸演習Ⅰ」では応用的美術表現を中心に行っていく。すなわち自己完結型の表現活動を越えて他者との関わり（造形的コミュニケーション）を意識した制作活動となる。具体例としては「アートミュージアムショップ商品開発」の課題を設け、アート・商品・消費者（購買者）の複合的視点からより良い作品（架空の商品）の企画から制作までを実施できるようにする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術史概論	○	古今東西のさまざまな造形作品、資料を題材にして、さまざまな角度から美術史・文化史について教えます。具体的には、スライドやyou tubeを使ってさまざまな作品を見せながら授業を進めます。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	造形表現演習		造形表現の諸領域について、概説と演習を通じて理解を深めるとともに、それらの内容と教育実践とを接続しながら学修を進めることで、教材開発能力を高めていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等美術科指導法Ⅰ	○	本講義では、A表現に関わる中学校美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教科の歴史、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿ったA表現の授業について、指導計画を立案し短時間の模擬授業（デジタル機器やタブレット端末等のICT機器を適宜活用）を行うことで、授業方法の専門知識・技術を深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等美術科指導法Ⅱ	○	美術科教育の内容や教育方法について、社会状況との関係、異校種との連携・接続、教材・教具などの観点から多面的に学習を進めていく。試行実践も適宜行い、授業実践力の向上へつなげていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等美術科指導法Ⅲ	○	前半では情報機器を活用した表現学習の授業開発を行う。後半では鑑賞学習の授業開発を中心に学修を進め、模擬授業を行う。これらを通じて授業方法の専門知識や授業手法の理解を深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等美術科指導法Ⅳ	○	先行授業実践例に基づく授業研究を行うとともに情報機器の効果的活用を検討する。さらに、模擬授業へ向けた指導計画立案や教具作成等を行い、模擬授業を実施する。最終回のまとめにおいて、教育実習へ向けた課題整理を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	体つくり運動	○	本授業は、中学校、高等学校における保健体育教員として、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領における体力の内容及びその高め方等について理解するとともに実践的指導力を高めることを目的に、履修者自らが主体となり、体つくり運動の目的、内容、方法について実践し、心と体が一体であること、仲間とのかかわり方について学ぶ授業である。加えて、ＩＣＴの活用によるコミュニケーションの広がりと効果を目指す。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	器械運動	○	器械運動は、マット、鉄棒、平均台、とび箱などの器械、器具を使った「技」によって構成されている運動である。各運動種目では、自己の能力に応じて「技を習得する」「技が円滑にできる」ことをねらいとし、様々な運動課題の解決に取り組む学習指導が展開される。また、そこでの学習の対象となる運動は、非日常的驚異性と姿勢的簡潔性を特徴として、誰にでも有効で客観的な技術を持つ技が取り上げられる。特に、学習指導要領に提示されている技を中心に練習、習得していく。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	水泳	○	水泳指導の基本を身につけ、最終的には80分程度の連続泳ができるようになることを目指す。最初の3～4回は講義形式、残りの授業はプールでの実技形式で行う。水泳指導の基礎基本を学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	陸上競技	○	陸上競技の短距離種目、跳躍種目、投てき種目、中・長距離走種目の特性や科学的知識を理解し、基本的な技術を身につけ、自身の技術を分析することで、学校体育における陸上競技の指導法を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	ゴール型球技	○	ゴール型球技の代表的種目として、サッカー及びバスケットボールを取り扱うが、本講義ではバスケットボールを展開する。バスケットボールの競技特性を理解し、個人的・集団的スキルの習得とチームプレイや戦術について学習し、また、発達段階に応じたスキル指導の内容や方法等、指導方法、さらにルールや審判法についても理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （12 坂元　康成・461 片桐　章光／1回）（共同）第1回を担当する。 （317 片桐　章光／14回）第2回～第15回を担当する。	オムニバス・共同（一部）
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	ネット型球技	○	ネット型球技としてのバレーボールの技術構造、ルール、および練習方法などについて学習するとともに、試合を行うための審判・企画・運営等についても学習する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	ベースボール型球技		ベースボール型球技の全体構造や特性を理解させるとともに、ゲームのやり方、指導方法についても実習し、ルールの理解並びに審判法についても学習する。野球及びソフトボールにおける個人的技術を学習するとともに、ゲームの進め方、作戦の立て方等についても理解を深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	ダンス	○	中学校におけるダンス授業に対応した内容を中心に、多様なテーマや課題を取り上げ、ダンスの理論と実技を学習する。授業のまとめとして、グループで作品を創作する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	柔道	○	本授業は柔道の基本的な動作のメカニズム（理合）の理解とその動作（投技と受身）の習得を目指して実際に柔道の稽古を行います。十分な基本動作の習得が確認された場合には、それを実戦（乱取）の中で活用する方法を学びます。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	剣道		日本的な運動文化として剣道の技やそれに伴う所作の意味を理解した上で、剣道の実技や審判ができることを目標として、「木刀による剣道基本技稽古法」を学習し、そこで学習した技を基に防具をつけての剣道運動の実技・審判法を実施する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	体育実技	ヘルスプロモーション実習		佐賀大学が地域貢献事業として開催している健康教室に参加し、地域住民への運動指導を通じて、コミュニケーション力、指導力、企画運営力等の実践力を身に付ける。それぞれの学生は自分の担当班の参加者にストレッチや筋力トレーニング等を指導するとともに、対象の体力に応じたトレーニングメニューを作成させ、運動指導の能力を身につけさせる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	運動学（バイオメカニクスを含む）	○	実践的運動研究に基づいた運動学の概念や基礎理論について、授業回ごとにトピックを定め、講義形式で70分程度説明する。残りの時間を使いそのトピックに関する議論や演習を行う。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （2 井上　伸一／5回）第1回～第5回を担当する。 （447 市川　浩／10回）第6回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	体育心理学	○	運動・スポーツをより効果的、効率的かつ継続的に実践していくには、身体的側面のみならず心理学的な諸理論の理解が不可欠である。心理学の知見を応用できるようになるための基礎を教授する。共同科目のため開講形態はオンライン授業とする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	体育原理	○	「体育・スポーツとは何か」という根源的な問いから、体育・スポーツに関する様々な事柄について理解を深め、体育・スポーツのあるべき姿や進むべき方向について考える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	体育経営管理学	○	学校体育や地域等のスポーツ振興に必要となる体育・スポーツ経営の基礎理論及び方法論についての理解を深める。本稿では、アメリカンスポーツマネジメントの現状を参考にしながら、体育・スポーツ事業の経営過程について学習する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	体育社会学	○	スポーツは現代社会において、文化の一つとして人びとの生活のあらゆる側面に深く浸透している。本授業では、体育を取り巻く様々な現象を社会学的に検討し、それらをめぐる問題や課題について考察することを通じて、体育・スポーツ科学の一つの専門領域である体育社会学の見方、考え方を解説する。そこでは、スポーツの高度化や大衆化が社会にプラスのみならずマイナスの機能も生じさせている事実とその乗り越えの可能性についても考察していく。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	トレーニング科学		本授業では、体力の各要素と体力の各要素の優劣に与える要因、また、その能力を測定するための体力テストと体力の関係についての解説を行う。また、それらの能力を高めるためのトレーニング方法について、その実践例と合わせて解説する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	ヘルスプロモーション演習		健康のための種々の運動について理論的に理解するとともに、その指導方法を実践的に学ぶ。佐賀大学が地域貢献事業としておこなっている健康教室に参加し、地域住民に運動指導をおこなっていく中で、指導方法を身に付けるとともに、種々の測定をおこなうことで運動の効果について理解を深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	生理学（運動生理学を含む。）	生理学（運動生理学を含む）	○	各授業では学生に必要な追加資料を配布し、運動生理学に関する基本的な知見について概説する。さらに、運動・トレーニングに対する生体の適応についても解説する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	生理学（運動生理学を含む。）	解剖学		本授業では、体育の教員として理解して欲しい身体活動と関連の強い人体の各器官系の構造とそれらの器官系と身体活動との関連について解説する。また、授業の後半には解剖供覧を行い、人体の構造についての理解を深める。 （オムニバス方式／全8回） 【佐賀大学】 （53 町田　正直／3回）第1回～第3回を担当する。 （566 川久保　善智／5回）第4回～第8回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	学校安全・救急処置		本授業は、中学校、高等学校における保健体育教員として、学校安全の意義や学校体育を中心とした事故の動向と対策、救急処置の基本について理解する。また、安全教育の観点を踏まえ、学校体育を巡る事故動向を分析し、傾向と対策について教師役と生徒役に分かれて模擬授業を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等保健体育科指導法Ⅰ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等保健体育科指導法Ⅱ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等保健体育科指導法Ⅲ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等保健体育科指導法Ⅳ	○	本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」及び保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの考え方を理解する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	材料加工（実習を含む。）	製図Ⅰ（実習を含む）	○	学士力達成のために、機械製図の基本的ルールを学ぶことを目標として、技術科教員試験対応の、三角法、等角法、キャビネット法などを教授する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	材料加工（実習を含む。）	製図Ⅱ	○	機械製図の基本的ルールを学んだあと、PCを使った図面を書けるようになることを目標として、２DCAD、３DCADでの図面の書き方を学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	材料加工（実習を含む。）	金属加工Ⅰ（実習を含む）	○	金属の特性を組織学的に理解し、加工するための鉄の本質を理解することを目標として、鉄の組織学を学んだ後、グローバルな鉄の性質や測定法を学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	材料加工（実習を含む。）	金属加工Ⅱ	○	さまざまな鉄の加工法を学ぶことを目標として、鉄の組織学を学んだうえで、いろいろな加工法を学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	機械・電気（実習を含む。）	機械Ⅰ（実習を含む）	○	材料力学・構造力学の基礎を学習することを目標として、力のつりあいを理解し、構造物にかかる応力が計算できるようになる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	機械・電気（実習を含む。）	機械Ⅱ	○	機械Ⅰで 材料力学・構造力学を学び、トラスの設計を行うことを目標として、平面トラスの設計を行う。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	機械・電気（実習を含む。）	機械実習		学士力に到達するために機械工作のやり方および安全に対する知識を身に付けることを目標として、安全について学んだあと、主に機械加工を体験する。また、接着加工として溶接、はんだ、ろう付けの加工方法を学ぶ。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	機械・電気（実習を含む。）	電気Ⅰ（実習を含む）	○	これは、後続科目「電気Ⅱ」とともに、電気工学の出発点となるべき基本的な授業科目である。それゆえ、中途半端な理解では、現代社会における関連技術の理解に支障を来すことが予想される。そこで、本講義では、工業高校において教科書として採用される書籍を敢えて取り上げ、直流回路、電流と磁気という順序で深く学ぶ。また、演習問題に取り組むことを通して、その知識を活用できるように鍛える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	機械・電気（実習を含む。）	電気Ⅱ	○	これは、先行科目「電気Ⅰ（実習を含む）」の続編という位置付けである。両科目は、電気工学の出発点であり、電子工学、情報通信工学と発展して、その延長線上に人工知能がある。それゆえ、現代社会における関連技術の理解に欠かせない内容を含む。そこで、本講義では、工業高校の教科書を敢えて取り上げ、静電気、交流回路という順序で深く学ぶ。また、演習問題に取り組むことを通して、その知識を活用できるように鍛える。※「電気Ⅰ（実習を含む）」の履修を前提として進める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	機械・電気（実習を含む。）	電気実習		これは、いくつかの現象を実際に観察し、その内容をレポートとしてとりまとめる授業科目である。そこで、本実習では、実験内容をとりまとめて第三者に分かりやすく説明するための「実験レポート」について、その重要性を説明した後、実践的なトレーニングとして、いくつかの基本的な電気回路及び電子回路に関わる実験に取り組む。※「電気Ⅰ（実習を含む）」の履修を前提として進める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	生物育成	生物育成ⅠA（実習を含む）	○	栽培学は、作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、受け入れられるものとした。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	生物育成	生物育成ⅡA		栽培学は、作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、受け入れられるものとした。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	情報とコンピュータ	プログラミング		これは、様々な命令を用いて実際にコンピュータを動作させ、基本的な情報処理の仕組みを理解する授業科目である。今や、一種の家電製品と化したコンピュータであるが、決して、勝手に仕事をやってくれる「魔法の道具」ではない。あらかじめ記憶させた一連の命令を、単に順次実行させているだけである。そこで、本講義では、その一連の流れを体験することで、コンピュータを用いた情報処理について理解する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等技術科指導法Ⅱ		技術科教育に関連する指導計画、授業設計、授業分析、学習指導、学習評価、安全管理と指導、技術科固有の資質と能力の育成について学修する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等技術科指導法Ⅲ		技術科教育に関連する目的・意義、歴史的背景、教育課程、学校教育法、比較研究（各国の教育課程、実践事例）などについて学修する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（技術科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等技術科指導法Ⅳ		技術科教育に関する基礎的な知識や技能を理解した上で、中学校技術・家庭科（技術分野）の教材研究の主題の立て方、手順、情報収取の方法、諸外国の技術教育や先端的な技術科教育などについて学習する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	家庭経営学Ⅰ	○	家庭経営学の学び方について、基礎理論を確認した後、家庭経営（家庭経済を含む）に関連するトピックスをとりあげる。それらのトピックスについて自分自身の問題として「考える」ことを通して、自分流ライフスタイルの構築をめざすとともに、現代社会における家庭経営に関する諸課題について、自分自身の生活設計上の問題と関連させながら考察を進める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	被服学Ⅰ	○	被服学の基礎を解説するとともに、被服実習を行う。衣生活の基礎知識を理解するとともに実習を通して基礎技能を習得する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	被服学Ⅱ		被服学の基礎について科学的根拠を元に解説し、多面的な角度から衣生活の知識や技能を理解するとともに、実習を通して技能を習得する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	被服学演習Ⅰ		学会誌に掲載されている被服学関連の論文を読む力を身につけさせる。実験や実習を組み立て実験を行い、論理的、科学的な思考を養う。研究に向けて文章をまとめる力を養う。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	被服学演習Ⅱ		学会誌に掲載されている被服学関連の論文を読みまとめる。実験を組み立て実践し検証を行う。卒業研究に向けて研究計画の立て方などを解説する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	被服実習		被服実習の基礎知識と基礎技術の習得を目指す。被服製作の基礎となる構成学と実習を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学Ⅰ	○	栄養学と食品学の内容について基礎的事項を解説する。また、意見交換する活動を取り入れ、健康維持のための食生活のあり方を考える力を身に付けさせる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学Ⅱ		調理科学の内容について基礎的事項を解説する。また、意見交換する活動を取り入れ、現代の食生活のあり方を考える力を身に付けさせる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学実験・実習Ⅰ	○	食物学の調理実習の内容について、基礎知識を解説し、基本的な調理操作に関する実習・実験を行う。調理の目的について考え、理解を深める活動を取り入れる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学実験・実習Ⅱ	○	食物学の調理実習の内容について、基本的な献立についての実習・実験を行う。地域の食材や郷土料理を取り入れた献立作成について解説する。調理実習の指導上の留意点について考え、理解を深める活動を取り入れる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学実験・実習Ⅲ		食物学の講義や実習で学んだ内容を検証し、理解を深める実験・実習を行う。指定条件での献立作成の実習を行う。得られた結果について根拠資料を基に評価し、議論する活動を取り入れる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食物学演習		食物学のテキストと学術論文の輪読を行う。学術論文について批判的に考え、課題を見出し、研究計画を立てる活動を取り入れる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	住居学	住居学Ⅰ	○	中学校、高等学校家庭科住居分野で扱う内容を取り上げ、家庭科教員として必要な住居分野の知識を習得し、自身の生活の中での実践力を身に付けることを目的とする。中学校、高等学校家庭科住居分野で扱われている専門的知識について学習する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	住居学	住居学Ⅱ		講義と見学を通じて、わが国の住まいや住まい方をとりまく諸問題に関する基礎知識を習得させ、これからの住生活のあり方を考える力を身に付けさせる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	住居学	住居計画学		中学校、高等学校家庭科教員として住居分野に必要な知識を習得する。家事動線や時間とともに変化する住まいに対する要求を理解し、平面図を作成することを通して、ライフスタイルにあった住まいの特徴を理解し、計画する際の実践力を身に付ける。 住宅を計画するにあたり必要な、構造、設備、間取り、空間の使い方、資金計画などの知識を習得し、住まいの提案を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	住居学	住居学演習		前半は住まいの物理的環境（音・熱・光・空気）に関する基礎知識を講義するとともに、身近な生活空間から物理的環境に関する問題点を見つけてその環境要素を測定する。測定結果をまとめてレポートを作成、発表、議論する。後半は住居学の学術論文を読み、課題を見出して研究計画を立てる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	保育学	保育学演習Ⅰ		授業の前半では、妊娠・出産と幼児の基本的生活習慣の獲得について解説する。授業の後半では現代の保育をめぐる諸問題について受講生が各自でテーマを決め、問題背景やその解決策について探究活動を行い、相互に情報共有をして保育問題への理解を深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等家庭科指導法Ⅰ	○	家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。 また、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を行い、基礎的な技能を身に付ける。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等家庭科指導法Ⅱ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等家庭科指導法Ⅲ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（家庭科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等家庭科指導法Ⅳ	○	中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語学	英語学	○	「英語学」というのは、英語という言葉がどのような仕組みになっているかを考える言語学の一領域です。その仕組みから規則を明らかにして英語を深いレベルで理解しようとします。つまり英語の音や単語、文や会話、様々な視点から英語がどのルールに沿って使用されているかを理解しようとする分野です。この科目では、その「音」（音素など）の組み立てを明らかにする音韻論、「単語」の仕組みを明らかにする形態論、「文」の仕組みを明らかにする統語論、などの観点から英語を考え、これから児童や生徒に教える教員として英語に関しての理解をより深める。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語学	英語学演習	○	「英語学」で構築された知識をもとに英文による英語学の解説を通じて様々な視点から英語を言語的に考え、仕組みをさらに理解を深める。この理解を用いて教科書に使われている英文を分析しクラスルームプラクティスに繋げていく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語学	英語音声学演習	○	日本人による英語発音(日本人英語)の特徴を明らかにしたうえで、日本人英語の弊害を理解する。授業では、日本人英語の原因を一つ一つ取り除き、正しい英語の発音を身に着けるようにしてゆく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語学	第二言語習得論	○	第二言語習得研究とは何か、どのような研究成果があり、どのような仮説が提案されているかを整理・分析して理解することで、英語科教育における教授法の内容について、どこまでが事実として認められているか、どのような仮説が提案され、どのような内容が認められているかを概観する。英語教育に必要な第二言語習得の基礎的内容を知ることで理論的実践的に対応できる知識と技能を身に付ける。コース前半は理論、先行研究を中心に学修し、コース後半はどのように小中高の英語教育現場に行かせることができるかについて考える。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語学	英文法演習	○	英文法の本質的な特徴を理解することにより、コミュニケーションをする上での言語の果たす役割 についての理解を深めていく。高校で習った個々の文法項目への理解を確認し、コミュニケーション上必要な使い分けのニュアンスや使用領域についての理解まで発展させる。日本語と比較しながら理解を深め、英文法の基礎的な知識を確認し、他者にわかりやすく説明できることを目標とする。その結果、コミュニケーションの中で場面に合った自然で正確なアウトプットができるようになると共に、中高の英語授業担当者として、必要なメタ言語知識を育成する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語文学	英語文学概論	○	この授業では、『不思議の国のアリス』『ナルニア国物語』『ハリー・ポッター』といった、有名なイギリスの児童文学作品の読解を行う。そして作品鑑賞を通し、文学作品の多様な批評方法について講義を行う。授業では映像化作品等を用いおおまかなストーリーを確認し、ポイントとなる箇所の原文を精読する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語文学	英語文学演習Ⅰ	○	この講義では、英語圏の文学作品について、同一の作品であっても多様な角度から異なる読み方ができることを学ぶ。また講義を通して学んだ観点をもとに、学生自身が主体的に作品を精読し、先行研究を踏まえながら作品を分析する。最終課題としてその成果はプレゼン等の形でアウトプットする。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語文学	英語文学演習Ⅱ	○	私たちは、1）テキストの言語と文字通りの意味を理解すること、2）文字通りの意味を超えたより深い理解を養うこと、2）作品のテーマ、構造、スタイルを理解することを目指します。学生はグループディスカッションに積極的に参加することが求められます。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語文学	英語文学講読Ⅰ	○	この授業では、1920年代にイギリスの小説家A。 A。 ミルンが著したWinnie-the-Pooh及びThe House at the Pooh Cornerを用い、多様な文学批評の方法について講義を行う。また、Milneによる原文の読解はもちろんであるが、ディズニーによって生み出されたアニメーション作品等も重要なテクストとして、授業の題材として扱う。各回資料を配布するため教科書は用いないが、対象となる２冊の小説（Winnie-the-Pooh、The House at the Pooh Corner 講談社英語文庫等）は各自で購入し、あらかじめ目を通しておくことが望ましい。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語文学	英語文学講読Ⅱ	○	本講義では、SwiftのGulliver's Travels、DickensのChristmas Carolといった英文学を代表する作家の作品を鑑賞する。その際には、作家の伝記的背景や、宗教的な影響などを探りながら、重要な箇所の原文読解を行う。授業終盤では受講者自身が自ら読解する作品を選定し、その読解箇所に関する講義を行ってもらう。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語文学	英語文学特論	○	本講義では、Peter and Wendy (1911) の読解を通して、フェミニズムやポストコロニアリズムといった多様な文学作品へのアプローチ方法を講義する。その際には、Barrieの英文学作品と、後年ディズニーによって映像化されたアニメーション (1952) 及び最新の映像作品 (2023) の比較を通し、批評理論の理解をさらに深める。授業後半では本講義で身に付けた内容をもとに、Harry Potterシリーズを題材とした英語文学講読の教材作成を行ってもらう。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション論	○	英語によるコミュニケーションは英語を母語を使うものとのコミュニケーションと限らず、現在においてはアカデミア、医療、ビジネス等の「共通語の英語」として使われている。国境を越えたコミュニケーションでも、たとえサブカルチャー内のコミュニケーションでも、広い意味での文化と文化の間のコミュニケーションをどう図るかも効果的な英語のよるコミュニケーションの大事な要素の一つです。その手助けとして、コミュニケーションの取り方の背景にある心理学、社会心理学、言語学、人類学などの知識と理解を深め、より効果的な英語コミュニケーションにつなげていく。この科目ではこういった背景について英語の文章の解読から学び、ディスカッションからその理解を深め、学生自身の考えを作文で整理する流れになる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語コミュニケーション	英語アカデミックライティング	○	英語でアカデミックな文章を作成する際の、情報収集、情報整理、構成の方法、英文構成、パラグラフライティング、アウトライン、文章のまとめまでを演習形式で進める。また、口語的な表現や言い回しを超えたアカデミックな文章で使われる語彙や表現を学修する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語コミュニケーション	英語オーラルコミュニケーションⅠ	○	一般的なアカデミックリテラシーとコミュニケーション能力の向上に焦点を当てた実践的な英語クラスで、特にアカデミックな場面での口頭コミュニケーションスキルの発展に重点を置いています。学習方法には、教科書の使用、語彙力を養うための読解およびリスニング練習、ペアおよび個人の口頭コミュニケーション活動、そしてクラスプレゼンテーションが含まれる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語コミュニケーション	英語オーラルコミュニケーションⅡ	○	英語オーラルコミュニケーションⅠの学習を基にした実践的な英語クラスで、一般的な学術的リテラシーとコミュニケーション能力の向上にさらに焦点を当て、特にアカデミックな場面での口頭コミュニケーションスキルの発展に重点を置いている。学習方法には、教科書の使用、語彙力を養うための読解およびリスニング練習、クラスプレゼンテーション、そして流暢さを向上させるためのグループワークが含まれる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語コミュニケーション	英語アカデミックスピーキングⅠ	○	アカデミックなセッティングにおいて、論理的に順序よく、そして分かりやすく情報を伝達し、その内容について質疑応答などを通じて理解を深めること非常に大切である。この科目においては、これらをするための英語表現と共にプレゼンテーションスキルを育成した後、学んだことを実践できる機会を与える。授業展開として、導入、サインポースティング、チャンキングとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンのまとめ方、質疑応答の対応などに使える英語表現を提示、練習、最終的に教育学関連の内容のプレゼンで実践する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	英語コミュニケーション	英語アカデミックスピーキングⅡ	○	アカデミックなセッティングにおいて、論理的に順序よく、そして分かりやすく情報を伝達し、その内容について質疑応答などを通じて理解を深めること非常に大切である。この科目においては、アカデミックスピーキングⅠで学んだ基礎的な英語プレセンテーションスキルを発展させ、日本の現代社会に関連する「文化」、「食」、「社会」、「言語」などの様々な分野のプレゼンのための英語表現と共にプレゼンテーションスキルを育成した後、学んだことを実践できる機会を与える。授業展開として、導入、サインポースティング、チャンキングとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンのまとめ方、質疑応答の対応などに使える英語表現を提示、練習、最終的に内容のプレゼンで実践する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	異文化理解	英米文化事情Ⅰ		西洋には、「ヨーロッパ」という地中海の波の周期を意味する美しい名前のほかに、秘められたもう一つの名前がある―「オクシデント（日の没する地・没落の地）」。ヨーロッパの精神は、この呪われた名（表象）を12世紀後半、極西アイルランドの北西ドニゴール州・ダーヴ湖に浮かぶある小島（悪霊島）の洞窟の中に密かに封印した。以後、この島は生前の罪を贖う煉獄巡礼地とされ、今日に至っている。本授業では、ヨーロッパ文化史を周縁（極西）の地アイルランドから眺め直すことで、文化のもう一つの側面、闇の相貌に迫ってみたい。この試みは、いわば＜知の冒険＞にほかならないが、小島の穴の奥には知の秘宝が隠されていることを想えば、価値のある行為である。ダンテ、シェイクスピア、ラブレーもこの冒険に挑み、宝を密かに持ち帰った者たちなのである。彼らに倣い、洞窟から宝を持ち帰り、身に付けること、それが本授業の目的である。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	異文化理解	異文化理解演習Ⅰ		学生に馴染み深い現代の英米の音楽の歌詞を精読しながら、その背後にある英米を中心としたヨーロッパ文化の特質を学んでいく。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	異文化理解	異文化理解論Ⅰ		本授業では、異文化理解の根本命題を自文化の認識―自文化を深く理解するためにこそ他文化を学ぶ―におき、その方法（基礎理論）を具体的に提示していく。その方法とは異文化という逆説の合わせ鏡に自文化を映すというものである。合わせ鏡として想定しているものは、「オリエント」＝日本文化の対極に位置する「オクシデント」＝ヨーロッパ文化である。自文化を映す鏡は対極（逆説）であればあるほどよいからである。本授業では、ヨーロッパのなかの極西アイルランド文化を鏡として主に用いる。極東の日本にとって対極の地理的位相＝表象の対極に位置するからである。	

専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	異文化理解	英米文化事情Ⅱ		「英米文化事情」とは広範にすぎる。そのため、本授業ではヨーロッパ文化の古層に横たわるケルト/アイルランド文化に絞って講義を行う。テーマはヨーロッパ文化固有の死生観である煉獄の概念である。とくに、煉獄の中世都市伝説が誕生した地、アイルランド・ドニゴール・ダーグ湖の小島にある「聖パトリックの煉獄の穴」は注目点となる。この煉獄の穴が英文学に与えた大いなる影響をW.B.イェイツのいくつかの詩、戯曲、シェイマス・ヒーニーのいくつかの詩とシェイクスピア作『ハムレット』を中心に精読していくことになる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	異文化理解	異文化理解演習Ⅱ		通常、アイルランド文化は「イギリス」内部の周縁とみなされることが多い。だが、アイルランドはイギリスとは異なる民族（ケルト）、言語（ゲール語）、精神性を有しており、そこから当然のことながら、イギリスとは全く異なる固有の文化・文学を生み出してきた。本授業では、イギリス文化との比較をとおし、このことを確認していくことで、文化のもつ固有性と普遍性について学んでいく。テキストは、主にW。 B。 イェイツの作品（詩・戯曲）を用いて精読を試みる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	異文化理解	異文化理解論Ⅱ		国家とはひとつの概念であって、本質的に実在しているわけではなく、ひとつの表象、すなわち虚構である。文化もまたそうである。だが、一度、虚構から発生した文化はしだいに実体化していく。本授業では、表象がどのようにして発生し、それが現実の歴史としていったかの実例を日本＝オリエントからみて極西に位置するアイルランド＝オクシデントの国家成立までのプロセスとその後の歴史・文化をみていく。そのうえで、比較文化学の立場から、今度は逆にオクシデントの対極をオリエント日本の東の関所、鎌倉幕府成立のプロセスを文化・文学＝虚構の視点からみていく。そのことで、虚構の力が現在にまでおよんでいることが分かるだろう。その際の注目点は、アジールとしての鎌倉・東慶寺である。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等英語科指導法Ⅰ	○	各回のテーマについてテキストを中心とした文献を読み、日本の小・中・高等学校における外国語教育についての理解・考察を深めていく。また、言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては演習形式で検討していくことにより、授業指導の基礎を修得する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等英語科指導法Ⅱ		英語の国際化、単元設計、コミュニケーション能力、４技能の統合、ICTの利活用、Team　Teachingなどのテーマに関する講義と演習課題に取組み、英語の学習・指導に関する知識の向上と授業実践及び学習評価についての基礎の修得を目指す。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等英語科指導法Ⅲ		各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における英語指導についての理解・考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討していくことにより、英語指導技術の定着及び指導力の更なる向上を達成させる。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目（英語科）	指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等英語科指導法Ⅳ		各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における外国語教育について複眼的な視点から考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討し、指導力及び外国語教育研究の知識・スキルの更なる向上を達成する。	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目		中学校教育実習Ⅰ	○	大学のほか、附属中学校あるいは佐賀市内の中学校・大学が指定する中学校において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習：　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目		中学校教育実習Ⅱ	○	※本講義は、教育学部小中連携教育コース（中等教育主免専攻）および芸術地域デザイン学部、理工学部、農学部の学生を対象に、関連科目「中学校教育実習Ⅰ」と一緒に履修する。 大学のほか、附属中学校あるいは佐賀市内の中学校・大学が指定する中学校において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習：　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	
専門教育科目	中等教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目		高等学校教育実習		大学のほか、高等学校（主に母校）において、次の項目に分けて実施する。 ・事前指導（全体）：　目的と計画、実習課題、留意事項 ・実習校事前指導：　目的と計画、授業評価の課題、留意事項 ・教育実習：　単元授業の授業実習、学習評価の実習、実習担当教員による指導 ・直後指導：　リフレクション ・事後指導：　講義、リフレクション	

専門教育科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	教育制度	日本とアメリカの教育改革		授業のテーマ及び到達目標 近代から現代において日本とアメリカで展開された教育改革について理解を深める。その上で、各国の教育改革が教師教育に及ぼした影響を検討し、今後の教育と教師教育の在り方を考える。 授業の概要 近代から現代に展開された日本とアメリカの教育改革について、改革の要因となった教育思想と社会背景を理解し、教育制度の変遷を理解する。その上で、教育改革が教員の養成と研修に及ぼした影響を理解し、両国の今後の教育の在り方を検討する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	道徳教育	道徳教育と学級経営		道徳教育と学級経営それぞれの理解および両者の深い関連性の理解の下、「個」と「集団」の関係に関わるトピックとして多様性理解、人権理解、個性の理解、成長や学力の捉え、いじめ問題などを取り上げる。加えて、学級経営の諸事例などを学ぶ。これらの知識を踏まえ、協働学習の形で具体的な学級経営案を作成することを通して、理念と具体の往還の思考を身に付けるとともに、将来に活かせる学級経営の多様なアイディアを得る。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	心理学概論		人間は、さまざまな状況の中でどのようにものごとを理解し、判断し、振る舞っている。このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説し、人の心の働きを理解し、自己、他者、社会に関して心理学的立場から説明できるようにする。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	心理学基礎	心理学の研究法		授業のテーマ及び到達目標 　心理学の諸領域で用いられている代表的な研究法を学び、データに語らせる心理学研究の意義と方法を習得することを目指す。 　本講義の達成目標は次の2点である。 （１）心理学研究の基礎知識について説明することができる。 （２）心理学研究の手続きについて基本的な説明をすることができる。 授業の概要 　目に見えない心を研究対象とする心理学の、科学としての工夫について、理論と実際の両面から解説する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	教育学・心理学に関する科目	臨床心理学	家族支援の心理学		社会的動物である人間が、社会を構成する他者からどのように影響を受け、またそうした社会をどのように認識しているのか。そして、集団としての行動は、個人の行動とどのように異なるのかについて解説する。さらに、もっとも身近な社会である家族の機能についても考えていく。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育	保育観察実習		授業のテーマ及び到達目標 　保育現場における参与観察実習を通して、乳幼児の特性を理解し、保育者の役割やあり方を探求する力を身に付ける 授業の概要 　乳幼児期の子どもの特性、および保育者の役割やあり方について、受講生各自が設定した課題に基づいて行う保育参与観察と実践を通して、理解を深める。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育	子どもの支援Ⅰ		３歳児健診等の結果によると、発達障害のある幼児の数は少なくないと推定されている。本科目は、小学校教諭免許状や特別支援学校教諭免許状、幼稚園教諭免許状や将来保育士資格の取得を目指す学生が、発達障害のある幼児・児童を理解し、支援への意欲・使命感をもち、基本的な支援法を身に付けることを目的とする。 以下の3点を目標とする。 ①発達障害のある幼児について基本的に理解することができる。 ②支援に対して意欲と使命感を持つことができる。 ③基本的な支援方法を習得することができる。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	幼小発達教育	特別支援教育基礎論	○	特別支援教育の基礎について総論的に講義する。障害の捉え方、障害児教育の歴史、特別支援教育の理念と制度、特別支援学校の教育と課題、小・中学校等における特別支援教育、特別支援教育の対象となる各種障害の理解と支援に関して概説する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と健康		講義形式で行う。発育、遊び、生活習慣、体力づくり、スポーツ、安全能力の指導（防災を含む）など、乳幼児の健康に関するテーマ・知見について、受講者の調査・発表、および全体討論を中心に進めていく。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と人間関係		幼児期の社会性の発達特性について、０歳から６歳にかけての変化過程を理解する。幼児の人との関わりの特徴や、個々の多様な実態について、多面的に理解する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と環境		特に幼少期から年長期にかけての子どもの学びに関する「環境」の視点について講義を行い、「環境」という要素を中心に据えて、他要素（健康、言葉、人間関係、表現）との関わ合いも意識しながら、子どもを観る視点の枠組みを創る。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と言葉		受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら保育内容における「言葉」の役割を考察する。	

専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と表現Ⅰ		幼児の表現における音楽の位置や意味を理解したり、そのために必要な表現媒体などを追及したりする。「表現とは何か」という問いのもとに、学生にアクティブなグループディスカッションや探究的な活動を通して幼児期における表現体験とその本質について考察する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と表現Ⅱ		講義形式で行う。幼児の発達に伴う造形的な遊びや表現の変化、表現のための適切な環境構成や支援のあり方について、適宜ビデオ視聴を行いながら進めていく。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（健康）		現代の乳幼児が置かれている社会状況を捉えながら、生涯に亘る健康の基礎となる乳幼児期の心身の成長や発達に関する理解を深める。主に講義形式で行うが、乳幼児期の健康に対する支援のあり方については教材研究、指導案作成、模擬保育等を通して検討する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（環境）		現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容の理解を深める。幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（人間関係）		保育内容「人間関係」のねらいや内容を、具体的な実践と結び付けながら理解する。その上で、幼児の人間関係を育むための保育実践について、自ら創造する力を身に付ける。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（言葉）		受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら、保育内容における「言葉」の役割を基盤とした教材研究、保育計画（指導案）作成、模擬保育を行い、具体的な指導の方法を検討する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（表現Ⅰ）		子どもの身体的特性についての理解を深め、音楽における身体表現の意味を探る。保育者に必要な音楽知識や技術を習得するとともに、保育における音楽活動のあり方について考察する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（表現Ⅱ）		教材研究、保育案の作成、保育実践の観点から、幼児教育実践の基礎的能力を養うよう設定している。具体的には、表現素材の知識、保育案の形式・内容・評価法に関する理解を進める。保育実践の適切な環境設定について理解を進める。指導計画の作成と模擬実践に取り組むとともに、相互批評を通して指導法の獲得へつなげる。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育表現演習Ⅰ（言語表現）		受講者全員で幼稚園教育要領と資料を読み進めながら、幼児の発達における言葉の意義と役割を考える。また、絵本・紙芝居等の言語文化財の特徴を理解し、工夫して活用することができるようにする。これらの演習や受講者同士のコミュニケーションに積極的に取り組むことで、保育者として幼児にかかわる姿勢を形成する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育表現演習II（運動表現）		本授業は、幼稚園教育要領の心身の健康に関する領域「健康」のねらいや内容などの基本的な考え方を理解するとともに、幼稚園における運動遊びの基本的な考え方や具体的な実践内容、指導法を理解する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育表現演習Ⅲ（造形表現）		造形的な活動を中心に演習を行いながら、保育実践における造形活動の内容と実践上の重要点について学修を進める。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育表現演習Ⅳ（リズム表現）		保育表現の中のリズム表現について、基礎知識を獲得し応用する力を身に付けるための演習を行う。ボディパーカッションの教材例を自ら体験する中から、独自のアイデアを活用した教材を作成する方法を研究する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	幼児教育と保育の原理	○	現在の日本の保育・幼児教育の施設種や制度、基本的理念について解説を行うとともに、そこに至るまでの歴史的背景について講義する。また、子育て支援、小学校教育との接続、海外の保育等の現状を紹介し、保育・幼児教育の今後の課題について解説する。	
専門教育科目	発達支援に関する科目	幼小発達教育に関する科目	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法		幼児一人一人の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け、幼児期の発達の特性を踏まえ、理解を深めながら、幼児の生活の実情に即した幼児教育の基本的な考え方や方法を学ぶ。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目（A）		特別支援教育基礎論	○	特別支援教育の基礎について総論的に講義する。障害の捉え方、障害児教育の歴史、特別支援教育の理念と制度、特別支援学校の教育と課題、小・中学校等における特別支援教育、特別支援教育の対象となる各種障害の理解と支援に関して概説する。	

専門教育科目	特別支援教育に関する科目	知的障害者に関する教育の領域（B）	知的障害児の心理・生理・病理	○	知的障害のある子どもの障害の重度化、多様化に応じて、指導実践の理論的背景に踏み込んだ研究がなされている。本授業では、心理学や中枢神経系の機能、知的障害に関わる病理的側面、家庭・関係機関との連携の観点から、知的障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	知的障害者に関する教育の領域（B）	知的障害児指導法	○	わが国において、知的障害児の学習指導要領がどのような考え方によって編成されているのか、特別支援学校ではどのような学習指導法がとられているのか、そして、教育活動の質向上に向けたカリキュラム・マネジメントの考え方とはどのようなことなのかについて講義する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	肢体不自由者に関する教育の領域（B）	知的障害児アセスメント論	○	知的障害のアセスメント法を学び、知的障害の知的機能や適応機能を評価し適切な支援を検討するプロセスについて理解を深め、知的障害児の指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	病弱者に関する教育の領域（B）	知的障害児教育総論	○	本科目は、特別支援学校教員免許を取得するためのオリエンテーション科目と位置付けている。知的障害について、その原因の生理・病理学的なメカニズムや知的発達に関する基本的な事項を解説する（心理・生理・病理分野）と共に、知的障害のある児童生徒に対する特別支援学校における教育の実態について、その特徴を解説する。さらに、障害のある子どもと関連する福祉的制度やサービス等について（療育手帳制度や児童発達支援・放課後等デイサービス、福祉就労制度等）について説明する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	知的障害者に関する教育の領域（D）	病弱児の心理・生理・病理	○	健康に関する考え方や病弱（身体虚弱を含む）による教育的ニーズをもつ子どもの病気に関する心理、生理、病理的側面に関する理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	病弱者に関する教育の領域（D）	病弱児教育総論	○	病弱児・身体虚弱児の教育に関して、病弱および身体虚弱の概念、その意義、教育の場・就学、特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法、カリキュラム・マネジメント、進路指導、小・中学校における病弱教育、医療的ケア児の教育の観点から概説する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	病弱者に関する教育の領域（D）	病弱児指導法	○	病弱児・身体虚弱児とその教育に関して、病弱児・身体虚弱児の特性、病弱教育の意義、教育的ニーズ、教育の場、特別支援学校（病弱）における教育課程と指導法、カリキュラムマネジメント、進路指導、病弱教育の課題、重症心身障害児の教育の観点から概説する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の免許に関する科目（E）	発達障害児教育総論	○	発達障害について、各疾患の心理的特徴や教育的ニーズを学び、発達障害のある子どもの理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の免許に関する科目（E）	発達障害児脳科学論	○	発達障害のある子どもの障害特性や認知特性の背景にある脳機能の特徴を理解し、発達障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の免許に関する科目（E）	視覚障害児の心理・生理・病理		本授業は、視覚障害児童・生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導および必要な支援を実践するために必要となる基本的知識の習得を目指す。本授業を通して、視覚障害による学習上または生活上の困難とそれに対する適切な配慮や支援について理解する。 本授業は資料（スライド）を用いて講義形式で行う。 内容ごとに小テストを行い、知識の整理と確認を行う。 本授業は、視能訓練士として視覚機能の評価と支援に関する実務経験を有している教員が、視覚障害児童・生徒への支援に関して必要となる知識を実践的に教育する科目である。 （オムニバス方式／全15回） 【佐賀大学】 （436 岡野（内川）真弓／8回）第1回～第8回を担当する。 （458 内川　義和／7回）第9回～第15回を担当する。	オムニバス
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の免許に関する科目（E）	聴覚障害児の心理・生理・病理		教員作成の資料に基づき、聴覚障害理解のための基礎、幼児から大学までの教育内容と配慮、社会保障制度までを概説する。特別支援教育領域の聴覚障害児・者に関する領域を「中心となる領域」とする科目である。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の免許に関する科目（E）	重複障害児教育総論	○	特別支援学校では、幼児児童生徒の障害が重度化・重複化する傾向が見られる。本講義では、視覚障害や聴覚障害を含む重度・重複障害児に対する学校教育の取り組みを中心に論じる。具体的には、重複障害児の概念、心理的・生理的・病理的特徴、実態把握の進め方（観察・評価・アセスメント）、感覚や基本動作の発達支援、コミュニケーションの促進、教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント、個別の指導計画の活用、ならびに教育現場での具体的な実践例を映像等を用いて紹介する。また、重複障害児の特性に応じた指導法や支援の在り方について、教育実践例を基に考察する。	
専門教育科目	特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の免許に関する科目（E）	ギフテッド・2E教育論		高い潜在能力をもつギフテッドや高い能力と障害を併せ持つ２Ｅについて、心理的特徴や教育的ニーズを学び、ギフテッドや２Ｅのある子どもの理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。	

専門教育科目	特別支援教育に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習（F）	障害児教育実習	○	附属特別支援学校において、附属学校の教員の指導を受けながら、授業構想・実践、学級経営、障害児理解などについて学び、特別支援学校教師の職務に求められる実践的指導力の基礎を修得する。また、教育の基礎的理解や特別支援教育に関する科目で学習した理論を実践に結び付け、理論の活用を体験的に学ぶ。さらに教育実践における自分の体験を振り返り、今後の実践で取り組む課題を見出す。	
専門教育科目	卒業研究		卒業研究		明確な研究題目の設定と方法論に基づく調査・研究を行い、卒業論文を執筆し、発表を行うことができるようになる。卒業研究を行い、探究的な学びに関する以下の資質・能力を高める。・取り組む課題の背景や研究の意義、動機を明らかにできる。・先行研究を調査し、取り組む課題の位置づけを行うことができる。・課題を解決する方法（観察、実験、調査、シミュレーションなど）を考え、解決を試みることができる。・成果をまとめて卒業論文を作成することができる。・成果をまとめて卒業論文の内容を発表することができる。	